23-275□
12005012385556

23-275

世界地理提要

野口保興著

東京 目黒書店
成美堂書店 合梓

明治
45. 3. 1
内交

世界地理提要

例言

一　本書は世界地理の大要を特論的に記述せしものなり、分ちてアジア洲、オセアニア洲、ヨーロッパ洲、アフリカ洲、アメリカ洲、兩極地域の六篇と爲せり。

一　自然、住民、政治、生業の區分を明にし、此等各部の調和統合に意を留めて地理學の本旨に添はんことを務めたり。

一　土地氣候の特情、天産の殊況を說きて生業發達の基を了らしめ、住民の殊性、政治の特態を明にして國勢の盛否を知らしめんと試みたり。

一　我が國と關係深き土地の記載を密にし特に列強の

現勢を詳にせり。

一　實測の結果に基づき、統計表を參照し、以て事實の精確を得んことを期せり。

一　印行文字に細大の二種を用ひて記事の主客輕重を明示せり。

一　挿畫は徒に多きを貪らず、標準たるべきものを擧げて研究上の方針に付き其の一斑を指示せり。

一　地圖は使用上の利便に鑑み別冊と爲して世界地圖總覽を著作せんとす。

明治四十年八月十五日

著者識

世界地理提要目次

緒言……頁一

あじあ洲

◉總論……七
名稱……七
境域……八
面積……九
地質……一五
河流……一九
地勢……二八
天產……三四
人種……三七
分國……四二

◉淸國……四六
位置……四六
海岸……四七
河流……五一
地勢……五六
天產……五八

◉總論……七
位置……七
廣袤……八
海岸……九
山岳……一三
沼湖……二六
氣候……三一
人口……三六
宗教……四一

◉淸國……四六
境域……四六
山岳……四八
沼湖……五五
氣候……五七
沿革……五九

世界地理提要　目次

人口……六〇　種族……六二
言語……六五　宗教……六五
教育……六七　風俗……六八
政體……六九　行政區劃……七二
兵備……七五　財政……七八
生業……七九　交通……八七
處誌……九〇
漢土九〇　蒙古（一二一）　新疆（一二三）
青海（一二四）　租借地（一二六）
◎香港……一二八
◎瑪港……一二九
◉印度支那……一三〇
位置……一三〇　境域……一三〇
海岸……一三一　山岳……一三一
河湖……一三二　地勢……一三四
氣候……一三五　天産……一三六
種族……一三六　分國……一三七
◉フランス領印度支那……一三八
トンキン（一四三）　アンナム（一四五）　コシエンシーヌ（一四五）
ラオス（一四六）　カンボヂア（一四七）
◉シヤム國……一四七

◉イギリス領……一五四
パルマ（一五四）　アンダマン、ニコバル（一五六）
海峡殖民地（一五六）
◉マライ群島……一五九
境域……一五九　區劃……一五九
火山……一六〇　氣候……一六一
住民……一六一　港灣……一六一
分國……一六二
◉フィリッピン……一六二
◉インシヤリンド……一六七
其一　オランダ領……一六七
內領（一六九）　外領（一七一）
其二　イギリス領……一七五
其三　ポルトガル領……一七六
◉印度……一七七
◉印度半島……一七七
位置……一七七　境域……一七七
海岸……一七八　山岳……一七八
河流……一八〇　地勢……一八一

氣候……一八三　天産……一八四
住民……一八五　分國……一八八
其一　獨立國……一八八
ネパール(一八九)　ブータン(一八九)
其二　イギリス領……一九〇
政治……一九〇　生業……一九四
處誌……一九六
其三　ポルトガル領……二〇三
其四　フランス領……二〇三
◎セイラン島……二〇四
◉イラン高原……二〇八
境域……二〇八　海岸……二〇八
山岳……二〇九　河流……二〇九
地勢……二一〇　氣候……二一〇
天産……二一一　住民……二一一
分國……二一一
◎バルチスタン……二一二
◎アフガニスタン……二一三
◎ベルシア……二一六
◉アラビア……二一九

境域……二一九　海岸……二二〇
地勢……二二〇　氣候……二二一
天産……二二一　住民……二二二
分國……二二二
◎獨立部
オマーン(二二二)　ワヘビ(二二三)　シアムマル(二二三)
◎屬領部……二二三
トルコ領(二二三)　イギリス領(二二三)
◉アジア　トルコ……二二四
境域……二二四　海岸……二二五
山岳……二二五　河湖……二二五
地勢……二二七　氣候……二二七
天産……二二八　住民……二二八
政治……二二九　生業……二三〇
小アジア(二三〇)　アルメニア、クルヂスタン(二三一)　メソポタミア(二三一)
シリア(二三二)　アラビア(二三二)
◎サモス……二三三
◎キプロス……二三三
◉アジアロシア……二三四
◎コーカシア……二三四
◎中央アジア……二三九
◎シベリア……二四七

位置……二四七
海岸……二四七
河湖……二五〇
氣候……二五三
住民……二五七
生業……二六〇
トボルスク(二六三)　トムスク(二六四)
イルクツク(二六四)　ヤクーツク(二六四)
アムル(二六五)　沿海(二六六)　サハリン(二六七)

にせあにあ洲

境域……二七七　區分……二七八

大陸部

◉オーストラリア　タスマニア……二七九
境域……二七九　發見……二八〇
探檢……二八〇　海岸……二八二
山岳……二八三　河湖……二八四
地勢……二八五　氣候……二八五
天產……二八六　沿革……二八七
住民……二八七　政治……二八八

境域……二四七
山岳……二四九
地勢……二五三
天產……二五五
政治……二五八
イエニセイスク(二六四)
外バイカル(二六五)

生業……二八九
◎クヰンスランド……二九〇
◎新南エールス……二九一
◎ビクトリア……二九三
◎南オーストラリア……二九六
◎西オーストラリア……二九七
◎タスマニア……二九九

島嶼部

位置……三〇〇
氣候……三〇三
住民……三〇四
地質……三〇四
天產……三〇五
所領……三〇六

第一　沿岸島嶼

◉パプア(新ギニア)……三〇八
オランダ領(三一一)　イギリス領(三一一)　ドイツ領(三一一)
◉メラネシア……三一三
ビスマルク群島……三一四　サロモン諸島……三一四
サンタクルス諸島……三一六　新ヘブライヅ諸島……三一六
新カレドニア……三一六　ビチー諸島……三一八
◉新ゼーランド(ニウージーランド)……三一九

世界地理提要　目次

第二　大洋島嶼……三二六
●ミクロネシア……三二七
マガリアエンス諸島……三二七
カロリナ諸島……三二八
マーシアル諸島……三二九
ギルベルト諸島……三二九
●ポリネシア……三二九
ハワイ群島……三三〇
サモア諸島……三三五
クック諸島……三三六
ツブアイ諸島……三三九
マルキーズ諸島……三四〇
サライゴメス嶼……三四〇
よーろっぱ洲……三四一
●總論……三四一
名稱……三四一
境域……三四三
地勢……三四六
水誌……三五一
位置……三四一
海岸……三四四
山誌……三四七
氣候……三五一
マリアナ諸島……三二七
マーシアル諸島……三二九
中央諸島……三三五
トンガ諸島……三三七
ソシエテ諸島……三三〇
ツアモツ諸島……三四〇
ラバヌイ島……三四〇

天産……三五九
分國……三六三
住民……三六〇
●ロシア……三六六
位置……三六六
地積……三六七
地勢……三六九
沼湖……三七二
植物帶……三七四
沿革……三七六
種族……三七八
教育……三八〇
行政區劃……三八一
財政……三八三
處誌……三八九
境域……三六六
海岸……三六七
河流……三七〇
氣候……三七三
天産……三七六
人口……三七七
宗教……三八〇
政治……三八一
兵備……三八二
生業……三八三
パルト海諸州(三八九)
南ロシア(三九二)
ボルスカ(三九五)
大ロシア(三九〇)
東ロシア(三九四)
小ロシャ(三九二)
西ロシア(三九四)
●スカンヂナビア……三九七
◎スエリゲ(スエーデン)……三九九
◎ノルゲ(ノルエー)……四〇二
フインランド……四〇四

◎デンマルク……三〇六
◉ドイツ……四一〇
境域……四一〇　海岸……四一一
地勢……四一一　山岳……四一三
河湖……四一三　氣候……四一五
滑革……四一五　住民……四一六
政治……四一八　兵備……四二〇
生業……四二二　處誌……四二八
プロイセン(四二八)　ハンブルグ(四三五)　ザクセン(四三六)
バイエルン(四三七)　井ウルテンベルヒ(四三八)　バーデン(四三八)
エルザス　ロートリンゲン(四四〇)
殖民地……四四一
●エステルライヒ＝ウンガルン……四四二
境域……四四二　地勢……四四三
山岳……四四四　河湖……四四五
氣候……四四五　滑革……四四六
住民……四四七　政治……四五〇
生業……四五三　處誌……四五六
エステルライヒ(四五六)　ウンガルン(四五九)
◎ボスニエン　ヘルツェゴ井ナ……四六〇
◎リーヒテンスタイン……四六一
●シゥワイツ……四六一
境域……四六一　土地……四六二
氣候……四六四　住民……四六四
政治……四六五　生業……四六六
處誌……四六八
◉オランダ……四六九
境域……四六九　海岸……四六九
地勢……四七〇　氣候……四七〇
住民……四七〇　政治……四七一
生業……四七一　處誌……四七三
殖民地……四七四
◎ルクセンブルグ……七五
◉ベルジック……四七六
境域……四七六　地勢……四七六
河流……四七七　氣候……四七七
住民……四七七　政治……四七八
生業……四八〇　處誌……四八二
◉フランス……四八四
境域……四八四　海岸……四八四
地勢……四八五　山岳……四八五

世界地理提要　目次

河湖……四八六
沿革……四八八
政治……四九〇
農誌……四九六
◎モナコ……四九六
◉イギリス……五〇五
境域……五〇五
沿革……五〇六
政治……五〇九
大ブリタニア……五一九
イングランド(五二五)　ヱールス(五三〇)　スコットランド(五三一)
アイルランド……五三二
海峡諸島……五三五
◉イベリア半島……五三八
◎エスパニア……五四〇
◎アンドラ……五四六
◎ジブラルタル……五四六
◉ポルトガル……五四六
◉イタリア……五四八
境域……五四八
海岸……五四九
氣候……四八八
住民……四八八
生業……四九〇
殖民地……四九六
◎モナコ……五〇四
氣候……五〇五
住民……五〇七
生業……五一一
マン島……五三四
殖民地……五三五
氣候……五四〇
氣候……五四六
氣候……五四六
氣候……五四六
海岸……五四九
河湖……五五〇
沿革……五五一
政治……五五三
農誌……五五六
河湖……五六〇
河湖……五六〇
海岸……五六一
河湖……五六二
住民……五六三
氣候……五六四
氣候……五六五
氣候……五六七
氣候……五七〇
氣候……五七二
氣候……五七三
氣候……五七六
地勢……五四九
氣候……五五一
住民……五五二
生業……五五四
殖民地……五五九
◎サンマリノ……五五九
◎マルタ……五五九
◉バルカン半島……五六一
境域……五六一
地勢……五六二
氣候……五六三
分國……五六四
◉モンテネグロ……五六四
◎スルビヤ(セルビア)……五六五
◎トルコ……五六七
◎ブルガリア……五七〇
◎グレテ……五七二
◉ギリシア……五七三
◎ロマーニア……五七六
あふりか洲……五八〇
◉總論……五八〇
世界地理提要　目次

名稱……五八〇　位置……五八〇
境域……五八一　海岸……五八一
地勢……五八三　山岳……五八四
河湖……五八五　氣候……五九一
天產……五九一　住民……五九四
探檢……五九七　分國……五九九
●北東地方……六〇三
◎エジプト……六〇三
◎トリポリア(トリポリ)……六〇九
●ベルベリア……六一〇
◎チウニジア……六一三
◎アルジエリア……六一五
◎マグレブ……六一七
◎エスパニア……六一九
●サハラ……六二〇
●スーダン……六二三
◎東方スーダン……六二五
◎中央スーダン……六二六
◎沿海スーダン……六二八
●アビシニア ソマーリ……六三三
◎アビシニア……六三三
エジオピア國……六三五
◎ソマーリ……六三六
フランス領……六三七
イタリア領……六三八
●東アフリカ……六三八
◎イギリス領……六四〇
東アフリカ……六四〇
ザンジバル……六四一
◎ドイツ領……六四一
●コンゴー……六四二
◎コンゴー獨立國……六四二
◎エスパニア領……六四五
◎フランス領……六四五
●西岸地方……六四五
◎ポルトガル領……六四六
◎ドイツ領……六四六
◎イキリス領……六四七
世界地理提要

◉中央地方……六四七
◎ベチュアナランド……六四七
◎ローデシア……六四八
◎中央アフリカ……六四八
◉東岸地方……六四九
◉南端地方……六五〇
◉トランスバール……六五一
◎オレンジリバー……六五四
◎バストランド……六五五
◎ナタル……六五五
◉ケープ……六五七
◉島嶼……六六二
◎印度洋島嶼……六六二
◎大西洋島嶼……六六七

あめりか洲

◉總論……六七二
名稱……六七二
境域……六七四
位置……六七三
海岸……六七六
山岳……六七九
湖沼……六八六
氣候……六九一
發見……六九三
分國……六九六

北あめりか

◎グリーンランド……六九九
◉イギリス領……七〇一
◉カナダ……七〇一
境域……七〇一
河湖……七〇三
氣候……七〇四
住民……七〇六
生業……七〇八
◎ニウーファウンドランド……七〇八
◎ベルムダ……七〇八
◎フランス領……七〇八
◉アメリカ合衆國……七〇八
境域……七一六
海岸……七一七
山岳……七〇二
地勢……七〇四
沿革……七〇五
政治……七〇七
處誌……七一一
河流……七一四
地勢……七一五
天産……七一六
住民……七一六

山岳……七一八　地勢……七二二
河湖……七一八　氣候……七二四
沿革……七一八　住民……七二六
政治……七一八　生業……七三三
處誌……七一八
東部（七四〇）　南部（七四五）
北部　七四八）　西部（七四九）
植民地（七五一）

◉メキシコ……七五二　海岸……七五二
境域……七五二　氣候……七五四
地勢……七五三　住民……七五六
沿革……七五五　生業……七五七
政治……七五六
處誌……七五八

◉中央アメリカ……七五九
◎イギリス領……七六二
◎グアテマラ……七六二
◎サルバドル……七六四
◎ホンヂュラス……七六五
◎ニカラグア……七六七
◎コスタリカ……七六九
◎パナマ……七七〇

◉アンチル諸島……七七三
◎キウバ……七七五
◎ハイチ……七七八
◎アメリカ領……七八〇
◎イギリス領……七八〇
◎フランス領……七八二
◎ヱランダ領……七八三
◎デンマルク領……七八三

◉グイヤナ……七八四
◎ベネズエラ……七八五
◎コロンビア……七八八
◎エクアドル……七九一

◉ペルー……七九四
◎ボリビア……七九八

●チレー……八〇一

◉ブラジル……八〇六
境域……八〇六　海岸……八〇六

世界地理提要　目次

地勢……八〇七　氣候……八〇八
天産……八〇八　住民……八〇九
沿革……八一〇　政治……八一一
生業……八一二　處誌……八一三

◉プラタ諸國……八一四
◎パラグアイ……八一六
◎ヴルグアイ……八一七

◉アルヘンチナ……八一九
境域……八一九　海岸……八一九
山岳……八二〇　地勢……八二〇
河湖……八二一　氣候……八二二
住民……八二二　政治……八二三
生業……八二三　處誌……九二四
◎フォークランド……八二五

兩極地域

●北極地方……八二七
●南極地方……八三八

世界地理提要挿畫目次

あじあ洲

第一圖 アンナム人 シアム人……三八—三九
第二圖 揚子江中流〔湖北省〕 針葉樹林と山岳〔雲南省〕……五四—五五
第三圖 ソークンバ ヤツク……一二四—一二五
第四圖 トンキン地方に於ける山岳 メコン河の増水、樹林の浸水……一三二—一三三
第五圖 モイ バーナルの村落 アンゲコル ワツト……一四六—一四七
第六圖 土豪管理官 マンゲローブ……一七六—一七七
第七圖 バニヤン樹 カトマンヅの寺院……一八八—一八九
第八圖 籐椰 二峰駝……二二〇—二二一
第九圖 地衣ツンドラと馴鹿 サクサウル……二五二—二五三

たせあにあ洲

第十圖 プリウー マウンテンス キラウエア……二八二—二八三
第十一圖 チンバツト カモノハシ……二八六—二八七

第十二圖 羊齒林 イウカリ林 …… 二九二—二九三
第十三圖 開墾者 綿羊の牧場 …… 三〇〇—三〇一
第十四圖 パンノキ セゴヤシ …… 三〇四—三〇五
第十五圖 山民コヤリの住屋 カナックの住屋 …… 三一一—三一二
第十六圖 フウテフ ケア …… 三二二—三二三
第十七圖 サモア島の婦女 フイヂーの貴族 …… 三三六—三三七

よーろっぱ洲

第十八圖 エイゲルヤングフラウ ピラチウス …… 三五〇—三五一
第十九圖 セライユとボスポロスの南端 トロイツア …… 三九八—三九九
第二十圖 ワルハルラ(優勝館) 井エリクツカ鹽坑 …… 四四四—四四五
第二十一圖 リーグ ワーテル クレンボルグ …… 四六八—四六九
第二十二圖 大軍凱旋門 ロンドン橋 …… 五〇四—五〇五
第二十三圖 エスユリアル ベニツエ …… 五四八—五四九

あふりか洲

第二十四圖 カメレオ センザンカウ …… 五九〇—五九一
第二十五圖 ハナナ ナツメヤン …… 六一九—六二〇
第二十六圖 サバンヌ カラハリ …… 六二六—六二七
第二十七圖 サイ キツネサル(レミウル) …… 六三八—六三九
第二十八圖 アフギバセオ バオバブ …… 六四八—六四九
第二十九圖 象龜 タコノキ …… 六六六—六六七

あめりか洲

第三十圖 コンドル ジアグアル …… 六九二—六九三
第三十一圖 シログマ セイウチ アザラシ …… 七一二—七一三
第三十二圖 セコイア ジガンテア ニウーヨークの高屋 …… 七三八—七三九
第三十三圖 リアノス カリアオ …… 七八六—七八七
第三十四圖 カアチンガ サアコ …… 八〇六—八〇七
第三十五圖 コヒー樹 アルバカ …… 八一二—八一三
第三十六圖 ロザリオ アラウカノス …… 八二四—八二五

兩極地域

第三十七圖 インランドシス エレブス火山 …… 八三四—八三五

附記　挿畫に關して特に參考せし書籍中の主要なるもの次の如し。

Album Géographique—Marcel Dubois et Camille Guy,

Géographie Universelle—Elisée Reclus,

Round the World

The World of To-Day—A.R Hope Moncrieff,

Bilder-Atlas.

世界地理提要(第五版)補錄

陸軍　一千九百十年末に於ける新軍の概況は豫定の三十六個師團に對し完成を告げたるものに第一(北京)、第二、第四及び第六(直隸)、第三及び第二十(奉天)、第五(山東)、第八(湖北)、第九(江蘇)江寧、第十(福建)、第十七(四川)内一旅團は目下西藏に駐屯せり第二十二(浙江)の十二個師團あり、混成旅團を爲すに至りたるものに第七(江北)鎭江、第十一(湖北)、第十二(江蘇)蘇州、第十三(福建)、第十四(湖南)、第十五(河南)、第十六(山西)、第十八(安慶)、第十九(新疆)、第二十三(吉林)、第二十九(雲南)の十一個師團あり、一個若しくは二個の歩兵聯隊を有するに過ぎざる第二十一(廣東)、第二十五(貴州)、第二十四(江西)の三個師團あり、而して滿人より編成せらるべき近衞師團は一九〇九年の始設に係れるが目下は混成旅團を爲せり。

八旗兵は山西、陝西、伊犁、奉天、直隸、黑龍江、甘肅、湖北、山東、江蘇、福建、浙江、廣東、四川、河南の各地に散在せるが、漸次に改編せられて七個若しくは八個の師團を構成すべく豫期せらる。

財政　一九〇八年三月に於ける國債は三千八百八十四萬磅、四億九千九百九十八萬法、四億五千二百六十五萬兩にして約十一億七千三百萬圓に當り、鐵道借款に十二億三千餘萬圓あり、而して此等の資財の殆ど全部は外債に屬せり。

工業　紡績、燐寸、製粉、製油、等の粗製工業の進歩發達には顯著なるものありて外人の經營に係れるもの少なからざるが、清人の自營に出づる會社も漸を追ひて增加せり、而も外資を仰がんとするの傾向は一層急なるが如し。

商業　最近の貿易高は次表の如くにして輸入超過は依然として逾ることなし、外債國として年々五千萬兩內外の利子を仕拂はざるのみならず、輸入超過を蔽はざるを得ざるが、海外在留者の送金(平均年七千三百萬兩及び外資の輸入(平均年額二千七百萬兩)ありて當國に於ける特殊の均衡を保てり。

年次	輸入	輸出	輸入超過	輸出入全計
一九〇九	四、一八一五、八〇六七	三、三八九九、二八一四	七九一六、五二五三	七、五七一五、〇八八一
一九〇八	三、九四五〇、五四七八	二、七六六六、〇四〇三	一、一七八四、五〇七五	六、七一一六、五八八一

鐵路　主要線路に就きて資本主、技術者、等を指示すれば次の如し。

路名	線路	資本主	技術者	未設	既設	合計
東清鐵道	滿洲里—哈爾賓—ポグラニチナヤ、哈爾賓—長春	ロシア	ロシア		九三〇	一〇七七
南滿鐵道	長春—奉天—大連 奉天—安東	日本	日本		四三六 二六四	七〇〇
京奉鐵路	北京—奉天 營口線　通州線　西陵線	清	イギリス		五二〇 八〇	六〇一
京張鐵路	北京—張家口	清國	清國			一二三
京漢鐵路	北京—保定—漢口 鄭州(河南省)—開封—洛陽	英佛等	佛白			七五四 一三六
正太鐵路	正定—太原	白國	白國		一五五	一五五
山東鐵道	本線(青島—濟南)、支線	得國	得國		二五六 三二	二八八
浦津鐵路	天津—浦口(南京)	英得	英得	三〇〇	三六六	六六六
道清鐵路	道口鎭—清貨鎭	英國	英國		九四	九四
淞滬鐵路	吳淞—上海	清	清		一二	一二

世界地理提要　補錄

席次	船籍	會社	噸數	百分比
1.	イギリス	一七一、二二五	一、四〇二、一四四	六三
2.	清國	一七三	一、九六二、六四	一九
3.	日本	一二九	一、五三二、九五三	一九
4.	フランス	一〇五	一、九六二、六四	一九
5.	合衆國	一七二	二、九八七、八六	一〇〇
	計			

高九千六百餘噸（イギリスの蒸汽船、東風、門司行、船會社八五隻一萬九千餘噸）清國の蒸汽船、局、商船三一隻三萬五千餘噸、日本の蒸汽船、會社は一〇隻一萬九千餘噸なりとす。

府保山縣の北緯二十六度、東經片馬は北緯二十八度三十分より成れるが、交通上の要區なりとす。雲南府永昌保護國。所轄に係れり、住民は九十八萬の大半を占めて十萬六千餘方粁の地積と約百六十萬の人口とを有すれども、ラッカ宇島の如きは一八七四年以來の所屬にして一八八七年にはパハンをベルリス（Perlis）即ちパリッド（Patani）は一九〇九年を以て新に獲得せられたり。

世界地理提要　補錄　五

イウジオンの四邦は一八七四年以來の所屬にして一八八七年にはパハンをベルリス（Perlis）、ケランタン（Kelantan）、トレンガヌ（Trengganu）、ケダー（Kedah）の四邦は一九〇九年を以て新に獲得せられたり。

水路	種別	甲	乙	小計
北清	水路	三三、七〇	一二、〇八	四五、七八
中清	水路	九一五五	三五五九	一二、七一四
南清	水路	三六六二	一八三二	五四九四
合計（運）	水路	一、六一八七	一六五九八六	二、七八六

水路。民船を通し得べきもの甲と汽船の航行し得べきもの乙とに分てば常國に於ける水運に從事する汽船は十七會社五隻一萬二千餘噸、日本の太古、怡和、リ而して最も盛なるは揚子江流域に分屬せるが其次は香港、廣東間に來往する汽船にして、イギリス以上の船舶を有する會社は二位なり占めり、ツ、ラ館國は第二會社にはイギリス、日本の太古、怡和行（四七隻六萬餘噸）、ドイツ、ラ館國は第二會社にはパハンベルリスを

雲南鐵道　廣州―九龍　廣九鐵路　廣州―東京（東京）　潮汕鐵路　潮州―汕頭　粵鄉鐵路　洋鄉―汕州　川漢鐵路　四川―長沙―廣州　粵漢鐵路　漢口―長沙―廣州　滬寧鐵路　上海―杭州―寧波　滬杭甬鐵路　上海―江寧（南京）

佛　英　清　清　英　英　英　英
國　清　國　英　？　？　清　清

佛　日　英
國　本　清

六二　一　一　一　一　一　一　一
一　一　一　一　一　一　一　一
一　一　一　一　一　一　一　一
二　八六　九　四三三六　五　一四五四　一九四四
二　八六　一　一三三六　八〇〇五　七五四一

邦名	地積	人口	邦名	地積	人口
ペラー	一、七〇四〇方粁	四三、一〇〇〇人	ケランタン	一、三七〇〇方粁	三〇、〇〇〇〇人
セランゴル	八三〇〇	三四、一一八〇	トレンガス	一、五五〇〇	五、〇〇〇〇
ネグリセンビラン	六七〇〇	一二、一二四九	ケダー	八二五〇	二一、九〇〇〇
スンゲイウジォン	三、六二〇〇	一〇、〇〇〇〇	パリット	六二〇	二、〇〇〇〇
パハン					

各邦は「ラジァー」を君主に戴けるが、イギリスは理事官を駐在せしめ、ペラー、セランゴル、ネグリセンビラン(スンゲイウジォンを含む)、パハン、トレンガヌより成れる聯邦に對しては別に理事總長を置き、ジォホールと共に海峽殖民地知事の兼職に係れる高等管理官」に隷せしむ。

イギリス領マライシアには錫の産多く六萬噸足らず(一九〇六)を以て産錫國の首席を占むるが、栽樹にも見るべきものあり、珈琲は漸次に衰退するに拘らず「ココヤシ」(普通に椰子樹と稱す)は發展して一九〇八年には約四萬八千方粁の地に依りて二千三百萬「ドラル」の「ココ」を與へたり、而も有望にして非常に進歩の速なるは護謨樹の栽培とす、一九〇五年には一萬五千方粁、四百萬株ありて「フィカス」(Ficus)種と「ヘブェア」(Hevea)種とは殆ど均等に栽培せられしが、一九

二三〇頁

〇八年には八萬七千方粁、三千八百萬株と成りて「ヘブェア」は遙に優勢を呈し、栽培は約八萬人を勞役せしめ、其の中、五萬人はタミル(Tamyl)、一萬五千人は支那人、殘餘は本邦人、マライ人、等にして成績頗る良好、十年後には五萬噸の「カウチゥク」を産すべく期待せられ、セランゴル、ペラー、マラッカ、ジォホール、等は殊に著はる。

アジアトルコに於ける鐵道(一九〇九)は四千五百六十三粁に達したるが、就中バグダド(Bagdad)鐵道(既設コニア＝プルグルル(二〇〇粁)未設プルグルル＝バッソラ(二六〇〇粁))及びヘッヂァ(Hadja)鐵道(既設ダマスク＝メヂナ(二一二粁)未設メヂナ＝メッカ(三四〇粁))の完成は行政上幷に經濟上に新生面を開くべく期待せらる。

二四五頁

ブィエルニイ(Viernyi)はセミレチェ州にあり、住民は三萬に達せざる都會なるも、タシケント、サマルカンド、アンヂジァン、等の如く園街の好模範として稱揚せらる、アラタウの北麓にありて長さ十五粁、幅十粁の地域を占むるを以て人口の最も稠密なる部に就きても方粁に付二十四人を有するに過ぎず、毎戸必ず庭園を構え、家屋は木造の平屋若しくは二階造に限らる、人道車道の別あ

りてアルマチネカ(Almatineka)の清流は飲料と灌漑とに供せられ、地味の肥沃なると相俟ちて菁々たる綠色の園街は實現して博愛主義者の理想に叶ふべく認めらるるが、實際の居住者は土質が過度に透水的なると震害の少なからざるとを不便とせり。

四六〇頁　因に記す。園街(Garden City)なるものは職工街の一種にしてイギリスに創設せられたり、職工、勞働者、等の居住なして健康、利便、娯樂を兼備せしむるを旨とし、各戸に庭園を備ふるの外、療病所、圖書縱覽所、劇場、遊戲場、遊園地、等の設けあり、家庭の團欒、家族の親密、風俗の改善、道義の向上、等に資するの効少なからずと云ふ、イギリスのバールンブイユ(Bournville)、ポートサンライト(Port Sunlight)、ビウチフルシチー(Beautiful-City)ガーデンシチー(Garden-City)、等は此の種の市街として名を知らる。

二九五頁　カンベラ(Canberra)はモロンゲロ(Morongle)河に瀕する海拔五四五米突の地域にして聯邦政府を設くべく選定せられたり、コッター河の水利な受くるのみならず、ジョージ湖を距ること二十五粁内外にありて附庸港はジアービス(Jervis)灣に設けらるべし。

君主國の宣言(一九〇八)及び澳土間の議定(一九〇九)に依りてボスニエン及びヘルツェゴキナの主權は永久にエステルライヒ家に保留せられ、ノビバザルはトルコに還附せられたり、二州の住民は百八十五萬餘人にして君主國の

大藏大臣は長官を兼ぬるが、兵備上は第十五及び第十六の軍管に屬せり。

四七四頁　フリシンヘン(Vlissingen)(一八八九三)はゼーランドにあり、シェルデ(Schelde)河の南口を扼せるアルヘレン(Walcheren)島の南岸に於ける要塞地にして軍港を有せり。

五〇四頁　一九一一年一月五日を以て憲法を發布し立憲國の列に加はりたり、約百五十町歩の小國にして一九〇八年の人口は一、九一二一人なりしが、一八六一年の一千二百人に比すれば長足の發達たるを失はず、然れども モナコ人は一四八二人を以て僅に住民中の約十二分一を占むるに過ぎず、イタリア人は最多數にして八二四一人に達し、フランス人は七三〇六人を以て第二位にあり、其の他にドイツ人、シウワイツ人、イギリス人、ベルジック人、エステルライヒ人、等あるも、五百人乃至二百人なり、不動産は二億二千七百萬「フランク」に計上せられ、一億一千五百萬「フランク」はフランス人に屬し、其の他にモナコ人の三千萬、イタリア人の一千五百萬ありて六千七百萬は殘餘の外人間に分かたる、而して動産は三億九千七百萬「フランク」なるもフランス人の所有は三億七千萬「フランク」に達すと云ふ、行政は國務大臣(一人)內務、工務財務の三顧問に委れられ、國會は四年毎に改選せらるる二十一人の議員を有せり、兵力には四人の士官及び八十二人の憲兵あり、首府をモナコ(二四一〇)と云ふ。

五四七頁　政體は一九一〇年十月の革命以來共和制に改まり立憲國民議會の裁可する所と成りてポルトガル共和國(Republica de Portugal)の憲法は一九一一

年八月二十一日を以て發布せられたり、立法權は二院より成れる國會(Congrès)に委ねられ、其の代議院は百六十四名の議員を有するが、二十五歳以上の男子より任期を三年とし、直接投票にて選擧せられ、其の元老院は三十五歳以上、任期六年の議員七十一名より成れり、大統領は任期四ヶ年にして國會の選擧する所に係れり。

五六五頁

政體は立憲君主制にして主權者たる王(一九一〇年八月以來)は國會(Skoupchtina)一般投票に依りて選擧せらる議員六十一名内閣及び參議院と共に國政を司る。

五六八頁

憲法は一八七六年を以て制定せられ、帝國議會は元老代議の二院より成りて國政に參與すべき筈なりしも、一八七七年以來事實上廢止の姿にありて再施を觀るに至りたるは一九〇八年以後なり、君主は大「トルコ」即ち「スルタン」と稱し、「カリフ」(教王)を兼ぬるが、大「ブィジル」(Vizir)(大相)以下、外務、内務、法教、陸軍、海軍、財務、「エブカフ」(Evkafs)(聖場)、商工部、農鑛林の各大臣及び大相府次官より成る内閣と共に大政を司る。

六一八頁

マグレブ在住の外人(一九一〇)は一、九二四三人にしてエスパニア人(一、〇五五一

フランス人(六四七八)、イギリス人(一一二四)、ドイツ人(二五〇)、等より成れり。

六一九頁

貿易は輸入に九千二百八萬餘「フランク」、輸出に六千二百四十一萬餘「フランク」ありてイギリス(六一二二萬法)、フランス(五六五一)、ドイツ(一六九一)、エスパニア、ベルジック、等と取引を爲せり。

フェズ(一〇、〇〇〇〇)並にマロッコ(六、〇〇〇〇)は帝領(Bled el Makhzen)に對する北と南との首府なり、エルアライシッ(El Araich)即ちララーシッ(Larache)はタンジールの南南東七十粁にある小港なり、ラバット(Rabat)(四、七一四四)はフェズの西一八五粁、ブレグラグ(Bou Regrag)の河口に於ける海市なり、ダルエルベイダ(Dar el Beida)(三、一七一〇)は一にカサブランカ(Casa Blanca)と云ふ、玉蜀黍、羊毛を輸出す、アガザル(Agadir)はポルトガル人の創設(第十六世期)に係りてサンタクルス(Santa Cruz)と稱せしが、「スルタン」ムレイアーメド(Muley-Ahmed)の攻略以來今の名(城寨の義)に改む、南西マグレブに對する軍略上の要地と認めらる。

六五〇頁

南アフリカ聯邦(Union of South Africa)は一九一〇年を以て建設せられ、ケープ、ナタル、トランスバール、オレンジ自由國(Orange Free State)の四原州(Original Provinces)及びバストランド、ベチッアナランド(保護地)、南ローデシア(ザンベジ河以南の地域)スワジランドの四地方より成りて地積は二百三十六萬六千方粁に達し、人口は六百七十二萬人を有せり。

世界地理提要　補錄

原州	地積	人口	地口	地積	人口
ケープ	七一、七三八八方粁	二五〇、七五〇〇人	バストランド	二、六六五八方粁	三四、八八四八人
ナタル	九、一六〇七	一二〇、六三八六	ベチゥアナランド	七一、二二〇〇	一三、四〇〇
トランスバール	二八、五九九一	一二六、九九五一	南ローデシア	三八、四七九四	六九、七六〇〇
オレンジ自由國	一三、〇五一〇	四六、六八八〇	スワジランド	一、六九二八	八、五四九一
聯邦部	一二二、五四九六	五四二、〇七〇〇	管領部	一一四、〇五八〇	一二六、六〇〇〇

住民に就きて人種別を爲せば着色人頗る多く聯邦部にありても平均、白人の三倍强に當り、ナタルに於ては十一倍以上に達するが、白人中にはブール、イギリス人、等ありて着色人は黑色人、マライ人、印度人、支那人、等を抱括せり。

原州	白色	着色	地方	白色	着色
ケープ	六一、〇六八〇人	一八九、六八二人	バストランド	八九五	三四、七七三人
ナタル	九、一四四三	一一一、四九四三	ベチゥアナランド	一一〇〇	一三、三〇〇〇
トランスバール	二九、九三二七	九六、九三七九	南ローデシア	七六五四	六八、二〇〇〇
オレンジ自由國	一四、二六七九	二四、四六三六	スワジランド	八九〇	八、四六〇一
聯邦部	二一四、四一二八	四三二、五七七八	管領部	一、〇五三九	一二四、七三三二

總督はイギリス皇帝の親任に係り、行政會議(Executive Council)は首相を始

めとし農務、鐵道港灣、內務、鑛務、國防、法務、敎育、財務、地方、土民、商工郵務、等の各相より組織せられてプレトリア(トランスバール)に置かれ、立法會議(Parliament)はケープタウンに設けらるるが、元老院(Senate)は總督の任用に係る八名と各原州の選擧に係る八名づつを合はせて四十名(內四名着色人)の議員を有し、衆議院(House of Assembly)はケープの五十一人、ナタルの十七人、トランスバールの三十六人、オレンジ自由國の十七人を合はせて百二十一人の議員を有せり、而して司直に關する中央法衙はブルームフォンタイン(オレンジ)にあり。

七三三頁

海軍は强大にして一九〇九年には百五十二隻、七十五萬噸、百四十三萬馬力、一千四百十六の砲門、二百二十八の水雷發射管、四萬九千六百五十一人の乘組を有せしが、戰艦に二十九隻、四十萬餘噸ありたり、而して建造中の戰艦に四隻、九萬五千餘噸、十一萬二千馬力ありて決議を經たるものに二隻あり。

八二三頁

アルヘ	共和國人口增加		ア市人口增加		來住者の進步		鐵道の發達		通商の發展	
	年次	人	年次	人	年次	人	年次	粁	年次	百萬法
	一八六九	一八七、七四九〇	一八六九	一七、七七八七	一八七〇	三、九六六七	一八七一	九八五	一八七〇	三六七

世界に於ける人口四十萬以上の都會

都市	人口 単位千人	調査推算	年次
ロンドン	四、八七三	調査	一九一〇
大ロンドン	七、五三七	調査	一九一〇
ニウーヨーク	四、四五一	調査	一九〇九
パリー	二、七六三	調査	一九〇九
シカゴ	二、二二四	調査	一九〇九
東京	二、一八六	調査	一九〇八
ベルリン	二、一一一	調査	一九〇七
井ーン	二、〇六四	調査	一九〇九
ヒラデルフィア	一、五一六	調査	一九〇六
ペテルブルグ	一、四六三	調査	一九〇七
モスクワ	一、三六〇	調査	一九〇八
大阪	一、二二七	調査	一九〇八
ブエノスアイレス	一、一八九	調査	一九〇八
北京	一、〇〇〇	？	？
コンスタンチノプル	九四三	？	？
ブダペスト	九一三	調査	一九〇八
廣州	九〇〇	？	？
グラスゴー	八七二	調査	一九〇九
漢口	八七〇	？	？
リオデジアネイロ	八六九	調査	一九〇八
カルコッタ	八四八	調査	一九〇一
ハンブルグ	八四五	調査	一九〇七
ボンベイ	七七六	調査	一九〇一
ワルサワ	七七一	調査	一九〇四
天津	七五〇	？	？
リバアプール	七四六	調査	一九〇七
セントルイス	六八六	調査	一九〇七
カイロ	六五七	？	？
上海	六五一	調査	一九〇六
マンチエスター	六四三	調査	一九〇一
ブラッセル（ブリウクセル）	六三〇	調査	一九〇九
福州	六二四	？	？
ボストン	六二三	調査	一九〇四
重慶	六二〇	？	？
シドニー	五七七	調査	一九〇六
ボーチモーア	五七六	調査	一九〇九
ナポリ	五七二	調査	一九〇六
マドリッド	五七〇	調査	一九〇七
ムニヘン	五七〇	？	？
アムステルダム	五六六	調査	一九〇七
ピッツバーグ	五五八	調査	一九〇一
バーミンガム	五五三	調査	一九〇七
ミラノ	五五二	調査	一九〇一
パルセロナ	五四四	調査	一九〇一
メルボルン	五三八	調査	一九〇一
ドレスデン	五三七	調査	一九〇七
ライプチヒ	五一九	調査	一九〇七
マルセイユ	五一七	調査	一九〇六
マドラス	五〇九	調査	一九〇一
グリオランド	五〇七	調査	一九〇九
バンコク	五〇〇	？	？
オテッサ	五〇〇	調査	一九〇四
蘇州	五〇〇	？	？
ローマ	四九〇	調査	一九〇六
ブレスラウ	四八六	調査	一九〇七
リヨン	四七二	調査	一九〇六
リーグ	四七〇	調査	一九〇七
シフイールド	四五六	調査	一九〇七
ケルン	四五一	調査	一九〇七
ハイデラバド	四四八	調査	一九〇一
京都	四四二	調査	一九〇八
キオベンハーフン	四三九	調査	一九〇七
ロッテルダム	四〇三	調査	一九〇七

世界に於ける主要國の面積及び人口を列記すれば次表の如し。

國名	面積(方粁)	人口(人)	國名	面積(方粁)	人口(人)
イギリス帝國	三〇二、九〇〇〇	四、二八三、六〇〇〇	ドイツ國	三一九、八二二七	七八九九、四九九三
聯合王國	三一、四四三三	四五三六、五五九九	本國	五四、〇八二一	六四九二、五九九三
印度帝國	四八六、〇〇〇〇	三、一六〇八、四〇〇〇	保護地	二六五、七四〇〇	一三九六、九〇〇〇
殖民地、保護國	二四八四、五〇〇〇	六〇三八、六〇〇〇	ベルジック王國	二四一、二二九六	二二五一、六七三〇
ロシア國	二二〇一、二四六〇	一、六六一〇、七七〇〇	本國	二、九六五六	七五一、六七三〇
ヨーロッパロシア	四八八、九〇六〇	一、一八六九、〇六〇〇	殖民地	二三八、二八〇〇	一五〇〇、〇〇〇
ポルスカ	一二、七三二〇	一二二二、九二〇〇	オランダ王國	二〇七、八七二六	四四〇〇、六九五五
コーカシア	四六、九二二〇	一一七三、五一〇〇	本國	三、三〇七九	五九六、五一五六
中央アジア	三四八、八五三〇	九九七、三四〇〇	殖民地	二〇四、五六四七	三八〇六、一八〇〇
シベリア	二三九、三八七〇	八二二、〇一〇〇	イタリア王國	七七、〇七三二	三五五三、九八六五
フィンランド	三七、三六〇〇	三〇五、九三〇〇	本國	二八、六六八二	三四九四、七八六五
ブハラ	二〇、三四三〇	一五〇、〇〇〇〇	海外領土	四八、四〇五〇	五九、二〇〇〇
ヒバ	六、七四三〇	八〇、〇〇〇〇	エステルライヒ＝ウンガルヌ君主國	六七、六二四九	五一三四、〇三七八
フランス共和國	一一八四、五八六四	八八五三、八二六七	エステルライヒ	三一、〇一九三	二八五六、七八九八
本國	五三、六四六四	三九二五、二二六七	ウンガルヌ	三二、四八五七	二〇八四、〇六七八
殖民地	一一三一、九四〇〇	四九二八、六〇〇〇	ボスニエン＝ヘルツェゴヰナ	五、一一九九	一九三、一八〇二
アメリカ合衆國	九三八、六〇九三	一、〇一七四、二三〇〇	日本帝國	六七、三六六七	六八六〇、六六七三
本國	三〇、七五六五	九二二八、四一三九	內地	三八、二四一四	五一五九、一三六一
殖民地		九四五、八一六一	殖民地	二九、一二五二	一七〇一、五三一一

世界地理提要

野口保興著

緒言

宇宙開闢の理論は玆に之を省略するも六合の廣大無邊なるは之を一言せざるべからず、仰ぎて天空を見れば點々として螢火の如き恒星あり又白雲狀を呈する霞星あり、恒星中の最も近きものたる太陽の如きも尙ほ一億五千萬粁の遠きにありて霞星は無數の星辰の群簇より成れりと云ふ。

太陽の光熱を受け其の周りに旋轉する天體あり、五百有餘を測觀し得て太陽系の遊星と名づく、中に就き著しきものは木星、土星、天王星、海王星、火星、地球、金星、水星にして我が地球は第六位を占むるに拘らず、其の大さは僅に太陽の百二十八萬分の一たるに過ぎず。

恒星　霞星　遊星

遊星比較表	太陽	太陰	木星	土星	天王星	海王星	金星	水星
直徑 地球の直徑を單位とす	一〇八、五五八	〇、二七三	一一、〇六一	九、二九九	四、二三四	三、七九八	〇、九九九	〇、五二八
體積 地球の體積を單位とす	一三八萬三七二〇	〇、〇二〇	一二七九、四一二	七一八、八八三	六九、二三七	五四、九五五	〇、九七五	〇、一四七

夫れ斯の如く地球は宇宙の廣大に比すれば塵埃も啻ならざる細微の一小世界たるも、吾人より觀れば空間に浮遊する一大塊たるを失はずして、其の形狀は學者の所謂「ジェオイド」(Geoid)なるも、橢圓體と爲すを妨げざるのみならず扁平率はファイユ(Faye)に依れば $\frac{1}{292\pm1}$、クラルク(Clarke)に據れば $\frac{1}{293,5\pm1,1}$、ベッセル(Bessel)に從へば $\frac{1}{299,15}$ 即ち約三百分の一なれば地球の形體は球狀を呈すと云ふも不可あるを見ず、而して直徑は約一萬二千七百五十粁(地球と等積の球体の半徑は六三七一、一〇三なり)ありて周圍は凡そ四萬粁に達し、體積は一億八百三十三萬立方粁と概算せられ比重は五、五〇五にして重量は五萬六千九百兆噸ありと云ふ。

計算者	ファイユ	ベッセル

橢圓的子午周	四〇〇〇、八〇三二米	四〇〇〇、三四二三米
半大軸	六三七、八三九三米	六三七、七三九七米
半小軸	六三五、六五四九米	六三五、六〇七九米
赤道周	四〇〇七、六六二五米	四〇〇七、〇三六八米
面積	五、一〇〇八、二〇〇〇方粁	五、〇九九五、〇七一四方粁
體積	一、〇八三二、六〇〇〇、〇〇〇〇立方粁	一、〇八二八、四一三一、五四〇〇立方粁

地球の表面は凡そ五億一千萬方粁ありと雖も其の七割二分足らず即ち三億六千六百萬方粁は凹窪にして鹹水の浸す所と成りて海洋を爲し、殘りの二割八分餘即ち一億四千四百萬方粁は水面より露出して陸地を爲せり、此の海洋と

北緯	面積(單位百萬方粁) 全部	陸部	水部	南緯	面積 全部	陸部	水部
八〇—九〇	三、九	(?) 〇、五	(?) 三、四	〇—一〇	四四、一	一〇、四	三三、七
七〇—八〇	一一、六	三、三	八、三	一〇—二〇	四二、八	九、四	三三、三
六〇—七〇	一八、九	一三、五	五、四	二〇—三〇	四〇、二	九、三	三〇、九

北半球	水半球
一〇〇	一〇一六〇
一〇一二〇	四〇一五〇
二〇一三〇	三〇一四〇
四四、一八	三六、四四
二五、〇	三二、五六
一〇〇、四	一一、二
一〇、〇	一五、六
一五四、六	一一、〇
三四、〇	二〇、八
八〇一九〇	四四〇一五〇
南半球	陸半球
三一、九	一一、七
(?)	二八、九
八、〇	一、〇
(?)	一七、九
七、五	三〇、五

部分あり以て水、半球（水陸部三一、六九百萬方粁）、陸、半球、一一三五〇五の別あるを致せり而して海に五大洋、陸は南北に五大洲の區分あるを見る。

五大洋とは太平洋、大西洋、印度洋、北極洋、南極洋を云ふ。太平洋（Pacific Ocean, Océan Pacifique, Stiller Meer, Mar Pacifico）は最大にして實に洋中の洋たるものなり殆ど地球の半面を蔽はんとす。大西洋（Atlantic Ocean, Océan Atlantique, Atlantisches Meer）は狹長にして陸と陸とに挾まれ、印度洋（Ind an Ocean, Océan Indien, Indischos Ocean）に至りては三方に陸地を控く其の廣袤も亦前の二洋に如かず而して北極洋即ち北氷洋（Arctic Ocean, Océan Glacial Arctique, Nördliches Eismeer）南極洋即ち南氷洋（Antarctic Océan, Océan Glacial Antarctique, Südliches Eismeer）は南極或は北極と稱する部分を圍繞せる氷海なり。

洋名	深（米突）最大	深（米突）平均	面積（方粁）
北太平洋	九六〇〇	四一〇〇	一、七五四、五〇〇、〇〇〇
南太平洋	九四二七		
北大西洋	八三四〇	三七四〇	八九、九五八、〇〇〇
南大西洋	七三七〇	三七八〇	
印度洋	六四五九	三六五〇	七四〇、四〇〇、〇〇〇
北極洋	四八四五	八一八	一四〇、〇〇〇、〇〇〇
南極洋	三六一一	一五〇〇	一一三、七〇〇、〇〇〇
合計	一	一一五〇〇	三、六五八、一〇〇、〇〇〇

五大洲とはアジア（Asia, Asie, Asien）オセアニア（Oceania, Océanie）ヨーロッパ（Euro-

pe, Europa)、アフリカ(Africa, Afrique, Afrika)、アメリカ(America, Amerique, Amerika)を云ふなり而して廣袤の大なるはアジアを以て第一とし之に次ぐはアメリカ、アフリカ、ヨーロッパにして、オセアニアの如きは最も小なるものなり、又アジア、ヨーロッパ、アフリカは舊大陸と稱しアメリカを新大陸と呼びアジア、ヨーロッパを合はせてユーラシア(Eurasia)と唱ふ。

洲	面積(方粁)	面積百分中 半島	面積百分中 島嶼	海拔(米突) 最高	海拔(米突) 平均(大陸)
アジア洲	四四三〇、九八〇〇	一七、九	六、四	八八四〇	九五〇
アメリカ洲	四二一〇、六〇〇〇	五、〇	一〇、〇	七〇四〇	六八〇
アフリカ洲	二九八二、〇二〇〇	?	二、一	六〇〇〇	六五〇
ヨーロッパ洲	九九一、三四〇〇	二七、〇	七、八	四八一〇	三〇〇
オセアニア洲	八九五、八〇〇〇	?	一五、〇	四二一〇	二六〇
南極地	九〇一、三〇〇〇	?	?	?	?
合計	一、四四一二、〇四〇〇	?	?	—	七〇〇

あじあ洲

◉總論

名稱 アジア(亞細亞)なる名稱は往昔コーカシア地方、アゾフ海の東部に居住せしアシエ(Asie)(一にアセエ(Asee)に作る)人より起れるものなるべしと云ふ。

位置 アジア洲は舊大陸の北部より東部に亘れる陸地にして全部殆ど北半球の内にあり、茲に其の四極點の位置を示せば左の如し。

極南	ロッチ島の南端	南緯凡そ	一一度〇〇分
極北	チェリウスキン岬	北緯凡そ	七七 四三
極西	ストラチオ島の西端	東經凡そ	二四 五五
極東	デヂネフ岬	西經凡そ	一六九 四〇

然れども、マライ群島の南東部(南方マライ)を除けば極南はバリ島の南端南緯八度五十二分と成り、該群島の全部を除けばマライ半島のブル岬はア

ジア洲とアジア大陸との極南の地を兼ねて北緯凡一度十七分に當る。

境域　本洲は北に北極洋を控え、北東は淺きベーリング海峽に依りてアメリカ洲と隔り、東は太平洋に面し、南東はアラフラ海、チモル海、等を以てオセアニア洲と境するが、南方マライの諸島を除けばセレベス海、マカッサル海峽、ジャバ海を挾みて該洲のマライシアに對すると成り、マライ群島全部を省けば南支那海、マラッカ海峽は兩洲の限界と成るなり、南は印度洋に瀕し、西はカラ河、ウラル山脈、ウラル河、カスピ海、マニチ沼河（カフカズ山脈を以て兩洲の境とすることあり）黒海、ボスポロス海峽、マルマラ海、ダルダネル海峽、等に依りてヨーロッパと壇し、スエズ地峽に依りて僅にアフリカ洲に連なれり。

此の如く本洲の境界は概して天然の地形に基づくに似たれども、亦人爲的に出づるもの少なしとせず、例令ばヨーロッパとの境はオブ河、トボル河、等を以てすべきにウラル山脈を以てするが如し。

廣袤　本大陸は不正四邊形の狀態を呈し、五大陸中にて廣袤最も大にして、南北は凡七十七度、東西は凡百六十二度に亘れるが、南北は八千粁を有し東西は一萬粁以上に達す。

面積　本洲の南東部に於ける大群島の全部若しくは一部を本洲に附屬せしむると否とに依りて地積は四千四百五十五萬方粁と成り又は四千三百九十八萬方粁と成り或は尙ほ減じて四千二百五十萬方粁と成る、而して第三の地積と雖、アメリカ洲の地積より大なるのみならず殆ヨーロッパ、アフリカ、オセアニアの三大洲を合はせたるものに等しく、第一の面積は我が地球全陸地の三分の一强、地球全面積の十一分の一强に當れり。

海岸　本洲は三大洋に面す、北岸は甚だ簡單にして海灣の凹入、陸地の突出等は至りて少なく、港灣の存するあるも多くは河口、河灣たるに過ぎず、又地角は無きにしもあらざれども、其の盡頭の尖銳なるもの少なし、東部に於ては北方のベーリング海峽より南方のシアム灣に至るまでの內海は半島或は島嶼の爲めに多少區劃せらるるも相互に連絡せり、而して此等の海の中に就きて黃海の朝鮮灣に於けるが如く、渤海の直隸、遼東、萊州の三灣に於けるが如く、南支那海のトンキン灣、シアム灣に於けるが如く、大陸に接近せる地に於

て更に港灣を形成するあり、南部に於ける海岸は顯著なる半島又は海灣を形成し、其の東方の海灣は開濶廣大なれども其の西方に於けるものは狹長にして殆ど閉塞せるが如き形狀を呈す、西部の海岸は最、彎曲に富める處なるが狹小なる半島多くして海灣は深く陸地に侵入せり。

此の如くにして本洲海岸線の延長を約六萬粁とすれば海岸線一粁に付き地積七百四十二方粁と成り、其の發達の度は僅にアフリカに優れるのみ、又海洋と大陸の中心との相距ることアジアの如く甚しき處は他に類例なし而して島嶼の配置は東方に偏して大陸の緣邊に近く位し面積は全洲の十六分の一に當れるが、全洲の五分の一に當れる半島の顯著なるものは概ね太平洋及印度洋にありて南向に突出す而して半島と大陸とを連絡する部分は大抵幅廣きが故に地峽の著しきものは少なし。

北極洋
- カラ海
- オブ灣
- イェニセイ灣
- タイムイル灣
- ノルデンシェルド海

太平洋

- ベーリング海
- オホーツク海
- サハリン灣
- 樺太灣
- 日本海
- 黃海
- 渤海
- 東支那海
- セレベス海
- ジャバ海
- 南支那海
- トンキン灣
- シャム灣
- スールー海
- 海灣
- 印度洋
- バルマ（ベグー）海
- ベンガル海
- バンダ海
- アラフラ海
- チモル海
- ペルシア灣
- アデン灣
- アラビア海
- オマーン灣
- 地中海
- エーゲ海
- マルマラ海
- 黑海
- 海峽
- ベーリング
- 間宮
- 韃靼
- 朝鮮
- 直隸
- 臺灣
- マカッサル
- マラッカ
- パルク
- オルムス
- バブエルマンデブ
- ダルダネル
- ボスポロス
- 島嶼
- 北部
- 新シベリア群島
- ウランゲル島
- 千島列島
- 日本群島（樺太島、十州島、本州島、九州島、四國島等）
- 琉球列島
- 臺灣島
- 東部
- 海南島
- フィリッピン群島（ルソン島、ミンダナオ）
- ボルネオ島
- セレベス島
- モルッカ島
- 大ソンダ列島（スマトラ島、ロアバ島）
- 小ソンダ列島
- チモル島

世界地理提要　あじあ洲　總論

半島　地角　地峡

南部　アンダマン列島　ニコバル列島　セイラン島
西部　キプロス島　ロドス島　サモス島　キオス島　レスボス島

半島
北部　ヤルマル　タイムイル
東部　チュクチ　カムチャツカ　朝鮮　遼東　山東　雷州
南部　印度支那　マラッカ　印度（ゲジェラット）
西部　アラビア　シナイ　小アジア

地角
北部　チェリウスキン
東部　デヂネフ　ロパトカ　ロマニア　ブル　ネグライス
南部　カンボヂア　スピエトイノス
西部　コモリン　ラスエルヘッド
　　ラスメンヘリ　ババ

地峡（クラ）　スエズ

地質　本洲の地質に就きては詳細に之を知ること能はずと雖、既に探究せられたる地に就きて其の面積を比較すれば、第四紀の地最も多く、太古界、始

第四紀層
第三紀層
中古界
太古界
始原界

原界之に次ぎ、第三紀の地は最も少なきに似たり。

第四紀層はアルタイ山系、アラタウ山脈、アラル海、ウラル山脈にて界せらるる地方を以て第一とし、ゴビ沙漠、タクラマカン沙漠の周邊、黄河の下流地方、印度半島の北部及び東海岸、ヤルマル、タイムイル兩半島地方、レナ河の中流地方、メソポタミア、スマトラ島の南東部等に發達す。第三紀層は印度支那半島の北西部、ヒマラヤ山系、天山山系等の地に存在し、中古界はアラビア半島の北部、オブ河の下流地方、漢土等にあり、太古界はスタノボイ山脈とイェニセイ河との間に大露出をなし、ヒマラヤの西部、パミル高原、天山、アルタイの二山系、黄河流域より印度支那半島に亘れる地方等にも之を見ることを得。始原界及び舊噴出岩の地はデカン半島に最も發達せるが又其の他の諸地方にも散布せられて以てアジアの骨格を爲せり。新噴出岩はデカン半島の北西部に於て廣大なる面積を占む。

山岳　本州の山岳は全世界中最も顯著にして、南北の趨勢を呈するものもあれども、其の多數は略東西の方向に走り、世界の屋棟と稱せらるるパミル

主要山脈

高原を中心とす、此の處より起りて北東に趣くものは天山山系、アルタイ山脈、サヤン山脈、スタノボイ山脈、と成り、東に走るものはカラコルム山脈崑崙山系、支那山系と成り、南東に於てはヒマラヤ山系と成り、西方に於ては一はヒンヅークシ、エルブールズ、カフカズ、タウルス等の山脈と成り別脈はシリア山脈、アラビアの諸山と成れり、而してアルタイ山脈より出づる一支脈はキルギスの丘陵と成りて遙にウラル山脈に達し、又印度支那半島にアラカンヨマ、ペグーヨマ、シアンヨマ、アンナム山脈等の數脈あり、印度半島にはビンヂア山脈、東西のガッツ山脈あり。

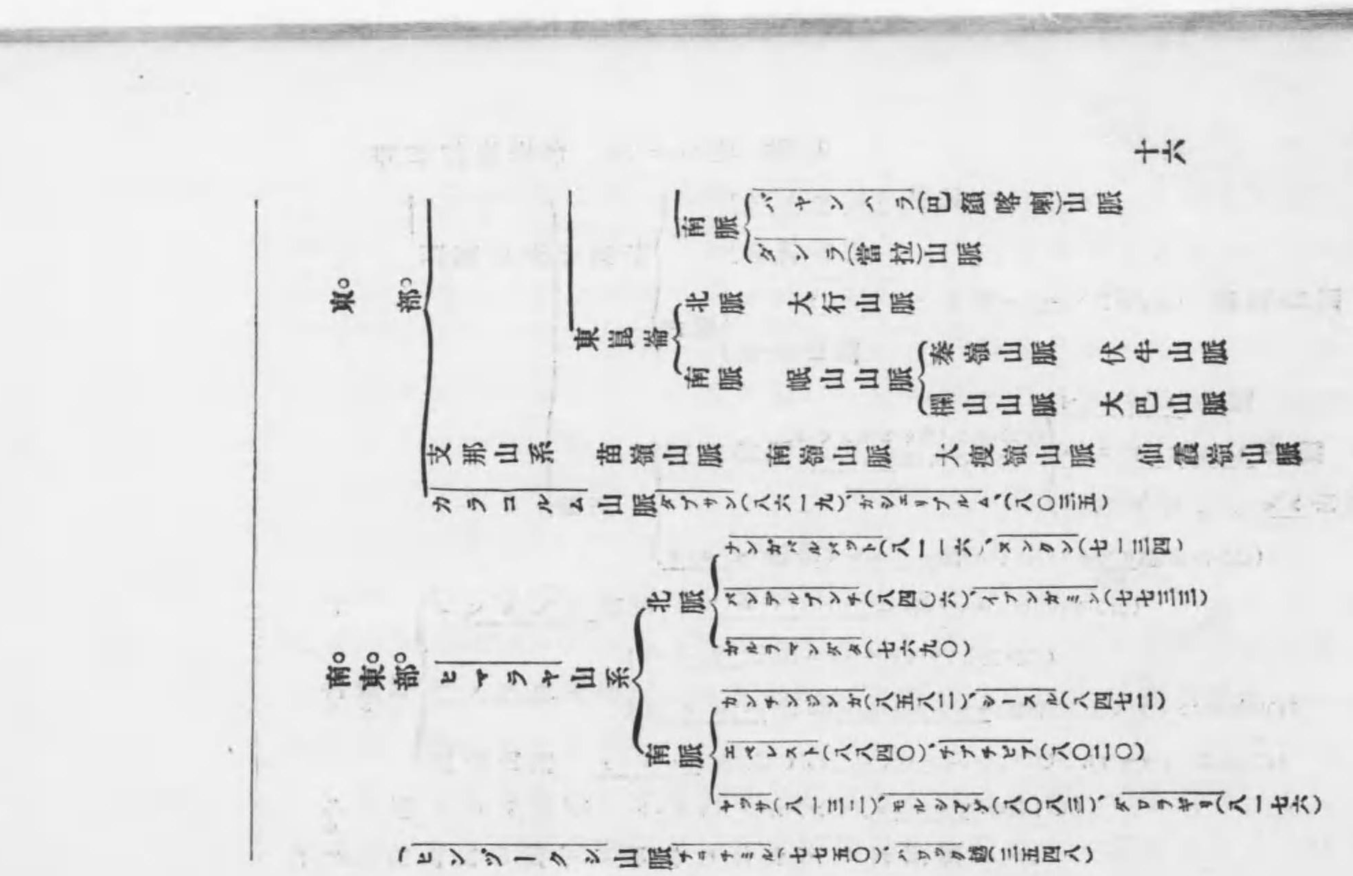
火山脈

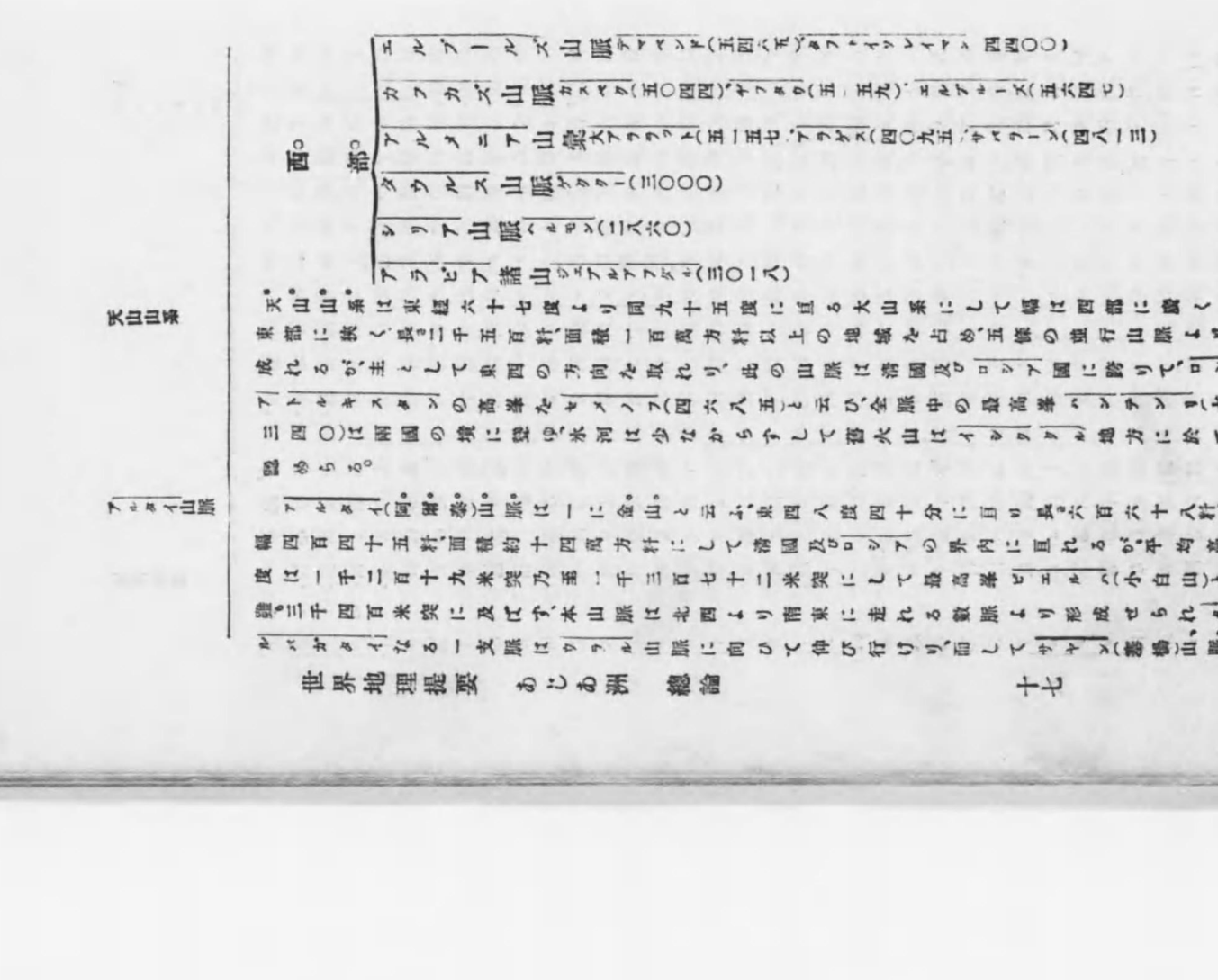
東部の沿岸島嶼には南北に之を貫ける火山質の山脈あり、南は大ソンダ列島のジャバ島よりフィリッピン群島を經て我が臺灣島に入り、日本群島を過ぎりてカムチャッカ半島に趣けるが、此の火山脈は太平洋の周邊を圍繞する火山線の一部なりと云ふ。

山岳表

今茲に一表を作りて本洲山脈の概略を知らしめんとす、但し峠、越と特記したるものの外、山系、山彙、山脈、高原の名稱の下に細書せる地名は山岳の名稱にして括弧内の數字は海抜を表示する米突數なり。

- 中部パミル高原（ムスタハアタ（七八六〇）、カラフマン（七四一〇）、ハンテンリ（七三四〇）、デスメゲンカラ（六〇〇〇）、ボグドウラ（四〇〇〇）
- 天山山系
- 北東部
  - アルタイ山系
    - アルタイ山脈（ツァガドボグド（四三〇〇）、ビエルフ（三三五〇）
    - サヤン山脈（ムンクサルダク（三四九〇）
  - ヤブロノイ山脈
  - スタノボイ山脈（マカチンガ（二六八三）
  - キリア山脈（アクメジッド越（三一七〇）、ヤンヒ越（四八八〇）
- 崑崙山系
  - 西崑崙
    - 崑崙山脈（ナイダハン峠（五九六一）、サンヒダバン峠（六七八〇）
    - アルチンタヘ山脈
    - アッカタヘ山脈
  - 中崑崙
    - 中脈
      - 北脈
        - 南山山脈
        - ブルハンブッダ山脈（トライ峠（四七六六）
      - 積雪山脈
      - マルコポロ山脈
    - 西傾山脈


東。部。
支那山系
苗嶺山脈
南嶺山脈
大瘦嶺山脈
仙霞嶺山脈
東崑崙
北脈 大行山脈
南脈 岷山山脈
秦嶺山脈
伏牛山脈
嶓山山脈
大巴山脈
南脈
バヤンハラ(巴顏喀喇)山脈
ダンラ(當拉)山脈
カラコルム山脈
南。東。部。
ヒマラヤ山系
北脈
南脈
ヒンヅークシ山脈


西。部。
エルブールズ山脈
カフカズ山脈
アルメニア山系
タウルス山脈
シリア山脈
アラビア諸山
天山山系
アルタイ山脈

とアルタイ山脈とを合稱してアルタイ＝サヤン山系又は單にアルタイ山系と呼ぶことあり。

崑崙山系は世界屈指の一大山系なり、東西四十二度、四千粁に亘り、顯著なる隆起帶を爲し古代の現出に係れり、分ちて三部とす、其の西崑崙はパミル高原の東方に起りて數多の並行山脈を爲し、北西西より南東東に走り、平均海拔は六千米突內外なるが、最高峯と雖も此の平均を超過すること九百米突以下なるべし、主脈崑崙は東向してアッカタハと成り、北東に走りてツァスダバンタハ、アルチンタハと成る、其の中崑崙は東經八十九度より同百四度に亘り、北西西より南東東に趨きて大河の水源地なり、平均海拔(四千米突以上)は西部に讓れども亦高峯に乏しからずして、殊に深谷幽谿に富めり、南北の幅は十五度に達し分かれて三派と成り、ツァイダムの如き高臺地を抱けり、北にブルハンブッダ、西傾、南山の諸脈あり、中にマルコポロ、積雪、等の山脈あり、南にバヤンハラ(巴顏喀喇)、ダンラ(當拉)の數脈あり、其の東崑崙は東經百四度に起りて同十八度以上に達するが、漢土にありて南北の二脈に分かれ、北脈は大行山脈、其の他の山脈を抱きて黃河の北に趨き、南脈は岷山山脈より分岐して北派の秦嶺伏牛、等の山脈を爲し、南派の嶓山山脈、大巴山脈、等を爲す、海拔は漸く低下して三十米突を超過すること稀なるが、其の趨向も複雜と成りて方位は概括し難し。

カラコルム山脈

カラコルム(喀喇崑崙)山脈は一にムスタハ(氷山)山脈と稱す、長さ八百粁內外、幅百五十粁あり、此の山脈の中には山岳の副王ダブサン(八六一九)を有するが、ラキポチ(七七九一)の如きはギルギット谷地を拔くこと六千米突に及べり、又ムスタハ峠(五七八一)、カラコルム峠(五六五四)、カラタハ越(五四〇〇)あり、海拔の平均、氷河の面積、等に於てはヒマラヤ山系に優れるものあり、而して本山脈の雪線は北面に五千九百二十米突、南面に五千六百七十米突なり。

ヒマラヤ山系

ヒマラヤ(喜馬拉耶)山系は高山秀嶺に富めること世界第一なり、東西二十五度(東經七十度より同九十五度に達せり)二千二百五十粁に亘り、南北の二脈より成る、其の北脈は一千六百粁の長さを以て印度とチベットとの分水嶺を爲せるが、西方ナンガパルバッド峯に起り、カシミアの中部を貫き、ヌンクン峰を頂き、ドラス峠に於ては三千三百四十三米突に下りスピチの峽谷を形成し、ニチ越を與へ、ガンガの水源に當りて本脈の最高處たるバンデルプンチ及びイブンガミン、ガルラマンダタの如き高峯を現はし、マリアンラ山脈(四七二五)を分派してサトレザとザンポとの流域を劃し、東方に趨くに從て稍低下するも尙ほ五千米突以上に達することあり、其の南脈は西、中、東の三部に分たるるが、四千米突內外の海拔を以てインドス河の東に起り、カシミアの南西境を爲したる後、世界の最高峰たるエベレスト(Everest)(八八四〇)を始めとし、カンチェンジンガ(八五八二)、ダウラギリ(八一七六)、シースル(八四七二)等八千米突以上の高峯を現はせり、而して東方は未だ探檢を經ざる處多し、本山系の雪線は北面に五千六百米突、南面に四千九百米突なるが、氷河には廣大なるものあり。

河流　本洲の河流に關する分水線は啻に顯明を缺くのみならず、又自然

に反するものあり、即ち江河の多くは山間、山麓を洗ひて低地を求むるの順路に依らずして山脈を縦横に切断して進行流下せり、蓋し此等の河流は源を内部の盛地に發するを以て、其外縁に當る山脈を横断するに非ざれば、外海に注入する能はざるが故ならん。

源泉地

本洲は其の境域内に降下する雨水の配流に對して二大中心を呈供せり、其の一はヒマラヤ山系及びチベット高原にして黄河、揚子江、メコン河、サルヰン河、イラワヂ河、ブラマプトラ河、ガンガ河、インドス河、等の水源地なり、其の二はアルタイ＝サヤン山系地方にして黒龍江、レナ河、イェニセイ河、オブ河、等の巨流を發す、此の外、パミル高原、アルメニア山嶽も各一小中心と稱し得べし、而して本洲の河流の中には水を大洋若しくは其の他の外海に注入せざるもの少なからずして或は沼湖に入るあり或は砂礫の中に流失するあり。

輸送流

本洲の河流に就きて特に奇とすべきは二水脈が一對に流下して所謂姉妹流を爲すにあり、即ち水源は相接近するの地に發し、中流に至りて多少離隔すれども、下流は再び相近づくか若しくは相合して海に注げり、例令はオブとイェニセイ、黄河と揚子江、ガンガとブラマプトラ、インドスとサトレヂ、ルアム、チグリスとエウフラトの如し。

別世界

本洲はアフリカ洲の如く一大土塊を爲さざるが故に高地と低地との配置も一様ならずして爲めにシベリア、支那、印度、イラン、等數個の別世界を形成せり、從ひて江河も速に山地、高地を流下し、廣漠たる平野に出でて之を貫流し數千粁の地を潤したる後、海に入るもの少なからず、さればアジアの巨流は概して中流以下に於て通舟の便を與へ、オブ、イェニセイの二流を除けば自餘の江河は概ね其の河口に於て三角洲を形成せり、而して三角洲の中には或は海中に突出するあり或は灣底を填充するに止まるあり、左に本洲の主要なる河流を列擧せん。

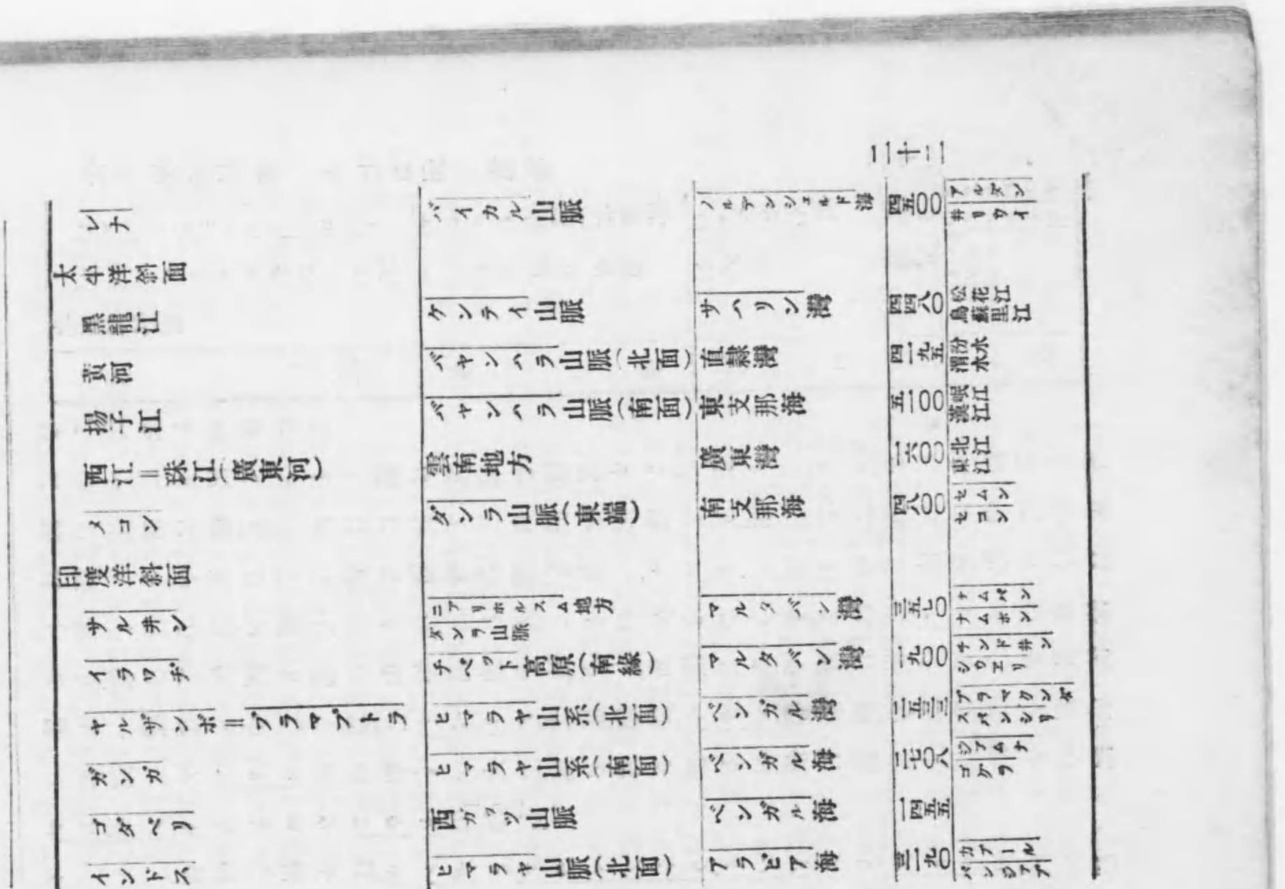
河流表

本流	水源河口	河長	支流
北極洋斜面			
ウルング＝イルチシ＝オブ	アルタイ山系（南部）		
	オブ灣	五六八五	イシム
			トボル
セレンガ＝アンガラ＝イェニセイ	アルタイ山系（北東部）		
	イェニセイ灣	四七五〇	中ツングスカ
			下ツングスカ

レナ	バイカル山脈	ノルデンシェルド海	四五〇〇	アルダン井リウイ
太平洋斜面				
黒龍江	ケンテイ山脈	サハリン灣	四四八〇	松花江 烏蘇里江
黄河	バヤンハラ山脈(北面)	直隷灣	四一九五	汾水 渭水
揚子江	バヤンハラ山脈(南面)	東支那海	五一〇〇	岷江 漢江
西江＝珠江(廣東河)	雲南地方	廣東灣	一六〇〇	北江 東江
メコン	ダンラ山脈(東端)	南支那海	四八〇〇	セムン セコン
印度洋斜面				
サルヰン	ニアリホルスム地方 ダンラ山脈	マルタバン灣	三五七〇	ナムパン ナムポン
イラワヂ	チベット高原(南緣)	マルタバン灣	一九〇〇	チンドヰン シウエリ
ヤルザンボ＝ブラマプトラ	ヒマラヤ山系(北面)	ベンガル灣	二五三三	ブラマクンダ スパンシリ
ガンガ	ヒマラヤ山系(南面)	ベンガル海	二七〇八	ジアムナ ゴグラ
ゴダベリ	西ガッツ山脈	ベンガル海	一四五五	
インドス	ヒマラヤ山脈(北面)	アラビア海	三一九〇	カブール パンジアブ

エウフラト＝シアトエルアラブ	アルメニア山彙	ペルシア灣	二六〇〇	チグリス
地中海斜面				
キジルイルマク	アルメニア山彙	黒海	八五〇	
凹窪地				
クラ	アルメニア山彙	カスピ海	一三二七	アラス
ウラル	ウラル山脈	カスピ海	二三七九	
アム	パミル高原	アラル海	二五〇〇	
シル	天山山系	アラル海	一六五〇	
閉塞地				
テケス＝イリ	天山山系	バルハシ湖	一五〇〇	クンヘス カシ
ヤルカンド＝タリム	カラコルム山脈	ロブノル	?	カシガル ナタン
ヘルメンド	ヒンヅークシ山脈	ハムウン沼	一一〇〇	ムサバタラ アルハンタブ
ヨルダン	アンチリバノン山脈	死海	二一五	

本洲の河流に就き現下の情況に基づきて吾人を稗益するの程度如何を



考査すれば先づ指を揚子江に屈す、之に次げるはガンガにして所謂無用の長物たるの嘆あるべきオブ、イェニセイ、レナを措き、利害相半する黄河、便益を供するに充分ならざる黒龍江、インドス河、等を擧ぐるよりも寧ろ西江、イラワヂ、エウフラト、メナム、等を推すの至當なるを觀るべし。

オブ河

オブ(オビ)河の源流にカツン(六七二)、ビヤ(二三五)の二あり、相合して數水を容れ北西、北、等に向ひオブ灣を形成して北極洋に趣くが、支流のイルチシ河はウルンゲの名を以てエクタハアルタイの南面に起りイシム、トボルの二河と會し、トボルスク以下に於ては方向を北に轉じてオブに會す、流域は三百五十萬方粁にしてウルンゲ＝イルチシ＝オブの長さは五千七百粁に近し。

アムル河

アムル河即ち黒龍江はシルカ(什勒喀)河とオルクナ(額爾古納)河とを以て源流とす、二流の相合するや始めてアムル又は黒龍江と稱せられ、ビヤ、ブレヤを受け、松花江を容るる頃より次第に北東に轉じ、烏蘇里江と合してより全く清國の地を離れ、サハリン灣に注ぐ、長さは四千四百八十粁ありて約二百萬方粁の流域を有す。

黄河

黄河はバヤンハラ山脈の北東面に起り、上流をアルタン(阿爾坦)河と云ひ、東流してチアリン(札凌)、オリン(鄂凌)の二小湖を過ぎ、屈折して甘肅省に入り、黄河と稱せられ、長城を横ぎりて北に出で、東に轉じ、一大彎曲を描きて長城の南に下りて渭水を合はせ、之より漸次北東に趨きて渤海灣に入る、本河は約四千二百粁の長さと九十八萬方粁の流域とを有せるが、水勢急にして水淺く河道一定せざるを以て便益を供すること少なき河流なり、支流も亦著しきものに乏し。

揚子江

揚子江は本洲第一の大河なり、上流をムルイウス(木魯伊烏蘇)と云ひ、バヤンハラ山脈の南西面に發するナムチツ(那木齊圖)、トクトナイ(托克托乃)、カチ(喀齊)、等の數烏蘭木倫(ラン ムレン)蒙古語にて流の義の合流より成れり、而して四川省に入りて金沙江、白水江と稱せられ、雅龍江を容れたる後、長江又は大江の名を得、南京以下を揚子江と云ふ、其の流向は耳海の北東までは略ぼ南南東なるも之より次第に北東、東、南東、等に屈曲し、崇明島の南を過ぎりて海に入る、本流の全長約五千一百粁、流域百八十萬方粁あり、大汽船と雖も二千二百餘粁の上流なる宜昌に溯ることを得、灌漑交通の便を與ふること實に大なり、支流には雅龍江の外、岷江、嘉陵江、烏江、漢江、等ありて、洞庭、鄱陽二湖の水も亦本江に入る。

メコン河

メコン河はチベツト高原のダンラ山脈の東端に發し、上流をルンモンチウ、ヅアチウ、チアムドチウ、ナムチウと云ひ雲南省に入りて瀾滄江と云ふ、峽谷を南流して印度支那半島に來るやナムコンと稱せられ、メコンと成る、流向に屈折多く水勢穩ならざるもコン瀑流以下に至れば佳良の航路を與へブノムペン附近に於てトンレサプ湖の水を受け、前河、後河を派して所謂四肢流を爲し、三角洲を抱きて海に入る、長さは四千五百乃至四千八百粁と計上せらるるも、流域は一百萬方粁を超過せざるべし、支流にナムフ、セムン、セコン、等あり。

ガンガ河　ガンガ(恒)河はイブンガミンの讀、直立四千二百米突以上の地に發す、アラクナンダ、バギラチ、ザアナビの三源流は相合して南西に流れ、ハルドワルに至れば水源を距ること二百三十七粁に過ぎざるに海拔は僅に三百十一米突に降れり、之より巨大なるに海拔、方向を南に轉じ、ブラマプトラと共に廣大なる三角洲を爲してベンガル海に注ぐ、河長は二千七百粁に餘り、九十三萬方粁の流域には無双の眞耕地あり、灌漑交通の便や絶大なり、支流はジアムナ、ソン、ゲムチ、ゴガラ、ガンダク等を著しとす。

インドス河　インドス河即ちシンド河は一に印度河と云ふ、水源をチベット高原に於ける海拔六千七百餘米突の地に發してシンガバー河と稱せられ、ジアエーク河を容れてインドス河と成り、ギルギット附近に於て方向を南西に轉じスアール沙原を左岸に控え下流は十一派に分かれて三角洲を爲し遂にアラビア海に注ぐ、長さは三千粁以上に達し流域は百十萬方粁に及べども、効用はガンガ河に及ばざること遠し支流の著しきものはパンジアブなりとす。

沼湖　本洲は著大なる湖沼に乏しからずして中には海と云ふ名稱を附するの穩當なるものあり、然れども多くは閉塞地若しくは凹窪地に水の瀦溜せしに外ならざれば、水底の深きものは甚だ多からず、特にロブノル、ハムウンの如きは乾涸、濕潤常ならずして廣袤の一定せざる沼地なり、又バイカル湖の如く山間湖にして重厚なる水層を湛えたるものも亦少なからざるが廣袤は甚だ顯著ならず、左に本洲の主要なる湖沼を列舉せり。

湖沼表

湖沼	面積	長	濶	高度	水深	水質	排水口
カスピ海	四三、八六九、〇方粁	一二六〇粁	四五〇粁(二)	二六米突	九四六米突	鹹	無
アラル海	六、七九六〇	三五〇	二八〇	四八	六七	鹹	無
バイカル湖	三、四九七五	六七二	一〇〇	四七〇	一二四八	淡	有
バルハシ湖	二、〇六〇〇	五四七	八五	二七五	一五〇	鹹	無
イシククル	五七八〇	二〇〇	五三	一五五四	?	淡	有
ココノル	五二〇〇	一〇七	六三三〇五〇		?	鹹	無
洞庭湖	五〇〇〇	一二〇	六〇		?	淡	有
鄱陽潮	四五〇〇	一三〇	五〇		?	淡	有
ウルミア湖	四四二〇	一三五	四六	一六九	?	鹹	無
ハンカ湖	四三八二	九六	八五	四九	四	淡	有
バン湖	三六九〇	一二五	四五	一六二五	一〇〇	鹹	無

クスクル	三三〇〇	一三〇	四八	一六二二		?	四	淡	無
ロブノール	二二〇〇	一〇七	二一	七九〇					
トンレサプ湖	一六〇〇	一二〇	四〇	?		一五	淡	有
ゴクチア湖	一三九九	七一	二七	一九三二		一一〇	淡	有
死海	九一五	七六	一七	(二)三九四		四〇〇	鹹	無

カスピ海

カスピ海は世界第一の大湖にして西、北、東の三面はロシアの地、南の一面はペルシアの地に依りて圍まる無口湖なり、面積は約四十四萬方粁ありて長さは一千二百粁を超え濶は四百五十粁あり、其の水面は黒海面に比すれば二十六米突低下し、水深は九百米突以上に達する處あるが中部は淺きものの如し、ボルガ、カラ、等の諸河此處に注ぐ。

地勢　本洲は高巒秀嶺に富むを以て、五大洲中、地勢最も高く大陸の平均高度は九百五十米突なり、而して高地と低地との配置に就きても一種特別の狀態を呈せり、アフリカ及びオーストラリアに於ては周圍に山脈を繞らし、中央に低處を包む一塊の臺地なるが、之に反してヨーロッパに於ては山地は半島狀を爲し凹處は海水の浸す所と成り、平野、臺地の如きは其の廣袤甚だ大ならず、然るにアジアの地貌を觀るに高原は殆ど皆相連續し、其の主要なるものに至りては廣袤殆てオーストラリアに讓らざるが如し、而して小アジアの三面とイランの南面とを除けば、其の他の高原は直接に海洋に接することなくして、廣漠たる平野は高原の周邊を圍繞するか或は其の間に侵入せり、此の特異の地貌は本洲をして風俗を同じうせざる數個の別世界の集合地たらしめたる所以にしてメソポタミア、印度及び支那の三世界相互の關係が疎なりしは實に本洲がヨーロッパ、アフリカ、等の大洲に對すると一般なりき。

山地

山地は本洲の中央に横たはれるパミル、チベット、イランの高原を始めとし東は天山山系、アルタイ山系、カムチャツカ山脈、等に存し、西はアルメニア、アナトリア(小アジア)の高原、カフカズ山脈等にありて海抜は二千米突以上に達し、面積は七八百萬方粁を占む。

パミル(キルギス語寂寥の義)高原は天山、崑崙、カラコルム、ヒンヅークシ、等の諸山系山脈の會合する處にしてパムイヴニアー(Bam-i-Duniah)(世界の屋棟)と稱せられ、北にカウフマン山(七〇一〇)、キジルアルト峠(四四四〇)、東にムスタハアタ

タ(七八六〇)、ウスベル峠(四六三〇)、南にチラチミル山(七七五〇)、パロギル峠(三七〇八)等を控え、西に向ひて谿谷を開けり、面積は僅に十萬乃至十八萬方粁に止まるも、平均海抜は四千乃至四千五百米突に達し、若干の湖沼を抱けるが此の地に發源する河流少なからず、冬季は積雪多く夏季には雜草の繁茂稍〻盛なるも樹木は稀にして野獸に乏し。

高地　高地は海抜二千米突以下五百米突以上の地にして沿海シベリア、モンゴリア、カシガリアを始めとし、漢土の北西部幷に南部、印度支那、マライ群島、デカンとアラビアとの二半島等に亘り、乾燥に失する砂礫の地たるダーナ、ルート、タクラマカン、ゴビ等の如き沙漠を抱括せるが、面積は本洲の半を超過すべしと云ふ。

低地　低地は海抜五百米突以下の地にして、本州の三分の一を占むるが北西シベリア、トルキスタン、メソポタミア、ヒンヅースタン、シヤム、漢土の北東部滿洲等に存在し、地味肥沃にして吾人の生存に最も適當する平野多からざるに非ざるも、亦氣温極めて低く生物稀なるツンドラ(凍土)あり、乾濕常なく樹木の繁茂を許さざるキルギス、バラバ等のステップ(草原)あり、濕氣缺乏して砂礫に蔽はるるスヤール、カラクム、キジルクム、アククム等の沙漠あり。

窪地　窪地は死海の沿岸、カスピ海の近傍に存するが、蒙古に於けるツルファン附近にも海面下五十米突に位するの地あるが如し。

此の如く本洲には山地、高地、低地、窪地の四種備はり、最高の山岳、最低の窪地ありて肥沃なる平野、磽确なる沙漠、大高原、大低地と共に趣味ある反對を現出せり。

氣温　氣候　本洲は概して温帶に屬し、南の方、熱帶にあるものは幷に北の方、寒帶にあるものは實に一小部分に過ぎず、大陸は極南の地たるプル岬と雖も赤道に達することなく、唯ソンダ列島の中央に於て此の線の通過するあるのみ、然れども本洲が宏大なる陸地を爲すと高低二地に特種の配置あるとに基づきて氣候は概ね大陸的と成り、寒暑の差激烈なるを免れず、即ち南東の地方及び小アジアの沿岸地方を除けば本洲は一般に海洋の温和なる影響を蒙らずして氣温變化の烈しきは實に他に其の比を見ず、ペルシア灣沿岸の地の如

きは北回歸線の北にあれども炎熱の酷烈なる點より云へば稀有の地と稱すべく、シベリアのベルホヤンスクに於ける寒暑の差は六十六度餘に達し、最低、最高兩温度の差は八十五度に及ぶと云ふ、然るにヨーロッパのスエリゲにある同緯度の海岸にては寒暑の差の平均は十五度乃至二十度なり、要するに年同温線圖の示す所に據れば本洲の東部は西部より氣温稍、低く、南部は北部に比し概ね高温なれども極寒極暑は極北、極南と容合せず。

次に氣壓に就きて一言せんに、夏季に於ける最低氣壓(七百四十八粍)はイラン、チベットの兩高原地方にあればアジアの北部及び中部の最多風は北東又は北の方向を呈し、西アジアにては北西印度幷に南支那にては南西又は南西若しくは南の風は濕風にして所謂季候風(モンスーン)なり、而して此等の風向中、南西若しくは南の風は濕風にして所謂季候風なるが其の他の風は乾風なり、又冬季にありては最高氣壓(七百七十八粍)は東シベリアに存在するを以て東部に北西又は北の風多く、南部に北東の季候風吹き荒む、其の他にありては風向區々たり、而して冬季の風は概して乾燥なりとす。

空氣乾燥に失し降雨の稀なるは西方地中海、紅海より、東方太平洋に達し、南はヒマラヤ山系に界せらるる北地にして、南西部は夏季に降雨期の存するあれども、其の間至りて短く、冬季と雖も雪線は五千五百米突を下る能はず、此の一帶の地は草原(ステップ)若しくは沙漠にして地味磽确なれば牧畜を以て最も適せりと云ふべく住民は甚だ稀薄なり、而して耕作は絶對に行ふこと能はざるに非ざれども、非常なる勞力に依るに非ざれば効果を奏し難し、若し人力の退くことあらんか國土は一朝にして沙漠沼澤の地と成ること西アジアの歴史の明示する所なり。

然れども眼を轉じて南東アジアの季候風地方を見よ、何ぞ情態の相反するの甚しきや、此の地方は夏秋に降雨多く年雨量の平均は四米突に達し、中にはチェラプンジの如く十五米突以上に達する處あり、此の如く降雨多量なるのみならず、氣温は炎熱に過ぐる嫌あれども激變の憂少なくして印度、ビルマ、シヤム、インダ列島より南東支那幷に日本の南部に至るまでの地に熱帶的植物の繁茂を來たし、又降水の多量なる爲の大河巨流多く、此等の河流は肥沃なる壤土

を輸送し來りて豊富なる平野を成生し以て全世界中人口の最も稠密なる地方たらしめたり、然るに時としては何の故ぞ、蓋し此の貴重なる降雨は毎年夏季の季候風が勢力を逞しうする場合に降下するものなるが、風向の變化、濕候の到來に多少の遲速ありて、温熱と降雨との關係即ち降雨の多寡と時機との適合ならざるが爲めなり。

天産　生物即ち動植物の分布上、本洲の大部は舊北區に、アラビアの南部はエシオピア區に屬せるが、印度半島、漢土の南部、印度支那半島及び附近の島嶼等は東洋區の中にありて、バリ、ロンボク及びボルネオ、セレベスの間を通過するワレース線はアジア、オセアニア兩洲の生物的境界線なり、而して生物の分布は氣候、地味等に關すること極めて大なるが故に、本洲に於ける動植物の配布は均等を缺きて偏重偏輕最著し、さればアジア全洲が人類の棲息地として均しく開明の恩澤に浴するの日は蓋し得難かるべし。

植物の分布に就きて本洲をヨーロッパ洲に比較せば多少退縮せるものあるを觀るが、本洲は六個の植物帶に分屬せしむるを得。

洲	嶺	葡萄	椰樹
アジア	北緯 六二度	北緯 四二度	三八度
ヨーロッパ	同 六八	同 五二	四二

北極帶は地衣、蘇苔の生存を觀るに過ぎざるツンドラ(凍土)地方なり、森林帶は「シベリアマツ」(Larix sibirica)「グイマツ」(Larix Dahurica)其の他の樹種より成りて概ね北極圈以南に位し、草原帶は本大陸の中央に於けるステップを總括し「サクサウル」(Haloxylon ammodendron)「ヂリスン」(Lasigrotis sprendens)の特産あり而して地中海沿岸帶の果樹に富める、東方帶の耕種的植物に豊富なるは言を要せず、殊に印度季候風帶は「ベニヤン」(Ficus iudica)「チーク」(Tectona grandis)「マングローブ」(Rhizophora mangle)或は香料植物「ココヤシ」、籐、竹類を始めとし植物の繁茂は盛を極む。

動物に就きては哺乳類に猩々(Phitecus satyrus)、青狐(Canis lagopus)、銀狐(Vulpes albus)、獅子、虎、豹、銀鼠(Putorius erminens)、黒貂(Mustela zibelina)、熊、象、犀、馴鹿(Tarandus randifera)、海獣等あり、鳥類に鸚鵡、金鶏(Phasianus pictus)、銀雉(Gallophasis nycthemerus)あり

rus)、孔雀、丹頂、鴛鴦等あり、此の他に鰐魚(Crocodilus biporcatus)コブラ(Naja tripudians)及び蟒蛇(Python tigris)等あり、魚鼈の類も亦多し。

鑛物の藏蓄は、未だ充分に豫察し難けれども頗る種類に富めるのみならず、數量に於ても多く他洲に讓らざるが如し、今主要なるもの二三を擧げんに、金銀、鉛、銅等はシベリアの山岳帶、其の他、各地に產し、錫はマラッカ半島、マライ群島に多く、金剛石を始めとし其の他の寶石、玉類は印度、印度支那等に出で、石炭は日本、印度、淸國、印度支那等に、石油はコーカシア地方を始めとし、バルマ、スマトラ等に多し、而して鐵に富めるは淸國なるに似たり。

人口　人口は八億二千萬乃至八億五千萬と概算せられ、世界の人口の過半に相當すれども、密度に於ては本洲(一九)のヨーロッパ洲(四〇)に及ばざること遠しとす、然れども人口の配布は山脈、河流、氣候、天產等の狀態に依るものなれば、場處に依りて粗密に非常の懸隔を生じ、南東諸國の住人はアジア全洲に於ける人口の百分の八十五に當りて、日本、淸國の南東部、印度等は地球上、人口の最も稠密なる地方とす、從ひて此の地方に於ける一方粁の住民の夥しきは他に多く比類を見ずして、東京、北京、カルカッタ、天津、漢口、廣州、ボンベー、杭州、上海等は其の一斑を表示するに足れり、而して他の部に於ては人口非常に稀薄にして一方粁に就き數人に過ぎざる處あり、殊にシベリアに於ては一人にも達せざる程なり。

人種　パミル高原は地勢上、東西アジアの境界を爲すのみならず、人類の繁殖上より見るも亦黃色人種とアーリア人種との境界たりしなり、然れども人類の發達は斯る天然の分界線を破りて互に侵入し、黃色人種の西アジア、ヨーロッパに往住するあり、アーリア人種の東アジアに來住するありて、世が開明に趨くに從ひ、各種民族の雜居する處と成れるは何れの地も同じきが如し、現今本洲には三種、一亞種の住民あり。

黃色人種は太平洋沿岸の全部を占め、其の境域は西方に趨くに從ひて狹窄し、以て本人種の居住區域を二部に分割せり、其の北部はツングス、東シベリア、西シベリア等の數群を包括し、其の南部幷に中部にあるものはモンゴル、トルコ、日、韓、漢、チベット、印度支那等數群に分かるるが、黃色人種の一部はカ

白種

スピ海の西なるコーカシア又は小アジアの地に於て他の人種と共に雜居せり、黄種に屬するものの總計は五億七千五百萬にして居住區域は本洲の三分の二に達すと云ふ。

白色人種には二派あり、アーリア派は南部に多くしてヒンド群、イラン群は印度の平野よりイラン高原、アルメニア高原に至るまでの地を占む、而して印度に居住するものは他人種の混化を受けたるが爲めに極めて不純粹なる種族を爲す、又スラブ群はシベリアの中部幷に中央アジアに侵入し來りて狹長なる一帶の地を占め、以て二派の黄色人種の間に棲息せるが、其の數は五百萬以上に達すべし、此の外、小アジアには少なからざるギリシア人、レバント人あり、各地にイギリス人、フランス人、ドイツ人、等あり、又シリア、アラビア幷にエウフラトの流域にはセム派のアラビア人、ユダヤ人ありて白人に屬する住民の總數は二億五百萬とす。

黒種

黒色人種はネグリト、パプアの二群に分かれ甲者はアンダマン列島、マラッカ半島、フィリッピン群島等に居り乙者はマライ群島に住す。

ジアム人

アンナム人（男女）

人種	派	群	種	族
モンゴリア支那	モンゴル	モンゴル	モンゴル	ハルハ　チゥメヅ　チァハル
			カルムク	ブリアト　ハザレー
		トルコ	ヤクート	タランチ　マチン　ボルー　ウイグル
			キルギス	パシキル　チゥブァーシゥ　ウズベク
			トルコマン	コーカシア　タタル
		ツングス	ラムート	
			オルチァ	オロク　オロチォン　マネグル　ビラル
			ゴルド	オロチゥ　ソロヌ　ダウル　滿洲
	日韓	日本	朝鮮	
	漢那	漢	福老　客家	

マライ亞種はマラッカ半島及びマライ群島に住してインドネシア、マライの二群を爲せり。

色	北方		チベット	チベット　ドラービダ
			印度支那	アンナム　タイ　フメル　バルマ　ラハイン
			アー	チャクチ　コリアク　ユカギル　ギリアク
				ナムオロ　カムチャカダル
	東シベリア			サモイイェド　イウラク　ソイオト　ウリアンハイ
	西シベリア			オスチアク　ボグル
	フイン		フイン	
白	アーリア		ヒンド	ヒンヅー　ラヂプト　カシミル　カフィル
			イラン	タジック　クルド　アフガン　バルチ　オセト　アルメニア
			ヘレン	ギリシア
			ラテン	フランス　イスパニア　ポルトガル
			ツートン	ドイツ　オランダ　アングロサクソン
			スラブ	大ロシア　小ロシア
			アラビア	アラビア
色	セム			

			パプア	シリア　ユダヤ
黒色	ネグリト		パプア	(テニムベル　セラム　ブル　チモル　フロレス)
			ネグリト	ミンコピー(アンダマン)　アエタス(フィリッピン)　サマング(マラッカ)
マライ	インドネシア	バッタス(スマトラ)　ダヤック(ボルネオ)　ブギ(セレベス)		
		チングイアヌ(ルソン)　マノボ(ミンダナオ)　蕃人(臺灣)		
	マライ	マライ　タガル　ビサヤ　ビコル		

宗教　本洲は優等なる宗教の淵源地なり、現今行はるる主要なるものは佛教、ヒンド教、マホメット教、キリスト教、ユダヤ教の五とす、佛教は釋迦牟尼を以て教祖とし東部幷に中部の黄色人種は概して之を信奉し、教徒の數は五億と計上せらるるが、或は二億五千萬なりとも稱せらる、ヒンド教即ち新バラモン教は往古のバラモン教を改造せしものにして印度の住民の大多數(一億九千萬人)の歸依する所たり、ユダヤ教はモセスの遺訓を傳ふるものなる

ヒンド教

ユダヤ教

が數徒は五十萬に過ぎずして各地に散在す、キリスト敎はヤソキリストの起せし敎なるが其の信者五百萬は各地に散居せり、マホメット敎即ちイスラム敎はマホメットに始まりアジアの西部幷に中部を占領して尙は印度地方及び支那の北部に侵入し、マラッカ半島、マライ群島にも行はれ、敎徒(一億三千萬)は佛敎、ヒンド敎に次ぎて多し、以上の外に北部に於ける黃色人種中にはシァマン敎を迷信するもの少なからず、上記の諸敎に就きて佛敎と云ひキリスト敎と稱するも幾多の宗派に分かるるは人の能く知る所なるが、マホメット敎と雖、四派に分かれ、其の一派にして三十餘門に分かるるものあり。

キリスト敎
マホメット敎
シァマン敎

分國　本洲に於て獨立國と稱すべきは我が日本の外、淸國、シァム、アフガニスタン、ペルシア、オマーン、ネパール、ブータンの七國に過ぎずして、其の他はイギリス、ロシア、トルコ、フランス、オランダ、ポルトガル、ドイツの如きヨーロッパ諸國及びアメリカ合衆國の領する處なり。

分國表

邦土地	積方粁	人口	都邑	付記
日本帝國	六七、一五七、二	六四、一二、八九六、三	九五 東京	一二二 東京
				四六 京城、臺北、豐原
				一四一 旅順
淸國	一一二、八八八、〇三、三〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	三〇 北京	四六七三、二八七六
シァム國	六三、三〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	九 バンコク	一二九三、二六三〇
ブータン	三、四〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	七 タシスードン	四四、五四一四
ネパール	一五、四〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一九 カトマンヅー	三一六二
アフガニスタン	五五、八〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	九 カブール	三八、二四一六
ペルシア	一六四、五〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	六 テヘラン	二八、五九九四
オマーン	一九、四二〇〇	一〇〇、〇〇〇	五 マスカット	
無所屬アラビア	二四七、二九〇〇	一九五、〇〇〇	〇、八	
アジアトルコ	一七六、六八〇〇	一六八九、八七〇〇		
◎サモス	四六八	五、四八三四	一一七 ワチー	四六七三、二八七六
◎キプロス	九六〇二	二三、七〇二二	二五 ニコシア	一二九三、二六三〇

本領土
新領土
關東州租借地

アジアロシア	一七三三、七五四〇	二四八一、六七八二	一	
コーカシア	四七、三〇二六	九二八、九三六四	二〇	チフリス
中央アジア	三六四、七〇五七	七七四 六七一八	二	タシケンド
シベリア	一二四四、六〇〇〇	五七三、〇七〇〇	〇、五	
ブハラ	二〇、五〇〇〇	一二五、〇〇〇〇	六	ブハラ
ヒバ	六、〇〇〇〇	八〇、〇〇〇〇	一三	ヒバ
カスピ海	四三、八六八八	—	—	
アラル海	六、七七六九	—	—	
イギリス領	五一九、一七〇〇	三、〇二〇三、五〇〇〇	五八	
印度帝國	四八二、六一〇〇	二、九五二一、三〇〇〇	六四	カルカッタ
セイラン	六、五九九三	三八一、二九三一	五八	コロンボ
マルデバ	三〇〇	三、〇〇〇〇	一〇〇	
海峡殖民地	三九五二	五九、六四八六	一五一	シンガポール
マライ保護國	七、〇〇〇〇	八三、八一五一	一二	
ジオホル	一、八〇〇〇	二〇、〇〇〇〇	一一	
北ボルネオ	八、〇五六一	一六、〇〇〇〇	二	サンダカン
ラブアン	七八	八四一一	一〇八	ビクトリア

ブルネイ保護國	二、一〇〇〇	一、〇〇〇〇	〇、五	
サラワック保護國	一〇、三二二一	五〇、〇〇〇〇	五	クチン
香港	七九	三六、五〇〇〇	—	ビクトリア
香港租借地	九七四	一〇、二二五四	一〇三	
威海衛租借地	七三八	一三、〇七九二	一七八	
其他島嶼	……	……	……	
オランダ領	一五二、〇六二八	三七四九、四〇〇〇	二四	バタビア
フランス領	六六、四二〇〇	一九一九、九一七三	二九	
印度支那	六六、三七〇〇	一八九二、五九八九	二九	ハノイ
印度	五〇九	二七、三一八五	五四五	ポンヂシェリー
アメリカ領	二九、六三一〇	七六三、五四二六	二七	マニラ
エジプト領	五、九〇〇〇	九三〇〇	〇、一	
ポルトガル領	一、九九一八	八一、〇〇〇〇	四〇	
マカオ	一二	七、八六二七	—	
チモル＝カンピン	一、六二四八	二〇、〇〇〇〇	一二	
印度	三六五八	五三、一七九八	一四五	ゴア

ドイツ領（膠州灣租借地）	五〇一	一二、〇〇四一	二一七	青島
合計	四四三七、〇一六四	八、二二九七、四八七八	一八	

清國

位置 清國（國人は中華、華國、中國と云ふ）は支那と通稱せらる、アジア洲の東部より起りて中央部に達する一大帝國なり、其の極南の地は海南島の南端にして北緯十八度十三分に當り、其の極北の地は蒙古のイルキクタルカック山脈の北端北緯五十六度四十分なり、又極西は新疆の西端、東經凡そ七十三度にありて極東は黑龍江とウスリ江との相會する點、東經百三十五度なり。

境域 清國の形狀は東部の海岸線を底としパミル高原の東邊ムスタハアタ山を頂點とする所の一の孤狀線三角形なり、北西及び北は天山、アルタイ等の山系幷に黑龍江に依りてロシアのシベリアに境し、東はウスリ江不咸山脈、鴨綠江、等を挾みてロシアの沿海州及び我が保護を受くる韓國に隣り、黃

形狀

面積

海岸線

海、東海に瀕す、又南は南支那海を受け、フランス領印度支那幷に印度帝國のバルマに連なり、南西はヒマラヤ山系、カラコルム山脈、パミル高原、等を隔てイギリス領印度、ブータン、ネパールに接し、西はロシアの中央アジアに限らる、廣袤は南北凡そ三千五百粁、東西凡そ五千二百粁あり、面積は其の計數を一にせざるも約一千百十四萬方粁とすればイギリス、ロシア、フランスに次げる大國にして、アジア洲の四分の一に當れり。

海岸 清國は邦土の廣大なるに拘らず、海洋を控ゆる處は東部のみにして、港灣、海峽、等は悉く太平洋に屬せり、而して沿海には北海、黃海、東海、南海、等の名稱あり、其の海岸は概して屈曲に乏しきを以て海岸線の發達は充分なりと云ふを得ざるが延長は三千五百粁に過ぎざるべし、彎曲の大なるものは北部に存すれども良港と稱すべきものに乏しく、中部の東海幷に福建海峽に瀕する海岸には顯著なる出入を見ざるも亦佳良なる港形を呈せざるに非ず、又南部の南海に接する海岸にありては廣東灣、其の他、二三の小灣を見るのみなりとす。

海灣
海峽
半島
地角
島嶼

北海(渤海)　遼東灣　直隸灣　萊州灣
黃　海　烟臺灣　威海衛灣　桑城灣　膠州灣
東支那海(東海)　揚子江口　杭州灣　寧波灣　三門灣　臺州灣
　温州灣　南關灣　三沙灣　福州灣
　福建(臺灣)海峽　興化灣　泗州灣　泉州灣　廈門灣
南支那海(南海)　詔安灣　海門灣　廣東灣　廣州灣　東京灣
海峽(扇列島海峽　福建(臺灣)海峽　海南(瓊州)海峽
半島(遼東半島　山東半島　雷州半島
地角(旅順角　長山角　山東(成山)角　揚子角　寧波角　冠頭角
島嶼(桃花島　光祿島　長山列島　廟列島　崇明島　舟山列島(舟山普陀山)
　金門島　海壇島　廈門島　南澳島　東海島　徇州島　海南島

山誌　世界の屋棟と稱せらるるパミル高原幷にカラコルム山脈より起る數條の大山脈は開きたる扇の骨の如く或は北東に行き或は東に向ひ又南東に走り、以て此の廣大なる支那の國土を抱括せるが、其の北東に行くものは天山山系、アルタイ山系の一派にして、其の中部に於けるものは崑崙山系に屬し、其の南東に走れるものはヒマラヤ山系なり、今左に一表を作りて主要なる山脈と顯著なる山岳とを列記せり。

パミル(巴密爾)高原(ウスベルハアタ(タガルマ山)七八六〇)
天山山系(天山山脈ハンテンリ(七三四〇)　ボロホロ山脈デスメゲンウラ(六〇〇〇)
　エデメク山脈ボケドウラ(六〇〇〇)
アルタイ山系(アルタイ山脈(ツアサクツボグド(四三〇〇)
　サヤン(塞楊)山脈(タンヌ(唐努)山脈　ハンタイ山脈
　　(ハンアイ(杭愛)山脈　ケンテイ(肯特)山脈
西崑崙(キリアン山脈(アクメジッド越(三一七〇)
　崑崙山脈(ヤンヒ越(四八八〇)　イルキクタルカック(噎爾奇克達爾嗄克)山脈
　　(ナイケハン峠(五九六一)　ツグスダバンタハ山脈
　　(サンヒダバン峠(六七〇〇)　アルチンタハ山脈　アッカタハ山脈

崑崙山系
- 中崑崙
  - 北脈　南山山脈　ブルハンブッダ（トライ峠四七六六）　西傾山脈
  - 中脈　積雪山脈　マルコポロ山脈
  - 南脈　バヤンハラ（巴顏哈喇）山脈　ダンラ（當拉）山脈
- 東崑崙
  - 北脈　大行山脈　恒山山脈恒山　燕山山脈　七老圖山脈
  - 南脈　岷山山脈
    - 秦嶺山脈太平山（三三五〇）　伏牛山脈嵩山（二五〇〇）
    - 欄山山　大巴山脈
- 陰山山脈ハラオロイ山（二六〇〇）
- 興安山脈　大（西）興安山脈　伊勒呼里山脈　小（東）興安山脈
- 長白山系　山東山脈泰山（一五四〇）　遼東山脈　不咸（長白）山脈
- 横斷山脈
  - 雪山山脈　他念他翁山脈　雪嶺山脈
  - 素龍山脈　大雪山脈

支那山系
- 苗嶺山脈　霧露結山脈　鳳嶺山脈　牛塘山脈
- 大度嶺山脈　八十里山脈衡山　萬洋山脈
- 仙霞嶺山脈天台山

ヒマラヤ山系エベレスト山（八八四〇）チアマラリ山（七九〇〇）

支那山系は一に南山山系と云ふ、漢土の南東部、八十萬方粁の地に亘る山岳、丘陵の總稱にして、地皺の方向は大體に於て南西より北東に走れるも、宏大なる山脈、山彙の存するなく、起伏凡庸にして海拔は五百乃至七百米突に過ぎず、最高峯と雖も二千米突に達するものなく、各處に於ける峠の如きも概ね交通に困難を來たすに至らず、又東海の沿岸は鋸齒狀を呈して數多の港灣を抱けるが、本山系は海を隔てて遙に日本群島の中央に達すと云ふ。

水誌　清國は土地廣大にして高巒秀峯に富めるを以て長流、巨河に乏しからず、特に降雨積雪の多量なる地方に發する江河は多量の水を輸送するを以て灌漑の利と交通の便とを與ふるもの甚だ多し、而して山脈の趨勢と流域の狀態とに依りて江河を類別するときは北極洋、太平洋、印度洋の三斜面と閉塞地とに屬し、北極洋斜面、印度洋斜面に屬すものは概ね其の上流のみ清國内にあるを見る。

北極洋斜面
- ウルング河　黑イルチシ（也兒的石）河　イェニセイ（葉尼塞）河
- フアケム河　セレンガ（薛靈哥）河エデル河、エケゴル河、オルホン河
- ベイケム河

太平洋斜面
- 黑龍江（松花江、烏蘇里江）　豆滿江　鴨綠江　遼河（東遼河、渾河）　欒河
- 白河（潮河、永定河、猪龍河、滹沱河、衛河）　黃河（洮河、清水河、烏蘭木倫河、無定河、汾水、渭水、洛水）
- 淮河（沙河、渦河）　揚子江（無量河、雅龍江、泯江、沱江、赤水河、嘉陵江、烏江、澧江、沅江、湘江、漢江、贛江）
- 錢塘江　甌江　閩江　韓江　珠江（西江、北江、東江）
- 紅河　瀾滄江（メコンの上流）

印度洋斜面
- 怒江（サルヰンの上流）　龍川江（イラワヂの支流）　ザンポ（藏布）河
- サトレヂ河（上流）　インドス河（上流）

閉塞地
- タリム（塔里木）河（ホタン（和闐）河、カシガル（喀什噶爾）河、ヤルカンド（葉爾羌）河）　イリ（伊犁）河

黑龍江

黑龍江（滿名をサハリンウラ、蒙古は一にアムル（蒙古語のムレン（江を訛れるなり）と稱す、源流の一名をカラムレンと云ふ）なるシルカ（什勤喀）河はシベリアのソホンド山より發するインゴタ河と蒙古のケンテイ山脈より出づるオノン（敖嫩）河との合流より成る、第二の源流はケンテイ山脈の南面に發してケルレン（克魯倫）河と稱し、ハルハゴル井にブイノルの水を提げ來るウルスン（額爾順）河とフロン（呼倫）湖に於て相會しダライゴルと成りて流出し、大興安山脈よりクルヅルの名を以て出でたるハイラル（海拉爾）河を合はするオルクナ（額爾古納）河なり、支流の中、最著しきは松花江、土門河、伊通河、嫩江、拉林河、呼蘭河、牡丹河、呑江とウスリ（烏蘇里）江、松阿禪河、大穆稜河、諾羅河なりとす。

遼河

遼河は滿洲第二の河流たり、上流をシラムレン（西喇木倫）と云ひ、ロハムレン（老哈木倫）を合はせて西遼河と成り、東遼河を容れ、沙漠の地を去り南東流して柵內滿洲沃野の地に入り始めて遼河と稱す、鐵嶺の附近に於て哈達河を携へ來る葉赫河に會し流向を南西に轉じ、太子河を伴ひ來る渾河、養息牧河、等を合はせたる後、數回の屈曲を爲して遼東灣に趣けり、三米突半に昇る潮汐（ヤンシム）を利用すれば西遼河以上にも溯航し得ると云ふ。

白河

白河は陰山山脈の南方に起る獨石水を源流とす、通州附近を過ぎたる後、潞河、北運河、北河の名を得、天津の近傍よりは更に海河と成り遂に直隸灣に趣く、下流の地勢たるや平坦にして傾斜極めて緩なれば流向に屈曲多く排水に欠くる所ありて河水の汎濫を免れず、本流は源委通じて四百五十乃至五百粁と概測せられ、河幅は天津に於て一百米突內外にして下流百三十粁は通舟の便あり。

黃河

黃河は「ルース」（黃土）の堆積せる地方を流れ河水濁濁なるが故に此の名あり、一大彎曲を爲して河套を繞り平坦なる沙原を流るるや水勢漸く散漫し河水愈〻黃濁を加ふ、本河は灌漑上又は交通上に多少の利便を與へざるに非ざれとも、水勢の急激なると河道の一定せざるとに依り大害小益の河流たるを免れず、實に黃河の河道は二十五世紀間に十數回の變更を爲したる後、開封を經て南東に流れ、一派の水は數湖を出入して揚子江に達せしが、一八五一年の洪水の際、流向に變移を生じ數年を

楊子江（平善覇附近）［湖北省］

山岳と針葉樹林［雲南省］

揚子江

西江

經て現今の流向に確定せり。

揚子江は單に江と稱せらる、世界屈指の巨流にして水源より河口に至る距離は五千粁に達するも、其の灌域百八十萬乃至百九十四萬方粁は全然清國に屬すること黄河の如し、然れども遠く青海地方に發源し西藏の東部を經て漢土に入り八省の地を流過するが故に源委に通ずる一定の名稱なく、ムルイウス、ブリチウ、金沙江、白水江、大江、長江、揚子江、等枚擧するに遑あらず、河幅は重慶に於て七百米突、漢江との會點一千百粁に二千四百米突あり、水深は江寧附近に四十米突内外なるが江口に近づくに從ひて江床は少しく隆起して沙洲の成生を促すが如し、水量は漢口に於て年平均一萬八千四百五十八立方米突なり、而して一二月の頃に最も低く七八の兩月を最高とし、潮汐は大潮に際して河口を距る八百五十粁の鄱陽湖に達す、又江水は毎年全流域より一米突の萬分の一の地を削り來りて河口に於ける一百平方米突の面積に層厚二米突の泥土を敷く割合なりと云ふ。

西江は雲南府の北東百三十粁の地に發して八達河と稱せらる、次に南盤江、紅水と呼ばれ、廣東省に入りて始めて西江の名あり、三水附近にて運河に依りて北江に通じ三角洲に入る、本江は南流して最西の派流大西江を爲し、右岸より來る新會江と共に數派を爲して更に別個の三角洲を爲す、而して北江は南東に流れ廣州府の前を過ぎ東江に會し南流して珠江と成り仃伶灣に趣き西江と共に幾多の島嶼を挾みて南支那海に通ず、本江は源委通じて一千八百粁なりと云ひ流域の如きは四

十萬方粁と概算せらる。

沼湖　清國は邦土の廣濶なるに拘らず、著大なる湖澤を有せず、然れども其の數は少なからずして淡水なるあり、鹹水なるあり、或は無口のものあり。

北東部　ハンカ(興凱)湖(四九米突)　フロン(呼倫)池　ベイル(貝爾)池

北西部　クスクル(庫蘇庫兒)湖(一六二二)　ウブサ(烏布薩)湖(八一〇)　カラノル(哈拉泊)　イクアラク湖(伊克阿拉古泊)(一一七〇)　バグラチゥクル(九〇〇)　ロプノル(羅布泊)七九〇)

南東部　洪澤湖　高郵湖　寶應湖　太湖　鄱陽湖　洞庭湖

南西部　ココノル(庫々諾兒)(三〇五〇)　テンリノル(騰里泊)(四六三〇)　パルチ(巴爾齊)湖(四二一〇)　マナサラワル湖(四六〇〇)

洞庭湖

洞庭湖は清國第一の大湖にして、長さ百二十粁、幅六十粁あり、五千方粁の面積を以て湘江、沅江、資水、澧水、微水、等を容れ湖口に依りて揚子江に通じ、相關連して交通灌漑の便を與ふること甚だ多し、湖中には君山、石門山、明山、君山、等の島嶼の出現せるあり、殊に君山最も著名にして高さ六百米突乃至九百米突に達し冬季春初、揚子江の水漲るるに當りては陸地に接續するに至る。

鄱陽湖

ココノル

鄱陽湖は四千五百方粁の面積を有す、長さは百七十餘粁にして幅は九粁乃至三十五粁、周圍は三百二十粁と臆測せらる、湖中島嶼多く北部は風景絶佳なり、湖上は風波の憂少なからずして漁舟、運船は沖合に出づること稀なりと云ひ又冬季には湖水乾涸して泥土を露出するに至ると云ふ、

ココノル(庫々諾兒)即ち青海は海拔三〇五〇米突の地にあり、ブハインゴル、其の他の河流を受くれども出水口なきが故に鹹湖を爲し、水深一八米突に過ぎざれども水色青綠を呈するが故に湖の周圍には峰巒疊嶂亘して風色明媚なり、湖上に二小島あり。

地勢　西部幷に北西部は七百五十萬方粁の面積を有して帝國全土の五分の三に當り、一大高原を爲して周圍には高山秀嶺に富める山脈を繞らせり、ヒマラヤ山系の北面にありては平均四千米突以上の高臺を爲せるが、數個の階段を爲して漸次に低下し、戈壁の沙漠(濬海)、蒙古の草原と成れば一千一百乃至九百米突に下れり、殊に天山山系の北方なるヅンガル盆地の如きは六百米突に達せざるなり、又北東部幷に南東部にありては中央の臺地より分派せる數多の並行山脈は高地より流れ來る諸水の灌域、谷地を形成し、黄河と大江との流域は殊に廣大なりとす、而して南東部は殆ど漢土の全部に當りて黄河の流域に當れる北、漢(俗に北清と云ふは一般に黄土即ち「レース」に

蔽はれ肥沃の地に乏しからず、中、南清と稱するは當らず　は揚子江の勢力を逞しうする處にして山岳、谿谷多く、平地廣からず、地貌極めて錯綜せり、南、廣東地方も稱すは起伏に富み平地少なし、

氣候　當國の境域甚だ廣大なれば其の氣候の一樣ならざるは勿論なれども、元來海洋に瀕すること多からざるのみならず、又中央アジアの高地に關連せるを以て、自然の結果として大陸的ならざるを得ず、されば氣候は概してシベリア的の凛烈候に非ざれば、熱帶的の炎暑候にして中和を得たる好氣候の地は殆ど缺乏せるに似たり、而して本帝國の外藩部幷に黄河以北の地は温度の變化も亦甚だ急激なるが、空氣は乾燥にして降雨は春夏の候に多からずと雖も冬季の降雪は少なからずして河水は凍結するを常とす、又此の地方は風多くして風力强く戈壁沙漠にては殊に甚しく、烈風屢ゝ起りて砂礫を飛ばし白晝爲めに咫尺を辨せざるに至る、大江幷に南部河江の流域は熱帶或は亞熱帶に屬するを以て夏季には酷暑を覺ゆれども冬季は温暖にして氷雪に苦めらるることなく春季は降雨多けれども秋季は無上の好氣候なり、

然れども立春、立秋の頃に於て季候風が方向を變する際には大風と稱する旋風の起ることありて國土に損害を與ふること少なからずと云ふ。

天産　清國は土地廣大にして山岳多く河流少なからず、高原あり沙漠あり、草原、森林あり、嚴寒の土、炎暑の地の存するあり、是れ各種の生物をして此の地に現出せしめたる所以なり、植物に就きては北部并に西部の地には松柏科に屬するもののあれども概して草木に豐富ならず、之に反して南部、東部は濕潤にして温暖なる天候の下にあれば植物は大に繁茂して其の種類も亦極めて多きが如し、されば單に著名なるもののみを擧ぐるも紫檀、黒檀、桑樹、漆樹、竹類、籐、沈香、丁香、龍眼、柑類、橄欖、甘蔗、香蕉、鳳梨、蕃薯等あり、其の他、米、麥、高粱、玉蜀黍等の穀類并に綿、茶等の産多し、動物は北部に熊、虎、豹、駱駝、四不像(cervus davidianus)、騾、驢、等あり、南部に猿、犀の類あり、西部には麝羚羊あり、其の他、牛、馬、水牛、山羊、綿羊、豚、等は中央并に北西の臺地に産す、又鳥類は南部に多くして殊に彩鷄(Phasianus picta)、銀雉(Gallophasis nycthemerus)、鸚鵡、孔雀、鴛鴦等を以て顯著なりとす、鑛物には金、銀、鐵、銅、錫、鉛あり、石炭、陶土、石材、石油あり、特に水

晶、斐翠、玉、其の他、數種の玉類の産出するありて古來有名なり。

沿革　太古漢族は黄河の流域に來りて繁殖し漸次に國を組成せしが、其の領する處は未だ廣からず、秦(西紀前二五五―二〇六)に至りて漢土の大部より滿洲、印度支那に至る地を領し、前漢(前二〇二―後八)は四川省の南西部、雲南等なも從へ、後漢(二五―二二〇)の代には國威は遠く「パミル」の西に及べることありき、降りて唐(六一〇―九〇七)の世には版圖擴張して北は「シベリア」の「イエニセイスク」に逢し、東は朝鮮半島に跨り、南は印度支那に及び、西は「チベット」、「カシミル」、「ペルシア」の北東部、中央「アジア」に至る地を含むに至れり、而して匈奴の衰へし後は鮮卑、柔然、突厥、等の諸夷著はれしが、唐末の頃より契丹即ち後の遼(九一六―一二五)隆盛に趨きて日本海より天山山系に逢するの地を占め、南下して五代(九〇七―九六〇)、北宋(九六〇―一一二七)を苦めたり、遼亡びて金(一一一五―一二三四)、南宋(一一二七―一二七九)は暑、淮水を境として南北に相對し西には西遼(一一二四―一一二五)ありしが、成吉思汗出でしより蒙古は切に征伐に從事したりされば蒙古人の盛時はアジア大陸の大部及びヨーロッパの南部に及びて元(一二〇六―一三六八)は其の四汗國と共に空前の境土を有せり、然るに元も漸く瓦解して漢土に明(一三六八―一六四四)興り、滿洲の愛親覺羅氏之に代りて國號を清と改め臺灣、西藏、外蒙古、青海、新疆、等なも從へ、安南の事に干渉し、「ネパール」の「グルハ」を伐ちて其の梅盛に逢せり、然れども乾隆の後、内亂外患屢ゝ生じ阿片戰爭(一八四〇―四二)に依りて香港を「イギリス」に割き、愛琿條約(一八五八)に依りて黒龍江以北の地を失ひ、北京條約を結びて九龍半島の一部を「イギリス」に讓り又烏蘇里江右岸の土を「ロシア」に與

へ、後、フランスに破られて安南を放棄し、明治二十七八年の役（一八九四―一九五）には臺灣を日本に割讓し、戰後列强に威嚇せられて數區の租貸を許諾し、事實上、其の領土の幾部を失ひたり、其の後義和團の亂（一九〇〇）に際してロシアは清國祖宗の起れる滿洲を占領したるも日露戰爭（一九〇四―一〇五）の結果、關東租借地が日本の手に移りたるの外、滿洲に於ける鐵道の敷設、鑛山採掘、等の利權が日露の間に分たれしのみにて清の邦土は安全に保持せらるるに至れり。

人口　清國は土地の廣漠なるのみならず、人口も亦極めて多し、然れども其の計數は甚だ不正確にして或は三億三千餘萬に過ぎずと云ひ又は四億二千餘萬と稱せらるるが世界總人口の五分の一以上に達せりと爲すは妨なきに似たり、而して本帝國を組織する各部に就きて住人の配布を考査せんか、非常なる差異の存するあるを見るべし、或は稠密にして一方粁に就き二百人以上を有するあり、或は十方粁に就き僅に六七人を有するに過ぎざる部分あり、殊に戈壁沙漠若しくは西部の山地は殆ど無人の地たり。

清國全部	一一一三、八八八〇方粁	三、三〇一三、〇〇〇〇人	三〇方粁ニ付
漢土（十八省）	三八七、〇〇〇〇	三、一九五〇 〇〇〇〇	八二
直隸	三一、四八〇〇	一八六〇、〇〇〇〇	五九
山東	一四、九六〇〇	三三一〇、〇〇〇〇	二二一
山西	二〇、七三〇〇	九九〇、〇〇〇〇	四八
河南	一七、三五〇〇	二〇一〇、〇〇〇〇	一一六
陝西	一九、九三〇〇	七九〇、〇〇〇〇	四〇
甘肅	三五、一四〇〇	一〇五〇、〇〇〇〇	三〇
四川	四六、一〇〇〇	四五二〇、〇〇〇〇	九八
貴州	一五、七二〇〇	三四〇、〇〇〇〇	二二
湖南	二〇、〇五〇〇	一五二〇、〇〇〇〇	七六
湖北	一八、一四〇〇	二八三〇、〇〇〇〇	一五六
江西	一七、九五〇〇	二〇五〇、〇〇〇〇	一一四
安徽	一四、二八〇〇	一八五〇、〇〇〇〇	一二九
江蘇	九、九三〇〇	一八三〇、〇〇〇〇	一八四
浙江	九、一二〇〇	一一三〇、〇〇〇〇	一二四
福建	一一、一二〇〇	一九六〇、〇〇〇〇	一七六
廣東	二四、三〇〇〇	二二二〇、〇〇〇〇	九一
廣西	二一、七三〇〇	五二〇、〇〇〇〇	二四
雲南	三九、六七〇〇	一一七〇、〇〇〇〇	二九

滿洲(東三省)	九三、九二八〇	五五三、〇〇〇〇	六
蒙古	二七八、七六〇〇	一八五、〇〇〇〇	〇、六
新疆	一四二、六〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	〇、七
西藏(圖伯特)	二一〇、九〇〇〇	二二五、〇〇〇〇	一

前表中、漢土の人口は最近の調査に從へば四億七百七十三萬七千三百五人なりと稱せられ、山東の方粁の人口は百七十人を以て事實とすべしと云ふ、而して一九〇五年に於ける開港在留外人の數は三萬八千一人にして日本人(一、六九一〇)、イギリス人(八四九三)、アメリカ人(三三八〇)、ポルトガル人(二四六二)、フランス人(二一四三)、ドイツ人(一八五〇)を主なるものとす。

種族　國土の廣大なる人口の饒多なる支那の如き國にありては住民は勢ひ單一の人種なる能はず、而してカシガリア、ヅンガリア、其の他開港、開市の地には少數の白色人種ありと雖も大體に於ては黃色人種に屬し支那とモンゴリアとの二派に分かれ更に漢土、チベット、印度支那、モンゴル、トルグ、ツンコスの六群と成るを見るなり。

- 支那派
  - 漢土群　〔漢　福老　客家
  - チベット群　〔チベット　ボド　レプシア　タングト　シーファン(西蕃)、等
  - 印度支那群　〔タイ　ミアオ(苗子)　バルマ　ルツェ　リス　ペイ　パペ
- モンゴリア派
  - ツングス群　〔オロチォン　マネグル　ビラル　滿洲
  - モンゴル群
    - モンゴル　ハルハ(喀爾喀)　チゥメヅ　チァハル(察哈爾)
    - カルムク(加爾瑪克)　ホシォト(和碩特)　ヅンガル(準噶爾)　トルゴット(土爾扈特)　デルベード
  - トルコ群　〔キルギス　ウイグル

漢族は清國の住民中にて最優等に位し智力に富み着實にして堅忍なる勤勉にして儉嗇なる實に天下無比なり、然れども有爲高尙なる理想に乏しく、家あるを知りて國あるを知らず、安逸の中に死を俟つも、有事の際に命を捨つる能はず、徒に祖先の遺蹟を重んじて眞に子孫の繁榮を計らず、娛樂を熱望して止まざるも、苦境に沈淪するを厭はず、要するに古來の慣習を保守し、又進化發明せんとするの念慮殆どなきが如し、而して其の特質、技能の如きも地方に依りて差違あるを免れざるなり。

ツングス

モンゴル

苗族

ツングス(通古斯)群。は其の性概して驍勇にして騎射を好み、古より女眞、渤海、金、清、等の名の下に近隣の諸國を征服したり、然れども漁獵と牧畜とに從事するの外、殆ど他の生業を營まざるが如し、此の種の人民中には移住して漢土に駐在するものあれども概ね東三省に住し其の數は一百餘萬に過ぎざるべし、本群中の最も進歩せるものは滿洲人なるが漢人の同化する所と成れり。

モンゴル(蒙古)群。は其の性概ね勇悍にして能く勞に堪え猜疑の念少なく極めて質朴なり、主として遊牧を好み、居住地は甚だ廣けれども人口寡少にして總數は四百萬に達せざるべし。

苗族。は一に南蠻子と云ひ又苗子と云ふ、漢人の所謂化外の民にして漢土の南西に於ける蕃民の總稱なるが、最も多く住するは廣西、貴州の境界たる南山山系地方なり、性質慓悍にして掠奪殺戮を事とし屢、附近の漢人を苦しましむと稱すれども誇大に失するの疑あり、此の種族は漢族に先ちて漢土に住せしが生存競爭の結果今の地に退けられしものにして人類學上は確說なきもタイ族に屬すと認めらる。

前記の外にヤオ(猺)、ロロ(猓玀)、モソ(麽些)、リス(力些)、ルツェ(潞子)等文化の低き住民の存するあり。

言語　言語は種族に依りて差異の存すべきは勿論なり、而して漢族の言語は所謂單音語にして一開單簡なるが如きも、實際に使用するに當りては極めて不便にして明瞭を缺き、漢族の多數なると國土の廣大なるとの爲に言語に著しく異同を生じ遂に主要なるもののみを擧ぐるも五十餘種あるを致せり、其の北京語は直隸、山東、山西、陝西、等の地方に行はれ、南京語は江蘇、安徽、江西、等の地方に、湖廣語は湖南、湖北の二省に用ひらる、獨り官話と稱するものは帝國一般に通ずる普通語なれども、官吏、文人、富裕者の如き中等以上に位する人士に非ざれば此の種の言語を知らざるなり、又言語を代表する文字は所謂變體象形文字にして一見利あるが如しと雖も之を習得するには至大の困難あり。

宗教　現今清國にて行はるる宗教には祭天教、風水教、儒教、大成門、道教、佛教、白蓮教、喇嘛教、回教、基督教、等あり、而して信徒に就きて考査するときは或

は一教を確信するものあるべきも、多くは數教を併信若しくは濫信するが故に各教に屬する信者の多少は到底知悉すること能はざるなり。

祭天教　祭天教は天即ち上帝を禮拜し君主は天子として之に仕へ、毎年冬至に際し北京に於ける祭天壇に於て犧牲を備へて之を祭り五風十雨の恩賜を祈る、一種の自然教と云ふべきか。

風水教　風水教は陰陽の理、木火風水、等の現象に依りて吉凶を判斷する一種の宗教にして易經之が基を爲し、迷信之が大成を幇助せしものの如し、宗教としては價値なきも之を信ずるものは意外に多數なるべし。

儒教　儒教即ち孔孟の教は他教と同日に語るべきものに非ざるは勿論なれども、事實上、國教視せられ、各種の宗教中にて最も勢力を有し、中等以上の人士は概ね之を尊信するを以て天下に普しと云ひて可なり、大成門は儒教の變派にして大學中庸の理を附會せし嫌あるも弊害多からざるが如し、政府は之を厭ひて禁遏を勤むるも人民は却て信奉し廣く各地に行はる。

道教　道教は老子の道德教に出でしが後世に至りて佛教に擬して偶像を設け修養、仙丹、符籙、等の術を設けたり信徒の歡は少なしとせず。

佛教　佛教は教理の深遠、儀式の莊嚴、慈悲の功德に依りて社會各階級の同情を得て一時は盛を極めしが、元明に至りて漸々衰へ、清朝に至りては壞敗の極に達し、僅に形骸を有するに過ぎず、白蓮教は佛教の一派にして在裡教とも云はるるが、民心を惑亂するの恐あるが故に政府は之を禁ぜんと欲すれども教徒は死を恐れずして其の數は漸次增加するの傾向あり、目下盛に行はるる地方は北漢なりとす、喇嘛教も亦佛教の一派なるがチベットに起りて紅教、黃教の二派あり、黃教は最も勢力を有せるが清朝も政略上、之を庇護するを以てチベットを始めとし、蒙古、滿洲、漢土の北西部、等に行はる。

回教　回教即ちマホメット教は帝國の西部、北部に行はれ教徒の數は三千萬に過ぎざれども、不穩の民にして屢亂を起し害毒を流すが故に、清國政府の深く嫌忌する所なり。

基督教　基督教は天主教、希臘教、其の他、數派に分かれ宣教師は各地にありて漸次に版圖に趨き、天主教に百萬人、新教に十五萬人あるも、希臘教は北西部に多少の信者を有するに過ぎず。

教育　漢人は古來文字を好み學問に熱中せし人民なるが、保守的思想は一變して往古を追慕して止まざるの念慮と成り、毫も進步發達を意とせず、教育の如きも時世に應ずることなく亦極めて不振にして普通の教育を以て目すべきは義學、家塾、等の塾舍にて讀書、習字を修得せしむるに止まり、中等以上の教育を受くるは仕官を求むる徒或は富豪の子弟に限られ、其の學校には府、州、縣の三學及び國子監と稱する大學、等ありたるも、修むる所の課業は

經書、史類の講讀、詩文の製作、文字の書方、等に過ぎざりき、然るに咸豐以來泰西の文物學術を輸入せざるを得ざる機運に會ひて西洋式の學校次第に起り、近年に至りては管學大臣を置き北京大學、天津學堂等を設けしのみならず、學部の設置せらるるあり、外人の經營する學校も少なからずして海外殊に我が國に留學するもの頗る多し。

滿洲人は漢人と雜居するもの多きが故に其の風に習ひて文書を修むれども漢人に比すれば拙劣なるが如し、蒙古人は學術を修め知識を研き又は子弟を敎育する等の念少なく、チベット地方にありては宗敎的學校以外には見るべきものなし。

風俗　漢人と滿人とは元來種族を異にせるものなれば言語を始めとし氣質、風俗、等も勿論、同じからざりしが、清朝の滿洲より起りて漢土を席捲したりしより以來、滿人は權威を逞しうせしと雖も敗者の多數なる爲めに實際勝者は壓倒せられて其の言語風俗を一變し、遂に滿漢二種族の混淆を來たし殆と差異なきに至れり、衣服は官服便服、總て滿制を用ひ一般に上衣と下衣との二に分つ、男子は頭髮を辮して之を背に垂れ、手爪と共に其の長きを以て美とす、女子の頭髮は各地其の風を異にして、漢土の女子は小足を尊び步行し能はざるの奇風あり、履には靴、鞋の兩樣あり、飮食は頗る發達して東南各地にては稻米を主とし、西北各地にては粟、蕎麥、蕎麥、高粱の類を食す、又蔬菜、肉類、等を用ひ、能掌、燕窩、魚鰾、海參、海帶、等山海の珍味を食し、調理極めて精妙にして一般に油脂多きものを好む而して阿片を喫するの惡風あり、家屋は地方と貧富とに依りて差異あれども構造は瓦屋、木屋、土屋の三種にして瓦屋、木屋は富豪のもの之を造り、土屋は最も北方に多し、而して孰れも親族の一家內に聚居團欒するには頗る適當せり、此の外山西、陝西地方には穴居し、南方には舟居するものあり、要するに滿漢人の衣食住は甚だ進步して娛樂と便利とを併有する生活を爲し物質的開化は案外に發達せるが如し。

蒙古人の衣服は漢族と略ぼ同じ、食物は獸肉、麵粉、酥酪、磚茶、燒酎、等を普通とし魚肉、鳥肉の如きは汚物として排斥せらる、家屋は土屋、帳屋の二種あり、帳幕は圓形を呈するが若干の支柱を基礎として圓屋を形成し厚布の類を以て之を蔽ひ馬尾繩を以て之を結束す、入口は南面に設けられ烟突は幕上の中央にあり、其の構造遷移の民には最も便なり。

チベット人は亦上下の二衣を用ふ、食物は乳、「バタ」、麥焙を以て主とし磚茶を飮み喫煙草を用ふれども阿片は之を嗜むものなし、家屋に就きて北部の遊牧人は長方形の天幕に住するが定住者は石造の家を構ゆ。

政體　君主專政に基づき祖宗の遺法に遵ひ、皇帝は萬機を獨裁して廣大なる帝國を統治す、然れども近時に至り四圍の事情は舊態の維持を許さず、

憲法を制定し百般の行政を革新せんと努めつつあり。

京官に就きては我が國の樞密院に似て內閣を兼ぬるが如き軍機處に皇族、內閣大學士、各部尙書、其の他の行政部長官中より特擧せられたる五名以內の軍機大臣を置きて法律勅令を立案審議せしめ又軍事、民事に關する政見を發表せしむ、而して內閣に大學士四名協辦大學士二名學士十名等を置きて詔誥の頒布を掌らしめ又帝國の行政に關する事項を審議し、恒例の政務を處理せしむ。

外務部は一千八百六十一年の創設に係りて總理各國事務衙門と稱せしが、一千九百一年を以て今の名に改む、總理事務大臣一名會辦大臣二名左右待郎等より成りて各國交涉の事務に與る、而して吏、學、陸軍の三部には管理事務一名尙書一名左右待郎等を置き、民政、度支、禮、法、農工商、郵傳、理藩の七部には尙書一名左右待郎等を置けるが、其の吏部は文職の詮敘黜陟等を掌り、其の民政部は戶田、戶口等の事を掌り、其の度支部は財政、財務等の事を掌り、其の禮部は禮樂、朝貢等の事を掌り、其の陸軍部は武職、兵制の遷調、補選、驛站等の事を掌り、其の法部は法律刑名を掌り、其の農工商部は農、工、商に關する事務を掌り、其の郵傳部は郵便、電信、鐵道等凡て交通に關する事務を掌り、其の學部は敎育學堂に關する事務を掌れり、其の理藩部は蒙古、青海、西藏等に關する政令、刑賞等を掌れり。

此の外に都察院ありて官常に察覈し綱紀を整飾す、大理寺即ち覆審院ありて重辟を平反して刑事を肅立す、翰林院ありて編史、講經、制誥、文章等の事を司れり。

又內務府ありて帝室の事を掌り、宗人府ありて皇家、宗族、貴戚の承繼襲職等を掌り、鸞儀衛ありて君主儀仗の事を掌る。

次に外官即ち地方官の主要なるものを擧げんに第一を總督（ゾント）とす、一省或は數省より成る管轄地の民治軍務を節制し、直隸兩江の二總督は北洋或は南洋通商大臣を兼ぬ、總督に次ぎたぬ重官は巡撫にして省務を節制し四民を撫養し民治を督す、又順天奉天の二府に府尹を置き各省の道、府州縣に道臺知府、知縣を置き廣西、雲南、四川等に於ける蠻地には土官を置けり、而して通

商事務を總理する北洋（芝罘、牛莊、天津の三開港）、南洋（前三港以外の開港）の通商衙門あり。

行政區劃　漢土を分ちて十八省と爲し一省若しくは數省に就きて總督（八名）を置き各省に巡撫（十一名）を置く、但し河南、山東、山西の三省には總督なく直隸、四川、甘肅、湖北、雲南、福建、廣東には巡撫を置かず、而して省內を分ちて府、廳、州、縣とし、府に知府、廳に同知、州に知州、縣に知縣を置く。

漢土							
總督	直隸（チリ）	兩江（リアンキアン）（江南）	閩浙（ミンチエ）	兩湖（リアンフー）（湖廣）（ウクアン）			
總督衙門所在地	保定 天津	江寧	福州	武昌			
省名	直隸	江蘇 安徽 江西	福建 浙江	湖北 湖南			
巡撫衙門所在地	—	江寧 安慶 南昌	— 杭州	— 長沙			
地積	三一、四八〇〇	四二、一六〇〇	二〇、二四〇〇	三八、一九〇〇			
人口	一八六〇、〇〇〇〇	五七三〇、〇〇〇〇	三〇九〇、〇〇〇〇	四三五〇、〇〇〇〇			
方料ニ付	五九	一三六	一五三	一一四			

（十八省）							
—	—	—	陝甘（シエンカン）	四川（スエチウアン）	兩廣（リアンクアン）	雲貴（ユンクイ）	
—	—	—	蘭州	成都	廣州	雲南	
河南	山東	山西	陝西 甘肅	四川	廣東 廣西	雲南 貴州	
開封	濟南	太原	西安 —	—	— 桂林	— 貴陽	
一七、三五〇〇	一四、九六〇〇	二〇、七三〇〇	五五、〇七〇〇	四六、一〇〇〇	四六、〇三〇〇	五五、三九〇〇	
二〇一〇、〇〇〇〇	三三一〇、〇〇〇〇	九九〇、〇〇〇〇	一八四〇、〇〇〇〇	四五二一、〇〇〇〇	二七四〇、〇〇〇〇	一五一〇、〇〇〇〇	
一一六	二二一	四八	三三	九八	六〇	二九	

滿洲は之を分ちて奉天、吉林、黑龍江の三省を設けたるが故に東三省と稱す、從來各省に將軍一人を置きて旗人を統轄せしめ奉天將軍には民人の事を兼轄せしむるの外、奉天府尹をして三省に於ける府、州、縣、等を管轄せしめしが、光緒三十三年（一九〇七年）を以て東三省に總督を置き各省に巡撫を置きて政令を革新し、督撫制度の模範を示さんことを期すと云ふ。

新疆省

蒙古

青海

東三省	將軍	駐在地	省	地積	人口	方料ニ付
	奉天（フエン） 吉林（キリン） 黑龍江（ヘイルンキアン）	奉天 吉林 齊々哈爾	奉天 吉林 黑龍江	一四、五〇〇〇 二七、二〇〇〇 五二、五〇〇〇	四二四、〇〇〇〇 三七〇、〇〇〇〇 一〇六、〇〇〇〇	二九 一三 二

新疆省は陝甘總督の配下にありて、迪化府駐劄の新疆巡撫の所管に屬し、カシガル、アクス、ウルムチの三區に分たれ、區は州に、州は縣廳に細分せらる而して口外甘肅に安西州、沙州、等あり又曲城即ち伊犁を兼轄す。

蒙古は理藩部の管理する所にして二部に分かる、内蒙古（ネイムンク）二十四部は六盟に分かれ、各盟に札薩克（ヂアサク）を置き、兵事上は四十九旗に分たる、外蒙古（ワイムンク）は四汗の分領に屬し八十三旗に分かる、北部及び東部はウルガに住する喇嘛僧侯哲布（チエブ）尊丹巴胡圖克圖（ツオンダンバフトクト）の下に屬し支那の駐在官の之に參加するあるが、西部はウリアスタイに於ける將軍に支配せらる。

青海も亦理藩部の管理に屬し二十九旗より成れるが、其の中、五旗は「アムバン」に、殘餘は大酋長に支配せられ、共に西寧辨事大臣の統轄する所なり。

西藏は同じく理藩部の支配の下にあるが清國の主權は軍事、外交に關して監督の位置に立つ二人の特派大臣に依りて代表せらる、内政は達賴喇嘛（ダライ）を以て國君とするも、實際は「ヂァボ」と稱する首相即ち俗王ありて國政を執り、地方はハム（康）、ウイ（衛）、ツァン（藏）、ニァリホルスム（阿里）、の四區に分たる。

兵備　一千九百一年の上諭に基づきて發せられたる條例は新設せらるべき軍隊の基礎たらしめんが爲に各州内に於ける募兵を要求したり、然れども特別の理由よりして一層多數の軍兵を一團とせられたる直隷、湖北の如き省に於ては隣接せる諸省に兵丁を募ることを得、兵役には常備兵（チアンベビン）、豫備兵（ヒウベビン）、後備兵（フベビン）（四年）の三種あり而して一千九百二十二年までに三十六師團の陸軍（ルチウン）を有すべく、各師團は步兵二旅團（一旅團は二聯隊、一聯隊は三大隊、一大隊は四中隊）、騎兵一聯隊（三大隊より成れり）砲兵一聯隊（三隊に分かれ更に各三大隊と成る）工兵並に輜重兵一大隊より成れり。

各省の舊兵殊に八旗兵、綠旗兵（リイン）及び總督、巡撫の支持に係る練軍（リンチウン）、防軍（フアンチウン）、勇（ユン）、等は漸次解散せらるべく、中に就きて適當なるものは新隊（陸軍（ルチウン））幷に新設の警

東(巡鎮軍)に編入せらるべし。

左表は新軍のみに關する一千九百六年の統計なり、並し該軍を除けば軍事的價値を有するものなければなり

(一)北洋軍　直隸、山東、河南(山西を加ふる豫定)より召集せらる

		兵士	砲門
第一、第二、第三、第四、第六師團(直隸)		五、四〇〇〇	三二四
第五師團	(山東)	四〇〇〇	一二
一混成旅團	(河南)	二五〇〇	一二
河南義軍(北京附近)		二〇〇〇	—
湖北軍(通州に分遣せらる)		六、二五〇〇	三四八
合計			

(二)南洋軍　江蘇、安徽、江西より召集せらる

第九師團	(南京)	九〇〇〇	五四
一混成旅團	(蘇州)	三五〇〇	六
第十三混成旅團(後の第七師團)(鎭江)		三五〇〇	一八
一混成旅團	(安慶)	三五〇〇	六
一混成旅團	(江西)	三〇〇〇	—
合計		二、二五〇〇	八四

(三)湖軍　湖北、湖南より召集せらる

第八師團		九〇〇〇	五四
第二十一混成旅團(後の第十一師團)	(湖北)	四〇〇〇	一八
一混成旅團	(湖南)	四〇〇〇	一八
合計		一、七〇〇〇	九〇
此の外			
一混成旅團	(福建)	三五〇〇	一八
一混成旅團	(浙江)	三〇〇〇	六
一混成旅團	(廣東)	四〇〇〇	二四
合計		一、〇五〇〇	四八
總計		一一、二五〇〇	五七〇

右の外滿洲(奉天、吉林)に二師團、四川に一師團及び山西、陝西、雲南の各省に混成旅團を新設せんとす。

萬里長城は清國に於ける二大工事の一なり、戰國の時、北狄防禦の爲め北邊の諸國長城を築きしが秦の始皇に至りて之を增築し西は甘肅鞏昌府より起り東の方遼東に至りしが故に此の名あり、現今の長城は一千七百六十里の延長を有し甘肅の嘉峪關より東の後屢〻修補、增築あり、其の方臨榆縣に達し內城を有する部分あり、構造は一樣ならざるも東部は密にして四部は粗く、土と石塊より成れる城壁は四米

突乃至九米突の高さを有し厚さは四米突中より八米突足らずの間にあり。

海軍は日清戰爭以來著しく減退し今日に於ては十六隻三萬七千噸の軍艦を有するに過ぎずして之を南北の二艦隊に分てり又海岸の防備としては長江、閩江等の緊要の地に砲臺を築き、馬尾、江南等に造船所あり、各地に兵器の製造せらるるあり、天津、南京、上海、福州には海陸軍の專門學校、水雷學校等を置き芝罘には海軍專門學校を設くるの令出でたり。

財政 清國は邦土廣く人口多きに拘らず、稅源は至つて乏しく戶部の所報に依れば歲入は比較的に僅少なり、其の額は八千八百二十萬海關兩にして地租(二六五〇)、海關稅(二三八〇)、厘金稅(一六〇)、鹽稅(一三五〇)等より成れり、而して歲出の一億百十二萬海關兩は國債費(二四〇)、軍事費(三五〇〇)、地方費(二〇〇〇)、首府費(一〇〇〇)、其の他より成れり、而して一九〇四年の關稅收入は約三千五百十一萬海關兩なりき、國債は從來其の額甚だ大ならざりしが、西曆一八九四年以後增加し殊に一九〇〇年の北清事件に關する償金四億五千萬兩を一九四一年までに支拂ふべきことを約せるが故に國債の總額は

二億二千五百萬「ポンド」に達せんとす、又清國には本位貨幣なるものなかりしが近時の上諭は庫平銀一兩の銀貨を鑄造して本位貨とすべきことを定めたり。

生業 當國は創立以來四千餘年を經過したる舊邦にして、夙に開明の域に進み、百般の業務に就きては大に見るべきものありしなるべきも、爾後徒に往昔の遺風を固守して更に新意改良を加ふることを勉めざりしを以て、遂に今日の如き不振を來たせり、然れども國內には各處に肥土、沃地あり、住民饒多にして殆ど三分の二は農業、四分の一は漁業、其の他は庶業に從事し能く勤むるの風あるを以て、往古の盛況を目擊し得ざるも尙ほ多少の留意を促すものあり。

漁業は古來行はるるものなれども、此の國が比較上、魚類に乏しきと漁法の極めて拙劣なるとに依りて著しき生產力を有する能はず、本業の稍盛なるは福建、廣東、浙江、江蘇等にして魚翅、海參、鮑、鰑、鰕等の外に、淡菜、蠔等數種の貝類を輿ふ。

林業は漢人の最も不得意とする所なるか又は嫌忌する所なるか濫伐したる結果殆ど森林は跡を絶たんとせり、現時にありて森林の存する地方は漢土に於ては貴州、湖南、福建等の諸省に限れるが、蒙古の東部、滿洲の北部には稍多くして松、柏、杉、楊、柳、梧桐、樟、桐、椿等の木材を與へ又藥品としては樟腦、桂皮の產あり。

牧業は清國の生業としては重要なるものの一なり、然れども漢人は農事を偏重し尺地寸土をも之に充つるの傾あるが故に放牧的家畜は漢土に少なし、之に反して滿洲人、蒙古人は遊牧を好みて牛、馬、羊等を飼養す、豚の飼養は極めて盛にして到る處豚肉を用ふるが如し、馬に二種あり、其の張家口(直隸)幷に殺虎口(山西)の地方に產するを口馬と稱し、四川地方に產するを川馬と云ふ、而して馬の主產地は漢土の北部と西部とにして滿洲、蒙古も良馬を產す、羊には四種あり、其の綿羊、山羊は蒙古と漢土の北部とに產し、其の中古羊、羚羊は蒙古に產す、牛には黃牛、水牛の二種ありて各地に產すれども農獸として力役するに止まり食用に供することなし、而して黃牛は蒙古地方と北滿

とに產し水牛は漢土の南部にあり、又西藏、青海、蒙古地方には犛牛を產す、此の外、陝西、甘肅、河南、四川に騾、驢馬あり、北滿には騾馬あり、蒙古には駱駝の產あり、家禽の中、鷄は盛に各地に飼養せらるるが如し。

農業は清國人が生業中にて最も得意とする所にして亦貴重視する所なり、山隰、水涯處として開墾耕作せられざるはなきも、栽培は舊慣を墨守して宜しきを得ざるもの多く、農具も亦甚だ便ならざるが如し、米は漢土の中部、東部殊に江蘇、安徽、湖南、湖北、江西(五省の總產額三億五千萬擔)等の水田(耕地の七分の一)に產し、麥は北部の諸省の乾田に生ず、高粱幷に豆類は各地に多少の產あれども滿洲の奉天省地方を以て最とす、其の他、落花生、甘藷等の產も少なからず、甘蔗は兩廣、江西、四川を主產地とし、福建も亦其の產少なからず、棉花は中部の各地殊に江蘇、湖北の地方に良種を產す、其の江南地方に產するものを紫花と云ふ、麻は滿洲、兩湖、四川地方より出で、桑樹は到る處に栽植せられ、茶樹は漢土の南部と東部とに培養せらるるが、就中浙江、安徽、福建の地方を以て最も盛なりとす、人參は有名なる藥品にして滿洲地方に良種あり、阿片の原料を供

鑛業

すべき罌粟の栽培は各地に行はるるが殊に南西部に盛なり、楮は浙江、貴州、四川、等に産す、此の外、南漢に藺草あり、四川に白蠟、陝西に黄蠟の産あり、又園藝の發達頗る著しく果樹には橙、柑、甘蔗、荔枝、棗、梨、杏、桃、李、等ありて産地は廣東、福建、等なり。

鑛業は未だ盛ならざれども頗る有望の業なりとす、金は雲南、直隷、甘肅、四川、兩廣、滿洲、新疆、等に産し、銀は雲南、兩廣、四川、等に産す、又鐵は湖北、山西、福建、廣東、雲南、四川、等に産し湖北の大冶鐵山は殊に名高し、右の外、銅、鉛、錫、水銀、等は各處より産出し、石炭は直隷、山東、甘肅、山西、河南、福建、江西、滿洲、等の各地にあれども目下盛に採掘せらるるは直隷の開平、房山、山東の博山、江西の萍鄉、等とす、又鹽は山西、河南、雲南、蒙古、等より出づ。

工業

工業は甚だ盛なるに非ざるも亦多少の製作品は各地に産す、蠶絲は廣東、四川、浙江、江蘇、等の諸省に多く其の産額は一萬二千擔以上に達するが、製絲の方法にも見るべきものあり、柞蠶絲は山東に於て盛に製出せらる、又綿絲の紡績に就きては十七ヶ處の紡績所ありて錘數は約六十二萬に達し産額は六千餘萬「ポンド」を下らず、絹布の産地は江蘇省の震澤縣、蘇州大儀鎭、幷に浙江省の湖州府、杭州府、紹興府、寧波府、等を以て主要なるものとす而して種類は繻子、緞子、縐、紗、羅を多しとす、繭綢は山東省の名産たり、紫花布は江蘇、湖北、浙江、福建、廣東の各地に産す、紙類は兩湖、江西、四川の各處に産し、磁器は江西の景德鎭より出で、瓦器は江蘇、廣東、福建、等の各省に産す、漆器は蘇州、福州、廣州、等の各地に、角器、骨器は江蘇、廣東に産し、籐器は廣東の特産たり、銅器は江蘇、福建、廣東に産し、錫器は汕頭より出で、銀器は廣東の名産たり、皮槓は江蘇、廣東に産し、地蓆は廣東省の東莞縣、蓮塘縣、羅定州に於て製作せらる、墨は徽州府最も著はれ、廣東の蜜餞、浙江の紹興酒は著名の産物たり、扇子は江蘇、浙江、廣東の各地より製出せらる。

商業

商業に就きては清國内のものの情況は記すに由なしと雖も、外國貿易は漸次に隆盛に趣くものの如し、但し左記の表は清國貿易の全體を表出せず、蓋し海關の管理に屬せざる船舶にて百貨の輸出入に從事するものあればなり。

貿易高

年次	輸入	輸出	合計

一九〇五	四、四七一〇、〇七九一	二、二七八八、八一九七	六、七四九八、八九八八
一九〇四	三、四四〇六、〇六〇八	二、三九四八、六六八三	五、八三五四、七二九一
一九〇三	三、二六七三、九一三三	二、一四三五、二四六七	五、四一〇九、一六〇〇
一九〇二	三、一五三六、三九〇五	二、一四一八、一五八四	五、二九五四、四五四八

今茲に一九〇五年の貿易高を國別にして著しきもの(万海關兩を單位とす)を示さんに

貿易高國別

國名	輸入	輸出	合計	國名	輸入	輸出	合計
香港	一、四八〇七	八一四五	二、二九五二	東印度	三四七九	二七二	三七五二
イギリス	八六四七	一八〇六	一、〇四五三	フランス	三八一	一八八七	二二六八
アメリカ	七六九二	二七〇三	一、〇三九五	ドイツ	一四八五	五三七	二〇二二
日本	六一三二	三五四六	九六七八	ベルジック	九五五	二二七	一一八二

重要貿易品

次に重要貿易品に就きて萬海關兩を單位として記せば、輸入に綿布(一、一四二四)、綿絲(六七二一)、阿片(三四〇七)、銅(三一一九)、砂糖(二二六二)、石油(二〇二九)、あり、魚類(八八三)、米(八五四)、鐵(八〇〇)、鐵道材料(七三五)、石炭(七一二)、染料(六四五)、煙草(六三五)、摺付木(五五九)、器械(五三四)、等あり、而して輸出に蠶絲(五九六一)、茶(二五四五)、皮革(一四六三)、豆類及び豆餅(一三一二)、棉花(一二〇三)、絹織物(一〇七八)あり、又生毛(六七五)、籐器(六二一)、等あり。

開港開市

清國に於ける開港、開市に就きて一表を作れば(*を附したるは準埠頭)

漢土
- 北京　天津　秦皇島　濟南　灘縣　周村　芝罘　膠州灣
- 上海　吳淞　黃埔　蘇州　鎭江　江寧　蕪湖　*大通　安慶
- 湖口　九江　*武穴　漢口　武昌　*陸溪口　沙市　宜昌　岳州
- 長沙　常德　萬縣　重慶　叙州　杭州　寧波　温州　福寧
- 三沙澳　福州　厦門　汕頭　惠州　九龍　刺巴　江門　甘竹
- 廣東　*三水　*肇慶　*德慶　崖州　港門　廣州灣　瓊州　北海
- 梧州　龍州　南寧　蒙自　河口　思茅　騰越　*永昌

滿洲
- 營口　大東溝　奉天　鐵嶺　昌圖　開原　伯都訥　鳳凰城
- 遼陽　新民屯　通江子　法庫門　長春(寬城子)　吉林　哈爾賓
- 寧古塔　琿春　三姓　齊々哈爾　海拉爾　愛琿　滿洲里

蒙古(買賣城

西藏(榮楚(亞東)

右の外に四川の王縣、湖南の城州、江蘇の海州、直隸の張家口、蒙古の庫倫、等も開放せらるるに至らんか。

前記諸港中主要なるものの貿易高(一九〇四年)を記せば

港名	輸入	輸出	全計	港名	輸入	輸出	全計
上海	一、九五〇、三五	一、三〇二、六四	三、二五〇、八、九	梧州	七四八、七	三〇一、六	一〇五〇、三
廣東	二五九、六四	三九六、九、〇	六五六、五、四	牛莊	四三、一	一五七、一	五八〇、二
九龍	一七八、〇、三	一五八、九、〇	三三六、九、三	鎮江	三五、二四	二〇九、〇	五六、一四
汕頭	一四一、〇、五	六七三、一	二〇八三、六	瓊州	二四六、三	二三八、三	四七四、五
天津	一六二、五、六	四二五、九	二〇五、一、五	膠州	三四三、七	八四、五	四二八、二
漢口	一二八一、五	七一四、三	一九九五、八	三水	二六四、七	一二四、二	三八八、九
厦門	一三八九、二	二一八、三	一六〇七、五	北海	一八七、一	一一二、二	二九九、三
福州	七五四、九	五二七、四	一二八三、三	寧波	二七三、九	二、五	二七六、四
芝罘	八二九、三	三九四、六	一二三三、九	江門	一六〇、四	九三、四	二五三、八

剌巴	五〇八、七	一〇九三、七	勝越	一七四、七
臺自	六〇六、三	一〇七四、六	秦皇島	八八、三
	五八五、〇	三、七		二〇八、四
	四六八、三	七、九		九六、二

交通　清國の交通上の發達は概して不充分なれども地方に依りて大に其の趣を異にせり、東部の沿海の地并に長江一帶の地にありては水運の便あれども、北部の臺地并に西部の山地にありては水脈に乏しうして、勢ひ車馬の力を借らざるを得ず、是れ漢土に就きては俗に南船北馬と稱する所以なり。

道路　道路は十八省を始めとし滿洲、蒙古の邊境に至るまで通せざるはなく、省城所在地は勿論、各地の間を連絡せり、然れども其の建造は不完全にして修繕は不整備なれば車馬の往來、旅人の通行には極めて不便なるが如し、殊に夏季を以て然りとす、而して山東、甘肅、四川東部、河南一部并に開港開市附近に於ては道路稍、優良なるが、現存の官道(二十一線)には規模の宏大なるものありて往古の盛況を追懷せしむるに足るものあり。

鐵道　鐵道の發達は從來極めて遲々たりしが、日清戰役以來漸く敷設の必要を覺り一九一〇年には既設に官辦の二六九八哩、商辦の三五六哩あるに至り

たるも、外人の代辨に係るものは二二三五一哩に達して合計は五四〇五哩即ち約八六九七粁と成るなり、而して主要なる線路は京奉、京漢、京張、正太、汴洛、滬寧、滬杭、津浦、粵漢等にして東清、南滿、山東、雲南の各線は外國の經營に依れり。

水路に就きて記さんに此の國は東に海を控ゆるのみならず、內部には大河、巨流に富めると航行し得べき沼湖の少なからざるとに據り地方に依りては水運の便大に發達せる處あり、特に大江の流域に當れる江蘇、安徽、江西等の地方を以て然りとす、又有名なる大運河のあるあり、海路は沿岸の要港を連絡するに止まり汽船會社の如きも大なるものは一の招商局ありて上海より南は寧波、廈門、福州、溫州、汕頭等を經て廣東に通じ、北は芝罘、天津、營口に至る航路を開けるに過ぎずして、海外との交通はイギリス、日本、ドイツ等の船舶に依頼すと云ふ、而して船籍を當國に置くものの積載噸數は汽船に八六四〇四、帆船に九二五あるが古式の構造に係る蓬船即ち「ジャンク」は其の數極めて多しとす。

一九〇五年に於ける各港の出入船舶は次表の如し。

旗章	隻數	噸數	船種	隻數	噸數
イギリス	三、〇四四二	三五〇九、五六五八	汽船	八、八三六二	六六三七、二六二四
清國	一四、八七五五	一六四〇、七三五二	帆船	一三、五五九七	六三八、二九二三
ドイツ	七三三七	八一八、七八七一	計	二一、三九五九	七二七五、五五四七
日本	二、五八五〇	六二三、八九一八	（一九〇五）	二二、三八三五	六三七七、四七〇六
其他	一、一五七五	六八二、五七四八	（一九〇四）	七、七〇一二	五七二九、〇三八九
			（一九〇三）		

運糧河は當國の二大工事の一たり、本運河は隋の代に起工せられ元の世に至りて竣工したりと云ひ或は二千餘年を費したりとも稱せらるるが、長さは一千三百粁に達し北京廣東間に於ける一大經貿水路の主要部に當れり、深淺は常なく河幅に廣狹あり屈折極めて多く近時は維持保存に缺くる所あるを以て通舟の便、昔日の如くならず而して沿海航路の發達の爲めに本河の効用は一大打撃を蒙れり。

郵便に就きて述べんに驛站即ち官設郵便は軍部の所轄にして專ら官信を遞送し帝國內主要の地に設けらる、其の數は二千四十々處あり、漕運局は十八省の各地に設けられて各種公用貨物の輸送を司り、其の箇所は八千に達すと稱せらるるも業務は專ら地方官に委ねらる、此の他に私設の信局ありて公用

以外の信書を發送す而して新式の郵政局ありて其の數は一千を超ゆるが、北京及び重要なる開港には日本、其の他の郵便局あり。

電信は中央局を上海に設け北京天津線、滿洲線、遼東線、蘭州線、蒙古線は北部に、東岸線、揚子江線、雲南線は南部にありて一九〇五年に於ける電線の延長は五萬四千七百粁、電信局は三百五十九ヶ處あり、又沿岸の海底電線は大北電信會社、東方電信會社に屬せり。

處誌　世界屈指の大國たる清國の處誌を記すに當りては其の行政區劃に從ひ漢土、滿洲、蒙古、新疆、青海、西藏の六部に分つこととせり。

◎漢土

漢土即ち十八省（支那本部と稱することあるも面白からず）は清國の南東部を占む、極南は海南島の南端、北緯十八度十三分、極北は直隸省の北境凡そ北緯四十四度にして極西は雲南省の西境凡そ東經九十七度三十分、極東は山東角の東經百二十二度四十分なり、境界は概ね自然的にして北は耕種地と荒蕪地との分界線に據り、東及び南東は太平洋に枕み、南は山岳、臺地、沼地、等に限られ、西はチベット高原に依

りて劃せらる、然れども地勢的に基づかずして便宜的若しくは規約的に過ぎざる處も少なからず、面積は清國全土の三分の一以上に當り、清國の人口の九割六分は此の地にあり、山脈の趨勢、河流の灌域、等に基づきて更に漢土を分ちて北、中、南の三部とす。

北部即ち北漢は直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅の六省より成れるが、黃河の流域を主とし之に白河、其の他の沿海流、揚子江の支流たる嘉陵江、漢水、遼河の上流たる西喇木倫に屬する地幷に山東半島を加へたり、地勢は北西に高く南東に低く、山岳と高地とを合はすれば當部の三分の二以上に達すべきも低地は直隸、山東、河南の三省に亘りて一大平野を爲せり、而して優良なる土壤として名高き黃土は風力に依りて吹送せられたる細微の粘土が堆積せしに因るものにして、山岳幷に冲積平野以外の地を蔽ひ、北漢の各地に亘りて約六十萬方粁の面積を有し、層厚の平均は四百米突に達すと云ふ、水脈は其の數少なからずして巨大なるものあるも實益には缺くる所あり。

直隸省　直隸省は沿海六省の一にして海岸は約五百粁に達するも佳

良なる錨地に乏し、西邊幷に北西部に山脈(燕山、七老圖等)、高地(察哈爾)を控ゆるも、南東部は平低なり、河湖は甚だ多く白河、濼河あり又遼河、大凌河、等の源流あり、三角淀、白洋淀、洋東淀、寧普澤、大陸澤等あり、氣候は純然たる大陸候にして氣温の年平均は北部の六度、南部の十四度なるが降雨の年平均は六十乃至百三十糎にして七八の二ヶ月に多く、結氷期は十一月以後四五ヶ月に亘れり、

住人の大多數は農業に從事す。

京師順天府即ち北京(北緯三九度五四分東經一一六度二七分)は一に燕京と云ふ、皇城の所在地にして清國の帝都たり、海拔三七米突の地に位し、氣温の年平均は十一度七、最低は零下十五度二、最高四十度に依れば其の差實に六十度を超ゆるあり、空氣は乾燥にして年雨量は六百五十二粍に過ぎず、六七八の三ヶ月には雷雨多く秋雨冬雪、霰も少なく、春は稍、降雨多く、風は其の力強し、氣候は概して惡しきに非ざるも土地平坦にして排水の便なく、住人の無頓着なる衛生の道更に發達せずして人生を害すること少なからず、住民は五十萬に過ぎずと云ひ或は百六十五萬ありと稱し確數を知る能はず、帝居を大內、又は紫禁城と云ひ幾多の宮殿あり繞らすに城壁を以てし四面に各一門を設く、大內の外を包むを皇城と稱し、城垣の周圍凡そ十粁、大小六門を設く、城內に大廟あり社稷壇あり景山あり西苑あり、皇城は九門を有する內城に依りて包まれ內城の內には數多の官衙公署建ち訂盟諸國の公使館の存するあり、旗兵の駐在するあり、內城の南に於ける外城は一に南城と云ひ七門を有す、市街の地にして商估は軒を列ねて百貨を賣買し、正陽門大街殊に繁華なり、南部には天壇、先農壇、祈年壇、等あり、北京の街衢は規模大なりと雖、道路整はず而して此の地より起る道路の中、主要なるもの五條あり、一は天津を經て太沽、北塘、開平、永平、秦皇島、山海關に通じ二は通州、遵化を過ぎて平泉に至り、三は古北口を經て承德、赤峯或は多倫諾兒に趣き、四は昌平、南口(關口)、宣化を經過して張家口に達し、五は保定、正定、趙州、順德、廣平、等の諸地方を連絡す、又外城永定門外の馬家堡に車站あり、鐵路に依りて天津、保定等に通せり、製造工藝に就きては更に見るべきものなく、順天は單に一大消費地たるに止まるが如し、府の近郊には南海子、暢春園、圓

天津

明園あり、萬壽山、崑明湖と共に名勝の地として著はれ、天寧寺の塔、白雲觀亦著名の建造物たり。

天津(チエンツイン)(七五、〇〇〇〇)(北緯一三九度九分、東經一一七度一二分)は本省夏季の首府と稱せられ、北漢最要の通商港なるが、此の地は北京を距ること南東、鐵路百二十九粁にして白河と運河との會する處にあり、水陸の要衝に位して魚鹽の利を有し、百貨輻輳して市街極めて殷賑なり、北部は省城地即ち支那街にして南部は海河に跨り、右岸に日、法、英、得の租界ありて左岸に以、墺、露、白の租界あり、殊に其の紫竹林は家屋の構造、街路の整備、等を以て名を知らる、本港は主として豆餅油、敷物等を輸出し、船舶の出入頗る多きも、冬季は氷結して航通の便なきこと三ヶ月に及ぶ、而して氣候は不良なるが主として沼地にあるが爲めならん。

塘沽(日、英、法の租界あり)は白河の口を距ること遠からず、交通の要地にして鐵路は天津、北京幷に山海關、營口に通じ船舶の出入甚だ盛なり、太沽(日、英の租界を有す)は海河の口頭右岸にあり、塘沽と唇齒相依るの地として砲臺の設ありし處なり、北塘は薊運河の口にありて交通の利を有す、通州は北京の東に位し稍〻名を知

宣化

張家口

保定

正定

秦皇島

山海關

らる、天壽山は北京の北四十粁にあり、明の十三陵の地として名高し、宣化(九、〇〇〇〇)は蒙古の舊都の一なるが要地たるを失はず、張家口(一六、〇〇〇〇)は一にカルガンと稱せられ海抜八三〇米突の地にあり、ロシアに向ひて磚茶を輸出しシベリア地方に產する各種の毛皮を輸入す、保定(八、〇〇〇〇)は省城の地、學藝の淵叢たり、鐵道の開通以來市況稍〻恢復せり、正定(五、〇〇〇〇)は清水河に瀕し鑄鐵の業行はる、多倫諾兒は灤河に沿ふ、市中に喇嘛の大寺あるが故に喇嘛廟とも稱せられ、佛像の鑄造行はる、承德は熱河、又はヂェホルと、唱へらる、清帝蒙塵の地として名あり、開平は白河、灤河の兩下流間に位し唐山、林西、等と共に炭坑を有す、其の產額百十萬噸(一八九七年)なり又四通の地として商業盛なり、秦皇島(ツインワンタウ)は一小半島にして渤海に臨み一港を抱き開港として地方の鑛產、畜產を集散するのみならず、不凍港として冬季には天津、北京、等に關する交通を獨占す、山海關は滿漢兩地の境にありて長城が海に臨む處に位す、市街は臨榆と云ひて海岸を距ること四粁の地にあり。

山東省

山東省は沿海六省の一なり、其の山岳部(五割六分)は前世紀の

島、現世紀の半島に當りて省の中央并に東部を占め、其の低地部(四割四分)は北西より南西に亘り前世紀に於ては恐らくは海峽を爲せし處なるべし、山東半島は遼東半島と相對して直隷海峽を挾めるが、海岸は屈曲甚しく北西部を除く外、概ね高隆にして絶崖に富み暗礁群礁少なからず、河流は乏しからざれども黄河の外に顯著なるものなく、沼湖は清水泊、蜀山湖、昭陽湖、白花湖等あり、氣溫は一月の平均零度乃至零下四度にして七月に二十六七度なるが、降雨は適度にして夏季には年雨量の六割五分を受くと云ふ。

濟南 濟南は省城の地にして黄河を距る七粁の地に位す、住民は二十萬内外と算せられ絹布、擬寶石等を製す、附庸港を濼口と云ふ、泰安は泰山の麓にあり、

兗州 東岳廟を以て名を知られ、鐵、石炭の集散行はる、兗州(六、〇〇〇〇)は泰安の南西に當り名市の一たるも往昔の繁華を有せず、曲阜は兗州の東に位し尼山の麓に宣聖廟あり、周村は濟南の東方に於ける開市なり、博山は泰山の東に當り、窯業品、鍛鐵等を產す、青州(七、〇〇〇〇)は博山の北東にありて柞蠶業の中心たるべき望みあり、濰縣(二五、〇〇〇〇)は萊州灣に近くして交通の要衝

青州

濰縣

登州 に當り絹布、煙草、石炭、硝石、等を集散し山東第一の都會なるが、開市に加へられたること青州と同じ、登州(二三、〇〇〇〇)は海峽に面し廟島と相對し居民多けれども港は便ならず、芝罘(六、〇〇〇〇)(北緯三七度三二分東經一二一度二二分)は一に烟臺と呼ばれ同名の灣に瀕して風景佳なり、港は碇繫に便なるが開港として麥稈紐、柞蠶絲、絹綢、豆、豆油、豆餅、等を輸出す、威海衛、膠州灣に外國の租借地あり。

芝罘

太原 山西省 山西省内には恒山、五台山、等の如き山脈南西より北東に走れるも、汾水、其の他の水流の存するあれば沃土の地に農牧の發達するは自然の結果なるが、山西人は山間の地に生長するに拘らず、商業に特殊の技能を有し遠く鄉土を去るもの少なからず。

太原(二〇、〇〇〇〇)は汾水の谿海抜七九〇米突に位し省城のある處なり、兵器、砲銃の製作は往時の如く盛ならざるも四近の農產を集散す、汾州は首府の南西に當り酒を製す、平陽は汾水の一支に浴ひ海抜四八〇米突にあり堯の古都にして產炭の望みあり、潞安は平陽の東にあり酒を產す、蒲州は省の南西隅にあり、舜の舊都と稱せらる、歸化城(二〇、〇〇〇〇)は一にククホトあじあ洲 清國

歸化城

と云ふ、殺虎口外、八十五粁、海拔一〇八〇米突に於ける商業地にして家畜、皮革、織物、磚茶、等を集散す。

河南省　河南省の西部には山岳蟠踞し、地味も稍確なれども、東部には平地多く地味極めて佳良なり、伏牛山脈は北西より南東に走れるが衡河、膽河の流域を除けば省地は黄河、淮河、揚子江の三灌域に屬し、地味に流水に氣候に於て無比の優勢にあるのみならず所謂四通八達の域にして古來中華の花、北漢の鎖鑰と稱せらるるも理ありと云ふべし。

開封（一〇、〇〇〇）は省城の所在地なり、黄河を距ること十五粁の地にありて洪水の害を蒙むること屢なれども黄土地方の中心として農產に豊なり、屬港を柳園口と云ふ周家口は沙河に瀕し本省屈指の商業地として名を知らる、衛輝は衛河に沿ふ商業地なり、河南は洛水の陽、海拔一五〇米突にあり、周の洛邑、後漢、魏、西晉、後魏、唐、等の洛陽なるが、近郊には天津橋、白馬寺、等の古蹟少なからず、嵩山の南に於ける臥龍岡は諸葛亮の草廬のありし處なり。

陝西省　陝西省の北部は臺地を成し烏蘭木倫河、西拉烏蘇河、秀延河、等

あり、中部は秦嶺の北にありて渭水の流域に含まれ涇河、洛水、等を有す、南部は秦嶺の南にありて漢水の上流に當り水脈多し、省内地味の膏腴なる處に乏しからず、氣温は甚しく低下することなきが、濕氣には缺くることなしと せず、而して秦嶺に跨れる地方は漢族文化の源と稱せらる。

西安（北緯三四度一七分、東經一〇八度五五分）は渭水の南、海拔四六〇米突に位し北京を距ること一千二百二十粁乃至一千三百粁の地にあり、住民は四十萬乃至百萬と算せられ、其の三割は回教信者、一割はタタル人なりと稱せらる、此の府は漢唐の故都長安にして少なからざる遺蹟を有し目下は省城の地なるが、市街は純然たる支那的狀態を呈し、山丘高地の圍繞あるも容易に黄河、渭水、大江、等に通ずるを得、實に交通上の要區と云ふべく、古來第一流の商業地たり、毛皮、生毛、阿片、麝香、藥草、砂糖、絹布、茶、等を集散す、咸陽は首府の北西に當り秦の舊都なりし處にして阿房宮の跡あり、臨潼は首府の東方に位し坑儒谷あり、潼關（七、〇〇〇）は省の東境に於ける要地にして商業盛なり、漢中は漢江の上流に沿ひ昔時は天下の要區たりし處なり。

蘭州
西寧
平涼
秦州
中漢

甘肅省　甘肅省は地勢上、二部に分かる、其の漢土部は省の東、中、南の三地方を占め、山地に乏しからざるも流水に事を缺かずして沃土少なからず、其の蒙古部は省の北西部を占め土質佳ならず。

蘭州(五〇、〇〇〇)(北緯一〇三度五五分　東經一〇三度五五分)は黄河の畔、海拔一四七〇米突の地にありて總督の駐在地なるが、交通上の要地たり、兵器、毛織物を產す、河州は首府の南西に當るが、ズンガリア人の根據地たりし處なり、西寧(六、〇〇〇)は黄河の一支を帶し海拔二二五〇米突にありて青海地方の管理官駐在するが、交通上及び軍事上の要區にして商業行はる、涼州は長城を西に距ること七十粁、海拔一五六五米突の地にあり、殷賑の地にして產炭の望みあり、嘉谷關は肅州の西に位し邊要の門口なり、寧夏は黄河を距る七粁にありて商業に從事す、平涼(六、〇〇〇)は涇河の上流に近き商業地なり、海面上、一三九〇米突の地に位す、秦州(一六、〇〇〇)は海拔一一八〇米突の地にあり、渭水の岸に建ちて絹布、金屬器を製す。

中部　即ち中漢は四川、貴州、湖南、湖北、江西、安徽、江蘇、浙江の八省より成りて專ら大江の流域に當れども淮江、浙江、甌江、其の他沿海の數流幷に西江に屬する地方に亘れり。

成都
雅州
邛州

四川省　四川省は十八省中面積最大なり、峽江に依りて二部に分かれ、其の山地は西部にありて地味概ね磽确、氣候寒冷に過ぎ、其の臺地は東部にありて東に趨くに從ひて漸く低下す、山岳は四條の山脈に屬し、キンダ(六二五〇)、は龍、峨眉山(三三五〇)等殊に名あり、河流は甚だ多く大江、雅礱江、峽江、嘉陵江、等素何れも有益なる水脈なり、住民に就きては東部の赤土地方は漢族の獨占に歸し、西部の山岳地方には先代以來の居民たるボド、ジーファン(西番)、マンツェ(蠻子)、ロロ(猓玀)の四種甚だ多し。

成都(四〇、〇〇〇)即ち錦城は蜀漢の舊都にして今は總督衙門の所在地なるが、峽江の上流、海拔四六〇米突に位し、商工業共に盛にして市況殷賑なり、市街の整備せることは清國第一と稱せらる、邛州(五、〇〇〇)は首府の西方にありて佳良の紙を製す、雅州(五、〇〇〇)は峽江の支流に瀕し海拔五一〇米突の地にあるが磚茶、生絲等を製し繁華の地なり、嘉定(三、〇〇〇)は峽江

叙州　の畔にある商業地なり、叙州(六、〇〇〇)は岷江と大江との合流地に位し亦商業の一中心なり、瀘州は大江と沱江との相會する處にありて食鹽を輸出す、重慶(三五、〇〇〇)は嘉陵江と大江と相會する處、海抜二六〇米突にありて上海よりの航程凡そ一千六百浬なり、此の府は農産饒多にして庶民殷富なる地方の中心なれば工藝も多少進歩せるが如し、且又水運の便多く物貨の集散に適するが故に通商碼頭として頗る有望なり、萬縣(一五、〇〇〇)は涪州の下流にある開港なるが民船の製造甚だ多し、巴塘は金沙江の東、海抜二四八〇米突に於ける小村なるが漢土よりラッサに趣く路に當り物貨の交換に從事す、裏塘(一、〇〇〇)は金沙江の支流たる無量河の畔、海抜四六八〇米突の地にありて、成都、ラッサ間の名邑と稱せらる、打箭爐は岷江の岸、海抜二〇五〇米突にありて三萬乃至四萬の住民を有し生毛、磚茶、麝香等の賣買行はれ、附近の地は鑛産に富めり。

重慶

萬縣

巴塘

打箭爐

貴州省　貴州省は苗嶺其の他、數派の山脈縦横に連亘し地域の三分の二は大江に屬し殘餘は西江に屬せり、而して大江に會するものに烏江、赤水、

等あり、西江に會するものに北盤江あり、漢人來りて平野を侵し苗子は山地に退きて闘爭今に絶えず。

貴陽(五、〇〇〇)は當省の首府なり、烏江の上流、海抜一〇七五米突に位す、安順(四、〇〇〇)は北盤江の支流に瀕す、苗界の巨鎮なり、鎮寧(二、〇〇〇)は漢苗二族激爭の地にあり。

湖南省　湖南省の南及東の二境は南山山系幷に其の支脈萬洋山脈に據れども北、西の二界は自然ならず、省地は擧げて洞庭湖の灌域に屬し南西より北東に傾斜して起伏に乏しからず、河は湘江、資江、沅江最著し、地味は概ね佳良にして灌漑に不足を感せざれども氣候は大陸的なれば夏季には炎暑を覺え乾燥することあり、省内石炭に豐富なり。

長沙(二三、〇〇〇)は湘江の下流に於ける省城地にして商業の要區たり、附近の地は石灰、土器等を產す、湘潭(七、〇〇〇)は湘江の上流にありて交通の要衝に當り有望の地なり、岳州(二、〇〇〇)は洞庭湖の北東岸にある開港なるが商業未だ盛ならず、此の邊名勝の地多く瀟湘八景世に名あり、常德は沅

武昌
漢陽
漢口

江の下流に瀕し洞庭湖を距る六十粁の地にあり、西部湖南幷に苗疆の商業を專らにす。

湖北省　湖北省は漢土の中央にあり、伏牛山脈を北と東との境とし小山脈を以て南界とし洞庭湖幷に揚子江の峽谷は西を限れども大江は彎曲して東西に貫流し漢土は北西より來りて省の南西端に達せんとするあり、一百內外の湖澤は省の南部に點在す、地味優良、氣候好適、農鑛工商の諸業共に盛なり。

武昌(二五、〇〇〇〇)は長江の畔に位し總督衙門のある處にして製絲紡績織物等の諸業行はれ商業上の要區なり、漢陽(一五、〇〇〇〇)は大江と長江との間に挾まれ鐵政局、機器局を有す、漢口即ち夏口(八五、〇〇〇〇)(北緯三〇度一六分東經一二〇度一五分)は漢江と長江との相會する處、海拔四九米突に位し、江口を距る六百浬にありて武昌、漢陽と鼎立す、此の三市は相接するを以て大江と漢江の合流に跨る一市即ち大漢口を形成すとせば人口百二十五萬の大都會と成るべし、實に中漢第一の都會たり、此の地は支那內部貿易の大中心を爲し、交通の便に富み、通商瑪頭として盛に茶を輸出す、赤壁山は漢口の下流黃州內にあり、天下第一の勝地と稱せらる、大冶は黃州の南方に當り著名なる鐵山を有す、沙市(八、〇〇〇〇)は沙頭又は荊沙と呼ばれ貿易港なれども商況未だ振はず、宜昌(シアシヤン)(四、〇〇〇〇)は沙市の上流八十三浬に於ける通商港なり、襄陽、老河口は漢江に沿へる商業地なり。

沙市
宜昌

江西省　江西省は地勢北に向ひて緩斜し雨水は殆ど一の贛江に集中せられて鄱陽湖に趨くが錦江、鄱江は直接に該湖に入る、省內山岳丘陵多きが特に南部を以て然りとす、氣候は寒暑共に甚し。

南昌

南昌は贛江に沿ひ省城を有するも繁華の地に非ず、萍鄉は石炭を產す、贛州は南部にありて墨、漆器を產す、饒州は鄱陽湖の南東高岸上に位し其の麓に於ける港は蓬船の出入少なからず、景德鎭は饒州の東、六十粁に位し淸國第一の磁器產地たり、九江(三、六〇〇〇)は揚子江に瀕する開港なり、茶、磁器、紙、等を輸出す、湖口は九江に近くして商業に從事す。

九江

安徽省　安徽省は揚子江の爲めに二部に區分せられ、北部は概ね平低なる

安慶　蕪湖　江寧

も南部は山岳、丘陵に富み、河流に淮河あり、沼湖は其の數甚だ多く、洪澤湖、巢湖最も著し、氣候は佳良にして農產、畜產多し。

安慶(一三、〇〇〇〇)は長江に瀕し省城の地なり、芝罘條約に依りて湖江船舶の繫留處たり、池州は首府の下流產茶地にあり、大通は大江を控え鹽、石炭茶、大麻、米等を集散す、蕪湖(一三、七〇〇〇)は東部の通商港なるが米、豆、生絲、絹織等を輸出す、烏江浦は項羽の敗跡にして東境に近し、宣城は蕪湖の南方にあり佳良なる炭田を有す、徽州は南部にありて墨を製す。

江蘇省　江蘇省は沿海六省の一にして土地概ね平低なるも南部に多少の山岳あり、省內水脈夥しく揚子江は省の中部を橫斷し、運河は北西より南東に縱斷す、湖澤には洪澤、高郵、太湖等あり、氣候の温和なる他省の比に非ずして沼池の多きに拘らず健康を害することなし、土壤は肥えて農業、漁業、製鹽業大に行はる、殊に工藝最も發達して住民の稠密なる十八省の第一に位す。

江寧(二七、〇〇〇〇)は南京と云ふ、吳の建業、明の應天府なり、北京を距ること一千七十五粁、廣東を距る一千二百二十粁、長江

の右岸に建つ、省城の地にして內廓は四十二粁に亘りて九門を備へ、八十粁に亘れる外廓には十三門の設けあり、規模の大なる想ふべきなり、然れども城中の滿街は寂寞を極め、漢街は獨り繁榮を回復して稍熱鬧するも、往古の盛況に遠し、文華風流の點に於ては清國第一と稱せられしが曾てイギリス軍の占領(一八四二)を被り、太平王の亂に遇ひ城中大に景致を失ひたり、目下開港の一として絹緞、天鵞絨、藥材等を輸出す、鎭江(一六、〇〇〇〇)は江口を溯ること百七十浬、大江と運河との會點にありて絹布を產し通商に從事す、江陰、通州は揚子江に瀕し、錨地を有す、無錫(一〇、〇〇〇〇)は繭、生絲、米の取引甚だ盛なり、蘇州(五〇、〇〇〇〇)は吳の舊都、開港の一なり、風景の美を備へ絹織物の產多く市況繁盛なり、運河は無錫を經て鎭江に至り又杭州に通ず、府の近傍に楓橋、寒山寺、姑蘇山等の舊蹟あり、蜀山及び鼎山の兩鎭には磁器の產あり、世に宣興窯と云ふ。

上海(六二、〇〇〇〇)　北緯三一度一五分　東經一二一度二九分　は蘇州江と黃浦江との相會する處に位し、我が長崎より四百六十三浬にあり、舊と一小縣に過ぎざりしが、道光

二十二年(一八四二年)の南京條約に依りて通商地と成りしより以來、人口日に月に加はり、百貨輻湊して繁昌を極め、阿片、綿絲の輸入あり、絹絲、製茶の輸出あり、實に清國第一の貿易港、交通の大中心なり、加ふるに紡績製絲、造船等の工業の行はるるあり、市街は支那街と居留地とより成り、支那街は滬城と東家渡とに分かれ、對岸の地に浦東鄕あり、居留地は各國租界と法租界とより成り、繁榮にして壯麗なる各國租界は更に東、中、西の三區に分かる、街衢には整然として觀るべきものあり、江岸には碼頭、棧橋、船渠等の設備あり、實に清國內に於ける別天地と云ふべし、市の南端に江南機器局あり、吳淞は上海の下流十四浬、黃浦江と長江との會する處にあり、鐵路に依りて上海に通じ開港の一なり、近時南北兩洋の鎭守府と定められしものの如し。

浙江省　浙江省も沿海六省の一にして海岸は屈曲に富み、省內山岳、丘陵多く、南西より北東に走る仙霞山脈は南北の二部を與へ、北に太湖、浙江、甬江、等に屬する地あり、南に靈江、甌江、等の流域あり、南部は地勢上南漢に屬す、氣候は溫暖にして極めて健康に適し、溫度の年平均は十五度乃至十七度なるも寒暑の差は稍、烈し。

杭州
紹興
寧波
溫州

杭州(七〇、〇〇〇)は錢塘江口、運河の南口に瀕せる省城地にして南宋の舊都臨安なり、近く西湖を控え、南東に吳山、南西に武林山あり、頗る風色に富む、往昔は殷賑を極めし地なるが太平王の亂後未だ衰勢を挽回するに至らず、開港として茶、絹纖物、藏生絲等を輸出す、日本居留地あり、湖州は太湖の南岸にありて水運の便に富む、生絲、絹布を產し商業行はる、紹興(二〇、〇〇〇)は沃野の中にあり、人口稠密、生產饒多の商業地にして酒の產あり、寧波(二五、五〇〇)(北緯二九度五一分 東經一二一度三二分)は甬江の右岸にあり、上海を距ること百六十粁、古來軍事上の要域たりしのみならず、外舶の來往繁く頗る殷賑を極めしが日下開港の一として棉花、蔗、明甫、茶等を輸出す、鎭海は甬江の口に位し寧波の附庸港なり、溫州(八、〇〇〇)は運河に富める開港にして茶類、蜜柑等を集散す

舟山列島は杭州灣の南東にありて舟山を始めとし秀山、普陀山、其の他、若干の島嶼より成り揚子江流域の鎖鑰、東支那海の樞要の地たり。

岩礁

三門灣は優良の港灣なり、昔てイタリアが此の地を租借せんと試みし結果にや、一八九八年の上諭は開港に加ふと宣言したり。

南部即ち南漢は南山山系以南の地にして福建、廣東、廣西、雲南の四省に當り西江の灌域を主とすれども亦金沙江、江河、黑江、瀾滄江等に屬する地を含む。

福建省　福建省は沿海六省の一にして仙霞嶺は西界を爲し、梅嶺は北境を爲し、南方の境界は自然的ならざるも、省地は漢土内に一區域を形成して山岳多く江河(閩江、五龍江、等)に富めるが平坦の地は乏し、然れども谿谷には灌漑の便ありて耕種盛に行はれ養豚、養雞、養鴈は當省の主産業たり。

福州(六二、〇〇〇)北緯二六度五分東經一一九度二〇分は閩江を溯ること三十四浬にあり、總督の駐在地にして馬尾船政局あり、市街は内街、南街より成りて居留地は南臺島にあり、萬壽橋は南街を中洲に連ね、鳳山橋は中洲と居留地との間にあり、此の地は開港の一なるが、茶、木材、紙、等を輸出す、連江は福州の北東に當る商港にして蓬船の出入少なからず、延平、建寧は各閩江に臨み、茶、木材を集散す、三都即ち三沙は三沙澳中の小島にして良港を有し通商瑪頭たり、福寧は省の北部產茶地に於ける開港なり、興化(五、〇〇〇)は中部の海岸に位せる商業地なり、泉州(一五、〇〇〇)は同名の灣を控ゆるが今日に於ては往昔

の盛況を呈せず、厦門(一一、四〇〇)北緯二四度二七分東經一一八度四分は土音に因みてモアイと稱せらる、同名の小島(周回四粁四粁)の西端にありて臺灣の安平と相距ること百六十一浬に過ぎず、颱浪島との間に良好なる碇泊地あり、開港として茶、砂糖、紙、等を輸出す、漳州(一〇、〇〇〇)は汀江に沿ひ煙草、木材、竹細工、等の產あり。

廣東省　廣東省も沿海六省の一にして海岸は屈曲に富み、其の延長は一千三百五十粁に達するが南支那海に詔安、海門、崎石、廣東(伶仃)、廣州、等の諸灣ありて、東京灣に暗舖、北海、大觀、等の諸港あり、島嶼には海南、南澳、大濠幷にイギリス領の香港、等あり、省内平地多からざるも水系の發達は顯著にして河流には西江、北江、東江の外に韓江、化資江、廉江、安南江、等あり、谿谷及平野には沃土少なからず、氣候に就きて年平均は約二十三度なるが寒暑の差は十五度を超ゆることあり、住民は複雜にして北西に苗子、猺、等の蕃族あるのみならず、漢族にも根地、客家、福老、疍家、等の數派あり、農業、牧業、漁業、工業、等には見るべきものあり。

廣州(九〇、〇〇〇〇)北緯二三度一三度一七分は一に廣東と稱せらる、省城の地にして總督の駐在處なるが水路の集合點に位し大船巨舶も容易に出入す、殊に一八五九年以來通商港と成り百貨の集散頗る盛にして生絲、絹布、砂糖、蔴席、陶器、等の輸出多く、加ふるに各種工藝の盛なるあれば市況熱鬧なり、市街は狹隘にして屈曲常なきも殷賑を極め實に純然たる支那街なり市内に聖廟、羅漢寺、觀音閣、等堂宇の觀るべきものあり、附近に蕭帽山、浮丘山等の賞すべきあり、其の他廓外に東街、南街、西街あり、對岸の地に河南あり、住民は多きは百八十萬と算し少なきは五十萬と算す、而して河上の浮屋(屋筏)に居住するものを六萬乃至二萬とす、黄浦は廣東の屬港にして珠江に瀕す、佛山は廣州の南西に當り絹布、地蓆、紙類等を製出す、三水は西江と北江との間に於ける開港なり、肇慶(六、〇〇〇〇)は西江に瀕し茶、陶器、大理石等を輸出す、德慶(四、〇〇〇〇)は肇啓の上流にありて錨地を有す、江門、甘竹は西江の末流に沿ひ貿易に從事す、剌巴は甘竹の末流に於ける開港なり。

惠州は九龍の北東に當りて開市の一たり、汕頭(六、〇〇〇〇)は俗にスワタオと唱へらる、韓江の口頭にありて優勝の地を占むる開港なり、取引は未だ盛ならざるも砂糖、落花生、木具、漆器、等を輸出す、北海(二、〇〇〇〇)は東京灣に沿ひ廉江に瀕する開港たり、マライ群島(ナガオ)并にマラッカ半島に苦力を發送す。

海南島は漢人の瓊州府にして東京灣の東方を限り幅二十八粁の海峽を隔てて雷州半島に對す、面積は三萬六千二百方粁ありて長さは二百八十粁、幅は百六十粁なり、海岸は多少の屈曲を呈するも良港に乏し、瓊州(キウンチエウ)(三、五〇〇〇)は島の北部にありて白山河に瀕し、海口を距ること我が一里内外なり、附庸港たる海口(一、二〇〇〇)は船舶の出入少なからず。

廣西省　廣西省の七分の五は山岳に蔽はれ北西部は全然山地を爲せり、南西より北東に走る數多の並行山脈は南山山系に屬し、中には四時雪を戴くものありと云ふ、河流には西江、柳江、鬱江、桂江、等あり、氣温は高く濕氣多く地味佳良ならずして生産に乏し、住民の七割は蕃族なるが浮浪の徒、土匪の多き地方なり。

桂林(八、〇〇〇〇)は桂江の畔、海拔二〇〇米突に位して省城の地なり、極州

（五二〇〇〇）は西江に沿ひ廣西の咽喉に當れる開港なり、砂糖、牛皮、藍を輸出す、潯川（三、〇〇〇〇）は西江と南江との合流地にありて商業稍盛なり、南寧は鬱江に枕める四通の地にして當省南西部の物產を集散し開市の一たり、龍州（二、〇〇〇〇）は麗江に瀕する開市にして東京に通ずる邊要の地なり。

雲南省　雲南省の高處は北西にありて雪山、他念他翁、雲嶺等の名の下に三千乃至四千米突に達するが南東に傾斜して狹隘なる縱谷を形成せり、土地の一部は金沙江に屬すれども西半は瀾江（サルウイン）の上流）瀾滄江（メコンの上流）及びイラワヂの支流に屬し、南には西江、紅河等の流るるあり、濱池、洱海其の他多くの湖沼を有す、氣溫は概ね高からずして寒暑の變差著しく季節に依りては乾燥に失することあり、住民は支那的文化に浴すること少なく山岳多き地方には猓玀、花苗、白苗蠻子を始めとし數多の蕃族の居住するあり。

雲南（四、五〇〇〇）は北京の南西二千百粁、海拔一九六〇米突に於ける省城地なり、市街は城內と城外とに分かれ、銅、敷物、氈類を製し商業稍盛なり、昭通（二、五〇〇〇）は省の北東隅、山間の平野にありて鉛、銀、錫、亞鉛、鹽、綿、阿片等を集散す、蒙自（一、二〇〇〇）は海拔一三五〇米突に位する開市なり錫を集口は水運の便を有し開市に數へらる、大理は洱海を距ること三粁、海拔二千米突に位す、交通の要區にして有望の處とす、思茅（一、五〇〇〇）、騰越（一、〇〇〇〇）は孰れも開市場なり。

◎滿洲

滿洲即ち東三省は清國の北東部を占む、極南は北緯三十八度四十分の旅順角にして極北は北緯五十三度三十分に至り、極西は東經百十六度四十分、極東は黑龍江とウスリ江との會點たる東經約百三十五度なり、北はオルクナ河、黑龍江等を以てアジアロシアの外バイカル州、アムル州と境し、東はシベリアの沿海州とウスリ江を以て境し、南は豆滿江、鴨綠江等を以て韓國との境とし且つ黃海、渤海に瀕せるが、西は蒙古及び漢土の直隸省に連なれり。

鐵道は凡そ一千九百六十哩ありて日本、ロシア、イギリスの三國に分管せられ、東清、南滿、安奉の三線は主要部を爲せり而して東清鐵道はカイダロボにてシベリア鐵道と連絡しハルビンに於て分岐し、其の東するものはウラヂ

ヲストクに赴き其の南するものは我が南滿鐵道に連なれり、また檢營鐵道は山海關より營口に達するものなり。

奉天省

奉天省は一に盛京省と云ふ、東三省の南部に位し滿洲唯一の沿海州なり、海岸線は約五百八十浬に過ぎずして其の多くは遼東半島に屬し、該半島は更に關東半島を爲す、今港灣に就て記さんに渤海に錦州灣、復州灣、金州灣、洋頭口(鴉灣)あり、黃海に旅順口、大連、大窯口、小窯口、深灣、鹽大澳、皮子窩港あり、地角に沙角、廟角、蓋州角、砲臺角、旅順角、鮮生角あり、島嶼には桃花列島、長興島、花椒島、南關島、三山島、光祿島、裏長山列島、外長山列島、海洋島、鹿島、小獐島、大獐島等あり、本省の面積は大ならざれども拓殖よく行はれ西部の遼河流域には沃野あり、東部の山岳地方には大森林あり、之に加ふるに鑛物の埋藏少なからずして盛京省は實に滿洲の最要區たり。

奉天(二五、〇〇〇〇)北緯四一度五〇分東經一二三度三五分は一に盛京或は穆克德音と稱し又遼河の支流なる瀋河の陽に位するを以て古來瀋陽と唱へらる、沼澤多き平野の中に位し海拔僅に四九米突にあり、此の地は清朝の舊都、滿洲第一の

都會にして省城を有するが、內城は方形にして周圍約七粁あり、四面に各、二門を設け、城內に天壇、太廟、諸種の官衙等あり、外廓は長六粁餘の方形にして全府を包めり、市街は城內にありては四條の大街を爲し、城外にあるものは外關市街と稱せられ一般に稍、清潔なり、本府は開市の一に數へられて物貨の集散盛に行はれ大豆、豆餅、雜穀、獸皮、獸毛等を輸出す、近傍の地は三十七八年の役、激戰ありし處なり、北西十清里に昭陵あり太宗の廟とす、又北東二十清里の處に福陵あり太祖の廟地なり。

遼陽(七、〇〇〇〇)は太子河の左岸にあり、州城は長方形にして六門を有す、酒、家具を產し交通の要地なり、其の南に首山、堡あり、三十七八年の役、激戰ありし處なり、海城(一、五〇〇〇)は商業地にして農產、柞蠶絲を集散す、廿七八年の役、我が軍が數度勝戰せし處なるが商業稍、盛なり、田庄臺(二、五〇〇〇)は遼河の畔にあり、二十七八年の役、我が軍が大捷を得たる地にして、商業稍、繁榮す、營口(五、〇〇〇〇)即ち營子口は遼河の口を溯ること約十三浬半、牛莊城の南西六粁に位するが俗に牛莊と云ふ、開港として豆類、豆餅、豆油等を輸出し商

鐵嶺　開原　昌圖

業上の樞區たるのみならず交通上の要地なり、市街は東西の二部に分かれ二十七八年及び卅七八年の役、我が軍の占領せし處なり、大石橋は鐵道の分岐點にして三十七八年の役、ロシア軍の敗走せし地なり、鐵嶺(三、二〇〇〇)は開市の一にして奉天の北東、遼河に近き處にあり、馬、蜂、溝に依りて盛に大豆を集散す、開原(三、五〇〇〇)は近く遼河を控え蒙古街道に當れり、有望の地とす、昌圖(五、〇〇〇〇)は一に檉樹城と云ふ、商業稍、盛なり、通江子は東西遼河の會點に位する開市にして水運の終點たるが豆類の一大市場たり、奉化(二、五〇〇)は一に買賣街と稱せられ蒙古產の毛皮、牛馬類並に雜穀、藍靛、燒酎等を集散す、法庫門は邊墻十二門の一にして蒙古との貿易に關し樞要の地なるが近時開市に加へられたり、新民屯(三、〇〇〇〇)は奉天、北京間の街道に當る開市なり、畜產に富めり、廣寧(二、五〇〇〇)、義州(三、〇〇〇〇)、錦州(五、〇〇〇〇)は商業に從事す、蓋平(三、〇〇〇〇)は一に蓋州と呼ばれ柞蠶絲の取引盛なり、日清兩軍の激戰地なり、復州(二、五〇〇〇)は同名の河を控え近傍に食鹽、石炭の產あり、得利寺は復州の東方に位しロシア兵の大敗地なり、普蘭店も亦戰地

なり、金州(二、〇〇〇〇)は關東半島の頸部に位す、西は二杆ならずして海に達し南は三杆强にして大連灣に出づべし、往時の盛況を觀ざるも製鹽、漁業の一小中心たるを失はず、近傍の南山は三十七八年の役に於ける激戰地なり。

鹽大澳は卅七八年の役、我が日本軍が上陸せし處なり、皮子窩は滿洲屈指の不凍港なり、山繭を集散す、花園口は二十七八年の役、日本軍の上陸せし地なり、大孤山(三、五〇〇〇)は大洋河を溯ること約六浬に位し木材、豆類、柞蠶繭を集散し商業盛なり、卅七八年の役に於ける上陸地なりとす、岫巖(一、〇〇〇〇)は大洋河に近く位する一小市城たり、附近に石玉の產あり、鳳凰城(二、〇〇〇〇)は廣濶なる平地に位し柞蠶絲、繭紬を集散す、開市たるべき處なりとす、摩天嶺は卅七八年の役、ロシア軍が數回逆襲して成功せざりし處なり、賽馬集、鑲陽門は交通の要扼たり、高麗門は柵門地の一たり、九連城は鴨綠江と鑲河との相會する地にありて其の名、戰史に著はれ、近傍の蛤蟆塘はロシア兵大敗の地なり、安東(三、〇〇〇〇)は鴨綠江の下流に瀕する開港にして木材柞蠶絲、豆類を集散す、邦人の在住する者少なからず、大東溝(五、〇〇〇〇)は鴨綠

江の江口にある港にして木材、豆類の集散大に行はれ、夏季の住民は十萬餘に達すと云ふ開港の一たり、寛甸(一、〇〇〇〇)は九連城の北方に於ける一要地なり、通化は奉天北東部の小都會にして高粱、豆類、木材を出だす、興京は通化の西に當り清朝始祖の創業地なり。

海洋島　海洋島は皮子窩の南東、沖合に於ける小島にして鑛地を有せり、二十七八年の役、本島の附近に大海戰ありしが、日露戰爭の際には我が海軍の占據せし處なり。

吉林

吉林省　吉林省は位置、面積共に東三省の中位にあり、松花江の西に於ける平地は本省中最も農業に適せるの沃野とす、其の他にありては未だ開發の運に向はざる處多きも山林蓊鬱として鳥獸の棲所たらしめ河流には魚族多く、三姓附近には金鑛あり、南部には銀鑛あり。

長春

吉林(一五、〇〇〇〇)は本省の首府にして一に船廠と云ふ、松花江に沿ひ水陸の要衝に當りて商業盛に行はれ、煙草、麻、人參、皮革、木材等の集散地にして、船廠、造兵廠、火藥廠等を有せり、官衙、商舖、等は概ね城内にあり、城は橢圓形にして周圍六粁に餘り八門を有す、長春(七、〇〇〇〇)は伊通河に沿ふ、四通八達

の要地にして豆類、豆油、獸皮、雜穀、等を集散す、滿洲屈指の市場たり、伯都訥(二、五〇〇〇)は松花江を控え開市場たり、拉林(二、〇〇〇〇)は同名の河に瀕する市場たり、哈爾賓(三、〇〇〇〇)は松花江に瀕し鐵道の交叉點に當りて最も重要の地位を占む、市街は一八九九年の創建に係り舊街、新街、港街より成りて工場、倉庫、停車場、埠頭、鐵橋(九四九米突)等あり、阿勒楚喀(四、〇〇〇〇)即ち阿什河は盛に農産物を集散す、寧古塔(二、〇〇〇〇)は瑚爾哈河の東、海拔四二〇米突に位し豆餅、麥粉、等の產あり、開市場の一なり、琿春は圖們江の支流に沿ひ亦開市場の一なり、三姓(二、〇〇〇〇)は一に伊蘭哈拉と云ふ、瑚爾哈河と松花江との相會する處、海拔一三二米突の地にありて毛皮を集散するが、貿易の爲めに開放せらるべき地なり。

黑龍江省　黑龍江省は東三省の北部にあり、面積最も大にして豐沃なる地は嫩江、呼蘭河の流域に存するが住民少なくして開墾を經ざるの地多し。

齊々哈爾(三、五〇〇〇)は本省の首府にして平坦なる沙原、海拔一五八米突の地に建ち西に嫩江を控え北京とアムル河岸とを連結する王路に當れり

城壁は二重に構へられ、外廓の周圍約七粁ありて五門を備ふ、馬鞍、飾具、穀粉等を產し百貨輻湊するが故に開市に加へられ、たり、呼蘭(三、五〇〇〇)は呼蘭河の東に位し、釀酒、製油の業行はる、白彥蘇蘇(三、〇〇〇〇)は松花江の北、約二十粁にあり、酒、油類を產す、海拉爾は一に呼倫貝爾と云ふ、海拔六三〇米突に位する開市なり、愛琿(一、〇〇〇)は一に黑龍江城と云ひ同江の沿岸十粁の地に亘り滿洲里と共に開市に列せり。

◎蒙古

蒙古は西人のモンゴリアにして清國の北部を占む、極南は黃河の沿岸凡そ北緯三十七度五五分、東經一〇六度四一分はツチェツ(土謝圖)にありて蒙古の最大北韓三十七度に起り、極北はイルキクタルカク山脈の北端、北緯五十六度四十分に至り、極西は凡そ東經八十度にありて極東は凡そ百二十七度に達す、北はシベリアに接し、東は滿洲に連なり、南は漢土と境を交え、西は新疆に隣す、地形東西に長く南北に短し。

庫倫即ちウルガ(北緯四七度五五分、東經一〇六度四一分)は一千二百粁に當りてトラ河畔にあり、喇嘛教の中心にして市街は二部に分かれ、其の喇嘛部は三十の寺院を有し、其の買賣街には商賈群集す、買賣城は北境に近き貿易場なり、カラコルム(和林)はウルガの南西、四十粁にありて元の舊都の地なり、ウリアスタイ(烏里雅蘇臺)は庫倫を距る七百五十粁、北京より一千八百粁にありて海拔一六五〇米突に位す、氣候凜烈なれども交通上の要衝、行政上の一中心にして二千人の住民あり、コブト(科布多)は西蒙古の要地にして城塞あり城外の商區を買賣城と云ふ。

◎新疆

新疆省は光緒十一年(一八八五)の新設に係りて、清國の西部を占む、西人の所謂東トルキスタンにして天山北路、天山南路、タリム地方、ロブノル地方、口外甘肅等より成れり、極南は北緯凡そ三十五度、極北は北緯凡そ四十五度四十分に近く、極西は東經凡そ七十三度三十分に起り、極東は東經凡そ九十八度四十分に終る、西より北西はアフガニスタン、中央アジアと境し、北より北東は蒙古に隣し、南は甘肅省、青海、西藏、イギリス領印度と境を交ゆ。

廸化

カシガル

ヤルカンド

廸化即ちウルムチ(烏魯木齊)(一、五〇〇〇)は當省の首都なり、ヅンガル平野と東トルキスタン間の要路を扼す、ハミ(喀密)は豐沃なる泉地にありて天山南北兩路の會合點に位し、漢土、ヅンガル、トルキスタンの通商地なり、カシガル(喀什噶爾)(五、〇〇〇〇)は海拔一三八三米突に位して土壁を繞らし交通の要路に當りて盛なる商業地なり、ヤルカンド(葉爾羌)(六、〇〇〇〇)は海拔一三三六米突の地にありて市内に百六十の回教寺院を有す、ホタン(和闐)(一五、〇〇〇〇)も亦河に沿ひ肥沃なる泉地にありて、穀類、果物を集散す、クルヂァ(曲城)は漢名を寧遠と云ひウルムチを距ること四百九十粁、海拔六一〇米突にありて一萬三千の人口を有し地方の商區なり。

◎青　海

青海即ちココノル(庫々諾兒)は清國の中部に位して新疆、漢土、西藏の間に介在し或は西藏に屬すとせられ或は蒙古の一部と見らるることあり、南は北緯凡そ三十一度に起り、北は北緯凡そ四十度に達し、西は東經約八十七度、東は東經凡そ百三度に至る、北にツグスダバン、アルチンタハ、南山、等を控え、南西にコ

「ヤック」(Yak, Poephagus grunniens)

ソーヂンバ(ソーヅオンに於ける喇嘛寺)[チベット]

ラッサ

ダライ

ロンプス、マルコボロ、バヤンハラ等の山脈ありて之を限り、東は甘粛省に接す、然れども南境をダンラ山脈とすれば南東は四川省に隣るべし、地勢高隆、人煙稀薄、記すべき都邑なし。

◎チベット

チベットの自然的境界とは一致せざるが、政治的境界に於ては北東は青海に隣し、北西は新彊、東は四川省に連なり、南はイギリス領印度、ブータン、ネパールと境を交え、西はカシミアに接す、漢人は其の南部を西藏と云ふ。

ラッサ（拉薩）北緯二九度三九分東經九〇度五七分はカルカッタの北北東、八百四十五粁、海拔三六三二米突の高地にありてザンボ河の支流なるキチュ河に瀕す、人口は三萬三千あるも其の約二萬は僧侶なり、此の地はチベットの首府にして市街は殆ど宮殿と寺院とを以て充たされ、達賴喇嘛はブタラ（布達拉）山の宗教街に住し參拜者頗る多し、市内には毛布、器具、蠟燭の製造行はれ、商隊集合す、チェタン（一、三〇〇〇）は、ザンボ河に沿へる一小市なり、ヤツン（榮楚亞東）はブータンの北西境

ヤツク（Yack）「犛牛」（BosGrunniens）「牛族」はチベット地方に飼育せらる、力役に堪え乳肉を食料に供し良質の皮革を與ふるが、毛は織物、綱具に製し殊に尾毛を拂子に作り裝飾に賞用す。

ソーヅオン（Sok-Dzon）はカラウス（サリウエンの上流）の支流ソーチウ（Sō-chu）に瀕し海拔約三千米突に位す、グンバ（Gumba）（喇嘛寺）は宏大にして外觀頗る城塞に似たるが、坂路に擴りて階段を爲せる普通の民家は近傍にありて恰も往古に於ける我が國の城下の如し、

に近き開市なり、シガツェ(日喝則)(一、四〇〇〇)は海抜三六六四米突、ザンボ河の南にあり、近傍にタシルンポ(札什倫布)の僧院あり、ギアンツェ(江孜)(一、二〇〇〇)はシガツェの南東東、海抜、三九〇〇米突の地に位す。

◎租借地

清國には一定の年限を以て外國に貸與せる地域あり、關東州、威海衛、膠州灣、九龍、廣州灣之れなり、

日本租借地　一八九八年に於てロシアが租借せし關東州は日露戰爭の結果、我が手に移ると成り、關東都督を置きて之れを管理せしむ、地積は三千八百五十六方粁にして人口は約二十五萬人ありと算せらる、氣候は大陸的にして夏季に暑く濕潤を覺ゆれども、冬季は乾燥にして寒氣强し、土地は丘陵多く地味概ね磽确にして物産に豐ならず。

旅順は清國屈指の軍港なりしが二十七八年の役幷に三十七八年の役に於て我が軍の陷れし處にして其の名世界に著はる、港は東西約三粁、南北約一粁六にして東西の二港に分かれ一條の水道ありて南の方、外海に通ず、都

督府、鎭守府、等あり、住民は三萬餘人と註せらる、鐵路に依りて大連に通ず。

大連は同名の灣（南北一六粁、東四二四粁）の北西部に瀕す、南東に向へる灣口には大小の三山島を控え錨地は頗る優良なり、ロシア人の創設に係るダルニー（絕遠の義）の地にして市街の經營を始めとし公園を設け港を築き棧橋を作りし、等大に見るべきものあり、南滿鐵道の起點にして、通商上有望の地なりと認めらる、而して柳樹屯は灣の北東部に沿ふ、小市街たり。

イギリス租借地　イギリス租借地は威海衛、九龍の二ヶ處にありて一千七百十二方粁の地積と二十三萬四千人足らずの人口を有す。

威海衛租借地は山東省にありて七百三十八方粁を有す、ポートエドワードは自由港にして駐在長官、駐屯兵幷に西人の居住處たる劉公島は港口を二分す、政廳は對岸の地にあり、威海衛は舊と清國の一大軍港を設けし處にして二十七八年の役、我が軍の占領せし處なり。

九龍租借地は香港防護の爲の租借せし處なるが九龍港、ミルス灣、ヂープ灣ラン島、等を含み地積九百七十四方粁、人口約十萬なり、九龍は從來荒蕪の地

なりしがイギリス領と成りしより繁盛なる港市と成りたり。

ドイツ租借地　ドイツは一八九七年十一月を以て膠州灣を占領し翌年四月之を保護地と宣言せり、租借區域は五百一方粁にして約十二萬の人口を有するが、イギリスに屬せる威海衛附近の地を除き全山東半島を以てドイツの勢力範圍と主張す、膠州灣は廣濶にして海底深く、灣口の海深は四十米突にして灣内優良なる錨處あり、風波の憂なくして船舶の停繫に便なるも、冬季(十二月より三月)に於て海岸の一部は結氷の爲め妨害せらるることあり、租借地の首府たる青島(一、八〇〇〇)は軍港と商港とを有す。

フランス租借地　廣州灣租借地は廣東省にあり、灣口に於ける東海、硇州の二島を合はせて八百四十二方粁の地積と十七萬九千九百人の人口とを有す、海頭(フォールバイヤール)は要塞地にして廣州(ボールヅーメル)は政廳を有する市街地なり。

◎香　港

香港島は廣東省の沿岸に於ける小島にして幅八百米突に過ぎざるリム

ン海峽を挾みて九龍半島と相對し長約十八粁、幅凡そ三粁より八粁の間にありて、面積は對岸の地を合はするも七十九方粁に止まれり、島内ビクトリア峯(五四九)を始めとし丘陵多くして平地少なく、地味磽确にして樹木少なし、氣候に就きて氣温は一月の最低五度六、八月の最高三十二度八を示し、年雨量は二千百五十九粍なり、本島は舊と荒蕪の一小島なりしが阿片事件の結果イギリス領と成り、人口は一九〇四年に於て三十三萬餘人ありしが、其の大部は支那人なりとす、行政上はイギリスの直轄殖民地にして長官を知事と云ひ、行政、立法の二會議の補佐に依りて各般の政務を處斷す、首府ビクトリア市は島の北西岸にありて良港を有し船舶の出入頻繁にして盛に百貨を集散し實に東洋屈指の大貿易港なり、而して曾に商業の大中心たるのみならず、イギリス艦隊の根據地にして兵要の區たり、市街は岩山の斜面に階段的に建設せられ、最高處に住宅別莊多くして事務所は海岸にあり、ニューブレイア(New Praya)、クヰンス街等最も殷賑を極む、水道、索綱鐵道、公園等の設ありあり。

瑪港（澳門）は往昔我が國にて天川と稱せし處なり、香港の西、四十浬餘、珠江の口に於ける半島并に附近の小嶼を合はせ面積十二方粁、人口七萬九千人に過ぎず、此の地は一千五百五十年頃の創設に係り、爾來ポルトガルの領地なれども、香港の開けしより頓に勢力を失ひ、貿易の如きも振はずして衰運挽回の望は殆となきに似たり。

◉印度支那

位置　印度支那はアジア洲の三大半島の一にして南東隅に位し、極南はブル岬の北緯一度十七分、極北は北緯二十七度十五分にあるが極西はブラマプトラ河の最東派バムニの河畔、東經約九十度二十分にして極東はバレラ岬の東經百九度四十五分なり。

境域　北東は清國の雲南、廣西、廣東の三省に接し、北西は印度のアッサムに隣り、東と南東とは南支那海に臨み、南西はベンガル灣、ベグー海、マラッカ海峽に瀕す、南北は二千五百粁に亘り、東西は一千六百粁に亘れるが最狹部たるクラー地峽に於ては四十餘粁に過ぎず、面積は凡そ二百十七萬方粁と概算す。

海岸　印度支那は二部より成り、其の一は北部にありて一大長方形を爲し、其の二は矩形部の中位より出でて狹長なるマラッカ半島と成る、而して大河の下流に於ける三角洲、其の他沿海流の河口附近にありては海岸平坦にして砂泥の地に屬するが、岩礁に富みて懸崖絶壁を爲せる處も亦少なからず、海岸線は六千粁以上の延長を有せるが良港に乏しく島嶼亦大ならず、海灣の著しきものは南支那海にトンキン灣（アロン灣、ホンコヘ灣、カムラン灣、ツラヌ灣）シアム灣ありて印度洋にベンガル灣、ベグー（バルマ）海あり、海峽にマラッカ、シンガポール、半島にマラッカ、地峽に兩洋連絡運河を通じ得べきクラーあり、地角にパレラ、センジャック、カマオ、リアント、ロマニア、ブル、ネグライスあり、島嶼にトンキン諸島、アンナム諸島、コンドル諸島、カンボヂア諸島、サムイ諸島、トンタラム島、シンガポール島、マラッカ諸島、メルギー群島あり、又アンダマン、ニコバルの列島を見る。

山岳　印度支那半島の山脈はチベット高原の南東に於ける横斷山脈の餘

トンキン地方に於ける山岳の景

メコン河の増水——樹林の浸水

派を受けて北西より南東に走る者多く、海拔は二千米突を超ゆるもの少なし、交趾山脈はソンコイ河幷に南海沿岸流とメコン河との分水線たり、タネンタウンギイ(Tanen-taung gyi)山脈はメコン河とサルヰン河との間より來りてメビンとサルヰンとの分水山脈と成り、南走してマラッカ半島に達すシンヨマ山脈はサルヰンとイラワヂ、シッタンとの流界を爲し、ペグーヨマ Peg Yoma)山脈はシッタン河とイラワヂ河の下流との分水嶺たり、此の他、アラカンヨマ(Arakan yoma)山脈の噴泥山に富めるあり、マラッカ山脈のマラッカ半島を縱斷せるあり。

河湖 山脈の趨勢が單純なるは江河の流域をして單調ならしむ、即ち流域狹長にして南向せるの事實是なり、今主なる河流を記せば太平洋斜面にソンコイ(ソンボ、清河)、メコン(ナムハ、メホク、ナムウ、ナムカン、セムン、セコン)、メナム、等あり、印度洋斜面に於てはサルヰン(ナムハ、ナムパン、ナム、ボン、スンゲ、アタラン)、イラワヂ(マリ、ナムコン、ナムタビン、ショアイリー、ミイトニー、キエーンツエーン)、等あり。

ソンコイ(桑該)(Song koi)河は紅河とも呼ばる、雲南省に於ける海拔一千五百乃至

二千米突の高臺地に發し、トンキン地方に來り、ソンボ(黑河)、清河を容れ沃野千里の三角洲を爲してトンキン灣に達し、長さは一千二百粁あり、國境以下を六百粁と計上す、時に沿岸の地に洪水の害を蒙らしむることあるも、亦灌漑、交通、漁獲の利を與ふることも少なしとせず。

メコン河

メコン(湄公)(Mekong)河はダンラ山脈の東方に發しルンモンチウ、ナムチウ、瀾滄江と成り、ラオスの地に來りてメコンと成り、漸次に流向を南に轉じコンに於て瀑流を爲しプノンペン附近に於てトンレサプ湖の水を受け、前河即ちメコン河と後河即ちバサック河との二派に分岐して所謂四肢流の狀勢を呈し數派に分かれ、三角洲は海に接すること六百粁以上に達す、本流の長さは四千五百粁を下らず、流域は一百萬方粁を超えざるべし、水量は四肢の附近にては七萬立方米突に達することあり、南西季候風に起因する增水は十二米突に達すること稀ならず。

サルヰン河

サルヰン(Salwin)河はチベット、印度支那の一大河なれども其の上流には確說あるを聞かず、水源をチベットの西部海拔四二〇〇米突の地に發しガルチェトル、ナプチウ、ハラウス、ヰルチウ(オムチウ)、ヌチウ(怒江)、ルキアン(潞江)、ルツェキアン(潞子江)と呼ばれ、バルマに來りてサルヰンと成り遂にマルタバン灣に注ぐが、西に往くをマルタバン派流と云ひ東に趣くをムールメイン派流と云ふ、河長、流域の如き其の計數を一にせず。

イラワヂ河

イラワヂ(Irawadi)河は一にアイラバチーと云ひ、源流ミカは北緯約二十八度に發しマンダレイ附近に至りて水勢少しく衰ふるがアラカンヨマを廻れる後にも水

勢稍〻激しき處なきに非ず、本流は一千八百乃至二千粁の長さを有し下流は數派に分かれて三角洲を爲せるがランゲン、バッセインの二派は四時巨舶の出入を妨げず。

トンレサプ

湖沼の中最も著しきはトンレサプ(Tonle-Sap)即ち大湖あるのみ、該湖は瓢形を呈して北部を大湖、南部を小湖と云ふ、廣袤は季節に依りて變更するも乾燥季の面積は二百六十方粁なり、數多の河流を受けトンレサプ河と成りてメコン河に通ず、湖中漁利に富めり。

地勢　印度支那半島の地貌を案ずるに數派の江河は並行谷地の間を流れ之を挾む山脈は概ね二千米突以下なるに拘らず、其の進歩發達の遲々たりしは山脈の趨勢之が主因たりしものの如し、蓋し氣候は緯度に於て差異を生ずるものなるが故に居民の住域を南と北とに於て限らんとするに當り、北西より南東に走れる山脈は東と西とを制し、住人をして割據孤立の中に單純なる生活を營みて進歩の母たる競爭より遠からしめたり、此の如くにして本半島の拓地殖民を企圖せるものは印度人、支那人なるとフランス人、イギリス人なるとを問はず、何れも河流を溯りたるが、現今人口蕃殖して拓地の業の進めるはソンコイ、メコンの三角洲、イラワヂ、メナムの沿岸に限り、之に次げるは沿海の地なりとす。

氣候　氣候は熱帶的にして濕乾の二季あり、五月より九月に至る南西風は降雨を來たし、九月より三月までの北東風は乾凉を生ず、而して三四の二ヶ月は殊に暑氣に苦む、バンコクに於ける氣溫は二十七度乃至三十度にして乾燥季には稀に十二度に降ることあり、サイゴンの最低は十八度にして年平均は二十七度强なり、又トンキンの年平均は七度六に降り、シャムの內部にても八度六を指示することあり、要するに北部にありては寒暑の差稍〻著しきも南部にありては其の差少なし。

氣溫

雨量　雨量は多くして其の配布一樣ならず、西部は最も多量の雨水を受け、アラカン地方は三米突內外にしてアラカンヨマの西斜面は六米突以上に達すれども、東斜面は一米突半に過ぎず、又マラッカ半島の西岸も雨量に富みビナン島には八米突の降雨を見ること稀ならず、バンコクの雨量は二米突に達せずしてサイゴンは百七十四糎を示せり、而してメコンとソンコイ河との分

雨量

水山脈に於けるも亦西斜面より多くの降水を受く。

天産　生物は支那に類するあり、印度に似たるあり、然れども之を細別すれば、トンキン、コシェンシーヌは支那的にしてカンボヂア、シァムにありては支那的と印度的との混合するを見るも、バルマ地方にありては印度的なり、而してマラッカ半島に於てはマライ群島固有の種類多きが如し、要するに印度支那半島の森林は、チーク、椰樹の類に富み、動物には象、犀、虎、野牛、等あり、鑛物は鐵、鉛、銅、錫、銀、金等ありて本半島の山脈に多く包藏せらるるが、マラッカ半島の錫、バルマの玉類、トンキンの石炭、アラカンヨマの石油等は著し。

種族　アルマン氏の説に據れば印度支那の住民は數多の種族より成れるも之を五群に大別するを得、第一群はアンナム族、タイ族（シァン人、シァム人、ラオス人）、バルマ人、カレン人、アラカン人、等より成り、文化の度には懸隔ありて多少の變差を生じ、就中アンナム人は支那風を帶びバルマ人殊にアラカン人は著しく印度種族の混淆を受けたり、第二群はクメル人即ちカンボヂア人にして甚しく印度的感化を受けたるが附近の住人と異なりてジャバ人に酷

似せる所ありと云ふ第三群は蕃族にして交趾にありてはモイ或はムンと云ひ、バルマにありてはカムチー、カキエンと稱し、カンボヂアのプノン、ーラオ、クイにして支那に於ける苗族の如きものなるがボルネオ島のダヤクに似たる所多く、インドネシア派に屬すべきものと稱せらる、第四群はオランダ族にしてマライ、ビヌア、ウタン、セマン、ザカイ、等に分かるるが半島の蕃民なり、中にはネグリトスに似たるものあれども多くはマライ的感化を受け居れり、第五群はマライ人なりとす、其の居住する處はマラッカ半島に限らずして大陸の地にも生存せり、占人の如きは蓋し此の種に屬すべきか、右の外支那人殊に清國南部の廣東、福州地方の人は本半島に來住してトンキン、アンナム、コシェンシーヌ、シァム、シンガポール、等の各市街地に定居し、其の勢力侮るべからず、西洋人の數は未だ著しからず。

分國　印度支那半島はフランス、シァム、イギリス三國の分領する所にしてシァムは唯一の獨立國なるも、東西より壓迫を蒙りて境域漸く退縮するの觀あり、若し勢力範圍を所屬に算入せば土地の四割五分はイギリス、四割四分はフ

ランス、人口の三分の二弱はフランス、三分の一弱はイギリスに屬す、以てシャム國の振はざるを知るべし。

◎フランス領印度支那

境域　フランス領印度支那は印度支那半島の東部にありてS字形を呈せり、北は清國の雲南廣西廣東の三省に接し、東と南とは支那海を帶び、西はシャム、イギリス領のバルマと境を交え、面積は六十六萬方粁を超ゆ。

海岸　本領土はトンキン灣、南海、ジャムに面すれども、海岸の屈曲は敢て多しと云ふ能はず、灣にアロン、ツラヌ、サイゴン、ハチェン、等あり、半島にコレンシーヌあり、地角にブンクィワ、ライ、バンタム、バレラ、センジァック、カマオ、等あり、島嶼はケバオ、コンドル、コートロン稍、著し。

山岳　交趾山脈は北西より南東に走り、プロイ(二〇〇〇)、プサン(二七六〇)、アイツアト(二五六〇)、ダムホン(二一〇〇)、等の諸山を戴く、

河流　印度支那半島の最長流たるメコンは本半島の最大湖たるトンレサプと共にフランス領の地を潤せり而して河流には尚ほソンコイ、ソンマ、ソンカドンナイ等あり。

地勢　フランス領印度支那は南北の南部に平地を有せるが、一はソンコイの流域に屬して他はメコン河の下流に位す、此等孰れも地味佳良なれども中部に當れるアンナムには磽确なる處多く、土地の高低肥瘠共に一樣ならず、而して內部のラオスにありては平地は僅にメコン河の沿岸に存するのみなり。

沿革　帝堯の頃アンナム地方には義叔なる者ありて君臨せしと云ふ、秦の始皇の兵を發りし南越(廣東、トンキン、アンナム地方は趙氏の領する所と成りしも、漢の武帝に合はせられ、隋に至りては林邑(今のコシエン)も亦漢人に從へられ、唐の時交州(今ハノイの安南都護と云ふ)府は印度支那地方を統轄ぜり、五代の末、丁部領自立したりしが宋は丁氏を封じて交趾郡王とす、其の後黎氏を經て李氏に至り國號を大越(西紀一〇一〇—一二二五)交趾又は安南とも云ふ)と稱し陳氏(一二二五—一四一四)の時は安南と云ひ、勢の盛にして占城を破り宋をして侵せしが遂に黎古に降れり(一二五八)明の成祖に及び安南は彼に征服(一四〇七)せられ占城、カンボヂア、シアム、等も亦朝貢するの止むを得ざるに至れり、清室の黎氏を擧ぐるに及びて大越起り(一四二二)、明の封冊を受け占城、バルマを征服しラオス、雲南を侵し領土擴張せしが、莫氏の纂立せる後、大越二分し(一五四〇)、北部は莫氏、南部

は黎氏の有に歸せり、莫氏亡びし後に於て阮氏は順化廣南に據りて國號を廣南と云ひ、交都に據りて黎氏を奉ぜる鄭氏と相競ひしが、西山の阮文岳、文惠等起りて(一七七三)兩國を亡ぼし後清の封冊を受けたり、此の亂に際しシアムに遁れし廣南王阮福映即ち嘉隆帝はフランスの宣教師の援助を得て國を一統し清より越南王に封ぜられ、同帝の沒(一八二〇)後、フランスとの關係圓滑ならざるに至りしが一八五八—六一年の役起りてサイゴン、ビエンホア、ミトーの三州、コンドル島はフランスに割讓せられ、一八六七年にはヴィンロン、シアウドク、ハチエンの割讓ありたり、一八七三年一時フランスはハノイを占領せしことありしが一八八二—八三年の戰役ありて一八八四年の締約と成り以て大南皇帝はフランスの保護の下に置れしが、天津條約(一八八八)に依りて清國も確認せざるべからざるに至れり。コシェンシーヌ、カンボヂア、アンナム、トンキンの聯合(一八八八)成りたる後、ラオスを併はせたり(一八九三)爾來邦内漸く治まり本國(の權威行はるるや「キンルオック」大南皇帝の任命は廢止(一八九七)せられて、東京は純然たる屬地たるに至りしが清國に於ける租借地廣州灣も亦印度支那總督府の管轄に加へられたり。

カンボヂア古代の歷史は詳細知るべからずと雖も早くより印度的文化を蒙りしことは爭ふべからず、七世紀の始の支那人來りてチェムラの名の下にフナン州(アンナム邊の土地の附屬とせるも當國は全く亡びずしてアンナム人を壓倒せることあり、然るにシアムの盛大に趨きし頃より漸く衰運に向ひ十八世紀の始のバヲメンバンをシアムに割き

たり、一八六〇年ノロドン王位に即きし後、フランスの干渉を蒙り、一八六三年には其の保護國と成り、一八六七年の條約を以てバレンバン、アンケコルの二州はシアムの領に歸したり。

人口は約一千九百萬人なれば一方粁に付き二十九人の割合なり、種族はアンナム(一千三百五十萬)其の大部を占め、此の他にクメル、ラオス、蕃種、支那人、チアム人等あり、アンナム種、族は黃色人種の一派にして一に交趾種族と云ふ、トンキン人、アンナム人、コシェンシーヌ人に分かるるも此等三者の間に有する差異は僅少なり、然れども、カンボヂアのクメル人は別に一種族を爲せり、宗教に就きて居民の多數は祖先を祭り英傑の士を敬ふこと恰も神佛に事ふるが如く、中流以上の人士には孔孟の敎を尊信するもの多く、普通の人民中には佛敎を奉ずるもの亦少なからず而して四十二萬の天主敎信者は各開市場の附近に散在せり。

宏大なる權限を有する總督はトンキンのハノイに居り、印度支那高等會議及び國防會議の幫助翼贊に依りて聯合領土の施政を司り、內外に對し防禦の責に任ず、其の配下にはサイゴンに副總督を置きハノイ、フエ、プノンペン、

ピエンチアヌに統監を置きて當該地方の行政を司らしむ又廣州灣租借地は印度支那總督の管轄に屬す。

領土	地積	人口	方粁に付	行政區劃
コシエンシーヌ	五、六九〇〇方粁	二九七、三一二八人	五二人	二〇州、三市、一島
カンボヂア	九、六九〇〇	一三三、二六九一	一四	一一駐在區
アンナム	一三、五〇〇〇	七〇九、六四六五	五二	一〇州
ラオス	二五、五〇〇〇	九一、二〇七四	四	一五監督區
トンキン	一一、九二〇〇	六四三、一四七〇	五四	二市、二一民政州、四軍政區
廣州灣	七〇〇	一八、〇一六〇	二五七	
合計	六六、三七〇〇	一九一二、五九八八	二九	――

兵備に就きて陸軍は西人に一萬餘、土人に一萬五千足らずありて駐軍高等司令權は陸軍中將に委ねられ海軍には甲裝巡洋艦二隻、巡洋艦三隻、砲艦六隻、報知艦二隻ありて極東艦隊を組織し根據地をサイゴンに設け、其の支部をハイホン、廣州灣に設く、財政に就きて一九〇五年の豫算に依れば歲入は約四千八百四十萬「ピアストル」（總豫算三一八〇萬フランク）（トンキン四九二、アンナム二五六、カンボヂア二五一、ラオス九五、廣州灣二五）なり。

農業は稍盛にして米、砂糖、胡椒、等を產す、牧業は牛類を養ひ、漁業は雜魚を捕ふ、又林業は「チーク」、其の他の木材を給す、工業は不振なれども多少の製品を與へざるに非ず、貿易は漸次に發達するものの如く、一九〇五年に於ては輸入約二億二千三百九十四萬「フランク」（フランス領一一一九五）にして輸出凡そ一億二千二百萬「フランク」（フランス領三二二六）なり、而して主要輸出品を示せば米（六八五三）魚（一一三五）、胡椒（五二六）、石炭（四〇四）、皮（三四二）、綿花（二二四）、蓆（一九五）、玉蜀黍（一六五）「ラカゴム」（一〇五）、生絲（一五九）、等あり、船舶の出入に就きては入船に凡そ百三十八萬九千噸ありて出船に百三十八萬餘噸あるが、其の第一位はフランス（入船六九、出船七〇）の占むる所なり、鐵道の經營は大に注意せられ一千一粁の既設線（一九〇五年）の外に少なからざる豫定線あり、電話線の延長は一千九百粁（一九〇四年）にして電信線に二萬九百三十粁、電話線に凡そ二百六十粁あり。

トンキン　トンキン（東京、Tonkin, Tong-king）は印度支那半島の北東部を占め、南東はトンキン灣に臨み、南はアンナムに接し、南西及び西はラオスに隣し、北及び北東は清國の雲南、廣西、廣東と境を交ゆ、東西は六百五十粁に達し

幅は四百粁あるが境界明確ならず。

ハノイ　ハノイ(河内)(Hanoi)(一〇、三二三八)北緯二一度一〇〇分東經一〇五度四〇〇分は土俗にケショと云ひ、東都、交都等の名あり、紅江の右岸にありて三角洲の要處を占む、所謂四通八達の地にして交通上の要衝に當り、水脈と鐵路とに依りて百貨の集散を司るのみならず、トンキン幷にフランス領印度支那の首府なり、市街は整備せざるも雜倣細工、紙等の產あり、

ハイホン　ハイホン(海防)(Hai-Phong)(一、八四八〇)は首府を距ること九十三粁にしてトンキン最要の河港たり、盛に貿易に從事す、

ナムヂン　ナムヂン(北寧)(一、〇〇〇〇)はハノイの北東二十六粁にあり、占領史上著名の地なり、ランソン(諒山)(Lang-song)はハノイの北東百二十五粁にありて西江の支流ソンキコンに瀕し交通の要點に當り占領史に名あり、ソンタイ(山西)(Son-tay)は三角洲の頂點を占むる城塞地なり、劉永福の最終根據地として名を知らる、ラオカイ(老開)(Lao-kay)は國境に於ける城塞地にして雲南省の開市河口の對岸にあり、ナムヂン(南定)(Nam-dinh)(三、五〇〇〇)はハノイを距る南西七十五粁、運河の岸にありてトンキン第二の都會なり、城塞を有し農產を

集散し生絲絹布を製す。

アンナム　アンナム(Annam)即ち安南(アンナン)は印度支那半島の極東に當る王國にして北にトンキン、西にラオス、南にコシェンシーヌを控え、東方の沿海方面を除くの外は境界自然的ならず。

フエ(化)(Hué)(五、〇〇〇〇)北緯一六度三四分東經一〇七度三五分は古の比景にして西都順化府と稱す、海を距る十二粁、フォンギアン(Huong-giang)河に跨る、大南國の首都にして王宮は左岸にあり、高等駐在官の居館は右岸にあり、チュアンアン(順安)(Thuan-an)はフエの附屬港なるが船舶の出入碇繫に便ならず、ツラーヌ(Tourane)(茶鱗)はフエ最近の良港にして當國の殖民史上著名の處なり、クイノン(歸仁)(Qui-Nhon)はビンヂンを距ること十八粁、中部アンナム最要の開港なり、ヤン(永)(Viuh)(一、八〇〇〇)はソンカの河口を距る十六粁、沃野の中にありて、ラオス竝通ずる道路の建造以來漸次繁榮し有望の地なり。

コシェンシーヌ　コシェンシーヌ(Cochinchine)は南支那海を南東に控え、西はシァム灣に瀕し、北西はカンボヂア、北はラオス、北東はアンナムに隣接す、南

モイ　バーナル（Mois-Bahnars）の村落

アンゲコル　ワット（Angkor wat）——寺院の正面

西より北東に達する長は約四百五十粁にして幅は百五十粁内外なり。

サイゴン

サイゴン(柴棍)(Saigon)(五、〇八七〇)北緯一〇度四七分東經一〇六度四二分はサイゴン河に瀕す、當殖民地の首府にして印度支那殖民地の重鎭なり、城塞、造船所、等は南部に、鐵橋、新港、等は西部に、市街は中部にあり、道路は廣濶整然たり、ビエンホア(邊和)(Bien-hoa)(一、九〇〇〇)はドンナイ河に瀕し木材、甘蔗を集散す、カップセンジャック(Cap St.-Jacques)はドンナイ河の主口ソイラップの左端に位して砲臺を有す、ミトー(Mytho)(一、五〇〇〇)は前河と郵便運河に沿ひ鐵路に依りてサイゴンに通じ交通上の要區たり、

シオロン

シオロン(Cholon)(一二、九七二一)はコシェンシーヌ最要の市街にして商工業盛なるが、殊に米穀を集散す、コンドル群島はメコン河口を距る約百八十粁の沖合にあり、要塞地たるべく計畫せらる。

ラオス

フランス領ラオス(Laos)(老撾)即ち東ラオスは北西より南東に亘れる狹長の地にして北東はトンキン、アンナムに接し、南はアンナム、カンボヂアに隣し、北西は清國の雲南省と境を交え、南西はメコン河に限らる。

キエンシアス

キエンシアス(Vien-tiane)は又キエンチアヌ(Vien-tiane)とも云ふ、メコン河の左

ナホルワート (Nakhorvât) は俗にアングコルと稱せらる、大湖の北、十八粁にありてクメル時代の遺跡を以て有名なり、プラーマ的佛教の寺院は西紀九世期頃に創建せられ十四世期に至りて中止せられたるが如し、規摸壯大にして各部の配列宜しきを得たり、實に有數の建築物と云ふべし。

岸、支流ナムキエンの河口、北緯十七度五十七分に於ける一邑なり、ラオス統監の居る處なり、有望の地とす、ルアンプラバン (Luang-Prabang)(二、〇〇〇〇)はメコン河とナムカン河との相會する處にありて、交通上の要區たり。

カンボヂア

カンボヂア(柬甫寨) (Cambodje) は印度支那半島の南部に於ける一小王國にしてアンナム、コシェンシーヌ、シァムの間に位し南西の瀕海部の外、境界は概ね人爲的なり。

プノムペン

プノムペン (Pnom-Penh)(五、〇〇〇〇)は一にナムビアン(南旺) (Nam-Vian) と云ふ、サイゴンを距ること二百十粁、四肢流の會する處にある王都にして交通上の要區に位し漸次發達しつつあり、カンポット (Kampot) はプノムペンの南西百三十七粁、プレックトノー河口に位する港市なり、船舶の碇繫に便ならず

境域

◎シァム國

シァム (Siam) 國は一にサヤム (Sajam) と云ひ、漢人の暹羅國なり、印度支那半島の中部にありてタイ部(Thai)とマラッカ半島の一部とより成れり、其のタイ

部は東并に南東にフランス領の地を控え、北及び西はイギリス領のバルマに隣り、南はシァム灣に沿へるが、其のマライ部は東に支那海、西に印度洋を控え、南はイギリス領のマライ保護國に接す、面積は六十三萬三千方粁ありと稱せらるるも、東部にはフランスの勢力圏に屬する處あり、西部、南部にはイギリスの勢力範圍に屬する部分ありて眞の領土と云ふべきはメナムの流域に限られんとするの恐あり。

海岸　海岸は屈曲多からずしてシァム灣は更にバンコク灣を形成せり、地角には リアント岬、北東岬、南岬あり、島嶼にはコークット、ペンナン、サムイー、トンタラム、テンカキ、テルト、サランあり、地峽はクラ、リゴルを以て著しとす。

山岳　東チベットより扇骨狀を呈しつつ南走する山脈中にタネンタウンギイ山脈あり、メチアン山脈と成り、ムライキット山（一六七六）を出現せしめたる後、テナセリム山脈に連せり、又マラッカ半島の脊骨山脈は顯著なる山岳を呈せずして數ヶ處に缺陷あるが殊にクラ地峽に於ては二十五米突に降れりと雖も、而して北及び東に於てメナム河とメコン河の流域を劃する山脈には稍、著しき海抜を有するものあり。

河湖　主要なる河流はタイ部の西部にメナム（一二〇〇）タチン、メクロン（Me Klong）（四〇〇）等の數流ありてバンコク灣に注ぎ、東にはナムシ、ナムムンありてメコン河に入る、湖沼はトンレサプの外著しきものなし。

メナム河　メナム（湄南）（Menam）河は長さ一千二百粁に逸す、水源をムオンナンの北方に發しメピン河を容れ緩流してタチン河に通じ、數派に分かれバンコク、パタナムを經てバンコク灣に入る、左河に流勢の緩なるのみならず潮汐の影響を蒙るを以て交通上の利便甚だ多し。

地勢　山脈は其の海抜著しからず、メナム河畔には稍、廣き平野あり、土壤肥沃にして頗る稼穡に適するも拓殖に就きたるは其の中流地方と河口に於ける沖積地とに限り、國土の大半は荒蕪の地なり、是れ住民の怠慢無氣力なるが爲めにして現時の耕地は全國の二十分の一だにも達せざるべし。

氣候　氣候は熱帶的なるも海岸は涼風の爲め、內部は降雨の饒多なると地勢とに依り暑氣和ぎ人體を害すること少なし、氣温の年平均はバンコクにて約二十七度なるが、稀には晝間三十六度に達す、風に就きて南西季候風は雷雨を

齎らし、北東季候風は乾燥ならしむるが、九月より十二月に至る涼季は天氣晴朗にして愉快の時なり、雨量はバンコクにて一米突六七なるが其の五分の四は五月より十月に亘りて降下す。

沿革

住民

古代にありては當國はラオス人の占居に係りしが、印度より渡來せしクメル人は優秀の文化を齎らして侵入し一時は盛を極めたるが如し、然るに四紀五六世期頃北來のタイ即ち自由の意はメナムの流域中に南漸してヒンアヘロク、ラヘン、ナホンサワン、アユジア等を建設したり、五世期に亘る混戰の後、タイは勝を制したるもパルマ人の爲めに二回一五五五の大敗を取りたり、四人の始めて此の地に現出せしは第十六七世期の頃にしてポルトガル人牛にフランス人は宣教を試みたり、ルイ十四世在位の頃不結果なる干渉を試みし後は四人の此の地に對する企圖殆と其の跡を絶ちたりしが第十九世紀に至りて、イギリス人、フランス人、ドイツ人は爭ひて使節を送りたり、爾來外交漸く不穩にして一八九三年のフランスとの條約と成りて中立帶の現出を見、イギリス、フランスの協商(一八九六)、一九〇二年及び一九〇四年のフランス、シアム條約等に依りてシアム人、ラオス人、シアン人の外にカンボヂア人、パルマ人等あり、支那人の來住するものは毎年四五萬人あり、總人口の三分一内外を占むるシアム人はタイ族中にありて文化の進みたるものなるが風俗習慣は印度的にして政治、法律等は支那風を帶べり、宗教は佛教最も行はれ、四千七百餘の寺院に五萬八千餘の僧侶あり、教育には見るに足るものなけれども漸次好況を呈せざるにあらず。

人口は六百三十二萬人にして

政治

シアンタイ(Muang Thai)即ち自由王國は君主專政の國なるが西洋風の政體を模倣せり、内閣は外務、内務、軍務、財務、法務、警務、教育、農務、工務、宮内等の諸省の長官より成り、別に參事院を設けて法律の制定に預からしむ、地方の行政に關しては本土と屬地とに分かれ、本土即ちシアムは一府五十八郡に細分せられ、屬地はカンボヂア諸州、ラオス州邦、シアン諸邦、マライ諸邦の四に分たる、陸兵は平時に一萬二千人あるが海軍も亦振はずして二巡洋艦、七砲艦は合はせて五千噸なるのみ、財政は一九〇五―〇六年の豫算に依れば歳入に約五千三百六十二萬「チカル」ありて歳出は五千二百八十七萬「チカル」餘に過ぎず。

生業

漁業の利は少なからざるも獵業は著しからず、牧業は牛、馬、象の外、豚、綿羊、山羊、鷄等を飼養し、林業は「チーク」を與ふるが、採伐未だ盛ならざるも良

バンコク

材多し、農業は主として米(年平均百三十萬噸)を産し胡椒、珈琲、煙草、麻、綿等各種の農産物あり、鑛業は盛況を呈するに至らざるも砂金、錫、鐵、鉛、銅等あり、工業は數百年來進歩することなく絹綿の紡織、金屬器の製作等に從事するのみ、貿易は一九〇五年に於て輸入に六千八百七十六萬九千「チカル」、輸出に一億三百十三萬「チカル」あり、主にシンガポール、香港、イギリス等と取引し主要輸出品は米(七九〇六)、チーク(一四三七)、皮(一二一)、胡椒(九四)なりとす、而して船舶の出入の如きも六十八萬噸内外に止まり、商船は十六隻五千餘噸、鐵道線は六百四十八粁、郵便局は百十一、電信線は五千二百九十粁にして交通機關は發達せざるなり。

バンコク(盤谷)(Bangkok)(四〇、〇〇〇)北緯一三度四六分東經一〇〇度二九分は宗教名をスアナグリと云ひて西紀一八六八年以來の王都なり、市街はメナム河に跨れるが東岸にあるものを要部とす、シャム灣を距ること約三十粁にして周圍十四粁の島嶼を爲し城壁を繞らせり、廓内には王宮を始めとし官廳、公署、邸第、寺院等あり頗る壯觀なりと云ふ而して西岸に沿へる浮店は無數の河舟と共に當市の

バクナム

クルンカオ

活動と富力とを表せるが普通の住屋は茅舍多し、運河堀割は縱橫に通ずるも道路は甚だ少なし、船舶の出入は頗る繁にして盛に百貨の集散に從事するが商權は主として支那人の掌中にあり、住人は四十萬乃至六十萬と概算せられ支那人(十萬)、シャム人(十八萬)、ラオス人(五萬)、ベグー人(二萬)、等より成れり。

バクナム(巴克南)(Pak nam)はメナムの河口左岸にあり、バンコクを距ること二十五粁の附屬港にして寺院多し、要塞地としては三ヶ處の砲壘を有し、王都を距る十二粁に於けるバクラト(Pak lat)と共に國都の防禦線に當れり

クルンカオ(Krung Kao)は五萬の住人ありと稱せられ商業の地なり、附近に野象多く王室の御獵地あり、ラヘン(Raheng)(二、〇〇〇)はバンコクの北北西三百七十五粁、ナビン河畔にあり、市街繁榮なり、チャンタブン(Changtabun)はタロン河の左岸に位し、河口の錨地バクナムチャンタブンを距ること二十粁にして一萬足らずの住人を有する商業地なるが一八九三年以來フランスの占領せし處なり。

ナホルワート(Nakhorvat)は俗にアングコルと稱せらる、大湖の北十八粁

キエンマイ

にありてクメル時代の遺蹟を以て名高し、コラット(科拉持)(Korat)(一、〇〇〇〇)はバンコクを距る二百二十三粁、メコン地方に達する道路に當れり、城塞を有す、キエンハイ(Xieng hai)はメコンの支流メホックに瀕す、交通上の要區にして雲南とラオスとの直通路に當り商業稍盛なり、キエンマイ(Xieng-mai)(五、〇〇〇〇)はメピンの上流に位しシャム及びラオスとの重要商業地の一にして殊にマウルメインとの取引甚だ盛なり。

◎イギリス領

イギリス領は海峡殖民地、マライ保護國、ジョホル、バルマ、アンダマン列島、ニコバル列島等より成り、地積は七十五萬方粁に餘り、人口は一千二百萬以上に達すと云ふ。

バルマ　バルマ(Barma)即ちビルマ(Birma)は印度支那半島の北西部を占め、北西は印度のアッサム及びベンガルに隣し、北はチベット、北東は雲南省に連なり、東はフランス領及びシャム國と境を交え、南より西は海に瀕し、面積は六十一萬方粁以上あり、海岸は單純に非ざるも屈曲に富めりと稱し難し、海灣にマルタバン灣、ベグー(バルマ)海あり、岬にネグライスあり、島嶼にメルギー群島アンダマン列島、ニコバル列島等あり、山脈は其の方向簡單にして、タネンタウンギイ山脈、コカリト山脈(ムカイ山、三〇〇〇)、シアンヨマ山脈、ベグーヨマ山脈、アラカンヨマ山脈の外尚數脈あり、河流は北流してブラマプトラに入るものあるも、サルヰン、イラワヂ、シッタン、コラダン等概ね南流してバルマ海に注げり、地勢一般に高隆ならず、大河の三角洲は概ね平低なり、氣候は概して熱帶的なるがイラワヂ上流地方は寒暑乾燥共に一歩を進め、沿岸山脈の外面は雨量多し。

太古のことは明瞭ならざるが若干の小佛教國ありて覇權の掌握を爭ひしものの如し、一七五二年ベグー人全土を平げしに翌年アロンプラ興りて國勢振ひしがイギリスと兵を交ゆること三回、遂に一八八六年を以てバルマ王國は亡びたり。

人口は一千四十九萬餘人ありて一方粁十七人の割合なるが其の大部はバルマ人にして其の他にカキエン、ラハインタ、カレン、タライン等の數種族あり而して信教上は主として佛教を奉ず、此の地は印度帝國の一部を爲し副總督の管理する所なり、生業の中最も注意すべきは農にして多量の米を出だし林業は「チーク」を與へ、牧業、漁業にも見るべき者あり、又寶石類の産少なしとせず。

ラングーン

マウルメイ

マンダレイ

バモ

ラングーン(Rangoon)(蘭貢)(二三、四八八一)北緯一六度四六分東經九六度一一分はバルマの首府なり、イラワヂの分流に瀕し大船巨舶と雖も自由に出入するを得、商業上當地方の中心を爲し大に米穀を輸出す、バッセイン(Bassein)(三、〇〇〇〇)は同名の河に瀕して亦米の輸出あり、プロメ(Prome)(三、〇〇〇〇)は米產地にありて商業上、軍事上の一要地たり、マウルメイン(Maulmain)(五、八〇〇〇)はサルヰン河の左岸に位し木材を輸出す、マンダレイ(Mandalay, Mandelay)(一八、三八一六)はイラワヂ河を距ること四粁、ラングーンを距る六百二十一粁にあり、舊とバルマ王國の首都たりし處にして市況繁華なり、バモ(Bahmo)(五、〇〇〇〇)はイラワヂ河畔に位し支那の國境に近き交通の要地なり。

アンダマン＝ニコバル

アンダマン(Andaman)、ニコバル(Nikobar)の二列島はネグライス岬の南西に位し、地積合はせて八千百四十方粁、人口凡そ二萬五千人ありて印度帝國の一州たり、氣候炎熱にして熱帶植物繁茂す、一八五八年以來アンダマン列島は流刑場に充てられ、南アンダマンの東岸に於けるポートブレアは廣濶なる灣を有し灣口のロッス島は知事の居住地なり。

海峽殖民地

海峽殖民地(Straits Settlements)はシンガポール島、ピナン島、マラッカ、等より成りて三千九百五十二方粁の地積と約六十萬人の住民をと有し本國の直轄に屬す、農產には胡椒、「タピオカ」、米、砂糖、等あり、貿易は一九〇四年に於て約三億六千八百八十二萬「ドル」の輸入と三億一千四百五十一萬「ドル」足らずの輸出とを示し、船舶の出入は一千六百七十萬噸に近く實に盛なりと云ふべし、鐵路も四百粁以上あり。

シンガポール

シンガポール(Singapore)島はスマトラ島とマラッカ半島との間に於ける海峽中にありて半島部と相距ること最も狹き處に於て約八百米突なり、島の長さ四十三粁、幅二十三粁、面積五百三十四方粁ありて最高處は一五八米突に過ぎず、本島は一八二四年ジョホールより購入せられしものなるが、島の南東端に市街ありシンガポールと云ふ、氣候の炎熱なるに拘らず健康に適すると世界屈指の良港を有するとに依り遂に今日の盛況を呈せり、住民は二十三萬に達し其の過半は支那人にしてマライ人之に次ぎ市內には政廳、各國領事館、植物園、動物園、等見るに足るものあり、港は自由貿易港として日本、支那、印度、ヨーロッパ、等に對し深き關係を有するのみならず、交通の要樞たり、我が

横濱を距ること二千八百七十浬なり。

マラッカ(Malakka)は海峡に面し、長さ六十八粁、幅十三粁乃至四十粁あり、海岸は低きも内部に高く米、「タピオカ」、胡椒、果物、錫の産あり、往時有名なりしマラッカ港は今は衰微を極む、ピナン(Penang)島即ちプリンスオブエールス島は半島を四に距ること三粁乃至十六粁の沖にある小島(二七七方粁)にして其の五分の三は丘陵地なり、首府ジョージタウンは交通の要地なり、對岸のエレズリー(Wellesly)(六九五方粁)并に南百二十九粁に當りて半島の西岸を占むるザンザル(Dinding)も海峡殖民地の一部にして、スマトラ島の南西一千百三十粁に於けるキーリン(Keeling)諸島即ち椰樹島(二二方粁)、同島の東に於けるクリスマス(Christmas)島(一〇二方粁)も亦イギリス領なり。

マライ保護國　マライ保護國は半島の大部を占めて七萬方粁の面積を有しペラー(Perak)一、九〇〇方粁、三八、一五〇人、セランゴル(Selangor)二、八〇〇方粁、一一、六九二人、ネグリセムビラン(Negri Sembilan)及びスンゲイウジョン(Sungei Ujong)一、七〇〇方粁、八、五〇〇人、パハン(Pahang)三六〇方粁、七八三〇人の諸國より成り、各邦は「ラジァー」を君主に頂けるが一八九六年以來駐在官の支配の下にありてシンガポール知事に隷し、錫を以て最要の物産とす而して珈琲胡椒、甘蔗、米、木材等も産出す、保護國最大の都會はクアラランプル(Kuala Lumpur)(一一、二三八一)にしてセランゴルにあり、鐵路に依りてケラン港と通ず。

ヂョホール(Djohore)はマラッカ半島の南端に位し、面積は一萬八千方粁、住民は二十萬人と算せらる、一八八五年以來「スルタン」の外交はイギリスの代表する所にして「ガンビル」、胡椒、「セゴ」、茶、珈琲、等の輸出あり、首都ヂョホールバール(Johore Bahru)(一、五〇〇〇)はシンガポールの北西二十四粁に位す。

◉マライ群島

境域　マライ(馬來)群島はマライシア(Malaisia)又はインドネシア(Indonesia)と稱せらるることあり、アジア洲の南東に沿へる一大群島にして東西凡そ三十八度(東經約九十五度、同凡そ百三十三度)、南北凡そ三十度(北緯凡そ二十度、南緯凡そ十一度)に亘り、約八百萬方粁の疆域を占むるも地積は二百餘萬方粁に過ぎず。

區劃　海深、氣候、生物等の見地よりして本群島は支那馬來(Sino-malais)(一九、一四四八方粁)、印度馬來(Indo-malais)(一三四、五三二九)、南方馬來(Austro-malais)の三部に區分するを得るが支那馬來と印度馬來との二部を合はせてアジア馬來即ちマライ群島としてアジア洲に入れ、南方馬來をマライシアと稱してオセアニア洲に屬せしむるも可なり。

I、支那馬來　フィリッピン群島　スールー列島

II、印度馬來　スマトラ群島　メンタエイ列島　リウ群島　リンガ群島　バンカ島　ビリトン島　アナンバス諸島　ナツナ島　ボルネオ島　パラワン島　カラミアヌ諸島　ミンドロ島　ジアバ島　バリ島

III、南方馬來　セレベス島　サンヤ諸島　モルッカ群島　ソンダ列島　チモル島　南西群島　南東群島　ケイ諸島

火山　本群島は世界屈指の火山地方にして島嶼の形成の如きも火山の存否に依りて大に其の趣を異にせり、而して火山質の山岳は二脈を爲すべく分布せらるるが、其の一はジアバ、スマトラ、等の諸島を貫通し、其の二はモルッカ群島より起りセレベス島の北端を經てフィリッピン群島に入り、北の方、我が臺灣島に趣けり、六十有餘の活火山幷に數百に達せんとする休熄火山は合はせて八千粁の線上に亘り、地震區域は該線に跨りて其の廣袤甚だ大なり、而して火山の多きはジアバ島を第一としスマトラ之に次ぎフィリッピン群島にも數多あり、然るにボルネオ島の如きは本群島の最大島なるに拘らず殆ど火山の痕跡をも認めず。

氣候　本群島が回歸帶にあるに拘らず、氣溫は常に二十六度内外を保ち最高と最低との差は僅に二度あるに過ぎず、又雨量は土地の高低に依りて著しき差異あるも概ね乾燥に失することなく到る處に森林蓊鬱たり。

住民　住民はマライ亞種に屬するマライ人、インドネシア人、黑色人種に屬するパプア、ネグリトの四群に分かる、マライ人は大多數を占め文化の度稍高く百業を務むるに適するも氣力乏しきを遺憾とす、インドネシア人之に次ぎて内部の山間に住し、未だ蕃風を脫するに至らざるネグリト及びパプアは極めて少數なり、又西洋人にして本群島に住する者は多からざるが、中に就きてオランダ人は六萬人と算せられ、アジア大陸より來住せるものの中、支那人は漸次增加して七十萬に達すべし。

沿革　マライ人が舊來の住民中にて一頭角を拔ける實ありて殊に通商の爲め太平及び印度の兩大洋を航行し、西はマダガスカルに及び東はポリネシアに達せしが未だ嘗て一大帝國を組成せざりき、西洋人の始めて當地方に現はれたるは西紀十六世期の頃にしてポルトガル人はソンダ近海に出沒し、肉荳蔻の輸入を試み(一五二一年マルッカ群島の占領に關してエスパニアとの爭議の外、結局一世期間は安穩無事

の獨占者なりしが、オランダ人の爲に次第に彊域を縮退せしめられ、オランダ人は漸く旺盛の域に進みしも第十八世期の終に强敵イギリス人の爲に漸次蠶食せられたり、又アメリカ人はエスパニアに對する勝戰の結果としてフィリッピンを領有するに至れり。

分國 マライ群島の政治上の區分に就きてはアメリカ合衆國に屬するフィリッピン二九、六三一〇方粁 七六三、五四二六人 とオランダ一五二、〇六二八方粁、三七四九、四〇〇〇人 イギリス二〇、四八六〇方粁、五五、八四一一人 ポルトガル一、六二四八方粁、二〇、〇〇〇〇人 に分屬するインシャリンドとに大別するを得。

◎フィリッピン

境域 フィリッピン (Philippine) はマライ群島の北部を占め、フィリッピン群島、パラワン (Palawan) 及びスールー (Sulu) の二列島、三千一百有餘の島嶼より成り、フィリッピン群島は北にルソン (Luzon)、南にミンダナオ (Mindanao) の大島を有し、其の間にビサヤ (Visaya) 諸島 サマル、レイテ、パネイ、ネグロス、等 を抱括して北より南東に亘り、パラワン列島は南西にありてスールー列島は南方にあり、地積は約三十萬方粁とするの不可なるを見ず。

地震 フィリッピンは世界有數の地震地方にして震災を蒙ること屢々なり、マニラ市の如きは一八六三年の大震に西洋風の建築の殆ど全部を失ひ、一八八〇年の烈震の際には改築宜しきを得たるが爲め僅に災害を減少するを得たり。

氣候 氣候は海洋性熱帶候なり、溫度 マニラの平均二七度六 最高三六度、最低一五度 の變化は微少にして季節の別を爲すに足らざれども風向の變動は乾候と濕候との別を生ず、毎年十月より四月に至る主風は北東より來り、四月より十月までの半歲は南西と成り風向の變ずる際には颶風「バギオ」(Baguio)の起ることあり。

天產 植物には「マグコノ」(Xanthostemum verdugonianum)、菩提樹、肉桂、丁香樹、胡椒、椰樹、檳榔樹、等あり、動物には巨大なるものなく猿猴類、野猫、野猪、水牛、鶉鷄類、蛇類、等あり、鑛物には富まざるも金、銅、鉛、鐵、硫黃、大理石、陶土、石油、等を有するものの如し。

沿革 フィリッピンが西洋人に知られしは一五二一年有名なるマガリアネスの探檢に始まれり而して此の地に對するエスパニアの殖民事業の進捗せしはフィリップ二世統治(一五五五—九八)の際にして、漸次領有を確實にせしが、其の後、爭亂相繼きで寧日な

く治績を擧ぐるに遑あらざりき、然るにスールーの獲得(一八七六)ありて一新期を開かんとせしも母國とアメリカ合衆國との間に突戰あるや其の結果パリー條約(一八九八)と成りアメリカの保護の下に獨立せんとせしアヒナルドの計畫は失敗に終れり。

住民

人口の總數は七百萬人にして一方粁二十四人の割合なり、種族に就きて住民の大部分を占むるはマライ派のローマ公教徒或はマホメット教徒なるがタガル、ビサヤ、ビコルも少なからず、此の他にインドネシア派のチングイアヌ(ルソン)、マノボ(ミンダナオ)等あり、雜種人あり、支那人(十萬)の勢力は頗る大にして白人は多からず、言語は歷史的關係に依りてエスパニア語最も廣く行はれ、土語の中にてはビサヤ語を主なるものとす、又來住者の數は一九〇四—一〇五年に約二萬六千人ありたり。

政治

アメリカ領なるフィリッピンの中央政府は行政長官たる總督と立法圓とより成り內務、財務及司法、商務及警務、敎育の四省を有す、地方は四十州に分たれ二萬餘の兵を備ふ、一九〇四—一〇五年の歲入は六千百五十萬餘、ペソにして歲出は六千六百七十七萬餘、ペソなりとす。

鑛業も多少の生產を與へざるに非ざるも最も重要なるは農業にして米、甘蔗、殊に「アバカ」、煙草の產あり、此の外、珈琲、綿等の栽培あり、牧業は水牛、牛、馬、豚、軍鷄、鵞等を與ふ、貿易(一九〇四—一〇五年)は漸次發達して貨物の輸入は凡そ三千八十七萬「ドル」(金)、輸出に三千二百三十五萬「ドル」(金)あるが、輸入先は印度支那(五九六)、アメリカ(五七六)、イギリス(四八四)、清國(二九四)、イギリス領印度(二一〇)等を主とし輸出先はアメリカ(一五六六)、イギリス(八二九)、香港(二三六)、フランス(一四九)、エスパニア(一四二)、清國(一〇〇)を主とす、而して主要輸出品はマニラアサ(二二一四)、砂糖(四九七)、コプラー(二〇九)、煙草(一九七)なりとす、又入船は四百十萬噸を超え、鐵道には二百五十粁あり而して太平洋橫斷海底電線にして本群島に揚陸せられたるものあり。

ルソン島

ルソン(呂宋)島はフィリッピン群島第一の大島にして地積は十萬二千七百方粁に近く海岸には屈折少なからずして島內起伏多く山脈は概ね南北に走れるが各處に火山噴出しマイヨン(Mayon)(二三七四)、タアル(Taal)(二三四)等殊に名あり、河流はカガヤン(Cagayan)(三五〇)、アグノ(Agno)パンパンガン(Pampan

マニラ
ラオアンガリパ
バタンガス
ピサヤ諸島
イロイロ
セブ

gan)、バシグ(Pasig)等著はる。

首府マニラ(Manila)(一一、九九二八)北緯一四度三六分東経一二〇度五八分は卵形の一大灣に瀕しパシグ河に跨れり、城塞は左岸にありて官衙、兵營、寺院等多く右岸には殷賑なる商業街あり、本市は商業地として優良なる位置を占むるが工業の顯著なるものは煙草の製造なり、リンガイェン(Lingayen)(一一、三一〇〇〇)は同名の灣底にありて地方の農業を集散す、ラオアング(Laoang)(三、四四五四)は島の北西端附近にありイラカノスの流域の農產を賣買す、リパ(Lipa)(三、七九三四)はマニラの南南東七十五粁豐饒の地にありて盛に「アバカ」布を製す、バタンガス(Batangas)(三、一三一)はサンベルナルヂノ海峽の西端に於て優勝の位置を占め木材、農產物等の輸出あり。

ピサヤ諸島はルソンとミンダナオとの間にありてサマル、レイテ、ボホル、セブ、ネグロス、パネイ、其の他の小嶼より成れり。

イロイロ(Ilo-ilo)(一、九五〇四)はパネイ島に於ける開港にして砂糖、「アバカ」等を輸出す、セブ(Cebu)(三、一〇七九)はセブ島の開港なり、パネイの米、レイテの「アバカ」、ミンダナオの蠟、籐、ボホルの砂糖、煙草を集散す、アルガオ(Argao)(三、五四四八)はボホル島の一都會なり。

アルガオ
ミンダナオ島
パラワン列島
スールー列島

ミンダナオ島は群島第二の大島にして九萬六千三百十方粁の地積を有し北岸及び南岸には深き灣入あり群島の最高峯たるアポ(Apo)火山(三一四五)は本島にありて河湖に豐富なり首邑ザンボアンガ(Zamboanga)は島の南西端にあり、プツアン(Iligan)はアクサン河の下流にありて有名の航海者マガリアネスが本群島に至りし時始めて上陸を試みたる地なり。

パラワン(Palawan)列島はカラミアス、パラワン、ガウマラン、バラバグの諸島より成りパラワン(九七九〇方粁)長四四五粁幅二二粁は土地佳良なるも人多からず首邑をプエルトプリセザと云ふ。

スールー(Sulu)列島は一にホロ(Jolo)群島とも云ふ、バシラン、スールー、バンガタラン、タプル、タウイタウイの五群より成り三千七百三十九方粁の地積と約十五萬の人口とを有す、イサマラ、スールーの二邑著はる。

◎インシュリンド

インシュリンド(Insulinde)島印度の意は數多の島嶼より成りて北緯六度と南緯

十一度十五分との間に位し東西は九十五度乃至百四十一度に亘れり、島嶼は左記の如くなるが殆ど全部を擧げてオランダ領なれどもイギリス、ポルトガルに屬する處あり。

ボルネオ島　ナツナ諸島　アナムバス諸島　リウー群島　リンガ群島　バンカ島　ビリトン島　大ソンダ列島（スマトラ、ジアバ、マヅラ、バリー）　小ソンダ列島（ロンボック、スンバワ、フロレス、ソロル、アロル諸島、スンバ島サブ、ロッチ、ナモル）　メンタエイ列島　シラバブ諸島　サンギ諸島　セレベス島　モルッカ群島　南西群島　南東群島　ケイ諸島

其一　オランダ領

オランダ領印度は新ギニアを合はせて東印度と稱せられ、百九十二萬方粁弱の地積と約三千八百萬人の人口とを有す、總督はオランダ皇帝を代表して君臨し土俗之を大君と敬稱す、陸海軍を統督し本國々會の議決せる法律を布き職權内に於て布告、規定、等を制定す、地方の行政に就きては土地を直轄地、附庸地、聯合地の三種に分ち、ジアバ＝マヅラを本土若しくは内領と認めその他の地を外領と稱す、陸兵は三萬七千餘人、兵艦は二萬八千餘噸あり、財政に就きては一九〇六年の豫算は歳入一億五千二百萬グルデン餘を示せり。

東印度殖民地は熱帶に位し植物の繁茂盛にして種々の農產物あるのみならず、亦鑛產多く西洋風の工業も多少行はるるなり、貿易は一九〇四年に於て輸入に凡そ二億七百八十五萬グルデンあるが輸出は二億九千六百五十一萬グルデン近くありて砂糖（八四一二）、煙草（四三九七）、珈琲（二〇五五）、錫（二〇〇）石油（一八六〇）ゴプラー（一三〇四）等より成る、入船は八百四萬七千佛噸に達し商船は三十四萬佛噸を超え鐵道に二千三百六十粁、郵便に千五百十七局、電信線に一萬八千二百餘粁、電話線に三萬五千餘粁あり。

内領

ジアバ（Java）＝マヅラ（Madura）二一三、一五〇八方粁は内領と稱せらるる、ジアバ島は長さ一千粁、最大幅百九十五粁あり、海岸線は三千五百三十粁に達するが、北岸は平低にして彎曲少なく商岸は絶崖多く島嶼乏しく港灣少なからず土地は起伏甚しく殊に西部、中部は山岳に富み風色秀麗にして

禿赭の地極めて稀なり、火山の總數は四十五座と算せられ、ガルングン(Galunggung)、メルバブ(Merbabu)(三一〇六)、ブロモ(Bromo)(二五七七)等は活火山なり、地震は多きも强激なるもの稀なり、土地狹長なるに拘らず本島の北斜面には流域の著しき水脈あり、タルム(Taroem)(一四〇)、ソロ(Solo)(五〇〇)、ブランタス(Brantas)等之なり、氣候に就きてバタビアに於ける觀測に依れば氣温は極めて變化に乏しく暑月は五月(二六、三)、寒月は一月(二五、二)にして雨量は年二〇七糎なり而して十二月より三月までは南西風、五月より九月までは北東風なり、植物に就きて樹木の壯觀を呈するは六百乃至二千米突の地なり、動物には「ネズミシカ」、犀、野牛、虎、鰐、食火鷄等あり。

ジャバ島の歷史はバラモン教並に佛教傳來時代(西紀前一—二世期)、マホメット教徒優勢時代(十二世(期以後)、西洋人渡來時代(十六世(期以來)の三期とせらる、十六世紀の始めポルトガル人來りて數々處に貿易場を設けしが一五九六年ホウトマン始めてバンダンに到達し東印度會社の設立(一六〇二)、ヂアカトラの開設、等ありて漸次にオランダの勢力擴張し一時イギリス人の占據(一八一〇—一五)せしことあるも開來オランダ人は安穩の中に本島を所有す。

バタビア(Batavia)(一一、五八八七)(南緯六度八分東經一〇六度四九分)は土名をジャカトラと云ふ、東印度の首府にして若干の市街の集合より成るが、其のタンジョンプリオ(Tandjong Priok)は新設の港にして船舶の出入に便なり、住民は土人(七、七七〇〇)、支那人(二、六八一七)、西人、其の他より成れり、ダンゲラン(Tangerang)(三、〇〇〇)は首府の西にありて帽子、敷物、等の竹細工を製す、ボイテンツォルグ(Buitenzorg)は海抜二六五米突の地にありて宏大なる植物園を有し事實上の首府なり、セマラン(八、九二八六)(Semarang)は海岸より二粁の地にあり、三大市場の一にして砂糖、珈琲、煙草、印度藍、等を集散す、スラカルタ(Soerakarta)(一〇、九四五九)は本島第二の都會なり、ソロ河の支流に瀕す、スラバヤ(Soerabaja)(一四、六九四四)は東ジャバ第一の都會、本島屈指の市場にして造船に從事す、市街はブランタ河の左岸に位しトレクタル海峽に優良なる港を控ゆ。

セマラン

スラカルタ

スラバヤ

スマトラ島

外領

スマトラ(Sumatra)島。四二、〇三八二方粁三一六、八三一二人はマライ群島第二の大島にして西に印度洋、北にバルマ海、東にマラッカ海峽、南海、ジャバ海を控え、南はスンダ海峽に面し長さ一千七百六十粁、幅百六十乃至四百粁あり、印度洋に

面する地は彎曲に乏しく概ね平低なるが内海に接する處は屈折稍多く絶崖少なからず、急峻なる山脈は西岸に屹立して全島を貫き、六十六座以上の火山を有しアポング(三四〇〇)、シノボング(三七〇〇)等名あり、而して東方に向ける地には沖積平野多くしてインドラギリ(Indragiri)、ヂャンビ(Djambi)、パレンバン(Palembang)(ムシ)(三五〇)等灌漑航通の便を供する河流に乏しからず、氣候は炎熱を感じ雨量一般に多く地味甚だ肥沃なり、天産には猩々、猿猴、鰐魚あり、コリアンダー、檳榔、バンノキ、肉桂あり、金、石炭、石油あり。

アチエー(Atyeh)(二、〇〇〇)は同名の一國の首都にして海を距ること約五粁アチエー河畔に位し盛に胡椒を輸出す、附屬港をオレーレー(Oleh-leh)と云ふ、パダン(Padang)は西岸第一の繁華なる土地にして珈琲の集散に從事し本島屈指の市場たり、コック(Kock)はパダンの高地に據れるが堅固の要塞地なり、パレンバン(Palembang)(五、三七八八)は本島第一の都會なり、海岸を距ること一百粁の地にありてムシ河に跨り船舶の來往繁くして煙草、米、ゴム、グタ、等を集散す。

バンカ島

ビリトン島

ボルネオ島

バンカ(Banka)島(一、一五八七方粁 一〇、六三〇五粁)は海峽を挟みてスマトラに對す、錫の産地として著はれムントク(Muntok)港を有す。

ビリトン(Billiton)島(四八四二方粁 四、三三八六人)は錫鑛の發見ありしより住人增加せり、タンヂョン、パンダン(Tandjong pandang)は交通上の要衝に當り有望の地とす。

ボルネオ(Borneo)島はマレイ群島(Malay)第一、世界第三の大島にして南北一千二百五十粁、東西一千一百粁ありて、面積は七十三萬乃至七十八萬方粁あり、北東部は多少屈曲せざるに非ざるも、海岸線は六千四百二十粁の延長を有するに過ぎず、山脈は北東に於けるキナバル山彙(三六〇〇乃至四一〇〇〇)丼に南東に於けるタナーラウト山脈を除けば概して東西に走り、別に孤立せる山脈丘陵ありて四條の分水山脈を爲しバリト(Barito)(一〇五〇)、マハッカム(Mahakkam)(九六〇)、カプア(Kapua)(八〇〇)、レヂアン(Redjang)(五〇〇)、カハヤン(Kalayan)(五五〇)の五大流域を形成す、バンヂェルマシンに於ける各月平均は二十五度七乃至廿七度七にして年平均は廿七度二なり、全島到る處雨多くし夜間の濕氣甚だ強く不健康地なり、而して植物は盛に繁茂して「マングローブ」「ココヤシ」、檳

バンヂェルマシン

セレベス島

榔「セゴノキ」、竹、籐の類あり、動物には猩々、象、犀「ギボン」(Hylobates Müller) 熊、虎、鯪、鯉、金絲燕あり、鑛物には石炭、鐵、水銀「アンチモニー」、金、金剛石等あり。

住民は數多の種族より成れるも、主要なるものはインドネシア派のダヤクにして生熟の差あるも沿海地以外全島に居住せり、本島はオランダ、イギリスの兩國に分屬するがオランダ領の地は其の大部に當り西ボルネオ（一四、五一九五方粁、四一、三〇六七人）南及び東ボルネオ（四〇、八一四五方粁、七一、六八二二人）の二州を爲せり。

ポンチアナック(Pontianak)(一、五〇〇〇)はボルネオの西岸に位する自由港なり、バンヂェルマシン(Bandjermassin)(五、一八三〇)は全島第一の都會なり、バリト河の支流マルタプラ河に跨りインシゥリンド屈指の商港たり、サマリンダ(Samarinda)(一、〇〇〇〇)はマハッカム河に沿ひ籐「グタペルカ」、木材、蜜、燕窩、等を集散す。

セレベス(Celebes)島（一二、八四七八方粁、一四三、六〇〇〇人）は狹長なる四半島より成る一奇島にして北東端より南端まで一千三四百粁あり、海岸は概ね平低にして接觸に不便ならず、土地高隆にして山岳に富み活火山存在し地震多し、河流は大な

マカッサル

アンボイナ島

北ボルネオ

ラブアン

らざるが湖沼多く、本島は同温線二十五度乃至二七度五の間にあり、島の内部には若干の獨立地あり、マカッサル(Makassar)(二、一三九九)即ちマングカッサル(Mangkassar)は優良なる自由港を有し「ラカラワ」油(マカッサル油)、珈琲、等を輸出す、メナド(Menado)(一、〇〇〇〇)はセレベス島の北東にあり自由港を有す。

アンボイナ(Amboina)島はモルッカ群島中の一小島にして自由港たるアンボン(Ambon)は丁香、肉荳蔻、等を集散す。

其二　イギリス領

イギリス領はボルネオ島の北部より西部に亘りて北ボルネオ、ラブアン、ブルネイ、サラワックの四部より成れり。

北ボルネオ(North Borneo)（八、〇五六一方粁、八、〇〇〇〇人）はボルネオ島の北部を占め約一千五百粁の海岸線を有す、土地は北ボルネオ特許會社に屬し知事はサンダカン(Sandakan)に居りて九州を管理す、住民は沿岸にマライ人、アラビア人より成れるマホメット教徒多く内部に土人あり、貿易高は七百二十萬「ドル」にして蜜蠟、燕窩、椰子、「セゴ」、等を輸出す鐵道、電信、等の利便も多少有せり。

ラブアン(Labuan)（七八方粁、八四一一人）はボルネオの北西岸にある小島なり、一八九

○年を以て北ボルネオ會社の兼轄と成りてポートビクトリア(Port Victoria)ポートラッフルス(Port Raffles)の二港を有す。

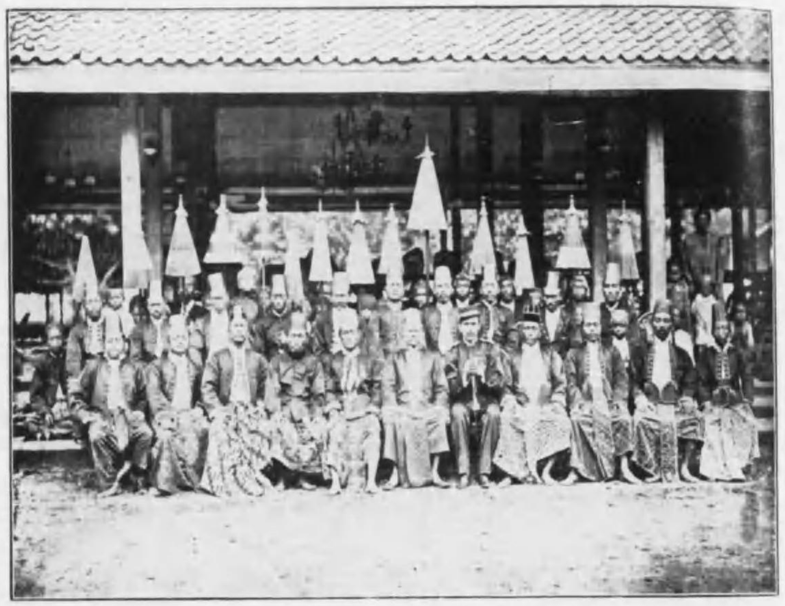
ブルネイ(Brunei)國、二、一、〇〇〇方粁はボルネオ島の北岸にありて一八八八年以來イギリスの保護を受け、住民は二五、〇〇〇人は漁業、農業に從事す、首邑ブルネイ(一、二〇〇〇)は双物、銅器を製す。

サラワック(Sarawak)國、一〇、三二二方粁はボルネオ島の北西部を占め貿島は輸入に約五百四十八萬「ドル」、輸出に七百五十七萬三千「ドル」あり、首邑カッチン(Kuching)は海岸を距る三十七粁に位し君主「ラジアー」(イギリス人ブルークの子孫たる)の住する處なり、通商の中心として隆盛に趨けり。

其三　ポルトガル領

ポルトガル領はチモル島の東部四十七邦と西部の三邦との外にカンビング(Kumbing)島あり、地積は一萬六千二百四十八方粁、住民は二十萬人あり、首邑をデリー(Deli)と云ふ。

チモル(Timor)島に小ソンダ列島中の最大、最東の島にして地積は約三萬方粁あり、海岸は南方に絶壁多く北方に平低なり、内部は火山質の岩石に乏しく氣候は著しくオーストラリアの影響を蒙り、生物の分布上、アジアとオーストラリアとの間にあ



土豪管理官(Rigen's)［ジャバー島］

マングローブ(Mangrove, Rizophora mangle)［セイラン島］
ココヤシ(Cocos nucifera)

りて過渡の地たるを免れず。

◉印　度

印度はガンガ(恒河)或は印度支那半島に對して內恒河印度或は前印度と稱せらるることあり分ちて印度半島及セイラン島の二部とす。

◎印度半島

位置　印度半島は一に內恒河半島と云ふ、アジアの南部に於ける三大半島の一にして極南はコモリン岬の北緯八度五分に起り、極北はカラコラム山脈の北端、北緯約三十七度に達し、西はシンドの西端に於ける東經六十七度三十分より東はアッサムの東端東經約九十五度に至る。

境域　北はカラコラム山脈、ヒマラヤ山系を以てチベット高原に接し、東は印度支那に境し、南東はベンガル海、印度洋に臨み又パルク海峽、マナアル海を以てセイラン島と境し、南西にはアラビア海を控え、西はソレイマン山脈、

マングローブ　(Mangrove)は特殊の海岸林にしてマライ群島、セイラン島、沿海アフリカの或部、中央アメリカ、ケイヤナ、等に存す、樹種には「マングル」(Rhizophora mangle)「ナヒルギ」「紅樹」(Bruguiera gymnorhiza)等なるが、礎狀を呈する樹根は水中に群生して柵を爲し泥砂を沈止せしめ以て陸地を構成せしむるになりて力ありとす。

トルタル山脈等に依りてイラン高原に連なれり、長さは三千五百二十粁幅は二千八百十二粁に達し、面積は三百八十萬方粁あり。

海岸　沿海の地は其の形狀極めて單純にして彎曲に乏しく概ね平低なり、從て海岸線の延長は一萬粁に達すれども西岸に於て僅に一二の良港を見るのみ海灣の主なるものにベンガル海、マナアル海、アラビア海（カンベー灣、カッチ灣）あり海峽にパルク半島にグジェラット、カッチ、地角にパルミラス、カリメレ、コモリン、チウあり、島嶼にシァカッブーア島、スリヘリコタ島、アダム橋列島、マルヂバ諸島、ラッカヂバ諸島、ボンベー島、サルセット島等あり。

山誌　印度半島の主要なる山脈はヒマラヤ、カラコラムの外にアッサム、アラバリ、ビンヂヤ、サトプラ、西ガッツ、東ガッツ、等あり。

- 北部　カラコラム山脈（ガシェアルム（八〇三五）　ダプサン（八六一九）
- ヒマラヤ山系
  - ナアマラリ（七二九八）　ドンキア（七〇五一）　カンチンジンガ（八五八二）
  - エベレスト（八八四〇）　ガウリサンカル（七一三〇）　アダムバ（七四二〇）　ダウラギリ（八一七六）
  - ナムバ（七一二〇）　ナンダデビ（七八二〇）　カメット（七七五五）
  - ナナ（七一三五）　ナンガパルバット（八一一六）

アッサム山脈

- 北部（アラバリ山脈　アブ（一七二三）
- 南部
  - 西部（西ガッツ山脈　アナマリ（二九五七）　ドダベッタ（二六七〇）
  - 東部（東ガッツ山脈

ヒマラヤ（Himalaya）山系　ヒマラヤは雪の住所の意　はヒンヅースタン平野とチベット高原との境を爲し幅二百九十乃至三百五十粁あり、南北の二脈より成り平均海拔は五千二百乃至五千八百米突にして其の高峻なること世界無比なり、山岳の王たるエベレストを始めとし七千米突以上の高峯少なからず、氷河は多けれどもミラム最も著はる、又本山系を横ぎる通路は其の數少なからざるも僅に狹隘なる山道を供するのみ。

カラコラム（Karakoram）山脈は五千五百乃至五千八百米突の平均海拔を有し世界第二の高峯たるダプサン即ちゴドヰンアウステンの如きは實に本山脈に屬せり、雪線が南面に於て低きことはヒマラヤと同じ、氷河は少なからざるがバルトロと稱せらるるものは長さ六十五粁に達すと云ふ。

- ヒマラヤ山系
- カラコラム山脈

アッサム山脈は三千米突の高岳を有し、ブラバリ山脈は平均六百十米突に下り、ピンヂヤ山脈は九百米突を超ゆるもの多からず、サトプラ山脈は平均九百米突に過ぎず又西ガッツ山脈はブラヒア海の岸を距ること四十八乃至六十粁にして平均一千二百二十米突の海抜を有するが東ガッツ山脈はベンガル海の岸を距ること八十粁乃至百三十粁にして平均四百六十米突なり。

ブラマプトラ河

ガンガ河

河流

水誌 河流に就きてはベンガル海斜面にブラマプトラ(二五三三)、ガンガ(二七〇八)、サバンリカ(五〇七)、バイタラニ(五五五)、ブラマニ(六六〇)、マハナヂ(八三七)、ゴダベリ(一四四六)、クリシュナ(一三〇〇)、北ペンナル(五七一)、カウベリ(七六一)等ありてアラビア海斜面にインドス(三一九〇)、ルニ(五一五)、ナルバダ(一二八一)、マヒー(五六三)、タプチ(七二四)等あり。

ブラマプトラ(Brahmaputra)河は印度三大河の一なり、チベットを流るるヤルザンボの下流とするは殆ど疑を挟むの餘地なきに似なり源委通じて二千五百粁に餘り流域は百五十萬方粁に達して多量の水を輸送し來るも寒冷の地、人口稀薄の土を潤すに過ぎざれば効用は甚だ著しからず。

ガンガ(Ganga)河はヒマラヤ山系に發す、奔流すること長からずして低地に出でて流勢漸く緩漫と成りベナレス附近を流るる頃には九百十四米の河幅を有し、下流はブラマプトラと共通の三角洲を形成するが末流の一派たるフーグリは通舟の便甚だ多し、源委通じて二千七百粁を超え流域は九十三萬方粁乃至百餘萬方粁と算せられ、平野の地に於ては幾多の流水を分派し人生を益する點に於ては世界第一の流水たり、支流の主なるものはジァムナ(一三八四)、ゴグラ(九六〇)、グムチ(八〇〇)、ガンダク(六四〇)、クシ(五二三)、ラムガンガ(四八三)等なりとす。

インドス河

インドス(Indus)河即ち印度河はチベットより來りアトックに於てカブール河を受くる頃には海抜三百米突内外の地を流れサトレヂ、ベアス、ラビ、チナブ、ヂヒラムの五河より成るパンジァブ五河の義を受けて水量を増しインド＝イラン山脈の麓を流れて八千方粁の三角洲を抱き遂にアラビア海に注ぐ、而して河長と流域とはガンガに優れるも効用は彼に及ばざること遠し。

沼湖 沼湖の大なるもの更になくチルカ潟、カッチ潟最も著し。

地勢 印度半島は地勢上之をヒマラヤ山地、ヒンヅースタン平野、デカンあじあ洲 印度

平野　臺地　氣溫

臺地の三部に分つことを得而して平野はインドス河及びブラマプトラ河の下流地幷にガンガの流域より成りて、西の方ソレイマン山脈より起りて東の方ガロス山脈に達するが、長さは二千八百粁、幅は百五十乃至五百粁ありて面積は約七十八萬方粁なり、又臺地は六百乃至一千米突の海拔を有するが北部のビンヂヤ地方、東部のゴンドワナ(Gondwana)地方、中部のデカン地方、南部のトラワンコール(Travankor)地方に分たる、而してインドス河の左方に於けるスァール(Thar)即ち印度沙漠が一般に不毛の地なるは言を要せざれども、豐沃なるガンガの平原にもテライの如き濕地あり、ルニ河の注入する處には乾濕常ならざるカッチ潟(Rann of katch)あり。

氣候　氣溫に就きて述べんにヒマラヤ山系中に於ける谷地にありては温度は季節、海抜、緯度に依りて變化し日光を受くるの度に從て著しく昇降するも、其の他の地にありては温度の高低は南北に依ることなくして東より西に趣くに從て差異を生ずるが如し、而して一月と七月との平均温度の差は半島の南端に於ては四度に過ぎずしてマドラスの六度五分、ボンベーの六度二分、カルカッタの十度九分なるが、カルカッタより西方に向ひて行けばペナレスの十八度五分、ラホールの二十二度三分なり、又極寒、極暑はマドラスに十七度及び四十二度にしてパンジアブに零度と五十度なり。

風雨

風は六月より九月まで南西の季候風幷に南東又は南の定風ありて北東の定風は乾風なり、雨量はアッサム、ベンガル、マラバル地方に多く特にベンガルのチェラプンジにありては十二米突以上に達せり、又ガンガの中流幷にオリッサ地方は二米突内外にして其の他の地は一米突以下なり、ラヂプタナ地方にありては雨量甚だ少なくして一粉以下なりとす。

季候風の方向を變ずるに際しては旋風と云ひ颶風と稱する暴風の起ることあり、沿海の地は暴浪の害を蒙り、河水は氾濫して田野を荒し家屋を破壊し人命を傷ふ其の損害は甚だ大なりとす、且又日光の激烈なる、土地の濕氣をして放散せしむること極めて速なれば降雨の少なきときは忽ち乾魃に成りて毫末の收穫をも見ること能はず、斯る場合には世は饑饉に苦められ惡疫流行し幾多の人命を傷ふ、其の悲慘の狀態は此の地に世界無比の良土た

りとの佳評あるを疑はしむ。

植物　**天産**　氣候炎熱にして土地極めて豐饒なれば生物の繁殖は豫想の上に出で植物は綠樹蓊鬱として各地に森林を爲し籐の類は各處に茂生して廣大なる區域を蔽ひ「チーク」、沙羅雙樹(Shorea robusta)、「ユマラヤスギ」(Cedrus deodora)白檀、黑檀、「ココヤシ」、「コリファ」、鐵樹(Mesua ferra)、菩提樹(Ficus religiosa)等あり、米、綿、黃麻(Corcorus oritorius, C. capsularis)、苧麻、桑、「ナツメヤシ」、煙草、「コマツナギ」、罌粟、茶、「キナ」、白荳蔻等あり、

動物　動物の生育も亦頗る盛にして猫類、豺、野犬、熊、象、犀、猪、羊類、牛類、猿猴類、禽類あり、「コブラヂカベロ」(Naja tripudians)、ダボイア」(Daboia Russilii)は虎、豹と共に人命に危害を蒙らしむること少なからず、鰐(Crocodilus bipocatus)、「ガビアル」(Gavialis gangeticus)も亦河沼に產す、家畜には水牛、「セブ」、牛、馬、驢、駱駝、綿羊、山羊等あり、

鑛物　鑛物に就きては豐富ならずして、石炭、鐵、岩鹽、銅、鉛、金、銀、亞鉛、錫、石油等あり、而して世には寶石に富めりと稱せらるるも、ゴルコンドの金剛石は殆と有名無實にして僅に柘榴石、水晶、瑪瑙、玉類等あるのみ、然れども建築に供すべき佳良なる石材には乏しからず。

人口　**住民**　人口は十九世期の始めに於ては二億八千八百三十萬人ありたり、種族に就ては印度最舊の住民は黑種にしてネグリト派及オーストラリア派あり、然るにブラマプトラの谿谷より侵入せし黃人は黑人と混淆して、前ドラービダ派(ビル、コール、ゴンド、ソンタル、ダーン、等)と成り之に加ふるに更に黃血を以てせしものはドラービダ派(テルグ、タムル、カナラ、マラヤラン、ツルー、等)と成れり、而してヒマラヤ山脈に接する高谷の地には純黃種たるチベット派幷に印度支那派あり、又ハイバル峠を經て、カブルの谿谷より來住したる黃種のツラニア派(ザアーツ、シクー、マハラット、等)及び白種のアーリア派(グルハ、ダルヴ、カシミル、等)あり、甲者は住人の體格を改造し乙者は精神に資する所多かりき、西紀四世期頃に移住したるはラヂプト派(ラヂプト及びパンテラ、等)にしてムズルマンの來侵は十一世期以後なりしが、近代に至りてはホルトガル人、フランス人、イギリス人、等の渡來を見たり、且パルシ及ユダヤ敎徒も亦白種に屬せり、要するに印度には古來外人の回を重ねて波濤の如く來侵せしのみならず、相互に混化錯綜して幾多の複種を生じ、雜種の主なるものはヒンヅーにして一億二千萬人と算せしあ洲　印度

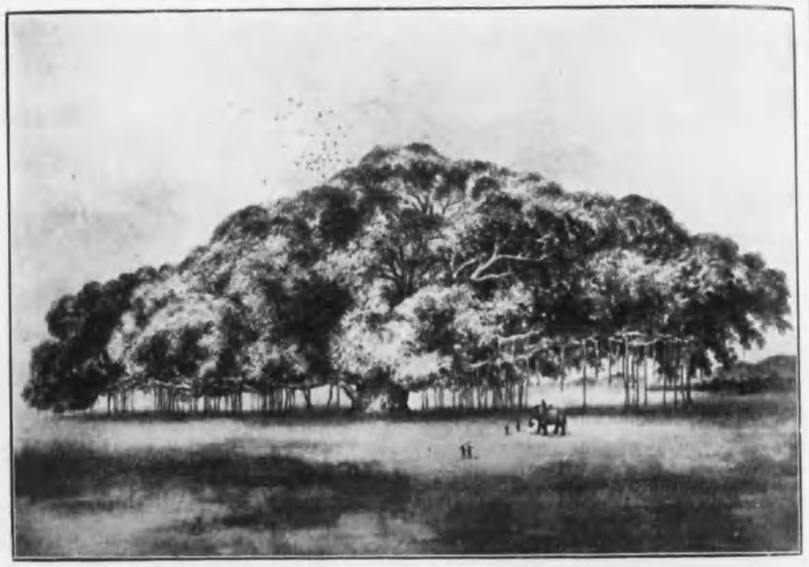
られムハイン、ミナル、等之に次げり。

宗派　宗派は其の種類頗る多きも最も多くの信者を有するはヒンド敎(二〇七一四萬人)にして マホッメト敎(六二四五)之に次ぎ、此の他に佛敎(九四七)、キリスト敎(二九二)、ジァイナ敎(一三三)等あり。

學校　學校は諸種に亘りて建設せられたるも大學はカルカッタ、マドラス、ボンベー、バンジァブ、アラハバードの五ヶ處にあるが普通敎育は進歩せず、又印度に於て用ひらるる言語は凡そ百二十種ありてヒンヂ語(八七一四萬人)最も多く使用せられ、ベンガリ(四四六二)、テルグ(二〇七〇)マーラッチ(一八二四)、バンジァビ(一七〇七)、タミル(一六五三)等之に次げり。

種姓　印度住民中に於ける社交的階級は顯著なり、最高級を占むるものはブラーマス(Brahmanes)即ちバラモン敎の僧侶にしてクシァトリヤ(Ksatriya)即ち軍人之に次ぎ、中位にあるバイシヤ(Vaishya)即ち平民は地主又は商賈たり、其の下にスードラ(Sudra)即ち役夫あり、最下級にパリア(Paria)即ち奴隷ありとするは通常の說なれども目下印度の種姓は三四に止まらずして殆ど無數なりと稱し得べく、ベンガル地方のみにても一千以上に達すと云ふ而して相接する二地方のブラーマヌ僧にして互に交際するを忌み又所謂最上級の人民にして漁業、牧業、農業等を營むが如きことあり。

沿革　太古パンジァブに移りしアーリア人は漸次に蒙昧なる蕃族ムレッチァ(Mleccha)を驅り文化の稍〻進みたる土族ダシウス(Dasyus)を從へてヒンヅースタン、其の他を占領せしが アレクサンドル王の侵入せし頃(西紀前三二七―三二五)に當りても幾多の邦國に分かれて未だ統一せざりしに似たり、既にして マガダ國(國都は今のパトナ)のマウリヤ朝(前一六―二九)は北、中、西の三印度を領し、アンドラ朝興りて南印度、中印度を併せたり、先之大月氏は塞種に代りてギリシア＝バクトリア王國を建てしもカニシカ王の死後其の國威漸く印度に振はず、アンドラ朝も亦衰へてグプタ朝(後三一九―四七〇)全印度に號令せり、下りてガズニの スルタン」の侵入(一一二〇六―一二九〇)相次でビンヤヤ山脈以北に起りしも後者は元兵の侵掠を蒙りて滅びキジル家(一二九〇―一三二〇)のアラウッヂン朝(一三二〇―一四一四)はデーリに、バーマニ王朝(一三四七―一五二五)はデカンに起れり、而して バーマニ王朝は五國に分裂しトグラック王朝(一四一四―五〇)、ロヂ王朝(一四五〇―五二六)の興起を見又チムールレンクの裔バーベルはムーガル帝國(一五二六―一八五七)を建設するに至れり、此の帝國は アウラングゼブ(一六五八―一七〇七)の時殆ど印度を一統せしも帝の死後國運傾きマーラッダ



「バニヤン」樹 (F.cus indica)

カトマンヅ (Kakmandu)——寺院

盟の勢威は十八世期の中頃に至りて殆ど全半島に及べり。

十五世期の頃ヨーロッパにては遠洋航海の風盛に起りてバスコダガマ先づ印度に達し(一四九八)ポルトガルはゴアを占領(一五一〇)すること成れり、其の後イギリス(一六〇〇)、フランス(一六〇四)等の東印度商會成立しヨーロッパ諸國はムーガル帝國の衰運に乘じて各〻計畫する所ありイギリスはマドラス(一六三九)ボンベー(一六六一)カルカタ(一六九二)を得、フランスはポンヂシエリー(一六七三)を得しが遂にイギリス、フランスの衝突を來たし、プラッシーの戰(一七五七)の後、フランス人の勢頗る衰へたり之に反してイギリス人は着々印度の經營を試みてムーガル帝國を保護國とし(一八〇四)印度の殆ど全部を從へ(一八四〇)虛名を有せるマホメット敎帝國を滅せしが(一八五七)シパイの騷亂の後、東印度商會を廢止して政權を本國の手に移し(一八五八)イギリスの女皇は印度女帝の稱號を取るに至れり(一八七七)而して一九〇五年に締結せられたる日英攻守同盟は印度にも適用せらる。

分國 廣大なる印度半嶋はネパール、ブータン、イギリス、ポルトガル、フランスの五國に屬せりと雖もネパール、ブータンの二小國は稍〻獨立の體を有するに過ぎず、ポルトガル、フランスの領する處は眞の彈丸黑子にして印度の大部を有するものはイギリスなり。

其一 獨立國

バニアン樹（Ficus indica）は印度人の「ヒバル」（Fipal）にして菩提樹（F. religiosa）と共に聖樹と認めらる、一樹にして小森林を爲すものあるが殊に有名なるは「ゴリバール」（Coribâr）にして周回は六百五十米突に達し樹幹は六百三十餘株を算す、三千年以上の壽を有ち居ると稱せらる。

カトマンヅー

ネパール　ネパール（Nepal）國は中央ヒマラヤ山系に據りて北はチベットと境し東、南及び西はイギリス印度と境す、長さ八百粁、幅の平均二百四十粁ありて面積は十五萬四千方粁あり、此の國は山脈の斜面にあるを以て領土の大ならざるに拘らず、氣候は各處一樣ならずしてテライの地方は比較的溫和なり、人口は三百萬と稱せられヒンド教のグルハあり、佛教のネワルあり、蒙昧なる蕃族ありて數多の種族に分かる、政治上、世襲の王「マハラヂァヂラジ」（Maharadscha Dhiradsch）あれども實權は重臣の手にあり而して清國に尙ほ多少の貢物を致し、イギリスの駐在官は少許の兵を率ひて首都にあり、ネパール常備兵の數は凡そ二萬六千なり、イギリス領印度との貿易高（一九〇四―〇五）は四千百三十八萬「ルーピー」なりとす、首都カトマンヅー（五、〇〇〇〇）は海拔一三二七米突の地にありて六百餘ヶ處の寺院を有す、パッン（二、五〇〇〇）は舊都の地なり。

ブータン　ブータン（Bhotan）國は東ヒマラヤ山系に據り北西より東はチベットと境し其の他はイギリス領のアッサム、シッキム、等に境す、東西二百六十

粁、幅百五十粁に近く、面積は三萬四千粁と算せられ、人口は二十五萬人(或は四十萬人)ありてチベット語を用ひ佛敎を奉ず、政治上の組織も亦チベットに類し、デブラーヂァー(Dheb Rādjah)は少數の有力者の推擧に依りて俗界を支配し、精神界の長たるダルマラーヂァー(Dharma Radjah)は化身に依りて選ばるゝタシスードンは海抜二千米突の地に位して夏季の首府たり、プナハは冬季の首邑なりとす。

其二　イギリス領

政治　印度半島は僅少なる部分を除く外悉くイギリスの版圖に屬して印度帝國(British India)の主要部を爲せり、本國ロンドンにある印度事務省は會員十人を下らざる評議會に依りて補助せられカルカッタ(夏季はシムラ)に駐在する總督即ち副王はイギリス皇帝に依りて任命せられ又之を代表して各般の政務を統理す、總督補佐の任に當るものに總督府、高等會議(Supreme Council)あり、總督府は內務、外務、財務、軍務、土木、租稅農務、商務、法制の八局より成りて政務を分掌し、高等會議は常設議員、臨時議員等より成りて法律の律定に參與す、司法に就きては高等法衙をカルカッタ、ボンベー、ハイダラバード、マドラス、アラハバードに設くるが最高法院はロンドンにありて終審を與ふ、地方には知事、副知事、管理官、駐在官等を置きて各、其の地の行政を司らしむ、本領地には直轄地と保護地との二種あり、直轄地を大別して十四區とし保護地は各、土侯の君臨するあるも一國或は群邦に對して監督するの任務を帶ふる駐在官或は管理官の援助忠告を受く、而して此等の諸國と印度政府との關係は其の規を一にせざる所あれども一般に宣戰、媾和、規定以上の兵を設くること、等を禁ぜられたり又朝貢は必ず致さざるべからざるものあるも亦然らざるもあり。

	地積	人口	方料に付	首府
印度帝國				
直轄地(州)				
ベンガル	四八二、六一〇〇方粁	二、九五二一、三〇〇〇	六一	カルカッタ シムラ
北四州＝ガード	二八四、三四四七	二、三二〇七、二八三二	八二	
	二九、九九五九	五〇七二、二〇六七	一六九	カルカッタ ターヂリング アラハバード ナイニ谷
	二七、七五四三	四七六九、一七八二	一七九	

	パンジアブ								
	北西國境州								
*	パルサスタン								
	アジミル＝メルワラ								
	ボンベー								
☆	アデン								
	中央諸州＝ベラル								
	クールグ								
	マドラス								
	東ベンガル＝アッサム								
	バルマ								
	アンダマン＝ニコバル								
	保護地（所屬諸邦）								
	ベンガル諸邦								
	北西州諸邦								
	カシミル								
	パンジアブ諸邦								
☆	バルサスタン								
	ラホール	シムラ							
	ベシアワル								
	ケワタ								
	アジミル								
	ボンベー								
	プーナ								
	ナグプル								
	バンガロール								
	マドラス								
	ウタカムンド								
	シロング								
	ランゲーン								
	ポート	ブレーア							
	スリナガル								

二五、一七六、一	二〇三三、〇三三九	八一							
四、二六四五	二一二、五四八〇	五〇							
一一、八六二八	三〇、八二四六	三							
七、二一	四七、六九一二	六八							
三一、八五一六	一八五一、五五八七	五八							
二〇七	四、三九七四	二一二							
二五、九八八三	一一九九、一六七〇	四六							
四〇九七	一八、〇六〇七	四四							
三六、七〇五九	三八二〇 九四三六	一〇四							
二七、四八六六	三〇九六、一四五九	一一三							
六一、三一二六	一〇四九、〇六二四	一七							
八一四〇	二、四六四九	三							
一七五、九五五九	六三四六、一五四九	三六							
八四八七九	三九四、〇四六二	四六							
一、三一五四	八〇、二〇九七	六一							
二〇、九五二二	二九〇、五五七八	一四							
九、四六一四	四四二、四三九八	四六							
二二、四〇五四	五〇、二五〇〇	二							

	ラゲプタナ諸邦								
	ボンベー諸邦								
	バロダ								
	中央印度諸邦								
	中央州諸邦								
	ハイダラバード								
	マイソル								
	マドラス諸邦								
	其他								
☆	アデン屬地	アラビア	ソコトラ						
三三、〇三一八	九七二、三三〇一	二九							
一七、〇三一四	六九〇、八六四八	四〇							
二、〇九七五	一九五、二六九二	九三	バロダ						
二〇、四〇一一	八六二、八七八一	四二							
八、〇七七四	一六三、一一四〇	二〇							
二一、四一七九	一一一四、一一四二	五二							
七、六二五七	五五三、九三九九	七二	バンガロール						
二、五八一九	四一八、八〇八六	一六二							
一八、九九〇〇	七〇、〇〇〇〇	四							
四、〇三〇〇	一四、〇〇〇〇	三							
三五七九	一、二〇〇〇								

兵備は土地の廣大なるに比して甚だ微弱なるが是れ主として印度人の制御し易きに因るならん、印度軍は北西、東の三軍團幷にセクンデラバード、バルマの獨立師團より成り、常備軍は一九〇六―〇七年に十五萬七千餘人あり、之に二萬四千餘の豫備兵、三萬一千の義勇兵等を加へば三十八萬六千人に近し、又兵艦には十隻二萬三千噸弱と約三十隻の汽船とを有す。

財政に就きて記さんに一九〇四―〇五年の歳入は凡そ八千四百八十萬(印度八四一七「ポンド」にして歳出は約八千一百三十六萬(印度六一八九本國一九四四「ポンド」なるが一九〇五―〇六年の豫算は歳入十二億五千百四十九萬「ルーピー」を示し歳出は十二億三千七百九十三萬「ルーピー」に充てらるるが國債は二億三千百七十七萬「ポンド」に近し。

生業　住民の殆ど三分の二は農業に從事し農産は實に此の地の主要なる生産力なり而して農産物には米、黍、麥、茶、珈琲、煙草、醬菓、インヂゴ」あり黄麻亞麻、實綿あり米はベンガル、マドラス、中央諸州、アグラ、實綿はボンベー、ベラル、マドラス、アグラ、中央諸州を以て主産地とせり林業も亦近年大に注意せらるる所なり牧業はインドスの下流地方に盛にして「ゼブ」水牛馬驢綿羊山羊、駱駝象等を飼養し專ら力役に使用せられ食料に供すること稀なり鑛業は盛ならずして石炭の外鐵、銅、岩鹽、硝石等を採取するに過ぎず工業には熟皮毛布「カシミア」毛被敷物飾具土器彫刻器等の製出あり其の他製紙、製絲、紡績「ピール」醸造、造船等の漸次に隆盛に趣くあり貿易に就きては一九〇四―〇五

年の輸入は九千二百六十二萬「ポンド」輸出は一億一千六百三十四萬「ポンド」なるが其の大部分は海洋貿易(輸入八七四一、輸出一二三七)にして殊に私人の貨物貿易(輸入五六五五、輸出九九七六)を以て主要なるものとす今主なる取引先を示せば輸入にイギリス(三六七一)、ベルジック(二二二)、ドイツ(一九五)、マウリシアス(一七四)、ロシア(一六六)、海峡殖民地(一六四)等ありて輸出にイギリス(二七〇六)、ドイツ(九八六)、香港(七二三)、フランス(六五九)、合衆國(六〇二)、日本(五六三)、ベルジック(五一一)等あり而して重要輸出品は實綿(一六二五)、米(一二七二)、黄麻(七八一)、小麥(七七五)、阿片(六九八)、黄麻製品(六三一)、皮類(五九六)、綿絲(五八九)、茶(五七一)等にして重要輸入品は綿布(一九二五)、鐵器、銅器(五四一)の外に砂糖、石油、器械等あり貿易港はカルカッタ、ボンベーの二を以て最要とす且貿易に從事する船舶は入船六百三十三萬噸出船六百二十三萬噸にして其の大部はイギリスの旗章を飜せり。

交通に關して道路は主要なる都會を連絡して其の延長は三十萬粁を下らず鐵道は四萬六千五十四粁(一九〇六年)郵便局は一萬六千三十三局電信

線は三十六萬六千餘粁(一九〇四年)あり、電話線は三千二百七十三粁(一九〇一年)に過ぎず、又航河は一萬六千粁を下らず、灌漑運輸の便を與ふる運河は其の主要なるもの二萬一千粁を超ゆべきが、ガンガ運河(主流八一六粁、支流七四六一粁)は殊に著名なり、

カルカッタ

ホーラー

處誌　**ベンガル**　カルカッタ(Calcutta)(八四、七七九六)(北緯二二度三三分、東經八八度二三分)は印度帝國及びベンガル(Bengl)州の首府なり、ガンガ河の一派なるフーグリ河に沿ひ、土地一般に平低にして濕潤に失し飲料水に乏しくして至りて健康に適せず、特に夏季にありては惡疫流行するの恐あるが故に行政府を始とし高官富豪は他の地に避遁するを常とす、住民の大部は土民に屬し、黄麻製品、紙等を產し物貨の集散盛に行はれ、商船の出入繁劇なり、市内には大學、博物館等あり、附近には植物園、其の他見るべきものあり、ホーラー(Howrah)(一五、七五四九)はフーグリ河を隔ててカルカッタと相對す、黄麻布の製出地なり、プラッシー(Plassey)はカルカッタの北方に位しバーギラチ河口に沿ふ、一七五七年クライブが勝戰せし處なり、ダッカ(Dacca)(九、〇五四二)はブラマプトラの一支に臨むが「モスリン」を以て聞えし處なり、ダージリング(Darjiling)はシッキムの境に近き避暑地にして海拔二一八二米突に位す、パトナ(Patna)(一三、四七八五)はガンガ、ソン、ガンダク三流の會する地方に建ちて交通上の便を有す宏大なる阿片製造所ありて、インヂゴ貿易の大中心なり、ガヤ(Gaya)(七、一二八八)はパトナの南方鐵路百十五粁、ファルク河畔に位し、近傍のブッダガヤは佛敎史上著名なり。

パトナ

アラハバード

ベナレス

ラクナウ

東ベンガル＝アッサム　シロンヂ(Shillong)は海拔二〇三〇米突の地に位して東ベンガル＝アッサム(East Bengal and Assam)州の首府たり、シルヘット(カチアル)はブラマプトラの支流に沿ひ產茶地の中心に位す。

北西諸州＝オード　アラハバード(Allahabad)(一七、二〇三二)は北西諸州(North-west Provinces)の首府なり、ガンガ、ジャムナ兩河の會點附近、海拔九一米突の地にありて交通の要衝に當り將來盛大なるべき望あり、綿、砂糖、藍を集散す、ベナレス(Benares)(二〇、九三三一)はガンガの河畔、海拔七七米突に位しヒンド敎徒の聖地にして一千四百五十餘の寺院あり、黄銅器、翫弄品を產す、ラクナウ(Lucknow)(二六、四〇四九)はオード州の首府たり、グムチ河に沿ひ海

抜一一一米突に位す、市街は宮殿、洋屋等を有し稍、美観を呈すれども土製の小屋多くして印度市街の特徴を現はせり、バレリ(Bareli)(二三、二一〇八)はガンガ河の左岸にあり、綿穀物、砂糖を集散して敷物、家具を製す、カウンプル(Cawnpore)(一九七一七〇)はガンガに瀕し海抜一二七米突の地にあり、一八五七年土兵の虐殺を以て名あるが馬具、靴、其の他の革細工を集散す、ミーラト(Meerut)(一一、八一二九)はデーリの北東に位す、一八五七年土兵の蜂起せし處なり、アグラ(Agra)(一八、八〇二二)はジュナの右岸海抜一六七米突の地にあり、一六五八年までムーガル帝國の首都たりし處にして宮殿、寺院等を存す、綿煙草、食鹽、穀物、砂糖等の集散行はれ、繊箔彫刻の産あり。

パンジアブ

ラホール(Lahore)(二〇、二九六四)はパンジアブ(Panjab)州の首府なり、ラビ河の左岸地方に於ける海抜二一五米突の地に位しアクバル帝の宮殿、博物館等を有す、商業上、交通上の要地なり、アムリツツァル(Amritsar)(一六二四、九)は首府の東微北に位す、カシミア毛、綾、象牙彫刻等を産し北印度に於ける商工業の一中心にしてシク人の聖地たり、ムールタン(Multan)(八七三)は海抜一一一米突の地に位し、ラビ河の左岸にあり、綿、穀物、砂糖を集散して敷物、家具を製す、カウンプル(Cawnpore)(一九七一七〇)はガンガに瀕し海抜一二七米突の地にあり、一八五七年土兵の虐殺を以て名あるが馬具、靴、其の他の革細工を集散す、ミーラト(Meerut)(一一、八一二九)はデーリの北東に位す、一八五七年土兵の蜂起せし處なり、アグラ(Agra)(一八、八〇二二)はジュナの右岸海抜一六七米突の地にあり、一六五八年までムーガル帝國の首都たりし處にして宮殿、寺院等を存す、綿煙草、食鹽、穀物、砂糖等の集散行はれ、繊箔彫刻の産あり。

ラホール　**アムリツツァル**

四二九)は、首府の東微北に位す、カシミア毛、綾、象牙彫刻等を産し北印度に於ける商工業の一中心にしてシク人の聖地たり、ムールタン(Multan)(八七三)は海抜一一一米突の地に位し、ラビ河の左岸にあり、綿、穀物、砂糖を集散して敷物、家具を製す、カウンプル(Cawnpore)(一九七一七〇)はガンガに瀕し海抜一二七米突の地にあり、一八五七年土兵の虐殺を以て名あるが馬具、靴、其の他の革細工を集散す、ミーラト(Meerut)(一一、八一二九)はデーリの北東に位す、一八五七年土兵の蜂起せし處なり、アグラ(Agra)(一八、八〇二二)はジュナの右岸海抜一六七米突の地にあり、一六五八年までムーガル帝國の首都たりし處にして宮殿、寺院等を存す、綿煙草、食鹽、穀物、砂糖等の集散行はれ、繊箔彫刻の産あり。

ミーラト　**カウンプル**　**デーリ**

抜一一一米突に位す、市街は宮殿、洋屋等を有し稍、美観を呈すれども土製の小屋多くして印度市街の特徴を現はせり、バレリ(Bareli)(二三、二一〇八)はデリの九四)はチナブ河を去る約六粁の地、海抜一二三米突にあり、絹布、綿布等を産し商業稍、盛なり、シムラ(Simla)はヒマラヤの南面、海抜二一七〇米突に於ける避暑地なり、デーリ(Delhi)(二〇、八五七五)はジュナ河に瀕し海抜二一五米突に位す、歴史上著名の地にして往昔マホメット教帝國の都たりしことあり、大寺、アソカの碑柱等見るべきもの多く、寶石細工、刺繍等の産あり、商業も亦盛なり、ラワルピンヂ(Rawal Pindi)(八七六八八)はジーラム河とインドス河との間、海抜五一〇米突の地にあり、カシミル、アフガニスタンに對する通過貿易活潑なり。

ペシヤワル

北西國境州　ペシヤワル(Peshawar)(九、五一四七)はハイバル峠を扼するジヤムラッド塞の東十六粁餘の處にありて海抜三五五米突に位す、北西國境州(North-Western Frontier Province)の首府にしてカブール、ボクハラ、中アジアに對する通過貿易盛なり。

アジミル＝メルワラ

教徒の均しく聖地とする處なり、メルワラ(Merwara)の地はアラバリ山脈に據りて首府をビアワルと云ふ。　首府アジミル(Ajmer)(七、三八三九)はマホメット、ヒンド

ナグプル

中央諸州　中央諸州(Central Provinces)の首府ナグプル(Nagpur)(一二、七七三四)はナグと稱する小流の濱、海抜三四三米突にありて商業の一中心たり。

ベラル　ベラル(Berar)州は地味肥沃綿を産すること夥しきが著大なる都會を有せず。

クールグ　クールグ(Coorg)州はマイソルと西ガツツ山脈との間に位し、カベリ河の流域に屬する處多し。

マドラス

マドラス　マドラス(Madras)(五〇、九三四六)北緯一三度四分東經八〇度一七分は當州の首府なり、氣候炎熱にして港灣は不良なれども新埠頭、風波防禦の竣功以來商業漸次隆盛に趣けり、市街は美麗なる白街と粗造なる黒街とに分かれ政廳、造兵廠、博物館、植物園、公園等を有す、コカナダ(Cocanada)(二、五〇〇〇)はゴダベリ河口の北にあり、コロマンデル海岸に於てはマドラスに次げる商港とす、トリチノポリー(Trichinopoly)(一〇、四七二一)はカウベリ河に浴ひ綿物煙草、金銀細工の産あり、マヅラ(Madura)(一〇、五九八四)はパイガイ河に沿ふパンヂヤ王國の舊都の地なり、ツチコリン(Tuticorin)(二、七〇〇〇)はマナアル海の商港にして綿、珈琲、穀類、家畜等の輸出多し、カリコ(Calicut)(七、六九八一)はマラバル海岸の一港にしてバスコダガマが始めて印度に到着せし處とす。

トリチノポリー

マヅラ

ボンベー　ボンベー(Bombay)(七七、六〇〇六)は本州の首府なり、北緯十八度五十四分、東經七十二度五十二分、平均雨量は一千七二十六度二分に位せる小島の南東部に建ち、平均氣温濱を距ること五千三百三十浬なるが實綿、米、鴉片、小麥等の輸出頗る盛なり、市内に政廳、法院、學校等あり、銅器、眞鍮器、彫刻品、刺繍等の製造行はるるが殊に綿絲紡績には十一萬人餘の從事者あり、サルセッタ、エレファンタの二嶼はボンベー島の近傍にあり地下寺院を以て名を知らる、スラト(Surat)(一一、九三〇六)はタプチ河に沿へる港なり、往昔の繁榮を見ざるも綿絲、刺繍等を製す、アーメダバード(Ahmedabad)(一八、五八八九)はサバルマチ河に臨みマホメット敎の舊寺少なからず、絹布、綿布、紙等の產あり、カラチ(Karachi)(一一、六六六三)はインドス三角洲の北端に位する港にしてパンジヤブ地方の物產を集散し盛況に向ひつつあり、プーナ(Poona)(一五、三三二〇)はボンベーの南東、海抜五五四米突の地に位し氣候佳良にして當州夏季の首府たり。

スラト

アーメダバード

カラチ

プーナ

直隷保護國　保。護。國。中にて印度總督に直隷するものをカシミル、ヂタナ、バロダ、中央印度、ハイダラバード、マイソル、トラバンコル等とす。

カシミル＝デ、ムの首府スリナガル(Srinagar)（一二二六一八）は殷賑の地なり、

ヂアイプル(Jaipur)（二六、〇一六七）は軍府と商業の中心とを兼ね ラヂプタナ(Rajiputana)地方最要の市たり。

バロダ(Baroda)の首府バロダ（一〇、三七九〇）はビルワトミラに瀕して肥沃の平野の中に位す、附近にイギリス兵の屯營あり。

インドル(Indore)（八六六八六）は中、央、印、度のマルワー地方にありて綿、罌、粟を集散す。

ハイダラバード(Hyderabad)（四四、八四六六）は回教諸邦中最強なるハイダラバード即ちニザムの首府にしてクリシナ河の支流ムサに沿ひ數多の回教寺院を有す。

バンガロル(Bangalore)（一五、九〇四六）はマイソル(Mysore)地方の大都會にしてイギリス兵の駐屯地なり。

トリバンドラム(Trivandrum)（五、八〇〇〇）は茶、木材、珈琲を産するトラバンコル(Travancore)の首府なり。

其三　ポルトガル領

從事ポルトガル人は他のヨーロツパ人に先ちて來り各地に於て殖民事業に總督はゴアに置かれ、其の他に知事ありて管理の任に當れり、貿易高の如きも七百萬ルーピーに達せず。

ゴア(Goa)（三六五八方粁）はムルマガヨ灣を擁して地勢丘陵多く、米、木材の産あり、今は椰子樹の綠蔭に跡を止むるに過ぎず。

ノバゴアはマルマガヨ河口を湖ること五粁に位す、ポルトガル領印度の首府にして總督、僧正等居住す、舊ゴアは政治上の中心として二十萬の人口を有せしことありしも

ダマン(Daman)、ディウ(Diu)の三ヶ處に於て三千七百方粁の地と五十三萬餘の住民とを有するに過ぎず、

其四　フランス領

フランス人はポルトガル人、オランダ人に次ぎて此の地に來り十八世紀の前半にありては其の勢力偉大なりしが目下は其の遺物としてシアンデルナゴル(Chandernagor)、カリカル(Karikal)、マヘ(Mahé)、ポンヂシエリー、ヤナオン(Yanaon)の五ヶ處にて地積五百九方粁、人口二十七萬三千餘人を有するに過ぎず、ポンヂシエリーに知事を置き、其の

他に事務官を設けて民政のこと并に貿易の事を司らしむ、貿易は一九〇四年に於て約五百七十四萬「フランク」の輸入と三千五十四萬「フランク」弱の輸出とを示せり。

ポンヂシェリー(Pondichéry)(二九〇、七方粁)には「フランス」印度の首府あり、市街は一運河に依りて白街と黒街とに分たれ、政廳、高等裁判所、ザヴプレイス紀念碑、等を有す。

ポンヂシェリー

◎セイラン島

境域　セイラン(Ceylan)島はセイロン(Ceylon)とも呼ばる、印度半島の南東にありてパルク海峽、マナアル海を北西に控え、其の他は印度洋に面せり、長さ四百四十六粁、幅二百三十五粁、面積約六萬六千方粁あり。

海岸　海岸は頗る單純にして良港に乏しく天然の錨地はガール、トリンコマリに過ぎず、パルク海峽、マナアル海は共に水淺くして低き珊瑚礁及び沙灘はアダム橋を爲せり。

山河　山岳は其の數少なからず、ペドロタラガラ(二五三八)、キリガルポタ(二三八〇)、アダム(二二四九)等の諸山あり、河流は巨大ならざれども「ヌワラエリヤ」臺地に起りて北東に流るる「マハビラガンガ」あり、西岸に注ぐ「カラニガンガ」、「ガンガ」、「マヘオヤ」、等あり。

氣候　低地にありては酷熱に苦み「コロンボ」に於ける年平均温度は二十六度なれども海抜一千乃至一千五百米突の地にありては温暖にして適當の季節多く恰も長春にあるが如し、雨量は北西、南東の地方を除けば一米突五より二米突の處多く、二米突乃至四米突の地もなしとせず。

天産　天産は印度半島と相似る所少なくして却て遠隔の地たる「マダガスカル」島に類するの點甚だ多し、動物には猿、熊、豹、水牛、象、鰐、等あり、植物には茶、珈琲、「コア」、「キナ」、肉桂、烏木、等あり、鑛物は黒鉛、寶玉、鐵、滿俺、等を産す。

住民　人口は一九〇四年に於て三百八十一萬餘ありて一方粁五十八人の割合なり、而して一九〇一年の人口約三百五十八萬の多數は「シンハル」人(二三三)にしてタミル人(九五)、ムール人(二三)等之に次げり、本島最舊の住民なるべき「ベッダ」は中央の山地に徘徊し蒙昧なる蠻民なり、其の數は四千に達せず、宗教中最も盛なるは佛教にして二百十四萬の信徒あり、此の外に「ヒンド」教(八三)、基督教(三六)、「マホメット」教(二五)、等の信者あり。

政治

セイランはイギリスの直轄に屬し、知事は行政、立法の二會議の補助に依りて全島の施設を司り、地方は西、中央、北、南、東、北西、北中央、ウバ、サバラガムワの九州に分たる、而してマルヂバは本島に附屬せり、兵備は微弱にして陸兵は約一千八百人あるが外に二千五六百人の義勇兵あり、財政(一九〇四年)は歳入に凡そ三千八十四萬「ルーピー」、歳出に三千二百二萬「ルーピー」ありて國債に三百三十六萬五千「ルーピー」と五百十六萬六千「ポンド」とあり。

生業

生業は未だ充分の發達を見ざるも農業は盛にして耕地は全地積の一割四分に當り茶、珈琲、肉桂、椰子油、煙草、ココア、「キナ」等を産す、牧業は牛(一三九萬頭)山羊、綿羊を與ふ、鑛業に就きて黒鉛は約一千七百坑より産し、其の價格頗る多きが寶石類の産少なからず、貿易に就きて輸出は約一億一千七百六十七萬「ルーピー」にして輸入は一億一千六百四十八萬「ルーピー」餘なるが、主要輸出品は輸出高の過半を占むる茶(五六八五)の外に、ココヤシ類(二四四三)、黒鉛(六五一)、カカオ(二四四)等あり、出入船舶は一千百二十二萬七千噸にして鐵道も七百五十二粁あり、電信線は五千百四十五粁を有す。

コロンボ(Colombo)(一五、八二二)はセイランの首府にして島の西岸にあり、港は我が横濱を距る四千五百二十二浬にして港内多くは七米突以上の水深を有し船舶の出入少なからず、市内には政廳、公園、等あり、カンヂー(Kandy)(二、六五一九)は海抜五一二米突にありて小湖に瀕す、舊シンハル人の國都とせし處なり、ヌワラエリヤ(Nuwara Eliya)はペドロタラガラ山の南西、海抜一八九三米突に於ける保養地にして知事の夏季の住處たり、ガール(Galle)(三、七三一六)は島の南西岸に於ける軍港なるが船舶の碇繋に便ならず、トリンコマリ(Trinkomali)(一、〇〇〇)は北東岸に於ける良港なり殊に其の外港は十六粁の面積を有して水深し寶に印度洋に於けるイギリス艦隊の根據地たり、ヂフナ(Jaffna)(三、八七九)は北部に於ける一島にありて市況盛なり。

マルヂバ(Maldiva)諸島はセイランの西方約八百粁に位し十七群の珊瑚礁より成りて人民の住する島嶼は二百以下なり、住民はマライ種のマホメット敎徒にして「ココヤシ」の纖維を採取す、「スルタン」はマリ島に住してイギリスの保護を受く。

ラッカヂバ諸島

ラッカヂバ(Laccadiva)諸島は亦イギリスに屬す、南北の二群に分かれ島嶼は珊瑚質にして地味不良、ココヤシ」を以て唯一の物産とす、住民はマライ人にアラビア人の血液を交えしものにしてイスラム數を奉ず。

◉イラン高原

面積

境域 イラン(Iran)高原はカスピ海、ツラニア平地を北に控え、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に臨み、東方はインドス河、西はチグリス河に限らる、而して本高原はアゼルベイヂァンの諸山に據りて北西の方、アルメニア高原に接し、ヒンヅークシに依りて北東の方、中央アジアの高地に連なるも、地勢上、明瞭なる一區域たるを失はず、面積は約二百五十乃至二百七十萬方粁に達し長さは二千二百粁ありて幅は東部の一千粁、西部の五百粁なり。

海岸 海岸線の延長はカスピ海に於ける四百三十粁を加ふれば合計凡そ三千五百粁ありて出入共に著しからず、灣にグワダル、グワタル、ヂァーバル、ブシールあり、海峽にオルムスあり、岬、崎にラス、オルマラ、ラスナウ、ヂァスク、ラスララク、オルムス、カイシ、シァイヒ、シァアイブ、等あり。

山岳 北部にはヒンヅークシ(サドルストラン嶺、五七四一)エルブールズ(デマヴェンド(五四六五)、ダフトイソレイマン(四二〇〇)の諸山脈あり、東にはソレイマン山脈(ガイサルガー、キラチミル(七七五〇)ルタル山脈(ソレイマニ(一〇六〇)あり、西よりアルメニア山彙(サバラーン(四九六〇)ザグロス山脈、クーヂナル山脈、等あり、此等の山脈を以て包圍せる內部の地には數條の山脈あれども顯著なるもの少なし、

河流 イラン高原は著大なる河流を有せず、而して海洋に注水するものあり、內部の湖沼に終るものあり、或は沙漠に流失するものあり、アラル＝カスピ海斜面(六五萬方粁)にアム、ムルグアブ、ヘリルド(八〇五)、アトレク(五六三)、セフィドルド、アラスあり、印度洋斜面(六〇〇萬方粁)にカブル、ダシュト、カルン(四一八)、ケルハ(六〇〇)あり、閉塞地(二五萬乃至五〇萬方粁)にヘルメンド(一一〇〇)、カシュルド、ファラールド、ハルドあり、沼湖は東部にハムン、ハムンイマシュケル、ネメスカル、西部にニリス、ダルヤイニメク、ウルミアあり。

沼湖

ハムン(Hamun)沼、はサイスタン湖とも稱せらる、季節に依りて其の面積を異にし、今日に於ては頗る縮小せるが水量に乏しきヘルメンド、ハルドの諸流を受く。

地勢　イランは不正四邊形の高原を爲して起伏常なく内部には顯著なる低處ありて周邊には屹立せる山岳の四五千米突に達するものあり、平地の海抜は五十乃至六百三十米突にして高地の平均は一千二百米突なり、又南海部には沿海のデシスタン(熱國)、デンシル(山道)、セルハド(涼地)の階段を爲すあり、北部には濕潤なる低地と急峻なる山地の相接するを觀る、而してカビル(鹹沙漠)、ルト(裸沙漠)の二大沙漠を始めとし、其の他、不毛荒蕪の地多く、人生に利用すべき處は少なし。

氣候　氣候は甚だ大陸的なり、沿海の地に屹立せる山脈は海洋より來る濕氣を遮るを以て、内部にありては天氣常に乾燥にして木星附屬の衛星を肉眼にて觀るを得べしと云ふ、雨量は高原の大部は二十糎を受けずして中部には十五糎に達せざる處あり、氣温は一般に酷烈にして七月の平均は三十

四度に達する處あり、一月に於ては十八度より八度の間にある地多し。

天産　動物には豹、狼、ハイエナ、獅子、等の野獸あり、馬、駱駝、猫、等の家畜あり、植物は水量に不足なき地に於て大麥、小麥、等の穀類、ナツメヤシ、葡萄、等の果物類を産しエルブルーズ山脈には森林あり、鑛物は乏しからざるべきも未だ充分なる産出を見ず。

住民　人口は約一千五百萬ありと稱せられ一方粁に付きて僅に五人の割合なり、種族は白種に屬するもの多けれども亦黄種も存す、白種に就きて其のアーリア派にタジック、アフガン、バルチ、等あり、其のセム派にアラビア、ユダヤあり、黄種にはモンゴリア派のハザレー、ウスベク、トルコマン、等あり、宗教は拜火教、キリスト教、ユダヤ教、等なきに非ざるも主として行はるるはマホメット教にして西部にはシイヤ派、東部にはスニイト派の教徒あり。

分國　イラン高原はロシア及びイギリスの領地と境を接し、兩國の南下或は北上に關して重大なる關係を有する處なり、當地方は分かれてアフガニスタン、バルチスタン、ペルシアの三と成るも始めの二者はイギリスの勢力の

ケラト　ケルネ

非す貿、貿易は著しからず交通に關しては八百五十八萬ルーブルの輸出あり、外國貿易に就きて印度に對しては八百五十八萬ルーブルの輸出あり、外國の通ずるあり、郵便電信の便あり。

◎ケルマン(Kerman)は高原の南東を占め、北の方アフガニスタン及び北ベルチスタン(Beluchistan)は高原の獨立國は唯一のベルシアあるのみ。

二百十二

下にありと稱すべく、其の

◎ベルチスタン

西國境はシンド、パンジャブと接し南はアラビア海に面し、西はベルシアに限らる東はボーラン越に對するる要衝の地なり、ケラト(Kelat)はサラワン、ヂラワン。

ケルタ(Quetta)はイギリスの領ベルチスタンの首邑にして海抜一六八〇米突に位しボーラン越に對するる要衝の地なり、ケラト(Kelat)はサラワン、ヂラワン。

ヨルアパンチガル等の聯合より成れる土邦ケラトの首邑にして海抜二〇五七米突の地にあり冬季に至れば君主ハンはガンダバに住むと云ふべし。

ヂ(Dadhar)はラスベラの首邑にしてヂラリ河畔の沃地に位す。

◎アフガニスタン

アフガニスタン(Afghanistan)即ちキラヤツV(Kirayats)はイランの北東部を占む、北は中央アジアに隣り東は清國、イギリス領印度と接し南はバルチスタンに接し西はペルシアに連なれり面積は五十五萬方粁を超え南北は約八百粁あり東西は凡そ九百六十粁あり地勢は北西東南西の三方に傾き南西

高三千ルシア州に限らる東は八百五十八萬人。千方粁に達せり東は西は八百五十八萬人とす土地の五分の四は高原の大部は北七百二十四萬人あり一方粁平均三人に過ぎず山岳沙漠多く面積は三十四萬方粁に近し南はアラビア海に面し、西はベルシアあるのみ。

◎ベルチスタン

ベルチスタン(Beluchistan)は高原の南東を占め、北の方アフガニスタン及び北

西國境はシンド、パンジャブと接し南はアラビア海に面し、西はベルシアあるのみ。

高最多きを占めアフガン二〇(八)、ベルチ(八)其の他より成れり宗教、ヒンド教を信ずる約四萬人はマホメット教を信じ約七十萬人あり土着は仏教を信ずる者少なからず。

ベルチスタンはイギリスに屬するが之を二部に分つことを得其一は印度帝國の一州三〇、八六二四二六八方粁なりとす。

農業、一州の小麥、大麥、黍、粟、米、玉蜀黍、馬鈴薯の外に果物類を栽培し工業、羊毛製品には兵器、毬氈等なきに非ざるも物産の饒多なる地にあらず。

住民　部は沙漠最も多し。

人口は五百萬あれば一方粁平均七人の割合と成り、本高原の三地方中、最も稠密なりとす、種族はブラニ最も勢力を有するも、其の數より見るときはギルヂェー第一に居り少なくとも一百萬あるべし、之に次げるはタジック、ハザレー、アミアック、ウスベグ等なり、宗教に就きてキジルバシ、ハザレーの大部は主としてシイヤ派のマホメット教を奉ずるも、其の他はスニ派に屬せり、而してワキーは拜火教を信じ、其の數三千人と概算せらる。

政治　政體は君主專治にして首長を「エミル」(Emir)と稱ふ、表面上は獨立國なれども事實はイギリスの屬邦の如くにしてエミルは印度政府より毎年十八萬「ルーピー」を受け、交通上の要地はイギリス人の占居に係れり、地方はカブル、ヘラット、カンダハル、トルキスタン、バダクシァン(屬地ソハを含む)ハルラーの各州に知事を置く、兵備は五萬乃至六萬の士卒と二百門の砲とを有す。

生業　國土は山岳、沙漠の地少なからずして住民の多數は遊牧に從事するも、肥沃の地はヘラット、カブル河の谷、カンダハル等此處彼處に存して耕耘に適し住民の主食物たる果物(林檎、梨、巴旦杏、桃、櫻桃、杏、梅、ナツメ、ピスタチー、柘榴、葡萄無花果、桑等)に豐にして乾果の輸出せらるるもの少なからず、絹布、氈等はカンダハルに多く產し、羊皮(ボスチン)裘の類)の製造は主要生業の一たり、貿易(一九〇四―〇五)に就きては印度に對して約一千五十七萬ルーピーを輸入し凡そ六百六十二萬ルーピーを輸入するがロシアに對しては輸入に十二萬(ポンド)、輸出に三十一萬(ポンド)あり、道路は概して險惡なるもカイバル道、ボーラン道は良好にしてカブル或はカンダハルまで車行し得べし、商品の運搬には駱駝、馬を用ふること多し。

カブル　カブル(Kabul)(一七、五〇〇)はアフガニスタンの首府なり、海拔一七六二米突の地にありて交通の要路に當り通過貿易盛なり、城塞をバラヒサルと云ふ。

カンダハル　カンダハル(Kandahar)(三一、〇〇〇)は商業交通上重きを置かるる處なり、ヘラット(Herat)(三一、〇〇〇)はヘリルド河の北に於ける海拔八一〇米突の地に位し重要なる商路に當れるが亦軍事上の要區たり、バルフ(Balch)は同名の汗國の首邑にしてゾロアステルの生地なり。

ヘラット

◎ペルシア

境域

ペルシア(Persia)即ちママリクイマールセイイラン(Mamalik-i-Mahruse-i-Irán)は高原の西部を占む、北はアトレク河、カスピ海、アラス河、等に依りてアジアロシアと境し、東はアフガニスタン、バルチスタンに隣り、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に瀕するが、西はアジアトルコに接す、長さ二千二百粁に餘り幅は一千四百粁に達し、面積は約百六十五萬方粁あり。

住民

人口は九百萬人ありて一方粁に付き平均五人の割合なり、其の二百五十萬人は遊牧人なるが、種族はタジック人(五五〇)、トルコ人、トルコマン(一五〇)、クルド人(一〇〇)、アラビア人(五〇)、アルメニア人の外、數多あり、滯留ヨーロッパ人の數は一千二百を超えず、宗教はマホメット教のシイア派最勢力を有して約八百萬の信者を有するが此の外にキリスト教徒(九)、ユダヤ教徒、等もあり、教育は稍改善せられて數種の專門學校あれども住民の大部はマホメット教の經典なる「コーラン」を學ぶに過ぎず。

政治

政體　憲法の發布(一九〇六年)以來、追加法律(一九〇七)、改正選擧法(一九一〇)等に依りて立憲制は確立せられ、君主を「シァーインシァー」(Shah in shah)(王の王)と稱す、議會は元老院(勅選議員三〇名 公選議員三〇名)及び代議院(任期二年の公選議員一二〇名)より成りて內閣は外務、內務、軍務、財務、法務、教育、工部、商務の各長官より組織せらる、地方は三十三州に分かたれ、各州に總督、副總督を置く、陸軍に十二師團ありて戰時には十五萬人に達すべし、財政に就きては一九〇六—七年に八千萬「クラン」(一千四百八十萬圓)の歲入ありて國債は三千二百五十萬「ルーブル」なり。

農業

國土の大部は不毛の地に屬し耕地は五十分の一に過ぎざれども住民の多くは農牧に從事す、農業は米、大麥、小麥、等の穀類、棗、葡萄、無花果、等の果物及び罌粟、藍、煙草、綿、等を栽培するが、茶も亦有望なりと云ふ、牧業は馬、騾、駱駝、等を飼養し生毛はホラサン地方を最良とす、此の他に「ゴム」類、眞珠、等の產あり、工業は生絲、綿布、毛氈、兵器、阿片、等を製しタブリズ、テヘラン、イスパハンを以て重要の中心とす、主港はペルシア灣にブシール、リンガー、ベンデルアッバスあり、カスピ海にエンゼリ、メシェドイサル、ベンデルイゲスあり、一九〇四—〇五

年の貿易は輸入二三億四千九百九十一萬「クラン」餘、輸出に凡そ二億四千七百九十六萬「クラン」あり、主としてロシア（輸入一、六九九七、輸出一、四七五六）イギリス（一、一九六九、二七五五）と取引し、果物（四〇二四）、魚類（三六一〇）、阿片（二九七五）、蠶絲及び繭（一四五五）、米（一三五二）、皮革（一三一六）等を以て主要輸出品とす、交通は概して不便にして鐵道の如きは十三粁、商船は汽船、帆船、各〻一隻に止まれるが電信線は一萬六千餘粁の延長を有しコーカシア、印度に通ず。

テヘラン

テヘラン（Teheran）（二八、〇〇〇〇）（北緯三五度四一分、東經五一度二五分）は王國の首府なるが海抜一一三二米突の地にあり、交通上の要區にして四近に佳園多し、夏季には「シァー」を始めとし近傍のグラハク等の山中に避暑するもの少なからず、メシェド（Meshed）（六、〇〇〇〇）はホラサン地方、海抜九三〇米突にあり、イマンレザの墓處を有するを以て參拜者甚だ多し、イスパハン（Ispahan）（七、〇〇〇〇）はゼンドルド河に沿ひ海抜一五八五米突に位す、大アバスの舊都とす、イェズド（Yezd）（四、五〇〇〇）はイスパハンの南東東、海面上一二三三米突の地にありて絹布、綿布を產す、ケルマン（Kerman）（六、〇〇〇〇）はイェズドの南東、海抜一八五三米突の處にありて敷物を產す、レシゥト（Resht）（四、〇〇〇〇）はカスピ海に近くしてセヒルド河に瀕しエンゼリと相俟ちて商業に從事す、タブリズ（Tabriz）（二〇、〇〇〇〇）はアゼルベイヂァン地方、ウルミア湖の東方、海抜一五〇〇米突にあり、交通の要路に當りて商業盛なり、シラズ（Shiraz）（三、二〇〇〇）はファルシスタン地方、海抜一五五〇米突に位す、ペルシア極樂地の一とせられし處にして目下商業には稍〻見るべきものあり、ブシール（Bushire）は當國海洋貿易の中心にして葡萄酒、煙草、阿片等を輸出す、キルマンシァー（Kirmanshah）（三、二〇〇〇）はルリスタン地方、ケルハー河の上流にありて敷物、兵器を產す、附近のビスツンはダリウス時代の遺物、釘狀文字の彫刻ある岩石を以て著明なり。

イスパハン

ケルマン

タブリス

◉アラビア

境域　アラビア即ちヂェジレーエルアラブ（Djezireh-el-Arab）（アラビア人の國の意）はアジアの南西部に於ける一大半島なり、北はシリア、メソポタミアに依り、北西はスエズの地峽に依りてアジア大陸又はアフリカに連接するも東、南、西の三

西積

海灣

海峽、地峽

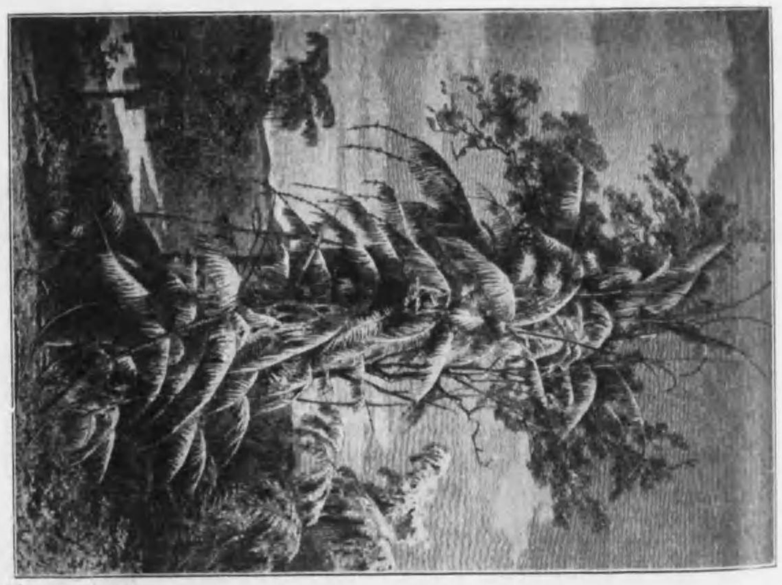
テハマ

一面は海に面せり、地積は三百萬方粁内外と概測せられ、長さは二千六百六十粁にして幅は二千粁あるもペルシア灣と紅海との間に於ける平均の幅は九百七十粁なるべし。

海岸　アラビア半島は三千七百粁の海岸線を有するも、砂丘斷崖多くして彎曲に乏しく海灣にペルシア灣、オマーン灣、アラビア海、アデン灣、紅海(アカバ灣、スエズ灣)あり、海峽にオルムス、バブエルマンデブ、半島にシナイあり、地峽にスエズの存するを見る。

地勢　ペルシア灣に沿へるエルハッサの地方幷に紅海岸に於ける狹長なる低地のテハマ(Tehama)を除けばアラビアは一般に高原を爲して南に高く北に低く平均海拔は約九百米突ならんと云ふ、沿海の地に屹立せる禿赭不毛の山脈中にありて最高峯とすべきはマスカット附近のジェベルアフダル(三〇一八)なり、内部に就きて其の南部は砂質にして北部は礫質或は岩質なるが、印度洋に接近せる山脈の背後にはダーナ(Dalna)(赤沙漠)あり、北に進みてネフド(Nefud)沙漠と成り遂にシリアの沙漠に達せり、ダーナの北に於ける

二峰駝(Camelus bactrianus)



鱶(Calamus rotang)[ジャメ]

ネジェド(Nedjed)は半島の中央に當れるがウエドルンマ(Rumma)(一三〇〇)を始とし此處彼處に泉地ありて耕地、牧場又は樹林を觀ること稀ならず、眞に幸福アラビアと稱すべき地にして人類の棲息に適せり。

氣候　アラビアの氣候は酷熱にして乾燥なり、殊に紅海岸のテハマ、ペルシア灣沿岸の地に於て甚しく、テハマの七月は日蔭に於て尙ほ三十六度七を示す然れども海拔は溫度を減せしめイエメンの高地に於ては冬季氷を見、七月と雖も三十二度を超ゆること稀なりとす、而して沙漠に於ては勿論高溫なるが變化少なくして日中の四十三度、夜間の三十八度を示すと云ふ、雨量は甚だ少なく處に依りては全く無雨の地ありて乾燥不毛の度はサハラに勝れり、又暴風砂を飛ばすことあるも旅行者に危險を與ふることなきに似たり。

天產　地貌がアフリカ的なる如く生物も亦之に類する所あり而して天產は概して饒多ならざるが、動物に馬、駱駝、綿羊、山羊の產あり、野牛、獅子、「コブラ」、鷹、等も存するが如し、植物にはナツメヤシ、「アカシア」、葡萄、無花果、珈琲、等あり、鑛物に鉛、岩鹽、等あり。

ラクダ「駱駝」(Camelus)に二種あり、一峰駝(C. dromedarius)はアフリカ洲北部の原產なり、高さは百五十糎乃至二百三十糎ありて背に一の肉峰を有す、二峰駝(C. bactrianus)はアジア洲の中部並に內部に廣育せらる、體軀肥大にして四肢短し。

タウ「藤」「沙藤」「省藤」(Calamus rotang)〔棕櫚科〕は印度支那マライ群島に產す、太さは直徑四糎以內なるも長さは三百米突に達することあり、籐杖に用ひ又籠類、椅子、各種の器物に製す。

人口　種族　生業

住民　人口は五百萬と稱すれども種族は一樣ならずしてアラビア人の外ユダヤ人、バニヤ人、黑色人、等あり、アラビア人はマホメット教信者にしてヘデシ、フェルラーの如く定住するものあり、ベドインの如き遊牧の民あり、宗教は主としてマホメット教行はれソンナー、シイア二派の外にワハビ派あり、生業に就きてアラビアは不毛の地多けれども尙ほ「ナツメヤシ」、珈琲の產ありて家畜、生毛、等と共に輸出せらる。

分國　本半島の沿岸地にはトルコ、イギリスに屬せる處あれども、其の他は概ね外國の所領たることなく各部の主長の下に獨立せり。

◎獨立部

オマーン　オマーン(Oman)はアラビアの南東岸に於ける獨立國なり、面積は十九萬四千二百方粁、人口は約五十萬人あり、印度政府との間には最も親密なる關係を有し、マスカットにはイギリスの領事兼駐在官居住す、貿易は主として印度と行はれ、一九〇五—〇六年の輸入は約五百六十萬「ルーピー」にして輸出は「デート」、靑貝、果物、消石灰、眞珠、等の二百六十七萬餘「ルーピー」なり、而して入船は三十九萬噸に達せず、首都マスカット(Maskat)(三、〇〇〇〇)はポルトガル人の創建に基づける要塞地にして良港を有す。

ワハビ　ワハビ(Wahabi)はカシム地方の南にありて首邑をリアド(Er Riad)(三、〇〇〇〇)と云ふ。

シアムマル　シアムマル(Shammar)はワハビの北に位し、首邑ハイル(Hail)(一、五〇〇〇)は海拔一〇六七米突の地に位す。

◎屬領部

トルコ領　ペルシア灣沿岸のエルハッサ(El-Hassa)、紅海岸のヘヂァス(Hedjas)イェメン(Jemen)、等はトルコ帝國の版圖に屬するが故にアジアトルコの部にて記述すべし又シナイ半島地方はトルコの貢國たるエジプトに屬す。

イギリス領　イギリスの領地はアデンを主とするが、此の外にバーレイン諸島、カラマン諸島、等あり。

アデン(Aden)はアラビアの南西岸に於ける火山質の半島にして、小アデン

半島若干の大陸地、ペリム島を包含せる二百七方粁の地積と四萬四千足らずの住民とを有するが、四萬三千八百七十九方粁の屬地（アラビア保護地、ソコトラ島）を有してボンベー州の附屬なり、貿易は殆ど純通過的にして一九〇四―〇五年の輸入は四千九百四萬ルーピー餘、輸出は四千二百七十九萬ルーピー弱なり、アデン港は我が横濱を距ること六千五百六十浬にして軍事商業、交通の要地なり、入船の噸數は二百八十四萬を超ゆ、

ペリム島　ペリム（Perim）島はバブエルマンデブ海峽に於ける不毛の小島にして要塞地たり

バーレイン諸島　クリア、ムリア（Kuria Muria）諸島。はアラビア半島の南東にあり眞珠の採集地にして面積六、〇〇〇方粁人口六、八〇〇〇、バーレイン（Bahrein）諸島はペルシア灣に於ける眞珠の採集地にしてイギリスの保護を受く、カマラン（Kamaran）諸島は紅海にあり。

㉓ アジアトルコ

境域　アジアトルコはトルコ國の一部にしてアジア洲の西方にあり、北東はロシアのコーカシアに接し、東はペルシアに隣し、南はアラビアに達し西は地中海、エーゲ海に臨み、北はダルダネル海峽、マルマラ海、ボスポロス海峽、黒海に臨めり、面積は凡そ百七十八萬方粁に達す。

海岸　海岸線は黒海、マルマラ海、エーゲ海、地中海に瀕せる小アジア半島に稍發達し該半島の西岸は澳港島嶼に富めり而して海峽にボスポロス、ダルダネル、地角にババ、島嶼にキプロス、ロドス、サモス、キオス、ミチリニ（レスボス）等あり。

山岳　山脈の趨勢は錯綜を極むるに拘らず概して二つの山系に屬せるが、其の一は北西より起りて南東に趨き、其の二は北東に起りて南西に進めり、而してシリア、パレスチナの兩リバノン山脈は別に一系を爲して南北に走れり、左に主要なる山岳を記さんにアルメニア山彙に大アララット（五一五七）、スパヘンダバ（三八〇〇）、ツラガイラ（三九六二）あり、ポントス山脈にファルチェムベク（三七〇四）あり、タウルス山脈はブルガルダバ（三五七五）等を含み、リバノン山脈にはドールエルホヂブ（三〇六七）、アンチリバノン山脈にはヘルモン（二七六〇）あり。

河湖　河流には內部の閉塞地に終るものあれども亦外海に趨くもの少

なからず、カスピ海斜面にアラス(八〇〇)あり、ペルシア灣斜面にチグリス(一七七〇)、エウフラト(二六〇〇)あり、キジルイルマク(九七〇)、サンガリアス(五二〇)は黒海斜面に屬せり。

エウフラト

エウフラト(Euphrat)河は西部アジア第一の長流なり、上流に二派あり、西派をカラス、東派をムラドと云ふ、上流にありては水勢急激なるもメソポタミア平野に出づれば方向を南東に轉じて幾多の彎曲を呈し、百二十五米突以内の河幅を以て緩流す、バビロン舊地の附近を經、タルナにてチグリス河を合はせ以てカルン河を容るるシアトエルアラブ(Shatel Arab)河と成り、百五十粁を流れ行きてペルシア灣に注ぐ、源委通じて二千六百粁あり、小汽船は河口より千七百七十粁のビルに溯るを得、支流にベイリク、カブルあり。

チグリス

チグリス(Tigris)河は西派のシアト、東派のボータンスを以て源流とす、相合してもスル附近にて平地に出で左岸に沙漠を控えバグダードを過ぎクルナに至りてエウフラトに會す、河幅は二百米突以上に達し流勢急速なり、支流は左岸に大ザブ、小ザブ、ヂヤラーあり、バグダードの下流にナールイサ、シオトエルハイ等の運河を有す。

死海

沼湖は巨大なるものなけれども鹹湖に死海、バン(三六九〇方粁)ツスチュリあり、淡湖にエジェルデル等存せざるに非ずして無口のもの多きを見る。

アナトリア高原

アナトリア高原

にして幅は一七粁あり、其の水面は海面より低きこと三九四米突なり、水深は北部に於て約四百米突に達する處あるも南部に於ては一米突乃至四米突に過ぎず、ルダン河、其の他の流水を受くるが外海に通ずることなくして水分は一、一七乃至一、二三の比重を有し、鹽分は百分中二十六以上に達す、爲めに魚介の生活に適せずして死を以て海名とするに至れり、而して「アスファルト」を含むことも少なからざるが故にアスファルト湖の名もあり、湖岸は南部及び北部に平低なれども東には七六〇米突、四には四六〇米突の山壁あり、附近は地震少なからず。

地勢

地勢　アジアトルコの地はアルメニア高原の一部、小アジア即ちアナトリア高原、メソポタミア平地、シリア幷にアラビアの一部より成りて地勢上、調和單一の性を缺けり。

アナトリア高原はギフン河の溪谷以西の地にしてカラベル山脈、アンチタウルス山脈は東邊を爲せり、高原の平均海拔は約一千米突なるが、南部のタウルス山脈には三千米突に達する處ありて黒海に顏する地は甚だ高からず、四部は數多の溪谷に依りて扇形を爲してエーゲ海に突出せり、内部には鹽分を含む沙地又は濕潤に過ぐる沼澤地多くして海拔二千米突に達するが最高部はカイサリエの近傍アルヂュー山(四〇〇〇)なりとす。

氣候

氣候　地勢錯雜なるが爲めの氣候も地方に依りて大差あり、バン湖の地方は

平均六度半の氣温なれども夏季には酷暑を覺え冬季には嚴寒を感ず、黒海岸のトラペズントの平均は十五度にして地中海岸のスミルナの平均は十八度なり、パレスチナは概して温暖なれどもゴールの谷地に於ては平均二十四度を示せり、メソポタミアは炎暑（夏季には五十度を超ゆる處あり）の地なるもシリア、アラビアの酷熱に比すべくもあらず。

天産　アジアトルコはアジアの西部に位せるを以て生物はペルシア的なるあり、南ヨーロッパ的なるあり、動物は珍奇なるものなくメソポタミアに於ては殆ど野獣を見ざるに至れり、植物にはエルズルム地方、アナトリアの北部等に樫、胡桃多けれどもリバノン山脈が森林に富めりと云ふは既に過去のことたるに過ぎず、而して大河沿岸の地又は地中海に瀕する沃地には穀類、果物等を産す、鑛物は石炭、鐵、鉛、銅等ありて採掘せらるるの日を待てり。

住民　人口は約一千六百九十五萬なるが、地方に依りて大に其の密度を異にし、小アジア、シリアの沿海地并にメソポタミアに於ては稍、密なるも、其の他、臺地、山地、砂地に於ては甚だ粗なり、而してアジアトルコの地たるやアフリカ、ヨーロッパに接近せるを以て古來幾多の種族の來往あり、今日に於ても種族の數は甚だ多し、今其の主要なるものを記せば小アジアの沿海の地にはギリシア人あり、エルズルム地方にアルメニア人、デアルベクル地方にクルド人あり、シリアにドルズ、マロニットの二種族あり、パレスチナ、アラビアにアラビア人多く、トルコ人は各地に散在せるも、小アジアの高地并にメソポタミアの市街を以て最も多數の居住せる處とす。

族種

宗教　宗教は「マホメット」教最も行はれ信者の數は一千三百萬を下らざるべく、ユダヤ教信者は凡そ二十五萬あり、ギリシア人、アルメニア人はキリスト教を信ず。

政治　アジアトルコはトルコ帝國の一部なるを以て「スルタン」の主權の下にあり、而して本地を若干の省に分ち總督を置くが直轄地（甲種）と否ざるもの（乙種）との別あり。

	地方	地積	人口	方粁に付
甲	小アジア	五〇、一四〇〇方粁	九〇八、九二〇〇	一八
甲	アルメニア クルヂスタン	一八、六五〇〇	二四七、〇九〇〇	一三

種	乙					種					合計
小計	キプロス	サモス				小計	アメリカ	ソヴィエト	ポルトガル	ミドア	
一七六、六八九	一、〇〇六、九〇二	四六八				一七四、一〇〇	六三、七八〇				一七七、六八九
二六八、八七〇	二三一、一八四、三	五、四八三、四				一〇五、〇〇〇	四二八、八六〇				九六、五三七、七
九、二七	二七、六七三	一一七				九、二七					九六、八七七

生業　飼養す、工、業は更に振はず、して專に草類、穀物を製するに過ぎず、貿易は主としてヨーロッパ諸國との間に營まれ、鐵道は約三千五百二十粁あり、商港はスミルナ、トラペズント、パンデルマ、ベイルート、エルズルムを主とし、アレッポ、マスク、ベグダードは隊商通過の主要地たり。

アナトルコ第一の都會にして要塞を有し港を備へ商業甚だ盛なるが商權はギリシア人、其の他のヨーロッパ人の手にあり、市街の不潔なると天候の炎熱なるとは腐、惡疫の流行を來たす。

小アジア

スミルナ(Smyrna)(二一〇、一〇一六)は一にイスミルと云ふ、アジア小アジアの第一の都會にして要塞を有し港を備へ商業甚だ盛なるが商權はギリシア人、其の他のヨーロッパ人の手にあり、市街の不潔なると天候の炎熱なるとは腐、惡疫の流行を來たす。

ブルッサ

ブルッサ(Brussa)(七六、三〇三)はオリンポス山の麓に位し商工業稍、盛況を呈す。

スクタリ(Skutari)はコンスタンチノープルの對岸に建ち工業行はる。

アンゴラ(Angora)はサカリア河の畔、海拔八七〇米突に在りて生毛を產す。

カイサリエ

カイサリエ(Kaisarie)(七、一〇〇〇)はアルデー山の麓に於ける一市場なり。

トラペズント(Trapezunt)(三一、五〇〇〇)は黑海岸の一港なり。

アルメニア＝クルヂスタン

エルズルム(Erzerum)はエウフラトの上流に近くして海拔二〇三二米突の地に位す、兵事上の要區にして皮革、金屬細工の產あり、ディアルベクル(Djarbekr)(三一四〇〇〇)はチグリスの上流海拔六六〇米突の地に於ける商區なり。

メソポタミア

モスル

モスル(Mossul)(六、一〇〇)はチグリス河の右岸に建ち海拔二五〇米突の地にあり、アッシリアの都たりしニスアの舊趾と相對せり、

バグダド

バグダド(Bagdad)(一四、五〇〇)はメソポタミアの最大都會なり、チグリス河に跨り海拔四〇米突の地に位し第六軍團の司令部あり、古來有名の地にして現に商業の一中心なるが熟皮の產あり、

ケルベラ(Kerbela)(六、五〇〇)は

エルサレム　ダマスカ　ベイルト　アレッポ　メディナ　メッカ

ベラの南東に位して河に臨みバビロンの舊趾に建てり。

エウフラトの西にありてマホメット教徒の聖地たりヒルレー(Hilleh)はケルバラの南東に位して河に臨みバビロンの舊趾に建てり。

シリア

八一二は米突の地に位す、港をイスカンデルンと云ふベイルト(Beirut)(一一八、〇米突の地に位す、港をイスカンデルンと云ふベイルト(Beirut)(一一八、

一二七一四九)はシリア北部の商區なり、海抜三

一二は)シリアの最要港にして商業盛なり、葡萄酒、果物等を輸出すダマス

八)ダマスカス(Damaskus)(一四〇四八七)は交通上の要衝に當れるが第五軍團司令部あり

〇)て絹布、敷物の製造行はれ商業地として名あり、イエルサレム(Jerusalem)(五、一〇〇

(東北緯三三度五一分、東經三五度一三分)はアラビア人のエルクヅなり、ユダヤの舊都なるが、

著名なり、市街はジッファ港を南東に距ること六十粁に位して海抜七二〇乃

至七八七米突にあり、三方に深谷を繞らし耶蘇の墓を有す、ベートラーム(Bethlehem)はキリストの生地にしてイエルサレムの南方約十粁にあり。

アラビア

メディナ(Medina)(四八〇〇〇)は海抜八七〇米突に位しマホメッ

ト)の墓あり、メッカ(Mekka)(六〇〇〇〇)はデッダー(Djeddah)港の東方、海抜六七〇

米突の地にあり、マホメット教徒の最神聖とする處にして其の教祖の生地な

り、一師團の兵を置きて之を衛る、サナア(Sanā)(五八〇〇〇)は商業地にして

トルコ兵の駐屯するあり、ホデイダ(Hodeidah)(四五〇〇〇)は珈琲を輸出す。

◎ サモス島

サモス(Samos)はエーゲ海の小島なり、スミルナの南南西に位し

て大陸と對する處は四十八粁にして面積は四百六十八方粁に過ぎず、人口は五萬三

千餘ありてギリシア正教を奉ず、米國の援助の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

國の保護の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

國の保護の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

煙草等の一千八百九十四島ヒアストルなりき、首邑をソスイ(Vathy)と云ふ。

◎ キプロス島

キプロス(Cyprus)は地中海の大島なり、小アジアの南シリアの西に位す、長さは二百

二十五粁、幅は九十七粁、面積は九千六百餘方粁あり、南北の山岳帶は中部の平原

を挟めり、住民は二十二萬餘あり、其の大部分はギリシア人なり、木材は上

トルコの領土なれども一八七八年以來イギリスの支配のもとに、一人の長官を

置き、立法、行政、司法の三會議に依りて、補助せらるゝのみにして實權は

總て英國の手に在り、首邑はニコシア(Nicosia)(五一〇〇)にあり、

葡萄酒、乾葡萄、等の輸出あり、一八九一年の貿易額、葡萄酒、麥豆類、

ドに、シャンパン、ブランデー、煙草、葉煙草等の一千八百九十四島ヒアストルなりき、首邑をソスイ(Vathy)と云ふ。

◎ サモス島

サモス(Samos)はエーゲ海の小島なり、スミルナの南南西に位し

て大陸と對する處は四十八粁にして面積は四百六十八方粁に過ぎず、人口は五萬三

千餘ありてギリシア正教を奉ず、米國の援助の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

國の保護の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

國の保護の下に一公國となりてトルコに隷すること一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三

煙草等の一千八百九十四島ヒアストルなりき、首邑をソスイ(Vathy)と云ふ。

◎ キプロス島

キプロス(Cyprus)は地中海の大島なり、小アジアの南シリアの西に位す、長さは二百

二十五粁、幅は九十七粁、面積は九千六百餘方粁あり、南北の山岳帶は中部の平原

を挟めり、住民は二十二萬餘あり、其の大部分はギリシア人なり、木材は上

トルコの領土なれども一八七八年以來イギリスの支配のもとに、一人の長官を

置き、立法、行政、司法の三會議に依りて、補助せらるゝのみにして實權は

總て英國の手に在り、首邑はニコシア(Nicosia)(五一〇〇)にあり、

葡萄酒、乾葡萄、等の輸出あり、一八九一年の貿易額、葡萄酒、麥豆類、

ドに、シャンパン、ブランデー、煙草、葉煙草等の一千八百九十四島ヒアストルなりき、首邑をソスイ(Vathy)と云ふ。

sia)(一、五〇〇)〇)はペザアス河に沿ひ多少の工産あり。

◉アジアロシア

ロシア國はヨーロッパの東部とアジアの北部とより成る大帝國なり、アラル、カスピ、アゾフの三海を合はすれば總面積は凡そ二千二百八十四萬方粁にしてアジア部の面積は約一千七百四十二萬方粁と成りて全アジア洲の三分の一以上に當れり、極北はチェリウスキン岬の北緯約七十八度にして極南はヘリウード河の北緯三十五度、極東はデヂネフ岬の西經約百七十二度なるが、此のアジアロシアはコーカシア、中央アジア、シベリアの三地方より成れるを以て各部に就きて記述せんとす。

◎コーカシア

コーカシア(Caucasia)と稱する地方はカフカズ山脈の南北兩斜面に跨り、地積は四十七萬方粁に近く、北はマニチの凹窪地に依りてヨーロッパロシアに境し、東はカスピ海に臨み、南はペルシアのアゼルベイヂァン、トルコのエルズルムに接し、西は黒海に瀕す、廣袤は凡そ一千二百粁に七百粁ならん。

境域

海岸

海岸は出入少なく、黒海の岸にバツム、ポチーの諸港あり、黒海、アゾフ海の間にタマル半島あり、カスピ海にはキシランガチ灣、バクー港、バクー半島、アブシェロン岬等あり。

山岳

山脈はカフカズ山脈を以て主とす、其の南に一の山彙あり名づけてアンチカフカズと云ふ、兩者はスラム山脈に依りて連接せられアルメニア高原の第一階段を爲せり。

カフカズ(Kavkas)山脈はアゾフ海のタマン灣に起り、四十乃至二百粁の幅を以て北西より南東に走りてカスピ海に突出するアプシェロン半島に達す、長さは一千一百餘粁に亘り四部にはオシテン(四五七五)、中部にはエルブルーズ(五六三〇)、カシタンタウ(五二一一)、ザフダウ(五一五九)、チハダ(五二七二)、カスベク(五〇四四)、東部にはテブロスムダ(四五〇五)の諸山あり、火山質の山岳少なからず、雪線は南面にありては二千九百乃至三千七百米突なれども北面にありては反て稍高くして三千三百乃至三千六百米突なり、是れ北部は乾燥の地にあるに因るならん、又木山脈を横ぎる通路中、車行に適するはダリエル峠(二五〇九)あるのみなり。

河湖

河流は閉塞地に終るものなきに非ざれども主流は二斜面に屬せしむる

を得、其のカスピ海斜面にカラウス、クマ(五四〇)、テレック(六一六)、スラル、サムル、クラ(一〇五〇)、アラス(七八〇)あり、其の黒海＝アゾフ海斜面にクバン(八一〇)、イングル、リオン、チョロクあり、沼沢は北にマニチ、南にゴクチァあり。

地勢

カフカズ山脈の北方にある地はステップより成りて不毛沙洲の地多く、遊牧の民を観るに過ぎざるが、南部は高臺、盆地に富みて土壌も亦優良なれば古来群邦の割據する處たり。

氣候

氣候は土地の高低と日光の強弱とに依りて大差を生せり、山脈の北面又は西にありては多少の濕氣を受くるも南又は東にありては大に乾燥炎熱を感ず、特にアルメニアの高原又は山地に於ては極寒極暑相續ぎて夏季に四十五度の高温あるも冬季には零下三十度乃至三十五度に下りて沼湖の氷結ば數月に亘る、雨量は西部に三四米突を受くるも南東に於ては五十粍に過ぎずしてバクー地方は六月間一滴の降雨をも見ざることあり。

天産

カフカズ山脈はアジア的及ヨーロッパ的生物の分界線たる觀を呈するが、動物に虎、豹、「バイエナ」、熊、栗鼠、兎等あり、植物に松、胡桃、樫或は葡萄、桑、綿、稻、麥、等ありて鑛物に石油、石炭、岩鹽、銀、鉛、銅、等を産せり。

住民

人口は九百二十五萬ありて一方粁平均二十人なり、種族の饒多なる細目に渉るの程度に從ひて四十乃至六十の民族を得べしと云ふ、今茲に稍顯著なるものを擧げんに、グオルギア人(九八萬)は山脈の南面に多く、チェルケス人(三六)は其の北面に居り、共に容姿の秀麗なるを以て名あり、アルメニア人(一二〇)は身體優美の種族にしてアラス流域の地に住す、トルコ＝タタル人(九八)はカスピ海沿岸の地に住し、スラブ人(二五〇)は大小のロシア人、其の大部を占めて各地に散在せるも主として北部にあり、此の他にペルシア人、ユダヤ人、等あり。

行政

本地は擧げてコーカシア太守の管轄に屬し、分ちて六省、四州、一領土、其の中、スタフロポル省、クバン州、テレク州、黒海領區はシスコーカシア(內コーカシア)にありて、バクー、イェリサベトポル、エリバン、チフリス、クタイスの五省、ダゲスタン、カルスの二州はトランスコーカシア(外コーカシア)にあり。

生業

農業は小麥、大麥、燕麥、玉蜀黍、米、綿、染料、等を與へ桑樹の栽培も行はれ、桃、杏、

櫻、巴旦杏等の良果を産す、殊に葡萄園は好評ある飲料を供す、林業は尚ほ有用の木材を與ふ。漁業は甚だ盛にして鱒、鮭、鰊等の總年額は二百萬「ルーブル」に達すと云ふ、山間に行はるる獵業は野兎、栗鼠、青狐、貂、等を捕獲す。鑛業は石油を以て第一としバクー附近の地に於て盛に産出す、又製絲、撚絲の工業は漸次隆盛に趣きて敷物の製造は古來名あり、道路、鐵道、等の交通機關には少なからざる注意を拂はれたり。

チフリス

バクー

クタイス

チフリス(Tiflis)(一六、〇六四五)北緯四一度四二分東經四四度四八分は絶崖の間を流るるクラ河に瀕し、海拔四五四米突に位す、總督府の所在地、交通商業の中心にして市街は漸次旺盛に趣くが住民雜多なり、アレクサンドロポル(Alexandropol)(三、二〇〇〇)はアルバチァイ河に瀕し兵要地の一たり、バクー(Baku)(一一、二二五三)はコーカシア第一の商港なり、鐵路は黒海岸に通じ汽船はトルキスタンに通じカスピ海岸に於ける海軍の要地なるが殊に石油を以て著名なり、デルベンド(Derbend)はカスピ海の小港なり、クタイス(Kutais)(三、二〇〇〇)はリオン河畔の舊市にして製帽に名あり、ポチー(Poti)はリオンの河口にある港にしてチフリス鐵道の起點に當り絹布、穀物を輸出す、バツム(Batum)(二、九〇〇〇)は海軍の要區にして黒海東岸の良港なり、農産を集散す、ウラヂカフカズ(Wladikawkas)(四、三八四八)はカフカズ探題と自稱す、テレク河畔海拔七三八米突に位しダリエル峠の咽喉にして兵事交通、商業の焦點なり、スタフロポル(Stawropol)(四、一六二一)は山麓にあり豐饒の土地にて園繞せらる、イエカテリノダル(Jekaterinodar)(六、五六九七)はクバン河の岸にあり製造業、商業に從事す、イエイスク(Jeisk)(三、五四四六)はアゾフ海の一小港なるが漁業幷に商業に從事す。

ウラヂカフカズ

スタフロポル

イエカテリノダル

イエイスク

◎中央アジア

境域

中央アジアは西トルキスタンの主要部にシベリアの一部、外カスピ地方とを加へたるものより成れり、東はタルバガタイ山脈、天山山系より西はカスピ海に至り東はシベリアに連なり南は清國新疆省、アフガニスタン、ペルシアに接するが、面積は三百六十四萬餘方粁あり。

地勢

中央アジアは南東パミル高原、天山山系より北西に傾きて西部にウストウルトと稱する臺地を有するが槪して平低の地多く、中にはキルギスの如

きステップの地あり、アククム、キジルクム、カラクムの如き沙漠の地あり、然れども處々に泉地なきに非すして殊にフェルガナ地方は頗る肥沃なり。

山岳

北西部にムゴジァル山脈、南西部に大バルハン、小バルハン、コペットダハ、等ありと雖も海抜甚だ高からずして顯著なる山脈は南東部より東部に蟠踞せり、其の主要なるものは天山山脈(パンテンリ、七三四〇)、アライ山脈、トランスアライ山脈クンゲイアラタウ山脈、テルスケイタウ山脈、アレクサンドル山脈(セメノフ、四六八五)、アクサイ山脈、タラスタウ山脈、カラタウ山脈、等を包括する天山山系にしてタルバガタイ山脈にはムスタン(三四五一)あり、パミル高原にはカウフマン(七〇一〇)あり。

河流

今主要なる河流を記せば北部にトボル、イシム、イルチシあり、東部にイリ(一五〇〇)あり、中部にサリ(八〇〇)、チュー、タラス、シル(一六五〇)、ザラフシァン、アムダリア(二五〇〇)、ムルグアブ、テジェンドあり、西部にエムバを見る。

アム河即ちアムダリア(Amu-darja)は古名をオクスと云ふ、水源はパミル高原に發するサルハルト(南源)、ムルガアブ(中源)及びスルガアブ(北源)より成りて概ね北西の方向に流れ下流はタルザク、ヤニス等に分かれて鹹湖に注ぐ長さは二千五百粁あり、ヒバ附近のヒトニアクに於ける排水量は一秒時三千五百四十立方米突なり、而して本流は往古カスピ海に終りしことありてメルフ地方を潤すムルガアブ、ザラフシァンの如きはアムに達せしと云ふ、目下支流の主なるものは左岸にパンザアブ、コクチァあり、右岸にロタシク、カフィルナガンあり、其の下流一千粁以上の間には一も存せず。

シル河即ちシルダリア(Ser-darja)は古名をヤクサルトと云ふ、天山山系中のペトロフスキーグレンドを過ぎたる後、忽に北西に向ひアラル海に注ぐ、本流は源委通じて一千六百五十粁あり、下流に於ける河身は屢、移動せりと云ふ、沙洲多し。

シル河

沼湖

沼湖の數は少なからずして東部にはザイサン、アラクル、ザシクル、バルハシ、イシククルあり、中部にテニス、チァルカルテニス、アラル海、西部にカスピ海、バルスクあり、此等には淡水性あり、鹹水性あり又面積の縮少するものあり。

カスピ海

カスピ海(Caspian Sea, mer Caspienne, Kaspisches Meer)は世界第一の大湖にして面積約四十四萬方粁あり、長さは一千九十四粁(幅の中點に基づけば一千二百六十粁)ありて幅は二百乃至五百五十粁あり、水面は外海の表面より低きこと二十米突なりとす、水深は北部に六七百米突、南部に九百餘米突の處あるが、中部には水底山脈の横ぎるありて稍、淺きものの如し、エムバ、ウラル、ボルガ、テレク、クラ、アトレク等の諸流注入し

水中の鹽分は畧ぼ外洋に於けるものと同じく鱘、鮭等の産あり、湯岸は東部に於て稍に屈折し島の著しきものをチェレケンと云ふ、本湖は古來交通上の利便に供せられしがカスピ鐵道の開通以來一層、其の用を增大したり、又沿海に行はるる漁業も盛なりとす。

アラル海　アラル(Aral)海は六萬八千方粁の面積を有し海拔四八米突の地にあるが、南北の最長三百五十粁、最大幅二百八十粁、平均水深十乃至十五米突にして鹹味を帶ぶること甚しからず、鱘、鮭多く湖上島嶼點在し航行困難なり、アム、シルの二河此處に注ぐも本湖の水量を維持するに足らずと云ふ。

バルハシ湖　バルハシ(Balkasch)湖は海拔二三六米突の地にありて長さ五百四十餘粁に達するも幅は十乃至八十五粁に過ぎずして弓形を呈し面積は約二萬一千方粁あり、往古は頗る廣大なる域を占め今のサシクル、アラクル、等の諸湖を含みしと云ふ、平均水層は二十米突内外にして鹹味少なく魚類に乏し、本湖に注ぐ河流はイリを始め、其の他六流あり、是れ當地方にセミパラチンスク(七河地方)の名ある所以なり。

氣候　氣候は大陸的にして寒暑甚しく冬は北部に於て零下四十度に降り、夏は南部の日蔭に於て三十六度を示し、サマルカンドにては極寒極暑の差七十五度に及び氣温の變化は急激なり、空氣は甚だ乾燥にしてキジルクム、カラクムの沙漠には終歲一滴の降雨も見ざることあり、年平均雨量はタシケントに三十二粉、サマルカンドに三十四粉なり、南部、東部の山岳地方には比較的多し、而して沙漠の地はテッパドと稱する熱風に苦められる。

天產　動物には驢、羚羊、虎、狼、等あり、殊に蚊、蝗蚌の勢力は恐るべし、と云ふ家畜として飼養せらるるものは駱駝、馬、羊、牛なり、植物は「サクサウル」、「ジッダ」、白楊、等を主とし水利のある處には穀類、果物、其の他の栽培行はる、鑛物は南部殊にホーヂェンド附近に多し。

住民　人口は約七百七十二萬人ありて一方粁に付き二人に過ぎず、種族に就きて其の最多數を占むるは遊牧を事とせるキルギスなり、此の外、市街の地にはサルト人多く、農民にはタジック人多し又ウスベグ人はフェルガナ地方に勢力を有し中央アジアのトルコ族中最開化せるものなりとす、而してスラブ人は北部にありては各種の業務を營むも南部にありては官吏士卒多くして普通の人民としては少なし、宗教はスニト派のマホメット教最勢力を有すれども亦シイア派あり、キリスト教徒、拜火教徒も見る所なり。

政治　地勢上、シベリアに屬すべきステップ州を合はせて九州に分たれ、二州(ウラルス)

ナマンガン

三六五九二は一九〇六(一八八一)の東徼商に當り養蠶に從事し絹布毛布を製す。カンドヘホーカンドに次ぐ第二の都會にして人口七萬餘(一八八一)、綿羊雜貨を集散す。アンディジャン(Andidschan)(四六八六)は海拔四〇〇米突にあり皮類綿布を製し、ナリンは海拔四六〇米突に位する商業地なり。オーカンドは内務部の直轄に屬し他の二州には總督殘れり。五

アンディジャン

綿羊雜貨を集散す。アンディジャンは海拔四六〇米突に位する商業地なり。オーカンドは内務部の直轄に屬し他の二州には總督殘れり。五

オーカンド

タシケント

タシケント

州アヤグース、サマルカンド、ナマンガン、アンディジャン、フェルガナ、トラスカスピ、ドラウチナンスクの七州は總督の支配の下にあり。

草原の地には多少の牧場あり、濕潤肥沃の谿谷には耕地を見、穀類生ずるも、毛皮革等の輸出あるに物產少なく生產力に乏しき地なり、而して灌漑工事の擴張は頗る此の地方の發達を促せり、該鐵道は二八九〇河、シル河或はアム河と相俟つて印度又は支那に通じ得べく大北帝國の南下に關しては中央アジア重要の地なり。

タシケント(Taschkent)(一五六四)は東北緯四一度一八分、東經六九度一五分に位し、トルキスタン總督の駐在地なり、シル河の一支たるチルチク河に沿ひ、海拔四六〇米突にあり、タジック人大部を占むれども、市街は多くロシア人の住居にして、商業は盛に行はれ、製造ある清麗にして一新面目を呈す、ホーチンドゥ(Chodschent)(三〇〇〇)は七六海拔一五二米突にあり、タタール街とロシア街とに分かれ周圍に胸壁を構ゆる城塞地なり、絹布を產す、ホーカンド(Kokand)(一八二〇)は五四海拔四〇〇米突にあり紙類綿織物等を製し商業繁榮なり、マルギラン(Margelan)

ペロフスク(Perowsk)(一七二)は一港なり、ラスノボドスク(Krasnowodsk)も亦カスピ海の岸にありて、オーム河とイルチシ河との合流する處海拔四九四にあり、ステップ總督府の所在地にして人口四千五百

ペロフスクは同名の泉地にあり、アムダリヤの下流海拔一七二米突に位し、軍事上又は通商上の要地なり、ソスンアダ(Usun ada)はカスピ海の一港なり、ラスノボドスク(Krasnowodsk)も亦カスピ海の岸にありて、オーム河とイルチシ河との合流する處海拔四九四にあり、ステップ總督府の所在地にして人口四千五百

ハミルに達する通路に當り雜貨を集散す、アンディジャンは第一の沃土にあり、海拔四七〇米突に位す、アクダラは河の畔、海拔一〇一〇米突に位す、アライ拜に近く、カンドゥルガ(一八六一)は海拔四〇八米突にあり、皮類綿布を製す、ナリンは海拔四六八米突に位する商業地なり、オーカンドは内務部の直轄に屬し他の二州には總督殘れり。五

ハミルに達する通路に當り雜貨を集散す、アンディジャンは第一の沃土にあり、海拔四七〇米突に位す、アクダラは河の畔、海拔一〇一〇米突に位す、アライ拜に近く、カンドゥルガ(一八六一)は海拔四〇八米突にあり、皮類綿布を製す、ナリンは海拔四六八米突に位する商業地なり、オーカンドは内務部の直轄に屬し他の二州には總督殘れり。五

ペロフスクは同名の泉地にあり、アムダリヤの下流海拔一七二米突に位し、軍事上又は通商上の要地なり、ソスンアダ(Usun ada)はカスピ海の一港なり、ラスノボドスク(Krasnowodsk)も亦カスピ海の岸にありて、オーム河とイルチシ河との合流する處海拔四九四にあり、ステップ總督府の所在地にして人口四千五百

ペロフスクは同名の泉地にあり、アムダリヤの下流海拔一七二米突に位し、軍事上又は通商上の要地なり、ソスンアダ(Usun ada)はカスピ海の一港なり、ラスノボドスク(Krasnowodsk)も亦カスピ海の岸にありて、オーム河とイルチシ河との合流する處海拔四九四にあり、ステップ總督府の所在地にして人口四千五百

ペロフスクは同名の泉地にあり、アムダリヤの下流海拔一七二米突に位し、軍事上又は通商上の要地なり、ソスンアダ(Usun ada)はカスピ海の一港なり、ラスノボドスク(Krasnowodsk)も亦カスピ海の岸にありて、オーム河とイルチシ河との合流する處海拔四九四にあり、ステップ總督府の所在地にして人口四千五百

屬地

ブハラ

て城塞あり兵學校あり、商工業共に盛なり、ウラルスク(Uralsk)(三、六五九七)はウラル河の右岸海抜四三米突にありて畜産幷に漁産を集散す。

中央アジアに於けるロシアの屬地に二あり、其の大なるをブハラと云ひ其の小なるをヒバと云ふ。

ブハラ　ブハラ(Buchara)國は露領トルキスタンの北にし、東はパミルに至り南はアフガニスタンと境し南西はトランスカスピ州及びヒバ國に隣り、面積は二十一萬方粁に餘り長さ五六百粁、幅三四百粁あり、人口は百二十五萬ありてマホメット教を奉ず、此の國は一八七三年の條約に依りてロシアの屬地と成りたり、君主エミールはウスベク種族より出で一萬餘の兵を有するがロシアはアムル河上に五隻の兵船を備ふ、水利ある處には耕地あり、トランスカスピ鐵道は當國を横ぎり、アム河には航通の便あり、首都ブハラ(七、〇〇〇〇)北緯三九度二四度二五分は海抜二四〇米突にあり、マホメット教徒の靈地たるのみならず、通商上の要衝に當るを以て市街稍繁華なり、カルシ(Karschi)(二、五〇〇〇)は首府の南東、海抜四六〇米突に位し武器並に銅器を產す。

ヒバ　ヒバ(Chiva)國は東はアム河に限られ北はアラル海に至らんとし、其の他はトランスカスピ州に接す、長さ三百二十二粁、幅二百二十五粁あり、面積は六萬方粁にして其の一萬三千五百方粁は泉地に屬し、殘部はステップを爲せり、住民は八十萬

ヒバ

人ありてマホメット教を奉ず、當國はウスベク種族に屬す、土地はアム河より導ける運河に依りて潤され生絲、實綿を產す、首都ヒバ(三、〇〇〇〇)はタシケントを距ること七百五十粁の地にありて敷物、絹布を製す、新ウルゲンヂ(Urgendj)(三、〇〇〇〇)はヒバの北東四十粁にありてアム河に臨み內外の物產を集散す。

◎シベリア

位置　シベリア(Siberia)はアジアの北部にありて極南は豆滿江口の北緯四十二度二十三分にて極北はチェリウスキン岬の北緯七十七度三十六分にあり、極西は東經凡そ六十度、極東は西經凡そ百七十二度とす。

境域　北は北極洋に面し東はベーリング海峽、ベーリング海、千島海峽、オホーツク海、日本海に限られ南は韓國、淸國に接し南西は中央アジアに接し西はウラル山脈を隔ててヨーロッパロシアを控ゆ、東西六千七百五十粁、南北三千粁に近く、面積は約一千二百五十萬方粁なりとす。

海岸　海岸線は長からざるに非ざるも概して結氷の爲めに閉塞せらるるを免れず、其の北極洋岸は一般に低くして海灣には深く凹入するものあれ

ども極寒の地にあるを以て更に用を爲さず、夫のノルデンシェルドの成功せる北東通路の如きも唯、探檢史上に特筆せらるるに過ぎず、又太平洋に於けるものも冬季の數月間は使用するを得ず。

- 海灣
  - 北極洋
    - バイタラタ灣　カラ海　オブ灣　イェニセイ灣
    - タイムイル灣　ハタンガ灣　ノルデンシェルド海
    - ヤナ灣　チァウン灣
  - 太平洋
    - ベーリング海　アナヂル灣　オホータ海　ペンジナ灣
    - ギシカ灣　タウイ灣　サハリン灣　アムル灣
    - タタル灣　アヤン灣　トグル灣　アカデミヤ灣
    - スチアスチェ灣　ドカストリ灣　イムペラトル灣
    - ウラヂミル灣　アメリカ灣　ペテロ大帝灣（ウスリ灣 アムル灣）　ポシェット灣
- 海峽
  - ベーリング　千島　間宮（タタル）
- 半島
  - 北部　ヤルマル　タイムイル
  - 東部　チゥクチ　カムチァツカ　タイゴノス　ムラビヨフ
- 地角
  - 北部　チェリウスキン　タイムイル　スピエトイノス　シェラグスキイ
  - 東部　デヂネフ（東岬）　ロパトカ　ナバリン
- 島嶼
  - 北部
    - ワイス島　新シベリア群島（コテルニイ島 ファデイエフ島）　リアホフ島 新シベリア島
    - アヨン島　ウランゲル島
  - 東部
    - カラギン島　コマンドル群島　シァンタル群島
    - カラフト島　アスコリド島　カザケヰッチ島

山誌　北部にはバイランガ山脈あり西部にはウラル山脈（テルボスイス（一六八九）、デニシキンカメン（一六三三）、イレメル（一五三六））ありと雖も顯著なる山脈は南部より東部に連亘してアルタイ山系中にはタルバガタイ山脈（ムズタウ山（三七五〇）、ハバラス峠（二八七四））、アルタイ山脈（ビエルハ、（三三五〇））、サヤン山脈（ムンクサルヂク（三四九〇））あり、ヤブロノイ山脈はスタノボイ山脈（マカチンガ（二六八三））に連なりて分水嶺と成り、後者はベルホヤンスク山脈と共に半圓形を呈し、北極洋斜面中、一小水域を形成せしむ、此の他にダウル諸山のケンテイ山脈（ソホンド、（二四五〇））、ネルチンスク山脈、バイカル諸山、等を含むあり、アムル諸山のブレヤ山脈（小興安嶺）、シホタアリン（タタル）山脈に分かるるあり、カムチァツカ山脈

は二派に分かれて東派は十二座の活火山と二十一座の熄火山を包括し、西派は五座の熄火山を有するがクリッチ(四八八七)、シュエリチ(三三五三)等の高峰を有す。

河流

水誌　土地廣大にして山脈は主として南東部に偏在するを以て河流の巨大なるもの甚だ多し而して大支流の多くは北西或は北東に流れて本流に會し水路は相連なりてウラル山脈より太平洋に達せんとす、然れども河口は概ね北極洋に瀕する寒冷の地にあれば結氷期長くして實際に効用あるものは至つて少なし、北極洋斜面には、イルチシ＝オブ(五六八五)、イェニセイ(四七五〇)、ピアシナ(五三四)、ハタンガ(六四〇)、オレネク(二一三四)、キチム＝レナ(五四六五)、ヤナ(一六〇〇)、インヂギルカ(一五〇二)、カムチァツカ(五〇一)、アムル、ウスリ(八〇〇)あり、太平洋斜面にアナヂル(一一五二)、カムチァツカ(五〇一)、アムル、ウスリ(八〇〇)あり。

オブ河

オブ(Ob)河(四二〇〇)はオビ河とも云ふ、ピエルハ山嶺に起りバルナウルカの水を受けて山地を離れ三百乃至八百米突の河幅を以て曠原の地を緩流して派流を爲しイルチシを容れ北轉して森林帶に入りツンドラ中に進み幅五十粁、長さ八百粁の狹灣に依りて北極洋に朝す、本河の全長はイルチシ＝オブとすれば五千六百八

十五粁に達し流域は三百五十萬方粁に達す、支流は右岸にトム、サロリム、ケト(一一〇〇)、チム、ソフ、等ありて、左岸にチァリシ、アレイ、イルチシ、コンドゥ、ソスバ、等あり、イルチシ(Irtysch)河(四〇〇〇)はコプト高原の南方に於けるアルタイ山脈に發しカルグンと稱する湖河の潜流を受け黒イルチシと成りロシアの領土に入りて玉派に分かれてザイサン湖に注ぎ、該湖を出づるやイルチシと稱しオム、イシム(一六七五)、トボル(一六〇〇)、等を合はせて一大河と成りオブ河に入る。

セレンガ＝アンガラ＝イェニセイ河

セレンガ＝アンガラ＝イェニセイ河は四千七百五十粁の長さと二百九十五萬方粁の流域とを有す、セレンガ(Selenga)河は源流をエデルと云ひエケゴル、オルホンの水を合はせてバイカル湖に入るアンガラ(Angara)河はヰチム盆地より來りて上アンガラと勝せらるるが同湖を出づるや下アンガラと云ふ、イルクト、オカ、ウダ、イリムの流域とを有す、セレンガ＝アンガラ＝イェニセイ河。

等を合はせたる後イェニセイ河に入るイェニセイ(Jenissei)河はサヤン山脈の南面に發するベケム、フアケムの合流たるウルクムがケムチクを合はせロシアに入りたる後の名にしてクラスノヤルスク附近に至り河道は海拔一六〇米突にあり、アンガラ河即ち上ツングスカ河を容れて北に進み左よりシム、ツルハン、等、右より山ツングスカ(二七〇〇)、クレイカ、等を容れ下流に於ては濶二十二乃至二十五粁の三角洲を抱き幅六十粁内外の河灣をなして海に入る、魚類の産はオブの如く多からず。

レナ河

レナ(Lena)河(四八〇〇)はバイカル湖の南西三十二粁、海拔一千米突の地に發源し樹林蓊鬱たる峽谷を流れ、東バイカル山脈より來るヰチム(二一三五)を容れし後、河

（鹿馴）ヒガナトとラドンツ衣地

サクサウル（Saxaul）（Haloxylon ammodendron）
［ヅンガリア　ステップ　Dzungaria stepp］

アムル河

沼湖

バイカル湖

ダン河（一三〇〇）、等を合はせ河幅一千五百米突を以てヤクーツクを経、方向を北西に轉じて左岸第一の支流たるヰリウイ（二〇〇〇）を受けたる後、ツンドラに入り北流して三角洲（二、二〇〇〇方粁）を形成し遂に海に入る、井チム＝レナの長さは五千四百六十五粁に達すと云ふ、流域は凡そ二百五十萬方粁あり、河中魚類少なからずして沿岸の地は獵産、林産、等に富めり、ヤクーツクとキレンスクとの間には通舟の便あり。

アムル（Amur）河。はサハリンウラ又は黒龍江と云ふ、ケンテイ山脈に發する源流ケルレンはシルカ河と合して始めてアムルと稱すシルカ（Schilka）河（一二〇〇）はソホンド山に發するインゴダとクンテイ山脈より出づるオノーンとの合流より成れり、此の如くにしてアムルは約四千四百粁の長さを有する大河なるがロシアに屬する部分は中流の左岸又は下流なり、而してロシア部の支流はセイヤ（一二〇〇）、ブレヤ、アムグン、ウスリ（八〇〇）を以て主とす、ウスリ（烏蘇里）河はシホタアリンの南端に發してハンカ湖、其の他、ダムレン、ノル、イマン、ビキン、ホル、等の水を受け河幅二十三粁を以てアムルに終り八百粁の長さを有す。

沼。湖。は西部にチヂニ（三六一二方粁）、クルンダ（七五一）等あり、東部にバイカル（三、四九七五）、ハンカ（興凱）（三七九二）清露に屬す等あり。

バイカル（Baikal）湖。はアジア第一の淡水湖にして世界屈指の大湖たり、北北東よ

圖極一帶の平野にありては冬季永く降雨稀にして土地は濕き表面を除く外常に氷結しあるを以て植物の發生期極めて短く風色單調、動物の生存少なく實に寂々寥々たる地域なり、アジア又はヨーロッパの北部にあるを「ツンドラ」(Tundra)と云ひアメリカにありてはバーレングラウンヅ(Barren grounds)瘠地の意と云ふ、稀には柳又は樺が叢叢を爲すを見るも樹の高は十六糎を超ゆるものなく蘚苔地衣を以て主要なる植物とす、從て「ツンドラ」に別あり、蘚苔「ツンドラ」は濕地にして地衣「ツンドラ」は乾燥せる礫地より成れり。

サクサウル (Saxaoul)(Haloxylon ammodendron) は砂地に發生する高さ三四米突の灌木なるが枝の多きに拘らず葉を有せざれば蔭を與ふることなし、幼枝は駱駝の飼料に供し住民の薪材たり。

ヂリスン (Dyrissoun) (Lasiagrostis splendens) 〔禾本科〕は纖味を帶ぶる粘土質の地を好み高さ二三米突の小藪を爲して雉、燕、野兎、狼、狐、等に隱棲處を與ふるが、牧草に用ひ帽子、敷物又は被覆に製すべし。

り南西に亘り長さ六百七十二粁、幅は四十乃至百粁、面積三萬四千九百七十五方粁にして周回は一千五百七十九粁あり、又水面は海拔四百六十九米突に位し平均水深は二百五十米突あるが、最深點は一千三百七十五米突あり、上アンガラ、セレンガ、等二百餘の水流を受け水色凄然として清く湖岸は絶壁奇岩多く湖上には一のオルホン島を見るのみ、湖水は毎年十二月より翌年の五月まで氷結するも魚類の生産豐しく海狗も南東岸には棲息す、湖の南西岸に幅一千米突の低處あり、下アンガラ河の流出する處なり。

地勢 シベリアは南部及び東部に於て山岳を有するも南東より北西に向ひて緩斜する平低の地多し、然れども高地と低地との區別の有するはイェニセイ河以西に於ける西シベリアにして、起伏に富める東シベリアには高隆なる丘陵の縱橫に走行するを見る、而して北緯六十五度以北の沿海地方は所謂ツンドラ(凍土帶)に屬し僅に夏季の間多少融解して沼澤の地と成るが、之よりタイガ(森林帶)を經て南するに從ひステップ(草原帶)の地と成る、ステップ中にて、トムスクの西に於けるバラベの如きは地味肥沃なり。

氣候 氣候は純然たる大陸候なり、蓋し北に面する平地は氷洋に瀕するのみならず、寒烈なる北極風を遮ぎる山脈なく、之に反して南部には高山秀峯

ツンドラ
タイガ、ステップ

氣溫

の連綿たるありて熱帶地方より吹き來る高溫風を防遏す、從て同緯度の他の地に比すればシベリアは遙に低溫を示す、現に年平均の零度以上に達するは南西の一部に限れり、而して春は好季なるも來去極めて速なり、夏は短きも高溫に達すること恰も赤道直下にあるが如し、ヤクーツクに於て三十度を超ゆることありて稀には三十八度に昇ることあり、殊に寒暑の差烈しく寒極と稱せらるるベルホヤンスクは北東部にありて極寒は零下六十九度八を示すが年平均は零下十七度二なり。

地名	年平均	一月	七月	寒暑の差
ベルホヤンスク	(一) 一七、二	(一) 五一、二	(十) 一五、〇	六六、二
ヤクーツク	?	(一) 二三、〇	(十) 一八、〇	四一、〇
イルクツク	(一) 〇、一	(一) 二〇、四	(十) 一八、八	三九、二
オホーツク	(一) 五、一	(一) 二三、七	八月(十) 一三、三	三七、〇
ハラチヲストク	?	(一) 一四、〇	(十) 二〇、〇	三四、〇

降雨

降雨は南より東に趣くに從て其の量を減じ夏季には概して乾燥を極むと云ふ、冬季の雪は西部、レナ河の下流地方、ヤナ河の流域に比すれば東部に少なきがタイガ地方にはブルカ即ち猛烈なる飛雪の起ることあるも冬天は殊に清鮮なり、風は冬季に於てはウラル山脈、イェニセイ河の間に南及び南西の風多くレナ河流域は北西風多し、夏季に於ては北海岸は極軟風を受け東海岸は繼ぐに太平洋より來る南東の濕風を以てす。

風

植物

動物

鑛物

天産 植物に就きて記さんにシベリアは氣溫低く濕氣不充分なれば樹木の生長は遲々たるも、ステップの北に於けるタイガ即ち森林帶は北緯五十五度より同六十五度に至る地を蔽ひて落葉松、「ビクタマツ」「センブロマツ」「シベリアモミ」、大松、樺、白楊、櫧、「ヤチダモ」「カヘデ」等を產す、動物は寒地特有の毛皮獸に富み極兎、青狐、其の他、狐の各變種、極犬、海狗、「ジベリナ」、銀鼠、栗鼠、極熊、水獺、極猫等あり、魚類には「ステルレ」、鱘、「オンブラ」、鰊等あり、鑛物は其の產少なからずしてウラル地方に金、鐵、白金、孔雀石等あり、アルタイ地方に金、銀、鉛、銅、鐵、亞鉛等あり、リアホフ群島、レナ河口附近の地中よりは「マンモス」の牙類を產す。

車即ち丁零、等の諸族著はれ、突厥亦漸く盛にして六百六十年代に唐の爲めに征せられしことあり、其の後、韓愛斯、乃蠻、克烈、等の諸族起りしが蒙古の成吉思汗の攻略する所と成り、元の衰ふるや土人割據して始めてもベリアの土人と交渉せしは後にロシアに滅ぼされしノブゴロド人なりと稱せられ、シビリ汗の如きは早くロシアに歸服(一四)せしことあり、然れどもシベリアが眞實にツアールの領土と成るに至りしはコザックの統領イエルマックがコザック人數百名を率ひてシビリ府に進發(一五)せしに由れりコザックは驃悍にして劫掠を事とし後凡そ百年の間にアムール地方の外、全シベリアを取れり、アムール河畔はハバロフの經營(一六五三)する所と成りしがネルチンスク條約(一六八九)に依りて此の地方を清國に割讓するの止むを得ざるに至れり、然れどもロシアはカラル山脈よりカムチアツカに至る間は大概之を有することと成り(一七〇九)ムラビヨフなして愛琿條約(一八五八)を訂結せしめて更にアムール下流地方に地歩を占め、清國とイギリス、フランス兩國との和議に奔走せる報酬として清國より江東の地を得(一八六〇)、又我が日本とは境界に關して紛爭久しきに亘りしがカラフト島と千島との交換條約を結びて一時局を結べり(一八七五)、而して近年北清事件に當りては滿洲を占領し撤兵の期に及びて約を履まず、韓國の獨立を危うせんとせしを以て遂に彼我の交戰を來たし、我が連勝の結果はポーツマス條約を成立せしめロシアはカラフト島の南部を失ひたり。

住民　土地の廣大なるに拘らず人口は一八八五年の四百三十一萬餘一八九七年の五百七十五萬餘にして百方粁に付き七人乃至二百三十人、平均五十人の割合に過ぎず、其の分布は南部に偏し北部は極めて粗なるがヨーロッパに近き西部は比較的に稠密なりとす、又人口の增殖は主としてヨーロッパよりの來住者に基づけるが、畢人の謫流地たりし頃には有益の事業に對する率先者の多くを國事犯者に仰ぎたり、而してシベリア鐵道の建設以來殖產は活氣を帶び移住者を增加せんとす、來住者の數は一八九六年に十五萬人にして翌年は二十萬人なりき。

種族は頗る錯雜なり、一八八五年の調査(人口總數六二一、二〇〇〇人、ベルム、カファ、オレンブルグ等を含む)に從へば七派に分かる、第一のヨーロッパ派(五五一二千人)はスラブ(五五〇九)、ロシア人(ポルスカ人)ドイツ(三)の二に分かれ、第二をセム派(八)、第三をオスチアク、イェニセイ(二五)、サモイイェード(一七)、ボグル(六)、ソイオト(二)より成るフイン派(五〇)、第四をトルコ＝タタル派(三〇〇)、第五のモンゴル派(三一三)にはブリアト(二五〇)、ツングス(五〇〇)を含ましむ、第五のモンゴル派(三一三)にはブリアト(二五〇)、ツングス(五

〇）支那人、滿洲人（一〇）、朝鮮人（三）あり、第六の北東派（一七）にはチュクチ（八）、コリアク、ユカギル（五）、ギリアク（八）、カムチャカダル（三）、アイヌ（三）あり、第七の印度派（五）は即ちツィガヌなり。

宗教

宗教中最も勢力あるものはキリスト正教即ちギリシア教にしてスラブ種族を始めとし其の他の教化の民は之を信ず、天主教、ユダヤ教、マホメット教を奉ずるものは多からず、又ラマ教、シャマン教はブリアト、サモイイェード、オスチアク、ツングス等の土人の間に行はる。

育

教育に就きては小學校、中學校を各地に設けて普通教育を授くれども女子の就學者は男子より遙に少數なりと云ふ、大學はトムスクに設けらる又土人の部落にも學校あり、要するにロシア政府はギリシア教とロシア語とに依りてシベリア在住の各種の人民を教化結合せんとするものの如し、而して其の結果空しからずして旣にブリアト、其の他の種族中にロシア的愛國家を生ずるに至れりと云ふ。

政治　シベリアに關する自然的境界と政治的境界とは一致せず、行政上のシベリアは五省、三州及び二領土より成りて各省に知事、其の他に軍政知事を置き、内務直轄の二省以外は總督又は知事をして統轄せしむ。

管轄廳	行政區	地積	人口	方粁ニ付	管轄廳所在地
内務部	トボルスク省	一三二、七三一〇	一七六、九八〇〇	一、三	トボルスク
	トムスク省	八六、二五三〇	三一一、七七〇〇	四、〇	トムスク
イルクック總督	イェニセイスク省	二六一、四二六〇	七〇、五三〇〇	〇、三	クラスノイアルスク
	イルクック省	八九、四九〇〇	六五、六九〇〇	〇、七	イルクック
	ヤクーツク省	三七九、一四一〇	三〇、九九〇〇	〇〇、八	ヤクーツク
	後バイカル州	六一、三三八〇	八〇、六五〇〇	一、三	チタ
アムル總督	アムル州	四四、七七五〇	一九、五二〇〇	〇、四	ブラゴベシチェンスク
	沿海州	一五四、七三三〇	二六、八九〇〇	〇、五	ウラヂヲストク
	カムチャッカ	一三五、七一一〇	三、八四〇〇	〇〇、三	ペトロパフロフスク
	サハリン	三、七九九〇	一、三五〇〇	〇、四	アレクサンドロフスク
シベリア		一三三九、三八七〇	七八七、八五〇〇	〇、六	

兵備　陸軍は第一軍をニコリスク＝ウスリスキに、第二軍をチタに、第三軍をイルクックに置けるが、有名なるコザック兵（外バイカル）は屯田兵にして各地の要處に駐屯せり而してウラヂヲストクに要塞を備ふ又海軍は近年の戰役に依りて大に勢を失ひ、三十四隻、約三萬噸の艦船を有するのみ。

生業　生業は未だ盛なりと云ふを得ざれども亦見るべきものなきにしもあらず、獵業は獵具、獵法の無謀なりし爲の現時の如き衰頽を觀るに至れり、漁業は獵業と同じく濫漁の結果として大に漁產の減少を來たせり、農業に就きて耕種の行はるるは北緯五十七度以內にして其の方法極めて幼稚なれが穀類、煙草等の產あり、林業は伐採の方法宜しきを得ずして森林漸少し樹種の劣退を來たせるが有用なる木材は主として濶葉樹に求むべし、畜業に關しては草圃、牧塲等に富めるも良種皆無なり、而して飼養せらるる畜類は馬（二〇〇萬頭）、牛（二一五）、綿羊（二八〇）、豚、山羊、馴鹿、駱駝、犛牛等あり、ウラル地方殊にアジア斜面は黃金を始めとし鐵、白金、寶玉、貴石等を產出するが產地の主要なるはベルム州のニジニタジルスク、イェカテリンブルグ等とトボルスク

省のベロゾフ、ツリンスク等とす、而してアルタイ地方即ち金山地方及び其の附屬鑛區は鑛產上遙に前者に優る者ありて多量の金、銀、銅、鐵、亞鉛を與ふ、又トムスク省等に於て採掘せらるる工業の發達は甚だ遲緩にして大鐵道の開設後と雖、日尙ほ淺き今日に於ては未だ盛況を呈するに至らず、蒸溜、製革、製脂、煙草製造、毛布製造の如き小工業は少しく存す、內地に於ける百貨の集散は每歲各要處に開設せらるる年市に依れるが、貿易港の主要なるものはウラヂヲストク、ニコライエフスク等にして陸路貿易場にキァフタあり、而してキァフタ經由對淸貿易はスエズ運河の開鑿とシベリア鐵道開通との影響を蒙り漸次減少しつつあり、ヨーロッパロシアに對しては三百萬「フランク」の取引を行ひ輸出品には穀類、粉類、脂類、毛皮、茶類、魚類等あり、輸入品は各種加工品、酒類、醬料等なりとす。

交通　交通は未だ進歩せざれども亦次第に發達せんとす、陸路の主要なるものはウラヂヲストク、イルクック間（四四六三粁）、イルクック、チュメン間（三二七四）、ハ

バロフスク、ニコライエフスク間(九六三)、イルクツク、ヤクーツク間(二七一二)、上ウヂンスク、キァフタ間(一五六)にして馬車、橇を用ひて往來し橇は馴鹿、犬、馬をして曳かしむ、水路はアムル河のストレチェンスク、ニコライエフスク間、ハバロフスク、カーメンルイバロフ間、バイカル湖及びオブ河のチゥメン、トボルスク間、チゥメン、オムスク、セミパラチンスク間を主要なりとす、鐵路にはシベリア鐵道の外に東ロシアのベルムより來りイェカテリンブルクを經てチゥメンに達するものあり。

シベリア鐵道

シベリア鐵道は西の方チェリアビンスクに起りカインスクに至りトムスク線を分岐し、カイダロボより滿洲に入り、ハルビンに於て二線に分かれ、一はウラヂヲストクに達し、一は長春に趣きて我が南滿線に接續す、而して一八九一年の起工に係るウラヂヲストク、ハバロフスク線は竣工したるも同處以西ストレチェンスクに至る線路は工事困難なるを以て中止せられたり、此の有名なる大鐵道(六三三〇粁)の通過する處は最高地と雖も一千六十米突に上らずして隧道はバイカル廻岸線にあるのみ、又本鐵道は軍略を主とせるものなるに拘らず、沿道に移住民の渡來を促がし諸種の産業を振興したるが、河川の航運、年市の繁榮、等に打撃を與へたるが如し。

電信線は西の方チゥメン、トボルスクより中間の市街及びイルクツクを經てウラヂヲストクに達するありてヤクーツクを除くの外、主要なる市街を連結す又カラフト島にも此の便あり。

トボルスク省

トボルスク(Tobolsk)(二、一四〇一)はトボル河、イルチシ河の會する處にありて航運の便を有し商業稍盛なるが省廳を有す、コザックの棟梁(イェルマーク)の碑あり、チゥメン(Tjumen)(三、〇〇〇〇)はツラ河に跨り熟皮、敷物を製す。

トムスク省

トムスク(Tomsk)(五、二一〇)はトム河畔、海拔九二米突の地にあり、商業の中心にして省廳幷に大學の所在地なり、街衢の整ひたる、住民の多き實にシベリア第一たり、支線に依りて大鐵道に連絡せり、コリワン(Kolywan)はオブ河に沿ひ鐵産地にあり、バルナウル(Barnaul)(二、九八五〇)はバルナウル、オブ兩河の會する處、海拔一四〇米突にあり、アルタイ鐵區の中心

にして鑄金、製革に從事す、カインスク(Kainsk)はベラバ曠野にありてオム河畔に位し革類の集散行はる。

クラスノイアルスク

イェニセイスク省　クラスノイアルスク(Krasnojarsk)(三七三三七)はイェニセイ河とカチァ河との合流する處にありて海抜一五二米突に位す、省廳を有し食料、毛皮の集散地たり、カンスク(Kansk)はカン河に瀕す、砂金、毛皮の集散に從事す、ミヌシンスク(Minussinsk)はイェニセイ河の東、海抜二四五米突の地にあり、鑛產地たり、ツルハンスク(Turchansk)はツルハン河とイェニセイ河との合流地にありて毛皮を集散す。

イルクツク

イルクツク省　イルクツク(Irkutsk)(五、一四三四)はアンガラ河に瀕し海抜四六〇米突の地にあり、省廳、總督府あり、貴金屬の集散行はれて商業上の要樞なり、ニジニウヂンスク(Nishni Udinsk)はイルクツクの北西に當り鐵と金との產地にありて稍、著名の地なり。

ヤクーツク

ヤクーツク州　ヤクーツク(Jakutsk)はレナ河に接し海抜六五米突の地に位す、本州の首府なれども人口六七千に過ぎず毛皮の賣買行はる、ベルホヤンスク(Werchojansk)はヤナ河畔、北極圏附近の地にある寒極として名を知らるるが亦獵漁の地なり。

ブラゴベシチェンスク

外バイカル州　チタ(Tschita)はインゴタ河に臨み海抜七〇〇米突の地にあり、州廳を有するが河舟の製造行はる、カイダロボ(Kaidalovo)は東清鐵道の分岐する處なり、ネルチンスク(Nertschinsk)はネルチァ河に沿ふ、一六八九年清國とロシアとの間に條約を締結せし地にして現今鑛業の中心なり、ストレチェンスク(Strjetensk)はシルカ河汽船の發着地にして又鐵道の終點なるが倉庫を有し機械の製造行はる、キァフタ(Kiachta)はセレンガ河の東、海抜七九〇米突の地にあり、北京を距ること一千一百粁、ペテルブルグを距る七千七十粁にして城塞を有し、清國との陸上貿易に從事するが茶を輸入し毛皮類を輸出す、上ウヂンスクはセレンガ河とウダ河との合流地に於ける商業地なり。

アムル州　ブラゴベシチェンスク(Blagowjeschtschensk)(三、二八三四)はアムル河とゼーヤ河との會流地にありて海抜九〇米突なるが豊饒なる農業の中心地にあり州廳を有し商業隆昌なり、アルバジン(Albasin)はアムル河畔にあ

りて其の名史上に著はる。

ウラヂヲストク
ニコリスク

沿海州　ウラヂヲストク(Wladiwostok)(二、九〇〇〇)北緯四三度六分東經一三一度五四分はアムル灣を西に控え金角港に瀕す、此の地はアムルスキー半島の南部にありてアムル河口の商港なるが往時は要塞の地なりき、一八六〇年北京條約に依りてロシア領に成りしものにして舊名海參威はウラヂヲストク(東方を領すとの意)と改まれり、港内は廣大安全にして四五千噸の艦船數十隻を泊し得べく、沿海の地は岬崎に富みて最も防衛に適し軍港としてはシベリア第一の稱あり、然れども氣候は不良にして夏季は降雨多く、冬季は嚴寒を與えて、毎年數月間本港は結氷の爲め使用し難し、此の間僅に破氷船を用ひて通行し得るのみ、市中には州廳、其の他の建物あり、工業は稍、見るべきものあり、商業も亦盛運に向ふの傾向を有するが商權は主としてドイツ人之を握れり、住民には支那人、朝鮮人少なからず、ポシエット(Posiet)は同名の灣に瀕し氣候はウラヂヲストクに優れり、ニコリスク(Nikolskoje)(二、二〇〇〇)はシフン河畔、海抜四三米突の地にありて鐵道の分岐點なり、ハバロフスク(Chabarowsk)はアムル河の右岸、海抜七〇米突の地にありて知事の居住地なるのみならず商業上の要地なり、鐵路に依りてウラヂヲストクと通ず、ニコライエフスク(Nikolajewsk)はアムル河口の商港なるが往時は要塞の地なりき、

カムチャツカ

アヤン(Ajan)はオホーツク海に面する一小港なり。

ペトロパフロフスク(Petropawlowsk)はカムチャツカ半島の南東岸、アワチャ灣に瀕する一小區に過ぎざるも、良港を有し毛皮の集散地にして城塞あり。

コマンドル

コマンドル(Kommandor)諸島はベーリング、メドニの二島より成りてカムチャツカを距ること二百粁の沖合に位す、海獣の生育地として名あり。

サハリン

サハリン(Sakhalien)島、或はサハリエン(Sakhalien)島、或はサガレン(Saghalien)(薩哈璉)又はサガリン(Saghalin)と稱するものあり、而して海の西方に位せる一大島なり、世には本島の稱呼をイギリス的名稱に基づきてサガレン(Saghalien)(薩哈璉)又はサガリン(Saghalin)と稱するものあり、而して我が國にては古來之をカラフト(唐太、樺太)島と稱し來れるが本邦人の之が存在を知りしは相應に古きものの如し。

名稱

サハリンは舊とアムル河の下流の名稱にして往昔はサハリンなる島名なく、滿洲人はアムル河口に於ける岩礁をサハラン・アンダハダ(アムル河口に於ける岩礁と云ふ意)の名稱の

下に慨稱せしなり、然るにロシアは之を擴充して今のサハリン島の地なるも含ましめ而してアンダハダを省きてサハリンと稱せしなり。

ロシアはコサックの統領イエルマクが始めて（西紀一五六〇頃）シベリア方面に侵入せしより遂に廣大なる地域を占領するに至りしが、ネルチンスク條約（一六八九）は南下を許さざりしを以て專ら東方に進みてオホーツク丼にアヤンを建てカムチャツカに至れり而してアムル河口の情況は未だ明瞭ならずして一千七百八十五年フランスの探檢家ラペルーズ（La Pérouse）は探檢の結果サハリンは細洲に連なれりと報告し、其の後ブロートン（Broughton）も一千七百九十七年に同樣の報告を爲せし爲め南方よりアムル河口を利用すべきことは不可能的事業の如く思惟せられたり、一千八百四十年清國とイギリスとの事件ありしに於てプーチアチン（Putiatine）の首唱に基づきコンスタンチンと稱する一艦はタタル（韃靼）海峽に入りしも、南方よりはアムル河口に達するを得ずして不成功に終れり、然るに一千八百四十七年ムラビヨフ（Muraviet）將軍が東シベリアに總督と成るやケサケ丼ッチなるものありて北方より南下し一千八百四十九年サハリン島と大陸との間に海峽の存在あるを知るに至れり、其の後ポシニアックはサハリン島を探檢して石炭の產あるを發見し、北部サハリンをロシア領としアムル河口附近に屯營地を設けたり（一八五三）、而してロシア多年の宿望は愛琿條約（一八五八）、天津條約（一八五九）、北京條約（一八六〇）と成り遂に滿洲の一部はサハリン島の北部と共にツアールの領土と稱

することと成れり、されど該島に於ける我我の境界の知きは甚だ明確を缺きたりき。

先之我が國にてはロシアが樺太の北部より南下しアイヌの住居せる區域に侵入したりと聞き、幕府も稍〻注意を加ふるに至りて官吏を簡派せしが文化五年間宮林藏が派遣せられしは最も特筆すべきことなり、氏は二回の旅行に依りて樺太の南部より次第に北方に赴き遂に滿洲に入りて歸朝せし結果、樺太が一島なりと決定せられしはケサケ丼ッチの發見に比し遙に以前にありて地理學上の一大成功なりとす。

かくて嘉永六年（一八五三）プーチアチンは我が長崎に到來し又安政二年（一八五五）に下田に來りて假條約を訂結せしが、安政六年（一八五九）ムラビヨフは品川に來りて樺太の境界問題を提出したれども何等の協定を見ざりき、文久二年（一八六二）我が使節ベテルブルグに至り北緯五十度を以て境界とせんと提議せしも亦不調に終れり、慶應三年（一八六七）復た我が國は此の問題を提出せしが充分なる解決を見ずして樺太は兩國の共有地と稱ふるに至れり、然るに明治八年（一八七五）樺太と千島との交換條約締結せられ、日本のカラフトは愛じてロシアのサハリン島と成りしが、明治三十八年（一九〇五）のポーツマス條約は該島の北緯五十度以南を日本帝國の領土たらしめしを以て樺太とサハリンとの境界は確定し、約五十年來の宿爭茲に終を告げたりと云ふべきか。

本島の南端ノトロ（近藤）岬は北緯四十五度五十二分にして北端エリサベあ洲アジアシア

海岸

山岳

河流

タ岬は同五十四度二十二分に當り、西は東經百三十九度二十九分に起り同百四十二度二十二分に終れり、長さは南北凡そ九百六十粁、幅は最も廣き處百五十粁、狹き處は二十五粁にして北と東とはオホータ海に臨み、南は宗谷海峽を隔てて十州島と相對し西は樺太灣、間宮海峽、アムル灣、サハリン灣、等を挾みて大陸に接せり、面積は精確なる測量を經ざるもロシア領のサハリンは四萬二千四百方粁にして日本領の樺太(三、三六〇〇)より稍〻大なりと云ふ。

海岸に就きては絶壁を見ざるに非ざるも砂濱最も多く出入は甚だ少なし、バイカル灣の外著しき港灣なく、岬崎にはマリア岬、エリサベタ岬、等あり。

山嶽の如きも高峻なるものなく唯〻並行せる數條の山脈北方より南方に向ひて走り、東岸山脈中のチアラ山(一五五〇米突)は全島の最高峯と稱せらる。

地脈の狀態此の如くなれば河流の著しきものは南北の方向を取れり、トイム河は流るること三百粁餘にしてアスチナ灣に注ぎ本島の最長流なり、流域は地味佳良にして拓地に適するが如きも冬季長く溫度不足にして居住に適せず、ナビット河はトイムと並流するも著しからずナビル灣に注げり、また南流する、ポロナイ河は北緯五十度以北に發す。

平地

氣候

本島は山岳丘陵に富むが最も著しき平野は北部のサハリン及びアムルの兩灣に瀕する地なり、其の他、河流、湖潟の沿岸にも小平地あり、北部にはツンドラ的の濕地も少なからず。

氣候は東部に寒冷にて西部は稍〻溫暖なり、アムル河口の近海は十一月より六月に至るまで氷結するが、以北の地にありては七月に至るも氷塊の疊積することあり而して我が九春古丹にありては約八十五日(一月—四月)の結氷を見るもドウエに進めば約百二十日(十二月—四月)なりと云ふ。

		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
最高	ルイコフ	(一)一六、九	(一)一一、二	(一)六、五	〇、九	七、二	一五、二	一九、五	一八、九	一二、〇	三、六	九、七	(一)二八、八
	アレクサン	(一)一四、三	(一)一一、二	(一)五、一	五、七	六、二	一四、二	一八、八	二一、二	一七、五	五、七	(一)二、一	(一)五、〇
	ドロフスク												
最低	ルイコフ	(一)二九、七	(一)二一、七	(一)二三、八	(一)一、七	三、八	八、七	一六、〇	一三、七	九、五	(一)〇、八	(一)六、二	三、一
	アレクサン	(一)二五、三	(一)一八、九	(一)二二、四	(一)三、九	四、四	九、〇	一五、〇	一四、四	七、九	一、九	(一)八、六	(一)一七、一
	ドロフスク												
平均	ルイコフ	(一)二三、三	(一)一八、四	(一)〇、五	五、六	一一、七	一七、一	五、八	一一、〇	一、八	(一)七、五	—	(一)一六、九
	アレクサン	(一)一九、四	(一)一五、七	(一)九、四	(一)〇、一	五、七	一一、四	一六、四	一六、九	一二、二	三、九	(一)五、一	(一)一三、二
	ドロフスク												

兩處に於ける三回(午前七時、午後一時、同九時)の觀測の結果を示せば

觀測地		午前七時		午後一時		午後九時	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低
ルイコフ		三、三(一)	五、六	四、七	二、三(一)	一、一(一)	三、二
アレクサンドロフスク		〇、三(一)	三、四	四、六	二、五(一)	〇、一(一)	二、六

雨量に關しても東西の兩岸は趣を異にせるが、夏季は降雨少なからずして冬季は積雪の丈餘に達する處稀ならず、殊に東岸に於ては夏季に濃霧の襲來すること多しとす、要するに一ヶ年に就きては雨雪の日に曇天の日を加ふれば二百七八十日と成りて快晴の日の如きは甚だ稀なりとす、風向は南或は北を最も多しとするが風力は概ね強大なり。

斯の如く本島に於ては氣溫低く濕氣多きも、甚しく健康を害するに至らず殊にロシア人は本島の氣候に堪ゆるのみならず、囚徒の如きも此點に就きて不平を鳴らすが如きこと殆どなきに似たり。

鑛物に石炭、琥珀、石油、砂金、銅、銀等あり、植物に樺、柳、赤楊、檜、槭等あり、動物には熊、狸、狼、赤狐、白狐、黒狐、狐、麋、麝、黒貂、銀鼠、栗鼠、獺、臙脂鴨、海豹、鯨等あり、鷲、鴨、雁等

あり、鰊、鰯、鮭、鱒等あり。

一千九百年に於て樺太全島の住民は約四萬人と計上せられ、ロシア人、土人、外人の三種に大別せられしが、土民に五種ありて、其のギリヤク一九一二人は北部に、其のアイヌ一二九六人一七四三人は南部に、其のオロチョン七七三人六五〇人はトイム河の沿岸幷に北東岸に、其のツングス一五七人一七五人は北端に居住せり、此等土民の總數は僅々四千百五十一(四一四〇)人にして當時に於ける主なる住民は三萬五千餘のロシア人(數多の種族を包含す)なりしが、其の三分の二以上は所謂刑餘の民若しくは囚徒之を占め何れも流謫者たり、又外人に就きては漁期に際し日本人の出稼するものは七千人內外ありしも定住者は五百人內外に過ぎずして、其の他、淸國人、朝鮮人等の在留せし者は多からざりき、而して戰後に於けるロシア領の居住者は未だ詳ならず。

全島がロシアに屬せし頃には軍政知事之を統轄し、其の主要なる行政機關はアレクサンドロフスク市にありて地方は三區に分たれたり、アレクサンドロフスク區は西海岸一帶、南の方ナヤシ河を境とせる地方を含み、トイ

ムスク區はトイム、ボロナイ兩河の附近即ち北部の東岸を、コルサコフスク區に關してはアレクサンドロフスク、ドウエ、ルイコフスク、デルビンスク、オールコルサコフの六ヶ處に集治監を置き、懲罰獄と感化獄との二種を設けたりき、

林業　我が北海道に於て見るが如き樹木即ち樺、白楊、赤楊、楡、柳、槭等の存するある

獵業　を以て之を利用して或は薪材とし或は建築材として用ふれども土地の需用に充つるに過ぎず、獵業は主として土人の從事するものにして毛皮獸を捕獲するにあり本島產の野獸はカムチャツカ產に及ばざる所あるを免れざれども尙ほ用ふるに足るものあり故に毛皮獸の價格が大に騰貴せる今日には本業も亦同島に於ける生產力の一として見るべきなり、漁業は本島に於て最も重んずべきものにして昆布、布海苔、石花菜の如き海草あり鯨、膃肭獸の如き海獸あるも鰊、鱒、鰯等を以て夥多なりとす、就中鰊漁は最も盛にしてロシア領にありてはトイム河口、ゴロソチェフ岬附近を主要漁場とす、牧業に關しては露人は牛、馬、豚、鷄、家鴨、鴛等を養ひギリヤクは犬を飼ひオロチョンの

牧業

漁業

農業　使用する馴鹿は其の數多からず、農業は不振にして麥類、蕎麥、馬鈴薯、キャベツ、其の他の蔬菜類幷に飼畜用の燕麥を與ふるも、到底住民の食料に與ふるに足らず、鑛業として認むべきは唯、石炭の採掘あるのみ而して炭層はアレクサンドロフスク附近、ドウエ附近等にあれどもドウエを除くの外海陸共に交通不便なるを以て放棄せらるるもの少からず、商業は微々たるものなるが、貿易の如きも日用品の輸入と石炭、魚類の輸出を觀るに過ぎずして取引は主としてアレクサンドロフスクに行はる。

鑛業

商業

交通　交通に就きて記さんに道路は極めて發達せずしてアレクサンドロフスク、ルイコフスクを連絡する縱貫道路以外には見るに足るものなし、冬季は犬、馬、鹿を使用するが、アレクサンドロフスクと沿海州のニコライエフスク間も、犬橇を通ずと云ふ。

アレクサンドロフスク

アレクサンドロフスク(Aleksandrovskaja)北緯五〇度五三分東經一四二度八分は西岸の北部に於ける一邑にして軍政知事の居住地なり、人口一萬四五千と稱す、市街は丘陵に據りて建設せられ官衙、學校、寺院、病院、博物館、圖書館等一般の設備あり、港

ドウエ

は北に岬を控え鉢形を呈せるが三ッ子礁等の障碍ありて利便なりと稱する能はず、海底電線は此の地より對岸のデカストリ港へ架設せられ、官設の工場には鋸挽場、製粉場あり又海岸には堅牢なる棧橋設けらる、ドウエ(Doue)はラジョンキエール(La Jonquière)灣に面し港形不完全なれども石炭、革類の輸出ありて商業稍、盛に行はれ、冬季には滿洲地方との交通一層多し、住民は二千五百人以上に達するも其の二千は刑餘の人とす、此の地に拓殖倉庫の本部あり、ルイコフスク(Rykovsk)はトイム河の流域に於ける一小市街にしてトイモフ區廳の所在地なり。

あじあ洲 終

おせあにあ洲

名稱 オセアニア洲(Oceania)一にオセアニカ(Oceanica)と云ふ 即ち大洋洲と云ふは其の狹義即ちオセ

境域 アニアの眞義に於ては中央太平洋に碁布せる島嶼を總稱するに過ぎざれども、其の廣義に於ては此等の島嶼の外、オーストラリア大陸幷に沿岸島嶼を合はせ稱するのみならず尙ほ南極洋の島嶼をも包含せしむることあり。

極地 茲に本洲の四極地を左の如く定むれば

極北	クレスポ(Crespo)島 一にロカデプラタ(Roca de Plata)と云ふ	北緯	三二度 四六分
極南	マッカリ群島の最南島 ビシオップエンドヒスクラーク(Bishop and his Clerk)	南緯	五五 一五
極西	ヂルクハルトグ(Dirk Hartog)島	東經	一一四 〇〇
極東	サライゴメス(Sala y Gomez)島	西經	一〇五 二八

廣袤 にして南北は約八十八度、東西は約百三十四度に亘りて區域は廣大なれど

面積 も面積は八百九十五萬方粁即ち陸地の十五分の一、アジア洲の約五分の一な

大陸

沿岸島嶼

大洋島嶼

り、而してオーストラリア大陸は洲の南西部を占め、島嶼中の巨大なるものは大陸の北乃至東の海岸に沿ひ、細微なるものは渺漠たる洋中に散在せり、其の沿岸島嶼は北部をパプア(Papua)、中部をメラシネア(Melanesia)、南部を新ゼーランド(Nova Zealanda)と云ふ、其の太洋島嶼に就きては北西にあるものをミクロネシア(Micronesia)と稱し、東部にありて赤道の南と北とに亘れるをポリネシア(Polynesia)と呼ぶ。

オセアニア洲 八百九十五萬方粁			
大陸部	七六九、二八三一	オーストラリア	七六二、四九三七
		タスマニア	六、七八九四
島嶼部	一二五、七一五〇	沿岸島嶼	一二二、六八〇五
		パプア(新ギネア)	八〇、八九五六
		メラネシア	一四、五八六〇
		新ゼーランド	二七、二九八九
		大洋島嶼	三、〇三四五
		ミクロネシア	三五四六

大陸部

大陸部はオーストラリア及びタスマニアより成れるが、之にパプアとフィジーとを合はせてオーストララジア(Australasia)(南アジア)と稱することあり。

境域 オーストラリア(Australia)即ち南大陸はアジア洲の南東にあり、極北はヨーク岬の南緯十度四十二分より極南のヰルソン岬の南緯三十九度九分に至り、極西はスチープ岬の東經凡そ百十二度にして極東はバイロン岬の東經百五十三度四十分なり、北はアラフラ海に依りてマライ群島と境し又トルレース海峽を以てパプア島と相隔り、東は珊瑚海、タスマン海に臨み、南東はバス海峽を挾みてタスマニア(Tasmania)島と相對し南幷に西は印度洋に瀕す、本大陸の形狀は扇の地紙に似て東西に稍〻長くして凡そ三千八百粁に達し、南北は約三千一百粁あり、面積は凡そ七百六十三萬方粁にして我が國の十七倍强に當れり。

發見　オーストラリアは陸地の分布上孤立して人類移住(Migration)の通路に遠かりしを以て住民の發達又は本地の發見をして遅からしめたり、一千五百三十一年フランス人の手に成りし地圖にはオーストラリアをジァバラグランー(Java la grande)即ち大ジァバとして其の北西岸を表記しあり、一千六百六年エスパニア人トルレース(Torrès)はパプアとオーストラリアとを離隔する海峽を通過し、其の後オランダ人ヂルクハルトグ(Dirk Hartog)が西岸の地に上陸一六一六年十月二十五日せるあり、有名なるアベルタスマン(Abel Tasman)は第一回旅行(一六四二)に依りてオーストラリアの南東岸(即ちタスマニアの海岸)を見、第二回の旅行(一六四四)に於て西岸と南岸とを連絡せしめて新オランダと命名したり、イギリス人クックは東岸の地を探檢してトルレース海峽を通航し、バッス(Bass)は同名の海峽を發見してタスマニアの島たるを確定し、イギリス人フリンダース(Flinders)はスペンサー灣附近の地を發見してテラアウストラリス(Terra Australis)と名づけ(一八〇二)、フィリップキング(Philip King)は大陸を一週(一八一八—二三)したり、而して全海岸の探究は「ビーグル」(Beagie)號に依りて完成(一八三七—四三)せられたり。

探檢　內部の探檢はイギリス人が新南エールスを占領してボタニーベー(B·tany Bay)の謫流的殖民地を創建せし時(一七八八)より始まれり而して大陸橫斷旅行に就きてはライヒハルド(Leichhardt)がクヰンスランドよりカルペンタリア灣のファンヂーメン(Van Diemen)に到りしを以て第一回(一八四四—四五)とす、此の後バーク(Burke)(一八六一)、マッキンレイ(一八六一—六二)、マクドナルドスチュアート(Mac Donard Stuart)(一八六二)等あり。

大陸の西部には西オーストラリア殖民地の建設(一八二九)ありてより以來首府パース、は遠征隊の根據地と成り一千八百六十一年フランクグレゴリー(Frank Gregory)はユール河(Yule River)の沿岸に起伏に於て富み灌漑の便ある沃地の存するを發見せり。

一千八百七十年以來探檢の目的は一層實用的と成り大陸が供呈すべき富源を探究するに至りしが大陸橫斷電線の驛地殊にアリススプリングス(Alice Springs)は西方オーストラリア探檢隊の根據地と成れり而して第一回の縱貫旅行大電線より西海岸まではワーバートン(Warburton)に依りて實施せられユール河に達するを得たり次でジォンフォレスト(John Forrest)は前記の行途に比し數度南に當れる地を東向に旅行してエイヤー湖に出で(一八七四)、ジルス(Giles)は第三回の縱貫旅行をフォレスト線の南に實施して砂濱が南岸に達するを確めたるのみならず、フォレスト線の北に當れる行途に依りて大電線に復歸したり、又北西地方即ちキンバーレイ(Kimberley)區に產金地の存するを認めたる(一八七九)アレクサンダーフォレスト(Alexander Forrest)は灌漑の便ある好牧地を發見したり(一八八二)此の外探檢に從事せし者其の數少なからず、此等は皆熱誠、氣力、忍耐、學識、等に據りて本大陸の情態に就き梗概を世に紹介するに至りしも未だ足跡の及ばざる處少なからざるのみならず詳細を知悉し得ざるは亦止

（島群イハワ）口火噴のアエワラキ

（アリラトースオ）スンテンウマーウリブ

海岸線

海灣

海峽、地角

むを得ずと云ふべきか。

海岸　海岸線の延長は一萬六千粁あれども彎曲少なく良港に乏し、南海岸の西部はオーストラリア大灣と稱して一大圓弧を爲す、其の海濱は平低なる沙洲に非ざれば一百乃至二百米突の絶崖にして巨河は勿論、一の細流だも有せず、小港の如きも皆無にして無水無植物の荒地を包めり、而して西海岸も亦殆と同樣の狀況を呈せり、之に反して南岸の東部幷に東岸の南部は山岳丘陵に富み、蓊鬱たる綠樹繁茂して到る處風色の賞すべきあり、然れども沙洲沼澤の存するありて通舟の便に乏し、又北東岸には珊瑚質の大礁堤（長さ約一千九百粁、海岸を距ること十六乃至二百四十粁）にて圍るるを以て船舶は容易に接近するを得ず、北岸に於ては顯著なるカルペンタリア灣あれども利便を供すべき港灣に乏しきを見る、今主なる出入、島嶼等に就きて記せば海灣は北にダーキン港、ファンヂーメン灣、カルペンタリア灣あり、東に珊瑚海、ジャクソン港あり、南に南海、フィリップ港、セントビンセント、スペンサーの二灣幷にオーストラリア大灣あり、海峽はトルレース、バスを以て最著しきものとするが、又地角には北に

オーストラリアアルプ

キルベルホルス、ヨーク、東にバイロン、南東にはハウ、キルソン、ネルソン、西にスチープあり、島嶼の顯著なるものは北にバサースト、メルビル、グルート、エレスレイ、木曜、等あり、東にフラザーあり、南には著大なるタスマニアの外にフリンダース、キング、カンガルー、西にヂルクハルトグあり、半島はカルペンタリア、ヨークを以て記すべきものとす。

山誌　本大陸はオセアニア洲中の最大の陸塊なるも全洲中の最高峯は却て他の島嶼にあり、南大陸第一の山岳たるタウンセンドは二千三百米突に達せず、東部に於ける大分水(Great Dividing)山脈(ホータム(一八五九)フェザートップ(一九二三))は分れてオーストラリアアルプ、青山(Blue Mountain)山脈(ビーマラン(一二五〇))、リバプール山脈(オクスリー(一三七〇))、新イングランド山脈(カブンベタ(一四四〇))等と稱せられ、西部にはダーリング山脈(井リアム(一一二三))あり、内部にも東西或は南北の方向に走れる山脈少なからざるが海拔は著しからず、又活火山は一も存せざれども消火山の數は多し。

オーストラリアアルプ山脈はメルボーンより回歸線に達し、孤狀を呈して一千七百粁に互れるが海拔は漸次低下するも北方に延長してヨーク岬の方向に走れり、ギッポ(一七五七)、タウンセンド(二二四一)、コシゥーシコ(二二三六)、ボゴン(二〇五七)、等を

以て主要なる山岳とするがタウンセンド(Townsend)は脈中の最高峰たり。

水誌　本大陸は高山秀嶺に乏しき臺地より成れるを以て降雨少なく氷河積雪を見ること能はず、氣候乾燥にして河流の水量の如きは極めて寡少なり、而して沿海の地に於ける河川は細流にして著しきものは更になく、内部に於けるものと雖も長流巨河と稱すべきもの稀なり、河流は分れて三斜面に屬するが印度洋斜面にムーレー、マーチソン、ガスコイン、アシバートン、フィツロイ、ビクトリア、フリンダースあり、太平洋斜面にブルデキン、フィツロイ、閉塞地にクーペルスクリーク、ヂアメンチナあり。

ムーレー河

ムーレー(Murray)河はオーストラリアアルプの西面、コシウーシコ山の南凡そ二十四粁の地に發源しイベリナの平野を潤してアレクサンドリナ湖を經、水底淺き潟灣を爲して南海に注ぐ、長さは一千八百粁にして流域は百萬方粁あるも、水量は一秒時に三百六十立方米突を流下するに過ぎず、然れども河口よりアルバリーに至る一千五六百粁は或る時期に際し小汽船を以て航行し得べし、支流の主要なるものはラクラン河の水を受くるマランビヂーと本流より長きダーリンダとにして孰れも右岸より會するが、此の外にミッタミッタ、オベンス、グールブルン、カムバスベ、ロッドン、等あり、ダーリンダ(Darling)は新イギリス山脈に發してマッキンタイヤー(五六五)と稱

ダーリンダ

し西流又は南西流して名をバルワン(二五五)と改めカッスルリーに會して始めてダーリンダと云ふ、コンダミーヌ、マッカリー、ボガン(七二四)、ワレゴ(八〇〇)、等を受けてカレロッタと云ひ、二派に分かれてムーレーに入る河長は二千粁に達して流域三十二萬方粁あるも水量に乏し。

アレクサンドリナ湖

アレクサンドリナ湖はオーストラリアに於ける最大の淡水湖なるが水層淺くして航行に不便を感ず、此の他の湖沼の多くは冬季の降雨時期に限りて存するあり或は出現後數年を經て消滅するあり、中に就きて稍〻大なるものを示せばトーレンス、ゲイドナー(海面上一一二米突)、エーア(海面下一二)、アマデウス(海面上二〇四)、等あり。

地勢　他の大陸に見るが如き高峯、長流、大湖を有せざるオーストラリアは其の平均海抜二百六十米突に過ぎずと稱せらる、而して沿岸山脈は内面に緩斜して廣漠たる荒蕪不毛の高原を包み、内部の此處彼處には孤立せる丘陵あり、臺地の周圍には多少の牧地あり、又太平洋沿岸には森林多く耕耘に適せる沃地あり、然れども此等の有用なる土地の面積は大陸の總面積の十分一内外に過ぎざるべし。

氣候　土地の半は回歸帶に屬し半は温帶に屬するが氣候は地方に依りて大に趣を異にせり、沿海の地は概して健康に適するが内部にありては熱

風吹き降雨年二十糎以下の處多し稀にして空氣は乾燥に失す是れ植物の繁茂を妨ぐる原因にして從て動物も盛に生育するを得ず。

地名	平均温度	最高温度	最低温度	寒暑の差	雨量
ブリスベーン	二一、二	五六、二	(十) 三、〇	五三、二	一、三三
シドニー	一八、〇	四〇、二	(十) 二、〇	三八、二	一、二〇
メルボーン	一四、〇	四三、七	(一) 二、八	四六、五	一、六〇
アデレード	一七、五	四五、〇	(十) 一、二	四三、八	〇、五三
パース	一七、七	四四、六	(一) 〇、四	四五、〇	〇、八四

天産　オーストラリア地方は生物の分布上特殊の一帶を形成せり、而して植物の種類の饒多なる點に於ては頗る誇るべきものあり、就中有名なるユウカリ(Eucalyptus)には直立百五十米突に達するあり、其の他に「アカセダル」「ブニァブニァ」「カウリマッ」、火焔樹、酒壜樹、草樹、「アカシア」あり、動物の固有なるものは「カンガルー」(Phalanga)「ダシウル」(Dasyurus)「カモノハシ」(Ornithorhynchus)「チンゴ」(Dingo)「エミュ」(Emu)「ヒクヒドリ」(Casturius)等あり、鑛物には多量の金あり銅あり多少の銀、鉛の有するあり、石炭は其の量少なから

植物

動物

鑛物

チンパット (Phascolomys latifrons)

カモノハシ (Ornithorhynchus paradoxus)

有袋類には百有餘種あるが其の主要なるものを擧ぐれば

食草族

カンガル (Macropus)

ボトル (Hypsiprymnus)

食果族

フクロキツネ (Phalangista)

フクロリス (Petaurus)

コアラ (Phascolarctos)

食根族

チンバット (Phascolomys)

啖蟲族

ネズミウサギ (Perameles)

啖肉族

フクロイタチ (Dasyurus)

フクロイヌ (Thylacinus)

一穴類には左の二屬あり

カモノハシ (鴨嘴獸) (Ornithorhynchus)

ハリモグラ (Echidna)

ざれども炭質には缺くる所なきに非ず。

沿革　有名なるクックは其の第一回旅行に於て大陸の東岸を探檢し、時の君主ジョージ三世の名を以て新に發見したる土地を領得し之にニウーサウスエールスと命名したり、然れどもイギリス政府が新領土を利用せんと試みし、はアメリカ殖民地を喪失(一七七六)せし後、新に謫流的殖民地を設くる必要起りたる際にクックが嘗て佳良なる港の一と復命したるボタニーベーを採用したるにあり、然るに同港の殖民上不便なるを認むるや二十粁を隔つる一灣ポートジアクソン(Port Jackson)の南岸にシドニーを開き殖民地の基礎を建てたり、一千八百二十九年新南エールスが第一殖民地として成立せし後、ムーレー河以南の地に幸福オーストラリア(Australia Felix)後にビクトリアと改稱せりの創始(一八三五)、南オーストラリアの成立(一八三六)あり、其の數年前タスマニアの分離(一八二五)、西オーストラリア殖民地の創立(一八二九)ありしが、其の後ビクトリアの自治殖民地(一八五〇)、新南エールスの代議制度(一八五三)、南オーストラリアの自治殖民地(一八六五)、クヰンスランドの分立(一八五九)、西オーストラリア殖民地の自治(一八九一)を見たり。

住民　ボタニーベー殖民地が設けられし時、西洋人は一千三十人に過ぎざりしが爾來白人は著しく增加して人口は四百三十萬を超ゆるに反し、五以上の數を數ふること能はざる土人は漸く減少して今は三萬に過ぎず、而し

て人口の配布には不同ありと雖、概して稀薄にして十方粁の平均僅に五人なりとす而して來住者は四萬九千人に近く往住者は約四萬七千人なり。

ナーストラリア派の黒人は人類の最下位にあり、毛髪は滑らかにして時に波狀を爲し數多くして黒色を呈するが鬚も亦然り、顏色は黒く鼻は廣く頭骨小にして腦量極めて少なし、生活は憐むべき狀態にありて人員減少の度も著し。

今一九〇一年の住民三百七十七萬餘人を生地別にせばオーストラリア聯邦(二九〇)を第一とし、イギリス本國(六七)、イギリス殖民地(四二)、ドイツ(三、八)、支那(二、九)等之に次ぐが宗教別にせばキリスト教殊にイギリス教(一四九)、其の他の新教(一二〇)、ローマ公教(八五)を以て主要なるものとせり、教育に就きては シドニー、メルボーン、アデレード等に大學を設け、中等初等の學校は一萬二三千ありて約八十二萬の學生、生徒を教養す。

政治 オーストラリア聯邦(The Commonwealth of Australia)はクキンスランド、新南エールス、ビクトリア、南オーストラリア、西オーストラリア、タスマニアの六原州(Original States)より成り、立法權はイギリス王を代表する總督及び元老院議員は各原州、代議院議員七十五人之を司り、行政權は總督之を握り、行政會議をして補助の任に當らしむ、而して行政府は總督、首相兼外務、司法、内務、財務、商務、海關、軍務、遞信の各長官行政會議副議長より成れり、各州には二院より構成せらるる議會幷に知事を置く。

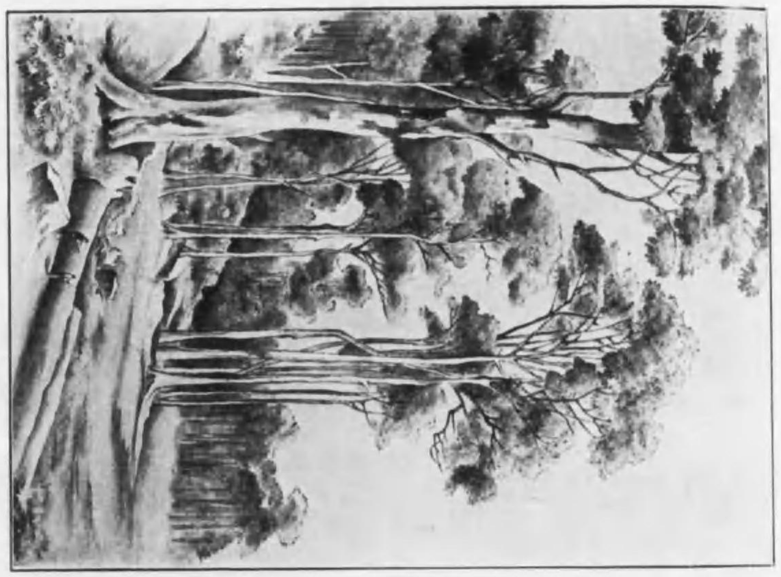
州屬地	地積	人口	首府	歳出	州債
クキンスランド	一七三、一三三、七 方粁	五二、六七九二	ブリスベーン	三、五 百萬磅	四一、七
パプア	二二、九一〇二	三〇、〇〇〇			
新南エールス	八〇、四五七六	一四六、一五三三	シドニー	一一、一	八二、三
ロードハウ島	一六	一〇〇			
ノーフォーク島	四四	八二七			
ビクトリア	二二、七六一〇	一二一、〇五七五	メルボーン	六、九	五一、七
南オーストラリア	九八、四三三〇	三七、二六八二	アデレード	二、八	二八、七
北領土	一三五、六一三〇				
西オーストラリア	二五二、七五三〇	二四、二二八九	パース	三、七	一六、六
タスマニア	—	三、〇〇〇〇			
マッカリー群島	六、七八九四	一八、〇二〇〇	ホバート	〇、八	八九、四
オーストラリア聯邦	七九二、九〇〇九	四三二、五〇〇〇	ダルゲチー	二九、二	二三〇、六

軍備に就きて陸兵には凡そ一千四百人の常備兵あり、之に義勇兵、豫備兵、等を加ふれば合計七萬人弱と成り、海軍は十八隻、四萬七千噸を有せるが、其の中、一等巡洋艦一隻、二等巡洋艦三隻、三等巡洋艦五隻、測量船一隻はロイヤルマリーンに屬しシドニーを以て本據とす。

財政は一九〇五―〇六年に於て歳入凡そ一千百三十九萬餘〔ポンド〕を示せるが各州の歳出入(一九〇四―〇五)は二千九百萬〔ポンド〕を超えて國債は二億三千一百萬〔ポンド〕に近し。

生業　農業は穀類、牧草、馬鈴薯、葡萄、煙草、實綿の外、砂糖の原料たるべき甘蔗等を與へざるに非ざるも、其の生産力は牧業に及ばず、牧業はオーストラリア第一の生業にして綿羊の飼養殊に盛に行はれ、總頭數は六千五百八十二萬頭ありて生毛の産額は世界無比と稱せらる、而して斯業の最も盛なるは新南ヱールス(三四五二)にしてクヰンスランド(一〇八四)、ビクトリア(一〇一六)等之に次ぎて主要なる生業にして殊に多量の金を産し新南ヱールスを以て第一とす、該州は石炭の産出も少なからず、工業は未だ隆昌に至らざるも製造場の增設又は創設は主要なる市街の地に於てす、商業は稍〻盛にして一九〇五年の輸入は三千八百三十五萬〔ポンド〕、輸出は五千四百十三萬〔ポンド〕に近く、して、輸出先はイギリス(二六〇八)、フランス(五七五)、ドイツ(三八六)、セイラン(三五九)、ベルジック(三二〇)を主とし、輸入先にはイギリス(二三〇七)、合衆國(四四八)、ドイツ(二六四)、新ゼーランド(二三三)等あり、貿易品の主要なるものを記せば輸入品に絲類(九五三)、金屬器(二一四)、器械(一六五)、鐵(一六三)、金(一四七)、木材(一〇七)等ありて輸出に生毛(一九八二)、金(九五二)、小麥(四一七)、バタ(二三三)、肉類(二一三)、皮革(二一一)、銅(二一〇)等あり、船舶の出入は入船に一千九百七十六隻、約三百七十二萬噸ありてイギリスの船道は約二萬四千十七粁ありて(一九〇五)、郵便局は六千六百に近く、電信線は七萬三千餘粁にして電話線も少なからず。

クヰンスランド　クヰンスランド(Queensland)州は大陸の北東部を占む、長さ約二千百粁ありて幅は凡そ一千六百粁に達し、面積は六原州中の第二位にあり



イウカリ林（新南エールス）

羊歯林（ビクトリア）

ブリスベーン

イプス井ッチ

あり。

生業に就きて州の約二分の一は天然林に屬せるが、牧業は一九〇四年に於て羊の一千八十四萬餘頭を始めとし牛(二七二)、馬(四一)、豚(一九)、等を飼養せり、農業は玉蜀黍、麥類、馬鈴薯、牧草、甘蔗、「パナナ」、「アナナス」、柑類或は煙草、珈琲、「アロールート」、等を栽培す、鑛業に就きて金は一千八百五十八年以來約五千九百五十萬「ポンド」を產せしが、錫(二七)、銅(二六)、其の他の產もあり、貿易は輸入に凡そ六百五萬「ポンド」、輸出に一千百十五萬「ポンド」ありて金、銀、銅、錫、石炭、肉類、皮革、等を以て主要輸出品とす、而して貿易の盛ならざる當州は船舶の出入も各〻五十五萬餘噸に止まるも鐵道は其の延長第三位にあり。

ブリスベーン(Brisbane)(一二、五六七二)南緯二七度二八分東經一三五度六分はクヰンスランド州の首府にしてシドニーの北八百五粁、ブリスベーン河を溯ること四十粁にあり、市內には政廳あり植物園、公園あり、イプスヰッチ(一、五二〇〇)はブリスベーンの西四十粁、ブレメン河畔にありて附近の地は農產、石炭を出だす、ギムピー(Gympie)(一、四四〇〇)はブリスベーンの北、百八十七粁にありてマリー

ユーカリ〔有加利〕(Eucalyptus globulus)〔桃金孃科〕は一大喬木なり、成長極めて速にして高さ一百五十七米突、周圍三十米突に達せしものあり、佳良の木材、薪材を供するの外、葉を藥料、香料、等に用ふべし、マルハユーカリ(E. amygdalina)は樹高百四十六米突に達し前種と効用を同じうせるが、ジアラー(Jarrah)(E. marginata)は一にオーストラリア紫檀と稱せられ優良なる木材を與ふ。

羊齒林は沙欏科に屬する「ヘゴ」(Cyathea)「マルハチ」(Alsophilla)等を始めとし五十有餘種の「ウラジロ」(Gleichenia)〔裏白科〕を主要なる樹種と爲す。

メリーボロー
ロックハンプトン
チァーターズタワース
タウンスビール
ツウンバ
木曜島

河に沿ひ産炭地にあり、メリーボロー(Maryborough)(一、二九〇〇)はギムピーの下流にありて砂糖、木材、等を輸出す、ロックハンプトン(Rockhampton)(一、九七〇〇)はフィツロイ河を溯ること七十二粁に位し附近に鑛産地、牧地を控ゆ、チァーターズタワース(Charters Towers)(二、一〇〇〇)は産金地にあり、タウンスビール(Townsville)(一、五五〇〇)はクリブランド灣に瀕して港を有す、ツウムバ(Toowoomba)(一、四一〇〇)はブリスベーンの西百六十粁に當り分水山脈中、海拔五八六米突にあり、木曜島はヨーク岬に近き小島にして錨地を有せり。

新南エールス

新南エールス即ちニューサウスエールス(New South Wales)州はオーストラリア殖民地の母にして東部三州の中部に位す、長さ一千四百五十粁ありて幅は一千三百七十粁に達するが面積は六原州中の第四位にあり。

生業に關て農業は約百七萬方粨の耕地を以て小麥、玉蜀黍、大麥「オート」麥、馬鈴薯、牧草、煙草或は甘蔗、葡萄、柑類、等を與へざるに非ず、州の地積の四分の一に達する森林は木材を供せざるに非ざるも生産の主力たるの名譽は

本州に於ても之を牧業、鑛業に歸せざるを得ず、牧業は一九〇四年に於て羊(三四五三萬頭)、牛(二一七)、馬(四八)、豚(三三)等を飼養し羊の頭數は聯邦第一なり、鑛業は金、銀、錫、銅、等の金屬、石炭、大理石、等の非金屬を採集す、金は一八五一年より一九〇四年までに五千二百餘萬「ポンド」の價額に達し、石炭は百九十九萬餘「ポンド」を產せり、工業は凡そ三千六百の工場を有す、貿易は輸入に凡そ二千九百四十三萬「ポンド」、輸出に約三千七百萬「ポンド」ありて金貨、獸毛、石炭、肉類、皮革を主要輸出品とす、而して船舶の出入は各、四百四十萬噸を超ゆるが鐵道の延長はピクトリアに劣れり。

シドニー(Sydney)(五一、八五七〇)(南緯三三度五一分四一秒、東經一五一度一二分二四秒)は本州の首府にしてオーストラリア第一の都會なり、ジァクソン港の南岸に位置し天然の良碇泊地を有す、されば出港船舶の如きは約二百六十七萬噸に達して貿易盛大なり、市街は本大陸の他の新市に比すれば不規則にして風色佳なるが公署、博物館、公園、等見るべきものあり、パルラマッタ(Parramatta)(一、二六〇〇)はシドニーの西に位す、グールブルン(Goulburn)(一、〇六〇〇)はジョージ湖の北東に當りて海拔六三一米突に位し農產物を集散す、ニューカッスル(Newcastle)(一、三〇〇〇)はハンターの河口にありて石炭、生毛を輸出しシドニー以北の主港たり、ブロークンヒル(Brokenhill)(二、七一六〇)はダーリング河の西にありてオーストラリア第一の銀產地なり。

エデン(Eden)はツウーフォルド灣に瀕してシドニーに次げる良港を有せり、ダルゲチ(Dalgety)は聯邦政府の所在地と擬定せられし處なりスノーイー河の上流、海拔二七〇米突に位しシドニーを距ること二百九十六哩、最近の停車場を距ること三十二哩にあり、周圍の地は耕種、牧畜に利用し得べしと云ふ。

アルバリー(Albury)はムーレー河に瀕し舟運の便あり人口は約六千なるも附近の地は葡萄、煙草、等を產し葡萄酒の製造行はる、バサルスト(Bathurst)はマッカリー河の上流、海拔六五六米突に位して小麥の產地にあり九千餘の人口を有す、プールク(Burke)は家畜、銅の產地にありてダーリングの左岸、海拔七五米突に位す。

ロードハウ(Lord Howe)島、一六方粁、一〇〇人はノーフォーク島の南南西に位するが島内山岳樹木に富み低地は肥沃なり。

ノーフォーク(Norfolk)島(四四方粁)はシドニーの北東一千七百七十粁に位し良港少なく氣候温和なり。

シドニー
パルラマッタ
グールブルン
ニューカッスル
ブロークンヒル
ロードハウ
ノーフォーク

ビクトリア

ビクトリア(Victoria)州は**オーストラリア**大陸の南東部を占め、不規則なる三角形を呈す、底邊は凡そ四百二十粁、高さは凡そ六百八十粁ありて面積は五州中の最小なり。

生業に就きて記さんに農業は近年頗る進歩し沿岸の地方は勿論、山脈の北部に於ける地方にありても給水の便ある處に行はれ、小麥、燕麥、大麥、馬鈴薯、牧草、等の栽培あり、葡萄「オリーブ」、其の他の果物も前途有望なり、牧業は當州の主業にして一九〇四年に於て牛(一六九萬頭)、馬(三七)、豚(二九)殊に一千十七萬頭の綿羊を養へり、鑛業は主に金を採集す、産地は**バララット**、**ビーチヲルス**、**カッスルメーン**、**サンドハースト**(**バンヂゴ**)、**メリーボロー**、**アララット**、**ギップスランド**、等の諸地方にして一八五一年より一九〇四年に至る累計價額は二億七千萬「ポンド」に餘れり、工業は四千二百ヶ所の工場を有するも國内の需用を充たすに過ぎず、貿易は輸入に凡そ二千十萬「ポンド」、輸出に約二千四百四十萬「ポンド」ありて主要輸出品は金、獸毛、穀類、「バタ」、革類、肉類、等なり、又船舶の出入は各、三百九十一萬噸に近く**イギリス**船の出入は六百九十四萬噸なるが鐵道の發達は他州の上に出づ。

メルボーン(Melbourne)(五〇、八四五〇)南緯一四四度五九分は本州の首府にして目下聯邦政廳のある處なり、市街は**ヤラヤラ**河に跨りて**フィリップ**灣に近く位し、**メルボーン**港(横濱より四九九〇浬)及び外港たる**キリアムスタン**を控え商業甚盛なり、公園、公署、等見るべきものあり、**ジーロン**(Geelong)(二、五〇〇)は**フィリップ**灣の西に位せる一港にして製皮、製絲行はる、**バララット**(Ballarat)(五、一三二〇)は**メルボーン**の北西西百八十九粁に當り産金地に位す、州内第二の都會なり**ベンヂゴ**(Bendigo)(四、二五四〇)は**サンドハースト**(Sandhurst)とも云ふ海抜二三一米突の地にありて主要なる産金地たり。

ロルナンプール(Warrnampool)は**ポブキン**の河口に近き海港なり、生毛、穀類を輸出す、**ポートラッド**(Portland)は同名の灣に瀕して家畜、生毛類を輸出す、**エチュカ**(Echuca)は**ムーレー**河と**カムパスプ**河との相會する處にありて海抜九八米突に位し航通上の要地たり、**カッスルメーン**(Castlemaine)、**メリーボロー**(Maryborough)は執れも鑛業及び農業の行はるる地方にあり。

メルボーン

ジーロン

バララット

ベンヂゴ

南オーストラリア

世界地理提要　おせあにあ洲　**オーストラリア**

リア大陸の南部に九十四萬方粁の地を占むるも、人口は四十二萬餘に過ぎず、北領土は地域の廣大なるに拘らず、住人は僅少(三二三九)なり、從來南オーストラリアの兼轄に屬せしが、一九一一年より聯邦の管轄に移されたり。

生業に關して農業は小麥(オート)麥、大麥、牧草、葡萄、馬鈴薯、各種の果物、等を與へ、牧業は一九〇五年に於て凡そ五百八十八萬頭の羊の外に牛(五一)、馬(一九)等を飼養し、鑛業は銅を產するが工業は微々たり、貿易(一九〇四年)の全計は一千六百萬「ポンド」に達せずして輸入は凡そ七百四十五萬「ポンド」、輸出は獸毛、麥粉、銅等の八百四十八萬「ポンド」なり而して入船は二百四十萬噸に近く出船は二百三十七萬噸に止まるが三千一百粁足らずの鐵道を有せり。

アデレード

ポートアデレード

アデレード(Adelaide)(一七、〇七二九)(南緯三五度五五分東經一三八度三五分)は本州の首都にしてトルレンス河畔にあり、市街は二部に分かれ、北部は住宅の地なるが事務街たる南部は街衢殊に整然たり、大學、植物園等を有す、ポートアデレード(二、〇四五八)は當殖民地の主港にして首府の北西十二粁にあり、外港をセマフォーアと云ふ。

生業

パース

ウラルー(Wallaroo)は銅產地の海港たり、ポートオーガスタ(Port Augusta)はアデレードの北西一九三粁にありて大灣に瀕す、港は佳良にして生毛、小麥、銅、等の輸出あり、パーマーストン(Palmerston)は北領土の首邑なり、ダーウィン港に瀕する良港にして交通の要區たるが一八七五年以來自由港たり。

西オーストラリア

西オーストラリア(Western Australia)州は東經百二十九度以西の地にして東は南オーストラリアに接するも、他の三面は海に面し約四千八百三十粁の海岸線を有せり、而して面積はオーストラリア大陸の凡そ三分の一を占めて二百五十三萬方粁に近し。

林地は七十四萬方粁ありて有用なる木材を產し、農業は穀類、牧草、等を與へ、牧業は約二百八十六萬頭の羊の外に牛(五六)、豚、駱駝、等を飼養す、而して一八八六年以來金の產額の累計は五千五百萬「ポンド」に近きが銀、銅、錫、石炭、等の採掘も行はる、貿易は輸入に凡そ六百六十七萬「ポンド」ありて輸出に金、木材、獸毛、眞珠及び眞珠介、皮革、等の一千二十七萬餘「ポンド」あり、船舶の出入は各、百七十八萬噸に過ぎず、鐵道は發達せずして交通上の便を缺けり。

パース(Perth)(四、九六〇)(南緯三一度五七分一〇秒東經一一五度五〇分二五秒)は當州の首都なり、スワ

フリーマントル

タスマニア

ン河を溯ること十九粁の地に位し市内には建築の見るべきものあり、フリーマントル(Freemantle)(一、四七〇四)はスワン河の口に位するが港形佳良ならずして北風を受くるの恐あり。

クールガーデー(Coolgardie)、カルグールリー(Kalgoorlie)は孰れも湖沼地方の産金地にあり、アルバニー(Albany)はキングジョージスンドに瀕する良港なりグリーノフ(Greenough)はパースの北、四百四粁、農産地にあり。

タスマニア

タスマニア(Tasmania)はグリム(Grim)、ポートランド(Portland)及び南の三岬を頂點として不規則なる三角狀を呈し、南北三百二十粁あるも東西は稍〻之より短く、面積は屬島を合はせて約六萬八千方粁と算せらる、海岸は西部、北部に比較的單調にしてソレル(Sorell)岬の東に於けるマッカリー灣、タマル河灣の之を破ること著しきあるのみ、南東岸は殊に出入多くしてフレーシネット(Freycinet)半島、オイスター(Oyster)灣、タスマン半島、ストーム(Storm)灣、等あり、屬島にキング島、ハンター(Hunter)島、スリーハンモック(Hummock)島、ロッビン(Robbins)島、フルノー(Furneaux)群島、マリア島、ブルニー(Bruni)島、等五十餘あるが南大陸の百尋線に依りてタスマニア島と共に圍繞せられ以て舊時の

開墾者（おーすとらりあ）

綿羊の牧場（新セーランド）

連絡を示すに似たり。

山脈は東部に於ては海を距ること平均六十四粁の距離を以て走り、平均海抜は約九百米突に過ぎざるが、西部にはサーレー(Surrey)山脈(本島の最高峯たるクレードル(Cradle)山(一、五四五)あり、大西山脈等あり、河流の數は頗る多くしてダーエント、フオン(Huon)、ゴルドン(Gordon)、ピーマン(Pieman)、アーサー(Arthur)等あり、湖沼には大湖、センクレーア(St. Clair)、エコー(Echo)等あり。

地勢は山岳に富みて到る處高隆なるが南東部のみは稍低くして交通上に利用し得べき谿谷多し、之を要するにタスマニアを以て南方のシヅワイツと爲すは頗る適評なりと云はざるべからず。

氣候上當地は最も佳良なる一地方なり、氣温は附近の殖民地に比して夏季は涼冷、冬季は温暖なり、雨量は地方に依りて異なるが、西部は東部より多濕にして、風は屢、强烈なるも雷鳴を伴ふこと稀なりとす、然れども詩的の天候を誇り得るは島の一部に限れり。

人口は約十八萬人(一九〇四年)あるが十方粁の平均は二十五人と成る而

して當初五千八以上ありし土人は一人も生存するものあるなし、移民は南大陸に於けるが如く年に依りて增減あるも來住、往住共に二萬五千人內外あり、宗教はキリスト教最も勢力あり、教育に就きて住民の二割餘は讀み書きを爲す能はざるが大學は一ヶ處あり、政治に關しては立法權を司る議會は兩院より成り、上院に議員十八人、下院に三十五人あり、行政權を握る知事は七員より成れる內閣に依りて輔助せらる。

牧業は一九〇四年に於て羊(一五六萬頭)、牛(二〇)、豚、馬等を飼養せしが其の質概して南大陸に於けるものより優良なるに似たり、農業は麥類、馬鈴薯、牧草等を興ふるが果物の產亦注意すべきものにして鑛業には金、銀、銅、石炭等の產あり、貿易は他州に劣りて輸入に約二百五十五萬「ポンド」、輸出に獸毛、金銀、錫、木材、果物及「ジャム」「ホップ」、穀類、皮革等の凡そ三百萬「ポンド」あるが出入船舶も各百十萬噸に達せずして鐵道は一千粁未滿なり。

ホバート(Hobart)(二、四九四九)(南緯四二度五三分東經一四七度二一分)はタスマニア州の首府なり、市街はダーエント河を溯ること十九粁、風色に富める地にありて淸麗な

り、巨船の出入容易にして商業稍見るべきものあり、ランセストン(Launceston)(二、一六〇六)は本島第二の都會なり、タマル河の口を溯ること六十四粁、南北兩エスク河の會合地に位す、オーストラリア殊にメルボーンに近きを以て物貨の集散少なからず。

ウーハン(Zeehan)、ダンダス(Dundas)は四岸を距ること遠からざる銀の產地にして鐵路に依りてマッカリー港に通ず。

島嶼部

位置 島嶼部は一大島と若干の中島、無數の小嶼とより成りて、其の極北はクレスポ嶼の北緯三十二度四十六分、其の極南はマッカリー群島の南緯五十五度十五分、其の極西はカナリー(Kanarl)島の東經百二十九度、其の極東はサライゴメス島の西經百五十度二十八分なり。

地質 本洲に屬する島嶼には火山質の高島と珊瑚質の低島との二種あり而して珊瑚質の島嶼には裾礁を繞ふに過ぎざるものあり、堤礁に圍まるる世界地理提要 おせあにあ洲 島嶼部

るものあり環礁(Atoll)を爲せるものあり。

風向

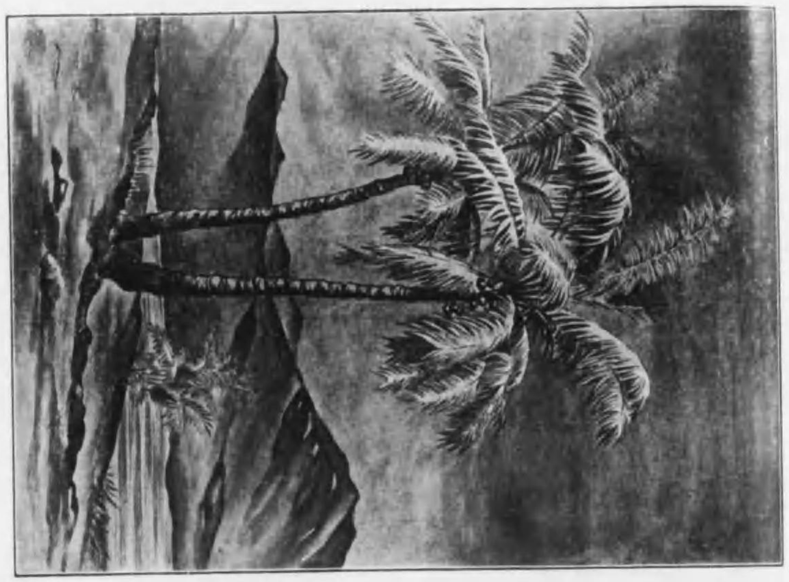
氣候　本洲所屬の島嶼は概ね回歸帶にありて貿易風の吹き荒む處なるが、赤道以北にありては北東の方向を有し、同線以南にありては南東の方向を有す、而して此の二風帶の間に五度乃至十度に亘れる靜穩帶の存するあり て太陽の黃道上に於ける位置に從て多少移動せり、且又此等の定風が眞正の方向を有するは太平洋の東部に限り、西部に趨くに從て群集せる島嶼は風向に逆ひて其の進行を妨げ、殊に印度洋の氣候風の吹き來る處にありては一定の方向を有する能はず。

降雨

貿易風及び氣候風は共に多量の雨を齎し來るが定風の衝に當れる高島にありては降雨充分にして地味佳良なり、就中貿易風と季候風とが交替する地にありては濕候、乾候の別を生じ、雨水の降下甚だ多し、是れメラネシア諸島に良土を見る所以なり、之に反して平低なる島嶼は熱し易きが故に海洋より來る濕氣を止むる能はざれば降雨極めて稀なりとす。

溫度

各處に於ける群島の平均溫度は北部の二十五度乃至三十五度なるが、



ココヤシ　セゴヤシ
(Cocos Nucifera)　(Metroxylon Rumphii)

パンノキ
(Artocarpus incisa, A. integrifolia)

拙著世界經濟地理原料編參照

ヤシ（一二三頁）、ココヤシ（九九）、サゴノキ（四八）

パンノキ「麵包果樹」(Artocarpus incisa)はタヒチ島の原產にしてオセアニアの熱地に栽培せらる、十米突乃至二十米突に達する大木本にして樹皮より纖維を採りて織物に製し雄花を「ホクチ」に用ひ、樹幹を木材に供す、殊に澱粉分に富める果實を火食す効用の頗多なる重要植物の一に算すべし。

マルパンノキ (Jacquier)(A. integrifolia)はモルッカ群島の原產なるも印度其の他の回歸帶地方に栽培せらる、果實は前種より大なるが効用には大差なし。

ージーランドの南にありては十度乃至十五度にして土地に依りては十度以下に降ることあり。

天產　島嶼部の動植物は概してアジア的にしてオーストラリアの生物に類するものは甚だ少なし、而してハワイ群島にありてはアメリカ的の生物を見ると云ふ、要するに生物は東漸するに從て缺乏を告ぐるが如し、殊に低島に於ける植物は「ココヤシ」「タコノキ」(Pandanus)「イグナム」(Discorea batatas)「タロ」(Colocasia exculenta)等の數種に過ぎずして各地に普及せる動物は鼠の一種あるのみ、パプア、ニュージーランドの如き大島に於けるも巨大なる獸類を見る能はず、然れどもパプアは有袋類を有するの外、鳥類、蟲類に富み、殊に外觀の美を盡せる「パラヂセア」(Paradisea)の產地として名を知らる而して島嶼部の天產として稍、著しきものは檀香、甘蔗、穀類、銅、「ニッケル」、金、石炭、等なり。

住民　住民には黑色のパプア人、ネグリト人あり淡色のポリネシア人あり、ニュージーランドのマオリ人幷にミクロネシアの住人も概してポリネシア派に屬せり、黑色人は野蠻の風を脫せずして爭鬪を好み人肉を啖ひ淡色

人は其の性温和にして友誼に厚く外人と交際するを厭はず、文明を慕ひ喜びて固有の慣習を捨つるものの如し、此の外西洋人にはイギリス人、ドイツ人、フランス人、オランダ人等あり、東洋人に支那人あり又ハワイ群島には日本人少なからず。

所領　島嶼部は全然ヨーロッパ人、アメリカ人の掌中にありてイギリス、オランダ、ドイツ、フランス、アメリカ、チレーは各、若干の地を有せり。

分國表

領國	土地	地積	人口
イギリス	新ゼーランド及屬地　南東新ギニア　フィジー諸島及びロツマ島　トンガ群島　ファニング島　ユニオン諸島	五五、七九一方粁	一五六、一三六
	フェニックス群島　ジルベルト＝エリス群島		
	サロモン諸島　サンタクルス諸島　ツコピア群島		
	ヅーシー島　ピトケーン島　ハウ卿島　ノーフォーク島		
オランダ	西新ギニア	三九、四七八九	二四、〇〇〇
ドイツ	北東新ギニア　サモア群島　マーシァル諸島	二四、三八一九	四五、二〇〇

フランス	新カレドニア及びロワイヨーテ諸島		
	シェスターフィールド諸島　ワリス諸島　オセアニア領土	二、四三五	八、九〇〇〇
	クリッペルトン島		
アメリカ	ハワイ群島　グアム島　サモア群島	一七四一七	一六、七六七七
	エーク＝ジョンストン島		
チレー		一二〇	一五〇
	新ヘブライヅ諸島	一、三三七	六、〇〇〇
合計		二二五、一五〇八	二五七、〇〇五三

而して此等の島嶼を研究するに當り其の自然的狀勢幷に住民の情態に基づきて左の如く區分するの例に據れり。

沿岸島嶼 { パプア(Papua)即ち新ギニア(New Guinea) / メラネシア(Melanesia) / 新ゼーランド(New Zealand) }

世界地理提要　おせあにあ洲　島嶼部

大洋島嶼 ミクロネシア(Micronesia)
ポリネシア(Polynesia)

第一　沿岸島嶼

沿岸島嶼はオーストラリア大陸の北方に起り北東に趣き南東に亘れるが、其の趨勢概ね大陸の海岸に沿ひて珊瑚海及びタスマン海を抱けり、而して北端のパプアと南端の新ゼーランド(南北の二島に分れ居るも)との二大島を始めとしビスマルク群島、サロモン諸島、サンタクルス諸島、新ヘブライヅ諸島、新カレドニア島、ロワイヨーテ諸島、フィジー群島、等より成れり。

境域

◉パプア(新ギニア)

パプア(Papua)即ち新ギニアはイギリス名をニゥーギニア(New Guinea)と云ひドイツ名をノイギニア(Neu Guinea)と云ふ、世界第二の大島にして北北西より南南東に伸び、アラフラ海、印度洋、太平洋、珊瑚海に臨めるが、南は水淺くトルレース海峽を挾みてオーストラリア大陸と對せり、長さは二千四百粁、幅は六百六十粁に近く、面積は約七十八萬(七八、五三六二)方粁あり、之に屬島(二、二五九四)を加ふれば約八十一萬(八〇、七九五六)方粁を得るなり。

海岸

海岸は北西部と南東部とに於て顯著なる彎入を呈するも概して屈曲多からず、西岸に於ては殊に卑濕なるを見る、半島に北西半島(ベルー、オニン)、南東半島あり、地角にゼレー岬、東岬あり、而して屬島にヨビー諸島、シゥーテン(Schouten)諸島(井アーク、スピオリ)、ダントルカストー(D' Eentrecasteaux)群島(ファーガッソン、ノルマンビー)、ルイジァード(Louisiade)諸島(南西島、ロッセル島)、フレデリックヘンドリック(Frederik Hendrik)島、アル(Aroe)群島、北西諸島(ワイゲウ諸島、サルワチ諸島)等あり。

屬島

山脈

東經百三十四度より東西に走れるシァルルルーイ(Charles Louis)山脈は四一五〇米突、五一〇〇米突(?)と稱せらるる高峯を有して白雪を頂けりと云ふ、オーエンスタンレー(Owen Stanley)山脈は蜿蜒して南東端に達するがビクトリア山(四〇一五)、アルベルトエドワード山(三八一〇)の如き秀峰を有せり。

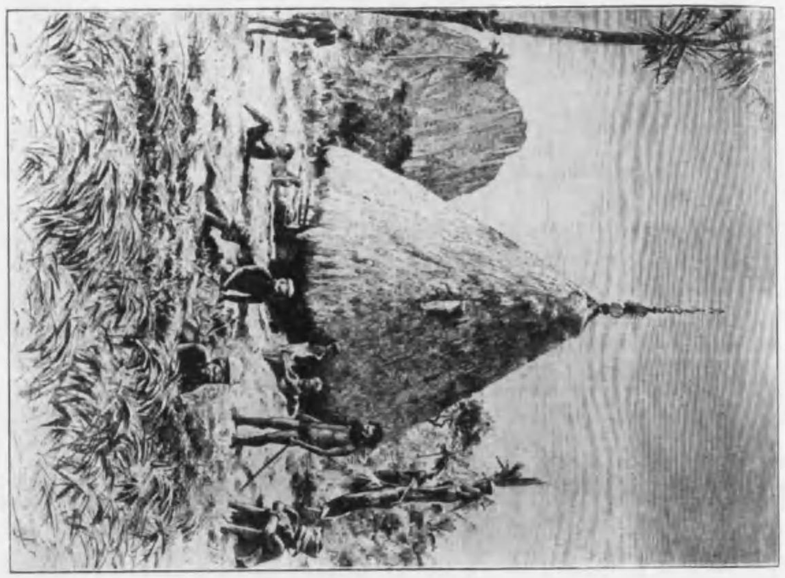
河流

河流は少なからざるが太平洋斜面にワサムソン(Wa Samson)、アムベルノ(Amberno)、カイゼリンアウグスタ(Kaiserin Augusta)、ラム(Ramu)、等あり、珊瑚海斜面にフライ(Fly)あり。

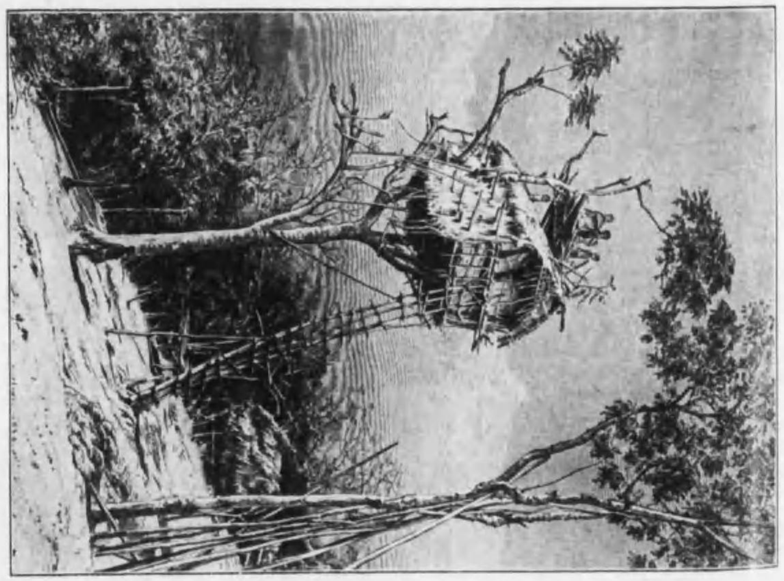
氣候　氣候は一樣ならざるも氣温高く沿海地は殊に健康に適せずして本島の殖民に大なる妨害を與ふ、モレスビー港に於て氣温は平均二十八度三、最高三十五度六、最低二十二度にして雨量は一千八百二十九粍なり。

天産　植物は盛に繁茂し其の狀況は勿論マライ的なる所あるも亦オーストラリア的なるもありて「アカシア」「ユカリプタス」等の出現はオーストラリアの接近せるを知らしむるに足り、蓊鬱たる森林はスンダ諸島殊にセレベス、モルッカ等に關係あるを證す、動物に就きて哺乳類は甚だ稀にして野豚、廿日鼠の外は皆有袋類に屬し最も著しきを「キノポリカンガルー」とするが「デンゴ」「アリクヒ」「カモノハシ」等も亦オーストラリアに見る所なり、鳥類は哺乳類に比すれば著しく豊富にして陸鳥は四百種以上に達し一般に艶麗なるが「パヂセア」(Paradicea)は約四十種あり、其の風鳥(P. apoda)は最も名あり、鑛物の有用なるものには金、鐵、黑鉛、硫黃等ありて近年の探査に從へば石炭の存在確實なるに似たり。

住民　住民の總數は五十萬乃至二百萬餘ありと稱せられ一方粁平均約一人未



「ロナック」の住屋（新カレドニア）



山民「コヤリ」の住屋（ポートモレスビー附近）

滿乃至二人半なり、西部中部にはパプア人（パプアはマライ語にて羊毛的の毛を有する意）あり、南東部の沿岸にポリネシア人、其の內部にコラリあり、北西部にカロンあり、コラリとカロンとはネグリト派に屬せり。

パプア人　即ちパプーは黒色人種に屬し多くの島嶼に分住す、丈高く皮膚黒くして多少褐色を帶び、黒髮は縮れ鬚と共に叢生し且又一見嫌惡の感を與ふるは廣顏坦額、眉秀で眼凹み鼻大唇厚、顎骨亦凸出せるに由るならん、性大膽にして怜悧ならざるに非ざるも、島中に孤立する爲の文化遲まざりき、衣服は腰部に樹皮、介殻を纏ふに過ぎずして北岸の或地方にては男女共に赤裸なりと云ふ、然れども諸種の色を身體に塗り切解的身文を施し又は牙介羽毛を以て耳環、頸環、鼻、腕、脛、等の裝飾と爲すあり、殊に若き男子は毛髮に特殊の注意を拂ひて奇異なる毛冠を戴けるが如き觀を呈す、食物は「セゴ」、魚類を主とするも豚、犬、小禽、昆蟲等も用ひられ、人肉を啖ふの風は一般に行はるるに非ざるも敵を捕へ又は殺したる際は此の限に非ずと知るべし、住居に就きては北岸には杭上に設けたる茅屋の存するあるも南西岸には枝條にて作りたる小屋を覆るに過ぎず又樹上に巢の如きものを作りて棲めるものあり。

西洋人

西洋人にして始めて本島に至りしものはポルトガル人メネセスなりとす（一五二六年）、其の後エスパニア人、イニゴオリツデレテス來り、本島の住民がギニアに於けるが如く黒色を帶ぶるを以て新ギニアの名を與へたり（一五四六）、而して年を經る

に從て探檢の程度も次第に進みしが主としてオランダ人の從事する所と成りしを以て彼等は島の四部を要求し（一八四八）、イギリス、ドイツは東部を分領するに至りしなり（一八八四―八六）。

オランダ領　オランダ領三九四七八九方粁二四、〇〇〇〇人はパプア島の西部にありて行政上は東印度のラルナラ區に屬するが本島の三部中將來最も有望なりと云ふ、ドレー（Dorei）はジールフィンク灣頭アルファク山麓に於ける錨處にしてワレース、其の他の探檢家の出發點なり、パチピ（Patipi）はマックルアー灣の南岸にありて多少商業行はる。

ドレー　アル（Aroe）群島、地積七七五〇方粁人口三、二九六〇人は十島、八十五嶼より成りて前後の二列に分かる、ドッボ（Dobbo）はバンメル（Vanmer）島にあり、群島の首邑にして貿易所を有す。

パチピ

アル群島

イギリス領　イギリス領二二、九一〇二方粁三五、〇〇〇人は本島の南東部にありて諸般の經費はクキンスランドの負擔する所なりしが、近年オーストラリア聯邦政府實際之を支配することと成り、毎年二萬ポンド以内の支出を爲すに至れり、ココヤシ、セゴノキ、白檀、金等を產す、ポートモレスビー（Port Moresby）は本領土の首邑なり。

イギリス領

モレスビー

ドイツ領　ドイツ領一一八、一六五〇〇方粁即ちキルヘルム帝領土は本島南東部の北部を占めてビスマルク、ザロモン、カロリナ、マリアナの諸島をも含めるドイツ領新ギニア二四二、〇八二六方粁の主要部を爲せり、ココヤシ、煙草、綿等の栽培行はる、フリードリヒヘルムスハーフェン（Friedrich-Wilhelmshafen）はアストロラブ灣の北西岸にあり、本領土の首邑にして最良の健康地なり。

ドイツ領

メラネシア　メラネシア（Melanesia）黑人島嶼の意は住民の黑色種なるに基づける名稱にしてビスマルク、サロモン、サンタクルス、新ヘブライヅ、新カレドニア、ビチー等の各群島より成れるが、ビチー群島は住民に混淆の跡あるを以てポリネシアに屬せしめらるることあり、又前にも陳べし如くパプア幷に屬島の住民は若干の種族より成れりとするも概ね黑色を呈するが故にメラネシア中に抱括せしむるを以て適當なりとす。

メラネシア

ネグリト派はメラネシア最舊の住民なるが如し、往古の住域は相當に廣濶なりしが其の遺跡はヒマラヤ山脈、マリアナ群島、チモル島にも存せり、現今はアンダマン列島にミンコピーと稱せられフィリッピンにアエタ、マフッカの山地にサンガと唱

へらる、彼等は平均一米突三八の身長を有するが故にアフリカのネグリロに比して寧ろ低し、腐頭にして皮膚黒く毛髪も眼彩も同様なり、額は幅廣く鼻は直にして鼻孔大ならず、外觀甚しく醜惡ならず。

ビスマルク群島　ビスマルク(Bismark)群島(地積四、七一〇方粁人口一八、八〇〇人)は新ポムメルン、新メクレンブルグの二大島幷に若干の小島より成り東方に向ひて凸曲せる馬蹄形の群島を爲せり、氣候は新ギニアのそれに酷似せるが夕刻に起る陸軟風は内部の沼氣を運び來りて健康を害すること尠少ならず、此の群島の住民は約十八萬八千人ありて白人は三百三十三人に過ぎず、一八八四年以來ドイツの保護地にして一九〇四年には約百七十六萬「マルク」を輸入し凡そ百二十一萬「マルク」を輸出せり。

ヘルバーツヘーエ(Herbertshöhe)は新ポンメルン島に於けるガゼル半島の北東岸に位す、ドイツ領新ギニア知事の駐在地なり、マツピ(Matupi)はブランシの灣の北部に於ける小島にしてヘルバーツヘーエの北西に當れり、良好の錨地にして新ギニア會社の管理署あり。

ソロモン諸島　ソロモン(Solomon)諸島はビスマルク群島の南東にありて約一千一百粁の間に散在し約四萬四千(四、三八九九)方粁の地積を有するが北東、南西の二列を爲せり、此等の島嶼は概ね火山質なるが小島には珊瑚質のものあり、雨量は甚だ多く氣温は三十二度と二十四度との間を昇降し、氣候概して不良なり、人口は凡そ十八萬ありと稱せらる、本諸島は一千五百六十七年發見せられドイツは一千八百八十六年以來領有を主張したりしが、一千八百九十九年の英獨協商は南部をイギリスに北部をドイツに屬せしむることとせり。

ドイツ領　ドイツ領一、〇八七、〇〇〇人　八方粁はブーゲンビイユ(Bougainville)(一、〇〇〇〇方粁)ブーカ(Buka)、シォルトランド(Schortland)等より成りて幷ルヘルム帝領土の支配を受け、白檀、龜甲を以て主要商品とす。

イギリス領　イギリス領三三、九〇〇方粁一四、〇〇〇人　はシォアズル(五八五〇)、イサベル(五八四〇)、マライタ、新ジョージア、グアダルカナル(六五〇〇)、サンクリストバル(三〇九〇)、其の他の諸島より成り「ココヤシ」、馬鈴薯「アナナス」、「バナナ」等の產あり、行政上は一駐在官の管理の下にあり。

サンタクルス諸島　サンタクルス(Santa Cruz)諸島、九三八方粁、七〇〇〇人、即ちシアーロット女皇諸島はサモロン諸島の南凡そ三百二十粁に位する火山島にしてイギリスの所領なり。

新ヘブライヅ諸島　新ヘブライヅ諸島はイギリス人のニゥーヘブライヅ(New Hebrides)にしてフランス人のヌーベルヘブリード(Nouvelle-Hédrides)なり、其の所領は久しく決せざりしも、一千八百八十七年の條約はフランス及びイギリスの聯合海軍委員の下に人命、財産を保護することを決定せり。

本諸島はサンタクルスの南にありて凡そ八百二十粁の間に亘り、一萬三千餘方粁の面積を有するが、分かれて北、中、南の三群を爲せり、諸島は火山質にして珊瑚礁を繞らすものは少なく、火山あり、温泉の湧出あり、海岸は好碇泊地に乏しく颶風屢〻起る、住民は六七萬人あるも各島異同ありて、明かに人種の混化を示せり。

新カレドニア　新カレドニアはフランス人のヌーベルカレドニー(Nouvelle-Calédonie)にしてメラネシアの最南にあり、長さは四百粁に達するも幅の平均は五十六粁に過ぎずして面積はロワイヨーテを合はすれば一萬九千八百餘(一、九八二三)方粁あり。

海岸　海岸は北東岸に殆ど直線的なるも反對の方面に於ては港灣の凹入ありて接觸の便を與ふるもの少なからず、地勢山岳に富み海拔一千六七百米突に達する二條の並行山脈は中間に谷地を挾みて北西より南東に趣けり、氣候はメラネシアの他の部に比すれば乾燥冷涼にして長春にあるが如し。

生業　新カレドニアはフランスの殖民地にして農業は珈琲、玉蜀黍、煙草、砂糖、葡萄、「マニホット」、「アナナス」、小麥、等を與へ、牧業は牛、羊を飼養し、鑛業は「ニッケル」、「クローム」、「コバルト」、銅、石炭、等を與ふ、貿易は一九〇四年に於て輸入に一千二百四十七萬八千「フランク」ありて輸出は一千百四萬一千「フランク」なるが、前年に於ける貿易輸入一三六七、二輸出八九六、四に就きて主なる輸出品を示せば「ニッケル」(三一六、〇)「コバルト」(二一〇、九)「クローム」(一一二、四)、珈琲(一〇三、六)等あり、鐵道はなきも郵便、電信、電話、等は備はれり。

ヌーメア　主邑ヌーメア(Numea)は風色に富めるが、ヌー島とチゥコ島とに依りて形成せられたる港は安全廣濶にしてシドニー、其の他と交通の便あり。

ロワイヨーテ(Loyauté)諸島はイギリス人のロイヤルチー(Loyalty)にして面積は約二千七十二方粁、住民は一萬四千八百人と算せられ、土人は新ヘブライグ人に似たり、「バナナ」の栽培行はれ白檀を以て主要輸出品とす、本諸島はジェスター・フィールド(Chesterfield)諸島、ワリス(Wallis)諸島、フツナ(Futuna)、アロフィ(Alofi)と共に行政上新カレドニアに屬せり。

ピチー諸島　ピチー(Viti)諸島。即ちフィージー(Fiji)諸島は南緯十五度乃至二十度、西經百七十七度及び百七十八度の間にありて火山質のピチレブ(大ピチの意)、バヌアレブの二大島、若干の小島、約二百五十の小嶼より成れり面積はロツマ島を合はせて二萬四十五方粁あり。

候氣　氣候は一般に健康に適せり、スバに於ける氣溫は平均二十六度一、年雨量は二千七百九十四粍なり、旋風は一月或は二月に起り時として津浪を伴ひて大なる損害を與ふ。

住民　人口は一九〇四年に於て約十二萬(一二、一七七三)人ありて大部分はピチー人なるが印度人、ヨーロッパ人、ポリネシア人、等もあり、專ら行はるるはキリスト敎なり。

政治　ピチーはイギリスの直轄殖民地なり、知事は行政、立法の二會議を有するが西太平洋高等委員兼總領事としてファニング、ユニオン、フェニックス、ジルベルト、エリス、サロモン、サンタクルスの七諸島をも支配す。

主業　牧業は牛、山羊、等を飼養し、農業は甘蔗、「ココヤシ」、「バナナ」、其の他を栽培し、一九〇三年に於ける貿易高は百十三萬、「ポンド」にして砂糖「コプラー」、果物、等を輸出せり、新ゼーランド、オーストラリア、トンガ、サモア、ホノルル、等との間に定期の航通あり、スバ、レブ間には約九十一粁の電話あり、郵便の制亦存す。

ピチレア島　スバ(Suva)は地味肥沃なるピチレブ島(一、〇六四五方粁)の南東岸にあり、ピチー殖民地の首邑にして在留ヨーロッパ人は一千餘人あり、ワイカマはバヌアレブ島の南岸にありてサブサブ灣に瀕し温泉を有す、ヌガラオ灣はカンタブ島の南岸に位し航行上の要處なり。

◉新ゼーランド

新ゼーランドはイギリス名をニッジーランド(New zealand)と云ふ、南太平洋の西部、南緯三十四度五十分(北島のザ、エメン岬)同四十七度五十分(ステアート島の南岬)の間に

位し、オ！ストラリアの南東一千六百粁にあり、北と南との二島幷にステワート、其の他若干の小島より成りて二十六萬八千餘方粁の面積を有せり、北東より南西に至る長さは一千九百三十粁にして、幅の平均は百九十三粁なるがニュージーランド殖民地の主要部を爲せり。

海岸

海岸の延長は四千八百粁に達し、從ひて灣も其の數少なからずして北島にハウラキ、ハウキあり、南島にタスマン、ライテルトン、等あり、而して海峽には南北二島の間にクックあり、南島とステワート島との間にフォーボーあり、地角は北島にマリーバンヂエメン岬、北岬、パリッサー岬、エグモン岬ありて南島にフェアエル岬、プロビデンス岬あり、又半島には北にコロマンデル半島あり南にバンク半島あり。

山岳

南北の二島は共に山岳に乏しからずして二千米突以上に達する火山の數も二三に止まらず殊に南島には高山秀嶺多く皚々たる氷河を戴くものあり、山岳の中最も著しきものは北島のルアペク(二千八〇四)、トンガリロ(二千二四八)、エグモント(二千五二一)と南島のフランクリン(三千〇五〇)、クック(三千七六八)、アスピリング(三千〇六〇)と成り、河流は北島にワイカチ(二千七〇粁)ありて南島にクルシアあり、沼湖の主なるものは北島にタウポ(五千一八方粁)ありて南島にテアナウあり。

河流

沼湖

氣候は一般に溫和にして健康に適せり、北島の極北部は亞熱帶的にして高臺、山岳を除くの外、全島到る處、霜雪を知らざるも、南島の冬季には常に厚霜深雪あり、氣溫は南島の東部に於けるカンターバリー平原に於ては年十六度七を示すが、其の西岸のホキチカにては八度九、北島のエルリントンにては七度二なり、雨量は西岸に多くして、北島に就きて云へばタラナキの雨量はナピールの二倍以上に達するが、南島のクリストチャーチは七十糎にしてホキチカは三百十糎なり、雪線は南島に於て二千三百米突とす、又風は主として北西より來る。

氣候

天産

植物は比較的種類少なきが其の約三分の二は全く此の群島に固有なるものとす、而して「ユウカリ」「アカシア」は一も此の地に於て見る能はざるが、動物は固有の哺乳類なきも、「ノルゲネヅミ」は今や增加せり、鳥類には豊にして

百四十五種を數ふるが「キキ」(Apteryx)を以て著しきものとす、鑛物には石炭、金、銀、鉛、銅、錫、クローム、鐵鑛、砂鐵、等もあり。

沿革

一六四二年オランダの航海者タスマンは北島の西岸を發見してスターテンランド(聯邦の土地の義)と名づけ更にノバゼーランダ(本國のゼーラントに因みて)と改めしが一百餘年を經過したる後有名なるクックは三回の旅行に依りて各島を探檢したり、之より幾もなくしてイギリス、フランス、アメリカの捕鯨者の好住處と成り、宣敎師も來りニュージーランド會社の創立(一八三九)ありしが遂に一八四〇年ワイタンギ條約成立して土民の酋長が有せし主權はイギリスの手に移れり、翌年新南ウェールスの屬地は一變して特立の殖民地と成り、金產地の發見(一八五七)は來住を促し聯邦的自治殖民地は統一的殖民地に變化したり(一八五七)。

住民

人口は一九〇四年に於て約九十萬人にして大部分はイギリス人なるが土人「マオリ」は減少して四萬三千百餘人と算せられたり、移民は同年に於て來住に三萬三千人足らずありて往住は二萬二千餘人なり、宗敎はキリスト

ケア (Kea) (Nestor notabilis)

極樂鳥
(Paradisea apoda, Paradisea sexpennis, Cicinnurus regius)

数を以て盛なりとす。

政治　ニヴリーヴンドは イギリス自治植民地にして立法權は立法會議代議院より成れる二院制度なり。新ゼーランドの三分の二は羊の放牧地にして石炭・石炭(七六)等を輿す。工業は一千七百十四萬ポンドを要なる輸入品を以て一千九百萬ポンドを輸入し一千四百七十四萬ポンドを輸出し、鑛業、金(二〇四萬ポンド)なりとす。貿易に就きて「ポンド」を輸出せしが前年の輸入は九一萬ポンドを輸入品を以て一九〇四年には一千三百二十萬ポンドを輸入し一千四百七十四萬ポンドを輸出せしと取引しイギリスとの取引高大なり。農業、牧畜、牧草等を興へ、牧業は羊毛百萬ポンドに次げり而して重要輸出品は生毛(四六七萬ポンド)にして羊毛百萬ポンドに主とし(四七萬ポンド)皮革等之に次ぐ。

面積二八七、金二、九八六、三六四ポンド　陸(二六〇萬)、淡水(一三、八〇〇)の外に新ゼーランド

ネモ（Nem）（Nestor notabilis）〔鸚鵡類〕は雄ネーラメドの雄に似、羽色は緑色にして頭に赤色の斑點あり。

ネモラ「植物」の項に詳記せり。

の出入は各百十萬噸（一九〇四年）を超え、鐵道は三千八百二十一粁（一九〇五）、郵便局は一千八百九十八、電信線には三萬八千百四十七粁あるが、電話も亦使用せらる。

北島

北島は新ゼーランド三島中の北部にあるものなり、面積は十一萬五千百七十二方粁と概測せらるるが長さは八百八十粁ありて最大の幅は四百餘粁なりとす、海岸は屈曲に乏しからずしてボートニコルソンを以て最とす。

住民は一九〇一年に於て三十九萬餘人あり、主としてオークランド、タラナキ、エルリントン、ホークス灣の四地方に分住せり。

エルリントン（Wellington）（五、三九〇〇）南緯四一度一七分東經一七四度四七分は新ゼーランドの首都なり、クック海峽の北岸に於けるニコルソン港の西岸にありてシドニーの南東約一千九百三十粁に當り交通の便を有せり、家屋の多くが木造なるは地震を恐るるに因るならん、オークランド（Auckland）（三、八三七七）は一八四〇年の創建に係り本殖民地最舊市街の一にして幅凡そ九千六百米突の地峽にあり、ハウラキ灣の南西隅に於ける良港は船舶の出入多く近郊の地は風

色に富めり。

ラッセル（Russel）はアイランド灣に瀕しオークランドの北二百十粁にあり、南太平洋に於ける捕鯨業上主要根據地の一なるが住民には土人多く本島殖民事業創始の地として名あり、ナピアー（Napier）はホークス灣の南西隅に於ける小半島にありて良港を有す。

南島は北島の南西、スチワート島の北東に位するが、面積は十五萬千五百八十方粁あり、長さは八百八十五粁にして幅は二百四十乃至二百廿粁なり、海岸は北島に比すれば簡にして彎曲多からず、西岸に少なからざる峽灣を有する本島は西部に偏在する南アルプの東に多くの湖沼を有せり。

住民は北島より少なく一九〇一年には三十八萬餘人ありてマルボロー、ネルソン、エストランド、カンターバリー、オタゴの五地方に住せり。

クリストチャーチ（Christchurch）（四、八七六七）はアポン河畔の平地に建ち著しくイギリス的なり、ヅネーデン（Dunedin）（二、五九〇〇）は附庸港たるポートチャルマース（Port Chalmers）を距ること十三四粁、良灣に瀕して商業上主要の地なるが市街麗雅なり。

ステワート

子ルソン(Nelson)はタスマン灣に瀕して小港を有し暑熱甚しからず、インバーカーギル(Invercargill)はヅネーヂンの南西約二百四十粁に位し製材、其の他の工場ありて生毛、凍肉、穀類、等を多く輸出するが外港カメルタウンは南方二十七粁に位す、キングストン及びクヰンスタウンはワカチプ湖の岸にありて旅客の往來少なからず。

ステワート(Stewart)島は新ゼーランドの三島中、最南、最小(一七二二方粁)の島なり、島内山岳多きが沃谷も亦少なからずして植物は繁茂し砂鐵等の產あるが、近海には魚族多し、本島は舊と住民なかりしが一九〇一年には二百七十餘人ありたり。

ケルマデック(Kermadec)諸島、三三方粁、八人は、チアタム(Chatham)諸島、九七一六方粁、二〇九人、バウンチー(Bounty)諸島、一三方粁、アンチポーヅ(Antipodes)諸島、五三方粁、オークランド(Auckland)諸島、八五二方粁、カメル(Campbell)諸島、一八四方粁、クツク諸島、ニウエ、其の他と共に新ゼーランドに屬せり。

第二　大洋島嶼

大洋島嶼は赤道の南北に亘り廣大なる海面即ち太平洋上に碁布せる無數の島嶼より成りて所謂眞のオセアニアなり、地脈の趨勢、住民の差異、等に基づきてミクロネシアとポリネシアとの二部に分たる。

●ミクロネシア

ミクロネシア(Micronesia)微細島嶼の義は人種的區分にしてマガリアエンス及びアンソン、マリアナ、カロリナ及びパラウ、マーシアル、ジルベルトの六部、三千五百三十方粁に過ぎざるも、其の散布する區域は甚だ大なり、人口は十一萬餘ありて種族はポリネシア的なるも別に一派を爲せり、ミクロネシア人は温良にして極めて漕舟術に長じ體軀は稍〻小なるも容貌は概して醜からず、頭髮黑く鬚髯疎にして長く、皮膚は褐色を呈せり。

マガリアエンス諸島

マガリアエンス(Magalhaes)諸島は北緯二十度乃至三十二度、東經百二十八度乃至百六十八度に於ける海面上に散布せる若干の嶋嶼より成れるが、地積は僅に百十方粁に過ぎずして我が小笠原島も此の中に含まるべし。

マリアナ諸島

マリアナ(Mariana)諸島はドイツ人のマリアネン(Marianen)諸島にしてラドロン諸島とも云ふ、ミクロネシアの北西部を占め南北約八百粁に亘れるが、面積は千二百四十方粁に過ぎずしてグアムを最大とし合計十五ヶの島より成れり、南部に於けるものは平低なるも北部に於けるも

のは山岳多く活火山も數座あり、土地は南方に趣くに從て肥沃なりとす、氣溫は二十一度乃至二十六度七にして雨季は夏の半に於て南西風を以て始まるも降雨は全年に亘り乾魃稀に起る、要するに氣候は概して佳良なるが往々激震、大風の害あるを免れず、住民は一萬二千人に達せず主としてフィリッピンより來れるタガル人、ビサヤ人より成れり。

本諸島は一五二一年マガリァエンスに依りて發見せられ一六六八年よりエスパニア領と成れり、然るにエスパニアとアメリカとの間に戰爭ありて一八九八年グアム島は合衆國領と成り、殘餘はカロリナ、ペレウと共にドイツに賣與せられたり。

ドイツ領

ドイツ領。六二六方粁 二六四六人はマリアナ諸島の大部を占むるが政廳は長さ二十四粁なるサイパン島に置かる。

アメリカ領

アメリカ領。五一四方粁 九六七六人はグアム(Guam)長五一粁 周一六一粁の一島にして同島は太平洋横斷電線の中繼所なるが、首邑アガニァ(Agaña)は六千の住民を有せり。

カロリナ諸島

カロリナ(Carolina)諸島。はドイツ人のカロリネン(Carolinen)諸島にしてマリアナ諸島の南に位す、東西の方向に長く配置せられて三千二百二十粁に亘れるが、地積は一千四百五十方粁に過ぎず、凡そ五百二十五の島嶼より成りてポナペ及びクサイエの二島は高隆なるも其の他は低く珊瑚質なり、氣溫は昇降すること少なく涼風吹き來るを以て健康を害せず。

本諸島は一六八六年エスパニア領と成り一八九九年以來ドイツに屬せり、人口は四萬一千四百人ありて行政上東西の二部に分かる、ポナペ(Ponape)島、長二六粁 幅二三粁は東カロリネン政廳のある處にしてヤプ(Yap)島には西カロリネンの政廳あり。

マーシアル諸島

マーシアル(Marshall)諸島、四〇五方粁 一、五〇〇〇はカロリナ諸島の東に位し北西より南東に走りて八百粁の間に亘り二列を爲せるが珊瑚礁を繞らすか或は環礁なり、一八八五年以來ドイツに屬し駐在官はイアルイト(Jaluit)に居る。

ジルベルト諸島

ジルベルト(Gilbert)諸島はエリス(Ellice)諸島を合はせば四百六十五方粁の地積と三萬餘の人口とを有す、十六個の低き珊瑚礁より成り土壤極めて淺く辛うじて「ココヤシ」、「パンダニウス」等を產するのみ、イギリスに屬す。

●ポリネシア

ポリネシア(Polynesia)多島の意の區域は明確を缺き、廣義に於てはフィリッピン群島、パプア島、オーストラリア大陸以東にある大小の島嶼を含み、狹義に於てはサモア(或はピチー)以東の島嶼を指示す而してポリネシアを以てポリネシア人種の住域とすれば南は新ゼーランドより北はハワイに到るべきも、地質又は氣候に基づけば約三百萬方粁の海面上に於ける十餘群の島を包括するに過ぎずして珊瑚質の低島多きも火山を有するもの少なからず、海洋并に貿易風の影響を受けて炎熱に苦むことなし、住民は二萬六千餘方粁の地に對して約二十六萬人あり。

ポリネシア人はマライ亞種の一派にして體軀大く筋骨逞しく皮色は淡褐色若しくは帶黒黄色を呈するが、長頭又は亞長頭にして面貌醜からず、分かれて二群を爲し、亞長頭を有する西群はトンガ諸島、サモア諸島、等に居りて長頭的の東群はソシエテ、ハワイ、等の各群島并に新ゼーランドに住めりせられポリネシアの最要部たり、北回歸帶にありてアジアよりはアメリカ

ハワイ群島　ハワイ(Hawaii)群島は一にサンドキッチ(Sandwich)群島と稱に近く位し、北緯十九度乃至二十二度、西經百五十六度乃至百六十六度にあり、北西より南東の方向に六百四十粁間に配置せられ、十一の島嶼は面積一萬六千七百方粁を有し、南部のハワイ島を始めとし主要なるもの八個あり。

氣候　處に依りては珊瑚礁を繞らせるハワイ諸島は火山質にして起伏多きが、火山力はポリネシア中最も强烈にして火口、温泉少なからず、殊にマウナケア山は海拔四二一〇米突に近く實にオセアニアの最高山なり、此の外にも四千米突に達するものあり、河湖は記載するに足るものなく土地は頗る肥沃なりとす。

沿革　氣候は一般に健康に適して晴天多し、氣温は沿海の地に於て二十七八度なるが、ホノルルの雨量は百二糎以下なりとす、而して北東貿易風に面する地は背面の地に比して降雨多し。

ハワイ群島は一千五百五十五年エスパニア人ガエタナ之を發見してリヒアルヂニと命名せしが、一千七百七十八年に至りクック再び探檢してサンドキッチと命名せり、而してカメハメハ一世の建設せる王國の獨立は一千八百

四十三年フランス、イギリス、等の政府に承認せられ、カラカウア王の死するや(一八九一)女王リリウオカラニ繼ぎて一千八百九十三年に至りしが、此の年王位廢せられてハワイ共和國現はれ、一千八百九十八年アメリカ合衆國に合はせられ一千九百年ハワイ領土の成立を見たり。

住民

人口は一九〇一年に於て約十五萬四千人(男一〇、六三六九女四、七六三二)ありて一方粁九人の割合なり、種族に就きては土人(二、九八三四)、日本人(六、一一一二)、支那人(二、五七六七)、白人(二、八五三三)、雜種、等あり、殊に來住人は日本人を主とす、宗教はキリスト教最も盛にして學校は諸處に設立せられ一般にイギリス語を用ふ。

ハワイ土人

ハワイ土人即ちカナカの減少は顯著にしてクックが四十萬(一七七八年)と概算せしは過大に失すとするも、一千八百三十二年の十三萬餘人より六萬七千餘人(一八六〇)、五萬七千九百八十五人(一八七八)、三萬一千餘人(一八九六)を經て一千九百年に二萬三千人足らずと成りしは事實なり。

政治

政治上はアメリカ合衆國の一領土(Territory)なるが任期四年の知事ありて之を支配し大統領の任命に係れり、兵備上はカリフォルニアに屬し海軍の一根據地なり。

生業

産物の主要なるものは砂糖及び米なり、一千九百〇三年に於ける甘蔗栽培地は五十六ヶ處にありて被役者(四、二三〇〇)の大部は我が日本人(三、〇六四〇)なるが、殘餘は支那人(三八八〇)、ポルトガル人(二、六七〇)、其の他なり、而して砂糖の年産額は三十八萬七千噸とす、此の他に珈琲、バナナ」の栽培行はれ、皮革、生毛の產もあり、貿易の狀況は明瞭ならざるも一九〇五年六月に終れる年度に於て輸入は凡そ三百一萬ドル」にして輸出は五萬四千餘ドル」なるが、合衆國に對する物貨の輸出は三千六百六萬九千餘ドル」にして砂糖、其の大部(三五一一)を占め、輸入は凡そ一千百六十四萬ドル」なりき、交通に就きては船舶は三萬四千噸弱あり、航線は六ありてアメリカ、カナダ、オーストラリア、新ゼーランド、支那、日本と本島とを連ぬ、鐵道は二百六粁、電信線は約四百粁に過ぎざるが無線電信の使用あり。

オアフ島

オアフ(Oahu)島(一五五四方粁人五、八五〇四)は群島中の最要なるものにしてカイエイエワホ、カイキ兩海峽の間に位し不規則なる四邊形を呈せるが、島內山岳多く

ホノルル

モロカイ島

ハワイ島

西岸に接して一二三〇米突に達するものあり、肥沃なる土地に乏しからざれば住民稠密なり、ホノルル(Honolulu)(二一度一八分二〇秒北緯一五七度五一分五二秒西経一、九三〇五)ハワイ領土の首府にして島の南岸ヌワヌの平地に位し、市街は綠樹の間に隱見して數里に亘り、港は吃水六米突以下の船舶に接觸するを許すも港口に沙洲の横はるを缺點とす、交通上の要地にして我が横濱を距ること三千四百四十浬に當れり、市内には電氣鐵道通じ電燈の使用あり。

ワキキ(Wakiki)はホノルルの南(東にありてホノウリウリ(Honouliuli)は首都の北西に當れり。

モロカイ(Molokai)島(六六九方粁)はオアフ島の南東、ラナイ(Lanai)島(三八九方粁)の北に位して東西に狹長なり、本島は癩病患者の隔離所たり。

マウイ(Maui)島(一、九六八方粁二、五四一六人)はバイロロ海峽とアレヌイハハ海峽との間に位置し不規則なる瓢形を呈す、首邑ラハイナは北西岸にありてアウアウ海峽に枕み砂糖、葡萄を集散す。

ハワイイ島はサンドキッチ諸島中の最南、最大の島にして面積一萬一千方粁を以て群島の三分の二を占む、マウナケア(Mauna Kea)(白山)は四二〇八米突

の海抜を有しオセアニア洲の最高峯と稱せらるるが島の北東部に位せり、マウナロア(Mauna Loa)(火山)は四一六八米突の直立と五千方粁の基底とを有する大火山にして活動極めて盛なり、其の噴火口キラウエアは東面の臺地海抜一二三一米突の處にありて楕圓形を呈し十五粁の周圍、三百米突の深さを有せるが熔岩の活動は實に奇觀なり、首邑ヒロ(Hilo)は北東岸に位せるワイケア灣に瀕し甘蔗の栽培地にあり、西岸に於けるケアラケアクア(Kealakeakua)灣はクックが殺されし處なり。

カウアイ(Kauai)島はオアフの北西百五十粁にあり、臺地的たる本島はハワイ島に似たる所多きも火山に活動なく熔岩は既に肥沃の土に變じ了れり、本島の北西に當れる島嶼にして合衆國の勢力圏内に屬するものあり。

附記すウオンストン島はハワイ島の西方に位し、エーク(Wake)島と共に合衆國に屬せり、地積は合はせて四方粁あるのみ。

中央諸島　中央諸島中のファンニング(Fanning)諸島、六六八方粁はイギリスに屬し「クアノ」を産すオーストラリア、カナダ間の海底電線の中繼處を含む。

サモア諸島

サモア(Samoa)諸島即ち航海者諸島は南緯十三度半乃至十

世界地理提要　おせあにあ洲　ポリネシア

四度半、西經百六十八度乃至百七十三度に位し十四の島嶼より成れるが、地積は合せて二千七百八十七方粁に達し南ポリネシアの諸島中首位を占む。

本諸島はローズ島を除き其の他は火山質にして大抵珊瑚礁を繞らし小島は殊に肥沃なり、三月乃至十一月は氣候の佳良なる季節なるが、此の他にありては强風豪雨の屢〻來ることあり、濕氣は概して多し。

人口は三萬六千餘あり、漸次減少する土人はポリネシア派に屬し身長甚だ高し、勇氣ありて威嚴を備へざるに非ざるも遊惰の風あるを免れず、宗教はキリスト教を奉ずるも迷信少なからず。

本群島は一千八百九十九年の條約に依り東經百七十一度の線を以て群島を二分しサバイ、ウポル幷に屬島はドイツの有と成りツツイラ幷にマヌア諸島はアメリカ領に歸したり。

ドイツ領（二五八八方粁 三、二六一二人）はサバイ(Sawaii)島(一七〇二方粁)、ウポル、アポリマ島マノノ島幷に此の他の小嶼より成りサモア諸島の大部を占むるが行政上は知事の駐在するあり、一九〇四年の輸出は「コプラー」、其の他の四百萬「マル

フィヤー島の貴族

サモア島の姉女

ク」にして輸入は五百八十萬「マルク」に近し。

ウポル(Upolu)島は東西に長くして其の面積サバイに劣るも地味の肥沃なると住民の多きとは之に優りて蓊鬱たる森林を有せり、山岳は六百米突に達す、アピア(Apia)南緯一三度五〇分西經一七一度四四分は北岸にありて半圓形の一灣に瀕せるがドイツ領サモア政廳の所在地にして交通上の要區たり。

アメリカ領一九九方粁四〇〇人はツツイラ、マヌア諸島等より成れり。

ツツイラ(Tutuila)島、一四〇方粁三八〇〇人は山岳を以て蔽はるるを以て直立の著しからざるに拘らず外觀は頗る壯大なり、海岸は屈曲に乏しからざるも珊瑚礁は多からず、本島は群島中風色に富めりと稱せらるるが殊にパンゴパンゴ(Pago Pago)は有名なり、此の地は南岸の峽灣に瀕して南洋最良の一港を有し海軍の要地として知事駐在す。

トンガ諸島　トンガ(Tonga)諸島は一にフレンドリー諸島と云ふ、ピチの東六百四十粁に位して百五十の島嶼より成り一千三十七方粁の面積を有せり、各島は珊瑚礁を繞らし多くは平低なるも火山質のものも若干あ

り、地味は膏腴なるが氣候人身に適せずして雨多く颶風屢〻起る。

人口は一九〇二年に於て二萬八百三十二人あるがポリネシア派の土人大部を占む、土人は漸次減少するの傾向を呈するが、キリスト敎を奉せり、一八八九年に結ばれたるイギリス＝ドイツ協約はトンガ王國をしてイギリスの保護の下に立たしめたり、世襲貴族議員及び人民の公選議員より成る立法議會を備ふ、貿易は一九〇四年に於て「コプラー」、果物、等の凡そ百七十三萬「マルク」近くの輸入ありたり。

首邑 ヌクアロファ(Nukualofa)は平低なるトンガタブ島にありてトンガ諸島の主港を控え君主の居住する處なり。

クック諸島 クック(Cook)諸島即ちヘルベー諸島はサモアの南東一千百三十粁に位し九島より成るが、ニウエ(Niue)、パーマーストン(Palmerston)、スワロフ(Swarroll)、ラカハンガ(Rakahanga)、マニヒキ(Manihiki)、トンガレワ(Tonga rewa)、等を合はするも、地積四百九十二方粁、人口一萬二三千に過ぎずして行政上新ゼーランドに屬せり、駐在官は本諸島中のラロトンガ島にあり。

ソシエテ諸島 ソシエテ(Société)諸島は或はタヒチ諸島とも云ふ、南緯約十六度乃至十八度、西經凡そ百四十八度乃至百五十五度にありて主軸は北西より南東に亘ること凡そ三百二十粁にして面積一千六百五十方粁あり、總計十二島より成り、東群は風諸島又はタヒチ諸島と云ひ、西群は風下諸島と呼ばる、各島概ね火山質にして珊瑚礁を有す、氣温は二十一度乃至二十八度なるも變化少なくして健康を害せず。

本諸島は一千八百八十八年に至りてフランス共和國所領と成れり、今日に於てはツブアイ、ツアモツ、ガンビエー、ツブアイ、等より成れるフランス領オセアニア殖民地三、一四〇〇方粁の主要部を爲し知事の支配の下にあり。

タヒチ(Tahiti)島はソシエテ諸島中の最大島(一五五四方粁)なり、低き地峽に依りて連接せられたる二ヶの圓形の地より成りて熔岩質の噴出物より構成せらる、沃地は沿岸に存するのみなるが「ココヤシ」、「バナナ」、柑類、甘蔗、等の產あり、首邑パピート(Papeete)は約四千三百人の人口を有し良港を控ゆ。

ツブアイ諸島 ツブアイ(Tubuai)諸島、二八六方粁一七八三人はソシエテの南にあり、ツブアイ、ルルツ、リミタラ、等の島嶼より成り四ヶの主島は火山質にして珊瑚礁の圍繞

あり、氣候頗る人身に適せり。

ツアモツ諸島　ツアモツ(Tuamotu)諸島、七〇〇方粁、五三七三人即ちパウモツ諸島はソシエテの東にありて北西より南東に亘ること一千五六百方粁なるが凡そ八十箇の環礁より成り地勢平低なり、「ココヤシ」、眞珠を産す。

マルキーズ諸島　マルキーズ(Marquises)諸島、一二七四方粁、四三〇〇人は十一の主島より成るが海岸は殆ど珊瑚礁を繞らすことなく凹入少なからざるも風の爲に接觸の困難を感ずることあり、内部は火山質にして各島概ね九百米突に達す、氣候は一般に健康を害せず、駐在官は本諸島の最大島なるヌカヒワ島の南岸タイオハイ(Taiohai)に住す。

ラパヌイ島　ラパヌイ(Rapanui)島、はイギリス人のイースター島なるがタヒチ及び南アメリカを距ること凡そ三千六百粁の處にありて若干の消火山を有し溫泉に乏しく草木の生育は甚だしく盛ならず、本島はチレーに屬せり。

サライゴメス嶼　サライゴメス(Sala y Gomez)嶼、即ち東島はポリテシアの最東嶼、全オセアニア洲の極東地にして亦チレーに屬せり。

おせあにあ洲終

よーろっぱ洲

◉總論

名稱　ヨーロッパ(歐羅巴)はユーロープ、エウロップ、オイロパ、等とも呼ばる、此の名稱はフェニキアの一婦人の名に基づけりとし或は「エウルス」南東風より來れりとするあり又ペロポンネソス及びギリシア諸島に對して東の義なりとするもあれどもフェニキア人が與へしエレブ(Ereb)暗黒、日沒地の意よりスラキアの主部を稱せし名が大陸全部の稱に用ひられしものにして廣く起れりとするを以て適當とす。

位置　ヨーロッパ洲は舊大陸の北西部に於ける陸地なるが、一大洲を形成すと云ふよりは寧ろアジア洲の半島と稱すべし、蓋し本洲は西より東に趣くに從ひて漸次に增大し、スンダ諸島よりベーリング海峽に至るの地を以て東邊とする一大梯形の西邊と認むるを得ればなり、而して此のエウラジア(Eu

極地

(Russie)の地を分ちてアジア及ヨーロッパの二大洲と爲すは古來の習慣にして單に歴史的價値を有するに過ぎず、カフカズ、ウラルの二山脈は以て天然の區劃を爲すに足らず、バルカン、アナトリアの二半島は鏈鎖的に排列せらるる數多の島嶼に依りて連綴せられ、地中海も亦自然の境界たる資格を有せずしてアフリカの北岸とエスパニアとの差異はヨーロッパの南岸とバルト海の沿岸地との間に存する差より著しからず、要するに地中海は其の沿岸にアジア、アフリカ、ヨーロッパの三大洲を集め各洲をして其の特徴を失はしめんと務むるに似たり、且又西端の大西洋に於けるもイスランドとグリーンランドとはヨーロッパとアメリカとをして互に相關連せしめんとせり。

茲に本洲全部の四極點を示さんに

極南	クレテ(カンヂア)島	北緯	三四度五五分
極北	ノバヤゼムリア島	北緯	七六　五五
極東	カラ河の水源	東經	六六　二〇
極西	イスランド島	西經	二五　三〇

更に大陸部の四極を示せば

極南	タリファ岬	北緯	三六度〇〇分
極北	ノルドキン岬	北緯	七一　〇五
極東	カラ河の水源	東經	六六　二〇
極西	ロカ岬	西經	九　三〇

境域　本洲は北に北極洋、北西及び西に大西洋、南に地中海を控ゆるを以て三方は海に面せるが、南東はマニッチ沼河(カフカズ山脈を以てカスピ海を隔て、境とすることあり)を挟みてアジア洲に隣接せり。

廣袤

本洲は東西に長くして南西のロカ岬より北東のワイガチ海峽に達する最長徑は五千六百五十粁に亘れるが、クレテ島より北岬に至る南北は四千粁を有するに過ぎず。

積面

本洲は舊世界の三大洲中最も小なるものにしてオセアニア洲より稍大なるが、地積は凡そ一千萬方粁ありてアジア洲の四分の一に達せず、地球全陸地の約十四分の一に當れり而してヨーロッパの面積の百分中二十七は半島にして八弱は島嶼の占むる所なれば幹部は全洲の三分の二に過ぎず。

海岸線　海灣　海峽

海岸　本洲は五大洲中最も海岸の曲屈に富めるものなれば、海岸線の延長は比較的に大にして實に三萬二千粁に達せり、其の中五千八百粁は北極洋にありて一萬三千五百粁は大西洋幷に屬海に接し、一萬二千七百粁は地中海及び近海に屬せり、而して本洲に屬する海岸の狀態が各處同じからざるは勿論なれども地中海幷に大西洋の沿岸は岩礁多く絶壁に富みて甚しき屈曲を呈せるに反し、內海の沿岸は概ね平低にして河口の外には著しき彎曲を見ることなし。

海灣
- 北極洋
  - カラ海
  - チェスカイア灣
  - バルト海（ボスニア灣、フィンランド灣）
  - 白海（メゼン灣、ドヴィナ灣、カンダラーチ灣）
  - 北海（フォース灣、ゾイデルゼー灣）
- 大西洋
  - アイルランド海
  - ブリストル灣
  - ビスカヤ灣
  - カヂス灣
  - リオン灣
  - ジェノバ灣
  - チルレニア海
  - イオニア海（タラント灣、レバント灣）
  - アドリア海
  - エーゲ海
  - マルマラ海
  - 黑海
  - アゾフ海
- 地中海
- 北部
  - ワイガチ
- 北西部
  - スカグラク
  - カテガット
  - スンド
  - 大ベルト
  - 小ベルト

海峽
- 南部
  - ジブラルタル
  - メシナ
  - オトラント
- 南東部
  - ダルダネル
  - ボスポロス
  - ケルチ
- 北部
  - カニン
  - コラ
  - スカンヂナピア
  - ユトランド
  - ブルターニュ
- 半島
- 南部
  - イペリア
  - イタリア（カラブリア）
  - バルカン（モレア）
  - クリミア
- 北部
  - 氷岬
  - ノルド
  - スカゲン
  - ウラス
  - ランヅエンド
- 北西部
  - ファルステルボ
  - リンデスネス
- 地角
- 南部
  - ジブラルタル
  - テラウダ
  - バッセロ
  - スパルチベント
  - マタパン
- 地峽
- コリント
- ペレコップ
- 島嶼
- 北極洋
  - スピッツベルゲン群島
  - ノバヤゼムリア諸島
  - コルグイエフ島
  - ダンマルク諸島
  - ゴトランド島
  - エゼル島
  - ダゴ島
  - オーランド群島
  - テクセル島
  - ヘルゴランド島
  - ワイト島
  - ノルマンヂー諸島
  - アイスランド島
- 大西洋
  - ポルンホルム島
  - オランド島

ロフォデン諸島　フェル諸島　シェトランド諸島　オークニー諸島
ヘブライヅ諸島　イギリス諸島　大ブリテン島　アイルランド島
バレアル諸島　コルシカ島　サルデニア島　シチリア島
マルタ島　ダルマチア群島　イオニア諸島　セリゴ島
クレテ島　シクラデス諸島　スポラデス諸島

地中海

大陸部
半島部

地勢　本洲は地勢上分ちて二分と爲すを得べし、其の大陸部はバイヨンヌよりアストラハンに至る線とバイヨンヌよりカラ海に至る線との間にありて、其の半島部は本洲の南部と北西部とに存するが、本洲は既に其の地形を完成せしものの如し、蓋し火山は概ね其の活氣を失ひて僅にイスランド島、シチリア島等の一局部に餘力を顯すに過ぎず、而して海岸には多少の變動ありて水陸の配布に幾分かの差異を生ずるも大體の形狀を變更するに足らず、且又本洲はアフリカの臺地に於けるが如く又はアメリカの平地、沿海山脈に於けるが如く特殊の地貌に偏せざるにあり、本洲の高地は中央に彙集して周旁に傾斜せり、之を高地ヨーロッパとす、ツールーズ、ミンデン、ホクツァニを頂點とする三角の形狀を呈供し平均海拔は三百五十米突なるが、主要の山塊はアルプ山脈にしてフランス山彙、ドイツ山脈、カルパット山脈は之が從屬なり、又此山地の東、北、及び西に當り大平野の存するありてウラル山脈の外には微々たる丘陵又は臺地を見るに過ぎず而して南に當りては廣狹の一樣ならざる地峽に依りて數個の半島を分派せり、之を要するにヨーロッパ山岳の直立がアジアの山岳に及ばざるや遠く、アルプ山脈の最高處も四千八百十米突に過ぎず、而して本洲の大部分は北方の平野なるが之に內部の平低の地幷に多少の窪地を加ふればヨーロッパ洲の平均海拔は五大洲中の最低なるものにして三百米突を超過せざるべし。

山誌　土地の起伏より考ふるときは本洲の山岳を三群に分つを以て適當とす、其の一は南部山脈にして山岳重厚、高度顯著なるがアルプ山脈は之が盟主たり、其の二は中央山脈にしてカルパット、ピレネーの兩山脈の間に亘れるものなるが高度は著しからず、其の三は北部山脈にしてブリタニアの山脈幷にスカンヂナピアの山脈より成れり、而してイスランド島の山岳は

三群以外にありとす。

南部山脈
- アルプ山脈
  - ペルプー(四一〇三)　モンブラン(四八一〇)　ロザ(四六三八)
  - ペルニナ(四〇〇〇)　グロスグロックネル(三七九九)　オルトレル(三九〇五)
- カルパット山脈　タトラ(二六六三)　ピエトロスツズ(二三〇〇)
- イリリア山脈　ヂナリアアルプ
- バルカン山脈　リロダハ(二九三〇)　チェロダハ(三〇五〇)
- ピンド山脈　オリンピア(二九七三)
- クレテ山脈　イダ(二五〇〇)
- アペニン山脈　グランサッソ(二九二一)
- コルス山脈　モンテシント(二七一〇)
- サルヂニア山脈　ジェンナルジェンチ(一七九五)
- ピレネー山脈　マラデッタ(三四〇四)　ペルヅ(三三五二)
- カンタブリア山脈　ピコスデエウロッパ(二六七八)　シエラデグレドス(二五九二)
- フランス中央山脈　モンドール(一八八六)

三百四十八

中央山脈
- ジゥラ山脈　クレードヲネージゥ(一七〇〇)
- ベーメン山彙　シゥネーコップ(一六〇一)
- ボージゥ山脈　グランバロン(一四二六)
- 黒林山脈　ヘルドベルグ(一四九五)

北部山脈
- ヱールス山脈　スノードン(一〇八九)
- グランピア山脈　ベン子ピス(一三四三)
- スカンヂナビア山脈　イメスヒエルド(二五六〇)　ドブレヒエルド(二三〇〇)
- ウラル山脈　テルボスイス(一六五六)

火山　ベジゥバ(一二八三)　エトナ(三三一三)　ヘクラ(一五五七)

アルプ山脈

アルプ山脈。アルプは高處の意は最も有名なる山脈なり、其の境界はアペニン山脈と結合する處に於ける外は甚だ分明なるが、其の基底は約二十三萬方粁に達し總延長は一千一百粁に近く、幅はモンドビ、ジェノバ間の四十八粁を最小としペロナの子午線に於ける二百五十七粁を最大とす、本山脈を西、中央、東の三部に分ちて主要なる山岳を記せば左の如し。

（沿海アルプ　アルジェンテラ(三三九七)

西部
- コッチ(Cottian)アルプ　モンテビソ(三八四三)
- ドーフィネ(Dauphiné)アルプ　ベルブー(四一〇三)
- グレイ(Graian)アルプ　グランドパラヂソ(四六六一)

中部
- 中群
  - ペンニ(Pennine)アルプ
    - モンブラン(四八一〇)　マテルホルン(四四八二)
    - モンテロザ(四六三八)
  - ヘルベチア(Helvetian)アルプ　レオネ(三五六一)
  - レーチア(Raetian)アルプ　ゼプチメル(二三一一)
- 北群
  - ベルン(Bernese)アルプ
    - フィンステラルホルン(四二七五)
    - ユングフラウ(四一六七)
- 西群
  - オルトレル(Ortler)アルプ　オルトレル(三九〇五)
  - トリエンチン(Trientine)アルプ

東部
- ノーリックアルプ　カルニアアルプ　ジウリアアルプ

高峯奇岳に富める本山脈の地質に就きて一言せんに秀峰を戴ける中帶は主として片麻岩、雲母片岩、等の如きものより構成せられて其の外方に水成岩を見る而してミラノとコンスタンツ湖とを連ぬる線以東に於ては水成岩は内面(南)、外面に現はれ孰れも石灰岩、白雲岩の發達著しきが、該線の西に於ては内帶を有せず、蓋し本山脈の隆起以來、氷流水、其の他の作用に依りて非常なる損害ありしものの如し、雪線は北緯四十六度四十五分のモンブラン山に於て二八六〇－三一〇〇米突にし

エイゲル, メンク, ヤングフラウ (オベルランド) [スイス]

ピラチゥス山脈 [スイス]

オベルランド（Oberland）即ちベルンアルプは中央アルプの山脈最高支脈を爲せるが起伏著しく重厚なるを以て聞ゆ、最高峯はフイニステルアルホルン（Finisteraarhorn）（四二七三米突）にして其の他にエイゲル（Eiger）（三九七五）メンク（Mönch）（四一〇四）等あるも外觀の壯大にして氷河、雪崩、等に據りて一層の恐怖心を起さしむるはヤングフラウ（Jungfrau）（四一六七）にして一千八百七十一年を以て始めて登山者を見たり。

ピラチウス（Pilatus）山脈はウンテルワルデン（Unterwalden）區の山脈なり、峡谷にて分離せらるオベルハウプト（Cherhaupt）（二二二三米突）トムリスホルン（Tomlishorn）（二一三三）等若干の山峯を抱括せるが最も有名なるはエゼル（Esel）山（二一二三）にして眺望極めて佳なり、山麓に旅舍あり索綱鐵道に據りて頂上に達すべし。

て氷河の終端は海面上一一〇〇米突なるが、ベルンアルプに至れば雪線は二七五〇米突、氷河は九八〇米突の低きにあり、此の氷河雪層は無數の溪流を發し本山脈をして一大貯水地たらしむるが、縱橫に走行せる峡谷は天然の通路を開きて周圍に於ける住民をして容易に交通するを得せしむ、今通路の主要なるものを示せば西部にジェネブフ（一八五三）、スニー（二〇八三）、大ベルナルド（二一九二）あり、中部にシムブロン（二〇一二）、ゴタルド（二一一四）、セブチメルあり、中部と東部との兩アルプの境界たるブレンネルあり、而して車行し得べきものは總計二十八ありと云ふ。

水誌　本洲の河流を分類するは極めて困難なり、土地の起伏狀態に千差ありて河流の流域幷に分水線は共に明確を缺けり、河系が山脈に從屬せずして同一の水流が山間流、臺地流、平野流、等各種の特兆を呈供するが如きは實に他の大洲に於て稀なる所なり、ライン河がジュラ山脈をコンスタンツ湖とベゼルとの間幷にライン沿岸臺地とビンヂンとボーンとの間に於て通過橫斷し、ドナウ河が一方に於てはアルプとカルパットとの間、他方にありては後シルバニアとバルカンとの間に於て狹隘なる通路を求むるが如き是れなり又平野の河流に於けるも亦流域完全ならずしてボルガ、ドン、ドニエプルはウラル＝カルパット丘陵を迂回しビスチュラ、オーデル、エルベもウラル＝

カルパット幷にウラル＝バルトの丘陵の爲に迂路を求めざるべからず而して斯の如く河流が山脈を切斷するは交通上に便益を與ふること大なり。

水脈の航行に適するは平野流なり、今各河の可航部を河長の分數にて現はせばボルガ(16/17)、ドナウ(11/12)、セイヌ(4/5)、ライン(2/3)、ローヌ(2/3)、タホ(1/4)、チベル(1/10)を得るなり、而して河口の狀態は注水海の如何に依るものなるが潮汐少なき地中海、北海にありては三角洲を爲すもの多く、之に反して大西洋にありては概ね河灣を形成せり、要するに本洲は土地廣大ならざれば他の三大洲の如く大河、巨流を有するを得ざるも、地積の少なきに比すれば海灣多く山岳高く特に起伏の配付宜しきを得たれば河流は水量に乏しからずして航行に堪ゆるを以て人類の生存には極めて適合するものの如し、是れ本洲が夙に文化の佳境に入りて他の大洲に冠たるに至りたる故ならんか。

主要なる河流を長さの順に依りて列記すれば括弧内の數字は長さを表する粁數

ボルガ(三八〇〇)　ドナウ(二八五〇)　ライン(一三二〇)　エルベ(一一六〇)
ロワール(九八〇)　タホ(八九五)　ローヌ(八四〇)　セイヌ(七七六)

ポー(六七五)　ネバ(五八)

流域の廣さに依りて列記すれば括弧内の數字は廣さを表す方粁數

ボルガ(一四五、九〇〇〇)　ドナウ(八一、七〇〇〇)　トビナ(五三、九三〇〇)
ドニエプル(五二、四〇〇〇)　ドン(四三、〇三〇〇)　ペチョラ(三二、九五〇〇)
ネバ(三〇、一九〇〇)　キスツラ(一九、六五〇〇)　エルベ(一四、六九〇〇)
ロワール(一二、一〇〇〇)　オーデル(一一、八六〇〇)　ドイロ(一〇、〇〇〇〇)

又此等を水量の多さ順に依りて列記すれば括弧内の數字は一秒時に對する立方米突數

ドナウ(九一八〇)　ボルガ(四五〇〇)　ネバ(二九五四)　ライン(一七二八)
ローヌ(一七二〇)　ポー(一七一八)　エルベ(一三七一)　ロワール(九八五)
セイヌ(五〇七)　タホ(三三〇)

ボルガ(Volga)河。は土人の聖河、ロシア人のマツシウカ母河の義にして長さは三千八百粁に達し本洲第一の巨流なり、流域は約百四十六萬方粁を有するも平均水量は一秒時に四千五百立方米突に過ぎず、是れ水源が平野にあると流域が降雨の多からざる乾燥の地にあるに因るべし、ボルガ河は水源をワルダイの臺地に於ける海拔六五米突の處に發し、東流してカザンに趣き數多の沼湖の水を容れ「ボロギ」階段の意を超ゆる

ドナウ河

米突以上の水層が全三角洲を覆ふ。ここと少なしとせず、又春季の増水のごときは際には懸三しし

て反りは下流にはカスピ海に注水すれども此の大湖底のしく多量の泥沙を輸送し來りて湖底を淺

ルがの突端に加速度を與へ、ここに於て一轉行

下フを經カスピ海に入る五百米に過ぎず、千五百哩の間に分流

岸蝶るオカ(Oka)河、カザン而してニジ

(Kama)河、合流ニノヴゴロドに於て一千三百米突幅を有す

落地せり、水源はシワルツ山脈に發し、東流して一千八百粁を超え、流域は八十一二萬方粁あり、平均水量は九千立方米突以上に達し

て方向を南東に轉じ、レゲンスブルグ(黒林)山脈の麓に近づくや、ドイツ山脈の谷に沿ひ、ウルム、ペーメン平野に入り、カルパト山脈の東端と迂回し、ルーマニア國境に沿ひて、ブダペストに於て、ドラウ(Drau)、テイス(Theiss)、サーヴ(Sav.)

ドナウ河(Donau)河。上の水層が全三角洲を覆ふここと三十五回にして

以上流域一二ニア(Danube)河は水源より河口に至れば一千三百粁に

開き、ヴィーン附近にて泥沙を輸送し來りて湖底を淺くし、ウィーン、ブラチスラヴァ、ブダペスト、ベオグラードを過ぎ、ワラキア、ブルガリアの南境を流れて大小の

ルが突端に加速度を與へ、ここに於て一航行

向を南東に轉じ、レゲンスブルグ(黒林)山脈に發し、ドイツ山脈の谷に沿ひ、ウルム、ペーメン平野に入り、カルパト山脈の東端と迂回し、ルーマニア國境に沿ひて、ブダペストに於て、ドラウ(Drau)、テイス(Theiss)、サーヴ(Sav.)

落地せり、水源はシワルツ山脈に發し、東流して一千八百粁を超え、流域は八十一二萬方粁あり、平均水量は九千立方米突以上に達し

て方向を南東に轉じ、レゲンスブルグ(黒林)山脈に發し、ドイツ山脈の谷に沿ひ、ウルム、ペーメン平野に入り、カルパト山脈の東端と迂回し、ルーマニア國境に沿ひて、ブダペストに於て、ドラウ(Drau)、テイス(Theiss)、サーヴ(Sav.)

過ぎ、ワラキア、ブルガリアの南境を流れて大小の

ドナウ河

ライン河

ライン河(Rhein)河は水源を「アルプ」山脈の中心ゼンゴタルドー山塊の下流にはカスピ海に注ぐ多くの一に依りて山地を流下し西流して「コンスタンツ」湖地

爲し、シワルツイツの臺地を横ぎり、狹長なる峽谷の一に依りて山地を流下し西流して「コンスタンツ」湖地

ルー河を容れバーゼルに於て方向を北に轉じボーデンと「ウルム」の間にて

て河は平野を潤し、マインに於て方向を北に轉じボーデンと「ウルム」の間にて

流野路を求めゆるやかに以て玉ひ折れ間にて

ギリシア(四〇)、エステルライヒハンガルン(一二)な

船はしし一千噸以上に達せしは

て分流の附近にの小臺地に注ひて北行り、

ライン河

ラン(Lahn)、モーゼル(Mosel)、ルール(Ruhr)は共に西に趨くも、ファールは北行にマースと水を交えて流れレンツはエ

流は分かれて數派と成るに、其のイセル(Ijssel)は北行に傾斜少なく水勢は甚だ緩慢にして流に入り、其のレンツ

ヒト(Vecht)と古ラインとを分派せり、本流の長さは一千三百二十粁にして流域の廣さは十六萬粁なるが平均の水量は一秒時に一千七百二十八立方米突なり。

湖沼

湖沼は主としてスカンヂナビア、フィンランド、北ドイツ、アルプの四地方に存するが、一般に其の面積小にして二萬方粁に達するものなし而して左表に記入せるものは皆淡水性にして排水口を有せり。

湖沼	面積	長	幅	高度	水深
ラドガ	一、八一二九方粁	二〇八粁	一二六粁	五米	二二三米
オネガ	九五五〇	二三五	八〇	三五	三〇五
エンネル	六二三八	一五〇	八〇	一三四	九一
パイプス	三六〇〇	八〇	四八	三〇	一五
エッテルン	一九六〇	一一三	二一	八八	一一三

氣候

氣候　本洲の年同温線は略ぼ十九度より零下十度を示し氣温が純然たる温和的特兆を有するには種々の原因あるべしと雖も第一は緯度に依るべし、蓋し極南の地に於けるも熱帶に達せずして北の方も北極圏を超ゆるの地少なし、第二は大西洋と地中海との間にありて南西幷に西の温風の通路に當れるにあり、第三は海岸の屈曲多きが爲め内部も亦海風の温和的作用を蒙るにあり、是れアジアに比してヨーロッパに於ける同温線が北上せる所以なり、而して氣温の昇降の激しきは海濱を距るに從ひて其の度を高むるを以て、北進するよりは寧ろ東漸してウンガルン又はロシアに大陸的氣候を觀るなり、第四は土地の起伏が降雨地方を劃するに足らずして乾燥に失する地方を生ずることなく又高地と低地との配付が緯度の高低と相俟ちて氣温の平均を保つにあり、然れども種々の情態より考ふれば縱令境界線は明確ならざるも本洲を三大帶に區分するを得べし、其の第一は西部にして夏冬共に温和なり、第二は地中海沿岸の地にして夏季冬季孰れも氣温高し而して以上の二帶は孰れも海候に屬せり、第三は東部にして夏暑く冬寒き陸候の地なり、此等の差異の存するは夏冬兩季の同温線の配置に依りて自ら明なるが、夏季にありては氣温は南より北に趣くに從ひて降下するも冬季にありては西より東に趣くに從ひて低下せり。

降雨に就きて本洲は熱帶地方の如き豪雨を見ざるも亦乾燥に失する沙漠の地の存するあるなし而して降雨の量幷に雨天の日數は西の方大西洋より東の方アジアに進むに從ひて減少せり。

又季節に依りて區分すれば第一に西部は秋季に雨多く、第二に中央幷に東部は夏季に多く、第三に南部の地中海沿岸地方は夏季にありては乾燥を極むるも春季又は冬季に於て降雨を見る。

風に就きては貿易風の外に若干の地方風あり、其の「ミストラル」(Mistral)は地中海沿岸に吹く北西の寒風にしてエブロ河口よりジェノバ灣に至る間、殊にマルセイユ地方に起り風力逞し、該地方にては平均毎年百七十六日之を感ず、其の「ボーラ」(Bora)はトリエストよりバルカン半島の西岸アルバニアに至る地に起る寒燥風にして一般に晴天に伴はるること前者に似たるも多少彼より不規則なり、其の「シロッコ」(Sirocco)は主としてマルタ、シチリアに流行し時にローマ又はブロバンスにも及ぶ南の熱風にして其の吹き來るや夜間と雖も三十五度の溫度に昇り空は鉛色の濛氣を以て充たされ植物に大なる損害を與ふ而して春季に普通なるも必ずしも時を定めず概ね三日にして止むと云ふ、其の「ソラノ」(Solano)はイベリア半島に於ける東風にして多少の濕氣を帶べり、其の「フェーン」(Föhn)は南風にしてアルプの北面に於て北に開ける谷殊にロイス地方に起る、主として冬春の間に吹く溫風にして大なる雪解かしの名あるが頗る乾燥なり。

天産　植物は氣溫と降雨とに對し緊密なる關係を有するを以て第一に地中海沿岸地の一帶は全然他の部に異なりて特殊の狀態を有せり、其の北境は沿岸の山脈なれば地帶の廣狹は勿論一樣ならざるが光熱共に多くして濕氣少なく、森林の存するなきも、乾燥に堪ゆる厚き葉の常綠灌木又は小樹が所謂「マキ」を形成するを見、オリーブ、柑類、椰樹等は容易に繁殖せり、而して地味は概ね礫确にして豐腴ならざるも亦葡萄、桑樹、蜀黍、米等の產あり、此の地方の植物とアフリカの北岸に於けるものとは極めて相類似しペルペリア產の四百三十四種中、ヨーロッパに見る能はざるものは僅に三十四種に過ぎずと云ふ、第二に西部、中部の一帶は尙ほ溫熱を受くること多く殊に濕潤に

して土地肥え最、穀類の耕種に適せるが又葡萄の栽培を見ざるに非ず、第三に北部幷に東部の一帶は冬季の寒氣凛烈にして夏季は甚だ短く、雨量は西方に多くして東方に少なくアジア的氣候を有する森林、草原の地なり、要するにグリゼバッハに從へば本洲の植物帶は三區に分かるるもアジアの半島たるの性質を失はざること動物に於けるが如し。

動物

動物は其の分布上舊北區に屬して二亞帶を形成するも、猛獸奇獸の存すること少なく狼、熊、野猫、河狸、野牛、麋、馴鹿、「シャモア」(Rupicapra)、野羊「マルモット」、等ありて此等の中には生產地を限れるものあり、而して鳥類、爬蟲、等に至りては殊に列擧すべきものなし。

鑛物

鑛物に就きては鐵を第一とす、銅之に次ぎ金銀は其の量多からず、白金はウラル山脈に產し錫、鉛、水銀、亞鉛、等はイギリス、エスパニア、ドイツに產す、又石炭はイギリス、ベルジック、ドイツ、フランス、等の各地に產するが此の他に琥珀、硫黃、泥炭、等あり。

人口

住民　人口は三億九千萬人以上ありて一方粁に就き平均三十九人の割合なり、されば之をアジア洲の十八人、アフリカ洲の六人、等に較ぶれば本洲の人口は稠密にして五大洲中の最たるものなり、且又人口の配付は稍、均一にして人跡の絕えたる地少なく又非常の群集を觀るの土も多からず而して人口の最、稠密なるは西部にして中部、南部之に次ぎ東部は稀薄にして北部には一方粁に付き一人に達せざる處もありて存す。

種類

本洲の住民は白色人種と黃色人種との二部に大別するを得るが所屬の不分明なるもの多少あり、而して大多數は甲種に屬してインド＝ヨーロッパ語を使用せり。

- ゲルマニア群(一、三一四〇)
  - ドイツ(六九九〇)　オランダ(九九〇)
  - イギリス(四〇七〇)　スカンヂナビア(一〇九〇)
- ローマ群(一、〇八六〇)
  - フランス(四〇一〇)　イタリア(三四四〇)
  - エスパニア ポルトガル(二三七〇)　ロマーニア(一〇四〇)
- スラブ群(一、二二六〇)
  - ロシア(八四七〇)　ポルスカ(一六四〇)
  - チェヒ エンド(九六〇)　セルビア(七七〇)　ブルガリア(四二〇)

ケルト(二六〇)　レット=リトアニア(四六〇)　ギリシア(三六〇)

モンゴル群(一九五〇){マジャール(八七〇)　フィン(二一三〇)　オスマン(一八〇)　其他(六七〇)}

アルバニア(一五〇)　バスク(六〇)　ツィゴイン(六〇)　アルメニア(四〇)

ツートン群即ちゲルマニア群はドイツ、アングロサクソン、スカンヂナブ、等の諸族を含み、丈高く虹彩青く顔は櫻色を呈せり、居住地は大ブリタニア群島、スカンヂナビア地方、ドイツ平原、オランダ、ベルジック、フランスの北東部、等なり。

ラテン群(ローマ群)はギリシア(ヘーレン)群と共にヨーロッパの南部及び西部并に地中海の島嶼に住す、

スラブ群はヨーロッパの東部に住む、言語、歷史、等に依りて數多の種族に分かるるも、外觀は概ね方面にして髭少なく(鼻下を除く)他種の混淆の多からざるを證す。

ケルト群はヨーロッパの現在住民中の最舊なるものに屬し(來住期を石器時代とす)キムリック、ガエリックの二部に分かれ北西ヨーロッパに散居せり、毛髪は帶赤栗色又は鼠色なるが、皮膚は光澤なく身長中位にあり。

信教。信教に差異あるは種族の如何に依れるが如き感あり、ラテン派文化の人民は概してキリスト舊教を信奉し、新教徒の多くはゲルマニア群に屬し、スラブ、フィン、ギリシア人、等はギリシア教を奉じ、トルコ人、ダタル人、等はマホメット教に歸依し、ユダヤ教徒は各地に散在せり而してキリスト教徒は千分中の九百六十五を占めて最も優勢なりとす。

キリスト教徒(三、八一九〇){ローマ公教(一、六六七〇)　新教(一、〇〇二〇)　ギリシア正教(九九一〇)　其他(一五九〇)}

マホメット教徒(六〇〇)　ユダヤ教徒(八五〇)　異教徒(一〇)

分國　本洲に於ける列國はロシアを除き、其の他は六十萬方粁を出づるもの殆ど無く概して地積小なり、然れども宇内に於て強國と稱せらるるものの多くは本洲にありてイギリス、ロシア、フランス、トルコ、ドイツ、ポルトガル、オランダ、イタリア、エスパニア、等は他洲に於て各、殖民地を有せり。

部	國土	面積	人口	方粁ニ付	首府
東	ヨーロッパロシア	五四一、五〇四九	一、〇五六六、一四一五	一九	
	ロシア本州	四八七、六五三三	九三四四、二八六四	一九	ペテルブルグ
	ボルスカ	一三、七三二七	九四〇、三二五三	七三	ワルシアワ

世界地理提要　よーろつぱ洲

國名	首都	人口	面積	政體
英吉利國	ろんどん	四五、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	立憲君主國
佛蘭西國	ぱりす	三八、〇〇〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	共和國
伊太利國	ろーま	二八、〇〇〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	立憲君主國
西班牙國	まどりど	一八、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	立憲君主國
葡萄牙國	りすぼん	四、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	立憲君主國
和蘭國	あむすてるだむ	四、五〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
白耳義國	ぶりゆつせる	六、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
瑞西國	べるん	三、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇	聯合共和國
墨太哥國	めきしこ	一五、〇〇〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	共和國
合衆國	わしんとん	七五、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	共和國
布哇國	ほのるる	一五〇、〇〇〇	六、〇〇〇	立憲君主國
秘露國	りま	三、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	共和國
智利國	さんちあご	二、五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	共和國
亞爾然丁國	ぶえのすあいれす	四、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	共和國
巴西國	りおでじやねいろ	一四、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	共和國
土耳其國	こんすたんちのぷる	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	專制君主國
波斯國	てへらん	九、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	專制君主國
暹羅國	ばんこく	六、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	專制君主國
支那國	ぺきん	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	專制君主國
日本國	とうきよう	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	立憲君主國

（註）

ヨーロツパ（佐幣地）

ぽつとがりあ國

ぐりすあ國

ろしあ國

ぷろしや國

おすとりあ國

ほんがりい國

ぜるまにあ國

ぺるしや國

あふがにすたん國

ぶらじる國

ちりい國

ぺるう國

ぼりびあ國

べねずえら國

ころんびあ國

ぱなま國

きうば國

ぢまいか國

ぽるとりこ國

ほんじゆらす國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

世界地理提要　よーろつぱ洲

國名	首都	人口	面積	政體
英吉利國	ろんどん	四五、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	立憲君主國
佛蘭西國	ぱりす	三八、〇〇〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	共和國
伊太利國	ろーま	二八、〇〇〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	立憲君主國
西班牙國	まどりど	一八、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	立憲君主國
葡萄牙國	りすぼん	四、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	立憲君主國
和蘭國	あむすてるだむ	四、五〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
白耳義國	ぶりゆつせる	六、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
瑞西國	べるん	三、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇	聯合共和國
墨太哥國	めきしこ	一五、〇〇〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	共和國
合衆國	わしんとん	七五、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	共和國
布哇國	ほのるる	一五〇、〇〇〇	六、〇〇〇	立憲君主國
秘露國	りま	三、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	共和國
智利國	さんちあご	二、五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	共和國
亞爾然丁國	ぶえのすあいれす	四、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	共和國
巴西國	りおでじやねいろ	一四、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	共和國
土耳其國	こんすたんちのぷる	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	專制君主國
波斯國	てへらん	九、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	專制君主國
暹羅國	ばんこく	六、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	專制君主國
支那國	ぺきん	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	專制君主國
日本國	とうきよう	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	立憲君主國

（註）

ヨーロツパ（佐幣地）

ぽつとがりあ國

ぐりすあ國

ろしあ國

ぷろしや國

おすとりあ國

ほんがりい國

ぜるまにあ國

ぺるしや國

あふがにすたん國

ぶらじる國

ちりい國

ぺるう國

ぼりびあ國

べねずえら國

ころんびあ國

ぱなま國

きうば國

ぢまいか國

ぽるとりこ國

ほんじゆらす國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

世界地理提要　よーろつぱ洲

國名	首都	人口	面積	政體
英吉利國	ろんどん	四五、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	立憲君主國
佛蘭西國	ぱりす	三八、〇〇〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	共和國
伊太利國	ろーま	二八、〇〇〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	立憲君主國
西班牙國	まどりど	一八、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	立憲君主國
葡萄牙國	りすぼん	四、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	立憲君主國
和蘭國	あむすてるだむ	四、五〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
白耳義國	ぶりゆつせる	六、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
瑞西國	べるん	三、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇	聯合共和國
墨太哥國	めきしこ	一五、〇〇〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	共和國
合衆國	わしんとん	七五、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	共和國
布哇國	ほのるる	一五〇、〇〇〇	六、〇〇〇	立憲君主國
秘露國	りま	三、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	共和國
智利國	さんちあご	二、五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	共和國
亞爾然丁國	ぶえのすあいれす	四、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	共和國
巴西國	りおでじやねいろ	一四、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	共和國
土耳其國	こんすたんちのぷる	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	專制君主國
波斯國	てへらん	九、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	專制君主國
暹羅國	ばんこく	六、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	專制君主國
支那國	ぺきん	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	專制君主國
日本國	とうきよう	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	立憲君主國

（註）

ヨーロツパ（佐幣地）

ぽつとがりあ國

ぐりすあ國

ろしあ國

ぷろしや國

おすとりあ國

ほんがりい國

ぜるまにあ國

ぺるしや國

あふがにすたん國

ぶらじる國

ちりい國

ぺるう國

ぼりびあ國

べねずえら國

ころんびあ國

ぱなま國

きうば國

ぢまいか國

ぽるとりこ國

ほんじゆらす國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

世界地理提要　よーろつぱ洲

國名	首都	人口	面積	政體
英吉利國	ろんどん	四五、〇〇〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	立憲君主國
佛蘭西國	ぱりす	三八、〇〇〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	共和國
伊太利國	ろーま	二八、〇〇〇、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	立憲君主國
西班牙國	まどりど	一八、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	立憲君主國
葡萄牙國	りすぼん	四、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	立憲君主國
和蘭國	あむすてるだむ	四、五〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
白耳義國	ぶりゆつせる	六、〇〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	立憲君主國
瑞西國	べるん	三、〇〇〇、〇〇〇	四一、〇〇〇	聯合共和國
墨太哥國	めきしこ	一五、〇〇〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	共和國
合衆國	わしんとん	七五、〇〇〇、〇〇〇	三、六〇〇、〇〇〇	共和國
布哇國	ほのるる	一五〇、〇〇〇	六、〇〇〇	立憲君主國
秘露國	りま	三、〇〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	共和國
智利國	さんちあご	二、五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	共和國
亞爾然丁國	ぶえのすあいれす	四、〇〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	共和國
巴西國	りおでじやねいろ	一四、〇〇〇、〇〇〇	三、二〇〇、〇〇〇	共和國
土耳其國	こんすたんちのぷる	二〇、〇〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	專制君主國
波斯國	てへらん	九、〇〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	專制君主國
暹羅國	ばんこく	六、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	專制君主國
支那國	ぺきん	四〇〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	專制君主國
日本國	とうきよう	四〇、〇〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	立憲君主國

（註）

ヨーロツパ（佐幣地）

ぽつとがりあ國

ぐりすあ國

ろしあ國

ぷろしや國

おすとりあ國

ほんがりい國

ぜるまにあ國

ぺるしや國

あふがにすたん國

ぶらじる國

ちりい國

ぺるう國

ぼりびあ國

べねずえら國

ころんびあ國

ぱなま國

きうば國

ぢまいか國

ぽるとりこ國

ほんじゆらす國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

ぐあてまら國

こすたりか國

にからぐあ國

ほんじゆらす國

えるさるばどる國

モンテネグロ王國	九〇、八〇	二七	チェチニエ
スルビヤ王國	四、八三〇三	五六	ベルグラド
ロマーニア王國	一三、一三五三	四五	ブカレスト
合計	九八一、〇八八二	四〇、二三三、一五八二	四〇

東部

◉ロシア

位置 ロシヤ(Rossija)即ちロシア(Russia)はヨーロッパ洲の東半部とアジア洲の北半部より成る帝國にして、東西は西經凡そ百七十度の東岬より東經凡そ十七度三十分のビヌドリー(ボーフン)の西端に至りて經度百七十二度四十二分に亘り、極北のチェリウスキン岬は北極より十二度の處にありて極南の地は後カスピ州のヘリウドにして赤道より三十五度にあり。

境域 境界の三分の二は海洋的にして殘の三分の一は陸地的なり、陸地的境界に就きて四千五百粁に西ヨーロッパに接し、八千粁はアジア州の有民地に隣し、七千五百粁は山脈又は沙漠に據れり、實にロシア國は約二千二百萬方粁の地積に對して有用境界は僅に二萬粁に過ぎず、是れ此の國が地中海、太平洋、等に於て海岸線の發達を謀るに汲々たる所以ならんか。

地積 全ロシア國の面積は約二千二百五十萬方粁なるが、其の凡そ五百四十三萬方粁はヨーロッパ洲にありて其の他はアジア洲にあり、此の地積はアジア洲の大半に當りてアフリカ洲の三分の二以上に當り、地球表面の二十二分の一、ヨーロッパ洲又は清國の二倍以上、我が日本國の五十倍に當れりされば世界の列國中にて地積上、此の帝國を凌駕するは一のイギリス帝國あるのみ而して海上王の屬地は各處に散在するも大北帝國の領土は連綿として間斷なき一大土塊を爲せり。

海岸 北極洋に瀕する海岸の地は常に氷塊、流氷の爲に閉塞せられ、ベーリング海、オホーツク海、日本海にありては結氷の害稍、少なく、交通の便を缺くは毎年數ヶ月のみなるも人口群集幷に百貨生產の中心を距ること遠きに過

ぐるが如し、白海は四千四百五十粁の海岸を有するも航行に適するは僅に三ヶ月なり、バルト海の沿岸の地は延長六千七百五十粁に達するも航行上困難多く毎年五ヶ月間は結氷の爲に閉塞せらる而してカスピ海は陸地に挾まれて外海に通ずることなし、されば始終航行に堪ゆる海濱は黒海(二〇一五アゾフ海(一四七〇)なり而して黒海は港灣に乏しく、アゾフ海は水底淺くして便ならず、且又此の二海は共に若干の海峽を經るに非ざれば外洋に通ずるを得ざるなり。

海灣
- 北極洋(カラ海 ペチォラ灣 チェスカヤ灣 白海(メゼン灣、ドヰナ灣、オネガ灣、カンタラーチ灣)
- バルト海(ボスニア灣 フィンランド灣 リガ灣
- 地中海(黒海(オデッサ灣 死海) アゾフ海

海峽
- カラ ユゴル ケルチ

半島
- カニン コラ クリミア

地角
- ロスキースヲロト スウイエトイノス カニンノス
- ウフトナヲロク ダメスネス
- タルハンクット ヘルソン サリチ

地峽
- ペレコプ

島嶼
- ワイガチ ノワヤゼムリア スピッツベルゲン コルグイエフ
- ソロエスキー アランド ダゲ エセル

ロルダイ臺地

ボルガ臺地

地勢 土地の廣大なるに拘らず起伏は極めて僅少なり、平坦にして砥の如くなるか又は皺波の狀を呈するに止まりて、平均の海抜百六十七米突はヨーロッパ洲の平均海抜に比すれば甚だ低しとす、實に山岳と稱すべきは南のクリミア山脈と東のウラル山脈にして西部若しくは内部に於ける起伏は僅に丘陵を爲すのみ、而して内部の高地は北より南に走れる二つの臺地より成りて中間には同じ方向にして狹長なる低地あり、甲者は中央臺地と稱すべきものにして北の方ワルダイ臺地に起り南の方ドネツに達するが、長さは一千四百粁ありて海抜はワルダイ臺地のカメスチックに於て三一五米突と成り、ドネツの南に於ては三七五米突と成る、本臺地は一七〇米突以下に降ることなくドニエプルとドン河との分水線を爲せり、乙者はボルガ臺地と

稱す、北の方ニジニノブゴロッド及カザンに起り、南の方ツァリチン幷に西タンボフに達し、南北の長さ一千百七十五粁を有す而して海抜はゼグリの三四三米突、フヘリンスクの三八四米突、サラトフの四〇五米突なり。

ウラル山脈

ウラル山脈はロシア人のヒムノイポイアス(Zemnoi Poias)の地帶にしてカラ河の水源よりオレンブルかまでの十八度、二千四百粁に亘れるが、二行又は三行の山脈なるも漸次低下して丘陵たるが如き觀あり、氷河の作用に依れる北の低落は容易に通路を與へたるのみならず各種の鑛産を供す、南ウラルはズラトウスト(Zlatoust)の緯南に起りて數派に分かるるが、最西派は最も著しくしてイレメル(Iremel)(一五九五)、ヤマンタウ(Jaman-Tau)(一六四二)を有す、又パイホイ山脈はウラル山脈の一部たるが如き觀あるも精査の結果別個の山脈たるを明にせり。

クリミア山脈はアイア岬より起り半島の南東岸に沿ひて走りバブサンヤイラ(一五五三)に終る、長さは百八十粁に達し幅狹からず、殊に山麓の平野は氣候温和にしてクリミアの花園と稱せらるる。

河流

河流にはヨーロッパの最長流と云はるるボルガ河即ち大河を始めとし北ロシアにネバー、南ロシアにドニエプル、ドンの如き著しき水脈の存するあるが水源の多くは海抜の著しからざる丘陵にありて所謂平野流なり、而して營流力は春季の融雪、夏秋の降雨、流勢の緩慢流域の廣大、水系の發達等に因るを以て定期の增水は無害の洪水を來たすに止まり、冬季に結氷するの缺點あるも殊に可航性を備ふる點は顯著なりとす。

北極洋斜面	ペチョラ	メゼン	ドビナ	オネガ	キグ　ケム
バルト海斜面	トルネア	ネバー	チュナ	ニーメン	ビスチュラ
黒海＝アゾフ海斜面	ドナウ	ドニエステル	ブグ	ドニエプル	ドン
カスピ海斜面	ボルガ	ウラル			

ネバー(Neva)河はヨーロッパ洲のセントローレンスなり、ラドガ湖に發して水清く底深く二百乃至四百米突の幅と平均水量二千九百五十五立方米突とを以てペテルブルクとフインランド灣との間に水路を開き冬季の外は大船巨舶をして自由に航通するを得しむるが、ラドガ湖は運河に依りてボルガ河に連なれり。

ドニエペル

ドニエペル(Dnieper)河は或はドニエプル(Dniepr)と呼ばる、水源を中央の森林地に發しプリペット、デスナの水を容れ五百乃至一千米突の河幅を以て有名のキエフを

ドン

ラドガ

過ぎイエカテリノスラフ附近に於て十三ヶ處の「ハログス」即ち急流を爲して四十三米突の地を流下し四百米突の狹谷を過ぎて再び緩流と成り、其のリマン即ち河口に於て綠樹蓊鬱たる數多の小嶼を潤したる後オデッサ灣に注げり、長さは二千百五十粁ありて五十萬方粁以上の流域を有するも平均水量は二千八百立方米突を超ゆることなし、而してドロゴブシ以下は航行し得べきがキエフに於ては一月より三月末まで凍結しスモレンスクに於ては十一月より四月に至ると云ふ。

ドン(Don)河は中央ロシアのイバン湖に發してタガンログ灣に注ぐ、長さ一千八百粁に餘り流域は四十萬方粁を下らざるも平均水量は九百立方米突に過ぎず、支流はフォロネイ、ドネツ、ホーペル、メドフィヂエツァを主なるものとするがフォロネイ以下は舟運の便あり河中魚族多し。

湖沼 ロシアは沼湖に富める土地にして殊に北西の一帶を以て然りとす而して其の著しきものはラドガ、オネガの外にイマンドラ(Imandra)、サイマ(Saima)、イルメン(Ilmen)、パイプス(Peipus)、ビエロ(Bjelo)等あり。

ラドガ(Ladoga)湖はヨーロッパの最大湖なり、長さは約二百粁にして幅は百二十餘粁あるが一萬八千一百三十方粁の面を蔽ふ、北西岸は絶壁を爲すも其の他は低くしてオネガ、イルメン、サイマ、等の諸湖の水を受くるが、平均の水深は九十米突に過ぎずと雖もバラアム、コネベツ二島の横たはれる北西部に於ては二二三米突に達する

オネガ

氣溫

處あり、淺洲暗礁は航行に危險を與へ氷結せざる時(三―十月)は暴風の爲に苦むと云ふ、ラドガ運河(一一三粁)はボルガ河、バルト海間に大なる便を與ふ。

オネガ(Onega)湖はラドガに次げる面積を有し九千五百五十方粁あり、長さは二百三十五粁にして幅は八十粁を示し北岸には深き凹入ありて島嶼散在するが其の他の部分に於ては低平なり、附近の水を集めて深さは約三百米突に達しスビル河と成りてラドガ湖に排水す、本湖の氷結期は五ヶ月なり。

氣候 ロシアの國土は大陸的にして北部に於ける海洋は寒冷を極めて常に凍結するを見る而して土地は廣漠たる平原より成りて極地より來る寒風を遮ぎる高山なきも南來の溫風を遏むるに足るの秀峯に乏しからず、從て此の地の氣溫は同緯度に於ける他の地方に比すれば遙に低度にありて且急激の變化あり、要するに南より北に趣きて北極洋に接すると西より東に行きてシベリアに近づくとに依りて氣溫は降下するものの如し、されば南部一帶の地にありては短期の暑熱に依りて生熟すべきアルジェリア的蔬菜の耕種を見るも、其の東部にありては冬季の嚴寒を恐るる果樹の全く缺乏せるを見るべし。

雨量は西より東に趨くに從ひて遞下し殊に夏季の乾燥に失するは土地の肥力をして甚しく殺減せしむるが如し、又沼湖、河流が降雨に依りて得る所の水量は蒸發の爲に失ふものを償ふに足らざれば水脈は漸く減縮して遂に涸失せんとするの兆あり、往時には航通の便を供せし河流も現時は一地方に灌漑の利を與ふるに過ぎざるなり、ボルガ河畔の地の衰微したる、ウラル下流の十九派が減じて五派と成りたるは共に水量の減少に歸せざるを得ず而して斯の如き事實の現出せるに就きては森林の濫伐蓋し主因たるべしと云ふ。

植物帶　氣候に關しては土地の廣大なるに拘らず、各處の間に非常なる變差を認めざるも、植物帶には顯著なる分界の存するあり、蓋し四季の長短、降雨の配布、土壤の性質、等に因るならん、されば北より南に越かば「ツンドラ」(Tundras)、森林、無樹、南方の四帶の現出するを見るべし。

「ツンドラ」帶は一に凍土帶と云ふ、北方にありて概ね北極圈以北の地を占め、森林帶の北境を以て南を限れり、沼地多く樹木なく短期の夏の外は終始結氷して僅に苔蘚地衣の生ずるを觀るのみ。

森林帶は北緯六十五六度に起り南の方モスクワを經え、南西にありてはキエフ附近に達するが南界は南西より北東に走りウラル山脈に近づくに從ひて北向と成りてシベリアに入る、樹木は最初河岸に現はれ漸く森林を爲すに至るが樹種は南下するに從ひて新陳代謝するの傾向を示すあり、「カラマツ」、「オホマツ」、「カバ」に次ぐは「ハンノキ」、「マルハヤナギ」にして南方には「シナノキ」、「カヘデ」、「ニレ」を觀「ロブナラ」(Quercus Robur)も少なからざるが土地の面積の百分の三〇乃至七五を蔽ひて建築材、燃料、工藝用、等に供すべきものを與ふ、木帶にありては寒季は一年の半を占め降雪は約二百日に亘り河流は四五月頃に至るまで結氷す、然れども夏季は高溫なれば大麥、燕麥、亞麻、等を栽培するを得るなり。

無樹帶は森林地の南又は南西に起り樹木は漸く稀少と成りて遂に其の跡を斷つに至る而して本帶を分かちて黑土、可耕「ステップ」、不毛「ステップ」の三地方と爲すを得べし、黑土地方即ち「チェルノゾィオム」(Tchernozion) 地方は石灰と粘土とに有機性の遺物を混交したるものにして五〇乃至一五〇糎の「ヒウマス」(humus) にて蔽はれ腐蝕したる雜草は一層の肥力の度を高むるが故に無比の眞土たるは疑ふべからざるも春季の乾燥は樹木の生育を許さず、然れども融雪後に於て夏季の溫熱は穀類の收獲を期するに足り以て當地方をして露國の倉庫地たるの實あらしむ、可耕「ステップ」地方は黑土地方の南にありて黑海に達せる、が乾燥甚しく樹木なく水に乏しきも純然たる不毛地に非ずして春季には人體を沒する的の雜草に蔽はれ夏季の至るや乾熱の下に青草は一變して牧草又は燃料と成る、不毛「ス

テップ」地方は海底の遺跡たる砂地にして鹹味を帶び概して不毛の土地なるも稀には駱駝の飼養を見ることあり。

南方帶はクリミア島の南部より成りて「ラウラス」、無花果、「マグノリア」、「オリーブ」、葡萄、桑、等の地中海的樹木の生育を觀るも亦冬季には降雨多く零度下二十五度を示すことありと云ふ、

天産 鑛物には金、白金、銀、鐵、銅、滿俺、石炭、石材、陶土、等あり、植物には山林より出づる樺、松、樅、山毛櫸、「ボダイジュ」あり、動物には熊、馴鹿、駱駝、野牛、各種の毛皮獸、羽毛鳥、等ありて大麝香鼠、鼹鼠(Sparax)、大鼻「アンチロペ」の如きは南ロシアに於ける「ボバク」(Bobak)即ち「ロシアマルモット」と共に著しきものなり。

沿革 ロシアは北人ルーリックがノブゴロドに來り(八六三)スラブ種族を征服して王朝を創立せしに始まれり、十一世紀の頃にはキエフを國都として國勢稍〻盛なりしが、後に諸族各地に割據して蒙古の侵入(一二四〇—一四八〇)を蒙り、爲にキエフは衰へて十四世紀の始め頃よりモスクバ之に代り、シベリアの侵略を始めしイワン四世に至りて蒙古人の羈絆を脱することを得たり、而してルーリック家(八六二—一五九八)絶えてロマノフ家(一六一三—)の代と成るや、ペテロ大帝(一六七二—一七二五)、カタリナ女帝(一七六二—九六)、等の君臨するあり、ボルスカ、フィンランド、コーカシア、中央アジア、等を合はせ領土益〻膨脹して遂に世界の强國の一に列したるが、今帝ニコライ二世は旭日國の爲に破られてサハリンの南部并に關東租借地、南滿洲に於ける特權を失ひ、極東に於ける經營に大打擊を蒙りたり。

人口 全ロシア國の人口は一億三千餘萬人ありて一方粁に對する平均は五人に過ぎざれどもロシア諸州には九千三百四十四萬ありて一方粁十九人と成りボルスカは九百四十萬ありて一方粁七十三人なりとす。

人口表

地方	地積	人口 男	人口 女	人口 計	人口 粗密
ロシア諸州	四八七、六五二三方粁	四五七四、九五七五人	四七六九、三二八九人	九三四四、二八六四人	一九
ボルスカ	一二、七三一七	四七一、二〇九〇	四六九、〇一六三	九四〇、二二五三	七三
コーカシア	四七、三〇二六	四八八、六七一三	四四〇、二六五一	九二八、九三六四	一九
中央アジア	三六四、七〇五七	四一六、四五五一	三五八、二一六七	七七四、六七一八	二
シベリア	一二五三、四二〇〇	?	?	五七三、〇七〇〇	〇、五
アラル海	六、七七六九	—	—	—	—
カスピ海	四三、八六八八	—	—	—	—
アゾフ海	三、七六〇五	—	—	—	—
小計	二二二〇、二二〇〇	?	?	一、二五六一、二〇〇〇	六
フィンランド	三七、三六〇四	一四一、七二二九	一四三、九八〇九	二八五、七〇三八	八

ブハラ	二〇、五〇〇〇	?	?	一五〇、〇〇〇〇	七
ヒバ	六、〇〇〇〇	?	?	五〇、〇〇〇〇	八
ロシア	二二八四、〇八〇〇	?	?	一、三〇四六、九〇〇〇	六

人口の增殖は稍〻著しくして九十年以上百年未滿にて二倍するの割合なり、住民の移動に就きては一九〇四年の往住は約四十六萬七千人（ロシア人外國人二一二五）にして來住者は凡そ四十二萬人（ロシア人一四外國人二七）なるが、殊にユダヤ人のアメリカに移住するもの漸く多くして一八七三―一九〇〇年に八十四萬人ありき、而して一九〇二年に於てハンブルグ、ブレメン、リゥベックを經て移住せる六萬人足らずのロシア人は主としてアメリカ合衆國（五、五三六八）に向へり、又同年シベリア、コーカシア、等に往住せしものは八萬八千餘人にして該地方よりヨーロッパロシアに歸來せしものは一萬五千人に達せざりき。

種族　ロシアの人種はエステルライヒ＝ウンガルンの如く甚しからざれども亦頗る錯雜せり、其の大部はアーリア種のスラブの占むる所なるが、北西及び北部にはフィン群（フインランド人、チゥド、ラップ、カレリア人、リーブ、エスト、イングリア人）あり、スラブ派に混じて黃種の存するあり、即ち北にサモイエド、ジリアヌ（Zyrians）等あり、南にキルギス、カルムクあり、西部にはスラブに近きレットリトアニア（Letto-Lithuanians）あり、西部にドイツ人、南西にユダヤ人、ベッサラビアにロマーニア人を見る、而して當國のスラブはロシア、ポルとの二群より成れり、ロシア群は更に三部に分かる、其の白ロシア人はヂゥナ河の左岸よりプリペットの沼地に至る平地を占め其の小ロシア人はドネツ、サン、チツァの水源間に於ける廣大なる地方に居り其の大ロシア人は上記以外の地、殊に中部、南部に住せり、此等のスラブはエステルライヒ及びバルカン諸邦に住せるものとは外貌に異なれる所あるが、北部に於けるものはフィンの特徴を有し、南部に於けるものはモンゴリア、トルコ、等の血を混せり。

今母語に從ひてロシアの住民（一、二五六四萬）を區別せば大ロシア（五五六七）、小ロシア（二二三八）、ポーレン（七九三）、白ロシア（五八九）、ヘブレール（五〇六）、リトアニア、等（三〇九）幷にドイツ（一七九）、カルトヱル（一三五）、アルメニア（一一七）、ロマーニア（一一二）、其の他のインドヨーロッパ語（一二九）の外にトルコ＝タタ

言語

ル(一三六〇)、ウグルーフィン(三五〇)等を得るなり。

宗教　國教はギリシア正教にしてロシア皇帝は該教の法王なるが信徒の數は約八千七百十二萬人あり、之に次ぐキリスト教徒はローマ公教派(一一四七)、ルーテル派(三五七)、ヂッシデント派(二二〇)、アルメニアグレゴリアン派(一一八)、其他に屬せり而してユダヤ教を奉するものは五百二十二萬に近くマホメット教を信ずるものは一千三百九十一萬弱なるが前記以外の宗教を奉するものは七十三萬餘人なり。

教育　一八九七年の調査に從へば文字なきものは地方住民百分中八九、二より四四、九の間にありて都會にては六三、六乃至三七、二なれば未だ盛況を呈するに至らず、帝國は十五學區に分たれ學校の大部分は文部省の管理する所なるも他の諸省に屬せるもあり、大學はペテルブルグ、モスクバ、キエフ、ハルコフ、ドルパット、ワルシァワ、カザン、オデッサ、トムスクの九ヶ處に設けられ一萬九千五百人許の學生を敎養す、此の外に宗教(四)、醫學(六)、獸醫(四)、法律(三)、藝術(三)等の諸學校幷に女子高等學校(二)、鑛山學校(二)、機關(四)、農業(四)、森林(一)、博言

(二)、軍事(六)等の高等なる學校ありて男女合はせて三十五萬以上の生徒を養ふが初等敎育には學校八萬四千餘、生徒四百六十九萬餘あり、而して後者の百二十三萬餘は女子なり。

政治　ロシア帝國の君主は「ツァール」(Tsar)と稱す、舊と專政の國なりしが一九〇五年に於て樞密院の外に代議院は設けられ又信仰、言論、集會の自由を臣民に與へたり、行政に關しては中央に大臣會議(外務、陸軍、海軍、內務、司法、敎育、財務、交通、商工、農務、馬政各長官より成る)、元老院、敎務院等ありて地方には太守、總督、知事等を置くがペテルブルグ、セバストポール、オデッサ等の如き重要の都市には府尹を置く。

行政區劃　全ロシア國はロシア諸州、ポルスカ、フィンランド大侯國、コーカシア、中央アジア、シベリアの六部より成れるが、行政上省州に分たれ、其の若干を合はせて太守府又は總督府を置く、總督府はモスクバ、バルト諸州、ワルシァワ、キルナ、キエフ、トルキスタン、ステップ、イルクツク、アムルに置かれコーカシアには太守府あり、而して省州はロシア諸州に四十九、ポルスカに十、コーカシアに九、シベリアに八、フィンランドに八あり。

陸軍

兵備　陸軍に就きては全國を十三軍管區（ヨーロッパ＝コーカシア九、トルキスタン＝シベリア四）に分ち、其の他の事務を司るが各聯隊の組織に就きては非ロシア人が四分一を超過せざること又少なくも三分一は大ロシア人なることを以て原則とす、而して平時に於てはヨーロッパに二十二軍團、コーカシアに二軍團、トルキスタンに二軍團、シベリアに三軍團を置く、が總員は一百二十五萬四千人に達すべし、戰時に於ける兵員は士官六萬六千四百十人下士卒三百五十四萬九千人なるが馬匹は五十六萬二千二百頭に達すべしと云ふ。

海軍

海軍に就きてはバルト、黑海、シベリアの三艦隊あり、乘組は士官一千五百六人、水夫三萬八千餘人あり、而して建造中のものはバルト艦隊に甲裝戰艦（一、六六噸）二隻、一等甲裝巡洋艦四隻、潛航艇四隻、水雷驅逐艦二隻、等あり、黑海艦隊に戰艦（一、二〇〇〇噸）二隻、シベリア艦隊に砲艦十隻あり。

艦隊	噸數	馬力	砲門	水雷發射管	根據地
バルト海	三〇、六八四九	七四、九二六一	一五〇四	三八三	クロンスタット
黑海	一四、五七一八	二六、九九〇一	七六八	一二八	セバストポール

シベリア

上記の外に各艦隊多少の汽船を有するが殊に注意すべきは義勇艦隊が十隻、十萬一千八百十噸あることなりとす。而してカスピ海には武裝せる數隻の船艦を備ふ。

三、〇三八二　一六、七九二三　一七八　八七

ウラヂヲストック

財政　一九〇六年度の歳入は二十五億一千一百萬「ルーブル」餘にして經常歳入二十億二千八百萬「ルーブル」弱は直稅（一、四八三一）、間稅（五、三三七五）、特稅（六四一六六）、國料（五、八二八六）、其の他より得られたり而して歳出約二十五億一千一百萬「ルーブル」の大部は經常歳出（二〇、一八〇七）にして其の主なる科目は公債（三、三四七二）、陸軍（三、七四八五）、海軍（一、〇四〇七）、大藏（三、四二六一）、內務（一、三一二二）、遞信（四、七七七一）等なりとす又公債は凡そ七十六億八千百九十萬「ルーブル」なり。

生業　農業は帝國の生業中にて主位を占め住民の十中九までは本業に從事せり、ヨーロッパロシアの三分の二に當る三百六十萬方粁の地は耕耘に適するが、其の中九十萬方粁は「チェルノシオム」即ち黑土にしてウラル河の水源

より西方の國境に達せり、然れども人口の發達充分ならざれば實際に耕作せらるるは九十五萬方粁に過ぎず、農產の第一は穀類にして六百四十六億砿あるが、其の二百三十二億砿は「ライムギ」なりとす、此の外亞麻に五十八萬噸、大麻に三十四萬噸、馬鈴薯に二百四十七億砿、牧草に五千萬噸、煙草に六千六百萬砿の產あり、南部は果樹を栽培し、北部の森林は樅、松、樅等を產し、國有林の實收益は四千八百萬「ルーブル」以上なり、牧畜は盛に行はれて牛三千三百二十四萬頭、馬二千九百五十四萬頭、羊及び山羊六千四百三十九萬頭、豚一千三百六十六萬頭等を飼養す、而して漁業には二千五百萬「ルーブル」の產あり。

牧畜

漁業

獵業

鑛業は凡そ四萬砿の金、二百四十萬噸の鋼及び鐵、一千八百六十二萬噸の石炭あり、バクー地方より出づる石油は九百九十四萬噸を超ゆ、此の外に白金(五九一一砿)、銀、鉛、亞鉛、銅、岩鹽等あり、一九〇一年鑛業に從業せしものは四十九萬六千人に近かりしが、其の二十三萬餘人はウラル地方にありたり、工業は未だ盛大なるに至らざるも近來長足の進歩を爲して工場は一萬七千に近く、

鑛業

工業

使役せらるるものは百七十一萬を超ゆるが、蒸溜、釀造、紡績(六五五萬錘)、製糖(九、一〇六萬砿)、製油、製鐵(二二億砿)、製麻、毛布の製作、煙草の製造(七萬噸)等は稍著しとす。

貿易に就きて貨物の輸入は一高一低あるも、輸出は漸次增加して一九〇四年に於ける貿易高は十六億「ルーブル」を超えしが、貴金屬の取引は七千萬「ルーブル」に達せざりき。

年次	貨物		貴金屬	
	輸入	輸出	輸入	輸出
一九〇〇	六、二六三七、五	七、一六四一、八	三四六一、一	一、三四三一、一
一九〇一	五、九三四二、五	七、六一五八、三	一八〇三、三	七二〇二、三
一九〇二	五、九九一五、一	八、六〇三二、二	一四四〇、四	七一〇、九
一九〇三	六、八一六七、〇	一〇、〇一一七、九	二七九一、五	四五七、七
一九〇四	六、五一四〇、三	一〇、〇六三八、四	三八五一、二	二六一八、七

次に主要なる取引先を示せば輸入にドイツ(二二八百萬「ルーブル」)、イギリス(一〇三)、合衆國(六二)、清國(五二)、フランス(二六)、フィンランド(二四)、ベルシア(二三)、エステルライヒ＝ウンガルン(二一)、エジプト(一六)、オランダ(一一)、イタリア(九)等

ありて輸出にドイツ(二三四)、イギリス(二三〇)、オランダ(九九)、フランス(六一)、イタリア(五二)、フィンランド(四六)、ベルジック(四三)、エステルライヒ＝ウンガルン(四〇)、ダンマルク(三〇)、ベルシア(二七)、トルコ(二五)、清國(二二)、等あり。

貿易品の重要なるものは輸入に綿花(一〇八)、器械(五五)、茶(四七)、金物(二九)、石炭(二六)、彈力「ゴム」及び「グタペルカ」(二一)、魚類(二一)、化學品及び藥品(一三)、果物(一二)、生絲(一一)等にして輸出に穀物及び穀粉(四七七)、木材(七三)、石油(五九)、鷄卵(五四)、亞麻(五〇)、「バタ」(二九)、砂糖(二三)、綿布(二一)、油糟(二〇)、等あり。

又一九〇五年に於けるヨーロッパロシアに於ける輸入は五億五千三百五十二萬「ルーブル」にして輸出は約十億一千八百二十五萬「ルーブル」なるが、輸入先はドイツ(二三二百萬「ルーブル」)、イギリス(一九五)、フランス(二六)、フィンランド(二六)、清國(一九)、エステルライヒ＝ウンガルン(一八)等を主とし、輸出先はドイツ(二五四)、イギリス(二四九)、オランダ(一一六)、フランス(六四)、イタリア(六二)、ベルジック(四四)、フィンランド(三九)、ダンマルク(二三)、等を主とせり、而して同年の貿易品を種類別にせば輸入の主要部は原料品(三、〇〇七四)、加工品(一、五五一二)の

占むる所にして輸出の大部は食料品(六、八五一八)及び原料品(二、九二三八)より成れり。

通商港の名あるものはバルト海に於けるペテルブルグ、クロンスタット、ナルバ、レベル、リガ、井ンダウ、リバウ、黒海に於けるオデッサ、ニコライエフ、ヘルソン、エウパトリア、セオドシア、ケルチ、ベルヂアンスク、タガンログ、マリウプル、ロストフ、イエイスク、ポチー、白海に於けるアルハンジェルスク、オネガ、カスピ海に於けるアストラハン、デルベント、バクー、等なりとす、而して此の國の貿易に從事する船舶は出船に一萬一千七百四十九隻一千百四十萬一千噸、入船は一萬一千七百七十七隻一千百三十九萬五千噸なるが外國旗船(入船一〇二四二隻、一〇五二一千噸、出船一〇二三二隻、一〇五二一千噸優勢なり而して船舶の出入はバルト海(入船三八五〇千九二、出船三九四三千噸、黒海及びアゾフ海六九四三六九〇二に多し。

內國商業は稍盛にして商賈の數は一百萬以上に達し、純益高の概算は五億「ルーブル」なり而して取引は各地に開かるる定期市場にて行はる、殊にニジニノブゴロドの市場は著名なり、又南東の諸省并にボルスカにはユダ

ヤ人にして商業に從事するもの甚だ多し。

交通　交通に就きて記さんにロシア帝國の海岸線の發達は四百五十方粁に付き一粁の割合にして、航行し得べき河流は三萬五千粁あるも、之を地積に對比すれば百五十五方粁に付き一粁を有するに過ぎず、然のみならず冬季は凍結し夏季は水量減少して航行の便あるは春季に限れり、然れども土地平坦にして山岳に乏しきは運河の發達を助け其の延長は一千三百餘粁に達せり、商船(一九〇五年)は三千三百四十隻(汽船八一五、帆船二五二)六十四萬餘噸(三五、八九四、五二八)あるが主としてカスピ海(二三)、黒海及びアゾフ海(二一)、バルト海(一六)にあり、鐵路(一九〇六年)はヨーロッパロシアに五萬三千九百二十九粁ありて國有(三、三八七二)、私有(一、七七九四)、地方(二二六四)の三種に分かるるがアジアに於けるものを加へば六萬三千七百十五粁と成る、郵便局(一九〇四年)は一萬三千九十四處ありて二億七千四百萬「フランク」餘を收入し電信線は各種合はせて線路十八萬六百四十粁、延長六十一萬一千八百六十八粁ありて又電話線は線路八千六百十二粁、延長十三萬八千六百九十四粁の外に長距離線の

延長三千五百二十二粁あり。

處誌　ヨーロッパロシアはロシア諸州、ポルスカ、フィンランドの三大部より成れるが、ロシア諸州を分ちて更に六部(バルト海諸州、大ロシア、小ロシア、南ロシア、東ロシア、西ロシア)とす。

バルト海諸州　バルト海諸州は一七〇〇―一〇年に獲得せられし處にしてペテルブルグ、エストランド、リブランド、クールランドの四省あり。

サンクトペテルブルグ(St. Peterburg)(北緯五九度五六分三二秒、東經三〇度一七分五一秒)はペテロ大帝の創建(一七〇三年)に係りて全ロシアの首都なるがフィンランド灣に瀕しネバー河に跨れり、土地は濕潤に過ぎて寒氣は凛烈を極むるのみならず時に洪水の患あるも街衢は十三區に分たれ道路端麗にしてネフスキープロスペクト街の如きはベルリンのウンテルデンリンデンに優れるものあり、宮殿寺院は屹然として高く聳え商店倉庫は整然として軒を並ぶ、大學、學士會院、各種學會あり、博物館、圖書館、植物園あり、兵器廠、造兵廠あり、一九〇〇年には約百四十四萬(一四三、九三七五)の人口を有するに至れり、實に世界屈指の大都會たり、軍港を以て有名なるクロンスタット(Kronstadt)(五、九五二五)は本府

レフェル
リガ
リバウ
モスクバ

の西三十二粁に位し狹長なる小島コトリン(長さ一一粁)にあり、レフェル(Revel)(六、四五七、八)はフィンランド灣に瀕して綿を輸入す、リガ(Riga)(二八、二九四、三)(北緯五六度五七分七秒、東經二四度六分五九秒)はヂヴナ河口より十一粁の上流にありてオデッサに次げる商港なり、リバウ(Libau)(六、四五〇、五)はリガの西微南、鐵路二百三十五粁に位してバルト海に沿ひ第一流の軍港たり、港形佳良にして氷結期(二週間)は極めて短し。

大ロシア　大ロシアは一四七九年ヨアンバセロヰッチの下に獨立したりしがヨーロッパロシアの主部を爲してアルハンジェル、オロネツ、ボログダ、ノブゴロド、プスコフ、モスクバ、トフェル、コストロマ、ウラヂミル、ヤロスラフ、リエサン、ニジニノブゴロド、ツラ、カルガ、アリヨル、スモレンスク、クルスク、ポロネジ、タムボフの諸省を包括す。

モスクバ(Moskwa)(一〇三、八五九、一)(北緯五五度四五分二〇秒、東經三七度三四分一七秒)はペテルブルグの南東、鐵路六百四十四粁、オデッサの北北東一千五百五十六粁に當り、オカ河の支流たるモスクバ河の岸、海拔一二八米突の地に建てり、舊都の一にしてロシア人の以て聖地と爲す處なるが、寺院極めて多く其の數四百餘に達しクレムルの宮殿は歴史上殊に有名なりとす、本府は此の國上流社會の避寒地なれば庭園別墅多く廣袤甚だ大にして頗る殷賑なり、從て商工業共に見るべきものあり、當地の西九十七粁にボロヂノ(Borodino)あり、一八一二年フランス、ロシア兩軍の戰ひし處なり、ニジニノブゴロド(Nischni Nowgorod)(九、〇〇五、三)はボルガ、オカの相合する地に位し年市場として名あり、造船に從事す、イバノボスネンスク(Iwanowo-Wosnensk)(五、四二〇、八)は盛に綿布を製す、ヤロスラフル(Jaros'awl)(七、〇六一、〇)はモスクバの北東に於ける商業地なり、トフェル(Twer)(五、三四七、七)はモスクバの北西に當りボルガに沿ふ商業市にして汽船の終航點なり、綿絲、綿布を製す、ノブゴロド(Nowgorod)はイルメン湖の北に位しロシア建國史上著名の地なり、アルハンジェル(Archangel)はドビナの口に近くして白海の主港たり、エカテリナ(Ekaterina)はロシアラプランドに於ける不凍港なり、ツラ(Tula)(一一、一〇四、八)はモスクバの南に當り鐵物殊に武器を製す、アリヨル(Orel)(六、九九五、八)はオカに沿ひ煉瓦を製す、ボロネジ(Woro

ニジニノブゴロド
トフェル
ツラ
アリヨル
ボロネジ

南ロシア

民にはドイツ人、ユダヤ人多し。

ルタワの北東東にありて砂糖石鹸等を産するが殊に年市を以て著はる住

ロ大帝がカロロ十二世を破りし處とす、ハルコフ(Charkow)(一七四八四六)はポ

タワ(Poltawa)(五三〇六〇)はドニエプルの支流に瀕し煙草、熟皮の産あり、ペテ

レメンチュグ(Krementchug)(五八六四八)はドニエプルに沿へる工業地なり、ポル

ベルヂチェフ(Berditschew)(五三七一八)はキエフの南西に當る商業地なり、クの

崇拝する所なり、又軍府としては防備堅固なるが商工業共に見るべきものの

扱九〇米突の地にあり舊都の一にして寺院に富みロシア人の聖地として

キエフ(Kiew)(二四七四三二北緯五〇度二七分一二秒)はドニエプル河の沿海

コフ、キエフ、ポルタワ、チェルニゴフの諸省を含めり。

小ロシア

小ロシアは一六八六年に於て獲得せられし地にしてパル

八一)は紙を産し東境に近し。

ニッシュ(Pensa)(五九九)はドン河に沿ひ煙皮、穀類等を集散す、ペン

nesch)(八〇五九九)はドン河

九八九)はドン河の下流に於ける港なり、ノボチェルカスク(Navo Tscherkask)(五、

ロストフ　瀕すが黒土地方の穀類、ドネツ炭田の石炭を輸出す、ロストフ(Rostow)(一一、

ケルチ(Kertch)は海峡に臨みて港を有す、タガンログ(Taganrog)はアゾフ海に

は城塞地にして良港を有するが、クリミア戦争に依りて其の名著はれたり、

ブルに臨みて皮類、生毛、獣脂を集散す、セバストポール(Sevastopol)(五〇七一〇)

ノボエカテリノスラフ　穀類、木材を輸出す、イエカテリノスラフ(Jekaterinoslaw)(一一、一一六)はドニエ

ベルヂチェフ　あり、ベルヂチェフ(Berditschew)(五、三七一八)はキエフの南西に當る商業地なり、クの

レメンチュグ　タワ(Poltawa)(五三〇六〇)はドニエプルの支流に瀕し煙草、熟皮の産あり、ペテ

ポルタワ　ロ大帝がカロロ十二世を破りし處とす、ハルコフ(Charkow)(一七四八四六)はポ

ハルコフ　ルタワの北東東にありて砂糖、石鹸等を産するが殊に年市を以て著はる住

南ロシア

民にはドイツ人、ユダヤ人多し。

南ロシア即ち新ロシアは主として一七九一年に獲得せられ

南。ロシア即ち新ロシアは主として一七九一年に獲得せられ

二〇五五)は年市を以て知らる。

東ロシア　東ロシアはカザン及アストラハンの汗國の地を含めるが一五五〇―八〇年に獲得せられ十省に分かる。

カザン(Kazan)(一二、五五九九)はボルガの東に於ける商業地にしてシベリアとの取引に見るべき者あり、石鹸皮革の製造に従事す、ペルム(Perm)(四、五四〇三)はカマ河に沿へる商業地にして冶金に従事す、サマラ(Samara)(九、一六七二)は小麥、クミスと酒の産地にありて馬を飼養す、サラトフ(Saratow)(一三、七一〇九)はボルガに沿ふ工業地なるがロシア、中央アジア間の商路に當れり、ツァリツィン(Tsaritsyn)(五、五四八八)はボルガに瀕して温泉を有す、アストラハン(Astrachan)(一一、二八八〇)はカスピ海貿易の主港なるがボルガの河口を溯ること約八十粁にありて漁業に従事す、オレンブルグ(Orenburg)(七、二七四〇)はウラル河畔に於ける鑛業地なり、イェカテリンブルグ(Jekaterinburg)(五、五四八八)はウラル鑛區の中心なり、チェリアビンスク(Tcheliabinsk)は交通上の要地たり。

西ロシア　西ロシアは一七七二―九五年に獲得せられたり、キテブスク、コフノ、キルナ、グロドノ、ミンスク、モヒレフ、ブリニエン、ボドリエンを含めり。

キルナ(Wilna)(一五、四五三二)はリタウアの舊首府なるが今は軍府の一にして商業も盛なり、住民にユダヤ人少なからず、コフノ(Kowno)(七、三五四三)はニエメン河に沿ひ小麥、亞麻を集散するが住民にユダヤ人多し、ヂヴナブルグ(Dünaburg)(六、九六七八)即ちドビンスク(Dwinsk)は西ロシアの一軍府なり、キテブスク(Witebsk)(六、五八七一)も亦ヂヴナ河に沿ひ農產物の倉庫地たり、ミンスク(Minsk)(九、一四九四)はブリペットの流域にあり居民にユダヤ人多く商業稍〻盛なり、グロドノ(Grodno)(四、六八七一)はニエメンの右岸にありて煙草を製す、ビエロストク(Bjelostok)(六、三九二七)はポルスカの境に近くして毛織物の產あり、住人にユダヤ人多し。

ポルスカ　ポルスカ(ポルの意)國即ちポーランドは舊と一王國なりしが、一七七二―九五年に於てロシア、プロイセン、エステルライヒの爲に三回に分割せられ、一八一四―一五年のチルジット條約によりて形成せられしワルシァワ侯國は一八〇七年のチルジット條約ありし爲め、其の大部ロシア領に歸し、一八三〇

ワルシァワ

ロヅ

ルブリン

一三二年の叛亂も失敗に終りて「ツァール」の主權者たるを甘せざるべからざるに至れり、要するに今のロシア領ポルスカは往昔の强大なりし王國の一部に相當するものなるが十省を包有せり。

ワルシァワ(Warszawa)(六三、八二〇人)(北緯五二度一三分六秒東經二一度一分四九秒)はワルシァウ(Warshawa)とも云ふ舊一王國の首都たりし處にしてペテルブルグの南西一千百二十七粁、ワイクセル河畔にあり、往昔の如き盛況を呈せざるもロシア第三の都會にして宮殿寺院を有し、軍府の一たるのみならず商工業にも見るべきものあり、ロヅ(Lodz)(三一、四一二〇)はワルシァワの南西百二十二粁に位しロシア第五の都會たり、綿絲の紡績、綿布、毛織の製造、鐵器の製作に從事す、ノボジェオルジエウスク(Novo Georgie sk)はキスチゥラとナレフとの合流地にありて要塞を有す、ブレスト＝リトウエキイ(Brest-Litovskiy)(四、六五四二)は交通上の要區にして軍府の一たり、チェンストホバ(Czenstochowa)(四、五〇四五)はドイツの國境に近し、ルブリン(Lublin)(五、〇一五二)はワルシァワの南東に位し煙草「ピール」、等の產あり、イワンゴロット(Iwangorod)はキスチゥラ防禦線の要塞地たり。

土地

住民

政治

◎フィンランド

フィンランド(Finnland)大侯國はロシアの北西部にありて三十七萬四千方粁弱の地積を有せり、土地は主として花崗岩層より成りて起伏を呈するも海拔は著しからず、フィンランド灣の沿岸には絶壁多く、小灣峽灣に富みて無數の島嶼は航行の妨害を爲す、又此の地が不流の潴水に富めるは實に世界無比にしてサンクトミカエル省にありては沼澤は地積の半以上を占む、此の外殊に記すべきは河流が互に並行するの一事なり、氣候は凛烈なるも健康に適し七ヶ月に亘る冬期は嚴寒なれども夏季は温暖にして殊に乾燥を極む。

人口は一九〇三年に於て約二百八十二萬人ありて一方粁八人の割合なるが、同緯度の諸國に比すれば住民の多き方なり、而して之を種族別にすればフィンランド人(二三五)最も多く、其の他はスエリゲ人(三五)、ロシア人、ドイツ人、ラップ人等に屬せり、移住者の數は約七萬二千人なりとす、信敎上はルーテル派の新敎を奉ずるもの(二六六)最も多く、ギリシア正敎徒は二割に達せず。

フィンランドは一八〇九年のフレドリクスハムンの條約に依りてロシア

國に內屬したるも、特立の大侯國にしてロシア皇帝を君主に戴き、大侯の代理者たる總督の下に元老院ありて內政を司り又代議院も設けらるべし、而して地方は八省(州)に分たる。

生業

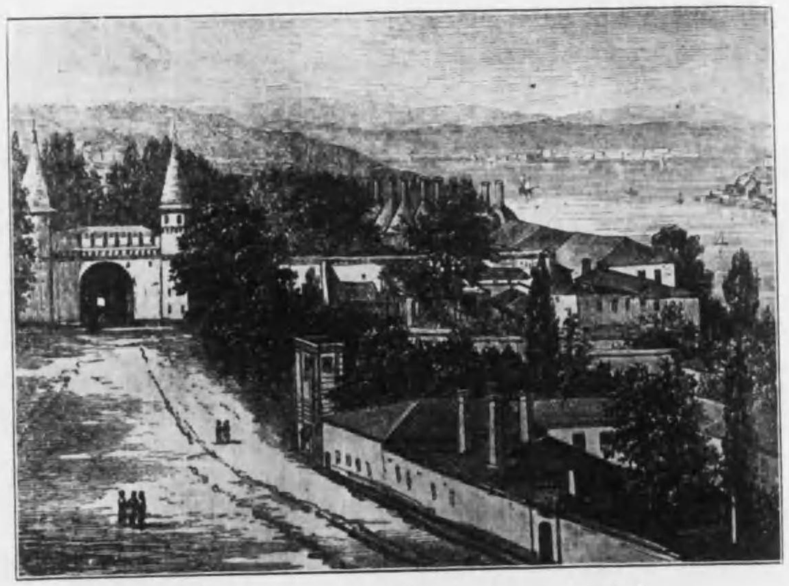
沼湖、森林は土地の九割を占め耕地は八千方粁に過ぎざるも農業は生業中にありて首位を占め牧業は二萬七千五百方粁の牧地に於て主として馬を飼ふ、又此の地の大理石は著名なり、貿易は一九〇五年に於て二億六千八百二十萬「マルク」(金)を輸入し木材「パタ」、紙及「セルロイド」等の二億四千七百八十萬「マルク」を輸出せるが主としてロシアと取引す、入船は約二百四十四萬噸にて出船は凡そ二百四十二萬噸なるが商船は三十五萬噸に餘り鐵道は三千三百二十九粁に達せり。

ヘルシングフォルス

ヘルシングフォルス(Helsingfors)(一一、一六五四)(北緯六〇度九分四三秒東經二四度五七分一七秒)は大侯國の首府にして造船所、大學等を有するがペテルブルグの西、海路百九十浬、鐵路四百十二粁に位し木材、紙「パタ」等を輸出す、附近のスエオボルグ(Sveaborg)に軍港あり、北のジブラルタルと稱せらる、オボ

オボ

(Åbo)(四、二六三九)はボスニア



舊城(Serail)とボスポロスの南端［コンスタンチノプル］

トロイツァ(Troitza)の寺院

灣に近き商業地にして穀類、鐵、木材等を集散し又造船に從事す。メルフォルス

ルスタ（Tammerfors）は人口四〇、二六六二、工業地にして綿布亞麻布紙等を産す。ビボル

ヴィボルグ（Viborg）は人口二四、六七二、カレリアの舊都にして小港を有せり。

北部

◉スカンヂナビア

スカンヂナビア（Scandinavia）はスカンヂナブ種族の住域に當りてスカンヂナビア及びノールランド（Scandinavia）半島の兩半島と其の間に於ける一大半島とより成りて、約八〇、八一九、八方粁の面積を有せり。

スカンヂナビア半島は、ヨーロッパの北部に於ける一大半島にして北緯五十五度二十分と七十一度二十分との間にあり、地勢、大略、南北に長く、幅は約七百五十粁乃至三百粁にして、其の長さは約二千粁なり。

スカンヂナビア半島の海岸は屈折に富みて約四千八百粁ノルゲに凡そ三百二十粁なり。延長は約二萬四千粁に達し、地、角、に北岬ノールカプ、ノールステルより、世界地理提要

スカンヂナビア半島の海岸は屈折に富みて約四千八百粁ノルゲに凡そ三百二十粁なり。延長は約二萬四千粁に達し、地、角、に北岬ノールカプ、ノールステルより、世界地理提要

三百九十九

スカンヂナビア及びノールランド（Scandinavia）半島は、ヨーロッパの北部に於ける一大半島にして北緯五十五度二十分と七十一度二十分との間にあり、地勢、大略、南北に長く、幅は約七百五十粁乃至三百粁にして、其の長さは約二千粁なり。

スカンヂナビア半島の海岸は屈折に富みて約四千八百粁ノルゲに凡そ三百二十粁なり。延長は約二萬四千粁に達し、地、角、に北岬ノールカプ、ノールステルより、世界地理提要

スカンヂナビア

スカンヂナビア（Scandinavia）はスカンヂナブ種族の住域に當りてスカンヂナビア及びノールランド（Scandinavia）半島の兩半島と其の間に於ける一大半島とより成りて、約八〇、八一九、八方粁の面積を有せり。

スカンヂナビア半島は、ヨーロッパの北部に於ける一大半島にして北緯五十五度二十分と七十一度二十分との間にあり、地勢、大略、南北に長く、幅は約七百五十粁乃至三百粁にして、其の長さは約二千粁なり。

スカンヂナビア半島の海岸は屈折に富みて約四千八百粁ノルゲに凡そ三百二十粁なり。延長は約二萬四千粁に達し、地、角、に北岬ノールカプ、ノールステルより、世界地理提要

スカンヂナビア

スカンヂナビア及びノールランド（Scandinavia）半島は、ヨーロッパの北部に於ける一大半島にして北緯五十五度二十分と七十一度二十分との間にあり、地勢、大略、南北に長く、幅は約七百五十粁乃至三百粁にして、其の長さは約二千粁なり。

スカンヂナビア半島の海岸は屈折に富みて約四千八百粁ノルゲに凡そ三百二十粁なり。延長は約二萬四千粁に達し、地、角、に北岬ノールカプ、ノールステルより、世界地理提要

スカンヂナビア

ヨスタ（Bysteen）とサスノーブルは湖名とサスノーブルは湖名とボスロスの間にありて金角灣に似る。

ボスロスの間長き九粁許にして三ヶ所にて金角灣に似る。

ガラタ（Galata）、ペラ（Pera）、トプハネ（Top-Hane）等に分かる、新設各國領事館三棟に依りて兩街に連りガラタ橋（Galata）を以て三部を爲せり、北のトルコ街即ちスタンブール（Stambul）は金角灣の南方、七丘に跨りて、漸次「キイ」ヤを始めとし有名なるソフヤ大寺、宮、街、バザル等重要なり。其の自街即ち四人街は金角灣の北方にあり、銀行、商館等の所在地にして、其の裏街即ちスタンブリ（Beuglu）はアヅにあり、殷盛の地として知られ、

ボスロス（Bosporos）海峽は黑海とマルマラ海とを連ぬる水道にして十七粁の長さを有するが屈折して、兩岸七粁を距てゝ四粁七輔を距てゝ三十一粁、東北に三十一粁、

ヨスタ（Bysteen）とサスノーブルは湖名とボスロスの間にありて金角灣に似る。

ボスロスの間長き九粁許にして三ヶ所にて金角灣に似る。

ガラタ（Galata）、ペラ（Pera）、トプハネ（Top-Hane）等に分かる、新設各國領事館三棟に依りて兩街に連りガラタ橋（Galata）を以て三部を爲せり、北のトルコ街即ちスタンブール（Stambul）は金角灣の南方、七丘に跨りて、漸次「キイ」ヤを始めとし有名なるソフヤ大寺、宮、街、バザル等重要なり。其の自街即ち四人街は金角灣の北方にあり、銀行、商館等の所在地にして、其の裏街即ちスタンブリ（Beuglu）はアヅにあり、殷盛の地として知られ、

ボスロス（Bosporos）海峽は黑海とマルマラ海とを連ぬる水道にして十七粁の長さを有するが屈折して、兩岸七粁を距てゝ四粁七輔を距てゝ三十一粁、東北に三十一粁、

ヨスタ（Bysteen）とサスノーブルは湖名とボスロスの間にありて金角灣に似る。

ボスロスの間長き九粁許にして三ヶ所にて金角灣に似る。

ガラタ（Galata）、ペラ（Pera）、トプハネ（Top-Hane）等に分かる、新設各國領事館三棟に依りて兩街に連りガラタ橋（Galata）を以て三部を爲せり、北のトルコ街即ちスタンブール（Stambul）は金角灣の南方、七丘に跨りて、漸次「キイ」ヤを始めとし有名なるソフヤ大寺、宮、街、バザル等重要なり。其の自街即ち四人街は金角灣の北方にあり、銀行、商館等の所在地にして、其の裏街即ちスタンブリ（Beuglu）はアヅにあり、殷盛の地として知られ、

ボスロス（Bosporos）海峽は黑海とマルマラ海とを連ぬる水道にして十七粁の長さを有するが屈折して、兩岸七粁を距てゝ四粁七輔を距てゝ三十一粁、東北に三十一粁、

トプハネ（Top-Hane）等に分かる、新設各國領事館三棟に依りて兩街に連りガラタ橋（Galata）を以て三部を爲せり、北のトルコ街即ちスタンブール（Stambul）は金角灣の南方、七丘に跨りて、漸次「キイ」ヤを始めとし有名なるソフヤ大寺、宮、街、バザル等重要なり。其の自街即ち四人街は金角灣の北方にあり、銀行、商館等の所在地にして、其の裏街即ちスタンブリ（Beuglu）はアヅにあり、殷盛の地として知られ、

ボスロス（Bosporos）海峽は黑海とマルマラ海とを連ぬる水道にして十七粁の長さを有するが屈折して、兩岸七粁を距てゝ四粁七輔を距てゝ三十一粁、東北に三十一粁、

トイツアキ（Toitza-Serghievo）はモスタルの北々東六十四粁にあり、金豊、元貢、帝の幼年に見るべきものなきにしもあらざるも本紀の主旨は主として有名なる

なるトロイツア僧院に繫れり、段は新シプの大勢軍の步兵たる人の數多の祈念、願意、

トイツアキ（Toitza-Serghievo）はモスタルの北々東六十四粁にあり、金豊、元貢、帝の幼年に見るべきものなきにしもあらざるも本紀の主旨は主として有名なる

なるトロイツア僧院に繫れり、段は新シプの大勢軍の步兵たる人の數多の祈念、願意、

トイツアキ（Toitza-Serghievo）はモスタルの北々東六十四粁にあり、金豊、元貢、帝の幼年に見るべきものなきにしもあらざるも本紀の主旨は主として有名なる

なるトロイツア僧院に繫れり、段は新シプの大勢軍の步兵たる人の數多の祈念、願意、

の勇士たるキルシの加護に依りて數多の祈念、願意、

爭を包藏し、キリシア正敎徒の設立の詩子念四百八十八

敎中屈指のものにして四大ラブラ（Lavra）（僧院）の一なり。

る於に敎徒一萬に達するを稱すべし。

口千餘に過ぎず。

約二十七米突、最深は五十二米突なり、潮れの方向は風の方向に從屬するも兩海多く一回に五粁の速度を有する

てセライニ岬に於ては一千五百米突あり、深の平均は

の長を有ふ、幅は五百五十米突乃至三千二百米突にして

兩岸に沿ひ七輔を距てゝ四粁七輔を距てゝ三十一粁、東北に三十一粁、

ボ、リンデスネス、等あり、ワランゲル、トロニエム、ソグネ、クリスチアニア、其の他の「フィョルド」(Fjord)(峽灣)は深く陸地に侵入するが、殊にソグネ峽灣の如きは百七十粁の長さを有せり、而して峽灣の沿岸はスエリゲにありては鬱曲に乏しきもノルゲにありては山岳高く聳え最淺の處は灣口にあるを常とす、又島嶼の主なるものはゴトランド、オーランド、ロフォデン、等なり。

顯著なる凸處は西部一帶の地を蔽ひて六百乃至九百米突の地盤の上に臺地又は山彙を形成せり、而してトロニエムの凹窪處の北にありてはキエレン(Kjölen)はフィンマルクに終り、南に於てはドフレ(Dovre)丼に南ノルゲの山脈あり又最高の地はノルゲにありてはガルドヘッピゲン(一五六〇)、スネハット(二三〇六)、等にして、スエリゲにありてはアーレスクタン(一六〇四)、スリテルマ(一八六九)、サリエクチオッコ(二〇九〇)、ケブネカイゼ(二一二三)、等なり、又氷河はノルゲのホルゲホンド、ヨスタダルスブレ(面積九百方粁)、スハルチセン、等を著しとす、而してスエリゲの氷河の總面積は百七十方粁に過ぎず。

分水嶺の西部に偏在する爲の河流はノルゲにありては短小にして急流なれども、スエリゲにありては稍長く其の南部を流るるものは航行の便を供せざるに非ず、就中グロンメン(Glommen)(六四〇)、カリスエルフ(四三六)、リウスネエルフ(三九二)等は稍著し而して瀑布の最も有名なるはマアン河に於けるリウカンフォス(Riukan Foss)、ベルダンゲル峽灣に近きフェリングフォス(Voring Foss)、ゲテエルフにあるトロルハッタ(Trollhatta)、等なりとす、又沼湖はノルゲの地積の千分の二十五を蔽ひ、スエリゲの十二分の一を占むるが、エネルン(五五六八方粁)、メラル(Mälar)(一一六三)等は稍著し。

ノルゲに於ては氣溫の年平均は二度五分なるが西部は海候にして北海丼に北極洋に瀕するの地には降雨多くベルゲンにては二百十一糎に達す、要するにノルゲの氣候は比較的に溫和なりとす、之に反してスエリゲは陸候の國にして北部の年平均は零下二度、南部の平均は七度なるが雨量はウプサラに於て四十一糎に過ぎず。

スカンヂナビア半島にはスエリゲ、ノルゲの二立憲王國ありて一八一四年以來同一の君主の下にありしが一九〇五年に至りて全く分離せり。

住民

◎スヱリゲ

スヱリゲ(Sverige)はスヱーデン(Sweden)或はシゥヱーデン(Schweden)とも呼ばるる憲政王國なり、人口は五百二十九萬餘人なるが多數はスヱリゲ人にしてフィンランド人は二十二萬、ラプランド人は七千弱あり、信教上はルーテル派の新教を奉ずるもの五百七萬餘人あり、教育は普及して讀み書きを知らざるものは全く其の跡を絶ちしが、一萬二千餘の小學校は約七十五萬人の生徒を教養し、ルンドとウプサラに於ける大學は學術の研究に從事せり。

生業

スヱリゲの陸地の過半は森林にして百分中五〇、九を占むるが耕地は僅に八、七にして天然の牧場は三、五なりとす、農業は麥類、馬鈴薯、等を與へ一九〇三年に於ける總產額は二億五千六百九十萬「クロネル」なりき、牧業は牛(二五八萬頭)、羊(一二〇)、豚(八一)、馬(五四)、等を飼養す、鑛業は亦主要なるものにして鐵(四〇八萬噸)、銀、鉛、石炭、等を產するが、製鐵所は甚だ多く殊にモタラを以て主とす、此の外漁業にも見るべきものあり、工業に就きては製粉(九四〇七「クロネル」)、製鐵(五六七七)、器械(五二二七)、精糖(四九二七)、等あり、殊に製紙用木餅(パルプ)(三九五八)、製紙(二九一九)は一億六千九百七十九萬「クロネル」弱の產額に達する製材業に關連して大なる生產力を有す、一九〇四年に於ける貿易は輸入に五億七千八百四十五萬「クロネル」、輸出に四億一千四百七十二萬「クロネル」餘あり、主としてイギリス、ドイツ、ダンマルク、ノルゲ、ロシア及びフィンランド、等と取引するが主要輸入品に石炭「ライ」麥及び小麥、鐵物、器械、珈琲、綿花、皮、生毛、石油、等ありて主要輸出品は木材(一三七)、鐵(六〇)、「パタ」(三五)、製紙用木餅(パルプ)(四一)、紙(二〇)、等なり、而して入船は九百十一萬噸にして出船は九百二十三萬噸なるが商船(一九〇五年)は二千九百六十九隻約六十七萬噸あり、鐵道は國有、私有合はせて一萬二千七百十五粁、郵便局は三千六百二十、電信線は凡そ延長三萬一千粁、電話線は凡そ二十三萬粁の延長あり。

ストクホルム

ストクホルム(Stockholm)(三二、四四八八)(北緯五九度二〇分三四秒、東經一八度三分三〇秒)はスヱリゲ王國の首府なり、メラル湖上に於ける十二三の島嶼に跨り風色佳なり、砂糖、煙草、織物、等を製し、ドイツ、ロシアに對する取引少なからず、ウプサラ(Upsala)(二、四三三九)はストクホルムの北北西にありて稍〻名を知らる、ゲフレ(Gefle)(三、

ゲフレ

ノルケピング　○八四二)はボスニア灣に沿へる商港なり、ノルケピング(Norrköping)(四、四七六〇)はストクホルムの南西に於ける工業地にして砂糖、紙、煙草、等を製す、カールスクロナ(Karlskrona)(二、六六七三)は南岸にありて海軍造兵廠を有す、マルメ(Malmö)(七、二四五九)はスンド海峽に沿ひ繁華なる港を有す、ヘルシングボルグ(Helsingborg)(三、〇二九四)も亦南スエリゲの海港なり、ゲテボルグ(Göteborg)(一四、〇八五一)はゲータ河の口に於ける商港にしてカッテガット海峽に臨めり。

マルメ

ゲテボルグ

住民

◎ノルゲ

ノルゲ(Norge)は立憲王國にしてノルエーゲン(Norwegen)又はノルエー(Norway)とも呼ばる、凡そ二百二十四萬の人口中フィン人、ラップ人等は合はせて二萬餘に過ぎざるが、ルーテル派の新敎を奉ずるものは二百二十四萬人を超ゆ、敎育の普及はスエリゲに劣らずして約八千六百の小學校は四十四萬許の生徒に普通の知識技藝を授けクリスチアニアの大學は高等敎育を施す。

生業

土地の七割五分は不生産的なるが二割二分は森林にして三分は耕地なり、而して森林は六萬八千餘方粁ありて其の七割三分は松杉科に屬せり、農業は穀類、馬鈴薯、等を興へ、牧業は馬、牛(九五萬頭)、羊(一〇〇)、山羊、馴鹿、等を飼養す、然れども生業中にて最も盛なるは漁業にして漁夫約十一萬人、總產額二千九百三十六萬クロネルなり、主要漁獲物は鱈(一二九〇)、鯡(七九二)、鯖にして鱈漁に從事するものは七萬六千人に近し、鑛業は有力ならず、一九〇五年の貿易は輸入に三億一千二百三十四萬、クロネル、輸出は二億一千七百九十六萬クロネルなるが、イギリス、ドイツ、スエリゲ、ロシア及フィンランド、オランダ等と取引を行ひ、主要貿易品は輸入に穀類、纖物、殖民地產物、金物、石炭、等ありて、輸出に獸類及動物性食品(六七百萬クロネル)、木材(三五)、木具(三四)、鑛物(二一)等あり、入船は三百九十五萬餘噸にして出船は三百九十六萬噸に近かりき、商船は一九〇五年に於て七千三百二十隻ありて帆船は五千八百四十三隻、汽船は一千四百七十七隻なりしが、總噸數(一九〇六年)は百四十八萬餘噸(汽船八〇、九六五〇、汽船六七、六八五二)ありて世界屈指の海運國なり、鐵道は二千五百六十粁に止まり郵便局は二千八百七十四を備へ、電信線は延長一萬九千四百三十粁あるが電話線は延長約十四萬六千粁あり。

クリスチアニア　クリスチアニア(Kristiania)(一一二、七六二六)(北緯五九度五四分四四秒東經一〇度四三分二四秒)は王國の首都にして峽灣に瀕し商工業の中心として船舶の製造、木材の輸出等に從事す、ベルゲン(Bergen)(七、二一五一)(北緯六〇度二三分五四秒東經五度一八分一二秒)は西岸に於ける商港にて鰮漁の中心なり、トロニエム(Trondhjem)(三、八一八〇)は當國の舊都たりし處にして商港を有し、鐵路に依りて國都幷にスエリゲに通せり、スタバンゲル(Stavanger)(一一、〇六一三)は ベルゲンの南に於ける要港にして魚類を輸出す、ドラメン(Drammen)(一一、三〇九三)も亦一小港に臨めり、フレデリクスハルド(Frederikshald)(一、一九五七)は クリスチアニアの南南東に於ける軍港なり、ハムメルフェスト(Hammerfest)は ヨーロッパ最北の都會なり。

◎ダンマルク

ダンマルク(Danmark)即ちデンマルク(Denmark)は代議的王國にしてイールランド半島の北部とゼーランド(Beeland)、ヒョネン(Fünen)、ボルンホルム(Bornhorn)其の他、百五十有餘の島嶼とより成るも、地積は三萬八千餘方粁に過ぎずして之にフェルエル諸島を加ふれば約四萬方粁を得るなり。

土地

住民

生業

土地は平低にして起伏少なく、處に依りては堤防の築造を要するが、最高處たるアイエルバフネヘイ(Eier Bavnehöj)と雖も、百七十二米突に過ぎずしてヒンメルベルグの如きは百五十三米突に止まれり、島嶼部に於けるリッテルクネグト(一六二)も此等と伯仲せり、沼地は多くして泥炭田は各處にあり、河湖は多きも著大なるものなし、氣温はスカンヂナビアの二國に比すれば稍高くキョペンヘーフンの年平均は七度四分なり、而して冬季の寒氣は烈しからざるに非ずして島嶼間の小水道は凍結す。

人口は一九〇一年に於て二百四十六萬餘人ありて信教上はルーテル派の新教徒(二四二萬)最も多し、教育は盛にして大學も一校を備ふ。

住民を職業別にすれば農林に從事するもの(九七萬)最も多く、工(六九)、商(三七)等之に次げり、而して土地の八割は生産地にして農業は麥類、馬鈴薯、甜菜、其の他を栽培し、牧畜と共に重要なるものなり、此の他に製粉、蒸溜、釀造等の行はるるあり、一九〇四年の一般貿易は輸入に五億九千九百廿四萬餘「クロネル」ありて輸出に四億九千七百八十四萬「クロネル」弱あるが、主としてイギリス、

キヨベンハーフン(Kjöbenhavn)(四一・六五四〇東北經一五度三四分四一・二三秒は「コペンハーゲン」(Kopenhagen)とも稱せらるゝデンマルクの國都にしてゼーランド島の東岸に位し要港の一たり往昔の盛況を呈せざるも商業繁榮し鑄物紡績造船煉瓦等の諸業行はれ北ヨーロッパ第一の都會たるを失はずして著名なる大學を有すアアルフス(Aarhus)(五五・一九三)はイールランド半島の東岸にありて製粉皮に從事すアアルボルグ(Aarborg)(五七・一五〇九)はリム峽灣に沿へる港なり漁船の出入少からず。

フエルエル(Föröer)諸島(一三九方粁)は二十二島より成りて住民(二、五三〇人)は漁業牧畜業等に從事せり。

オデンセ(Odense)(五五・四〇)は「フユン」島にありて穀類家畜を集散すアアルボルグに就きて主要輸入品は穀類油糟石炭鐵管綿布等なるが主要輸出品は「バター」二五一百萬「クローネル」肉類(九二)酪類(三七)鷄卵(二五)等なり商船に四十三萬「トン」餘ありて鐵路(一九〇五年)に三千百八十二粁あり。

北歐諸國

デンマルク

世界地理提要　よーろっぱ洲　スカンヂナビア　四百九

ゲンマルクの屬地は十九萬餘方粁あるも住民は十二萬餘人に過ぎず。

地方	地積	人口	一方粁に付き
西印度諸島	一九、三四四	二二、〇八九	〇、六
グリーンランド	一〇四七八五	七、八四七〇	〇、七
氷地を見る	八、八一〇〇	一、一八九五	〇、一
	三五九	三、〇五二七	八、五

アイスランド(Island)即ちアイスランド(Iceland)はヨーロッパ第二の大島にして面積は十萬方粁を超ゆ海岸は北西及び東部に於て屈曲多く內部は約六百米突に達する火山質臺地を爲し「エレフアイヤクル」(一九六〇)「スネフエルス」(一八三三)〜「クラ」(一五五七)等の噴火口あり氷田の最大なるものは「ヴアトナイヤクル」にして約七千七百七十方粁に達す温泉は處々に散在し大「ガイサー」は「ヘクラ」に近く位置せり河流は少なからずして湖沼も亦多し氣候は南部に於ては「スコットランド」の北部に類し北部は一層乾燥にして寒冷なり殊に「グリーンランド」より流氷の達するに否と依りて氣温は著しく昇降す天産は乏しきも

「エイデル」、鮭、鱒、鰊、硫黄等あり、住民は四、二〇六八方粁の地にあるのみにして總計は八萬人に達せず、首府レイスキアビック(Reikiavik)は南西岸に於て一小邑を爲せり。

中部

㋐ドイツ

境域　ドイツ國(Deutsches Reich)はジァーマニー(Germany)、アルマーニァ(Allemagne)等の稱呼を有す、中央ヨーロッパの北部を占め、北緯四十七度より五十六度に至り、東經六度より二十三度に達せり、北は北海(四七二粁)、ダンマルク(七六)、東海(一四九二)に接し、東はロシア(一一五七)に隣し、南はエステルライヒ(二二五六)、シュワイツ(四一二)、西はオランダ(六〇七)、ルクセンブルグ(一七九)、ベルジック(一一三)、フランス(三八九)等に連なり、東と西との境界は自然的ならざるが、南西より北東に至る長さは約一千九百六十粁にして、其の四百七十二粁は北及び面積は五十四萬方粁を超ゆ。

海岸　海岸線の延長は約一千九百六十粁ありて、其の四百七十二粁は北海に屬し、殘餘はバルト海に屬せるが、一般に平低にして屈曲に乏しく、灣にクリッシェスハフ、ブリッシェスハフ、ダンチッヒ、ステッチネルハフ、リッペック、エルベ、エーゼル等あり、島嶼にリューゲン島、フリース諸島(東部)、等あり。

地勢　ドイツの地はアルプ山地、アルプ前地、中央高地、北部平野の四部に分かるアルプ山脈にしてドイツに屬するはコンスタンツ湖とザルツブルグとの間に過ぎずして二千米突内外の高を有せるのみ、アルプ前地はコンスタンツ湖とインの河口との間に横たはりてシュワビア高原其の北境を爲し、ドナウの流域に屬するが平均海拔は約五百米突なり、中央高地はドナウの北にありてカルパット山脈よりライン河に至る、海拔は一千五百米突を超ゆるもの殆どなし、北部平原は百八十米突を超ゆる處稀にして主として冲積質幷に氷河的の粘土及び砂より成れり、要するにドイツの平均海拔は二百十四米突に過ぎざるなり。

ドイツ的表意(Vom Fels Zum Meer)(岩より海への義)に從ひてアルプ山地よりバルト海に趨かば土質、外觀、等に差異の存するありて三大地方の別を見るべし、高臺地とドナウ、ネッカル、マインの高谷とより成れる南ドイツ、山岳高隆ならざるも土地は起伏に富み肥沃なる紳園耕地多く、鑛産に乏しからざる中ドイツ并に砂地、沼地、泥炭地、荒蕪地、森林地を包括する平野にして高地より流れ來る並行大河の爲に潤さるる北ドイツ是れなり、而して此等の地域の西方に當りて利害を均しうするも地形の錯綜せるライン地方あり。

南ドイツは北の方アルプ山脈に據り南の方、中ドイツの山彙に達するが流水はネッカル、マイン、等に依りてライン河に趨き又はドナウ河に注入す。

中ドイツは幅百五十粁内外の高隆帶の爲に縱貫せられ、起伏の情態自ら三群を呈し專屬の河流に依りて疏水せらる即ち東方に於けるザクセンのエルベに、チューリンゲンのサアルに、ヘッセンのエセルに對するが如し、而して西方にあるラインの片岩質山地も亦前記の高隆帶に關連せり。

北ドイツは主として北ヨーロッパの大平野に屬し約一千粁の長さと百五十乃至五百粁の幅を有するが、面積は帝國の半を超ゆるも海拔は概ね百米突以下なり、最高處はダンチッヒ附近のチウンベルヒ(Thumberg)にありて標高は三百三十四米突に達せり、而して東部は粘土又は砂礫にて蔽はれ湖沼極めて多く、沿岸にはハッフ(Haff)即ち潟の存在を認むるが、西部には沼地、泥炭地多く、沿海地には「マルシ」(Marsch)並に「ゲースト」(Geest)ありて沖合には東フリース諸島(Ost Friesische Inseln)の連鎖的に配置せらるるを見るべし。

山誌　アルプ山脈は東西に走れるが、ボージュ(Voges)、ハルト(Hardt)、シュワルツワルド(Schwarzwald)、オーデンワルド(Odenwald)、スペッサルト(Spessart)等は南南西より北北東に向ひ、シュワビッシェルユラ(Schwabischer Jura)、フランケンユラ(Franken Jura)、レーヌ(Rhön)、フンスリュック(Hunsrück)、タウヌス(Taunus)、ヱスターワルド(Westerwald)等は南西より北東に走る、之に反してハルツ(Harz)、エーゼルベルグ(Weserberg)、トイトブルゲルワルド(Teutoburgerwald)、チューリンゲルワルド(Thüringerwald)、ベーメルワルド(Böhmer wald)、バイイッシェルワルド(Bayischerwald)等は北西より南東に趨けるものの如し。

河流

水誌　ドナウ河は東流して遂に黒海に趨くも、其の他の河流は概ね南東より北西に向ひて北海或はバルト海に入る、其の北海斜面にライン、エムス、ヱゼル、エルベあり、其のバルト海斜面にオーデル、ワイクセル(Weichsel)、メメル(Memel)等あり而して北部平原の河流は各、灌域の中心を過らずして西方の分

水嶺に近づきて走り最長の支流を右岸に受く、假令ばエムスに對するハアゼ(Haase)、エゼルに對するアルレル(Aller)、エルベとハーフェル(Havel)、オデールとネッツェ(Netze)との如し。

オーデル(Oder)河、はエステルライヒに發源するもプロイセンに屬する部は九百粁に達す、水深著しからずして沙洲の横はるあれば航行に便ならず、プレスラウを過ぎりボベル、ナイセ、等を左岸より受け、ネッツェを合はせ來るワルテを右岸より容れステッチン附近に於てダスハッフ(Das Haff)に入りユゼドム、チリン二島の間よりバルト海に通ず。

エルベ(Elbe)河、はベーメンに發源しシアンダウ(Schandau)の峽谷を經てザクセンに來りドレスデンを通過したる後、サアル(Saal)河を左岸より、スプレア(Sprea)河を提げ來るハーフェル(Havel)河を右岸より受け、河口を距ること百二十粁に於てハンブルグに接したる後、下流は漸く廣濶と成りて河灣を爲せるも沙洲多く水底淺く船舶の出入はクックスハーフェンに依りて行はる。

エゼル(Weser)河、の源流をフルダ(Fulda)及びエルラ(Werra)と云ふ、其の相合するや通舟の便備はりエストファレン門に於てエゼル山脈を貫きて北ドイツの平野に出でアルレル(Aller)河を容るるも水層薄く沙洲の間を北西に流れて北海に朝す。

湖沼は北部平原に甚だ多くして殆ど枚擧に暇あらずと雖も中央高地には記すに足るものなく、南進すればボーデン(Boden)湖の外にアンメル(Ammer)、キヮルム(Würm)、ケーニヒ(König)、ヒエム(Chiem)等の諸湖あり。

氣候　高地と海洋との關係は此の國に於ける降雨の情勢を定めたり、平野にありては西より東に趣くに從ひて陸候の度を增し、雨量はブレメンの七十糎、ベルリンの五十九糎、ダンチッヒの四十八糎と漸次に減少し、寒暑の差は愈〻強く、氣温の變化は漸く激烈と成る、而して西部幷に南部にありては氣温稍〻高く降雨多く變化は漸く少なし、フランクフルトに於ける年平均は十度なりとす、又南東の高地幷に山岳の地にありては冬季は嚴寒を覺ゆ。

沿革。西紀前四世期の頃ローマ人は始めてゲルマニ種族の存在するを知れり、當時彼等はエルベ、ライン間に住しマインの北にありしが次第に地を擴めて西紀四世期の頃は益〻ローマの領土を侵し遂にフランク國を建設せり、紀元八〇〇年法王より帝冠を授けられしシアルルマーヌはザクセン、ウンガルンをも從へ、帝の沒後國は分裂してドイツ、フランスを生ぜしなり、其の後オットー大帝出でて國境を進め、エスパニア王カロロはドイツ、ネーデルランド、イタリアの大部分を支配せしことありしが宗教改革、三十年戰爭の結果帝國は割據の姿と成り一時は約三百國を數へしと云ふ、ナポレオンの出づるやライン同盟は彼を盟長と仰ぎ一八一五年にはド

イツ聯邦と變じたり、其の時聯合せるもの は三十五國なりき而して聯邦に於ける覇權の掌握に關して紛爭ありしがエステルライヒは聯邦より除去せられプロイセン代て盟主と成るに至れり、爾來フランスとの戰爭(一八七〇―七一)に依りてエルザス、ロートリンゲンを得たるの外は著しき變化を見ず、又ドイツの殖民的擴張は一八八四年に始まりて漸次に領土の發達するを見たり。

住民　人口は約六千六十四萬人(男二九、八八、三女三〇、七五、四)にして一方粁に付き百十二人なるが、一八七一年以來の增殖は約一千九百五十萬人なり、而して住民を國籍別にすればドイツ(五五、五八、七)、外國(七七、八)と成り、後者はエステルライヒ(三七、二)、オランダ(八、八)、イタリア(六、九)、シュワイツ(五、五)、ロシア(四、六)、ダンマルク(二、六)、フランス(二、〇)等より成れり、又一九〇五年に於ける海外往住者は約二萬八千人にして主として合衆國に向へるが、一九〇一年の調査に從へば外國在留ドイツ臣民は三百五十萬人以上にして、其の二百六十六萬九千餘人は合衆國に住み殘餘はエステルライヒ(一一、四)、シュワイツ(一六、八)、ロシア(一五、一)、フランス(九、〇)、ベルジック(五、三)、イギリス(五、三)等に居りたり。

ドイツ人中にても北部のプロイセン人、南部のバイエルン人が歷史、習慣

等を異にする如く、宗教上に於けるも北、南、東の三部は各、其の趣を異にせり、新敎信者は其の數三千五百二十三萬餘人にして北部、中部に多く、ローマ公敎の信者は二千三十二萬餘人にして南部、東部にあり、而してユダヤ敎を奉ずるものは五十九萬人に近し。

敎育は甚だ盛にして各種の機關を具備し一九〇二年に於て壯丁中の無學者は〇、〇四に過ぎざりき、初等敎育は强制的にして年齡は六歲より十四歲に達し公立の國民學校(Volksschulen)は五萬九千餘ありて四億二千萬マルク」弱に依りて八百九十二萬餘の生徒を敎養するが、私立には六百四十三校、四萬一千餘人あり、中等敎育には一千百二十二校ありてギムナシア(Gymnasia)(四六八)、プロギムナシア(四八)、オーベルレアルシュールレン(二六五)等に分かれ、大學は二十一ヶ處にあるが學術上の進步、發明の著大なるを以て名あり、又實業學校、專門學校、等數多くして農商工を始めとし其の他各種の生業の發達に資せり。

住民の最も多く使用するものはドイツ語(五一八八)にしてポーランド(三三二)、フランス(二二)、ダンマルク(一四)、チェヒ(一〇)、リタウ(一〇)、其の他の外國語を用ふるものは四百二十三萬餘人に過ぎず。

政治　一八七一年の制定に係りて一八八八年の改正を經たる憲法に從へばドイツはドイツ皇帝(Kaiser)の高等統治の下にある立憲聯邦にして行政權を始めとし條約の締結、宣戰媾和等の權は皇帝に屬し、兵備、財政、通商、交通司法等の如き聯邦全體に關する法律の制定は聯邦會議「ブンデスラート」(Bundesrat)と國會「ライヒスタグ」(Reichstag)との共に司る所なり「ブンデスラート」は各邦より派遣せる五十八人の全權委員より成るが其の十七人はプロイセン、バイエルンは六人ザクセン、井ウルテンベルヒ各、四人、バーデン、ヘッセン各、三人、メクレンブルグシュエリン、ブラウンスワイヒ各、二人、其の他一人宛なり「ライヒスタグ」は一般の投票に依りて選出したる三百九十七人の議員より成れり、其の任期は五年にして選擧權及び被選權は二十五歳に達して之を享くべし、聯邦は一大國、四中國、二十小國より成りて各國に二院或は一院の議會を有し、三自由市は共和國にして其の他は君主國なるがエルザッス＝ロートリンゲンは別に一の帝國領土を爲し、該領土に關係を有する事件に就きては太守(Statthalter)は下院に委員を派遣するなり。左表中◎は二院なるを示せり

	國名	面積(方粁)	人口	方粁に付	首府
王國	◎プロイセン	三四、八六五八	三七二九、三三二四	一〇七	ベルリン
	◎バイエルン	七、五八七〇	六五二、四三七二	八六	ミュンヘン
	◎ザクセン	一、四四九三	四五〇、八五三三	三〇一	ドレステン
	◎井ウルテンベルヒ	一、九五一四	二三〇、〇三三〇	一一八	スツットガルト
大公國	◎バーデン	一、五〇八一	二〇〇、九三二〇	一三三	カールスルーヘ
	◎ヘッセン	七六八一	一二一、〇一〇四	一五七	ダルムスタット
	メクレンブルグ＝シュエリン	一、三一二七	六二五〇四五	四八	シュエリン
	ザクセン＝ワイマル	三六一七	三八、八〇九五	一〇七	ワイマル
	メクレンブルグ＝ストレリッツ	二九三〇	一〇、三四五一	三五	ノイストレリッツ
	オルデンブルク	六四二七	四三、八八五六	六八	オルデンブルグ
公國	ブラウンシュワイヒ	三六七二	四八、五六五五	一三二	ブラウンシュワイヒ
	ザクセン＝マイニンゲン	二四六八	二六、八一九六	一〇九	マイニンゲン

君國	ザクセン＝アルテンベルヒ	一三二四	二〇、六五〇八	一五六	アルテンブルグ
	ザクセン＝コブルブ及びゴダ	一九七七	二四、二四三二	一二三	コブルグ ゴダ
	アンハルト	二二九九	三二、八〇二九	一四三	デッサウ
	シワルツブルグ＝ゾンデルスハウセン	八六二	八、五一五二	九九	ゾンデルスハウセン
	シワルツブルグ＝ルドルスタット	九四一	九、六八三五	一〇三	ルドルスタット
	ワルデック	一一二一	五、九一二七	五三	アロルセン
	ロイスエルテレルリニエ	三一七	七、〇六〇三	二二三	グライツ
	ロイスユンゲレルリニエ	八二七	一四、四五八四	一七五	ゲラ
	シアウムブルグ＝リッペ	三四〇	四、四九九二	一三二	ビウツケブルグ
	リッペ	一二一五	一四、五五七七	一二〇	デトモルド
自由市	○リウベック	二九八	一〇、五八五七	三五三	リウベック
	○ブレメン	二五六	二六、三四四〇	一〇二九	ブレメン
	○ハムブルグ	四一五	八七、四八七八	一六五〇	ハムブルグ
	エルザッス＝ロートリンゲン	一、四五一三	一八一、四五六四	一二五	ストラスブルグ
	ドイツ聯邦	五四、〇七四三	六〇六三、七八五九	一一二	ベルリン

兵備。 兵備上ドイツは世界屈指の強國なり、兵役は十七歳より始まるが服役は常備(七年)現役三年或は二年、豫備四年或は五年、國民(十二年)第一(五年)第二(七年)、補充(十二年)の三種に分たれ滿二十歳より三十九歳に至りて止むを常とす。

陸軍 平時(一九〇六年)に於ける陸兵は士官二萬四千六百七十九人、下士八萬三千九百六十六人、兵卒四十九萬九千三百七十八人、馬匹十萬九千五百二十七頭ありて軍屬は六千餘人あるが、之を二十二師團に編成す、戰時に於ける兵員は五百萬人に達すべしと云ふ。

海軍 海軍には百二十四隻、五十四萬餘噸あるが建造中のものを記せば戰列大艦(一、三二〇〇噸)六隻、大巡洋艦(一、一六〇〇)二隻、小巡洋艦七隻、潛航艇六隻あり。

艦種	隻數	噸數	馬力	艦種	隻數	噸數	馬力
戰列大艦	二五	二六、八九五〇	二九、五九〇〇	砲艦	六	五六〇〇	七八〇〇
海防艦	八	三、二九八〇	四、〇〇〇〇	河上砲艦	三	—	—
甲鐵砲艦	一二	一、三〇〇〇	九二〇〇	練習艦	一四	二、六四六七	二、一二五〇
大巡洋艦	一二	九、一四〇〇	一六、一七〇〇	特別艦	一一	二、四六六一	三、三六八〇
小巡洋艦	三二	七、六二八〇	一九、八六〇〇	合計	一二四	五四、二五八八	七七、八一三〇

財政。 一九〇六―〇七年の歲入出は各二十三億九千七百餘萬「マルク」を示

し、歳入は關稅及び消費稅(九〇八百萬「マルク」)、郵便電信(五五二)、鐵道(一〇七)、其の他より得らるるが、經常歳出は主として陸軍(六一六)、郵便電信(四六六)、收稅(二一〇)、國債(一一三)、海軍(一一二)等に充てられたり、而して一九〇三年末の國債は三十六億五千三百五十萬「マルク」なり。

林業

農業

生業　ドイツの土地は百分中九十一の生産地を有し不生産地は九に過ぎざるが、一八九五年の調査に從へば千人中三五五、五は工業に從事し、三四九は農業に、一一五、二は商業を營み、ドイツ人が學理の應用に依りて自國の生産力を利用し以て比較的に多量の物品を製造するは實に驚嘆するに餘あり、林業は帝國の生業中にて主要なるものの一にして林地は帝國の二割六分足らずを占め、南部、中部に於ては三割乃至三割九分に達し、プロイセンのみにても四千萬圓の收益を得と云ふ、蓋し地味は佳良なるに非ざるも智識と人工とは斯業をして今日の盛況を呈せしめ、保存培養上、南部及び中部の森林は世界第一と稱せらる、農業の最も發達せるは北部、東部にして殊にシレジエン、ザクセン地方を以て然りとす、而して穀類には小麥(三八〇萬噸)、ライ麥(一〇〇六、大麥(二九四)、燕麥(六九三)等あるが、多量の馬鈴薯(三六二八)は穀類の不足を補ひて餘ありとす、コンスタンツ湖沿岸の地、エルザッス、其の他ラインの河畔の地は葡萄(七二四萬「リートル」)を產し、アンハルト、ブラウンシュワイヒ、ザクセン、シレジエンは甜菜の產地として ヨーロッパ第一と稱せらる、此の他に牧草(二一五〇萬噸)、ホップ(二二、二)、煙草(三、四)等あり。

牧業　牧業に就きては八萬七千方粁の紳圖を以て多數の畜類を飼養せり、牛は約千八百九十四萬頭ありて、馬は凡そ四百二十萬頭、羊は九百六十九萬餘頭、豚は一千六百八十一萬頭、山羊は三百二十七萬頭に近し、而して各〻の大部はプロイセンにあり。

鑛業　鑛業は近來長足の進歩を爲して一九〇三年に於ける鑛產總額は十三億一千二百萬「マルク」(ルクセンブルを含めり)なるがドイツ鑛產の大部はプロイセンにあり、同國の主要なる鑛業地は石炭及び鐵にエストファーレン、ラインプロイセン、シレジエンあり、銀銅にハルツ、亞鉛にシレジエンあり、ザクセンも石炭、鐵、銀を興へ、ロートリンゲンも亦石炭、鐵の產多し。

工業に從事する者(一八九五年調査)は鐵工業に五十二萬餘人ありて器械、器具に五十八萬餘人、織物に九十九萬餘人、製紙に凡そ十五萬人、熟皮「ゴム」に約十六萬人、木具に約六十萬人と概算せらる、製鐵業の重要中心はプロイセン、エルザッス＝ロートリンゲン、バイエルン、ザクセンにありて鋼鐵はラインプロイセンに於て製せられ、ザクセンは織物の主産地なるが、シレジエンも亦亞麻布を製し、エルザッス＝ロートリンゲン、キヲルテンベルヒ、バーデン、バイエルンは綿布を輿へ、毛織物はプロイセンの諸州より出で、絹布はラインプロイセン、エルザッス、バーデンより出づ、又甜菜糖はプロイセン、ブラウンシヲワイヒ、アンハルトに產し、粗糖約百八十二萬佛噸、糖蜜二十八萬佛噸弱を輿ふるが、精糖は百四十一萬佛噸に近し、シレジエン、チューリンゲン、ザクセンに硝子、陶器、土器あり、キヲルテンベルヒ、バイエルン、キヲルテンベルヒ等に「ビール」の產あり、一九〇三年の「ビール」產額は六千八百七十四萬三千「ヘクトリートル」に達せり、此の外、イセルローヌ、レムシアイド、ヴイスブルグ、ソリゲンの金屬器を以て聞ゆるあり、スッチン、キール、アルトナの造船

に從事するあり。

貿易は漸次進歩しつつありて一九〇五年に於ける輸入は約七十四億三千六百萬「マルク」にして輸出は五十八億四千一百餘萬「マルク」なれば全計は百三十三億「マルク」に近し。

年次	輸入 貨物	輸入 貴金屬	輸入 計	輸出 貨物	輸出 貴金屬	輸出 計
一九〇一	五四二一	二八九	五七一〇	四四三一	八一	四五一二
一九〇二	五六三一	一七四	五八〇五	四六七七	一三五	四八一二
一九〇三	六〇〇二	三一八	六三二一	五〇一四	一一五	五一三〇
一九〇四	六三六四	五〇〇	六八六四	五二二二	九二	五三一六
一九〇五	七一二八	三〇七	七四三六	五七三二	一一〇	五八四二

今一九〇五年の主要なる取引先を記せば輸入の部にロシア(一一二)、合衆國(一〇〇四)、イギリス(七八四)、エステルライヒ＝ウンガルン(七七三)、フランス(四〇九)、アルヘンチナ(三六九)、イギリス領印度(二七七)、ベルジック(二七七)、オランダ(二五六)、イタリア(二一五)、シヲワイツ(一九〇)、ブラジル(一七二)、チレー(一六八)、等あり輸出の部にイギリス(一〇五七)、エステルライヒ＝ウンガルン(五九四)、合衆

國(五四三)、オランダ(四四八)、ロシア(四一一)、シヮワイツ(三六九)、ベルジック(三一二)、フランス(二九三)、ダンマルク(一八五)、イタリア(一七五)、スヱリゲ(一五九)、アルヘンチナ(一三一)等あり。

次に貨物を種類別にせば輸入は原料品(三四五七)、食料品(二〇六〇)、製造品(一三二八)、生獸(二八三)の順と成るが、輸出は製造品(三八二三)、原料品(一四〇〇)、食料品(四八九)、生獸(一八)と成る、而して主要輸出入品は輸入に穀類(八〇四)、綿花(四三四)、皮革(四二九)、獸毛(三九六)、畜類(二六三)、木材(二六〇)、石炭(二〇三)、珈琲(一七一)、絹絲(一六五)、銅(一六五)、種子(一六三)、カウチック(一四三)、化學製造品(一四〇)、果物(一三四)、鐵(一三二)、葉煙草(一二二)、鷄卵(一二二)、チレー硝石(一一〇)等ありて輸出に化學製造品(四七五)、綿布(三八〇)、鐵器(三五九)、器械(三二二)、毛織物(二九三)、石炭(二八七)、鐵(二二四)、皮類(二〇七)、砂糖(一八三)、絹布(一四九)、小間物(一六六)、被服(一三一)、熟皮(一三〇)、銅器(一二一)、紙(一〇八)、穀類(一一六)、樂器(一〇一)等あり。

出入船舶に就ては入船に九萬五千二百隻(ドイツ七、二八二八、外國二、二三七二)、約二千二百三十五萬噸(一三〇四、七四八二、九三〇、五七五四)ありて出船は九萬五千餘隻(七、三四三〇、二、二二七九)凡そ二千二百四十二萬噸(一三一二、三二三三、九二九、六五四二)あり。

交通に就きて記さんに一九〇〇年に約百七十四萬噸ありし商船は一九〇五年に至りて二百三十五萬噸を超え、其の凡そ二百十萬噸は北海にあり。

沿海地	商船 隻數	商船 噸數	船舶噸數 入船	船舶噸數 出船
ハムブルグ	一一三九	一二五、六八八七	九四五、〇六五三	九六、四八〇二
ブレメン	六三二	六九、三八七〇	二七三、三六七五	二七八、四三五五
プロイセン	二一三六	二八、三一七一	八五七、九二七三	八三二、二三四二
オルテンブルク	二一六	五、六三二八	五〇、二二一六	四二、〇一三六
リウベック	五一	三、九五〇四	一〇〇、二〇四九	一〇〇、六一六六
メクレンブルグ	五〇	二、二八一五	五七、七一〇〇	九六一、〇六五三

ハムブルグはクックスハーフェンと相俟ちて世界屈指の商港を爲し、ブレメンはブレメルハーフェンを控えドイツ第二の商港たり、其の他、ステッチン、キール、ダンチッヒ、リウベック、ケーニヒスベルヒ、等の各港も亦盛なり。

内部の航路は一萬四千粁の長さを有するが殊にブランスブッテルとホルテナウとを連ねる北東兩海運河は九十八粁の長さを有し幅は表面に於て六十

米突、水底に於て二十二米突に達し、水深は八米突半なり。

鐵道には國有(五、一九八五粁)あり、私有(五一九六)あり、合はせて五萬七千百八十一粁(一九〇六年)に達す、而して電氣鐵道は三千七百九十四粁あり。

郵便局は三萬九千餘ありて電信線は十四萬三千七百九十二粁の長さと五十三萬三千六百粁弱の延長とを有するが、電話線は市内に九萬一百七十四粁、此の延長二百十一萬四千六百餘粁、市外線四萬七千四百五十粁、此の延長五十七萬八千五百粁許あり。

處誌 ドイツ帝國は二十六邦を以て組織せらるるが地域、人口に大なる不同あり由て左に主要なるものに就きて記す所あらんとす。

プロイセン プロイセン(Preussen)は一にプロシア(Prussia)と云ふ、ドイツ帝國中に於ける最要の國にして北ドイツの殆ど全部、ポーヘンツォルレン及び分散せる十三部より成りて、面積は三十五萬方粁に近く、實に帝國の約六割五分に當れるが、住民は三千七百三十萬人に近くして總人口の凡そ六割に當れり、種族に就きて二百五十萬人はポーランド人なるも殘餘はドイツ人なり而して信教上は新教徒(二三三四)最も多く、ローマ公教徒(一三三五)之に次ぎてユダヤ教徒(四〇)も多少あり、教育は頗る進歩せり。

プロイセンは立憲王國にして立法權は貴族、代議の二院より成れる議會に屬し、内閣は外務、法務、内務、海軍、陸軍、宗教及び教育、財務、農林、商工、土木の諸長官より成れり、地方は一市、十三州に分たれ各州は若干の縣より成れり。

ベルリン ベルリン(Berlin)(二一〇四、〇一四八)(北緯五二度三〇分一七秒東經一三度二三分四三秒)は地味磽确なる平野の中にありてエルベ河の支流ハーフェルに注ぐスプレア河に跨り河港を爲せり、ブランデンブルグ大侯の建設に係る一小都會なりしが近代に至りて迅速の進歩を爲して遂に今日の隆盛を見るに至れり、實に一八〇四年に於ける人口は十八萬二千餘人に過ぎざりしなり、街衢端麗、道路廣濶、交通上の要區にして商業、工業共に繁榮し、學術上の淵叢にしてドイツの帝都、プロイセンの王都たるのみならず、世界政治の一中心なり、チエルガルテン(Tiergarten)の西に、シャルロッテンブルグ(Charlottenburg)(二三、九五五九)及び南にシェネベルヒ(Schöneberg)(一四、一〇一〇)あり、共に繁華の新街たり、スパンダウ(Spandau)(七、

マグデブルグ
アルトナ
キール
ハルレ
ステッチン

○二五九)はハーフェルとスプレアとの合流地に於ける軍府なり、兵器廠、軍用倉庫等を有す、ポッダム(Potsdam)(六、一四一四)はハーフェル河中の一島にあり、軍府の一にして附近にサンスーシー(Sans-Souci)、其の他の城邸あり、ブランデンブルグ(Brandenburg)(五、一二三九)も亦ハーフェルに沿ひ羅紗、麻布、加工紙を產す、マグデブルグ(Magdeburg)(二四、〇六三三)はエルベ河畔の軍府にして毛布、砂糖の產あり、ハルブルグ(Harburg)(五、五六七六)はハンブルグに對せる商港なり、アルトナ(Altona)(一六、八三二〇)はハンブルグに接する商港なり、キール(Kiel)(一六、三七七二)はフェールデン(Föhrden)の一に瀕す、軍港の所在地なるが商業も亦盛なり、ハルレ(Halle)(一六、九九一六)はエルベの支流ザーレに瀕す、食鹽、石炭を產し車輛、器械、ビール、等を製し大學を有す。

ステッチン(Stettin)(二二、四一一九)はオーデルの下流に沿ひ麥粉の集散港にして商業繁榮す、フランクフルト(Frankfurt a. O.)(六、四三〇四)はベルリンの南東、オーデルの右岸に位し機械、金物、等を製す、グルリッツ(Görlitz)(八、三七六六)はシレジエンにありて毛布、麻布を產す、リーグニッツ(Liegnitz)(五、九七〇六)はグルリッツの東方に位し戰史上著名の地なり、ブレスラウ(Breslau)(四七、〇九〇四)はオーラウとオーデルとの合流地に於ける工業地にして油類、煙草、鞣皮、等を製す、ボーゼン(Posen)(一三、六八〇八)はワルタに沿へる軍府なるが生毛の市場なり、ブロンベルヒ(Bromberg)(五、四二三一)はワイクセルを距ること遠からざるが砂糖、煙草、等を製す、ダンチッヒ(Danzig)(一五、九六四八)はワイクセルの河口に近き商港にして木材、酒精を輸出す、要塞地の一たり、エルビング(Elbing)(五、五六二七)はダンチッヒの南東東、航河に瀕し器械、船舶、等を製す、ケニーヒスベルヒ(Königsberg)(二二、三七七〇)はプレゲル河を帶べる軍府なり、各種の工業に從事し農產を集散するが殊に琥珀の市場として知らる。

ブレスラウ
ボーゼン
ダンチッヒ
ケニーヒスベルヒ
ハンノーフェル
カッセル

ハンノーフェル(Hannover)(二五、〇〇二四)は舊、同名の王國の首府たりし處なり、エーゼルの流域にありて製鐵、紡績に從事す、ゲッチンゲン(Göttingen)(三、四〇八一)はハンノーフェルの南方に位し大學を有す、カッセル(Kassel)(一二、〇四六七)はヘッセンカッセル國の首都たりしことあり、毛織物、器械類を製す、附近に井ルムホーヘの名城あり、エルフルト(Erfurt)(九、八八四九)はチューリンゲンの

首都たりしことあり、オスナブリュク(Osnabrück)(一五九五八〇)はエムス河の支流に沿ひて鐵亞麻布の製造に從事す、ビーレフェルド(Bielefeld)(一七九六七)はオスナブリュクの南東に位し亞麻布を集散す、ミュンステル(Münster)(一四六八)は繊物、皮革等を產す、ヴィルヘルムスハーフン(Wilhelmshaven)は海軍の根據地たり、ドルトムンド(Dortmund)(一七五七七)はミュンステルの南に於ける鑛業地にしてビールを醸造し、ボーフム(Bochum)(一一八四六四)と共に製鐵に從事す、ゲルゼンキルヘン(Gelsenkirchen)(一四七〇〇五)は石炭と鐵との爲に迅速の進歩を爲せり、エッセン(Essen)(一一三一三六〇)はルール(Ruhr)煤田の中心にして製鐵業を營むが有名なるクルップ(Krupp)會社は此の地にあり、ミュルハイム(Mülheim)(九三五九九)は製鐵、石炭の取引に從事す、ヅイスブルグ(Duisburg)(一一九一四三六)も亦製鐵に從事し石炭を集散す、クレフェルド(Krefeld)(一一〇三四四)はライン河の左岸に位し絹布、天鵞絨を以て名あり、デュッセルドルフ(Düsseldorf)(一一五二四)は三ツ七ツ岸にありて屈指の河港たるのみならず、冶金業の中心たり、エルベルフェルド(Elberfeld)(一六一八五三)はデュッセルドルフの北東東に位し綿布、絹布、染物の產あり、バルメン(Barmen)(一一五六〇八〇)はエルベルフェルドの東に位し大陸に於けるリボンの一主產地たり、ハーゲン(Hagen)(七七五〇一八)はルールの煤田にありて鑄物、綿絲を產す、ゾーリンゲン(Solingen)(四九六七)はルールの煤田にありて鑄物、綿絲を產す、ゾーリンゲン(Solingen)(四九六七)はデュッセルドルフの東に位し製鐵業を以て著名なり、レムシャイド(Remscheid)(六四三四〇)はゾーリンゲンの東にありて製鐵に從事す、メンヘングラドバハ(Mönchen＝Gladbach)(六〇七〇九)はデュッセルドルフの西に於ける工藝地にして紡績其の他の諸業に從事す、ケルン(Köln)(四二八七二二)即ちコローニュ(Cologne)はライン河の左岸に瀕す、歷史上著名の地にして交通上の要區、ライン線の一大軍府たり、蒸溜業、其の他の工業に從事し、商業も繁昌せり、大寺院は殊に名を知らる、ボン(Bonn)(八一九九六)はライン河に瀕し大學を有す、コブレンツ(Koblenz)(五三八九七)はライン、モゼルの合流地に位し堅城を有するが右岸のエーレンブライスタイン城と相俟ちてライン河のジブラルタルと稱せらるトリエル(Trier)(四六七〇九)はフランス名をトレーブと云ふ、モゼルの右岸にある舊地にして工業に從事す、ヰスバーデン(Wiesbaden)(一〇〇九五)

フランクフルト

三)はナッサウ國の舊都の地なるがタウヌス山の南斜面に位し有名なる温泉塲たり、フランクフルト(Frankfurt a.M.)(三三、四九二八)はマイン河に跨り、交通上の要區にして、建築物、博物館を以て知らる、金融上若しくは貨物集散上の一大中心なり、附近に繁榮の地多く諺に北のヱッテラウ(Wetterau)はフランクフルトの穀庫、西のラインガウ(Rheingau)は穴倉、東のマインガウ(Maingau)に木石を仰ぎ、南のゲラウ(Gerau)は庖厨たりと稱せらる、アーヘン(Aachen)(一四、一〇一〇)即ちエクスラシャペル(Aix-la-Chapelle)はケルンの西微南、石炭の產地にあり、シャールマーニュ帝國の舊都にして温泉塲の一たるが盛に毛織、機械、針類を製す。

アーヘン

メクレンブルグシュヱリン　メクレンブルグシュヱリン(Mecklenburg Schwerin)大公國の首府はシュヱリン(Schwerin)(四、一六二八)にしてロストク(Rostock)(六、〇七九三)はワルネミュンデ(Warnemünde)を前港とし大學校を有せり。

リゥベック

リゥベック　リゥベック(Lübeck)自由市はバルト海に瀕す、市街(九一五四)はトラフェ河に沿ひトラフェミュンデ(Travemünde)を以て前港とす、往時ハンセン同盟の首府たりし處なり。

ハンブルグ

ハンブルク　ハンブルグ(Hamburg)自由市はエルベ河の下流に位す、ハンブルグ市(八〇、二七九三)(北緯五三度二三分七秒東經九度五八分二七秒)はエルベの河口より一百二十粁、ベルリンの北西二百八十五粁に位す、市街は清潔にして建築壯大、商業極めて盛にして世界第一流の市塲たり、而して自由港の區域は十方粁に餘れるが船舶の出入は合はせて二千餘萬噸に達し通商高は五十二億「マルク」に及べり、實に聯邦第一、世界第三の商港たり。

ブレメン

ブレメン　ブレメン(Bremen)自由市はヱーゼル河に沿へる一小共和國なり、ブレメン市(二一、四八六一)はドイツ第二の商港にして合衆國との交通盛なるが殊に移民の出發地として名あり、ブレメルハーフェン(Bremerhaveh)(二、三九三一)を以て前港となす、北ロイド汽船會社の所在地なり。

ブラウンシゥワイヒ

ブラウンシゥワイヒ　ブラウンシゥワイヒ(Braunschweig)公國は三大部、五小部より成り、首府ブラウンシゥワイヒ(一三、六一六二)はヱーゼルの支流たるアルレルの一支に沿ふ、往時の盛況を證明する建築物あり。

アンハルト

アンハルト　アンハルト(Anhalt)公國は二大部と五小部とに分かる、首

府デッサウ(Dessau)(五、五一、一三、四)はエルベ河とムルデ河との會點に近し、砂糖、毛布、等の產あり。

ザクセン　ザクセン(Sachsen)は一にサクソニー(Saxony)と云ふ、プロイセン、ベーメン、ザクセン諸國と境する王國にして長さ約二百十粁、幅凡そ百四十五粁あり、面積は聯邦の第五位にあるが、住民は第三に居り、宗教上は新敎徒(三九七萬人)最も勢力あり。

ドレスデン　ドレスデン(Dresden)(五一、六、九九、六)北緯五一度三分東經一三度四四分は人口稠密、地味肥沃なるザクセンの王都にしてベルリンの南東、鐵路百八十七粁、エルベ河に瀕し、風色に富みて美術上有名なる處なり、金銀器、造花等を製す、**ライプチヒ**(Leipzig)(五一〇、三、六、三七)北緯五一度二〇分東經一二度二三分三〇秒はドレスデンの北西西、鐵路約百三十粁に位しエルベの支流ザアレに臨めり、商業の一中心にして書籍の出版を以て名を知らる、**ケムニッツ**(Chemnitz)(二九、四九、二七)はドレスデンの西方にあり、位し機械、織物、絲類を製す、**ツキカウ**(Zwickau)(六、八五〇、二)はケムニッツの西微南に於ける工業地なり、**プラウエン**(Plauen)(一〇、五三、八、一)はエルスター河の岸に位するが綿布、モスリン、等を製す。

バイエルン　バイエルン(Bayern)王國はバワリア(Bavaria)とも稱せらる、バーデン及びヘッセン、ダルムスタットに次げる大國にして、住民も亦之に從へり、信敎上はローマ公敎徒に四百三十六萬人あるも新敎を奉ずるものは百七十五萬人に達せず。

ミュンヘン　ミュンヘン(München)(五三、八、九、八、三)北緯四八度八分四五秒東經一一度三六分三一秒はドナウの支流イサル河畔、海拔五二〇米突の地にあり、王國の首府にして建築、繪畫、等を以て美術上に名を知らるるが又盛に「ビール」を釀造す、アウグスブルグ(Augsburg)(九、四九、二三)はミュンヘンの北西西にあり、史上著名の地なるが絲類、機械を製し商業に從事す、レゲンスブルグ(Regensburg)(四、八八〇、一)はドナウとナアプとの合流地に近く位し銅器、砂器、陶器、等を製す、**ニュルンベルヒ**(Nürnberg)(二九、四四二六)北緯四九度二七分二六秒東經一一度四分一秒は南ドイツ屈指の市場にしてマインの支流に跨れり樂器、時計、甑弄品「ビール」、等を製す、**フィウルト**(Fürth)(六、〇六三五)は鏡類、化粧具を產す、**バンベルヒ**(Bamberg)(四、五四八、三)はニュルンベルヒの北に

位しビール、皮革、綿布等を産す、キルツブルグ(Würzburg)(八〇三一七)はマイン河に瀕す、軍府の一にして醫料器械、煙草、家具等を製す、ルドキヒスハーフェン(Ludwigshafen a. Rh.)(七二一八六)はライン河の左岸に位し河港を備ふ、曹達、アニリンの産あり、カイゼルスラウテルン(Kaiserslautern)(五、一三〇六)はルドキヒスハーフェンの西に位せる工業地なり。

キルテンベルヒ

ルンシュワイツと境し、地積は聯邦中第三位を占むるが住民の約七分の五は新教を奉せり。

キルテンベルヒ(Würtemberg)王國。は地積は聯邦中第三位を占むるが住民の約七分の五は新教を奉せり。

スツットガルト(Stutgart)(一四、九四四三)はネッカー河に近き豊饒の地にあり王國の首都たり、パリー、キーンの鐵道幹線に當り建築物、博物館を以て著はれ飾具、ピアノを製すウルム(Ulm)(五、一六八〇)はドナウに瀕す、軍府の一にしてビール、綿布、毛布等を製すハイルブロン(Heilbronn)(四、〇〇一六)はネッカルの右岸にありて花卉を栽培す。

ベーデン

ベーデン(Baden)大。侯。國。は地積上、聯邦の第六位を占むるが住民は概ローマ公教を奉せり。

カルスルーヘ(Karlsruhe)(一一、一二〇〇)は當國の首都にして交通上の要區たり、マンハイム(Mannheim)(一六、一六〇七)はライン右岸に位し街衢殊に端麗なり、軍府の一にして兵器、鏡、煙草、鐵等を製す、ハイデルベルヒ(Heidelberg)(四、九四三九)はネッカルの左岸に位してドイツ國最舊の大學を有するが書籍、煙草の産あり、プフォルツハイム(Pforzheim)(五、九三〇七)は金銀器、羅紗を製す、フライブルグ(Freiburg)(七、四一〇二)はシュワルツワルド山脈の西麓に位す、大學の所在地にして綿布、綿絲等の産あり。

ヘッセン

ヘッセン(Hessen)大。公。國。は南北の二部并にバーデン及びプロイセンの領土を以て圍まれたる十一ヶ處の地より成れり。

首府ダルムスタット(Darmstadt)(八、三一一三)はフランクフルトの南に位し化學品、帽子等を製すマインツ(Mainz)(九、一一九八)はラインの左岸に於ける軍府なり、航通上の要區にして酒類、穀類を集散すウォルムス(Worms)(四、三八四一)はラインの左岸に於ける舊市なり、オッフェンバハ(Offenbach)(五、九七六五)はマイ

ン河に沿へる工業地にして皮革、飾具を製す。

エルザス＝ロートリンゲン　エルザス＝ロートリンゲン(Elsasz-Lothringen)はフランス名をアルサスロレーヌ(Alsace-Lorrine)と云ふ、ドイツの帝國領土(Reichsland)にして東はバーデン、南はシウワイツ、西はフランスと接す、長さ百九十八粁、幅三十五乃至百六十九粁ありて地積は一萬四千五百十三方粁あるが、下エルザス(四七八五)、上エルザス(三五〇五)、ロートリンゲン(六二二三)に分たる。

當地方はケーザルの時代に於てはケルト派の人民の占居する處なりしが、十世期に及びてドイツ帝國の一部を爲せり、一六四八年のエストファーレン條約に依りて其の一部はフランスに割かれ、殘餘はルイ十四世の爪牙に懸り、一六九七年のライスヰック條約を以て全部フランスの手に移りしが、一八七一年のフランクフルト條約は再び之をドイツ領たらしめたり、住民は約百八十一萬人にして下エルザス(六八、六)に最も多くロートリンゲン(六一、五)に最も少なきが、信教上はローマ公教を奉ずるもの(一三八)多し。

ストラスブルグ　ストラスブルグ(Straszburg)(一六、七六七八)はライン河の左岸を距ること三粁餘、パリーの東四百八十粁に位す、交通上の要區にして軍府の一なるがライン河の兩岸に亘れる十一ヶ處の要塞に圍繞せられ、商業盛にして「ビール」の産あり、ミウルハウゼン(Mülhausen)(九、四四九八)はストラスブルグの南南西にあり、綿布、麻布を造り機械を製す、メッツ(Metz)(六、八四一九)はモゼル河に瀕する重要なる軍府にして九ヶ處に要塞を備ふ又製鐵業の中心たり。

殖民地　ドイツ人は戰勝の餘榮として殖民業を起し僅に數十年にして約二百六十萬方粁の地と一千二百八十萬の住民を領有するに至れり、されば世界の殖民國中にて第五位を占むるの名は存すれども未だ利用の實を收むる能はざるが如し、然れども本國の生産大に增し船舶の發達甚だ速なれば殖民業も亦有望なりと云ふべし。

地方	地積	人口	方粁に付
アフリカ	二三五、二二〇〇方粁	一二二〇、〇〇〇〇人	五
トゴ	八、七二〇〇	一五〇、〇〇〇〇	一七
カメルン	四九、五〇〇〇	三五〇、〇〇〇〇	七
ドイツ領南西アフリカ	八二、三五〇〇	二〇、〇〇〇〇	〇、二
ドイツ領東アフリカ	九四、六五〇〇	七〇〇、〇〇〇〇	六

太平洋		四五、二〇〇〇	一、七
ドイツ領新ギニア		四〇、四〇〇〇	一、七
サモア		三、二六一二	一二
膠州灣租借地		一二、〇〇四二	一二七
合計	二四、三八一九	一二七七、〇〇〇〇	五
	二四、〇八二六		
	二五八八		
	五〇一		
	二五九、六五〇〇		

◉エステルライヒ＝ウンガルン

境域　エステルライヒ＝ウンガルン君主國(Österreichisch-Ungarische Monarchie)即ちオーストリア＝ハンガリア (Austria-Hungaria) は中部ヨーロッパに於ける強國の一にして境界は南東のアドリア海に瀕する部分を除く外、悉く陸地にして列國の間に介在せり而して境を接する諸國を列擧すれば北にドイツのベイエルン、ザクセン、ブロイセンあり、北東幷に東にロシアあり、南東にロマーニアあり、南にスルビア、トルコ、モンテネグロ等あり、南西にイタリア、西にシュワイツあり、東西は一千二百九十粁にして南北は八百粁あるが面積は

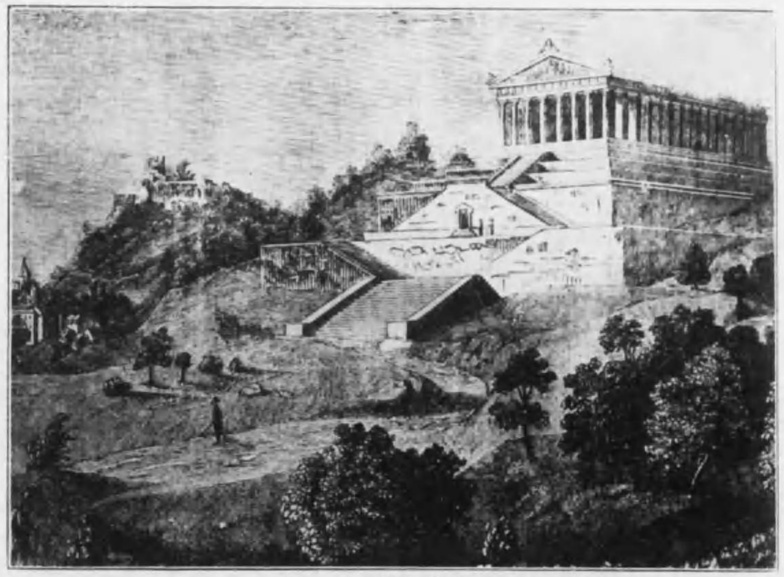
六十二萬方粁を超ゆ、然れども地貌は佳良ならずして一國を組成するに必要なる地理的單一性備はらず、國土の主要部(八割二分)がドナウ河の流域に屬するありて自然的結合に資する所少なからざるも中流以上の地に止まれるの缺點あり。

海岸　アドリア海に於て七百粁の海岸線を有するも交通上の便益を供するに僅にトリエスト、フィウメの二港あるのみなり、又地角の著しきはプンタデプロモントレ、プンタデルラプランカにして島嶼はヘルソ、フェグリア、パタ、グロッサ、ブラッサ、リッサ等を以て主とす。

地勢　山脈は何れも外邊にありて配置は均一ならず、西方にあるアルプ山脈幷に東方に横たはるタトラ(Tatra)、カルパット、外シルバニアの諸脈は顯著なるも、北西より北に亘れるベーメン、エルツゲビルゲ、スデーテン(Sudeten)の諸脈は概して高度を增加せずに過ぎず、南部に於ける隆起帶は平原を距るに從ひて其の高度を增加せり、又此等の山脈に圍繞せらるる內部の平野は舊溺底たりし地にして起伏に乏しく地味肥沃なり。

山誌　山脈は南西及び北東の二群に分つことを得、殊に其の北東に於けるものは二ヶの大なる彎曲を描けり、ベーメルワルド(Böhmer Wald)、フィヒテル(Fichtel)、エルツ(Erz)、リーゼン(Riesen)、スデーテンは其の一にしてタトラ(Tatra)カルパット(Karpat)、外シルバニアアルプは其の二なり而して山岳の最も高きものは三千九百米突を超ゆ。

東アルプ山脈は概ねエステルライヒに屬するが、地質的三帶は完全に露出して石灰的二帶は北と南とにありて結晶的の一帶を挾めり、結晶的アルプは中部を占め著しき海拔を有してレチコン(Rhätikon)、シルブレッタ(Silvretta)、等の横谷を呈す、其の最高峯をピズリナルド(Piz Linard)(三四一六)と云ひてアルルベルヒ(Arlberg)の山越(一七九七)十四世期以來の通路にして新道の開鑿(一七九五—一八二四)を見たるのみならず、一八八四年を以て十粁の隧道と共に鐵道は敷設せられたり、は有名なり、又チロルアルプにはヰルドスピッツェ(Wildspitze)の高峯(三七七六)、レッシェン(Reschen)峠(一四八七)、ブレンネル(Brenner)峠(一三六二)車道は一七七二年、鐵道は一八六七年に建造せらる等あり、ホーヘタウエルン(Hohe Tauern)には三千二百米突を超ゆる四峯ありて氷河は面積の百分の七を被ふ、ニーデルタウエルン(Nieder Tauern)にはスチリアアルプ、等あり、而して北部は顯著ならざるも南部は規模稍〻廣大なり、其のオルトレル(Ortler)山彙は三千六百米突以上の十一峯を有し最高峯オルトレルは三九〇五米突に達し氷河に景奇



ワルハルラ(Walhalla)[ババリア]

井エリクツカ鑛山(會堂)

井エリクツカ鑛山(岩塩の採掘)

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ河及びドニエステルあり、アドリア海斜面にはポー（Po）、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き

ドナウ河は、水源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き

ドナウ河は、水源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海斜面にはエルベ、オーデル、ヴァイクセル（Weichsel）、ドナウ河は源を黒森山脈に發し南ほしてドイツ河を合はせたる後エステルライヒに來り、ウィーン（Wien）、トラウン（Traun）、エンス（Enns）、ドラウ（Drau）、サヴ（Save）、エーグ（Aluta）、ルマニアに入りて黒海に達し以て其流又は蒼河、はするが若き干の小盆地を左岸より容れ、ウンガルン（Ungarn）を出入し幾多の障碍を排して黒海に入り、ドナウ河は水源より河口二十五米突、奥行七十五米突、高さ二十一米突ある山脈の土に依せざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

氣候

地形の錯綜して不整備なるエステルライヒ＝ウンガルンを以て單純なる氣候を有せしむる能はざるは勿論にして唯一の共通性は到る處雪を冠り、工夫は人口内外にて約四百萬の農夫

水誌

河。流の主要なるものはドナウ河及び其の支流なるが、今各斜面に就きて記せば、黒海斜面にはドナウ、ドニエステル、アドリア海斜面にはポー、アディジェ（Adige）、北海

暑の差の大なるの一事なり、寒暖計が夏季に三十四度餘に昇りて冬季に零下三十四度以下に降るが如きことは敢て稀ならず、一般に此の國の氣候は大陸的なり、殊にウンガルンの平野にありては氣温の昇降著しく四季の差別極めて判然たり、ベーメン、ウンガルン、ガリツィエン、等の平低の地に於ては冬は嚴寒に苦み夏は酷暑堪え難し、アルプ、カルパット、等の山地又はクライン、クロアチエンの高地に於ては氣温の平均は下降するも寒暑の差は減少して變化少なく、濕氣は大に其の度を增せり、而してアドリア海沿岸に於ては地中海的氣候を有し、寒烈風「ボルラ」の吹き荒まざる時は冬季と雖も温暖を覺ゆ、夏季は暑氣强く殊に「シロッコ」風の吹き來る時は炎熱灼くが如し、又降雨の最も多きは山地の高處と沿海の地方なりとす。

沿革　エステルライヒは七九六年に設けられたるシャルルマーニュ帝國の東境州より起り、一一五六年公國に進み、ハプスブルグ家の代に於て强大なる國と成り、一四三八年より十九世期までドイツの覇權を握り居りしが一八六六年プロイセンとの戰に敗れてドイツ聯邦を脫せざるべからざるに至りしが翌年を以てウンガルンと共に聯立の君主國を組成したり。

ウンガルンの地たるや早くフン、アバール、等の占領する所と成りしが、八九八年アルパドの率ひたるマジアール人に征服せられたり、爾來マジアールは隣地を侵略し一〇〇〇年に至りて王國と成りたり、其後一二四一年に於て甚しくモンゴルに荒されたるもアンジュー家の代ウンガルン、ボーランドの合併ありて當國は其の地位を進めたり、然るに一五二六年トルコ人に敗られて國土の大部分を失ひ、殘部はハプスブルグ家の手に止まりたり、而して一六九九年及び一七一八年に至りて先に失ひし地をトルコより恢復し一七一一年に終れる八年間の内亂并に一八四八―四九年の革命騷動を經て遂にエステルライヒと聯合せりと雖も其の結合には確固ならざる所あり。

住民　エステルライヒ＝ウンガルンが一國として統一性を缺く點は種々あれども、就中人口配布の不平均と種族の錯綜を極むるとは最も著しきものなり、一九〇〇年の人口調査は、四千五百四十萬餘人（男二二四三女二二九七）を以て方粁には平均七十二人を與ふるも、各地方の疎密を詳にすれば甚しき不平均を見るべし、北西部の市街の地、工藝の中心にありては人口稠密なれども山岳地方又は高原地方にありては極めて稀薄なりとす、下エステルライヒはシュレジエン、ベーメンに於ては百三十二方粁に付き百五十六人を與ふるもシュレジエン、ベーメンに於ては百三十二

人乃至百二十二人に下り、ウンガルンにありては六十人に減じチロル、ザルツブルグにては三十二人乃至二十七人を示すに過ぎず、又種族の如何を考ふるときは實に一驚を喫せざるを得ず、蓋し君主國の成立は歷史的事實の結果に基き毫も國土の自然的鏈鎖の存するに非ず、されば ヨーロッパの三大派族たるツートン、スラブ、ラテンが强固に代表せらるるのみならず又フィン派の優勢なる代表者を觀るに至れり。

言語	エステルライヒ	ウンガルン	君主國
ドイツ	九一七、〇九三九	二一三、五一八一	一一三〇、六一二〇
ウンガルン（マジアール）	九五一六	八七四、二三〇一	八七五、一八一七
チェヒ（スロヴケン）	五九五、五三九七	二〇一、九六四一	七九七、五〇三八
ポーレン	四二五、九一五二	—	四二五、九一五二
ルーテ子ン	三三七、五五七六	四二、九四四七	三八〇、五〇二三
クロアテン、セルベン	七一、一三八〇	二七三、〇七四九	三四四、二一二九
スロフェネン	一一九、二七八〇	九、八四四一	一二九、一七二一
ロマーニア	二三、〇九六三	二七九、九四七九	三〇三、〇四四二
イタリア、ラヂネル	七二、七一〇二	二、七四八二	七五、四五八四
其他	—	二七、一三三八	二七、一三三八
合算セザル分 エステルライヒ在住外國人	五一、七九〇三	—	五一、七九〇三
合計	二六一五、〇七〇八	一九二五、四五五九	四五四〇、五二六七

宗教

而して信教上に於けるも少なからざる宗派ありてローマ公教派（三〇五八）ギリシア及びアルメニア公教派（四九九）、ギリシア正教派（三四二）、新教のアウグスブルグ派（一六五）及びヘルベチア派（二五六）の外にユダヤ教徒（二〇七）等の存するを見る。

教育

教育に就きて記さんにエステルライヒにありては小學校は二萬一千に近くして三百七十四萬餘の生徒を教養す、而して公立小學校七千八百二十校はドイツ語を用ふるがチェヒ語（五一七七）、其の他のスラブ語（五六三四）、イタリア語（七六八）等を使用するものも少なからず、又ギムナシア、レアルシゥーレン（三二八校）、大學（八）、高等なる實業學校、特殊學校、等少からず、ウンガルンにありては一萬九百五校はマジァール語を用ふるも、マジァール及び他語（三三四九）、ド

イツ語(三七一)、スロファク語(四三〇)、ロマーニア語(二一六一)、クロアチア(一四八五)、等を用ふるものもありて大學は三校あり。

政治　エステルライヒ＝ウンガルン君主國はエステルライヒ帝國とウンガルン王國(Magyarország)との二國より成れり、ハプスブルグ・ロートリンゲン家より出づる君主は帝冠と王冠とを戴きて聯合國に君臨すれども、二國に共通なる外務、軍務、財務幷にポスニエン、ヘルツェゴキナに關する立法權に限りてキーンのライヒスラート(Reichsrat)とブダペストのライヒスタヘ(Reichstag)とより撰出せられたる六十人づつ(各上院より二十人各下院より四十人)の代議員(任期一年)之を司れり、而してエステルライヒの立法權はヘレンハウス(Herrenhaus)とアブゲオルドネテンハウス(Abgeordnetenhaus)との二院に屬するが、上院議員は皇族、(一六)、貴族(六四)、有爵大僧正(六)、有爵僧正(七)、大僧正(五)、勅選(一五三)の六種の議員より成り、下院は直接或は間接に選擧せられたる四百二十五人の議員より成れり、ウンガルンの國會はウンガルンに對する立法權且つクロアチエン、スラボニエンとウンガルン本部とに共通なる政務を掌るが、上院(Förendiház)の

議員は其の種類エステルライヒに比すれば一層複雜なり、而して下院(Képviselöház)の議員は公選せられ、其の四百十三人はウンガルンを代表し、其の四十人はスラボニエン、クロアチエンを代表す。

行政　行政に就きては兩國に共通なる事件に對して外務、軍務、財務の三省を置くが、兩國は各、獨立の政府を有し共に其の議會に對して責任を負へり、而して兩國に關する領土の分界は一小河流たるライタなるを以てエステルライヒ並に其の屬地は前ライタ部と稱し、ウンガルン並に其の屬地を後ライタ部と呼べり。

	地方名	地積	人口	方針二付	首府
エ	下エステルライヒ	一、九八五四方針	三一〇、〇四九三人	一五六	ヰーン
	上エステルライヒ	一、一九九四	八一、〇二四六	六八	リンツ
ス	ザルツブルグ	七一六三	一九、二七六三	二七	ザルツブルグ
	スタイエルマルク	二、二四四九	一三五、六四九四	六一	グラツ
テ	ケルンテン	一、〇三三二	三六、七三二四	三六	クラゲンフルト
	クライン	九九六五	五〇、八一五〇	五一	ライバハ

ル	トリエスト及び属地	九五	一七、八五九九	—	トリエスト		
	ゲルツ及びグラチスカ	二九二七	二三、二八九七	八〇	ゲルツ		
	イストリエン	四九五一	三四、五〇五〇	六九	パレンツォ		
	チロル	二、六六九〇	八五、二七一二	三二	インスブリウック		
ラ	フォルアルルベルヒ	二五七〇	一二、九二三七	五〇	ブレゲンツ		
	ベーメン	五、一九六七	六三一、八六九七	一二二	プラーア		
イ	メーレン	二、二二三一	二四三、七七〇六	一一〇	ブリウン		
	シュレジエン	五一五三	六八、〇四二二	一三二	トロッポ		
ヒ	ガリツィエン	七、八五三二	七三一、五九三九	九三	レンベルヒ		
	ブコヰナ	一、〇四五六	七三、〇一九五	七〇	ツェルノ井ツ		
	ダルマチエン	一、二八六三	五九、三七八四	四六	ツアラ		
	合計	三〇、〇一九三	二六一五、〇七〇八	八七			
ウンガルン	合計	二八、二八二四	一六八三、八二五五	六〇	ブダペスト		
	クロアチエン、スラボニエン	四、二五〇一	二四一、六三〇四	五七	アグラム		
総計		六二、五五一八	四五四〇、五二六七	七二			

陸軍は平時に士官二萬八千餘人、下士卒三十五萬餘人あるが、戰時には百八十七萬餘人に達すべし。又海軍は百十五隻、凡そ十五萬六千噸、約三十萬馬力を有す。財政上に於ては全豫算は三部より成り、兩部に共通なる歳出入は各、約三億五千五百萬「クロネ」なるが、前ライタ部の歳出入は十八億二千萬「クロネ」内外にして、後ライタ部は約十二億九千萬「クロネ」の歳出と十二億九千六百萬「クロネ」餘の歳入を示せり。

生業 農業はエステルライヒに於ても主要なるものにして住民の約二分の一は本業に從事し、凡そ二千八百二十五萬「ヘクタール」の耕地に依て一億二千百三十萬「ヘクトリートル」餘の穀類を始めとし馬鈴薯(九七一九萬「キンタル」)、甜菜(五三二三)、葡萄、煙草、ホップ、麻、亞麻、等を與ふるが、養畜に關しては牛九五一萬頭)、馬(一七二)、羊(二六二)、豚(四六八)、山羊(一〇二)等の飼養あり、繭(一六七萬瓲)の產あり、森林は九百八十萬「ヘクタール」に近し、ウンガルンにありては住民の六割八分餘は農業に從事し五十二億三千三百七十六萬瓲の穀類を始めとし馬鈴薯(五〇二七)、甜菜(二一一)、其の他の產ありて馬(二一三)、牛(六

七四)、羊(八一二)、豚(七三三)、家禽(三二七七)の飼養あり、繭は百七十一萬斤に達せず、森林は主としてカルパット、ドラヱ及びサヱ間に存するが、森林の面積は約九百二萬「ヘクタール」にして其の四百七十萬「ヘクタール」は山毛欅林に屬せり、

鑛業

鑛業はエステルライヒに於て一億一千五百七十萬「フロリン」の産額あるがベーメンは鐵、石炭其の他各種の鑛産に富めり、而して主要なる鑛産を記せば褐炭(五〇一九萬「フロリン」)、石炭(四八七二)、生鐵(三五六五)、亞鉛(二〇九)、鉛(二〇〇)、水銀(一四九)、等を得べし、ウンガルンも亦褐炭(三五七二萬「クロネ」)、銑鐵(三三一九)、石炭(一三二一)、金(一一〇七)、等を産す。

工業

工業はエステルライヒに盛なり、本業に從事するものは三百萬人以上あるが、一千四百二十三ヶ處の釀造場は「ビール」約一千九百六十三萬「ヘクトリートル」を製し、三萬九千足らずの蒸溜場は凡そ百五十萬「リートル」の「アルコール」を製するが、玻璃器、其の他各種の製造行はる、ウンガルンに於て工業に從事する者は百十三萬人に達せずして其の二十八萬餘人は衣料に關係を有すると而して九十ヶ處の釀造場は百三十二萬「ヘクトリートル」の「ビール」を產し、六萬七千弱の蒸溜場は凡そ一百萬「リートル」の「アルコール」を與へ、砂糖には一億七千三百八十萬斤、葉卷煙草には四億四千四百萬本、紙卷煙草には十三億七千四百萬本の產あり。

貿易に就きては**輸入**に凡そ二十一億四千六百萬「クロネ」、**輸出**に二十二億四千三百萬「クロネ」弱あるが、此の外に貴金屬の輸入高は五千五百萬「クロネ」を超えたり。

取引先の主要なるものを記せば**輸入**にドイツ(八〇四百萬「クロネ」)、合衆國(二〇三)、イギリス(一五七)、ロシア(一三七)、イギリス領印度及びセイラン(一二五)、イタリア(一〇六)、スルビア(六八)、フランス(六八)、シヴワイツ(五八)、等あり**輸出**にドイツ(一一一四)、イギリス(一九九)、イタリア(一六一)、トルコ(九四)、シヴワイツ(八九)、ロマニア(八二)、フランス(七一)、ロシア(六五)、イギリス領印度及びセイラン(六八)、等あり**主要貿易品**は輸入の部に綿花(一九六)、獸毛(一二六)、石炭(一〇五)、穀類(九七)、器械(六三)、化學品(六一)、皮革(五七)、家畜(五二)、砂糖(一八九)、家畜(一四九)、穀類(九八)、鷄卵(九七)、石炭(八四)、書籍地圖(五二)、種子(五一)、珈琲(五〇)等を得、輸出の部に木材(二五二)、砂糖(一

六)、毛織物(六二)、皮革(五九)、硝子(五九)、麥芽(五三)、革具(五一)、等あり、船舶の出入(一九〇四年)は各、一萬八千隻、一千四百六十餘萬噸なりとす。

一九〇五年に於ける商船は百九十四隻の遠洋航船(三五、四五五八噸)を含みて一萬四千三百八十五隻(帆船一、四三八五、汽船三六〇)四十二萬餘噸(三六、六一一五、四〇二八)あり。

りて三萬九千六百近くの乘組を見るがロイド商船會社は本社をトリエストに置きて海路の航業を專にしドナウ汽船會社はドナウ河の航路を利用せり。

次に鐵道、郵便、電信、電話等に就きて一表を示せば

國名	鐵道	郵便局	電信		電話	
	線路長		線路長	延長	線路長	延長
エステルライヒ	二、一六一九粁	八六二八	四、〇三七三粁	一六、七九二二	二、〇七八八	三七、七一二九
ウンガルン	二、〇一八二	五一〇八	二、三二四〇	三、一六七五	一、五九七〇	四、一三二六
合計	四、一八〇一	一、三七三六	六、三六一三	三、九五九二	三、六七五八	四一、八四五五

處誌　エステルライヒ　キーン(Wien)(一六七、四九五七)北緯四八度一三分二〇秒は一にキエンナ(Vienna)と云ふ、アルプ山脈の末端一四六米突の地にありて遙にカルパット山脈を望みドナウ河に瀕す、交通上の要區にしてドイツ人、ウンガルン人、スラブ人の相隣接せるの地にあるを以て市内に此等の種族雜居す、當地はエステルライヒの首都として中央政府のある處なるが故に市街は頗る殷賑にして宮殿寺院多く建築には見るべきもの多し而して工藝の中心としては飾器、縫箔、磁器等を製す、實に世界屈指の都會たるに耻ぢず、リンツ(Linz)(五、八七九一)は上エステルライヒの首府なり、ドナウの右岸に位する河港の一にして毛布、煙草等を製す、リンツ、ブドワイス間の鐵道はヨーロッパ最舊の線路なりと云ふ、ザルツブルグ(Salzburg)は風色を以て名あり、グラツ(Graz)(一三、八〇八〇)はスタイエルマルクの首府なり、ドラウ河の支流ムルに沿ひ冶金業に從事して鋼鐵を製す、トリエスト(Triest)(一三、四一四三)は帝國第一の商港なり、キーンの南南西鐵路五百九十五粁に位しアドリア海に瀕してカルスト山の麓にあり、船舶の出入は各、二百九十四萬噸を超ゆ、住民にはイタリア人甚だ多し、ポラ(Pola)(四、五二〇五)は海軍の根據地にしてイストリア半島の南端に近く位せり、

エステルライヒ＝ウンガルン

プラーグ

プラハ　ブルノ　ツヴィッカウ　レンベルヒ　ツェルノヴィッツ

プラーグ(Prag)(二一〇・一五八九)は一にプラハ(Praha)と云ふ海抜三〇〇米突の地にありてモルダウ即ちフルタワ(Vltawa)河に沿へり、本市はベーメンの首府たるのみならず農産鑛産に富める地にありて綿布、羅紗、玻璃器等を製し、ツィツコフ(Zizkow)(五九三一六)、スミホフ(Smichow)(四七一三五)等と接續す。ピルゼン(Pilsen)(六八〇七九)はプラーグの南西に於ける工業地なり、ブドワイス(Budweis)(三九三一八)はモルダウ河畔にありて鉛筆、硝石等を産す。ブリウン(Brün)(二〇九三四六)はメーレンの首府なるがマルチの支流に沿ひ絹布、燐寸の産地なり、近傍のキエリツカポヒニアは岩鹽の産地として名あり。ブルツミズ(Przemysl)(四六二九五)はヴイクセル河の支流に沿ひ軍事上の要區たり、器械、鴈精等を産出すレンベルヒ(Lemberg)即ルヲウ(Lwow)(一五九八七七)はガリツィエン即ち赤ロシアの首府にしてググ河の一小支流に臨めり、麻布、器械、陶器等を産するが住民にはユダヤ人、アルメニア人多し、ツェルノヴィッツ(Czernowitz)(六九六二二)はブコヰナ第一の都會なり。

ブダペスト

ウンガルン

ブダペスト(Budapest)(七一・六四七六　東北經一四九七度二三分五一秒)は海抜一〇六米突に位すウンガルンの王都にしてブダ即ちオーフェン(Ofen)とペストとを併稱せるものなるがドナウ河は其の間を流る。ペストは後ライタ部の政府國會の所在地にして商業、工業の盛なる王國第一と稱せらる。ブダはマジアール人の堅城とする所なりプレスブルク(Preszburg)(六一・一五三七)は一にポツゾニー(Pozsony)と云ふドナウの左岸にありてエステルライヒの國境に近し舊都の地なりケクスケメット(Kecskemét)(五六七八六)はブダペストの南東にありマリアテレシオペル(Maria Theresiopel)(八一・四六四四)即ちサバドカ(Szabadka)もドナウ河とタイス河との間にありて農產物の集散地たりセゲヂン(Szegedin)(一〇〇二七〇)はタイス河に瀕し王國第二の都會なり純然たるマジアール市街にして商業盛なりデブレツィン(Debreczin)(七一一三五一)はミスコルツの南東に當り煙草を產すグロスワルダイン(Glozwardein)(四七〇一八)はナギヴァラド(Nagy＝Varad)とも云ふタイスの支流クレス河に瀕し酒精油等を產すアラド(Arad)(五三一九〇二)はタイスの支流たるマロスに沿ひ穀類

家畜等を集散す、テメスファル(Temesvar)(四、九六二四)はアラドの南ベガ運河の濱にありて穀類、煙草等を製す、クラウゼンフルグ(Klausenburg)(四、六六七〇)即ちコロツスファル(Kolozsvár)は後シルバニアの首府なり、アグラム(Agram)(五、七六九〇)は一にツァグラブ(Zagrab)と云ふサヱ河の濱にあり、クロアチエンの首府にして南スラブ人の要市たり、フィウメ(Fiume)(三、八〇五七)はトリエストの南東に於ける商港なり。

アグラム

ノビバザル

◎ボスニエンヘルツェゴヰナ

ボスニエン(Bosnien)、ヘルツェゴヰナ(Herzegowina)の二州は名義上トルコに屬すれども一八七八年のベルリン條約は統治を君主國に委任したり、ボスニエン(四、一九〇八方粁)はボスナ河の流域より成りて起伏多く山林、原野に富めるが、ヘルツェゴヰナ(九一一九)はナレンタ河に依り脊地沼地少なからず、經濟上の價値は著しからざるも君主國對バルカン半島の關係上重視せられ、二萬餘人の士卒をして駐防せしめ、其の約二千八百四十人を派してノビバザル(Novibazar)を占領せしむ、住民は一八九五年に於てボスニエン百三十一萬餘、ヘルツェゴヰナ二十三萬弱、總計百五十三萬五千餘人ありしが、一九〇〇年に於ては總人口を百七十三萬七千人とせり、之を宗教別にせば四割三分はギリシア教徒、三割五分はマホメット教徒、二割一分はローマ公教を奉ず、農業は穀類、果物、蔬菜等を與ふるも、主要なるは牧畜業にして皮革、生毛等を產す、サライエボ(Zarajevo)(四、一五四三)はトルコ名をボスナセライと云ひてミリアナカ河に跨り、金屬器、煙草等を製し市街殷賑なり、モスタル(Mostar)(一、七〇一〇)はヘルツェゴヰナにありて地方の商區なるが住民にマホメット教徒多し。

サライエボ

モスタル

◎リーヒテンスタイン公國

リーヒテンスタイン(Liechtenstein)は一七一九年以來公國として存し、一八八四年に於てエステルライヒの關稅同盟に加入したるが首邑をバヅツ(Vaduz)と云ふ。

◎シゥワイツ

境域　シゥワイツ國(Schweizerische Eidgenossenschaft)はスキゥツルランド(Switzerland)、シゥワイツ

and)、スイス(Suisse)とも呼ばれヨーロッパ中部に於ける小國なり、北にドイツのエルザス、バーデン、ヰュルテンベルヒ、バイエルンあり、東にリーヒテンスタイン、エ、ステルライヒあり、南はイタリアと境し西はフランスに接す、東西は三百四十八粁ありて幅は二百十九粁に達し、地積は四萬一千餘方粁なるを以て我が九州より少しく小なりとす。

土地　シヴワイツは純然たる陸國なるが、山岳は土地の三分の二を占む、南にアルプ山脈あり、北西と北とに二百八十粁の長さを有するユラ山脈ありて此の二山脈とレマン、コンスタンツ兩湖との間に海拔五六百米突のシヴワイツ平原あり、而して此の國の最高點はロザ(Rosa)山(四六三八)にして最低處はマジョレ(Maggiore)湖(一九七)なり、アルプ山脈は南の斜面に於て斷崖絶壁多く、北面の傾斜は少しく緩慢なり、中央のゴタルド(St.Gothard)山彙より二縱谷、三橫谷の發するあり、二縱谷の一はライン上流の谿谷にして北東に趣くが、他の一はローヌ上流の谿谷にして南西に走れり、而して三橫谷中のテッシン(Tessin)は南に、ロイス(Reuss)は北にアール(Aar)は北西に向へり、又ゴタルドの山結

に集合する山脈には南より來るペルンアルプ、レチアアルプあり而してモンブラン山彙は僅に其の北端をシヴワイツに觸るるに過ぎず。

西部アルプ
- ワルリスアルプ　モンテロザ(四六三八)　シンプロン峠(二〇一〇)
- レポンチアアルプ　モンテレオネ(三六六五)　セント、ゴタルド峠(二一一四)
- ベルンアルプ　マッテルホルン(四五〇五)　グランセンベルナール峠(二四七三)
- ウリアルプ　フィンステラールホルン(四二七五)　ユングフラウ(四一六七)

東部アルプ
- レチアアルプ　アレチホルン(四一九八)　エッターホルン(三七〇八)
- アルプラアルプ　ブリウムリスアルプ(三六七〇)
- エンガヂナアルプ　ダンマストック(三六三三)
- テヂケッテヂナアルプ　ピッツ、ベルニナ(四〇五二)

ユラ山脈　テンドル(一六八〇)　ピッツ、ケシ(三四二二)　ピッツ、リナルド(三四一六)

ローヌ、アール、ライン、テッシン、等の河流は概してサントゴタルト山彙より發して北海、地中海或はアドリア海斜面に屬するがドナウの支流たるインに集合する山脈には南より來るペルンアルプ、レチアアルプあり而してモンブラン山彙は僅に其の北端をシヴワイツに觸るるに過ぎず。

河はシヮワイツの東部を貫流せり、而して瀑布は數多きが就中シァッフハウセンの下に於けるライン瀑の如きは著名なり、又湖沼には頗る風色佳良なるものあり、主要なるものはレマン(Leman)、ヌーシァテル(Neuchatel)、ビーラー(Bieler)ツン(Thun)、ブリエンツ(Brienz)、ルツェルン(Luzern)、ツグ(Zug)、チゥーリヒ(Zürich)、ワルレン(Wallen)、コンスタンツ、等の外にマジョレあり。

氣候　同じ海拔の地に就きて谿谷は臺地より、西部は東部より氣溫稍、高く、ユラ地方は寒氣强くレマン湖地方は溫和なり、中部平野の年平均は八度にしてセンベルナール(St. Bernard)の寺院にありては年平均は零下一度なり又高山の頂には積雪あり氷河あり、アレツヒの氷河はヨーロッパ第一にして二十五粁の長さを有するがモンテロザの氷河も亦大なりとす、要するに氷雪に蔽はるる處は全面積の十二分の一なるべし。

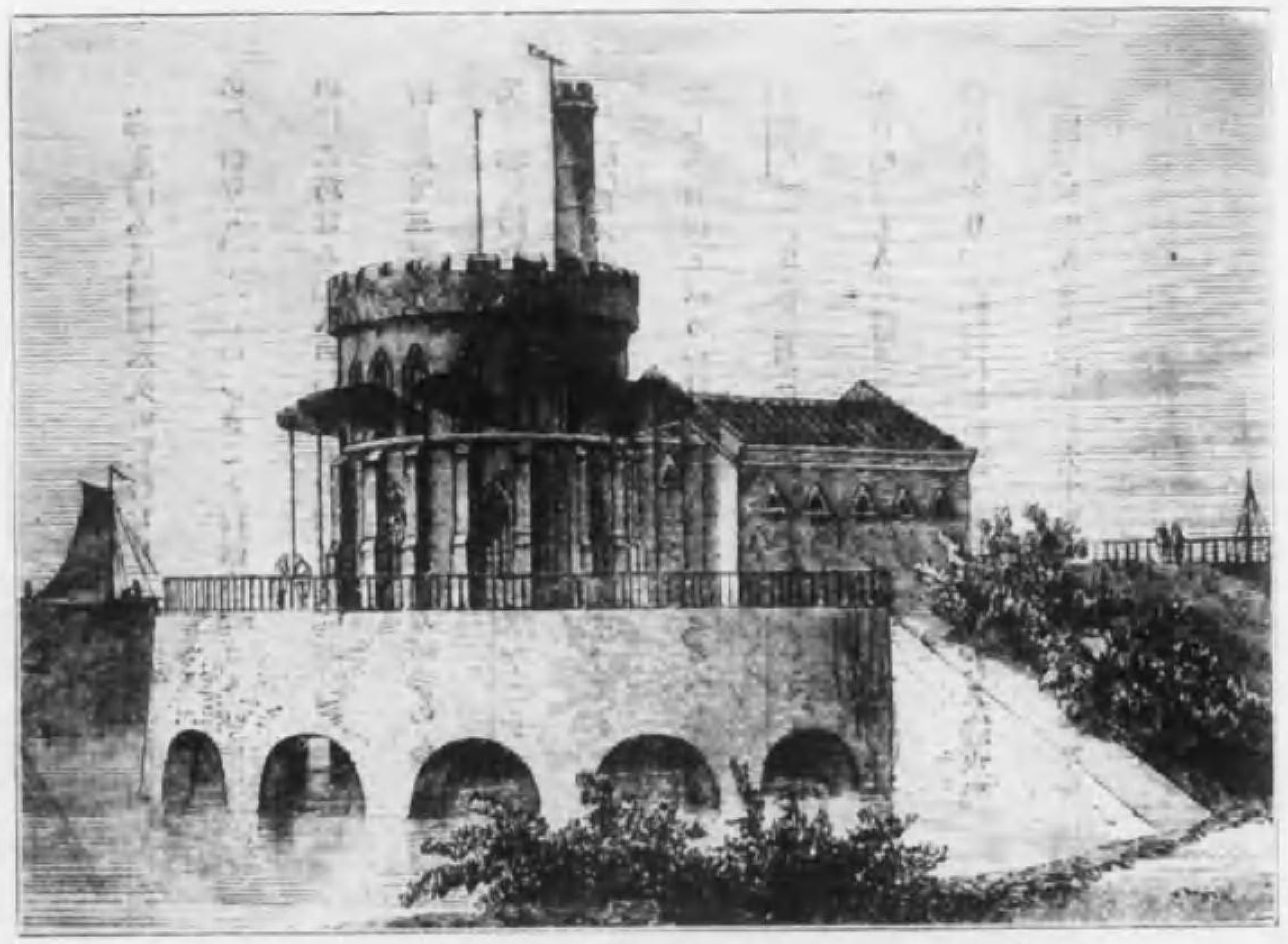
住民　人口は一九〇〇年に於て三百三十餘萬(男一六二、七〇一五、女一六八、八四一八)ありて一方粁八十人の平均なり、而して二百三十一萬餘人はドイツ語を使用し、約七十三萬人はフランス語、二十二萬餘人はイタリア語を用ふ、又宗教上に於ては新教に約百九十二萬、舊教に凡そ百三十八萬ありて殘餘は主としてユダヤ教に屬せり、教育は甚だ盛にして一九〇二年の壯丁中讀み得ざりし者は〇、一五「パーセント」書き得ざりし者は〇、五一に過ぎざりき、而して初等、中等の機關より始め六ヶ處に大學を設くるが、チゥーリヒのポリテクニコムは天下無雙と稱せらる、此の他に特種の學校種々ありて大圖書館、學校圖書館、通俗圖書館、等も少なからず。

政治　シヮワイツは二十二「カントン」を爲せる二十五邦より成れる合衆共和國にして、中央政府はベルンにあり、聯邦議會は二院より成りて共和國の政權を掌握す、其の國民院は人口二萬に就き一人の割合を以て撰ばれたる百六十七人の議員より成り、其の聯邦院は各「カントン」二人(アッペンツェル、バゼル、ウンテルワルドは各〻二部に分かれ各部より一人づつを撰出す)の議員を出だすを以て四十四人より組織せらる、行政權は兩院の推選に係る聯邦行政會議に屬し、任期一年の大統領は外務、內務、司法及び警察、軍務、財政及び關稅、農工、郵便、鐵道の七委員(任期三年)中より互撰せらる、聯邦軍はアウスツグ(Auszug)(撰兵)に十四萬餘人ありてランドヱール(Lan-

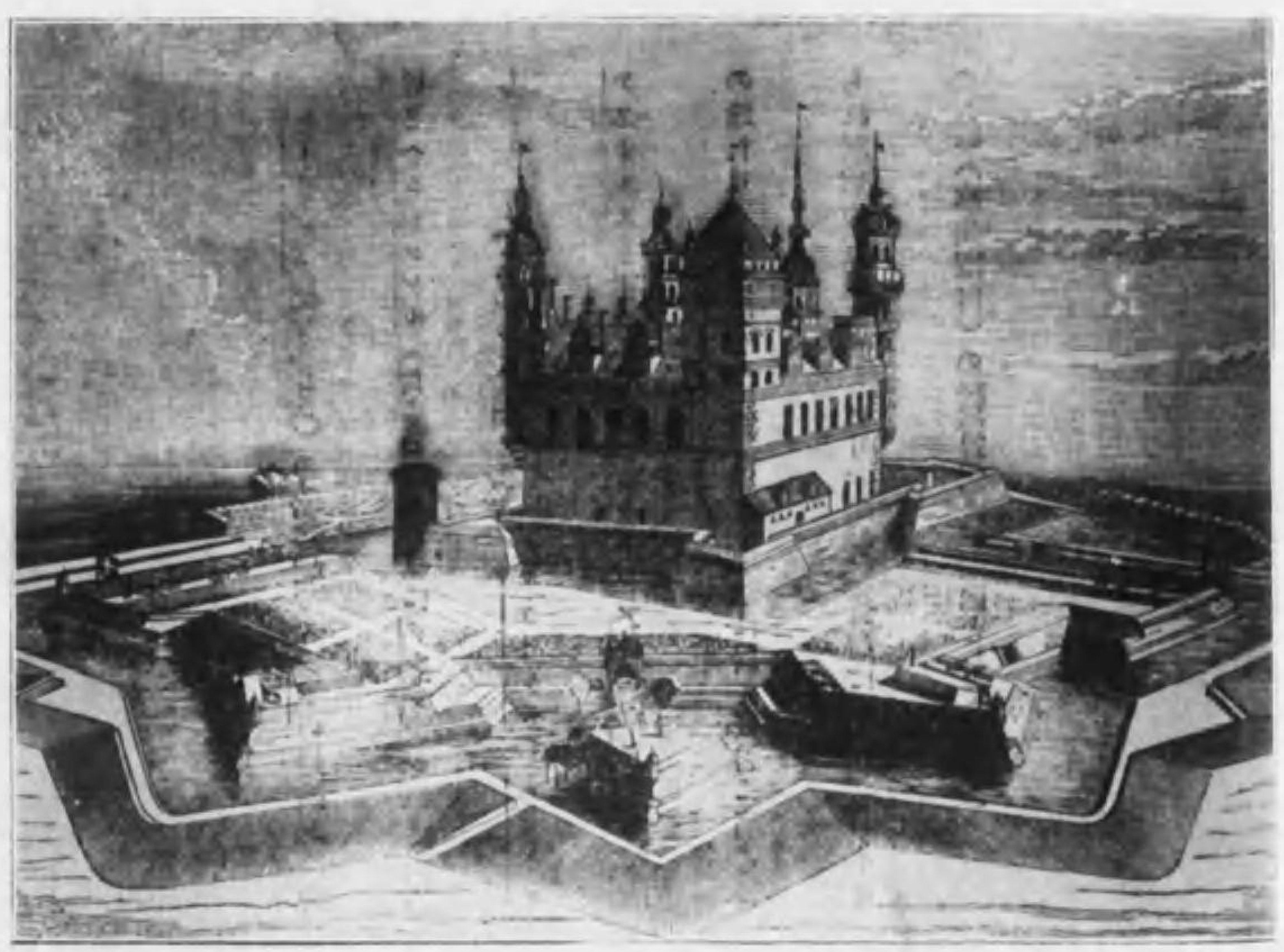
(dwelin)(國民軍)に凡そ九萬あり、一九〇五年の歳入は一億二千九百三十萬餘「フランク」にして歳出は一億一千六百七十一萬餘「フランク」なるが、國債は貸方に二億八千一百萬「フランク」餘、借方に一億二十五萬「フランク」餘あり。

生業 土地の二割八分餘は不生産地なるが、三五、八は牧地、二九は森林、一八、七は果樹の下にありて一六、四は耕種地園地なり、農産の主要なるものは「ライ」麥、「オート」麥、馬鈴薯なるが、葡萄はワード、ノイシァテル、チゥーリヒ、ワルリス「等の地方に栽培せられ、三千八百五十四萬「フランク」餘の産額に達する葡萄酒の原料と成る、牧業は牛(二〇八萬頭)、豚(五五)、山羊(三五)、羊(二二)、馬(一六)、等を飼養するが、グリゥイエル、エムマンタルの牛は良種として名あり、養蠶はテッシン、グリゾン、アルガウ、チゥーリヒ、ツルガウ、等の地方に行はる、鑛業は著しからざるが鐵、鹽、褐炭、土瀝青、等を産せり工藝の主なるものは時計、飾具、綿布、絹布、稈紐、笹縁、「チース」、煉乳、等を製するにあり、動力の多くは水利に依れり、貿易の高は一九〇五年に於て貨物の輸出凡そ九億六千九百三十萬「フランク」、輸入十三億七千九百八十五萬餘「フランク」あり、正貨の輸出に凡そ三千八百五十萬「フランク」、輸入に約七千八百四十七萬「フランク」ある、が主要なる取引先は輸入にドイツ(四四〇百萬フランク)、フランス(二七四)、イタリア(一七六)、等ありて輸出にドイツ(二三二)、イギリス(一七五合衆國(一二五)、フランス(一一九)、等あり、主要貿易品は輸入に生絲(一三五)、穀類及び穀粉(一三三)、石炭(六八)、獸類(六〇)、綿布(六〇)、等あるが輸出に綿布(一七三)、絹布(一六六)、時計(一三二)、器械(五六)、等あり。

遊覽旅行に供する機關の整備せるは實に世界第一にして當國富源の主要なるものの一なり、旅館及び宿舍は一千八百九十六ありて五億五千四十八萬「フランク」の資本を有せり、而してシヴワイツは交通の機關を整備せんが爲に巨額の金員を投入したる國の一にして其の結果は山間の地たるに拘らず道路開け鐵路の延長は一九〇五年に於て四千五百六十九粁に達し、殊に網索鐵道は當國の名物たるが、ゴタルドの隧道(一四九九〇米突)はアルプの南北に於ける諸國間の交通を開き、シンプロン(Simplon)隧道(一九三七〇)は世界第一の長隧道にしてイタリアとフランスとの間に新通路を開きたり又チロルに於けるアルルベルク隧道は南東ヨーロッパに對して一の門戸をシヴワイツ



リーゲ ワーテル（Leegh-Water）（ハアルレムの排水器）



クルンボルグ（Kronborg Seeland）

ベルン　バセル　チウーリッヒ　ローザンヌ　ジュネーブ

イッに與へたり、郵便は一千六百七十七局を有し國有電信線は線路六千三十五粁、延長二萬二千八百六十粁、電話線は線路一萬六千三百十九粁、延長二十五萬二千二百三十五粁を有す。

處誌　ベルン(Bern)(七、一七四八)北緯四六度五七分九秒東經七度二六分二六秒は一八四八年以來聯邦の首府たり、アール河に瀕し織物、飾具の產あり、ショードフォン(Chaux de Fonds)(四、〇四五〇)はヌーシァテルの北北西にありて時計を產す、バゼル(Basel)(一二、七九八七)はライン河に瀕す、市街は廣大ならざるも生產力に富めるを以て世界屈指の都會に數へらる、貿易に從事し又絹布を製す、セントガルレン(St. Gallen)(五、一七六六)はボーデン即ちコンスタンツ湖の南方に位し笹緣、綿布を製す、チューリヒ(Zürich)(一八、〇四八三)北緯四八度二二分四〇秒東經八度三三分六秒はリムマがチューリヒ湖に注ぐ處にあり當國の最大都會にして大學を以て聞ゆるのみならず、絹布の產あり、ルツェルン(Luzern)(三、三六三〇)は同名の湖より流れ來るロイス河に瀕し桿紐を製するを以て名あり、ローザンヌ(Lausanne)(五、三二〇九)はレマン湖の北岸に近くして氣候佳良なり製革に從事す、ジュネーブ(G

海と闘ふは蘭國永久の責務なり、水を防ぐは蘭人生涯の役務なり、水害の多きこと蘭國の如きもの少なく従つて治水の法に巧なる蘭人の如きもの稀なり、土堤を築き治水を排し以て三百有餘年の間に約三十六万町歩の地を獲得し又は嘗て國都を驚かせし暴慢無禮のハアルレム（Haarlem）湖（百八十万秆）を死刑に處したり、ズイデルジーの化して青田と成るの日も蓋し遠からざるべし、「リーグウォーテル」（Leegh Water）は其の名をハアルレム湖の涸燥を首唱せし人に借りたるが蒸氣力に據りて運轉する一大排水器なり、該器は他の二ヶ處に設けたる排水器と共に活働し三十九ヶ月間に約九十三億立方米突の水を排して肥沃なる新耕地を與へたり。

ゼーランド（Seeland）の北東端、スンドの最狭處に於けるヘルシンゲル（Helsingör）並にクレンボルグ（Krönborg）城ハムレット（Hamlet）王の廟墓ありと云ふはスエーデンのヘルシングフオルスと相對してスカンヂナビアボスポロスの鎖鑰の地たり、城は海上に突出する地點に於て堅固に築造せられ三重の石壁を繞らせり、港灣は良好にして「ベイロツト」（水先案内）の發着地、造船處として知らる。

nève)(一一、四五四七)（北緯四四度一一分五九秒 東經六度九分一二秒）はドイツ的にゲンフ(Genf)、イギリス的にジネバ(Geneva)と云ふ、レマン湖の南端に位し世界著名の地にして時計、飾具の産あり、大學あり。

西部

●オランダ

境域 ネーデルランド(Nederland)即ちペイバー(Pays-Bas)の意（低國）は俗にオランダと呼ばるるが、西ヨーロッパに於ける一小國なり、北と西とに北海を控え、東はドイツに境し、南はベルジックに接す、長さ三百四十秆ありて幅は百七十五秆なるが面積はゾイデル海及び淺瀨(Schorren)(五二五〇方秆)幷にドルラルト(Dollart)(九五、五)を除きて三萬三千方秆あれば我が四國の二倍より稍小なり、然れども築堤に依りてポルデル(Polder)を作り毎歳十方秆づつの増加を得と云ふ。

海岸 海岸は到る處低くして或る部分は海面より低く砂丘或は築堤の

保護を要するが、著しき灣入はゾイデル海(Zuyder Zee)、ドルラルト(Dollart)海、ライン、マース、シェルド、等の河灣にして島嶼は北西にテクセル、フリーランド、等あり、南西にオーフェルフラッケー、ワルヘレン、等あり。

地勢 土地は平低にして最高處と雖も海拔は二百四十米突に過ぎずして海面より低き土地あり、又國の東部一帶には沼地多く荒蕪の地ありてドイツとオランダとの天然の境界を爲せるが、ライン、マース、イッセル、シェルド、等の下流は國内を貫流す。

氣候 氣候は概して海候にしてフリエスランド幷に東部の地にありては稍〻大陸的なり、氣溫は甚しく低下することなきも不同にして變化し易く濃霧屢〻起り降雨も亦少なからず、ユトレヒトに於ける觀測に從へば氣溫の年平均は十度にして春秋は九度四四なるが夏季は十八度八九、冬季は十一度三九なり又年雨量は約七十一糎にして降雨日數は二百四日なり。

住民 人口は一九〇五年に於て約五百五十九萬人あり、一方粁に付きて百六十九人を與ふ、信敎上は新敎に三百七萬人、舊敎に百八十萬人、ユダヤ敎に十萬人あり、其の他の宗敎を奉ずるものも多少あり、敎育は普及せずして下等社會には無知の者多きも之に反して中等社會以上は敎育の恩澤に浴せり而して、ライデンの大學は往古の隆盛を見ざるも亦玉國各種學校の首位を占む。

政治 オランダは立憲王國にして立法權は君主及び國會に屬す、國會は第一、第二の兩院より成りて前者は地方議會の選擧せる五十人の議員を有し、後者は一般の公選に係れる百人の議員を有す、而して內閣には首相兼外務、司法、內務、海軍、財務、殖民、陸軍、治水(Waterstaat)商工の八大臣ありて別に國務大臣五人を置き、其の他に參事院、會計檢査院あり、地方は十一州に分たれ、各州の議會は其の權限甚だ大なり、兵備は陸兵に三萬五千人足らずありて兵艦に七十九隻、九萬百餘噸あり、財政は一九〇七年の歲入凡そ一億七千八百萬「グルデン」にして歲出は一億八千六百萬「グルデン」弱なるが國債は十一億「グルデン」を超ゆ。

生業 一九〇五年に於ては耕地約八十六萬方粍、牧地凡そ百十九萬三千方

粨の外に森林(二五萬)幷に花園(七三)等ありたりしが、ボルデル幷にオランダの平野は地味極めて豊沃なれば農業は大に發達して耕種の業大に進歩せり、殊に麻類、煙草、等を栽培し花園は珍花奇卉を興ふ、牧業は主として牛(一六七萬頭)を飼ふが亦馬(三〇)、羊(六五)、豚(八八)、等を養ひたり、漁業は鰊(八五九萬グルデン)鱈、等を與ふ、而して工業はフリエスランドの麻布、トリブルヒの羅紗、ユトレヒトの天鵞絨、グーダの煙管、アムステルダムの寶石細工、ザアンダムの造船、等あり、蒸溜釀造、製糖、等の各業亦行はる。

貿易は一九〇五年に於て輸入に二十五億八千三百五十萬、グルデン」ありしが、輸入元の主なるものはて輸出に十九億九千三百八十萬、グルデン」ありしが、輸出先にドイツ(一〇六六)、イギリス(四〇ドイツ(六三九)、オランダ領東印度(三九九)、ロシア(三一八)、イギリス(二六三)、ベルジック(二五四)、合衆國(二四〇)、等にして輸出品は原料品(七〇〇)、飲食品(六六九)、ベルジック(二一七)、合衆國(八一)、オランダ領東印度(七〇)、等ありたり、而して貨物を種類別にすれば輸入の中、約九百萬、グルデン」は原料品にして飲食品(七〇四)、雜品(三八六)、加工品四七九)之に次ぎ、輸出品は原料品(七〇〇)、飲食品(六六一)、加工品(三六〇)、雜品(二六六)より成れり、又入船は約三千三百二十萬噸にして出船は凡そ三千二百二十八萬噸なり、商船に七百五十隻百十六萬餘噸ありて鐵路(一九〇五年)は二千九百八十七粁に過ぎざるも、電信線の延長は三萬二千粁近くありて電話線の延長は六萬三千粁に達し、殊に運河は三千粁を超えたり。

ハーグ
ロッテルダム
アムステルダム

處誌 ハーゲ(S'Gravenhage)(二四、二〇五四)は王國の首都なり、海岸幷にシェヘニンゲンを距ること凡そ一里の處に建設せられたる美麗の都會なり、デルフト(Delft)(三、三三五七)は首府の南東に位し陶器を製す、ロッテルダム(Rotterdam)(三七、九〇一七)はレック河に瀕す、船舶の碇繋に便にして王國第一の商港なり、盛に殖民地の貨物を輸入す、ライデン(Leiden)(五、六七二二)はハーゲの北東にありて其の大學は古來有名なり、ハーレム(Haarlem)(六、五九九七)はアムステルダムの西にありて花園を以て知らる、アムステルダム(Amsterdam)(五五、七六一四)(北緯五二度二二分一六秒東經四度五四分四五秒はゾイデル海の南西隅に於ける一小灣に瀕しアムステル河に接す、運河多く交通の便を備ふる一大商港なるが、市街は殷富にし

ユトレヒト

て金融上の一大中心なり又金剛石の細工幷に賣買を以て名を知らる、ユトレヒト(Utrecht)(一一、四三二一)は國防上の要處にして大學校の所在地なり、羅紗、天鵞絨を製す、アルンヘム(Arnhem)(六、八五一五)はユトレヒトの南東、ライン河畔に位し煙草、織物を製す、ニイメーゲン(Nijmegen)(五、〇六八四)はワール河に沿ひ商業地として名あり、マーストリヒト(Maastricht)(三、六二五七)は國の南隅マース河畔にありて硝子、陶器を製出す、ヘルトーゲンボシ(Hertogenbosch)(三、四〇九三)はユトレヒトの南南東に於ける工業地なりチルブルグ(Tilburg)(四、六五一七)は南境に近くして熟皮の產あり、ドルドレヒト(Dordrecht)(四、四〇二二)はロッテルダムの南東に位し亦工業に從事す、グロニンゲン(Groningen)(七、二三二四)はドルラート灣の西方に於ける一都會なり。

殖民地　オランダは强大國の間に介在する小國なれば夙に富源を海外に求むることに努力し、特有の性質技能に基づきて巧に海上に驅逐し以て殖產的の土地を領し、ポルトガル、エスパニアの二種族に劣らざる事業を行ひ一時は旺盛を極めしが、有力なる競爭者の出現するに逢ひて勢ひ退歩せざるを得ざるの非運に陷りしも、今尙二百餘萬方粁の土地と三千八百萬弱の住民とを有し優に殖民國たるの實を有せり。

領地	地積	人口	方粁ニ付
	方粁		
東印度	一三、一五〇八	二八七四、六六三八	二一八
ヨアバ及マヅラ			
外領	一七八、三九〇九	八九八、七〇〇〇	五
西印度	一一三〇	五、三六五二	四七
キウラソ			
スリナム	一二、九一〇〇	九、一〇〇〇	一、一
合計	二〇四、〇二三〇	三七八七、九〇〇〇	一九

◎ルクセンブルグ

ルクセンブルグ(Luxemburg)大公國はプロイセン、ベルジック、フランスの間にある一小國にして地積に二千六百方粁に逾せず住民には二十四萬足らずあるが大多數はローマ公教を奉じ概してドイツ語を用ふ、首都ルクセンブルグ(二、一〇二四)はモゼル河の支流たるアルセット河に瞰せり、舊と有名の要塞地たりし處なるが商工業共に稍盛なり。

◉ベルジック

境域　ベルジック(Belgique)又はベルジューム(Belgium)又はベルギーエン(Belgien)と稱せらる、西部ヨーロッパの一小國にして北はオランダに境し、東はドイツ幷にルクセンブルグに接し、南はフランスに連なり、西は北海に瀕す、地積は二萬九千五百方粁に近く、長さは二百七十八粁、幅は百六十九粁あり。

地勢　六十七粁の延長を有する海岸の附近には海面より低き耕地の存するあるも、東幷に南東に趨くに從ひて土地は漸次に隆起しアルデンス臺地のバラックミシェルは王國の最高處にありて海抜は六七五米突に達せり、而してサムブル(Sambre)、マース即ちムーズ(Meuse)の兩河は北西の低地と南東の高地との區劃を爲せり、又砂丘の存する沿海の地には數百年來の變遷ありてロムバルデード、ブリュジュ、ダンム、エクリューズ等の港灣は砂礫の閉塞する所と成りて現時は北海を距る數里の地にあり、兩フランドル、シァンピーヌにありては砂地多く、肥沃の地として有名なるワエスは沼地の乾涸せしに外ならず而してボルデルは築堤の保護に依りて良土と成りたり。

河流　當國は灌漑の利を享受するも主要なる河流の全部を有せず、ムーズは丘陵の地を流れ、エスカウ即ちシェルド(Escaut)は平野を潤すが二流共に水源をフランスに發しオランダに至りて海に注げり。

氣候　氣候上に於てはベルジックの國を二帶に區分するを得、西部の一帶は海候にして氣温低からず、濕氣多きが東部の一帶は陸候にして寒氣凛烈濕氣少なし而して全國の平均温度はブリュクセルの平均温度に似たるものにて凡そ十度なるが、春季は九度强、夏季は十七度强、秋季は十度强、冬季は三度足らずなりとす。

住民　人口は一九〇五年に於て七百十六萬餘人ありて一方粁二百四十三人の割合なるが、一九〇〇年の六百十九萬人を言語に依りて區分し其の主なるものを示せば二百五十七萬人はフランス語のみを用ひ、二百八十二萬はフレミシ語のみを用ひ、フレミシ語とフランス語とを話すものは八十萬人なり、移住に就きては來住に三萬四千餘人、往住に二萬五千人足らずあ

地積

バラックミシェル

人口

言語

移住

宗教　り、宗教上國人の多數は天主教を奉するも宗教の自由は憲法の保障する所
教育　にして一萬餘の新教信者と數千のユダヤ教信者等あり、教育は普及の度に
於て未だ缺くる所ありて一九〇三年の壯丁百分の九は讀み書きを爲し得ざ
りしと云ふ、又主要なる都會には男女の中等學校の設けあり四ヶ處の大學中
ガンとリエージュとに於けるものは國立にしてルーベンのアルママラル大
政体　學は教會の維持に係り、ブリュクセル大學は私立にして自由黨の保護する所
なり、此の外アンベールは美術大學校を有しブリュクセル、アンベール、ルーベ
ンは音樂學校を有せり。

政治　ベルジック（Pays-Bas）は一八一五年の條約に據りてオランダと共にペイバー
王國を組成せしが、一千八百三十年の革命以來獨立國と成り其の
中立は列強に認められるに至れり、代議王國にして立法權は王、元老院、代議
院に委ねらる、兩院議員は人口に比例し複票權に依りて直接に選擧せらる
るが、元老院議員は百十人ありて直接國稅一千二百フランク以上を納むる
もの或は一萬二千フランク以上の不動產を有するものより直接に選擧せ
らるるも、二十六人は人口に關せずして地方議會より選出せらる、代議院議
員は四萬人に付き一人の割合を以て公選せられ目下百六十人あり、而して
撰擧權に就きて一言を要するあり即ち二十五歲以上にして一年以上同一
の町村に住し且つ除外すべき條項に該當せざるものは一票を有するが、(一)
三十五歲以上にして正出の子孫を有し直接國稅五フランク以上を拂ふも
の、(二)二十五歲以上にして二千フランク以上の不動產を有するもの若しく
は之に相當する收入を財產より得るもの或は少なくも百フランクの收利
あるもの各に就きて一票を加與し、次に二十五歲以上にして高等教育の卒
業證を有するもの若しくは高等教育を受けたる證左と認むべき官職又は
地位にあるもの又はありしものに加票二個を與ふ但し何人と雖も三票以上を
有することを得ず。

行政　行政府は首相兼財務及び土木、司法、外務、內務及び教育、農務、工務、軍務、鐵道郵
兵備　便電信の八大官より組織せられ、地方は九州に分たる、兵備は陸軍に平時の四
萬六千餘人、戰時の約十萬人ありてアンベール、リエージュ、ナミュール等は主要

財政　の城塞たり、財政に就きて一九〇六年の豫算は歳入五億五千八百八十六萬「フランク」餘を示し歳出は五億六千六百六十七萬「フランク」を超ゆ。

農業　生業は五十年來長足の進歩を爲し各業共に繁盛を極む、當國の總地積は約二百九十五萬方粁と算せらるるが耕地は百七十四萬方粁足らずありて農業は亞麻、煙草(五萬「キンタル」)、ホップ(三)、小麥(三九五)、大麥(九八)、オート麥(六六三)、ライ麥(五六八)或は馬鈴薯(二二六四)、甜菜(一三六四)、等を產し、花園には裝飾的植物の栽培あり、凡そ五十二萬方粁の森林よりは約二千萬「フランク」の產物を與へ、牧業は牛(一七二萬頭)、馬(二五)、豚(一一八)、等を飼養す、鑛產に就きて石炭は凡そ三億九百萬「フランク」に達してリエージュ、シャルルロア、モンス、ムーズの流域には產鐵地ありて銑鐵は六千二百九十六萬二千「フランク」、熟鐵は五千百七十五萬五千「フランク」、鋼鐵塊は六千六百四十四萬二千「フランク」「レール」類は九千四百七十六萬五千「フランク」に達するが、此の他に五千六百六十七萬五千「フランク」の亞鉛、五百二十六萬八千「フ

工業　ランク」の鉛、二千九十九萬一千「フランク」の銀、等あり、工業には兵器、羅紗、毛布、砂糖、等の製造あり。

貿易　貿易は一九〇五年に於て貴金屬を除き輸入三十億六千八百萬「フランク」輸出二十三億三千三百萬「フランク」を超えたるが取引先は輸入の部にフランス(五一七)ドイツ(關稅同盟(四〇九)、イギリス(三七六)、オランダ(二四五)、合衆國(二四二)、アルヘンチナ(二四〇)、ロシア(二三八)、イギリス領東印度(一〇四)、ロマニア(一三八)、等ありて、輸出にドイツ(五六九)、フランス(三七二)、イギリス(三六六)、オランダ(二六〇)、等あり而して貿易品の主要なるものを記せば輸入に穀類及び穀粉(四九九)、獸毛(一九一)、木材(一四三)、亞麻(一四二)、皮(一二二)、樹脂(一一六)、等ありて輸出に鐵及び鋼鐵(二〇〇)、穀類及び穀粉(一三五)、器械及び車輛(一二〇)、皮(一一〇)、琢磨金剛石(九九)、硝子器(九二)、等あり、船舶の出入は各、一千二百萬噸に近し。

交通　交通機關の完備せる點に就きて當國は世界第一と稱せらる、鐵路と云ひ航路と云ひ何れも充分に發達して內部に於ける工藝の中心と邊境に於ける

各地との間を連絡せり、されば國域の小なるに拘らず鐵路は一九〇五年に於て四千五百七十九粁あるが國境外に尚ほ凡そ二百粁を有せり、電信線は線路六千六百二十五粁、延長三萬七千百四十三粁ありて此の外に六百三十四粁の鐵道用電信線、二千百三十六粁の水底線あり、又電話線は近距離に十一萬四千八百六十二粁、遠距離に二萬一千三百五十六粁あるが郵便は一千三百三十局を備ふ。

ブリュクセル

處誌　ブリュクセル(Bruxelles)(一九、八六一四)北緯五〇度五一分一一秒は一に東經四度二二分一〇秒は一にブラッセル(Brussel)と云ふ王國の首都にして官衙あり寺院あり、大學、音樂學校あり、商工業は甚だ盛なるが殊に印刷業、樂器の製造、裝飾品の製作等を以て著しとす、而して此の地の近傍にはシャエルビーク(Schaerbeek)(七、一一一四)、モレンビークセンジャン(Molenbeek St.—Jean)(六四六一九)、セントジル(St.—Gilles)(六、〇〇八六)、アンダーレヒト(Anderlecht)(五、六八三〇)等の市街あれば此等を合はせば人口は五十萬以上に達すべし、ワーテルロー(Waterloo)はブリュクセルの南約十七粁に位しナポレオン戰敗の地として名あり、ルーベン(Louvain)(四、二一九四)はブリュクセルの東微北に位しカトリック大學の所在地なるが「ビール」、鑄物を製す、マリーヌ(Malines)(五、八四九四)はメルヘン(Melchen)とも云ふ、アンベールの南南東に位し「レース」、「ビール」を製す、アンベール(Anvers)(二九、七三一一)即ちアントエルプ(Antwerp)はエスカウ河に瀕す、全國第一の軍府にして附近には堅固の砲壘を備ふ、世界第四の大港にして取引は極めて盛なるが「コヒー」、米、砂糖、茶、香料等の殖民地產物又は穀類を輸入して麻布、縫紗、兵器、機械、等を輸出す、又造船所あり砂糖、煙草、織物、化學品、等の製作あり、ガン(Gand)(一六、三〇五九)はゲント(Gent)とも云ふ、エスカウ、リース兩河の合流地にあり、往昔の盛大を見ざるも又盛に綿布、麻布、鑄物、器械等の製作に從事す、ブリュッグ(Brügge)(五、三六九〇)は海を距る十二粁に當り「レース」、麻布、其の他の產あり、オスタンド(Ostende)四、一六九八)は海水浴場なるが漁業に從事す、スレン(Zeraing)(四、〇四八八)はムーズの右岸に於ける工業地にして製鐵に從事す、リエージュ(Liège)(一七、二二〇七)は一にリュッチヒ(Lüttich)と呼ばる、軍府の一にしてムーズ河畔に位し鐵と石炭との產地にあり、軌鐵、鑄物、兵器、等を製す、ヴェルヴィエー(Verviers)

アンベール

ガン

リエージュ

(四、九一二四)はリエージゥの東にありて毛織物、皮革、等を產す。

◉フランス

境域　フランス共和國(République Française)は西部ヨーロッパの大國にして不正六角の形狀を有す、北西は北海、カレー海峽、マンシゥ海に瀕し、北東にベルジック、ルクセンブルグ、プロイセン、エルザス＝ロートリンゲンを控え、東はドイツ、シゥワイツ、イタリアに境し、南は地中海に臨み、南西はピレネー山脈に接し、西は大西洋、ガスコーニゥ灣に沿ふ、而して五千二百粁の國境中、二千五百粁は陸境にして二千七百粁は海境なり、地積はコルス島を合はせて五十三萬六千五百方粁に近きが、一に五十二萬八千八百七十六方粁とするもあり。

海岸　北西部の外は單調なるが稍〻大なる彎入はセンマロー灣、セイヌ、ロアール、ジロンドの三河灣、地中海のリヨン(Lion)灣、等なりとす、而して地角は北西にグリーネー(Gris-Nez)、ラアーグ(La Hague)、西にウエッサン(Ouessant)、センマチゥー(St. Mathieu)、ベックヂゥラー(Bec du Raz)あり島嶼はウエッサン、ベールイール(Belle Ile)、レー(Ré)、オレロン(Oléron)、イエール(Hyéres)コルス、等を主とし、半島にはコタンテン(Cotentin)、ブルターニゥ(Bretagne)、等あり。

地勢　邊境には顯著なる隆起帶あり、內部にも丘陵の存する處あれどもフランスは土地一般に平坦なり、若し今日の海面に百八十米突の高隆を見んかフランスの半部は水面下にあるべく、四百六十米突なりとすれば中央山彙、ピレネー、アルプ、ジゥラー、ボージゥ、等の低からざる部分のみ水上に現はるべし。

山岳　邊境に於ける山脈は西にピレネーあり、東にアルプ、ジゥラー、ボージゥあり三百四五十粁に亘る、アルプ及び延長四百三十五粁のピレネーには高峰少なからざるが內部の中央山彙は其の海拔大ならず。

アルプ山系
- 沿海アルプ　プラー(三〇五二)　チニプラー(三〇三一)
- ペルブー山彙　パルデセクレン(四一〇三)
- コッチアルプ　ピソ(三八四二)
- ブァノア山彙　大カッス(三八六一)
- グレーアルプ　イセラン(四〇五一)　モンスニー(二〇九一)

中央アルプモンブラン(四八一〇)

ピレネー山脈
- 東部 ピクドエスタート(三一四一) カニグー(二七八五)
- 中部 ピニュマール(三二九八) マルボレ(三二五三)
- 中部 ピクロング(三一九四) ピクモンヌ(三一三七)
- 中部 モンガルム(三〇八〇)
- 西部 ペヌプランク(二六八四) ピクアニエ(二五〇四)

河湖 河流は北海、マンシゥ海、ガスコーニゥ海、地中海の四斜面に屬し、其の數少なからざるが、就中セイヌ河は水量の增減著しからずして航行上に便益を與ふること甚だ大なり。

河名	水源	河長	平水量	減水量	增水量	航行し得べき部分
ムーズ	ラングル臺地	九五〇	一〇〇	二五	七〇〇	五七四
セイヌ	コートドール	七七六	三〇〇	七五	二五〇〇	五六五
ロワール	ピバレー山	一〇〇八	三七五	一〇〇	八〇〇〇	八二五
ガロンヌ	ピレネー山脈	六五〇	七〇〇	四〇	一、二〇〇〇	四七一
ローヌ	アルプ山脈	八一二	二二〇〇	五五〇	一、五〇〇〇	五三一

セイヌ

セイヌ(Seine)河は水源をコートドールに發して北西に向ひ遂に海峽に入るが、河口より五百六十三粁のマルシリーよりは短艇を浮ぶに足れり、支流は右岸にオープ(Aube)、マルヌ(Marne)、オワーズ(Oise)あり、左岸にヨンヌ(Yonne)、ロエン(Loing)、ウール(Eure)あり、運河に依りてソンム、シェルド、ムーズ、ライン、ソーヌ、ロワールと連絡せり。

ロワール

ロワール(Loire)河はフランスの最長流なり、國の中央部を北及び北西に流れ、オルレアンより南西に折れてツールに達し、之より西流してガスゴーニゥ灣に終る、潮汐は河口より五十六粁のナントに感じ、航行の便は海より八百八十五粁のロアンヌ附近に始まる、然れども河口漸く淺く洲嶼砂灘の妨害あり、主要なる支流は右岸にニエーブル(Nièvre)、メーヌ(Maine)、等あり、左岸にアリエー(Allier)、シェール(Cher)、エンドル(Indre)、井エンヌ(Vienne)、等あり。

ローヌ

ローヌ(Rhone)河はライン河の水源に近く發しレマン湖を經て西に走り、北西に轉じたる後西に復し、リオン平野に至りてソーヌ(Saone)(四五五)と會し、南流して地中海に入る右岸の支流はエン(Ain)、ソーヌ、アルデシゥ(Ardèche)、ガール(Gard)を主とするが、左岸にはアルプ(Arve)、イセール(Isér)、ドコーム(Drôme)、ヂゥランス(Durance)ありてリオン以下は舟運の便を與ふ。

湖沼は國境に於けるレマン湖の外は概して小なるが就中最も大なるはグランリウ(Grand Lieu)(七八方粁)にしてロワール河口に近く位す、此の外ブー

ルジェー(Bourget)、アンヌシー(Annecy)等あり又南西及び南の海岸地方は多くの潟を有せり。

氣候　氣温は中和を得て健康に適せり、北西にありては海候にして變化少なく濕潤なり、中部殊に北東部に於ては陸候にして寒暑の差强し、南西は稍、温和なるも南東は炎熱を覺ゆ、而してパリーに於ては零下十度六に達すること稀なるが、夏は日蔭に於ても三十二度以上に達することあり、雨量は最多の處にて百五十糎内外なるが、マンシ。海沿岸の地并に中央の山彙地方にありては百糎乃至百五十糎なり、又南部に於ては夏季にアフリカより來る「シロッコ」の熱風、冬季にアルプ嵐の寒風「ミストラル」の吹き荒むことあり。

沿革　フランスの地にはケルト派のガリア人、其の他の占據するありしが、西紀前二二五年頃よりローマの攻畧を蒙りケーザルは六十四國を征服せしかばこよりローマ化せりと云ふ、紀元四世期に至りて西ゴートは南西部に、アルガンドはソーマ及びローヌの谷に、フランクは北東部に據りしが、フランクのクロド井ヒはフランス國の基礎を設くることと成り、シアルルマーニュはエブロ河よりエルベ河、北海に達する帝國を建てたり、然るに其の後、國土分裂し九九七年にはライン河を以て東境とするに至り、十二世期にはイギリス王たるノルマンザー侯は多くの地を領してフランスの土王を凌ぎしことありしが、フイリップ(一一八〇―一二二三)の時にはイギリス領フランスの大部の恢復あり、一五五八年以後島帝國はフランスに於て寸土なも有する所なかりき、降て十八世期の中葉、フランスは海外に於て領土を失ひしこと少なからざりしが、ナポレオンの出づるやフランスの國境は擴大せられイタリア、エスパニア、ネーアルランド、ドイツの幾部、等なも合せしも一場の夢たるに過ぎずして一八七〇―七一年の役には一萬四千五百餘方粁の地をドイツに奪はれたり。

住民　人口は一九〇一年に於て三千八百九十六萬餘人ありて一方粁に就きては平均七十四人なるが、配付は一樣ならずして海岸、河流の沿岸、工業の中心、等にありては住民稠密なるも、山地、盆地、等にありては稀薄なり、而して市街民は漸次に增加して村落民は漸次に減却するを見る。

人口の增殖　人口の增殖は極めて緩漫にして一九〇〇年の如きは死者の多きこと二萬五千九百八十八人なりしが、一九〇一年は七萬二千餘人、翌年は約八萬四千人、一九〇三年は七萬三千餘人の增加を見たり、此の如くなるを以て海外に移住するものも徹々として一八九三年には五千三百人を數へしのみ。

宗教

教育

今一八九六年の現住人口約三千八百二十七萬人（男一八九二 女一九三四）人を國籍別にせば三千七百二十二萬足らずはフランスにして殘餘はベルジック（三九）、イタリア（二九）、ドイツ（九）、エスパニア（七）、シゥワイツ（七）、等に屬せり。

宗教上はローマ公教を奉ずるもの最も多きが、六十萬人はプロテスタント教を信じ、八萬六千人はユダヤ教徒たり、教育は各種の機關を有し中等教育に關しては凡そ三百四十の公立學校あるが、小學の就學義務年限は六歳より十三歳に至れり。而して一九〇二年の壯丁百分中一、二五は讀むこと能はずして四、三七は讀み書きを行はざりしと云ふ。

政治　フランスは共和國にして立法權は元老、代議の兩院より成る國民議會に依りて實行せらる、元老院は間接に選擧せられたる三百人の議員を有するが、代議院には七萬人に就き一人の割合を以て公民より選出せられたる五百八十四人の議員ありて選擧權は二十一歳に及びて享受するが被選權は二十五歳に至りて、始めて得らるべし、行政權は國會より選出せられて七年を任期とする大統領に委ねられ、內閣は首相（一省の長官を兼ぬ）外務、司法、內務財務、陸軍、海軍、教育及び宗教、商工、土木郵便及び電信、農務、殖民、勞働及び保險、等の十二省に於ける長官より成りて地方の行政上は八十七縣、一領地に分たる、司法權に關しては大審院を置きて全國を管せしめ、控訴院（二六）、始審裁判所（三八二）、治安裁判所（二八六二）を設けて之に隷せしむ。

兵備

フランスは兵備上世界屈指の强國なり、陸軍には二十軍團を置き平時には二萬二千百七十六人の士官と五十二萬八千四十人の下士卒とありて別に二萬五千足らずの憲兵、等を置くが、軍馬の數は十二萬三千餘に達せり而して戰時の兵員は四百五萬を超ゆべしと云ふ、次に海軍は海岸を五區に分ちツーロン、シェルブール、ブレスト、ロシゥホール、ロリアンの五ヶ處に軍港を設け以て海岸の防禦に當らしむ、兵艦は四百二十七隻、七十五萬二千噸弱ありて馬力は百六十萬を超え、三千七百二十七門の巨砲と八百十六の水雷發射管とを備ふるが、軍人の數は五萬六千人に近し、又建造中に係るものは戰艦六隻（八、九二二〇噸）、巡洋艦五隻（七、九七四四）、水雷驅逐艦十五隻（五〇四〇）、一等水雷艇七十五隻七四二五）、潛航艇三十二隻あり。

財政

重税を負擔するの點に於ては世界屈指なるが一九〇六年の豫算に從へば收入は直税(五五四、百萬「フランク」)料地及び森林(五三)、間税(二〇四五)、專賣及び國營事業收入(八一八)、等の三十七億五百萬餘「フランク」にして歳出凡そ三十七億九百萬「フランク」は公債(一二三二)、陸軍(七一八)、海軍(三二五)、教育美術宗教(二六九)、土木(二三一)、殖民(一一〇)、煙草販賣所、收税費(四九二)、等に充てられたり、又國債の高は二百九十三億「フランク」を超過せり。

農業

生業 フランスの全地積(五三六四、六三七〇方粕)中、約八百四十萬方粕は森林地にして凡そ三千七百萬方粕は農業地なるが、農產物に穀類、馬鈴薯、甜菜煙草、葡萄、苜蓿、等あり。

植物	栽培地	產額	植物	栽培地	產額
小麥	六四七、五七二八方粕	一、二八三八、五五三〇ヘクトリートル	甜菜	二四、〇四五四	六一一二、八三一〇キンタル
大麥	六九、七〇六四	一五二七、四七〇四	其他根菜	七五、五〇九七	一、七六六三、五八一五
「オート」麥	三八四、三七七五	一、〇五八四、八三三二	「コルザ」	三、二七二九	三七、六四三五
「ライ」麥	一二九、七二二七	二〇四二、一七九〇	麻類	四、六三一二	(繊維)三七、八三〇三
蕎麥	五五、三四八九	一〇一一、六四九〇	葡萄	一五八、八二七四	(酒)五二四、〇二五七ヘクトリートル
玉蜀黍	五〇、一六二八	八九三、六六四四	煙草	一、八二六八	二六、〇六六〇キンタル
雜穀	一六、〇六八八	二七六、六〇三五	苜蓿	一〇二、六五七四	三九二六、五五九六
馬鈴薯	一四三、六〇八九	一、一六〇五、三一五四キンタル	牧草	六二二、九二六五	一、九九六八、一四五五

養畜業

又栗、胡桃、「オリーブ」、林檎、「プラム」、桑葉、等の生產は一億七千二百萬「フランク」に近く家畜には馬(三〇八萬頭)、騾(二〇)、驢(三六)、牛(一四一〇)、羊(一七九五)、豚(七五六)、山羊(一五六)、等あり、家兎、家禽、蜜蜂、等の飼養にも大に見るべきものあり、

養蠶

養蠶は政府の奬勵する所にして二十五縣、殊にガール、ドローム、アルデーシヅ、ボークリヴーズに於て盛に行はるるが、一九〇二年に於て斯業に從事するもの十二萬人に餘り繭の產額は六百萬瓩に近かりき、

鑛業

鑛業は甚だ盛なりと云ふを得ざるも年產額は五億一千五百二十四萬「フランク」と概算せらる、而して石炭(三四一六萬噸)の外に鐵鑛(六二六)、銑鐵(二九七)、鋼、鉛、亞鉛、銅、「アンチモニー」、等あり、

漁業

漁業は鱈、鯡、其の他を與へ、紡織業は毛布、絹布、敷物、等を製し又毛絲、絹絲、綿絲、麻絲、等を產す、

工業

化學工藝には香水、石鹼、製紙、製油、等あるが殊に葡萄酒の釀造は一九〇四年に於て六千六百二萬「ヘクトリートル」に達せんと

せり、此の外、陶磁器、玻璃器、時計、パリー雜貨、等の產出あり。

貿易は一般に五十七億二千餘萬「フランク」の輸入と五十七億四千餘萬「フランク」の輸出とありて特別に輸入四十五億「フランク」、輸出四十四億「フランク」あるが通過に七億「フランク」近くあり。

特別貿易に就きて主要なる取引先を示せば輸入の部にイギリス(五二三)合衆國(四八三)、ドイツ(四二八)、ベルジック(三〇六)、イギリス領印度(二五二)、アルヘンチナ(二五二)、アルジェリア(二三二)、ロシア(二一三)、清國(一七八)、エスパニア(一六四)、イタリア(一五一)、シゥワイツ(一〇二)、等ありて輸出の部にイギリス(一二一七)、ベルジック(六七七)、ドイツ(五五五)、アルジェリア(三一四)、合衆國(二五〇)、シゥワイツ(二五二)、イタリア(一九〇)、エスパニア(一一〇)、等を得べし。

更に貿易品の主要なるものを擧げんか、輸入に獸毛(三八二)、綿花(三二八)、生絲(二九八)、石炭(二〇九)、油料種子(二〇九)、木材(一八六)、皮類(一七一)、葡萄酒(一六〇)、器械(一一三)、穀類(一一〇)、等あるが輸出には絹布(二八六)、生毛(二六〇)、皮類(二二一)、毛織物(二一二)、葡萄酒(二一〇)、綿布(二一〇)、パリー雜貨(一九八)、生絲(一三五)、仕

立物(一二一)、化粧品(一一七)、金物類(一〇九)、等あり、之を品種別にせば輸入は原料品(三〇、二六二二)、加工品(八、四七三〇)、食料品(八〇三三)の順なるも輸出は加工品(二三、七九〇九)、原料品(一二、六一四八)、食料品(七、七八二六)と成るなり、而して商港の主なるものはマルセイユ、ルアーブル、ボルドー、ドンケルク、セット、ルーアン、等にして一九〇四年に於ける外國貿易に關する船舶の出入を示せば入船に約二萬九千隻(フランス旗八四〇七、外國旗二、〇一〇五)一千九百九十八萬噸(五一五、一四八二)あるが出船は凡そ二萬九千百隻(八六四一、二、〇三八〇)二千三十七萬噸(五三六、一五〇〇)なり。

交通上の機關は鐵路(一九〇五年)に主要線三萬九千八百二十粁、地方線に六千八百八十粁あり、航河に八千八百二十六粁運河に四千九百三十粁ありて商船は汽船に一千四百五十七隻六十九萬六千餘噸、帆船に一萬五千五十隻凡そ六十五萬噸あるが郵便は內國に一萬一千八百六十九局、外國に五十一局(一九〇四年)を設けて三億一千三百萬餘「フランク」の收入を得、電信は線路十五萬七千六百二十一粁、延長五十九萬五千二百十八粁に達し約三千七百萬「フランク」の收入あるが郵便及び電信に對する支出は二億四千六百萬「フラ

ンク」に近し又、電話は近距離に線路二萬八千三百三粁、延長四十八萬四千三百七十五粁ありて遠距離に六千八百八十二粁の線路と三十五萬六千餘粁の延長あり。

パリー

處誌　パリー(Paris)(二七一、四〇六、八)(北緯四八度五〇分一一秒東經二度二〇分一五秒)はセイヌ河の兩岸幷に該河中の一島に亘りて建設せられたる都會なり、人口、工業、富力、等に就きてはニューヨークに次げる大市にして文藝、學術、政治、等に就きてはヨーロッパ屈指の大中心なり、而て建築の宏大美麗なる、街衢の廣濶清潔なる實に世界第一なり、寺院にはノートルダーム、パンテオン、マドレーヌ、セントシアペル あり、宮殿にはルーブル あり大劇場にオペラ あり紀念碑には凱旋門ありバンドーム幷に七月の大柱 あり、其の他に廢兵院等あり、又工業には雜貨、機械、衣服、飾具、書籍、家具、等の製作あり、此の地は一大軍府として周邊に胸壁を繞らし附近に十六ヶ處の砲壘を有せり、而して本市の近傍にはセンドニーを始めとし、住民の三萬人以上に達する市街八ヶ處あり、

ベルサイユ　(Versaille)(五、四九八、二)はパリーの南西鐵路約十八粁に位し壯

レンス

ナンシー

リイユ

ルーベー

觀の宮殿、庭園を以て名あり、トロワー(Troyes)(五、三一四六)はパリーの南東に當りセイヌの岸に位す舊シャンパーニュ州の首府たりし處とす、レンス(Rheims)(一〇、八三八五)は毛布製造の中心なるが百年戰爭の際著はれし處なり、セダン(Sedan)はベルドンの下流にあり、ナポレオン三世が包圍せられしを以て名あり、ナンシー(Nancy)(一〇、二五五九)はムールト河に沿へる要地にして繻珀を產す、セントカンテン(St. Quentin)(五、〇二七八)はパリーの北東ソンム河の濕にありて綿布を製す。

リイユ(Lille)(二一、〇六九六)はフランス第五の都會にして軍府の一なるが工藝の大中心として麻布、レース、砂糖、機械、等を製す、**ルーベー**(Roubaix)(一四、二三五六)は**ツールコワン**(Tourcoing)(七、九二四三)と共にリイユの北東に於ける工業地にして麻布、敷物を產す、**ドンケルク**(Dunkerque)(三、八九二五)は海峽に沿ひ軍港商港として名を知らる、**カレー**(Calais)(五、九七四三)は商工業の盛なる地にして殊に交通上の要處たるを以て著はる、**ブーローニュ**(Boulogne-sur-Mer)(四、九九四九)は繁昌なる商港たるのみならず海水浴場として名あり、

ルアーブル

ルーアン

ナント

ミアン(Amiens)(九、〇七五八)はパリーの北ソンム河畔に位し盛に織物を產す。

ヂエップ(Dieppe)は繁榮なる海港にして漁業に從事す、ルアーブル(Le Havre)(一三、〇一九六)はセイヌの河口にあり、當國第二の貿易港にして綿花、珈琲、ココアを輸入し殊にアメリカとの取引盛なり、ルーアン(Rouen)(一一、一三六一)はセイヌの右岸にあり史談に富める舊地にして綿布、糖藏品を產し全國屈指の商港を有するがコルネイユ(Corneille)の生地なり、カン(Caen)(四、四七九四)はルアーブルの南西にありてオルヌ河に沿ひ「レース」を製す、シェルブール(Cherbourg)(四、二九三八)はコタンテン半島の北端に於ける一等軍港なり、防禦工事の壯大なるを以て有名なり。

レンヌ(Rennes)(七、四六七六)はセンマロの南南東にあり舊ブルターニュの首都たりし地なるが商業上有利の位置を占む、ブレスト(Brest)(八、四二八四)は軍港の一にして造船所、兵學校、等を有す、ロリアン(Lorient)(四、四六四〇)はブルタニュ半島の南岸にあり五軍港の一にして造船に從事す。

ナント(Nantes)(一三、二九九〇)は海を距ること五一粁、にしてロワール河に瀕

セントチエンヌ

しセンナゼール(St. Nazaire)(三、五八一三)と相待ちて盛に商業、造船業に從事す、アンジェー(Angers)(八、二三九八)はメーヌ河とロワール河との會點に近し工業稍、盛なり、ルマン(Le Mans)(六、三二七二)はサルト河の右岸にありて家禽の取引盛なり、ツール(Tours)(六、四六九五)は商業活潑なるがロワールに沿へり、此地の近傍は往昔サラセン人が敗れし處なり、オルレアン(Orleans)(六、七三一一)はロワールの右岸にありて史上有名の地たり、ブールジュ(Bourges)(四、六五五一)はオルレアンの南南東にありて大砲製造所を有す。

クレルモン(Clermont Ferrand)(五、二九三三)はアリエー、ベダー兩河の會する處、海拔四一〇米突にありて其の「ノートルダーム」は宗教史上名あり、セントチエンヌ(St. Etienne)(一四、六五五九)はリヨンの南西、海拔五三〇米突にありて產炭地に建ち冶金業上當國第一の中心なり、又織物を製するが殊に笹緣を以て著はる、リモージュ(Limoges)(八、四一二一)はロワールの支流ヴィエンヌ河の上流にありて陶器を製す、ヴィシー(Vichy)(三、六四五八)はシャラント河の下流に瀕し一等軍府のロシュフォール(Rochefort)は鑛泉地として有名なり。

一、軍港の一にして造船に從事し水產を集散す。

ボルドー

ボルドー(Bordeaux)(一五、六六三八)北緯四四度五〇分七秒西經〇度三一分二秒はガロンヌ河に瀕し葡萄酒、銘酒を輸出す、フランス第四の都會にして第三の商港なり。

ツールーズ

ツールーズ(Toulouse)(一四、九四八一)はボルドーの南東にありて水利の便を有す、軍府の一なるが文藝又は商業の中心として名、ありベジエー(Béziers)(五、二三一〇)はオルブ河とミヂー運河との會する處にありて靴下を產す、セット(Cette)(三、三二四六)はトー潟と地中海との間に於ける商港なり、モンペリエー(Montpellier)(七、五九五〇)は海を距ること約十粁にありて繁華の地なり、ニーム(Nîmes)(八、〇六〇五)はモンペリエーの北東、沃地に位し絹布、葡萄酒等を產す、アビニョン(Avignon)(四、六八九六)はローヌの左岸にありて紙、熟皮等を產す、宗教史上名ある處なり、

マルセイユ

マルセイユ(Marseille)(四九、一一六一)北緯四三度一八分一九秒東經五度二三分三九秒はパリーの南南東鐵路八百六十三粁、ローヌ河口の東四十三粁に位し、當國第二の都會にして第一の貿易港たり、穀類、油類、等を輸入し織物、葡萄酒、果物、等を輸出するが盛に造船製油製粉等に從事し有名の石鹼を製す、横濱を距る約九千六百浬なり、

ツーロン

ツーロン(Toulon)(一〇、一六〇二)は當國第一、世界屈指の軍港なり、港內は安全にして水底深く多數の大艦を容るるに足り防禦的工事を始めとし造船所、繫船場等の設備の完全なる他の四軍港の遠く及ばざる所なり、カンヌ(Cannes)(二、〇四二〇)は地中海に瀕せる海水浴場たり、

ニース

ニース(Nice)(一〇、五一〇九)は養地として名を知らる。

リヨン

リヨン(Lyon)(四五、九〇九九)北緯四五度四一分四一秒東經四度四七分二秒はローヌ、ソーヌ兩河の合流地海拔一七〇米突に位しフランス第三の大都會にして盛に工業、商業を營むが殊に絹業を以て宇內に著はれ又軍府として中部の巨鎭たり、グルノーブル(Grenoble)(六、八六一五)は軍府の一にして酒精的飲料を製す、ヂジョン(Dijon)(七、一三二六)はアップリク山の麓に於ける商業地なり、ブザンソン(Besançon)(五、五三六二)はヂジョンの東に位せる軍府なり、ベルフォール(Belfort)(二、二五六七)は國の東端に於ける要塞地なり、普佛戰爭の際不落城として名あり。

コルス島

コルス(Corse)島、即ちコルシカ島は地中海第四の大島にしてジェノバの南百五十八粁

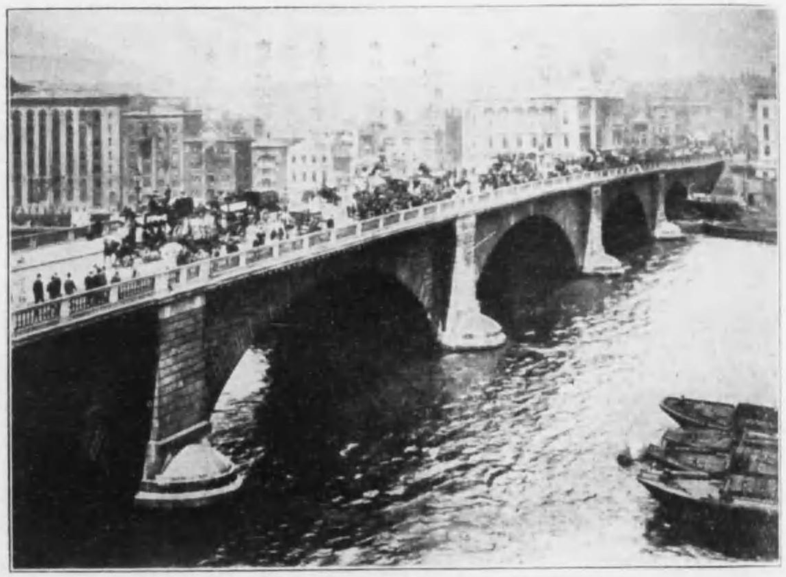
地	地積	人口	方料二付
サルラ	五〇三、七四〇〇	四八〇、一四七五人	〇、一一五
フランス領西アフリカ	一七三、七四〇〇	一八二、〇〇〇	一
チュニジア	一六、七四〇〇	一七三、〇〇〇	一
アルジェリア	八九、〇〇〇方料	四八〇、一四七五人	〇、一一五
フランス領ソマーリー、屬地	一七六、一〇〇〇	八五〇、〇〇〇	一
フランス領コンゴー	二、一〇〇〇	五、〇〇〇	一
マダガスカル	五九、一一〇〇	二六四、四六七二	一
レユニオン	一九八〇	一七二、一九二	一
マヨット、コモロ	一九七八	八、五〇〇	一
セントピエール、ミクロン	一四二	六四八二	一
ガアデルプ	一六〇三	一五、七八〇六	一
屬地	一六七	一一、四六一二	一
マルチニック	九八八	一一〇、七〇一一	一
フランス領ガイヤナ	七、八九〇〇	三、二九〇八	〇、四
フランス領コンゴー	一七六、一〇〇〇	八五〇、〇〇〇	四三一
フランス領ソマーリー、屬地	二、一〇〇〇	五、〇〇〇	一
マダガスカル	五九、一一〇〇	二六四、四六七二	一
レユニオン	一九八〇	一七二、一九二	一
マヨット、コモロ	一九七八	八、五〇〇	一
セントピエール、ミクロン	一四二	六四八二	一
ガアデルプ	一六〇三	一五、七八〇六	一
屬地	一六七	一一、四六一二	一
マルチニック	九八八	一一〇、七〇一一	一
フランス領ガイヤナ	七、八九〇〇	三、二九〇八	〇、四
アフリカ部	一〇一一、四七〇〇	三一六、〇〇〇	三
印度	五〇九	二七、三一八五	五四五
印度支那	六六、三七〇〇	一八九、五九八八	二七
アジア部	六六、四一〇〇	一九、九、九二七三	二九

殖民地

フランス人は本國の富力と兵力とに依つて各方面に向ひて有望の領地を擴張せしも虚名に走りて實益を收むるの策を講ぜざりしに因なるならんか、ヨーロッパの多端なりし際殖民地は殆ど全滅に歸したり、然れども本國の富強は本業に主大の關係を有するが故に其の再興を圖るや半世紀にして殖民國の第三位を占むるに至れり。

七六八年以來フランスに屬す、首部アジャッシオ(Ajaccio)は西岸に位し、バスチア(Bastia)は東岸にあり。

なり、土壤肥沃にして氣候の變化は少なし、住民は二十九萬五千人足らずあるが一のイタリア領たるべき本島の內部は山岳多く(二七一〇)は其の最高なる山にして、長さ百八十三料、幅八十四料あり、地理的歷史的、言語的にサルヂニヤ島と、周圍四百八十三料あり、地積は八千七百餘方料に位し、フランス領コルシカ島とボニファチオ海峽を挾みて、



ロンドン橋 (London bridge)

大軍凱旋門 [パリー]

アメリカ部	八、二〇〇〇	四二、八八一九	五
新カレドニア ロワイヨーテ	一、九八二三	五、一八六五	二、五
ワリス諸島	九六	六〇〇〇	二三
フツナ、アロフィ	一五九		
オセアニア領土	四一四〇	三、一〇〇〇	七
其他	……	……	……
南洋部	二、四二二五	八、九〇〇〇	四
合計	一〇九八、四七〇〇	五一三一、七〇〇〇	五

◎モナコ

モナコ (Monaco) 公國は一方粁半の小邦にして獨裁の君主に依りて統治せらる、土地の要部は半島を形成し六十米突の斷崖は碧海に臨み封建時代の建築は近世の邸第、民屋と共に蓊欝たる松樹の間に散見せり、風景の壯麗優雅なる、氣候の温暖爽快なる、夙に世人の稱嘆する所なり、人口は一萬五千百八十人にして土地は狹隘なるが地味も亦佳良ならざるを以て多量の物産

ロンドン市の創立者はローマ人にして有名なるロンドンブリッヂ(London Bridge)は現在の位置より少しく東に木造にて創設せられしが、二回の火災、數回の改造を經て十一世期に至り石橋に改められたり、爾來幾回かの修繕改造ありて一千八百三十二年まで存在したり、現在の石橋は一千八百二十一年乃至三十一年の十ヶ年餘を費して建造せられたる壯大優雅なる花崗石の五「アーチ」橋なり長さは二百九十五米突、幅は二十八米突ありてロンドンの十三大橋、五鐵路橋の首位を占め港渠の西端、巨船澗航の終點に當れり。

エトワール凱旋門(Arc de Triomphe de l'Etoile)は一に大軍凱旋門と稱せらる、同種の建築物中の最大なものにして高さは四十五米突に達す、一千八百六年を以てナポレオン一世之を創始しルーイフイリツプ王の代に至りて完成せられたり、形式の森嚴にして裝飾の壯烈なる實に稀有の美術建設物なるが、殊にリユード(Rude)の作に係れる彫刻「デパール」(Déjart)は世俗の「ラマルセイエーズ」(La Marseillaise)と呼びて大に賞揚するものなり。

を與ふる能はざるは勿論なれども油、橙、檸檬、薫香、飲料等を輸出せざるに非ず、有名なる「カジノ」(Casino)は眺望絶佳の高地にありて外觀の壯麗なる人目を驚かせり、誰か知らん此の裡に一擲千金の暴富を望む慾奴の集會し居らんとは。

◉イギリス

境域 ブリタニア群島は大西洋中にありてヨーロッパ洲の北西部に位し大ブリテンとアイルランドとの二大島幷に數多の島嶼(ヘブライヅ(Hebrides)諸島、オークネイ(Orkney)諸島、シエットランド(Shetland)諸島、マン(Man)島、アングルシー(Anglesey)島、ジルリー(Scilly)諸島、ワイト(Wight)島、海峽諸島(Channel Islands))より成れるが、北西は大西洋に臨み東は北海に瀕し南はイギリス海峽(English Channel)即ちマンシウ海を隔ててフランスに對せり、地積は三十一萬四千餘(三一、四三三九)方粁ありて我が帝國の三分二強に當れり。

氣候 群島の周圍に於ける海水が比較的に高温なるに依り氣候は概ね温和にして變化少なく殊に濕潤を覺ゆ、アイルランド(北緯五十二度)の平均温

度は合衆國の北緯三十八度下に於ける平均温度に等しく、同じ平均温度を有するスコットランドの北部とアメリカ洲とを比較すれば緯度に二十度の差あり、而して冬季の寒氣はヘブライヅ諸島よりテームス河畔に烈し、又群島には曇天多く濃霧屢〻起りて咫尺を辨ずる能はざることあり、殊にロンドン、マンチェスター、バーミンガム等の如き市街の地には黄霧の爲に空氣の流通を妨げらるると云ふ、又降雨は西部、西南西部并に山地に多く、降雪は海濱に稀にして積雪を見るは山岳地方に限れり。

沿革　ブリテン島は四紀前五十四五年の頃ケーザルの兵を擧りしことあり、西紀四四九年の頃アンゲル、サクソンの如きもの渡來してブリトン人を伐ちしが爾後七國の分立あり、八二七年エグバートの時統一し、一〇六六年にはノルマンヂー公に征服せられ、一五三六年に至りてエールスはイングランドに合はせられたり、而してスコット人、ピクト人等の據りしスコットランドは一六〇三年に及びて亦イギリスに合し、一一七〇年に始まりしアイルランド征伐は遂に該國をして一八〇一年大ブリテンに連合せしめ所謂大ブリテン＝アイルランド聯合王國の成立を見るに至れり、當國の殖民地的膨脹は十七世期の頃より始まれるが十八世期にはアメリカに於ける大殖民地を失ひしが如きことあるも、次世期には亦印度半島地方に其の勢力を伸張せるあり、之を要するに幾多の年月を經て初めて統合せるブリテン群島は其の地積大なるに非ざるも而もイギリス人が代々辛苦經營せる結果空前の大ブリテン帝國を出現せしめたり。

人口

住民　人口は一九〇六年に於て四千四百十七萬七千人と計上せられしが一九〇一年には四千二百萬足らずにして一方粁百三十二人の割合なり。

地	積	人口 男	人口 女	人口 計	方粁ニ付
イングランド、エールス	一五、一〇一五方粁	一六七九、九二三〇	一六七八、八六一三	三二五二、七八四三	一二五
スコットランド	七、八七四八	二一二九、八三四八	二一七、三七五五	四四七、二一〇三	五六
アイルランド	八、三七九二	二二五、八七三五	二二〇、〇〇四〇	四四五、八七七五	五三
マン島	五八八	二、九二五六	二、五四九六	五、四七五二	九三
海峽諸島	一九六	五、〇五三八	四、五〇八〇	九、五六一八	四八九
兵士、海員	—	—	三六、七七三六	三六、七七三六	—
合計	三一、四三三九	二〇五四、〇七二〇	二一四三、六一〇七	四一九七、六八二七	一三二

人口の增殖

人口の增殖は一九〇二年に四十八萬餘人、次年に五十一萬餘人、一九〇四年に四十七萬餘人なれば八十五年を經る毎に二倍する割合なり、而して外

國に往住するものは合衆國(一二、二三七〇)、イギリス領北アメリカ(八、二四三七)、南アフリカ(三、六三〇七)、オーストラリア、新ゼーランド(一、五一三九)等の地方を主とし約二十六萬人あるが外國人等を合はせば四十六萬人に近く一八一五年より一九〇五年に至る往住者は一千七百五十一萬餘人なり、又來住者は一九〇五年に於て約二十萬五千人を見たり。

言語　言語に就きては國人の多數はイギリス語を用ふれども約百八十五萬人はケルト語を話すと云ふ、又宗教に就きては各派の新敎信者を合はせば三千五百萬人以上に達すべきが信據すべきものはアイルランドの統計のみにして其の三百三十一萬人許はローマ公敎徒にして五十八萬はイギリス派、四十五萬はプレスビテリア派、六萬はメソヂスト派に屬せり。

敎育　敎育は盛にして全國に普及せるが殊にスコットランドを以て然りとす、初等敎育は無月謝にして强制的なるが通學生は約五百萬人ありて經費は一年一千一百萬ポンドを下らずと云ふ、中等以上の敎育機關も具備し大學はイングランドに八、エールスに一、スコットランドに四、アイルランドに二、合計十五校あるがオクスフォード(Oxford)、ケンブリヂ(Cambridge)殊に名あり。

政治　政體は立憲君主國にして君主は大ブリテン＝アイルランド聯合王國(United Kingdom of Great Britain and Ireland)王及び海外ブリチシ領君主、信敎擁護主、印度皇帝と稱す、法律の制定は國會の議決に依り皇帝は之に對して認可權を有せり、國會は上下の二院より成れるが、貴族院議員は世襲(三八)、イギリス大僧正(二)、ロンドン、ダラム、キンチェスターの三僧正、上席僧正(二一)、丁年以上の貴族(五一八)、及び一會期毎に改選せらるるスコットランドの貴族(一六)、任期終身のアイルランド撰出貴族(二八)等總計五百九十一人あり、衆議院議員は「カウンチー」(County)、「ボロー」(Borough)及び大學を代表するが其の數は六百七十人にして七年を以て任期とす、選擧權は被選擧權の如く二十一歲に達して始めて之を得るが、家屋、土地を所有するか或は一年の借家料十「ポンド」を拂ふものならざるべからず、內閣は首相兼大藏卿、大法官兼樞密院議長、軍令部長官、內務、外務、殖民、軍務、印度の五國務卿、アイルランド卿、同政務長官、スコットランド政務官、ランカスル參事官地方行政監督長官、商

務、農務、敎育の各長官、郵便總監、等より組織せらる、地方は行政上若干の「カウンチー」と「カウンチーボロー」とに分たれ、イングランド及びエールスに六十二「カウンチー」、六十七「カウンチーボロー」ありてスコットランドには三十三「カウンチー」あるがアイルランドには四州ありて卅四「カウンチー」に細分せらる

兵備に就きて兵役義務は廿一歳を以て始まり十二年間繼續するが現役の外に豫備的の兵四種あり、豫備(Army Reserve)、ミリチア(Militia)、ヨーマンリー(Yeomanry)、義勇兵(Volunter)之なり、而して一九〇六―〇七年の現役兵は約二十六萬人にして之に豫備、其の他を合はせば戰時に七十七萬餘人を得べきが印度軍を合算せば百十二萬餘人と成る、又聯合王國は十五軍區に分たるが更に之を細分して六十七管區とす。

海軍は世界第一にして新式兵艦は戰艦五十九隻、八十二萬三千噸、甲裝巡洋艦三十五隻、四十一萬六千六百噸、一等巡洋艦廿一隻、二十萬一千九百五十噸、二等巡洋艦三十六隻十七萬一千六百八十隻幷に三等巡洋艦(三、三六四〇)、水雷砲艦(一、四六二〇)、水雷驅逐艦(五、六〇〇〇)、潛航艇(二十六隻)、水雷艇(七十隻)、等

の四百三十八隻、百七十六萬噸足らずにて馬力は二百八十三萬を超え十「サンチメートル」以上の砲門二千百九十八、水雷發射管九百六十四、乘組員十萬九千餘人あり、舊式戰艦は二十五隻十八萬六千噸あるが此の他に約二百五十隻の艦船を有す、又建造中のものを記せば戰艦一隻、甲裝巡洋艦三隻、水雷驅逐艦沿岸水雷驅逐艦十二隻、潛航艇十隻、等あり。

財政に就きて一九〇六年三月に終れる會計年度に於ける歳出入は各、二億一千百八十七萬「ポンド」を超えしが歳入は關稅(三四百萬「ポンド」)、飮料稅(三〇)、所得稅(三一)、印紙稅(一一)、郵便(六)其の他より得られ歳出は主として軍事(六二)、民政(二八)、國債(二八)、徵稅(一九)、等に充てられたり、又國債の七億八千九百萬「ポンド」に達せんとす。

生業　生業は各方面に向ひて發達して當國の富力をして偉大ならしめたるが、殊に商工は世界第一にして實に空前の盛況を呈せり、而して其の原因たるや石炭と鐵とに富めるを第一とし、製作品の販路に當れる殖民地の饒多なるを第二とし、世界各部の間に於ける交通上の機關たる船舶を十分

に備ふるを第三とし、國人に有爲、着實、忍耐、不撓、等の美性あるを第四とす。

農業 農業に就きて記さんにイギリスの地積百分中一七、六は耕作に適せず三、九は樹木の占むる所と成り三〇、三は牧地にして四八、二は農業地なるが最後のものは概して大農に屬し八町歩以上の地主は百分の九十三強に達すと云ふ、殊にアイルランドにありては耕地は僅少の豪族の間に分たるるを以て農業者は殆ど小作人たるに過ぎず、而して農産は穀類、馬鈴薯、亞麻、大麻、等にしてイングランドの南部にありては果樹の栽培を見る、又土地の濕潤にして氣候の海洋的なるは牧草の生育に適するを以て養畜業は甚だ盛なり、豚(四一八萬頭)、牛(一一五四)、馬(二〇九)、羊(二九〇三)は何れも良種として名を知らる、

水産業 森林は多からざるがアイルランドには皆無なりと云ふ、水産業は十萬七千餘人の漁夫と二萬四千七百餘隻の漁船とを以て九百二萬餘「ポンド」の金額に達する魚類を與へたるが漁船中の約二千隻は汽船なりとす、鑛業に就きては主要金屬の產出價額約四千五百萬「ポンド」に達し錫(四八)、鉛(二〇)、亞鉛(一三)、等あり、殊に各地より出づる鐵は凡そ三千四百十三萬「ポンド」なり、非金屬の總

產額九千三百四十三萬餘「ポンド」の大部は石炭より成り之に次ぐは粘土(一七七)、砂石(一七二)、粘板石一六七)、石灰石(一三六)、等なりとす、而して石炭はクライド(Clyde)、カムバーランド(Cumberland)、ダラム＝ノーサンバーランド(Durham-Northumberland)、ランカシアイア(Lancashire)、ヨークシアイア＝ダービシアイア(Yorkshire-Derbishire)、スタッフォードシアイア(Staffordshire)、南ウェールス、ブリストル、等の煤田より出でて凡そ八千三百八十五萬「ポンド」の價格に達せり、殊に注意すべきは石炭と鐵とが相近き地に產することなりとす。

工業 工業の情況を記さんに機械の進歩改良が最高の度に達したるが爲め全地球をして當國製作品の供給を仰がしむるに至れり、而して工藝の中心は全國到る處に存して鑄物、機械(マンチェスター)、兵器(バーミンガム)、及物(シェフィールド)、針(グロセスター)、時計、車輛(コベン、ロンドン)、陶器(チーセスター、バースレム)、船舶(グラスゴー、ニューカッスル)、化學品、紙(メードストン、マンチェスター)、其の他を產せり、殊に紡織業は著しく約百三萬(男三七、九二一一、女六五、〇一四二)人の職工の從事するありて綿絲、綿布、羅紗、絹布、レース、麻布、麻絲、等を與ふ。

貿易 貿易の隆盛なる實に羨むべきものあり、一九〇五年に於ては貨物貿易の

高は九億七千萬「ポンド」を超えたり。

年次	輸入	輸出 イギリス産	輸出 外國殖民地産	輸出入計
一九〇五	五、六五〇一、九九一七	三、二九八一、六六一四	七七七七、九九一三	九、七二六一、六四四四
一九〇四	五、五一三六、二一二四	三、〇〇八一、七八九七	七〇三二、一九一八	九、二二五〇、一九三九
一九〇三	五、四二六〇、〇二八九	二、九〇八〇、〇一〇八	六九五七、三五六四	九、〇二九七、三九六一
一九〇二	五、二八三九、一二七四	二、八三四二、三九六六	六五八一、四八一三	八、七七六三、〇〇五三
一九〇一	五、二一九九、〇一九八	二、八〇〇二、二三七六	六七八四、一八九二	八、六九八五、四四六六
一九〇〇	五、二三〇七、五一六三	二、九一一九、一九九六	六三一八、一七五八	八、七七四四、八九一七

次に一九〇四年及び翌年に於ける外國品の輸入高幷にイギリス産貨物の輸出高を地方別にして示さんに

國名	輸入 一九〇五	輸入 一九〇四	輸出 一九〇五	輸出 一九〇四
ロシア	三三三六、六	三一四〇、三	八一六、九	八二三、〇
スエリヂ	九八二、八	九七〇、七	五一九、五	四七七、〇
ノルゲ	五九五、五	五六四、五	三三四、一	二九六、三
ダンマルク	一五六〇、七	一六一〇、二	四一二、九	三六六、八
ドイツ	三五八〇、〇	三三九四、四	二九七〇、四	二五一〇、三
エステルライヒ＝ウンガルヌ	一四八、九	一八一、七	一八五、七	一八九、四
オランダ	三五四八、一	三四六九、〇	九六八、四	八二〇、〇
ベルジック	二七七五、一	二七五三、六	一、〇〇九、六	九〇五、二
フランス	五三〇七、二	五一一〇、七	一、六一四、三	一五二五、四
エスパニア	一三八五、九	一三六七、二	四二四、六	四三三、八
ホルトガル	二九三、〇	二八六、四	二二四、八	二〇六、八
イタリア	三三二、五	三三二、五	八八九、三	八三七、一
ギリシア	一三二、八	一二六、四	一一七、〇	一四七、八
トルコ、クレテ	一四四、一	一六一、五	三〇四、三	三〇〇、六
ロマーニア	一六九、〇	三一三、七	一二三、七	一〇五、六
其他	……	……	……	……
ヨーロッパ	二、四二九九、三	二、三八一一、五	一、〇九九七、七	一、〇〇〇一、五
合衆國	一、一五五七、八	一、一九二二、八	二三九一、六	二〇一九、八
メキシコ	八八、一	五九、五	一八八、〇	一八七、〇
中央アメリカ	一二九、九	一二八、二	一一四、三	一〇〇、三
キウバ	一六、三	一八、〇	一八八、六	一八二、九
ブラジル	八一〇、九	六二三、八	六六一、八	五九八、八

	北アメリカ	ヨーロッパ	外國	他地方	其他	トルコ	オランダ領東印度	フィリッピン	日本	支那	アメリカ	其他	チレー	ペルー	メヽソポタミア	アルヘンチナ
總計	一三三、四	三一一、三	一八八七七、三	三六六〇、三	……	四四、三	一三、九	一四一、五	四八八、九	八八〇、七	五〇一五、五	……	三五、九	一四四、六	一三〇、二	一三六、一
イギリス領	一一、一	一一、九	一一、一	一一、一	……	一四、一	一三、六	一四、一	九六六、二	一三一三、七	五八二七、二	……	四一〇、二	一四一、一	一五一、一	一三三、一
其他	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
西アフリカ	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
南アフリカ	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
香港	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
シンガポール	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
海峡殖民地	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
東印度	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
新セーラウンド	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
オーストラリア	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
西印度	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一
南アメリカ	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一	……	一一、一	一一、一	一一、一	一一、一

主要貿易品を示せば輸入に穀類(六四百萬ポンド)綿花(五二)肉類(三九)獸毛(二五)木材(二三)バタ(二一)砂糖(一〇)化學品及藥品(一七)絹布(一三)果物(一一)鐵(一〇)生獸(一〇)毛織物(九八)カッチ(九六)茶(九三)皮革(九)種子(八五)銅(八二)煙草(八一)鐵器及器械(七九)等あり輸出に綿布(八二)鐵器(二六)石炭(二六)器械(二三)毛織物(一九)化學品(一四)綿絲(一〇)鐵(七三)麻布(六三)毛絲(六一)獸毛(五八)船舶(三三)

(五、四)、被服(四、七)、魚類(四、一)、等あり。

船舶の出入(一九〇五年)に就きて遠洋航船の入船は凡そ五千五百六十二萬噸、出船は五千六百四十一萬餘噸なるがイギリス旗入三五二〇出三五七六其の大部を占む又沿岸航船は入船に六千六萬餘噸、出船に五千八百六十七萬餘噸あるがイギリス旗入五六六四出五五五八の優勢なるを見る、商船は帆船に一萬五十九隻、百六十七萬一千噸ありて汽船に一萬五百二十二隻九百六十五萬五千噸あるが之に殖民地の帆船一萬二千二百二十一隻、九十萬六千噸、汽船四千五百十五隻、六十九萬一千噸を加へば一千二百三十三萬噸に近くして如何に當國の商船的富力の强大にして世界第一と稱せらるるの實あるを知るに足らん、鐵路の長さは三萬六千七百六十八粁ありて之を地積に對比すれば世界屈指の鐵道國たるを見る、從ひて交通上に利便を供すること甚だ大なるが就中ロンドンの市街鐵道は市內の各區の間を連絡せり、此の外交通の機關としては郵便局を二萬三千七十三ヶ處に設け、電信線は長さ八萬三千八百六十九粁、延長九十四萬六千五百四十一粁あるが電話線は六千三百四十二粁の長さを

商船

鐵道

有し延長二十二萬六千六百五十一粁に達し長距離に二十五萬六千十四粁の延長あり又運河の延長は合はせて六千二百八十八粁あり。

大ブリタニア

大ブリタニア島(二三、〇〇〇〇方粁)北にダンカンスビー(Duncansby)岬、ウラス(Wrath)岬あり、南にランヅエンド(Lands End)ありの長さは九百五十粁に達するが、幅は之に適はずして數ヶ處に缺陷を呈するを以てセバーン及びテームスの兩河灣間は二〇〇粁マーシー及びハンバーの兩河灣間は一六〇粁、ソルエー、ファース及びタイン河口間一〇〇粁クライド及びファースオブフォース間は六〇粁船舶の接觸を得べき海岸より百二十粁以上を隔つる地點なし、バードカレーに於て大陸を離るること僅に三十二粁に過ぎざる本島は南より北に向ひて緯度八度に亘りて交通上の要域を占め海岸線は七九〇〇粁に達して優良なる天然港を呈し、强勢の潮汐は河江の下流をして有用なる河灣を呈せしめ以て海洋的生活を島中に普からしめたり、本島は地勢上兩部に分かれ各〻特質を備ふるが、エクセター、ブリストル、ヨーク、ニューカッスルを通過する線は之が境界を示せり、該線の西及び北西に當る地は概ね始原期に屬し、土地高隆にして炭田の多くを包含し、東及び南東に於ける地は第二期又は第三期に屬し北海に向ひて緩斜して波狀的の起伏

スコットランド

を呈するに過ぎざるが頗る農牧に適せり、而して氣候に關しても亦前記の線は境界を示し、主風たる西風を受くる西部には雨量多く海洋的なれば冬季は稍〻溫暖にして夏季に清涼を覺ゆ。

本島は歷史的又は政治的にスコットランドと＝イングランドヱールスとの二部に分たる、スコットランド(Scotland)は北部を占め、王國の二割五分に當れる地積を有し、長さ四百五十五粁、濶さは五十一粁乃至二百八十一粁ありて始原時代の成生に係れるが、海岸は鋸齒狀を呈しファース(Firth)峽灣或は「ローク」(Iochs)峽湖に富み地勢上ハイランヅ(Highlands)高地セントラルローランド(Centlar Lowlands)中央低地サウサーンアップランド(Southern Uplands)南の高地に分かるるが、其のハイランヅは北東より南西に走り平均海拔四六〇米突を有し山地と泥炭地との混成にして耕種に適するもの少なし、而してファースオブモレー(Firth of Moray)よりファースオブローン(Firth of Lorn)に達する凹處即ちグレンモーア(Glenmore)はハイランヅを二分し北西部には峽灣、峽湖多く南東部には四百粁に亘るグランピアン山脈最高峰ベンヰヒス(一三四一)あり又、ヘブライヅ諸島、オークネイ

イングランド＝ヱールス

諸島、シェットランド諸島、等は地勢上ハイランヅに屬す、其のローランヅはハイランヅの南ファースオブフォースとファースオブクライドとの間に於ては僅に六十粁の幅を有するのみ、平野と丘陵最高七二〇米突とより成れる殷富の地なり、アップランヅはハイランヅに似たる所あるも峽湖少なく山岳著しからずしてチェビヨット(Cheviot)山脈は南を限れり。

イングランド＝ヱールス(England-Wales)は大ブリタニア島の中央以南の地を占め三方は海に面し北はスコットランドと境し不規則なる三角形を爲せり、地質上二部に分かる、長さは六百七十六粁最大幅五百七十九粁ありて地積は聯合王國の四割八分に當れり其の西及び北西の部は舊期の岩石より成りて凸凹多く鑛床に富みて工業に適し、其の南東及び東の部は比較的新しき時代の岩石より成り、起伏著しからずして鑛物質の燃料を缺けるも農牧の地たるを失はず、要するに甲部は工業勃興の地にして十九世期以後のイギリスと云ふべく、乙部は王國第一の都會を包有するに拘らず、過去の觀念、各種の建築、等に富める歷史的のイギリスなり、カンバーランド(Cumberland)

地方は溪湖の美なると製鐵の盛なるとに依りて知られ、ペンニン鍵山(Pennine Chain)地方は小山彙の集りより成りて南部のピーク(Peak)は風色に富めるが有名なる四大煤田ノーサンバーランド＝ダーラム(Northumberland-Durham)、ヨークシァイアー(Yorkshire)ランカシァイアー(Lancashire)、スタフォードシァイアー(Staffordshire)面して西平野はペンニンチェインとエルシャマウンテンスとの間にありて「トリアス」期の地層より成り牧業に適しサバーン、トレント等の流域に属する中央平野はハンバー、大ウース、テームスの灌域たる東平野に連なり主として新地層より成れる農牧の地にして肥沃のキールド(Weald)を包有し四列の白堊的丘脈はコーンワル(Cornwall)半島の地峽部に向ひて走行せるが該半島は採鑛、耕種、漁獲等に従事す、エールス(Wales)はデー(Dee)河の下流幷にセバーン(Severn)の谷地に依りてイングランドより隔てられカンブリア山脈(最高峯スノードン(Snowdon)(一〇九四))は殆ど全土に亘り海岸にはカーヂガン(Cardigan)灣を始めとし屈折少なからずして良港に乏しからず而して南部は煤炭に豊にして工業盛なれども北部は耕種養畜に従事して舊時の狀態を維持しケルト派に属するエルシャ(Welche)は百萬人に達すと云ふ。

ハンバー河

テームス河

ハンバー(Humber)河は「ウース、トレント」等の諸流より成れる河灣にして幅は一千六百米突乃至十一粁に達し流域は二萬五千三百方粁あるが、航河、運河に依りてマーシー(Mersey)、セバーン、テーズ(Ouse)河はスエール(Swale)、ウール(Ure)の下流約十三粁にしてトレントと會す、ヨーク以下七十二粁の間は大船の航行に適ぜり、支流はソルフ(Wharfe)エーア(Aire)、デルエント(Derwent)を以て主とす、トレント(Trent)河はヒッドルフムール(Biddulph Moor)に起り南東及び北東に流るること二百四十一粁、ハルの四二十四粁の地に於てウースに合す、支流は右岸にツー(Sow)、テーム(Tiame)、ソール(Soar)、デルエント(Derwent)を以て主とデルエント(Derwent)を有す、ゲンスボロー(Gainsborough)以下四十粁の間は巨艦を浮ぶに足れり。

テームス(Thames)河は大ブリテンの最要河流にして其の南部を南東東に流るるがテームス即ちイシス(Isis)、チャルド(Cotswold)山脈の南東面に發す、南東に向ひてオクスフォードを過ぎ西來のケンネット(Kennet)を容れて又方向を轉じ東方に曲りてヰンゾル、イートン、テッヂングトンリチモンド、ロンドン、グリニヂ、等を過ぎて廣き河灣を爲し遂に北海に入る、長四百五粁ありてイギリス諸流の首位を占むるが或は三百四十六粁を以て第二位にありとす、潮汐は海より百二十九粁のテッヂングトンに達すと云ふ、流域はイギリス

一萬二千(一萬五千)餘方粁あり、河幅はロンドン橋附近に於て約三百米突なるも其河口のホイプステーブル(Whitstable)、フールネスポイント(Faulness Point)間にては二十九粁あり、本流はレクレード(Leehlade)まで航行し得べきが八百噸以上の巨船はロンドン橋の下流約十粁のブラックチール(Blakwall)に至るべく、該橋附近はプール(Pool)と稱せられロンドン橋、ブラックチール間はポート(Port)と呼ばる、而して下流は漸次砂泥の妨害する所と成らざるに非ざるもロンドンに對しては缺くべからざる大動脈なり、支流の主なるものは左岸にウインドルシ(Windrush)チェルエル(Cherwell)、テーム(Thame)、コルン(Colne)リー(Lea)、ローディン(Loding)あり、右岸にクンネット、ロッデン(Loddon)、ダレント(Darent)、モール(Mole)、ワンドル(Wandle)、メドエー(Medway)あり。

セバーン(Severn)河は北エールスに於けるブリンリムモン(Plinlimmon)の東面に發し東、北東、東南東、等の方向に流れ遂に南して グローセスターに達するや河潤を爲すに至る、流域は一萬一千餘方粁あり長さは約三百九十粁なるがエルシブール(Welshpool)まで二百九十粁間は舟運の便あり、主なる支流はテルス(Terne)、上下のアボン(Ayon)、テーム(Teme)、ワイ(Wye)なりとす。

沼湖に就きてスコットランドに於けるものは百十七方粁の面積を有するロモンド(Lomond)長三十九粁幅一一粁の外にカトリン(Katrine)長一四粁、幅一、二粁オー(Awe)長三七粁、幅二、四粁ネス、シン(Shiin)長三、二粁等あるが殊にネッス(Ness)は長さ三十七粁に達しカレドニアン(Caledonian)運河を有するを以て名あり、

セバーン河

イングランド

ロンドン(London)(四六八、四七九九四)は北緯約五十一度に位しテームス河(ロンドン橋に於ける河幅約三百米突)に跨りシチー(City)、エストミンスター(Westminster)、グリニチ(Greenwich)等數多の市街の集合にして周圍九十餘粁、三萬餘町歩の地に亘る聯合王國の首都たるのみならず人口、富力、商船、商業、工業、等に依りて世界第一の市街たり、宮殿、寺院、家屋、等の建築は美ならざるに非ざるも又街路、橋梁、公園、等の設備は完からざるに非ざるも港出入船舶一八〇〇萬噸、船渠(二二〇方粁)、倉庫、工場の廣大なる天下に其の比を見ず、工藝の中心としては絹布、馬車、及物、等を製作し世界の最大市場としては商業上の覇權を握りて五大洲に號令す、實に盛を極むと云ふべし、又幾多の學校、學會の設ありて文學科學の社會に於けるも第一流の都府なり。

トッテンハム(Tottenham)(一〇、一五二九)、ワルトハムストウ(Walthamstow)(九、五一二五)、レイトン(Leyton)(九、八八九九)、エストハム(West Ham)(二九、一九九七)、ホルンシー(Hornsey)(七、二〇五六)、キルレスデン(Willesden)(一一、四八一五)、クロイドン(Croydon)(一四、七〇〇四)等も亦ロンドンの近傍にあり、シアーネッス(Sheerne-

(e)は テームスの河港を防禦す。チタム(Chatham)(四、一〇〇〇)はミッドヱーの河口に近くして海軍の造兵廠あり、カンタベリー(Canterbury)(二、五〇〇)はストール河畔の舊地なり。ドーバー(Dover)、フォルクストン(Folkestone)及ニューヘーブン(Newhaven)は海峽渡航の要衝に當れり。ブライトン(Brighton)(一二、七一八)も亦海水浴地として名あるがヘスチングス(Hastings)(六、五五二八)は テームスに源し風色に富めるリーデング(Reading)(七、一一一四)はケンネットと テームスとの會流地にありてビスケットを以て名高しウインゾル(Windsor)は テームスの南岸に位し王宮の所在地として有名なりポーツマス(Portsmouth)(一二〇、一九七五)は西北緯五〇度四六分一三秒は風色の美を以て名を知らるるワイト島を前面に控え東にスピットヘッド、西にソレントを備ふる長六粁幅三粁の一大軍港を有するが造艦、防禦等に關する設備は偉大なりと云ふサザンプトン(Southampton)(一〇四九一一)は渡洋船の出入する處なり、プリマス(Plymouth)(一二〇、六〇〇)は海峽艦隊の一根據地にしてデボンポート(Devonport)(六九六七)は同名の灣に接せずしてセバーンの支流たるアボン河に瀕す、大商港の一にして鋼、亞鉛、砂糖を輸出すストックポート(Stockport)(七八八七一)はマンチエスターの南東にありて綿布を產す。

ブリストル(Bristol)(二四、二一〇四)は同名の灣に接せずしてセバーンの支流たるアボン河に瀕す、大商港の一にして鋼、亞鉛、砂糖を輸出すストックポート(Stockport)(七八八七一)はマンチエスターの南東にありて綿布を產す。ウルバーハンプトン(Wolverhampton)(九九四五六、ヱストブロムヰッチ(West Bromwich)(六五一七二、ワルサル(Walsal)(八六四四〇)はバーミンガムの近傍石炭及鐵の產地にあり、バートン(Burton on Trent)(五、〇三八六)はビールを產す、ベンリー(Hanley)(六一五二四)はバースレム(Burslem)等と共に陶器の產地にありダービー(Derby)(一二二二一〇七)はデルヱント河畔にありて絹布、綿布、レース、等を製するのみならず鐵道交通の要地なり、ノッチンガム(Nottingham)(二五、一六七)はトレント河畔にありてレース、綿靴足袋等の製造盛なり、レスター(Leicester)(八、一〇〇〇)は海を有せり。

ワイト(Wight)島は ソレント海峽を以て ハンプシヤと隔り イギリス海峽中に位す、東西三十七粁、幅二十一粁、地積三百七十六方粁あるが白堊質の丘陵は二百餘米突に達する處あり、地味肥沃にして海上に、浮べる花果の、鬱たるの實あり。

バス(Bath)(五、〇〇〇)はアボン(Avon)河畔にあり古來有名なる鑛泉地なり、

ヨーク(York)(七七七九三)はウーズ河に沿ひ肥沃の平野に位す、リーズ(Leeds)(四五六七八七)はエール(Aire)河の谷にありて毛絨、羅紗、陶器を産す、ブラッドフォード(Bradford)(一八六七九)は紡織に從事す、ハッデルスフィールド(Huddersfield)(九四八八)は石炭の産にあり、ハリファクス(一〇、八四一九)は綿布を産す、シェフィールド(Sheffield)(四四、〇四一四)はシーフドンの會流地に位し鋼鐵及物を製す、ハル(Hull)(二五、八一二七)はハンバー河灣に沿ひ捕鯨に從事するが屈指の商港にして石炭農産等を集散す、ミッドルスボロー(Middlesborough)(九、二三一)は(六、二六一四)反ストクトン(Stockton on Tees)(五、一四七六)と相距ること遠からず、サンダーランド(Sunderland)(一五、二七一六)はキール(Wear)河の口にありて石炭を輸出し造船に從事す、ニューカスル(Newcast'eson Tyne)(一二六、四五一一)ゲーツヘッド(Gateshead)(一二、〇六二一〇)幷にサウスシールヅ(South Shields)(九七二六)は(七)等はタイン河の下流に瀕するが石炭の輸出を以て名あり、バロー(Barrow in Furness)(五、七五八四)は製鐵に從事し商港を有す、プレストン(Preston)(一一、五七二一)はリブル(Ribble)河灣に沿ひブラックバルン(Blackburne)(一三、三〇六)は(七)はブレストンの東に位し、ボルトン(Bolton)(一七八一一二)ブルンリー(Burnley)(一二、一一三)は(七)は(一二、八一一三)はトレントに注ぐソール河の詩にあらわれて毛織、靴下等を製し羊の市場なり、バーミンガム(Birmingham)(五四、二九五九)はイングランドの略中央に位し冶金業の一大中心にして針、釘等を産す、此の地に近きコベントリー(Coventry)(六九八七七)ハンヅヲルス(Handsworth)(五、二九二二)アストントマノル(Aston Manor)(七七三一〇)キングスノルトン(Kings Norton)(五、七一二〇)スメトヰク(Smetwick)(五四五六〇)等も製鐵に從事す、オクスフォード(Oxford)(四九〇〇〇)はロンドンの西北西にありて著名なる大學の所在地なり、ノルサムプトン(Northampton)(八七二一〇一)はネン河に臨み靴の産出多し、

ケンブリヂ(Cambridge)(三八〇〇〇)はウーズ河の支流たるケム河に瀕する大學を以て著名なり、イプスキッチ(Ipswich)(六六六二一)はオルレル河の口に近し、ノリヂ(Norwich)(一一六七四一)は北海に注ぐエール河に跨り毛織物を製す、グリムスビー(Grimsby)(六三一三八)はハンバー河灣の一港なり、

マンチェスター

バーケンヘッド

カーディフ

ニューポート

リバプール

エディンバラ

グリノック

ダンディー

グラスゴー

ペイズリー

アンガルシー

ホリーヘッド

ソルフォード

オールダム

nley)（一〇、一六八）オールダム(Oldham)（一四、〇二二五）ソルフォード(Salford)（二三、
一五一四）等の如き就も十九世紀の始には小邑たるに過ざりしものは
ンチェスター(Manchester)（六三、一一八五）西北緯五三度二九分四三秒と共にランカシア
ー炭田の地にありて盛に綿布の製造に從事し製品を地球の各處に普及
せり、リバプール(Liverpool)（七三、〇一四三）西北緯五三度二四分一四秒は綿布の大
市場にしてマーシー(Mersey)河に瀕す、王國中ロンドンに次げる通商地にして
ヨーロッパ第三の商港たり、對岸にビルケンヘッド(Birkenhead)（一一、六〇三五）あ
り、近郊にブートル(Bootle)（五、八五五八）あり、セントヘレンス(St. Helens)（八、四四
一〇）も稍名を知らるるがリバプールを距ること遠からず。
ニューポート(New-Port)（六、七二九〇）はセバーンに注ぐスウォンジーの
河口に於ける商業地なり、カーディフ(Cardiff)（一八、〇〇五四）はニールス最大の
都會なり、セバーンの河口に臨むブリストル灣に瀕し優良の石炭を輸出す、
スウォンジー(Swansea)（九、六三八四）はカーディフの西北西に於ける港にして冶金
業に從事するが殊に製銅を以て著はるマーサーチドビル(Merthyr Tydfil)（六、

エディンバラ

ダンディー

グラスゴー

九二二七）はカーディフの北西に於ける鑛業地にして鍛鐵製鋼に從事し鐵板
鐵棄を製す。

アンガルシー(Anglesey)島は アイルランド海の南東部に位しメナイ海峽に依りて
大ブリテン島と境するが稻粟の繁茂せる肥沃なる地にして四村、幅三十一村、地積七
百八十二方村あり、土地平低なるも頗る多し。
ホリーヘッド(Holyhead)島は アルアルシー島の北西にあり、同名の港はイギリス歐
道の終點にして四時間以内にてダブリンへ渡航すべし。

エディンバラ(Edinburgh)（三一、六四七九）分北緯五五度五七秒西經三秒は蘇都の地にして學術の中心たるが又工商業に從事す、レイト(Leith)（七六六六七）はフォース灣の南岸にありてエディンバラーの附庸港たり、グラスゴー(Glasgow)（七六、〇四一三）はクライド河に瀕す、王國第二の都會にして綿布「モスリン」を製するが炭鐵の供給に豐なれば盛に造船業に從事すべし、ペイズリー(Paisley)（七九三五五）はグラスゴーの西十一粁にありて亦工業地なり、グリノック(Greenock)（六七六四五）は商港なるが製艙造船行はるダンディー(Dundee)（一六、〇八七）は同名のファースに瀕する海港たるのみならず印度より

輸入せる「ジゥート」に依りて盛に帆布、網具を製す、アバーデーン(Aberdeen)(二五三一〇八)はデー河口にありて織物、絲類を製し遠洋漁業に從事す。

ヘブライヅ(Hebrides)諸島は一に西諸島と云ふ、スコットランドの西岸に横たはれる五百以上の島嶼にして外群はレヰス(Lewis)、北ウイスト(Uist)、ベンベクラ(Benbecula)、南ウイスト、バルラ(Barra)、其の他より成り、內群はスカイ(Skye)、エイグ(Eigg)、コル(Coll)、チリー(Tiree)、ムル(Mull)、ジュラ(Jura)、アルラン(Arran)、等を含み土地は起伏多く峽灣に富み氣候温和なるも有用なる地に乏し。

オークニー(Orkney)諸島はポモナ(Pomona)、ホイ(Hoy)、等九十島より成り北北東に亘ること八十粁なるがペントランドファールス(Pentland Firth)を以てスコットランドの北東端と隔れり、地積は九百七十四方粁に達せざるが、土地概ね低くして樹木なく耕種も多く行はれず住民は漁業を主とす。

シェトランド(Shetland)諸島は百餘の島嶼より構成せられて一千四百二十七方粁の地積を有するが、メインランド(Mainland)、イエル(Yell)、ウンスト(Unst)、フェトラル(Fetlar)等を主とす土地はオークニー諸島より高くして高島の名あるに拘かず本島は漁業、牧業に利用せらる。

アイルランド

北水道 (North Channel) とセントジョージ(St. George)水道とに依りて大西洋に通ずるアイルランド(Ireland)島はヨーロッパ第三の大島にして

十粁に過ぎず、地積(八、四〇〇〇方粁)はスコットランドより大にして長さは四百六十七粁あるが、幅は二百八十二粁乃至百四十五粁あり、始原期に屬する地多く山岳最高峯カーラントゥヒル(Carrantwohill)(一〇四〇)は周邊に散在するも內部は平坦にして海抜百米突以內なり而して三千五百四十粁に亘れる海岸線は西部及び南西部に屈曲多く、ドネガル(Donegal)、ガルエー(Galway)、ディングル(Dingle)、ケンメーアー(Kenmare)、バントリー(Bantry)、等の諸灣、マリン(Malin)、ミゼン、等の諸岬を呈せり、氣候は全然海候的にして多季は温和なるも夏季に清涼を覺え降雨多く各處に沼湖を現出せしむ、農牧の地にして樹林に乏しきも泥炭に豐なり、住民は亦スコットランドより多きも密度は彼に劣れり、又本島は大ブリテンに合同せるも今に完全なる融合を見るに至らざるものの如し。

ジャンノン(Shannon)河はアイルランドの最長流なり、クイルカグ(Cuilcagh)山脈に起りて大西洋に入る、途中アルレン、ボーデルグ(Boderg)、ボフィン(Bofin)、フオルブス(Forbes)、リー、デルグ、等の諸湖を受くるが、河灣は長さ百十三粁、幅十六粁ありて入口より約十六粁の地に於ける幅は凡そ二千四百米突なり、航行の便はフォ

ダブリン
ベルファスト

イン(Foyne)より始まる、サック(Suck)、フェルス(Fergus)は右岸より、インニー(Inny)、ブロスナ(Brosna)、ムルキール(Mulkear)、マイグ(Maigue)、ゼール(Deel)は左岸より會するが本河も亦運河を有せり。

湖沼には ニー(Neagh)(三九八方粁)、エルン(Erne)、マスク(Mask)、コリブ(Corrib)、アルレン(Allen)、リー(Ree)、デルグ(Derg)、等ありて其の數少なからざれども概ね水底淺くして實際に便益を供するものは稀なり。

タブリン(Dublin)(三七、三一七九)北緯五三度二三分一三秒西經六度二〇分一七秒はリッフェー河に跨るが舊都の地にして商業に從事す、ベルファスト(Belfast)(三四、八九六五)は北水道の一灣に瀕し亞麻布を製し造船に從事す、リメリク(Limerich)(三七〇〇〇)はシャンノンの河灣に瀕しロンドンデリー(Londonderry)(四、〇〇〇〇)はフォイル灣に臨める港なり、コルク(Cork)(七、五九七八)はリー河に沿へる南部の商港なり。

マン島(Isle of Man)はアイルランド海にありてイングランド、スコットランド、アイルランドの畧中間に位し長さ五十三粁、幅十三乃至二十一粁周回凡そ百六十粁ありて山岳多く土壤肥瘦ならず、鉛、錫等を產し鰊、鱈等を漁す、住民は五萬五千人に足らざるがケルト及ノルグの雜種にして言語はケルト的分子多し、首邑ドーグラス(Douglas)は東岸にあり。

海峽諸島　海峽諸島(Channel Islands)はジャーシー(Jersey)、ゲルンシー(Guernsey)、アルダーニー(Alderney)、サーク(Sark)の四主島より成れるが自然的にはフランスに屬すべきものなり、氣候温和にして土地風色に富めり、土語は舊きノルマン語なるが公語はフランス語にして、商業は頗る活潑なりとす、首邑セントヘリアー(St. Helier)は耕地牧場に富めるジャーシー島にあるが、ブレー(Bray)港はアルダーニー島にありて軍略上の要地たり。

殖民地　イギリス人は所謂先天的の殖民移民家なるにや、本業を企圖するに當りて良土豐地の多くは他國に屬し、商權は先進者の專有する所なりしに拘らず、事を遠大に期し强者と謀りて弱者を抑へ、尺進に甘ずるを知りて而も寸退を之れ恐れ、主として領土の擴張を務め實利を重んじ名義に拘泥せず、遂に當今の如く空前の殖民的大帝國を構成するに至りたり、我が國の六十四倍大の土地は約三億六千萬人の住民を以て五大洲に散在し或は天產國として原料を供給し或は消費地として製品を需要し以て本國の繁榮

を促せるが、政治的組織に關しては之に殖民地と保護地との別を爲し、殖民地を更に三種に分てり、其の一を直轄殖民地(Crown Colonies)と云ひ、其の二を監督殖民地(Representative Institution)と云ひ、其の三を自治殖民地(Responsible Government)と云ふ。

	地積	人口	方粁ニ付
地中海	九五九〇方粁	四六、七七四六人	五〇
ジブラルタル	五	一、九一〇二	—
マルタ	三〇三	二〇、二一三四	六六七
キプロス	九二八二	二四、六五一〇	二六
アジア	五一九、一七〇〇	三、〇二〇三、五〇〇〇	五八
印度帝國	四八二、六一〇〇	二、九五二一、三〇〇〇	六四
セイラン	六、五九九三	三八一、二九三一	五八
海峽殖民地	三九五二	五九、六四八六	一五一
マライ保護國	七、〇〇〇〇	八三、八一五一	一二
北ボルネオ	八、〇五六一	一六、〇〇〇〇	二
サラワック	一〇、三二二一	五〇、〇〇〇〇	五
香港	七九	三六、五〇〇〇	—
其他	…	…	…
アフリカ	五三四、一八〇〇	四三六三、三〇〇〇	八
黄金岸	三〇、八八七〇	一四八、六四三三	五
南ニジェリア＝ラゴス	一九、七七二八	六四〇、〇〇〇〇	三二
北ニジェリア	八一、六〇〇〇	二〇〇〇、〇〇〇〇	一一
ソマーリ	一五、五〇〇〇	一五、三〇〇〇	二
東アフリカ	四六、七五〇〇	四〇〇、〇〇〇〇	八
ウガンダ	二三、一五〇〇	一八〇、八一一六	八
ザンジバル	二六四〇	二五、〇〇〇〇	九五
中央アフリカ	一〇、六一三四	九二、四四三一	九
喜望岬殖民地	七一、七三八八	二四〇、九八〇四	三
オレンジ リバー	一二、五二〇〇	三八、七三一五	三
トランスバール	三〇、四九一三	一三五、四二〇〇	四
ローデシア	一〇五、八〇〇〇	一三五、〇〇〇〇	一、二
其他	…	…	…
アメリカ	一〇〇二、八七〇〇	七八七、〇六八四	〇、七
カナダ	九五八、九七〇〇	五六〇、四三二八	〇、六
ニゥーファウンドランド	一一、〇六七〇	二二、二六四三	二

グイアナ	二四、六四七〇	二九、五一二二	一、二
其他	…	…	…
オセアニア	八二五、七三〇〇	五五六、七〇〇〇	〇、六
オーストラリア聯邦	七九二、九〇〇九	四三二、五〇〇〇	〇、五
新ゼーランド、屬島	二七、一〇五九	九一、二九七四	三
ピチー、ロツマー	二、〇〇四五	一二、一七七三	六
サロモン諸島	三、三九〇〇	一四、〇〇〇〇	四
其他	…	…	…
合計	二八八二、九一〇〇	三、五九五七、〇〇〇〇	一二

南部

◉イベリア半島

境域

イベリア(Iberia)半島はピレネー半島或はイスパニア半島とも呼ばる、ヨーロッパ洲の南西部にありて大西洋と地中海との間に介在し、北邊の一部はピレネー山脈に依りて大陸に連なれり、ジブラルタル海峽を挾みてアフリカと相對す、地積は五十八萬四千方粁あるが其の大部はエスパニア王國に屬せり。

地積

海岸線は大西洋に一千六百七十五粁、地中海に一千百五十粁ありてオルテガル(Ortegal)、フィニステール(Finisterre)、ロカ(Roca)、サンビンセント(São Vinciente)タリファ(Tarifa)、ガダ(Gata)、パロス(Palos)、ナオ(Nao)の諸岬、ジブラルタル半島、開濶なるビスカヤ、カヂス(Cadiz)、バレンシア(Valencia)等の諸灣を呈せるも槪して屈曲に富まず又島嶼にはバレアル諸島あるのみ。

海岸

半島の內部は海拔五百乃至一千米突の土塊を成し全國の六割に當れるが山脈にて圍繞せらるる數個の盤地を抱括せり、其の北にあるをレオン、舊カステルラの盤地とし、其の中部にあるを新カステルラの盤地とす、ピレネー山脈は長さ四百二十粁に亘り平均の幅は百二十粁に達せるが、最高峰はピコデネッー(Pico de Nethou)(三四〇四)にしてポセッツ(三三六七)、マラデッタ(三三五四)、モンペルヂウ(三三五一)等の諸峯を有す、交通上の大障碍にして實用に供すべき峠は東端のペルチュス(二四八)と西端のイヂアザバル(六五八)あるのみ、又

山岳

境域

カンタブリオ(Cantabrio)山脈、最高峯ペニアスデヨーロッパ(Penas de Europa)(二六六二)はピレネーに連續し長さ五百五十粁に達せるが此の他にシエラモレナ(Sierra Morena)等あり、幾多の山脈は此等より分岐して起伏に富める高地を形成せり。

河流

河流は長きも水量に乏しく河床の傾斜強きが故に交通の便を與ふること少なし、今主流を擧ぐればエブロ河は地中海に入り、大西洋斜面にヅーロ、タヒョ、グアヂアナ、グアダルキビル等あり。

氣候

臺地にありては寒暑の差烈しく、地中海沿岸の地にありてはアフリカ的なり、大西洋沿岸の地に於ては濕潤にして溫和なるも山岳の附近に於ては寒暑の激變を覺ゆ、雨量の年平均はオビエドの二千六十粍にしてマドリードの二百七十五粍なり、又平均溫度に就きては半島の北部に十三度を示し南部に二十度を示せり。

◎エスパニア

エスパニア(España)王國即ちスペイン(Spain)はイベリア半島の大部を占めて地中海、大西洋、ピスカヤ灣に瀕するが、西の一部はポルトガルに接し北東はフランスに連なれり、南北八百八十五粁、東西一千三十粁あるが王國の面積は五十萬四千五百六十七粁にしてバレアル(五〇一四)、カナリア(七二七三)等を含めり。

住民

エスパニアは舊とイベリア人の住せし處なるが、ケルト人次で來り、四紀前三世期にはカルタゴ人の殖民ありたり、次世期よりローマ人の來侵ありて遂にアウグスツスの代全くローマ領と成れり、然るに五世期に及びてスエビ、ソンダル、西ゴート等のゲルマニア人來りて五七三年には西ゴート王國の領地と成り、七一四―七三二年にはムール人の征服する所と成りしが、彼等の衰ふるに當りて幾多のキリスト敎國起り一四六九年アラゴン、カスチルの合併せしより遂に統一(一五一二)の運に向ひしのみならず新世界の發見ありて國土擴張し低地諸州、シシリア、等も併呑せられエスパニアの勢は旭日の如くなりしが、フィリップ二世の時より衰運に向ひルイ十四世の干戈を事とし、ナポレオンの頃に至りてはフランス帝國の一州たる實を有し、イギリスの援助に依りて僅に獨立を恢復せしも、國勢挽回の機至らずして國外に於ける領土は殆と全く之を失ひて今日に至れり。

沿革

人口は約一千八百六十二萬人(一九〇〇年)なれば之を地積に對比すれば

方粁に付き三十七人と成る、エスパニア人は各種民族の混和せしものにしてヨーロッパ洲中、アフリカ的分子を含有する種族の一なり、國教はローマ公教なるが住民の殆ど全部は之を信奉せり、教育は不振にして下流社會には無智のもの多く大學の効力は顯著ならず。

政治

エスパニアは一八七六年以來立憲王國と成りて內閣は代議、元老の兩院より成る國會の贊助に依りて政治に與れり、行政上は地方を四十九州に區分し、兵備は陸軍に平時の九萬三千餘人、戰時の凡そ十三萬人ありて海軍には三十五隻六萬五千噸足らずあるのみなるが一九〇六年の歲入は十億百萬餘「ペソ」、歲出は凡そ九億六千八百九十萬「ペソ」にして國債は九十三億九千四百萬「ペソ」の多きに達せり。

生業

エスパニアに於て水ある地灌漑の便を得る爲に開掘したる運河少なからざるが就中帝河(八八粁)、ウルヘル(Urgel)(一四五)等を著しとすは必ず豐饒なり、カステルラは麥を產し地中海沿岸の地は柑類、無花果、桃、杏、石榴、オリーブ、葡萄、等を產す、然れども北部幷に中部には無水の地、鹹水の平原ありて全く生產力を缺けり、而して山岳地方は鐵、石炭、水銀、鉛、銀、銅、亞鉛、食鹽等を產す、貿易は輸入に綿花(九六)、石炭(七一)、器械(六七)、木材(五六)、小麥(五二)、化學品(四三)等の約九億二千一百萬「ペソ」ありて輸出は葡萄酒(七九)、鉛(七四)、柑類(六一)、オリーブ油(五四)、銅(三八)、綿布(三七)、コルク(三六)等の凡そ九億一千七百萬「ペソ」あるが主要なる取引先は輸入の部にイギリス及びジブラルタル(一七二)、フランス(一三二)、合衆國(一〇二)、ドイツ(九二)、ロシア(五六)等ありて輸出の部にもイギリス及びジブラルタル(三一〇)、フランス(一八九)、キューバ及びポルトリコ(八三)、オランダ(四八)、ドイツ(四四)等あり、船舶の出入は一九〇四年に各、一千五百萬噸を超えたり而して商船は凡そ五十二萬噸にして鐵道は一萬四千八百餘粁、電信線の延長は七萬四千三百十四粁ありて電話線は遠近合はせて凡そ六萬二千五百粁の延長を有せるが郵便局は三千七百十二あり。

マドリッド

マドリッド(Madrid)(五三、九五八五)(北緯四〇度二四分三〇秒、西經三度四一分一五秒)は王國の首都なり、新カステルラの地にありてマンザレス河に瀕し海拔六五〇米突にあり、市街は美麗なれども工業は振はず、

バルセロナ

バルセロナ(Barcelona)(五三、三〇〇〇)はカタロニアにありて地中海に沿へり、王國第一の商港にして軍府の一なるが又工

藝の中心として絹布、羅紗、綿布「レース」等を製造す、サラゴッサ(Zaragossa)(九、九一八)はアラゴンの首府なり、エブロ河の湾に位せる工業地にして交通上の要衝に當れり

サラゴッサ

バレンシア(Valencia)(二一、三五五〇)は當國第三の都會なり、グアダラビアル河口に於ける「ウエルタ」(huerta)灌漑の利ある肥沃の地の義中に建ちて絹布、石鹸、紙類を製するが殊に扇子は有名なり、アリカンテ(Alicante)(五、〇一四三)は軍府の一なり、ムルシア(Murcia)(一一、一五三九)はセグラ河畔の「ウエルタ」にありて繁榮の地なり、カルタヘナ(Cartagena)(四、一三一五)は軍港の一にして鉛を製す、船舶の出入少からず、ロルカ(Lorca)(六、九八三六)はムルシア、カルタヘナと三角形を爲せるが近傍に銀の産あり、マラガ(Malaga)(一三、〇一〇九)は地中海の一商港にして葡萄酒、乾葡萄を輸出しアルメリア(Almeria)(四、七三二六)と共に鉛、銅、等の鑛石を輸出す、グラナダ(Granada)(七、五九〇〇)はグアダルキビルの支流ヒニル河の畔海抜六七〇米突の地に位し史上著名の地なり、コルドバ(Cordova)(五、八二七五)は古來有名なる地にして建築物には見るべきものあり、セビリア(Sevilla)(一四、八三一五)はグアダルキビルに瀕し通舟の便あり、舊都の地

ムルシア

カルタヘナ

マラガ

セビリア

にしてアルカザルの宮殿幷に宏大なる寺院を有せり、カヂス(Cadiz)(六、九三八二)はレオン島にある軍港なるが商港として葡萄酒、食鹽の集散に從事す、バラドリッド(Valladolid)(六、八七八九)は舊カスチルラの首府たりし處にして麥、綿羊の産地にあり、ビルバオ(Bilbao)(八、三三〇六)は同名のリア(Ria)に瀕し、ビスカヤ灣に近き商業地にして鐵、其の他の鑛石を輸出す、サンタンデル(Santander)(五、四六九四)は繁昌なる商港たり。

ビルバオ

バレアル諸島

バレアル(Balearic)諸島はバレンシア灣の東に位してマヨルカ(Mallorca)、ミノルカ、カブレラ幷にイビサ、フォルメンテラ、等より成れるが、地積五千十四方粁、人口三十一萬二千人近くあり、首都パルマ(Palma)(六、三九三七)はマヨルカ島の南西岸にありて葡萄酒、柑類を輸出す。

殖民地

エスパニア人はポルトガル人に倣ひ商利を得るを目的として立ち領土の擴張と宗教の傳播とを兼ね一時は尨大の殖民地を保有するに至りしも施政上に過失多く經濟の原則に戻りたるが爲の各殖民地の離反を來たしたれば現時は僅にアフリカ洲にてリオデオロ 一八、五〇〇〇方粁、一三、〇〇〇〇人、リオムイ

二、五七〇〇、フェルナンドポー二、〇七四二等の二十一萬二千七百方粁二十一、三、九〇〇〇、一九九八

九萬一千人を有するのみ。

◎アンドラ

アンドラ(Andorra)はピレネー山脈中に於ける一小共和國にしてエスパニアのユルヒェル僧正井にフランスに兩屬せり。

◎ジブラルタル

ジブラルタル(Gibraltar)は舊とエスパニアに屬せしが一七〇四年以來イギリスの領する所と成れり、地中海の咽喉たるジブラルタル海峽の一隅に於ける一小半島にて堅城鐵壁の稱ある砲壘は直立四二九米突の岩石上にあり、軍港とし倉庫地として有名なるのみならず又貿易港としては船舶の出入八百七十九萬一千噸に達し取引高は一千三百三十萬ポンドを超えたり。

◎ポルトガル

ポルトガル(Portugal)王國はイベリア半島の西端にありて北と東とはエスパニアに連なり、其の他は海に面するが、地積は八萬八千九百五十四方粁にして之にアソレス、マデイラの二諸島(三二〇三)を加へば王國は九萬二千餘方粁と成るなり。

住民

人口は五百四十餘萬(男二五九女二八三)人ありて一方粁の平均は六十一人なりとす、種族はエスパニア種族に似たる處多けれども亦アフリカ的分子の一層強きを見る、敎育は不振にして普及せざるが又進歩するの望なし、國敎はローマ公敎なれども多少の新敎信者あり、政體は立憲君主國にして立法權は貴族と代議との兩院より成る國會に屬し、行政權は內閣に屬せり、農業は米、柑類、葡萄酒、果實等を與ふるも鑛業は僅に少量の石炭、食鹽、銅等を得るのみ、其の他工藝の如きは更に振はず、貿易は一九〇四年に於て輸入は六千二百萬「ミルレイス」、輸出は三千萬「ミルレイス」を超えたるがイギリス、ドイツ、エスパニア、ブラジル、合衆國等と取引し葡萄酒(九四三)、コルク(三九五)、魚類(九五)、綿布(一八四)、果物(一六五)、銅(一一〇)、等を輸出す而して入船は一千四百餘萬噸なりしが鐵道(二三九四粁)、電信線(一、九五一〇)、郵便局(三〇八〇)、等も著しからざるなり。

政治

生業

リスボア
ポルト
殖民地

リスボア(Lisboa)(二五、六〇〇九)北緯三八度四二分三一秒西經九度一一分一一秒はリスボン(Lisbon)、リッサボン(Lissabon)とも云ふ、王國の首府にしてタヒョ河に瀕し軍港と商港とを兼ぬ、南アメリカとの交通繁くイギリスの製品及び殖民地の物産を輸入す、附近にシントラ(Cintra)の宮殿あり、ポルト(Porto)(一六、七九五五)即ちオポルト(Oporto)はヅーロ河に接し盛に葡萄酒、果實等を輸出す。

ポルトガル人はヨーロッパの西端に於ける狹隘の地に國を建つるが故に陸上に事を爲すの難きと海上に利を得るの易きとを先覺して立ち、商業的殖民地を各處に設け一時は盛大を致せしも、本國の微力なると競爭國の優勢なるとに因りて漸く衰退を來たし、遂にインド、ブラジル、等を失ひしが今尚ほアンゴラ(一二七、〇〇〇方粁、三八〇、〇〇〇人)、モサンビク(七六、一〇〇〇方粁、二三〇、〇〇〇人)を主として二百九萬方粁、七百二十七萬人を有せり。

イタリア

イタリア(Italia)王國はイタリー(Italy)とも稱せらる、南ヨーロッパの中央部に

エスコリアル(Escorial)宮

ベネツィア(Venezia)

エスコリアル（Escorial）はマドリードの北西約三十粁アランダ河の畔、一小山麓の麓にあり、附近の地は砂礫を以て蔽はれ乾燥に失して無毛不毛なるも宏大無双の宮殿を以て知らる、サンロレンソ（San Lorenzo）宮はフイリップ二世の建立に係れる花崗石造りにてエスパニア人は以て世界七大製造物に次ぐべきものと誇称す、蓋人ロレンソの刑具に因みて厳粛形に作られたる本宮は一百有餘の堂宇房室の中に僧侶、繪額、壁飾、圖書等を藏せり

ベネツイア（Venezia）はイギリス人のベニスにしてアドリア海のベネツイア灣頭に於けるリアルト（Rialto）ギウデッカ（Giudecca）等の数嶼に亘りて建設せられたる龍宮的の市街なり、長さ三千六百米突の歩路橋は大陸との連絡を保ち、縦横に通ぜる大小の運河は街衢に代り小舟「ゴンドル」は車馬の用を為す、又建築物の中にて最も著しきものはリアルト橋、ドージの宮殿、サンマルコに於ける争覇、「フロラチース」の大厦等なり。

山脈　アルプス山脈中にはモンテビアンコ（Monte Bianco）四八一〇、モンテローザ等ありて大陸、半島、島嶼の三部より成り、北はエステルライヒ、シワイツに境しアルプス山脈と半島の脊骨たるアペニン山脈との間にありてロンバルヂア平原と稱せらるゝ山脈は西北より東南に走り、其の延長は凡そ一千二百粁にして幅は五百六十粁あるが、北西より南東に至る長さは凡そ一千百三十粁にして幅は五百六十三粁乃至百三十粁なれども南部に於ては三十二粁に達せざる處あり。

地勢　イタリアの大部は山地に属するが廣き平野は北境を為せるアルプス山脈と半島の脊骨たるアペニン山脈との間にありてロンバルヂア平原

海岸　海、岸、線の延長は六千七百八十五粁に達するが海、灣にはリギウリア（Liguria）海、チルレニア（Tyrrenia）海、アドリア海、ナポリ灣、サレルノ（Salerno）灣、タラント（Taranto）灣、ベネチア（Venezia）灣等ありて海、峡にはメシナ（Messina）、オトラント（Otranto）、ポニアチオ、ビオンビノ、等あり、又半島部は別にカラブリア（Calabria）、オトラント、ガルガノ（Gargano）等の半、島を形成してスペルチベント（Spartivento）、サンタマリアデレウカ（St. Maria di Leuca）等の岬、崎を以て終れり、而して島、嶼にはシチリア、サルヂニア、リパリー諸島、エルバ島等あり。

ロザ(四六三八)、グランパラヂソ(Gran Paradiso)(四〇六一)、ピッペルニナ(Piz Bernina)(四〇五二)を始めとしケニグスピッツ(Königsspitz)(三八五七)、モンテビソ(Monte Viso)(三八四三)、ヂスグラチア(Disgrazia)(三六七八)、アダメロ(Adamello)(三五、四八)等の秀峰あるが、アペニン山脈中にはグランサッソ(Gran Sasso)(二九一四)、チモネ(Cimone)(二一六七)等あり、島嶼部に於ける山岳にも高隆なるものあり、而してイタリアは火山少なからずしてベジュバ(一二〇〇)、エトナ(Etna)(三一三三)の如きは殊に著はれストロンボリー島に於ける火山も活動するを以て名あり、而して地震も亦稀ならず。

河湖　河流は大陸部にポー、アヂジェあり、半島部にアルノ(Arno)(二三〇)、チベレ等あれども概して長大ならず而も亦有用なるものに乏し。

湖沼の主なるものはマッジョーレ(Maggiore)(三九四方粁)、ルガノ(Lugano)、コモ(Como)(一七一)、ガルダ(四七五)等のアルプ地方に存するあり、トラシメノ(Trasimeno)、ボルセナ(Bolsena)、ブラッチアノ(Bracciano)等は中部にあるがガルガノ半島附近の低濱にも若干あり。

氣候　北部は陸候を有するを以て嚴寒酷暑を覺ゆ、然れども南下するに從ひて氣候は地中海的と成り冬季は温暖を覺ゆるが夏季の温度はメシナとミラノとに大差なし、降雨は夏季に少なく時に「シロッコ」風の吹き荒むことあり。

沿革　西紀前七五三年チベレ河畔に一市の興りしあり之をローマとす、前五七〇年の頃に至りて王政は共和政と變じ、前四世期には貴族、平民の内訌既に止み、前二七五年にはイタリア半島の殆ど全部ローマ領と成りしが、前二六四年より前一四六年までにカルタゴを亡ぼしギリシア、マケドニアを取り國域は發展してヨーロッパ南部の三大半島よりアジアの西部、アフリカの北岸を含むに至れり而して紛爭の後に生ぜし第一三頭同盟(前一一五－前一五三)の時に當りケーザルはガリアを鎭定せしのみならず、遠くブリタニア島をも征せしが、第二三頭政治を經て前三一年に至るやオクタビアヌス帝政を樹ててローマの文華最も興りたり、然れども帝の歿後國勢漸く沮衰し西紀三一四年コンスタンチヌス帝は都を東方に移し、三九五年にはローマ東西に分裂し、東ローマは後長く續きしも、西ローマは四世期の末頃より移動し始めしドイツ種族の爲に苦しめられしこと多く遂に四七六年に滅亡し、オドアツーケルの王國をイタリアに見るに至れり、次で東ゴート、東ローマの領する所と成り、五六八年に來侵せしランゴバルドは半島の大部を有せしもフランクのシアー

ルマーニュの破る所と成り九六二年には神聖ローマ帝國の一部を爲せり。

其の後イタリアは紛爭の舞臺と成り十四世期及び十五世期にはナポリ、ミラノ、フィレンツエ、ベ子チア、法王の五領に分裂したりしが、カルロ五世帝の時よりエスパニア＝エステルライヒの勢力大に振ひナポリ、ミラノはフィリップ二世の有に歸しエスパニア繼承戰役はシチリア島をサボワ國に與へたり、アーヘン條約(一七四八)の後サボワ家はサルヂニア、ピーモントを受け、エステルライヒはミラノ、トスカナを、ブルボン家はナポリ、シチリア及びパルマを得、法王領は半島の中部に存しベネチアは一七九七年まで共和國として殘れり、而してモデナ及びジエノバはフランスの保護の下に立てり、フランス革命の後數多の小共和國はフランスの保護を受け一八〇五年に至りてナポレオンはイタリア王の冠を頂きしもウイーン會議は舊狀に復せしめてエステルライヒにロンバルヂア幷にベネチアを與へ一八五九年のフランス＝エステルライヒ戰爭の結果ロンバルヂアはサルヂニアに割讓せられトスカナモデナ、パルマ、ローマナも亦同王國に合併せしかばサルヂニアはサボワ及びニースをフランスに讓れり、翌年ガリバルヂの靈力に依りてシチリア、ナポリはサルヂニア王エマヌエルの主權の下に立ちエマヌエルはイタリア王と稱することと成り一八六六年のプロイセン＝エステルライヒ戰爭はベネチアをしてイタリア領たらしめしかばイタリア統一の目的は遂せられたり。

住民　人口は一九〇六年に於て三千三百七十三萬餘にして一方粁に付き百十八人の割合なるが、其の配布は一樣ならずして三十人乃至一千三百十七人の間にあり、人口の增加は平均(一九〇〇―〇四年)約三十四萬人なりて而して一九〇五年の往住者は七十三萬人に近くして合衆國(二二、一)、アルヘンチナ(八、八)等に向へり信、敎上はローマ公敎に屬するもの最も多くして三千一百五十四萬人と算せらるるが、新敎に約七萬人ユダヤ敎に三萬六千足らずあり、敎育は未だ普及するに至らざるも亦振はざるに非ずして大學は二十二ヶ處に設けらる。

政治　政體は立憲君主國にして王は內閣と共に行政を司り元老、代議の兩院より成れる國會は君主と共に立法に從事せり、地方の行政には六十九州の設あり、兵備は强大にして陸軍は平時に士官一萬三千七百餘人、下士卒二十七萬二千人足らずあるが、戰時には三百三十二萬餘人と成るべし、而して兵艦は三百三隻約四十一萬噸ありて馬力は七十七萬餘、十「サンチメートル」以上の巨砲五百二十三門、水雷發射管四百八十一、乘組凡そ二萬四千人なり、

財政　財政に就きて歲入は凡そ二十億「リラ」、歲出は十九億八千二百萬「リラ」を下らず

して國債は五億七千二百萬「リラ」を超ゆ。

林業 **生業** 林業は八千八百萬「リラ」の産額を示し、漁業も亦稍見るべきものあるが農業はイタリア人の生業の主たるものにて王國富力の首位を占め小麥(六五〇〇萬「ヘクトリートル」)、玉蜀黍(三一三六)、米(九六六)等を產す、而して灌漑の利あるポー河の平野にありては寸地の不毛に屬するあるなく米、麥、玉蜀黍等の耕種盛に行はれリギュリア、トスカナ其の他の山腹の階段地は葡萄「オリーブ」等の果樹の栽培に適せり、又南部にありては椰樹生育しシチリア島に於ては草綿の收穫あり、然れども產額の巨大なるは葡萄にして四百一萬「ヘクタール」の地に栽培せらる、而して南部の牧地は羊、牛を飼養せり、鑛產は鐵、大理石、硫黃等の數種に過ぎざるが工業は非常の盛況を呈すと云ふに非ざるも生絲(五百萬貫)、葡萄酒(三五一〇萬「ヘクトリートル」)、「オリーブ」油(三二六)、機械の製作、造船、製鐵等に從事し絹布、羅紗を織出だせり。

鑛業 工業

貿易 貿易は一九〇四年に於て輸入に十九億千三百萬「リラ」餘、輸出に凡そ十五億九千七百萬「リラ」ありて漸次進歩するが同年の貴金屬輸入高は四千四百萬「リラ」を超え輸出は九百七十一萬「リラ」なりき、而して取引の主なるものを記せば輸入先にイギリス(三一九)、合衆國(二三八)、ドイツ(二五四)、フランス(二〇〇)、エステルライヒ＝ウンガルン(一八九)、ロシア(一五八)、イギリス領印度(一一八)等ありて輸出先にシュワイツ(二七〇)、ドイツ(二一〇)、合衆國(一九〇)、フランス(一八一)、エステルライヒ＝ウンガルン(一三七)、イギリス(一三三)、アルヘンチナ(一二九)等を得るなり、主要輸入品は綿花(三三二)、穀類(一八二)、生絲(一七五)、石炭(一五〇)、器械(八二)、鐵(七三)、木材(七二)、皮類(七一)、化學品(六二)、獸毛(六〇)、魚類(五一)等にして主要輸出品は生絲(四六二)、綿布(九〇)、絹布(七五)、木材及び草製品(六九)、「オリーブ」油(五三)、麻(四六)、果物(四四)、硫黃(四四)、鷄卵(四二)、等なり、又船舶の入港せるものは十萬九千二百四十七隻約三千六百五十二萬噸なるが出港には三千六百四十二萬餘噸ありてイタリア旗入二二七〇出二二六五を主とす。

交通

交通的機關は商船(一九〇四年)に五千六百五十四隻約百四萬噸ありて鐵路(一九〇五)には一萬六千二百十二粁あるが郵便(一九〇三)は局を設くること八千五百八十七、凡そ六千九百萬「リラ」の支出に依りて凡そ七千三百萬「リラ」の

收入を得、電信線(一九〇二)は四萬六千四百三十七粁の長さと十七萬七千六百粁足らずの延長とを有し、三百六十萬「リラ」餘の收入を見るが、電話線は四萬九千七百餘粁の延長を有す。

ローマ

處誌 ローマ(Roma)(四六、二七八三)(北緯四一度五三分五四秒東經一二度二八分五三秒)は一にローム(Rome, Rom)と呼ばる、チベレ河に跨れる市街なるが一八七〇年以來王國の首都と成れり、歷史上、殊に宗教史上有名なる舊市にしてローマ法王の居住處、カソリック敎徒の聖地なり、美術的建築に就きては世界無比と稱せられローマ時代以後の各種建築物を有せるが、就中コリゼ、パンテオン、サンペトロ、ワチカン、等を以て著しとす、而して此の地の生業は羅紗、絹布、敷物、蠟燭、等を製するが殊に寄石細工、彫刻物、等の美術品を輸出するを以て有名なり、

フィレンツェ

フィレンツェ(Firenze)(二一〇、五五八九)はフローレンスとも云ひ、美術史上著名の地なり、建築物に富み、絹布、稈帽、細工品、等の產あり、

ピサ

ピサ(Pisa)(六、一三二一)はアルノ河の下流に沿ひ斜塔を以て名あり、

リヴォルノ

リヴォルノ(Livorno)(九、八三二一)はピサの南西に於ける海港なり、レグホルンとも呼ばる、アンコナ(Ancona)(五、六八三五)はアドリア海の商港なるが軍府の一たり、カララ(Carrara)(四、二〇九七)の附近に大理石の產あり。

ナポリ

ナポリ(Napoli)(五六、三五四〇)(北緯四〇度五一分四五秒東經一四度一五分二五秒)はベジッバ山の麓にありてネープルスとも稱せらるるが同名の灣に瀕す、王國の最大都會又學術及び工商業の中心として著はる、殊に古物展覽會は世の知る所なり、サレルノ(Salerno)(四、二七二七)はチレニア海に、レッジョ(Reggio)(四、四四一五)はメシナ海峽に沿へる商港なり、附近の地に柑類の產あり、タラント(Taranto)(六、〇七三三)は同名の灣に瀕しブリンヂシ(Brindisi)はオトラント海峽に臨めり、バリー(Bari)(七、七四七八)はアドリア海の一小半島に於ける工業地なり、フォッジア(Foggia)(五、三一五一)はバリーの北西にあり。

トリノ

トリノ(Torino)(三三、五六五六)(北緯四五度四分七秒東經七度四一分四八秒)即ちチゥーリンはポー河に瀕す、舊都の地にして學藝の中心なり、兵器、絹布、等を製す、

ミラノ

アレッサンドリア(Alessandria)(七、一二九八)はトリノの南東東に於ける軍府なり、ミラノ(Milano)(四九、一四六〇)(北緯四五度二七分五九秒東經九度一一分三〇秒)即ちミランはポー河の平野、海拔一二三米

突に位せる商業地なるが絹布、綿布、馬車類を製造し王國第二の大都會なり、

ブレシア(Brescia)(七、〇六一二)は ミラノ の東に位し毛織物を製す、ベネチア(Venezia)(一五、一八四〇)は 潟中に於ける數噸の上に建設せられたる市街にして中古の時代には盛を極めしが宮殿、寺院等を以て名を知られ通商、造船、製絲に從事す、ベロナ(Verona)(七、二二七一)は ベネチア の西に位し亦北部の要鎭たり、ボロニア(Bologna)(一五、二〇〇九)は フィレンツェ の北にありて學術の中心として著はるるが又商工業に從事す、モデナ(Modena)(六、四八四三)は ボロニア の北西にありて絹布を產す、フェララ(Ferrara)(八、七六四八)は ポー 河の右岩に近く、ラベンナ(Ravenna)(六、四〇三一)は ボロニア の東に位するが織物の產あり、ジェノバ(Genova)(一一三、四七一〇)即ち ジェノア は地中海に瀕す、イタリア 最要の商港にして軍港を兼ぬ、コロンブス の生地なり、スペツィア(Spezia)に當國第一の軍港あり。

シチリア(Sicilia)島 即ち シシリー 島は地中海に於ける最大島にして二萬五千七百四十方粁の地積を有し、三角形を爲して深狹なる メシナ 海峽を以て半島部と隔れり、北岸及び東岸は急峻なるも其の他は低平なり、內部には百五

パレルモ
カタニア
メシナ
サルヂニア島
カリヤリ

十乃至五百八十米突の高臺多く平地の稍、廣きは カタニア にして有名なるエトナ山(三二七四)の南にあり、氣候は温和にして變化少なく冬季の平均は七度三、夏季の平均は二十五度なるが、地味最も肥沃にして住民甚だ多し、パレルモ(Palermo)(三〇、九六九二)北緯三八度四四秒東經一三度二一分二八秒は シチリア 島の最大都會にして島の北岸に位し貿易に從事す、アルカモ(Alcamo)(五、一八〇九)は パレルモ の南西にあり、トラパニ(Trapani)(五、九四五二)、マルサラ(Marsala)(五、七五六七)は孰れも商港なり、カタニア(Catania)(一四、九二九五)は エトナ の麓に於ける商業地なるが亦港を有す、メシナ(Messina)(一四、九七七八)は軍港の一なるが絹布、綿布を製造す、

サルヂニア(Sardinia)島(二、四〇七五方粁)は コルス 島と相對してボニファチオ海峽を挾む、地勢山岳多く最高點は ジェンナルジェンツ(一八三四)にして南西部に於けるカムピダノ平原は島地を二部に分てり、土地肥え天產多きも未だ充分の利用を見るに至らず、首府を カリヤリ(Cagliari)(五、三七二七)と云ふ。

殖民地 アフリカ の東部に於ける エリトレア 及び ソマーリ の五十一萬方

粁の地を有するも人口は七十三萬餘人に止まれり、蓋しイタリア人の殖民業に於ける成功少なきは事業を企圖するに當り其の方法に愼重を缺きたるの故ならん、然れども南アメリカの移民には見るべきものあり。

◎サンマリノ

サンマリノ(San Marino)はアドリア海の沿岸、チタノ山の麓に於ける一小共和國なり。

◎マルタ

マルタ(Malta)島は他の二島ゴゾ(Gozo)、コミノ(Comino)と共にイギリスに屬す、地積は三百二十三方粁に過ぎざるも人口は二十萬餘人なり、土地は岩石より成りて耕耘に適せざるがシチリア島より輸送し來れる壤土に依りて僅に柑類、草綿を栽培せり、氣温は零度以下に降ることなくして寒氣を覺えざるも、夏季は乾燥に失し冬季は强風屢〻起る、殊に降雨少なく源泉に乏し、首邑バルレッタ(Valletta)はマルタ島の東岸にあり、軍港は堅固にして地中海艦隊の根據地たり、商港は地中海諸港中の錚々たるものにして百貨の集散甚だ盛なり。

◉バルカン半島

境域　南部ヨーロッパの三大半島中にて東にあるをバルカン(Balkan)と名づく、其の大陸に接する部分は廣濶なるに似たれども一帶の水脈は殆ど間斷なく半島の周圍を圍繞せり、北にユナ、サヱ、ドナウの河流あり、東に黒海、ボスポロス海峽、マルマラ海、ダルダネル海峽、エーゲ海あり、南に地中海あり、西にイオニア海、アドリア海あり、然れども歴史的關係の深きロマーニアを加ふれば北境の一部はカルパット山脈と成りて南北九百二十五粁、東西七百粁、面積七十萬方粁の地域を占むべし。

海岸　海岸は屈曲に富めり、海灣に就きては黒海にブルガス(Bargas)灣あり、エーゲ海にサロス(Saros)、エノス(Enos)、オルファニ(Orfani)、サロニキ(Saloniki)、ボロス(Volos)等の諸灣あり、イオニア海にマラソニシ、コロン、パトラス(Patras)、コリント(Corinth)、アルタ(Arta)等の諸灣あり、海峽にエブリポス(Evripos)、タランタ

レバント、コルフ(Korfu)等あり、半島にガリポリ(Gallipori)、カルキス(Chalkis)、モレア(Morea)あり、地角にコロンナ、マタバンあり、地峽にコリンントあるが、島嶼は其の數甚だ多くして主なるもののみを擧ぐるもインブロス(Imbros)島、レムノス(Lemnos)島、北スポラデス島、エブリポス島、キクラデス諸島、クレテ島、セリゴ(Cerigo)島、ザンテ(Zante)島、ケファロニア島、レフカズ島、イオニア諸島等あり、

地勢　半島は山地多く、平地少なく、到る處山岳丘陵蟠踞して山脈の趨勢の如きも極めて錯綜せり、北東にあるをバルカン山脈と云ふが其の最高峰をユムルクチァル(二三七四)と云ひ有名なる峠をシプカ(Shipka)(一一三三)と云ふ、又ロドペ(Rhodope)山脈即ちスポテダバのあるあり、北西にヂナラアルプあり、又アドリア海の沿岸に於ける高峯をドルミトル(Dormitor)山(二一五二八)、コム(Kom)山(二一四四八)、チァルダハ(二〇五〇)、ヤブラニツァ(Jablaniza)(二一二八)とし南部にあるものをカタボスラ(二一一五八)、パルナス(二四五九)とす。

河湖　ドナウ河は支流サヴ、ドリナ(Dorina)、モラワ(Morawa)等を容れて黒海に注ぎ、マリツァ(Maritza)、ストロマ(Struma)、ワルダル(Wardar)等はエーゲ海に入る。

住民　バルカン半島は數多の種。族。が集居雜住するの地なるが殊にマケドニアを以て然りとす、ボスニア、ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、スルビヤにスラヴ人あり、ブルガリア、東ルメリアにブルガリア人あり、アルバニヤはスキタル人占居の地にしてコンスタンチノープルより、サロニキに至るまでの沿海地并にコンスタンチノープル、アドリアノープル、フィリッポポリ、サロニキ、モナスチル等の如き都會の地にはギリシア人多し、トルコ人は各處に居住するもの其の數は甚だ少なし。

氣候　氣。候。は一樣ならず、ブルガリアの平野にありては稍温和なり、而して高山秀嶺の地に於ては冬季嚴寒を覺ゆれども、ポスポロス海峽、マルマラ海沿岸には於ては氣温和く晴天多く良候の地と稱せらる。

概して大ならず。

スクタリ(Skutari)、オクリダ(Ochrida)、プレスバ(Presba)、ベシク(Beschik)等あれども海がアドリア海并にイオニア海の斜面に於けるものは顯著ならず湖。沼。には

宗教には三派あり、ギリシア正教はギリシア人、スルビヤ人、ブルガリア人、南アルバニアのトスケ人、等之を奉じ、ローマ公教はボスニア人、北アルバニアのゲクヘ人、等之を信じ、マホメット教に屬するものはトルコ人の全部幷にボスニア人、南北アルバニア人の一部なり。

政治　本半島は從來擧げてオットマン帝國の領せし處にして「スルタン」の威權の下に屈服せしが、第十九世期に至りてギリシア、トルコ、ブルガリア、スルビヤ、モンテネグロ、ボスニア＝ヘルツェゴビナ、等の政治的區分を見るに至りたり。

◎モンテネグロ

モンテネグロ(Montenegro)即ちツルナゴラ(Zrnagora)は山間の小國にして地積は八千四百三十三方粁乃至九千八十方粁を有し、南の方僅にスクタリ湖及アドリア海に瀕す。

人口は二十五萬人に達せざるが種族は南部スラブの一派に屬して愛國心に富み獨立に熱衷するの點に於ては殊勝なるも、亦教育なく學識に乏しくして半開の民たるを免れず、信教上に於てはローマ公教、マホメット教に各、四五千人の信徒あるの外、其の他は悉くギリシア正教を奉せり、政體は君主專治にして世襲の侯爵は內閣と共に國政を司る、兵備は擧國皆兵の主義に依るを以て戰時には三萬以上の兵を得べし、國內山岳多く到る處岩石にして地味は磽确を極む、從ひて耕種に適するの地稀にして僅に牧業に依りて牛羊を產するのみ、貿易の高は一九〇五年に於て輸入約四百六十五萬、クロネ、輸出百七十一萬、クロネ足らずに過ぎざりき、交通機關も亦不完備にして車行に堪ゆるの道路なく鐵道の如きは皆無なり。

ツェチニエ(Cetinje)は當國の首邑にしてアドリア海、カッタロ灣、スコドラ湖を距ること相均しく海抜一千一百米突の盤地にあり、君主の居住地たるも人口は四千餘人に止まれり。

◎スルビヤ

スルビヤ(Srbija)即ちセルビア(Serbia)はバルカン半島北部の中央に位して地積は四萬八千餘方粁あり、而して國境附近に於ける山岳は二千米突以上に

ツェチニエ

境域

達して樹木蓊鬱たり。

住民　人口は一九〇五年に於て約二百六十八萬ありて概ねジッゴスラブ種族の一派に屬するが、二百三十三萬はスルビヤ語を使用し、九萬はロマーニア語を用ふ、信敎上はギリシア正敎に屬せり、特に記すべきは身體强健にして敢爲不撓の氣力に富めるスルビヤ人はブルガリア、ボスニア、ツルナゴラ、ヘルツェゴビナ、スラボニア、クロアシエン、ガルニオラ、イストリア等を併呑して昔日のゾーシアン帝國を再建せんと熱衷するの一事なり。

政治　此の國は舊とトルコに隷屬せしが一八七八年のベルリン條約に依りて獨立を認められ、一八八二年以來は王國と稱し議會を有するが、兵備は十一萬餘人ありて戰時には三十五萬人を下らず。

生業　土地は概して豐饒なれば穀類殊に玉蜀黍を產す、其他果物には「プリゥム」、葡萄多し、又豚及び木材の產ありて鑛業は石炭、水銀、鉛等を採掘す、貿易(一九〇五年)は輸入に凡そ五千五百六十萬「デナル」、輸出に約七千百九十九萬「デナル」あるが主としてエステルライヒと取引せり、交通に關して道路は多少開け竪

道の如きも五百六十二粁の長さを有す。

ベルグラド(Belgrad)(八、〇七四七)はドナウ及びサヱの兩河が相合する處にありて王國の首都たるのみならず、交通上の要區にして軍事、商業の中心としても重視せらる、クラグイエワツ(Kragujewatz)(一、五三六二)はドナウ河に多量の水を輸送するモラワの支流に瀕して兵器を製す。

◎トルコ

トルコ帝國即ちメマリクイオスマニエ(Memalik i Osmanije)はヨーロッパ、アジア、アフリカの三大洲に跨れる一大國にして地積は四百十五萬方粁に近く人口は四千萬に達せんとす。

領地	地積	人口	方粁ニ付
直轄地	一六、九三〇〇方粁	六一三、〇二〇〇	三六
✪ブルガリア	九、六三四五	三七四、四二八三	三九
×ボスニア＝ヘルツェゴビナ	五、一一一〇	一五九、一〇三六	三一
×クレテ	八六一八	三〇、三五四三	三五
✪サソス	三九三	一、二一四〇	三一

世界地理提要　バルカン半島

ヨーロッパ部		三二、五七六、六六	一一七八、一二〇二	三六
直轄地		一七六、六八〇〇	一六八九、八七〇〇	一〇
○ケモス		四六八	五、四八三四	一一七
×キプロス		九六〇一	二三、七〇二二	二五
アジア部		一七七、六八六九	一七一九、〇五五六	一〇
○エジプト		九九、四三〇〇	九八二、一〇四五	九
トリポリア		一〇五、一〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	一
アフリカ部		二〇四、五三〇〇	一〇八二、一〇四五	五
合計		四一四、八〇〇〇	三九八〇、〇〇〇〇	九

一八七六年發布の憲法に依れば帝國議會は元老、代議の二院より成りて國政に參與すべき筈なれども實際に召集を行ひたることなし、されば政體は事實上專政君主國にして君主は大「トルコ」即ち「スルタン」と稱し「カリフ」を兼ぬ、內閣は陸軍、海軍、法敎、內務、財務、學務、工商等の各大臣より成りて大政を司り、元老院、參事院は各種政務を分擔せり、又ヨーロッパトルコに於ける地方行

政は七ヶ所に總督府を設く、陸兵は戰時に百六十七萬七千を得べしと稱せらるるも實戰に用ひ得べきは六十萬人ならん、兵艦は新舊合はせて七十八隻九萬八千噸許あるに過ぎず、財政に關して歲入に約一千八百五十一萬「ポンド」(トルコ「ポンド」は百「ピアストル」に當れり)歲出に約一千八百四十三萬「ポンド」ありて國債は一億二千萬「ポンド」を超ゆ。

ヨーロッパトルコの地は概して佳良なるが濕氣の充分なる谿谷にありては殊に肥沃なり、然るに現時の如く生產力の强大ならざるは住民の怠惰と官吏の苛政に歸せざるを得ず、農業は穀類、葡萄、煙草等を興へ、牧業は羊を飼ふ、又ロドペ、マケドニア、アルバニアの山地には森林の存するあるも道路の整備せざる爲めの之を利用するに至らず、工業は不振なるも亦葡萄酒、敷物、絹布、香水、馬具等を製出せざるに非ず、貿易は一八九九―一九〇〇年の輸入二十四億四千九百萬「ピアストル」を超え輸出は十五億五千九百萬「ピアストル」餘なるが又輸入品は織物(二四四)「モヘール」(一〇六)、穀類(一〇二)、阿片(八六)、皮革(六四)等絲及び繭(二四三)、葡萄(一九四)、穀類(一九九)等にして輸出品は蠶

なり、一九〇三四年の入船は四千九百三十二萬噸に達したるが、當國の商船は二十三萬餘噸を備ふるのみ、鐵路は五千五百十二粁有るが其の一千九百九十四粁はヨーロッパ部に屬せり、此の外、郵便局(一四〇七)、電信線(六、八一六粁)等の設なきに非ざるも交通は概して不便甚し。

コンスタンチノープル(Constantinople)(九四、二九〇〇)(北緯四一度三〇秒、東經二八度五八分五八秒)

はトルコ名をスタンブル(Istambul)又はイスタンブルと云ふ、ボスポロス海峽に枕み航通上最要の位置にあるが國都としてオスマニエの一大政區たるのみならず又東方貿易の一大中心たり、殊に宮殿、寺院は壯觀を極むるを以て名を知られ、住民にはトルコ人、ギリシア人、アルメニア人、等あり、アドリアノープル(Adrianople)(八、一〇〇〇)は宮殿、寺院に富めるが革、敷物、香油を產す、サロニキ(Saloniki)(一〇、五〇〇〇)は帝國第二の商港なるが取引稍盛にして農產を集散し絹布、綿布を製す。

附記　南岸に近きサソス(Thasos)島は一八四一年以來エジプトに屬せり。

◎ブルガリア

境域　ブルガリア(Bulgaria)はロマーニア、スルビヤ、トルコと境を接し、東は黑海に面するが、地積は九萬六千三百四十五方粁あり、而してバルカン山脈の南に於ける三萬二千五百九十四方粁の地は東ルメリア(Rumelia)と稱せられ主としてマリツァ河の流域に屬するも山脈の北面はドナウの流域に含まれて亦平地少なからず。

住民　人口は一千九百五年の調査に依れば四百三萬餘人なるが多數はブルガリア人(三二一)にしてトルコ人(五一)、チガヌ人(九)、ロマーニア人(九)、ギリシヤ人(七)等之に次げり、信敎上は正敎に三百三十四萬人、マホメット敎に六十萬人、ユダヤ敎に三萬七千餘人あり、此の他に各種のキリスト敎徒、異敎徒等あり。

政治　一千九百八年九月獨立を宣言したるブリガリア王國は立憲君主政治の下にありて十二縣に分かたる、兵備には五萬六千人の陸兵ありて戰時には十九萬人に達するも海軍は數隻の兵艦を有するに過ぎず。

生業　生業の發達は著しからざるも農業に麥の產あり牧業に羊の產あり、又香水は東ルメリアの特產たり、貿易は一九〇八年に於て輸入一億三千十五萬

「レフ」輸出一億一千二百三十五萬「レフ」あるがエステルライヒ——ウンガルン、トルコ、イギリス、ドイツ、等と取引す、交通に就きてドナウ河が短からざる航路を與ふる外、鐵道二一六九五粁、電信線(一、二〇〇〇)、等ありて入船は三百三十九萬噸を超えたり。

ソフィア(Sophia)(八、二一八七)はブルガリアの首都にしてイスケル河に瀕し交通上の要衝に當れり、ワルナ(Warna)(二、七一五五)、シストリア(Bistlia)、ルスチュク(Rustshuk)(二、三五五二)はシュムラ(Shumla)(二、二二九〇)と共に四邊形を爲せるが堅城を有するを以て著はる、プレブナ(Plevna)は魯土戰爭の際に名を揚げたり、フィリポポリ(Philipopoli)(四、五五七二)は東ルメリアの舊都なり。

◎クレテ

クレテ(krete)島はクリチ(Kriti)、カンヂア(Candia)、等とも呼ばる東地中海の一島にして八千六百餘方粁の面積を有せり、土地の大部は山岳にして中央のイダ山は二四五八米突に達す、氣候は頗る好にして耕種に適する地少なからず住民は三十一萬に餘り信教上はキリスト敎徒二七)多きを占む、本島は名義上トルコに屬するもイギリス、ロシア、フランス、イタリアの四強國の勢力の下に附近の島嶼と合はせて自治

國とせられ、高等委員(Haut-Commissaire)は議會(Bule)と共に管理の任に當れり。

カネア(kanea)(二、一〇〇〇)は本島の首邑にしてカンヂア(Candia)即ちヘラクレイオン(Herakleion)(二、二四八一)は北岸に於ける一部會なり。

◎ギリシア

ギリシア即ちヘルラス(Hellas)はバルカン半島の南端に於ける半島國にして古來有名なる土地なるが現時の王國は盛時の帝國に比すれば實に一小部分たるに過ぎずして、ヘルラド、モレア、島嶼の三部より成り地積は六萬五千方粁に達せず。

海岸は頗る屈曲に富み島嶼も亦甚だ多きが、內部は山岳縱橫に走りて起伏は錯綜を極め、テッサリア、メッセニア、ベオシア、等の平地なきに非ざるも、廣濶なるもの更になく又ヘルラド地方に於ける山脈海抜は二五一二米突(ヌコイア山)を超ゆることなきがパルナッソス(Parnassus)山(二四五九)は其の名著はる而してモレア半島の最高峯はエリア(Elias)(二四〇九)なり、河流は水量に乏しく些少の利便を供するに過ぎず。

世界地理提要　よーろっぱ洲　バルカン半島

境域

土地

氣候　氣候は温和にして激變を覺えざるも地貌の錯綜起伏せる、各處の氣温、一樣ならず、山間の閉塞地濕潤に失する湖畔、又沿海の沖積地には時に猛烈なる病疫の流行するあるも其の他は概ね健康に過せり、殊に島嶼にありては晴天多く寒暑の變化少なく氣候極めて佳良なり、降雨は冬季に多きも年平均は四百粍を超ゆることなし。

住民　人口は一八九六年の調査に從へば二百四十三萬餘なるが現今のギリシア人が往昔のヘルレニア人の純粹なる子孫たらざるは明にしてスラブ人、ヘルレニア人、アルバニア人、ロマーニア人、イタリア人、ユダヤ人、ベーメン人等の血液を交えたる雜種の民なるべきも、質素、忍耐、着實にして學藝を好み、國家を重んずる、等の美性を備へしヘルレニア人の語を保存し來りて今に之を使用せり、宗教はギリシア正教を以て大多數の信奉する所と爲すも、北部に二三萬のマホメット教徒あり。

政治　一八三〇年以來獨立國と認められたるギリシア王國は立憲政治の下にありて一院の國會と內閣とを有せり、而して上に世襲の君主を頂くも四民平等にして特有權の存するなく、和親友愛の力に依りて協同一致せるの點に於て一好模範たらずんばあらず、兵備は平時の約二萬九千人、戰時の八萬餘人ありて海軍に十一隻二萬一千噸の兵艦あり。

ギリシアは土質の磽确なると起伏の饒多なるが爲の生產の力は缺乏せざるを得ず、農事は頗る盛なりと云ふを得ず、牧業は微々たるも亦發達の望なきに非ず、而して漁業は稍盛なるが、獨り商業、殊に海上貿易は古來の富源にして又中興ギリシア第一の生產力たり、貿易は一九〇四年に輸入一億三千七百萬「ドラクマ」を超え輸出は凡そ九千一百萬「ドラクマ」なるが主要輸出品は乾葡萄(二四)、葡萄酒(九、九)、含銀鉛鑛(八、七)、煙草(六、一)、鐵(五、六)、等にして主要輸入品は穀類(三四)、綿布(九、五)、木材(八、八)、石炭(七、四)、藥品及び化學品(七、三)、鐵器(六、二)、生獸(五、八)、等なり、商船は比較的に多く三十四萬噸に達してコリント運河(長六、三四米突、水深八米突、幅二一(水底)—二五(表面)米突)の開鑿を見たるが又道路の建造改築も行はれ鐵路(一〇三五粁)、電信線(九四九四)、電話線(二七九〇)、郵便局(五九三)の設あり。

アテネ

ピレウス

パトラス

境域

山河

アテネ(Athĕnai)(一一、一四八六)北緯三七度五八分二一秒東經二三度四三分四四秒は往古のアテヌの地に建設したる市街なるが河流に瀕することなく海岸を距る數里の處にありて近代の市街としては資格に缺くる所多きも王國の首都なるが故に漸次に旺盛に趣けるが如し、又此の地はパルテノン、エレクテオン、セセイオン、等の有名なる建築の遺跡あるを以て世に著はる、ピレウス(Piräus)(四、二一六九)はアテネの南西に於ける商港にして盛に百貨の取引を爲せり、パトラス(Patras)(三、七九五八)はコリント灣の入口にあり、乾葡萄の集散地として名あり。

◎ロマーニア

ロマーニア(Romānia)王國はバルカン半島の北東部に位しモルダビア(Moldavia)、ワラキア(Walachia)、ドブルヂア(Dobrudscha)の三部より成りて十三萬一千餘方粁の地積を有するが山岳地、丘陵地、平低地の間に平分せらる。

山岳はモルダビアの東部とワラキアの北部とにありて東西に走り、後シルバニアアルプ山脈はオム山(二五〇八)を以て最高峯とし、南より北に趣くカルパット山脈はシアフレウ山(一九九七)を以て最高峯とす、河流は甚だ多くして灌漑の利は勿論、交通の便を併はせ供する者あり、而してドナウ河はロマーニアの主水脈にして支流にはモルダビアに於けるセレス、プルス、等あり、ワラキアに於ける、ジユ、オルチウ、アルケス、ヤロムニツツア、等あり。

氣候

住民

氣候は大陸的にして寒暑の差著し、平野に於ける夏季の最高温度は三十六度にして冬季の最低温度は零下二十八度なれば寒暑の差は六十四度と成るが山地にありては冬季は一層低温を示して零下三十五度に降ることあり、是れ平低なるロマーニアが、ロシアの「ステップ」より吹き來る寒風に對して保障を有せざるに依れり又ブクレシに於ける雨雪日の平均は雨天の七十四日と雪日の十一日にして雨量の三百七十四粍と雪量の七百二十粍なり、又冬季は長きも春季は短くして十五日に達せざることあり最好の季節を秋とす。

人口は一九〇四年に約六百三十九萬ありて一八九九年の凡そ五百九十

六萬人を地積に配付すれば一方粁四十五人の割合なり、而して概ロマーニア種族(五四九)に屬せるも此の他にユダヤ人、チガヌ人、スラブ人、ドイツ人、マジァル人、アルメニア人、ギリシア人等あり、宗教上に於てはギリシア正教に五百四十五萬人あるを第一とするがユダヤ教徒(二七)、ローマ公教徒(一五)等之に次げり。

ロマーニアは舊と一公國としてトルコ帝國に屬せしが、一千八百八十一年以來獨立して王國と稱す、君主は二院より成る國會及び八人の國務卿より成る內閣と共に國政を司れり、兵備は陸軍に平時の六萬六千人、戰時の二十九萬人足らずありて海軍に二十隻、二萬八千餘噸あり、一九〇六—〇七年の歲出入は各二億三千七百萬レイに近し。

ロマーニアは純然たる農業國にして玉蜀黍、大麥、燕麥等の外に葡萄の產あり、而して山地が木材、鑛產に豐富なるに拘らず工業は極めて幼稚なりとす、貿易(一九〇五年)は輸入に凡そ三億三千七百五十三萬レイありて輸出に約四億五千七百十萬レイあるが入船は八百六十四萬噸に餘り、鐵道は三千百九十六粁ありて郵便は三千二百七十八局を有するが電信線は一萬八千五百粁、電話線は三萬八千粁に餘れり。

ブクレシ(Bucuresi)(二八、五四四五)(北緯四四度二五分三八秒東經二六度六分一八秒)は王國の首都なり、ドナウ河の一小支流たるダンボビツァ河に瀕し海拔九六米突の地にありてワラキア平野の中央に位せり、街衢は美ならざるも南東ヨーロッパ屈指の大都會として繁榮せり、ブロエスチ(Ploesci)(四、七〇〇一)は交通上の要處たり、ガラッ(Galatz)(六、四五五四)は王國第一の商港にして穀類の集散地たり、ドナウ河の左岸に建てり、ブライラ(Braila)(五、八九六五)は河港の一、倉庫の地として漸次に旺盛なり、クライオワ(Craiova)(四、五七五六)は小ワラキア地方より出づる物產の集散地なり、ヤッシ(Jassi)(七、八六八七)はモルダビアの舊都なり、プルス河を距ること數里の處にありて商業に從業す、ボトサニ(Botosani)(三、三二〇)はモルダビアの北部にありて農業の中心なり。

附記　ドナウの河身改良、航通發達等を企圖せるドナウ公共委員會(ロマーニア外二國の他七國間の協商)并にブルス聯合委員會(ロマーニアはガラッにあり。

あふりか洲

◉總論

名稱 アフリカ(Africa)は往昔カルタゴ人の占有せし本洲北部の住民アフェル(Afer)(複數はアフリ(Afri)と云へり)に基づきし名にして遂に全洲をもアフリカと稱するに至りしなり。

位置 アフリカ洲は塊狀的大陸と若干の島嶼とより成れり、アフリカ大陸は舊世界の南西部を占むる一大半島にして回歸帶に屬する地は全洲の三分の二に當り、北端と南端とに溫帶に屬する處あり、茲に其の四極を示せば左の如し。

極南	アグリアス(Agulhas)岬	南緯	三四度五一分
極北	ブラン(Blanc)(白)岬	北緯	三七　二〇
極西	ベルデ(Verde)(綠)岬	西經	一四　三五
極東	ラスハーフン(Ras Hafun)	東經	五一　二八

境域 北東の一隅は僅にスエズ地峽に依りてアジア洲に接するも、北東は紅海、アデン灣に枕み、東幷に南は印度洋に瀕し、西は大西洋を控え、北は地中海を隔ててヨーロッパ洲と相對す。

廣袤 アフリカ大陸の北部は東西に長く南北に短く、之に反して赤道以南の地は南北に長く東西に短し、此の南部を合はすれば極長は南北に八千一百粁あり東西に七千五百粁あり。

面積 大陸部は二千九百二十萬方粁に達するが、之に島嶼部の六十二萬五千方粁を加へばアフリカ全洲の地積は二千九百八十二萬五千方粁と成りて大凡アジア洲の四分の三、我が帝國の六十六倍に當れり。

海岸線 海岸線の發達に關してはアフリカは五大洲中、最も不完全なるものにしてアフリカ大陸は僅に二萬八千五百粁を有するに過ぎず、されば海岸の狀態は極めて單純にして、出入は概して顯著ならず、港灣、岬、崎の如きも其の數甚だ少なく、半島の如きもソマーリ、アトラスの兩地方に不完備のものあるに過ぎず。

あるを見るのみ島嶼（全面積の百分の二）も亦乏し。

地中海 シドラ灣 ガベス灣
海灣 大西洋 ギニア灣 ベニン灣 ビアフラ灣 ワルフィシ灣 テーブル灣
印度洋 紅海 アデン灣 ソファラ灣 デラゴア灣
海峽 ジブラルタル モサンビク バブエルマンデブ
地角 北部 ラスアダル ブラン セウタ スパルテル
西部 ボヤドル ブランコ ベルデ パルマス ロペス フリオ
南部 グードホープ アグリアス
東部 コリエンテス サンセバスチアン デルガド
東部 ラスハーフン グアルダフイ
島嶼 ソコトラ島 ペムバ島 ザンジバル島 コモロ諸島
東部 マダガスカル島 セイシェル諸島 マウリチアス島
北部 レウニオン島
北部 チエルバ島

世界地理提要　あふりか洲　總論

五百八十三

西部 マデイラ諸島 カナリア諸島 綠岬諸島 アスセンション島
セントヘレナ島 トリスタンダクニァ島
ギニア灣諸島 フェルナンドポー、プリンセス、セントトマス、アンノボン

地勢　アフリカ大陸は平均海拔六百五十米突の一大高原を形成し、其の周圍は概して山脈を繞らせり、然れども內部の地勢を觀察すれば南北の二高原より成れりとするの妥當なるを見るべし、北アフリカ高原はサハラ、エジプト、ニゥビア、等の臺地より成りて東西に長く南北に短く、アジアのアラビア臺地の如きも本高原の餘派たるに過ぎず、サハラ臺地はニジェルの上流、チアード湖に低處を呈するも、中部は概して凸起して海拔は二千米突以上に達し、東部はリビア沙漠の平均海拔三百五十米突に下り、西部は大西洋沿岸地の平均海拔二百五十米突に降れり、而して北部はバルカ臺地に於て一千米突、アトラス山脈に於て四千五百米突に隆起するも、平低の地凹窪の地を有せざるに非ず、南部は北ギニア地方に於て二千乃至三千米突に達するが、西より東に赴けば土地の高低一樣ならずして或は隆起し或は降下するを見

る、又アビシニア地方の火山質山脈に至らば四千六百二十米突の地點を見るべし、南アフリカ高原は海抜一千乃至一千五百米突の地に依りて北アフリカ高原に接續し、東南西の三面には山脈を戴ける高地を控え、南北に長く東西に狹し、殊に東の方に於ける山岳は急峻にしてコンゴー、ニールの二大河の水源たる大湖地方に蟠踞し、アフリカ第一の高峯も實に此の地方に聳ゆ、西部に於ける山脈は顯著ならざれども連綿として間斷なく、南端のグードホープ岬地方に達し三千四百米突の山岳を有せり。

アフリカの最高山はキリマヌヂァロ(Kilima Ndjaro)(六〇〇〇)にして赤道の少しく南に位し、ケニア(Kenia)(五五二〇)はルエンゾリ(Ruwenzori)(五八〇〇)と共に畧ぼ赤道直下に位せり、而して東部、北部、南部にも高峻なるものあるも互に相連絡して山系を爲すものの如きは甚だ稀にして山彙と稱するの適當なるもの多し。

北部　アトラス山脈　アヂァシ(四五〇〇)
中部　アスジェル山彙(一五〇〇―二〇〇〇)　チベスチ山彙タルソ(四〇〇〇)

北アフリカ山岳
- 南部
  - アビシニア山彙ラスダシァン(四六二〇)　マルラ山脈最高峯(一八三〇)
  - アダマワ山脈ゲンデロ(二七〇〇)　カメルン諸山ファコ(四〇五五)
  - チァハラー諸山最高峯(三〇〇〇)　コン諸山ダロ(一三四〇)
- 南アフリカ山岳
  - 東部
    - 南部　ケニア(五五二〇)　ルエンゾリ(五八〇〇)
    - 北部　キリマヌヂァロ(六〇〇〇)　ムフンビロ(四〇〇〇)　キバンガ　ガンバラガラ
  - 西部　シェルラ諸山　カラス諸山
  - 南部　ドラケンベルグ山脈水源山(三四〇〇)　カプリ諸山
    - ニエウェベルド諸山

又島嶼中に於ける山岳にはマダガスカル島にツィヘヤボナ(二六三二)、フェルナンドポー島にクラレンツ(二八五〇)、テネリフ島にテイド(三七二〇)等あり。

河湖　河流は著大なるものと雖、航通上の便を與ふること少なし、下流は砂礫を以て塡塞せらるる三角洲を爲すに非ざれば河床に岩石の階段を爲すありて瀑布、奔流、急流、等を現出せり、中流に至りて再び航行に堪ゆべき水

脈と成るものなきにしも非ざるも、此處彼處に障碍ありて自由に舟を通すること能はず、是れアフリカ洲の河流の特徴にして一大缺點と云ふべし、本洲をして永く暗黑の世界たらしめしも亦故ありと云ふべし、今水誌的に本大陸を分てば千四百八十九萬二千方粁は大西洋斜面に屬し、五百四十萬三千方粁は印度洋斜面に、殘餘は閉塞地に當れり。

斜面	河名	流域	河長
大西洋	ニール	二八一、〇三〇、〇〇〇方粁	五九四〇粁
	セネガル	二八〇、三〇〇、〇〇〇	一七〇〇
	ニジェル	三六、〇〇〇、〇〇〇	一四三〇
	オゴエ	四四、〇五〇、〇〇〇	四一六〇
	コンゴー	二六五、〇二〇、〇〇〇	一二〇〇
	クアンザ	一三三、〇〇〇、〇〇〇	八五〇
	クネネ	三〇、〇〇〇、〇〇〇	四二〇〇
	オレンジ	一七、五〇〇、〇〇〇	一二〇〇
		三二〇、六〇〇、〇〇〇	六三〇
		三六九、〇〇〇、〇〇〇	二一〇〇
		三〇、六〇〇、〇〇〇	八三〇
		一四、九〇〇、〇〇〇	二一四〇
		二七、二〇〇、〇〇〇	一八六〇
		一三、七〇〇、〇〇〇	
		一二七、五〇〇、〇〇〇	
		一〇二、〇〇〇、〇〇〇	
	パールエルジェベル	五六、〇〇〇、〇〇〇	一六〇〇
	バヒン	四四、〇〇〇、〇〇〇	二六六〇
	チョソバ	一四三、〇〇〇、〇〇〇	一一〇〇
	オゴエ	九六、〇〇〇、〇〇〇	一五〇〇
	チャンベジ	三三、四〇〇、〇〇〇	
	クアンザ	一四、五〇〇、〇〇〇	
	クネネ		
	センク		
印度洋	リンポポ	七八、五〇〇〇	一四〇〇
	ザンベジ	八八、〇〇〇〇	一八〇〇
	ロブマ	一九、六〇〇〇	
	ユバ		
閉地	シャリ		
	クバン		

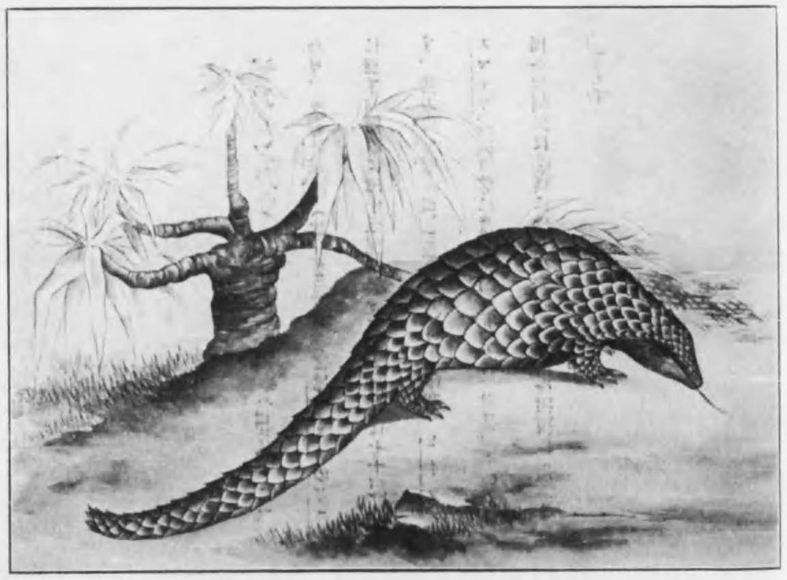
ニール(Nil)河は ナイロ(Nilo)又は ナイル(Nile)と云ふ、アフリカ洲第一の長流なり、本流たるバールエルアビアド(Bahr-elAbiad)即ち白ニールの源流に二派あり、東派はカゲラ河と云ひてウケレエ湖に入りリボンの瀑布に依りて流出しソマーセット(Somerset)河と成りマーチソンの瀑流を爲しアルベルトエドワード湖を流過する西派のキフ河と共にルータ(アルベルト)湖に入る、同湖を出づるや山岳水と稱し五百乃至二千米突の河幅を以て蓄鬱たる樹林の間に隱見し、サンイアミを受けたる後は幅百米突の峽谷に入りて奔流激流を爲して海拔五百五十米突のゴンドコロに達し、バールエルラドを過ぎり、ジェベルの名の下に北流して一秒間に三百乃至九百立方米突の水を輸送するが、北緯九度のノー湖の地に於て東方スーダンの河流地方より來る豐富のバールエルアラブ(Bahr-el-Arab)又は水に乏しきジュール(Diur)等の水脈を

合はせたるバールエルガザル(Bahr-el-Ghasal)に合するや方向を東に轉じ始めてバールエルアビアド(Bahr-el-Abiad)と稱す、源をカッハ地方に發するソバット(Sobat)を容れ再び北流してハルツームに來りエシオピアのタナ湖より出づるバールエルアズレク(Bahr-el-Asrek)即ち青ニールを受け、清濁の二水は竝流して草木繁茂百獸棲息の地を潤せり、ベルベルに至るに先ちてチ・グレ地方より來るアトバラ(Atbara)河を合はす、ロヂハルハの瀑布、其の他二十ヶ處の瀑流に依りて階段の地を降り沙漠の地をS字形に流れ二千八百粁の間に一の支流を合はすることなく水量は大に減ずるも狹長の谷地を潤すに足る、カイローの附近に至りて數派に分かれ有名のデルタ」即ち三角洲を抱きて地中海に朝す、本河は源委通じて五千九百四十粁(一に六千四百粁)の長を以て二百八十餘萬方粁の流域の水を集むるも沙漠の如き乾燥の地を通過するが故に下流に至れば水量は甚だ多からず、因に記すニール河の增水は毎歲六月二十日頃に始まり最初は綠色を帶び七月に入りて白色に變じ七月二十日頃に至れば赤色と成り褐色と成る、八月上旬に增水の半に達し九月二十五日頃に始めて最高に達す、而して減水は十月下旬又は十一月の上旬に始まり減退の度は始めに著しきも一月を過ぐれば漸く遲く六月に至りて最低に達し肥力に富める土砂を沿岸の地に遺棄してニールをしてエジプトの父たるの實あらしむ。

コンゴー(Congo)河。はアフリカ第二の巨流なり、水源をタンガニイカ湖の南方に當る山岳に發し上流をチアンと云ひチアンベジ(Chambesi)と稱す、海拔一三〇〇米突の

地にあるバングエオロ湖に入り、幅六七十米突のルアプラ(Luapula)河と成り、或は沼澤の地を流れ或は瀑流を爲して四百五十米突を下り、海拔八五〇米突のモエロ湖を過ぎりてルアラバ(Lualaba)河と成る、ランジ湖を經西ルアラバを容れタンガニイカ湖より出づるルクガ(Lukuga)の水を受け幅一粁の巨流と成り始めてコンゴーと稱す、北流して赤道直下のスタンレー(Stanley)瀑布を經て海拔四三〇米突の地に降り忽然として巨大の河流と成り、赤道以北の地に入り一大彎曲を爲し、再び赤道以南の地に戻りアフリカ臺地の西邊に至るまで一千七百粁の間は如何なる船舶をも浮ぶべし、而して此の中流區に於ける支流は其の數多きも就中ウバンギ(Ubangi)、カッサイ(Kassai)を以て著しとす、ウバンギ河はニアムニアム地方より來るムボム(Mbomu)、マクア(Makua)等の合流にして下流に至れば二粁乃至四粁の幅を以て四五千立方米突の水を搬來しカッサイ河はサンクル(Sankuru)、其の他の水脈に依りてルアンダ地方の水を集むるが水量はウバンギに劣らざるが如し而してコンゴー中流の地方はツムバ(Tumba)、レオポルド(Leopold)、スタンレー、等の沼湖あるが、往古の時代に於てアフリカ內部に存在せし內海の遺跡ならんと云ふ、コンゴー河がリビングストン(Livingstone)の瀑流と成りて三十二回に二百五十五米突を下るに當りては河幅は五百乃至二百二十五米突に縮小するも深さは五十乃至一百米突と成り、速度は一秒時に十二乃至十四米突と成る最後の瀑流たるイエルララ(Yellala)を經過すれば河流は緩漫と成り幅は十七粁に達することあるも河口に近けば再び縮小して六粁を有す

カメレオ　避役（Chamæleo vulgaris）



長尾センザンカウ　鯪狸（Mauis longicanda）

るに過ぎず然れどもコンゴー河が大西洋に齎し來る所の水量は一秒時に就きて三萬六千乃至五萬五千立方米突に達し、河口を距る二十粁の沖に淡水海を見、沿岸の地を距る六十粁の海上に於ても水色に異常ありと云ふ、是れ本河の流域が赤道の南北に亘りて其の一部が常に降雨期にあると沼澤叢林の地に富みて雨水流失を緩漫ならしむるとに因れるならん。

湖沼には大なるものあり、就中東部の地には世界第二の淡水湖たるビクトリアニアンザを始めとしタンガニイカ其の他、若干の著しきものありてニール、コンゴー、ザンベジ、等に依りて外海に通ずるが、此の外に排水口を有せざるものもありて存せり。

湖沼	面積	海抜	湖沼	面積	海抜
ビクトリア	八、三三一〇〇 方粁	一二〇〇 米突	バングヱロ	二、一二五〇 方粁	一三〇〇 米突
アルベルト	六、八五〇〇		ニヤッサ	五一〇〇	一一〇〇
アルベルトエドワード	四四五〇	七〇〇	タナ	三、五二四〇	四八〇
キフ	三九〇〇	八八〇	チァード	一、六五〇〇	
タンガニイカ	?	一四八〇	レオポルド	二九八〇	一七五五
	三、一四五〇	七八〇		三〇四〇	
	三、五一〇〇	八四〇		三、四〇〇〇	二四四
				三、九〇〇〇	
				?	三四〇

カメレオ「避役」(Chamaeol)はアフリカに多し、其の普通種(Ch. vulgaris)はヨーロッパの南部にも棲む、形醜くしと雖も克く人に馴れ蠅を捕食するが故に家養することあり。

ゼンザンカウ「穿山甲」「鯪鯉」(Manis)に二種あり、其の長尾種(M. longicauda)はアフリカのギニアに産す、體軀は三十五糎に過ぎざるも尾長は七十糎に達す、其の廣尾種(M. laticauda)は南印度、セイラン、スマトラ、臺灣、等に産し、體軀九十糎、尾長四十糎あり、肉を食料又は藥料に供し堅宕なる鱗皮を被覆に用ふるを主とす。

メル(モエロ ムカタ)	五〇〇〇 五二五〇	八五〇 九七〇	ニアミ	七〇〇	九四〇

氣候 アフリカ洲は概して熱帶的氣候を有せり、北緯十五度と南緯二十度との間に於ける地にありては溫度甚だ高く强雨屢〻降りて空氣は濕潤を極む、而して極暑の地は紅海沿岸マッサワは五十度及び東スーダンハルツームの四十七度にありて溫度の最高はギニアの海岸及び大湖地方にあり、此の廣濶なる熱帶地の南(カラハリ)と北(サハラ)とに酷暑にして乾燥を極むる一帶の地あり、又大陸の兩端に氣溫中和にして冬期に降雨を見るの地あり、即ち一をアトラス地方、他をケープ地方とす。

天産 アフリカ大陸の地積(二九二〇)を各種の土地に配付すれば耕種地(六三七)、濕草原(六二五)、乾草原(五八〇)、不毛地(一〇六)、湖沼地(二〇)の順を得るが、北部一帶の地に於ける植物はヨーロッパの地中海沿岸地に見る所のものに類し、紅海の兩岸に於ける植物はアジアにあるとアフリカにあるとに拘らず全く同一なり、此等の植物帶の南又は西に於けるサハラ幷にリビヤの地方は僅に椰樹の一種を有するのみにて眞のアフリカ的植物たる「パオバブ」

(Adansonia digitata)」「ヴーム」(Hyphaena crinita)、其の他、各種の椰樹の繁茂するはスーダン地方なり、殊に著しきは種類の單純にして混淆の至りて少なきにあり、同種の草木のみより成る森林、草原を見ること稀ならず、然れども常に植物の茂生するあるは河流の沿岸、ベニン、ダホメイの海岸の如き高温にして濕潤なる土地に限れり、其の他の土地にありては草木の榮枯常ならずして降雨季來れば到る處綠葉たらざるなく、百樹翁鬱たりと雖も乾燥季と成れば草木は活氣を失ひて殆ど枯死せるの狀を呈す、尙ほ進みて南緯二十度以上に至れば再び荒蕪不毛の地に入るべし即ち南アフリカのサハラにしてカラハリ沙漠と稱す、之を越ゆれば地味稍〻豐にして葡萄の栽培に適する處あり、ケープ地方は殊に耕種に適せるが如し而して南アフリカの植物は北アフリカの植物に多少類似せるも椰樹類は席を「アカシアミモザ」(Acacia mimosa)「エルキッシア」(Welwitschia)等に讓ると云ふ。

アフリカは猛獸奇獸の生產地として名を知らるる所なるが、獅子の棲息地は漸次に南方に退却して地中海沿岸にありては僅にマロッコの一小區域に限れるが如し、ジブラルタルの岩上に飼養せらるる繩狻と同種の四手獸はカビリア地方の森林に多し、古代に生存せしと稱する巨大の厚皮獸はサヘラ以南の地に退きて、其の領土を駱駝、驢馬、犬、牛、羊、等の家畜に讓りたるが「ヴェツェ」蟲の領にて家畜に大害ありの領域は廣大にして殆ど熱帶アフリカの全部に跨り、北はバールエルガザル、センナアルより起りて南はザンベジの河畔に達せり、又蝗蟲は時に襲來して穀類に非常の損害を與ふ、而して南アフリカの動物は象、犀、河馬(Hippopotamus)、麒麟(Camelopardalis giraffa)、斑驢(Hippotigris)、水牛、各種の「アンチロペ」等なり、此の外に「ガゼル」(Antilope dorcus)はサヘラ、スーダンに多く、「アリラ」は西岸に居り、駝鳥(Struthio camelus)は漸〻減少するも猶は赤道アフリカの河流に群棲す。

鑛產的富力は推知するに難しと雖、キンバーレー附近に於ける金剛石幷にトランスバールの產金地の發見は他の鑛產地の存在に對して有望なる豫告に外ならざるべし、鑛の生產には多少の疑なきにしも非ざれども銀銅、石炭、石油の存在は確乎たる事實なりとす。

人口

種類

住民　人口は確知するに苦むも二億と爲すもの或は眞に近からんか、されど之を地積に配付すれば平均一方粁に付き七人と成りてアジアの平均人口の三分の一強に當り我が帝國の平均人口の十七分の一たるに過ぎず、而して人口の配付は極めて不平均にして海岸、河口、沿河の地にありては密なれどもサハラ、カラハリ等の如き地には殆ど人類の生存せざる處あり。

種族に就きて一言せんにハム派はニール河畔のフェルラー(Fellahs)人、地中海沿岸のベルベリア人、中央サハラのツアレグ(Tuareg)人等を包括し、セム派に屬するものはアラビア人、アビシニア人等にして北部幷に東部に最も多し、黒色種に屬するものはスーダン及び南アフリカの各地に居住せり、其のニグリチア(Nigritia)派はスーダン人、ハウッサ(Hausse)人、マンヂング(Mauding)人等に分かれてサハラ以南、赤道近傍一帯の地を占む、其のバヌツー(Bantu)派はプング(Pungu)と稱しルンダ(Lunda)と云ひ種々なる名稱の下に南アフリカの全部に生息せり、就中カッフル(Caffirs)人、ズールー(Zulu)人は最上に位せり、其のネグリロ派は身長の低きを以て知られ平均は百四十一糎なりと云ふ。

ニグリチア派は黒大陸の中央部を占めて員數九千萬人(最も多くアフリカの黒人と云へば本派を想起す、皮膚は黒しと概言すれども帶赤、帶藍、眞黒の三種あり、身の丈高く頭骨長く髪は黒くして或は縮幅的或は羊毛的なり、髪は少なく額は突出し目は水平にして顎骨突出し、脣厚く鼻低く四肢長く脚曩著しからず、更に小別して東方、中央、西方、ギニア(沿海)の四群とす、而して東アフリカは元來の黒色人と他の侵入人とを混和せるものありてアラビア的侵入の結果はニグビア人、アビシニア人、ガルラ人等と成り、マライ的侵入はマダガスカルのホバ人、サカラア人を生ぜり。

バヌツー派は東、西、南の三群に分かるるが文化上より見るも稍優等の地位にあり、頭は廣頭に近く、額は廣く鼻高く顎骨は突出せず、智力も亦前派に優れり、而して遊牧を好まざるに非ざるも定住を屢はず。

此の外アフリカ最舊の住民なるボッシュマンはカラハリ沙漠に住し極めて下等なるが、南アフリカの南西部に居るホッテントット(Hottentot)は稍之に優れり、又雜種はサハラの東部にベルベリア人とニグリチア人との混合より成れるデダス人あり、ベルベリア人とアラビア人との混種なるモロス人あり、東岸にアラビア人とニグリチア人との雜種なるスハヘリ人あり、南部にブール(Boers)とホッテントットとの雜種なるグリクアス(Griquas)人あり。

マホメット敎は最も勢力を有せるが殊に赤道以北に於て盛なりとす、本敎の北アフリカに於ける傳播は西紀六六〇乃至七一〇年に亘るアラビア人の來侵に始まり一〇四八年乃至一四〇〇年のアラビア侵略時代に大成せしは事實なれども、以前より開けありしイスラムの根據地たるアラビアとアフリカ東部の沿海地との交通的便利は布敎上與りて大に力ありしならん、而して其の一度東部に渡るや大湖地方、上流コンゴー地方に入り、延ひてスタンレー瀑布の近傍に達したり、且又イスラム敎の傳播の初期にありては腕力强迫に依りしは爭ふべからざる事實なるも、元來本敎は土地の人情風俗に適ふの傾きありしを以て容易に多數の信徒を得るに至りしのみならず、現にスーダン地方以南に著大なる進歩を爲しつつありと云ふ、多神敎は最劣の形狀の下に現出し拜物宗と成りてギニア地方南アフリカの內部に行はるるが如し、而してキリスト敎は未だ盛ならざれどもアルジュリア、チュニジア、アンゴラ、モサンビク等の移住者中に天主敎徒を有し、エジプト、アビシニア地方にコプト派の信徒を有し、トランスバール、オレンジ、ケープ、ナタル、其の他ギニア、南アフリカ、マダガスカル等の傳敎區に新敎信者あり、又ユダヤ敎の信徒は北岸の地、サハラの泉地、スーダンの各地等に散在せるも、本洲內何れの地にも群居することなし。

探檢　本大陸の海岸は出入屈曲に乏しきのみならず、危險にして健康に適せざる處多く、ザンジバルよりマサワーに至る間には暗礁充滿し、ギニアの沿岸には沙洲の橫はるあり、回歸帶地方に於ては河流の搬し來れる泥砂の積堆より成れる平低の沼地に「マングローブ」の繁茂するありて惡疫屢〻流行し極めて不健康なる處とす、加ふるに印度洋上には颶風の起ること稀ならずして被害少なからず、是れ古來アフリカの沿岸に海洋的生活を營める住民の僅少なりし所以ならんか、而して內部に關しては行旅の妨害を爲せし特殊の地方的事情の外に當大陸大體の地貌は根本的支障なりしなり、蓋しアフリカの主要部は臺地を爲して其の外緣は絕崖を爲すもの多く河流は瀑流激湍に據らざれば外海に達する能はず、從て交通上の便益を呈供すること極めて微弱なりき、されば本大陸が暗黑世界より脫せしは全然之を各

國の地理學會の幇助と探檢旅行家の膽智とを先驅と爲せる殖民事業の効果に歸せざるを得ず。

アフリカ洲の沿革探檢は頗る興味あるが今左に最も著名なる二三の旅行者に就きて略記する所あらんとす。

バルト(Heinrich Barth)(1821—1865)はドイツのハンブルグの人なり、アルジェリア、チウニジア、トリポリ、エジプト(一八四五＝四八)を訪ひサハラ、ボルヌ、アダマワ、カネムバギルミ、ソコト、チムブクツー、等(一八五〇＝五五)を檢しスーダン地方に就きて少なからざる光明を與へなり。

スタンレー(Sir Henry Morton Stanley)(1841—1904)はイギリスエールスに生れし人なり、新聞通信員としてアビシニア(一八六八)に至り或はリビングストン探索の爲めザンジバルを發し(一八七一)ウジシ(Ujiji)に於て彼を發見(一八七一)せることあり、又ビクトリアニアンザ湖の周航(一八七五)、アルベルトニアンザ、タンガニイカ兩湖の探究、アルベルトエドワード湖の發見、コンゴー河を下れること(一八七六＝七七)、等ありてコンゴー地方に於ける地學上の疑問を解決し遂にコンゴー國の建設あるに至らしめたり。

リビングストン(David Livingstone)(1813—1873)はスコットランドの人なり、宣教師としてケープに赴任したる後、漸次に北上してニアミ湖附近を視察し(一八四九)、ザンベジの上流を溯りてロアンダに出で(一八五一＝五三)、ザンベジの流域、ニヤツサ湖地方、等に旅行せしがニールの水源を探究する際、不幸にして病沒したり、博愛主義の人としては大に黑奴廢止に力を致し探檢者としては南アフリカの內部を世に紹介したり、實に有數の人傑なり。

カメロン(Verney Lovett Cameron)(1844—1894)はイギリスの人なり、リビングストン探索隊の長と成りて一八七三年バガモヨ(Bagamoyo)を發しタンガニイカ湖を周り、ルクガ(Lukuga)を發見しウルア、南ルンダを經て一八七五年ロアンダに達し、南アフリカの橫斷旅行に先登第一の名譽を得たり。

分國 本洲には二三の獨立國ありと雖其の他は概ね フランス 一〇二一萬方粁、三一六〇萬人、イギリス 五三四四三六三、トルコ 三八九一〇八二、ドイツ 二三五一二二〇、ポルトガル 二〇六、七一七、イタリア 五一六八、エスパニア 二一二九、等ヨーロッパ諸國の勢力の下にあり、コンゴー獨立國 二三八一九〇〇の如きもベルジック領と見るを得べし。

部	地方	邦土	地積	人口	方粁ニ付
北	北東	トルコ領 エジプト	九九、四三〇〇方粁	九八二、一〇四五	九
		トルコ領 トリポリア	一〇五、一〇〇〇	一〇〇、〇〇〇〇	一
		フランス領 チウニジア	一六、七四〇〇	一八二、〇〇〇〇	一一

陸	南部	西岸	イギリス領	一一、一四	一、九七	〇、九
			ドイツ領	八二、三五〇〇	二〇、〇〇〇〇	〇、二
			ポルトガル領	一二七、〇二〇〇	三六〇、〇〇〇〇	三
		コンゴー	エスパニア領	二、五七〇〇	一三、九〇〇〇	五
			フランス領	一七六、二〇〇〇	八五〇、〇〇〇〇	五
			コンゴー獨立國	二三八、二八〇〇	一九〇〇、〇〇〇〇	八
		東アフリカ	ドイツ領	九四、六五〇〇	六七〇、〇〇〇〇	六
			イギリス領	ザンジバル	二六四〇	二五、〇〇〇〇	九、五
				ウガンダ	二三、一五〇〇	一八〇、八一六	八
				東アフリカ	四六、七五〇〇	四〇〇、〇〇〇〇	八
		ソマーリ	イタリア領		三八、〇〇〇〇	四〇、〇〇〇〇	一
			イギリス領		一五、五〇〇〇	一五、三〇〇〇	二
			フランス領		二、一〇〇〇	五、〇〇〇〇	二
	大部	ベルベリア	エスパニア領		一三、〇〇〇〇	一、〇二八二	一
			マグレブ		四三、九二四〇	八〇〇、〇〇〇〇	一七
			アルジェリア		八九、〇〇〇〇	四八〇、一四七五	五
		サハラ	エスパニア領		一八、五〇〇〇	一三、〇〇〇〇	〇、三
			フランス領		五〇三、七四〇〇	七九、〇〇〇〇	〇、一
			エジプト領		一八五、〇〇〇〇	?	?
	中部	スーダン	エジプト領		二四六、〇五〇〇	二〇〇、〇〇〇〇	〇、八
			ドイツ領		五八、二二〇〇	五〇〇、〇〇〇〇	八
			ポルトガル領		三、三九〇〇	一七、〇〇〇〇	五
			イギリス領		二二一、七七〇〇	二六五、〇四〇四	二二
			フランス領		一七三、七四〇〇	一二七〇、〇〇〇〇	七
			リベリア共和國		九、五四〇〇	一五〇、〇〇〇〇	一、五
		アビシニア	エシオピア國		五四、〇〇〇〇	八〇〇、〇〇〇〇	一、五
			イタリア		一三、〇〇〇〇	二七、九五五一	二、一

六百

中央部	イギリス領	ローデシア	一〇五、八〇〇〇	一三五、〇〇〇〇	一、三
		中央アフリカ	一〇、六一三四	九二、四四三一	九
東岸部	ポルトガル領		七六、一一〇〇	二三〇、〇〇〇〇	三
南端部	イギリス領	トランスバール	三〇、四九一三	一三五、四二〇〇	四
		オレンジリバー	一三、五二〇〇	三八、七三一五	三
		ナタル	九、三六七六	一一〇、八七五四	一二
		バストランド	二、六六五八	三四、八八四八	一三
		ケープ	七一、七三八八	二四〇、五五五二	三
島嶼部 印度洋	フランス領		五九、九五四五	二九〇、二八六四	五
	イギリス領		六一九〇	四一、六二八二	六六
島嶼部 大西洋	ポルトガル領		七九六四	五九、六三九二	七五
	エスパニア領		九二八八	三八、〇五一〇	四一
	イギリス領		•三二六	三九四四	一二
合計			三〇三四、四五七五	一、四二二一、三七三八	五

北部

● 北東地方

◎ エジプト

境域

エジプト（Egypt）は一にミスル（Misr）と云ひ、アフリカ洲の北東隅を占むるが、ワヂハルハ（Wadi Halfa）以北の地はニウビアと稱せられ、之にアジア洲のシナイ半島、ミヂアン（Midian）地方を加ふれば地積は一百萬方粁に達せんとす、

地積

然れども耕種に適する地は三十分一に過ぎざるべし。

地勢

エジプトは地中海并に紅海に瀕するが、前者の沿岸地に概ね平低にして沙洲多く後者に沿ふ處も亦屈曲に乏し、地角にラスベナス即ちラスエルアンフ、ラスエヂネブ即ちエルバ岬、ラスラウアイ等あり、灣にはスエズ及びアカバーの二灣あれども島嶼には著しきものなし。

エジプトはサハラの一部即ち其の東端たるに外ならず、リビヤ沙漠とアラビア沙漠とに挾まるるニールの河谷は恰も綠色の帶の如く南北に亘れるが、

カイローの附近に至れば冲積の平野と成り下ニールの數派幷に運河は之を潤して國內第一の肥沃地たる下エジプトを形成せり、而してリビヤ沙漠中にはシウアー(Siuah)、バハリエー(Baharieh)等若干の「オアシス」あり、又ニール河の西に於ける一帶の凹窪地はファユーム地方に最も低くニールの河床より低きこと八三米突なりとす、國內は平低にして山岳に乏しきも紅海沿岸の花崗岩質山脈(最高點ウムデルファ(Um-Delpha)二一八〇)は稍著しきが如し。

河流

河流は唯一のニール河あるのみなり、エジプトに入りたる後は一の合流を受くることなく國を南北に縱斷せり、河口に近き處に於てニールは扇の骨の如く數派に分かる、就中東派のダミエッタ(二二〇粁)幷に西派のロゼッタ(二一九)は著しうして、其の河口間の海岸線(一四五)と共にギリシア文字のA「デルタ」に似たる土地即ち三角洲を爲せり、又河口の沿海地には湖潟多くしてメンザレー、ブルロス、エドク、マリウル等の潟を見る。

氣候

氣候は佳良にして寒暑の差は極めて少なく、氣溫の年平均はアレクサンドリアに於ける二十度、カイローに於ける二十二度、ケネーに於ける二十六度、セベスの二十八度なるがカイローの最低溫度は三度にして最高は四十度に達すと云ふ、降雨は稀にして量に乏しきも降露は强くして殊に下エジプトに著しとす。

住民

住民の總數は約九百八十二萬人(男四九九女四八三)なるが、其の居住地は殆どニールの河谷幷に三角洲に限れり、從て此等の土地の面積と住民とを對比すれば方粁に就きて三百三十八を得るなり、而して種族にはファルラー(Fellahs)(約六十萬)人、コプト(Copts)(約六十萬)人、ベドイン(Bedouins)(三十萬)人、トルコ人、ユダヤ人、アルメニア人等あり、又西人は約十一萬三千人ありてギリシア人、イタリア人、イギリス人等を主とす、宗教はマホメット教最も盛にして一八九七年に於ては八百九十八萬人許の信者を有せしがキリスト教徒は七十三萬餘人に過ぎざりき。

政治

政體は君主專治にして君主を「ケーヂブ」(Khedive)副王の意と稱するが名義上はトルコの主權の下に置かる、然れども一千八百八十二年の事件以來、監督權はイギリスに屬するを以て同國は百般の政務に干涉せり、政府は首相、內務、

財務、法務、軍務、工務、敎育、外務の諸省の長官より成り地方は八總督府、十四州に分たる、兵備には陸兵凡そ一萬八千人あるも海軍は數隻の小艦を備ふるのみ、又財政に就きて一九〇六年の豫算に依れば歲入は一千三百五十萬餘「エジプトポンド」(我が約十圓四十錢にして歲出は一千百七十五萬五千「エジプトポンド」なるが、國債は一億百二十八萬「エジプトポンド」に近し。

住民中の百分の六十一內外は農民にして約三萬三千方粁の耕地を有せり、而して此の地の農業的一年は三季に分かれ、冬作(播種十一月收穫三、六月)は各種の穀類を與へ、夏作(播種三月收穫十、十一月)は米、綿、甘蔗を產し、秋作(播種七月收穫九十月)は米、玉蜀黍、黍、等を生ず、然れども此等は自然的又は人工的灌漑の便を得るの地に止まりて氾濫の際にのみ濕さるるが如き地に於ては黍を得るに過ぎず、綿花の產額は一九〇三—〇四年に於て六百五十萬「ケンタル」(一「ケンタル」は九十九磅餘)なりとす、

貿易は一九〇五年に二千百五十六萬餘「エジプトポンド」を輸入し二千三十六萬「エジプトポンド」を輸出せるが、取引先はイギリス(輸入一〇六九二、輸出一〇六三)を第一とし、フランス(二三二、七〇七)、トルコ(三〇七、四二九)等之に次げり、主要輸出品は實綿(一五八〇)、綿子(一七一)、卷煙草(五五)、砂糖(四〇)等にして此の他に葱類「アラビアゴム」、油精等あり。

交通

スエズ運河

一九〇五年アレクサンドリア港に於ける出入船舶は凡三百二十萬噸づつなりしが、同年の鐵道は三千九百九十七粁にして此の外スーダンの軍用鐵道は一千二百四十九粁ありたり、又郵便は一千八十一の局所を備へ電信線の延長は一萬八千三百餘粁、電話線は八百八十粁あり、水路には有名なるスエズ運河あり。

スエズ運河に就きて記さんに一八四九年フェルデナンレセップ(Ferdinand Lesseps)はスエズ地峽の開鑿を始めんとしてスエズ運河會社を起し資本の一部はヨーロッパ諸國に求め、殘半部はエジプトの「ケーディブ」に仰げり、此の如くにして一八五九年四月二十二日工事に着手し一八六九年十一月十七日に至り竣工せり、ポトセッド(ポールサイド)よりスエズに至る長さ百六十九粁、水面の幅七十乃至百十米突、水底の幅三十八米突半、水深九米突乃至九米突半を有す、一九〇四年に於ける會社の支出は三千七百四萬「フランク」に近

くして收入は一億一千五百七十九萬餘フランク)なるが、一九〇五年に通過せる船舶は四千百十六隻、一千三百十三萬餘噸にて次年の收入は一億一千三百八十三萬フランクに達せんとせり、而して其の主要なるものを噸數順に示せばイギリス(八三五)、ドイツ(二一一)、フランス(八四)、オランダ(五七)、エステルライヒ(四五)、イタリア(一八)、ロシア(一七)、トルコ(一二)、ノルゲ(一二)等を得。

カイロー　カイロー(Cairo)(五六、五一、一八七)北緯三一度一一分三九秒東經三一度一七分一三秒即ちケールはエジプト人のカイレー(El Kaireh)にて當國の首府、アフリカ第一の都會なり、アラビア人の建設(九七〇年)に係れる當市はニール河を距ること一千八百米突の地にありて有名なるバザン寺院ブラク博物館等を有す、ピラミッド、メムフィス等の舊地は此の府の近傍にあり

アレクサンドリア　アレクサンドリア(Alexandria)(三一、五〇四七)北緯三一度一一分三九秒東經二九度五三分三〇秒はマームチエー運河の端にありて當國第一の商業地、史上有名の舊地なるが居民の四分の一はヨーロッパ人なりと云ふ、往古の隆盛を見ざるも市況稍〻快復して一九〇五年の貿易高は三千七百萬エジプトポンドを越えたり、

ダンタ　ダンタ(Tanta)(五、七二八九)はロゼッタ、カイロー間に位し當國第三の都會たり、

ザガジク　ザガジク(Zagazig)(三、五七一五)は交通上の要區にして農產を集散す、

マンスラー　マンスラー(Mansurah)(二一、三五八〇)、ダミエッタ(Damietta)(三、一二八八)はニールの東派に沿へる都會なり、

ポールサイド　ポールサイド(Portsaid)(四、二〇九五)はスエズ運河の北端に、スエズ(Suez)は南端にあり、何れも半アラビア的、半ヨーロッパ的の市街なり、

シウト　シウト(Siut)(四、二〇一二)は上エジプトに於けるニール鐵道の一驛にして商業地なり。

◎トリポリ

トリポリア　トリポリア即ちトリポリテーヌ(Tripolitaine)と稱せられトルコに屬す、トリポリ、ガダメス(Ghadames)泉地バルカ臺地、フエッザン(Fezzan)地方、ガート(Ghat)泉地等より成りて面積は百五萬一千方粁と算せらるゝ、然れども其の大部は不毛の地なり。

土地

住民　人口は百萬人と稱せられ、多數はベルベリア人に屬するがユダヤ人も少なからずして、マホメット敎行はる。

生業　產物は農牧的のものに止まりて其の量多からず、輸出品は象牙、駝鳥羽、山

羊皮、其の他を含み、隊商に依りてスーダンより齎らさるるもの多し、

トリポリ(Tripoli)(三、〇〇〇〇)はトリポリビラエットの首都にして地中海に瀕す、ベンガジ(Benghazi)(二、五〇〇〇)は「ムテサリフ」の駐在する處なり。

◉ベルベリア

境域

ベルベリア地方は一にアトラス地方と云ふ、境界明確にして約百五十萬方粁の面積を有するが、アフリカの北西にありて東と北とに地中海を控え、西は大西洋に瀕し、南はサハラに境す、海岸は西部に絶壁多く東は砂濱に富む、屈曲は乏しからざるも港灣の陸中に侵入することなく、當地方に吹き荒む北西風に對し充分なる保障を有するものの如きは全く之を缺如せり、地角の著しきものにはボン、ブラン、等あり。

山岳

地勢上、特殊の情態を呈し小アフリカの稱ある、ベルベリア地方はアトラス山系之を東西に縱斷せり、本山系は南北二派より成りて、其の北派をテルアトラス(Atlas Tellien)(最高處シェリア山は海拔二三一九米突)と云ひ、其の南派をサハラアトラス(Atlas saharien)(最高處はタムジウール四五〇〇米突)なりと唱ふ、此の兩山脈は西方にありては相距ること百五十乃至二百粁なるも、斷續して各處に小山彙を爲し又は並行せる若干の小山脈と成り東に趣くに從ひて漸く接近しチウニジアに至りチウニス灣を抱きてラスエルメクリ及びボン岬に於て海中に沒す、而して海岸に近き處に多少の起伏を見るも何れも北アトラス山脈の餘派たるに過ぎざれば海拔は顯著ならず。

河湖

山脈の趨勢此の如くなれば大河巨流の存在するを許さずして大西洋に入るものにテンシフト(Tensift)、セブ(Sebu)あり、地中海斜面にムルヤ(Muluya)、シェリフ(Shelif)、ルーメル(Roumel)、メジェルダ(Mejerda)、等なきに非ざるも恒に流水を運ぶもの殆どなく冬季に於て激流を爲すに過ぎず、沼湖の如きも間斷なく水を蓄ふる能はずして所謂「シォット」(Chott)を爲し主としてアトラス山脈の南に存在す、シォットメルギール、シォットジェリダの如きは其の大なるものなり。

地勢

平地は山脈と海岸との間幷に山間に存し當地方の最も肥沃なる部分たり、而して地中海、大西洋に面する丘陵の斜面は樹木繁茂するも、南の斜面は漸

次にサハラの不毛地に推移せり、之を要するに山脈の趨勢、氣温、降雨の配付、等はベルベリア地方を三帶に區劃す、其のテル(Tell)の一帶は沿海の地、テルアトラスの北面より成りて耕種に適し、其の臺地の一帶は兩山脈の間にありて七百乃至一千米突の海拔を有し「ショット」(Chotts)多く「アルハ」を產し牧畜に適す、其のサハラの一帶は最南山脈の南にありて若干の「オアシズ」の外は水なくして植物の生存極めて難し。

氣候 氣候は沿岸の地に海候を有し最低温度は三度乃至二十五度にして最高温度は三十五度乃至四十度を示し又平均は二十二度內外なるも兩山脈の間に於ける臺地は寒暑の差烈しく年平均は十九度なるが降雨は稀ならず、而してサハラ地方にありては寒暑の差は一層激しく最低零下六度より最高四十五度乃至五十度に達して降雨は皆無なり。

天產 鑛物にはテルアトラスに多き鐵の外に銅、大理石、岩鹽等あり、植物にはテルル地方の温和帶的草木幷にサハラ地方の椰子樹あり、動物に獼猴、鹿「アンチロペ」等あるも猫類は漸次減少するものの如し。

分國 ベルベリア地方は天然的狀態より見れば單一地域にして分離すべからざるものなるも、政治上は現にチュニジア、アルジェリア、マグレブの三部に區分せらるるを見る。

◎チュニジア

境域 チュニジア(Tunisie)はベルベリアの東部にありて北及東は地中海に瀕し、南はトリポリ、西はアルジェリアに隣接せり、東西約百六十粁ありて面積は十六萬七千四百方粁あり。

住民 人口は百八十二萬人ありて土人は百七十萬人あるが最多きはベドイン、(Bedouins)カビル(Kabyles)、等とす、此の外にイタリア人、ユダヤ人、フランス人、等あり宗教の中最流行するはマホメット教なり。

政治 チュニジアは一八八一年の條約に依りてフランスの保護の下に置かれ、目下君主として「ベイ」(Bey)を戴き自治體を備ふるもフランス政府の派遣に係る統監(外務大臣兼務)幷に九人の委員より成る監督官の合意を俟たざるべからず。

生業 主要なる生業は農業にして小麥、大麥、「オート」麥、等を產し、中部には「オリーブ」

ブ」の栽培あり、南部には「デーツパルム」あり其の他「アルハ」、葡萄、種々の果物「コルク」等の生産あり。

貿易は一九〇五年に穀類、獸類、「アルハ」、「オリーブ」油、海綿等の五千八百二十七萬七千「フランク」を輸出せるが、主として取引するはフランスなりとす、而して入船は三百四萬餘噸にして鐵路(九六二粁)等も存す。

チュニス (Tunis)(一七、〇〇〇)(北緯三六度四七分 東經一〇度四四秒 一〇分一秒)は同名の湖に瀕し外港ラグーレット (La Goulette) に依りて海に通ず、又鐵路はアルジェ、スッス幷にステップ地方に連なり、ローマ人の遺物の一たる水道(四〇粁)はザクアンの水を流送す、古來有名なる土地にして現時にありてもアフリカ洲中屈指の都會なり、住民中には四萬のヨーロッパ人とムール人、アラビア人、ネグロー、ユダヤ人、等ありて商業盛なり、ビゼルタ (Biserta) は北岸に於ける要港なり、スサ (Sfax) (四、五〇〇〇) は良港を有し海綿を產するケルケナー諸島と相對す。

チュニス

◎アルジェリア

アルジェリア (Algeria) はフランス人のアルジェリー (Algérie) にして北の方地中海に面し東はチュニジアに隣し南はサハラに接するが西はマグレブと境せり、長さは約一千粁に達し幅は凡そ四百粁あり、面積は南部に於ける六十九萬方粁の領土を加へて八十九萬方粁と算せらる。

人口は四百八十萬餘人あり、フランス人は三十五萬八千餘人にして殘餘はアラビア人、ベルベリア人、ユダヤ人、等に屬せり宗教に就きて土民はマホメット敎を奉ずるもヨーロッパ人はキリスト敎を信ず。

アルジェリアは一八八一年の法律を以てフランス本國に合併せられ總督は高等政務會議の幇助に依りてアルジェリア全部を總轄するも、事務の種類に依りては本國各省の直轄に屬するもの少なからず、行政上は三縣を設け、兵備上は第十九軍管に屬せり、政費は一九〇六年の豫算に依れば九千五百五十餘萬「フランク」の收入ありて九千五百四十餘萬「フランク」の歲出あるが南領土に對する歲入は約三百十七萬「フランク」にして歲出は三百十三

境域

住民

政治

萬「フランク」に近し。

生業は農、牧を以て主とし耕地は凡そ三百十七萬ヘクタール」あり、穀類、煙草、果物等は主としてテル地方に產し棗椰子はサハラ地方にあり、森林は約二百八十二萬「ヘクタール」ありて「コルク」樹其の他を產す、又羊(八七二萬頭)、山羊(四二六)、牛(一〇七)、騾馬、駱駝等は多く臺地に養はる、鑛業は未だ盛ならざるも既に鐵、亞鉛、鉛、銀、銅殊に燐鑛(六四二萬「フランク」)を產し鑛物の總產額は九百四十萬「フランク」に達せり、貿易に就きて一九〇四年の輸入は三億六千七百四十萬「フランク」、輸出は二億七千二百二十萬「フランク」なるが輸入先にはフランス(三、一〇九二)、イギリス(八七二)、エスパニア(六八七)、チュニス(六六二)等あり、輸出先はフランス(二、一四五九)、イギリス(一、一八八)、ベルジック(一、一〇八)等を主要とし、重要輸出品には葡萄酒(九八四二)穀類(三六〇二)、獸類(三二〇六)、「コルク」(一二七六)の外に生毛皮革、亞鉛、燐鑛、食卓果物「アルハ」、鐵、煙草、等あり、入船は約三百三十三萬噸にして出船は三百三十五萬噸弱なるが、鐵路には三千百四十粁、郵便局は五百九十四、電信線は三萬四千八百二十三粁あり。

アルジェー

アルジェー(Alger)(九、六五四二)北緯三六度四七分五〇秒東經三分二秒は地中海に瀕し路に依りてコンスタンチーヌ、オラン、等に通ず、總督府、軍團司令部、等の所在地にして軍府の一たるのみならず、商工業共に稍、盛なれば繁華の點に就きてはアルジェリア第一と稱せらる、ムスタファ(Mustapha)(三、七一八六)はアルジェーに接す、官舍、別莊、等の所在地なり、ブリダー(Blidah)(二、九〇五七)は柑類、オリーブ」の產地にあり、コンスタンチーヌ(Constantine)(四、八二四三)はルーメル河畔の農業地にありて一小軍府を爲せり、ボーヌ(Böne)(二、六九九三)はアルジェリア唯一の航河たるセイブースの河口にありて商業稍、盛なり、オラン(Oran)(八、八二三五)はアルジェーの西方三百五十四粁に於ける要港にして商業繁昌す、トレムセン(Tlemcen)(二、二三八二)は舊都の地にして氣候佳良なり。

オラン

境域

◎マグレブ

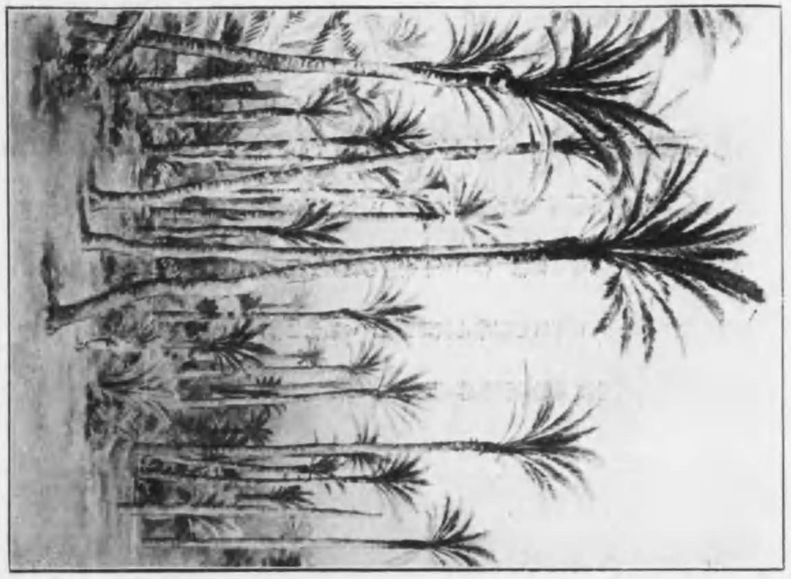
マグレブエルアクサ(Maghreb el aksa)は一にマロッコ(Marocco)又はモロッコ(Morocco)と云ふ、ベルベリアの西部を占め、東はアルジェリアに接し、北は地中海(三九〇粁)に臨み、西は大西洋(八五〇粁)に瀕するが、サハラ方面に對する南界は明

住民　確ならず、地積は約四十四萬方粁（ツアト地方并にあり。）人口は多きは八百萬と概算せられ少なきは五百萬とするが一八八九年（サハラ部を省く）の調査に依れば九百四十萬にして人種別にすればベルベリア及ツァレグ人最も多く、ムール、アラビア人、ユダヤ人、グナウイ（Gnaui）の黒奴の義等も存す。

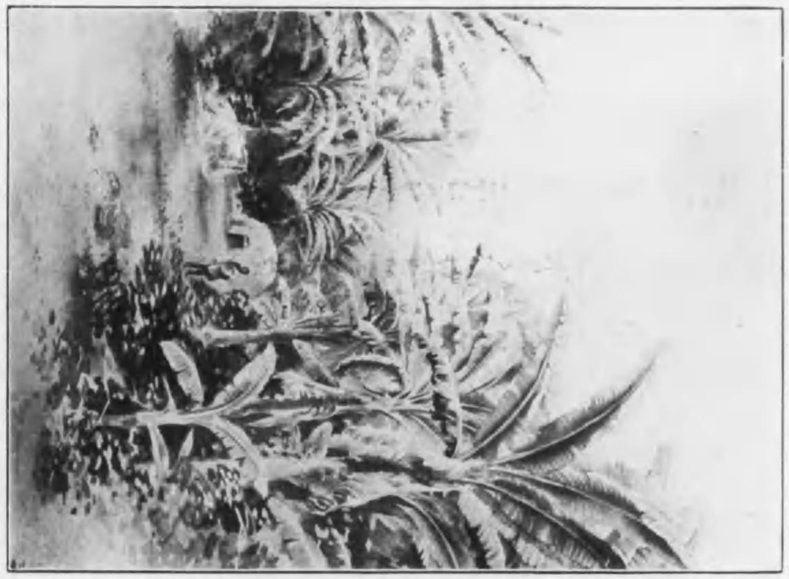
沿革　此の國は屢、騒亂を生じて國家強固ならず、遂にヨーロッパの數國の干渉を招き一九〇四年のイギリス＝フランス協約は亦フランス＝エスパニア條約に依りて承認せられ、マグレブの政務は益、フランスの指揮に屬するものの如くなりしにドイツ政府の異議を唱ふるありてアルヘシラスの協商（一九〇六）と成りしが開放主義の下にフランスの優越權を認むるに至れり。

政治　君主「スルタン」は政教の權を一身に集めて專政を行ふも、政治上の統一は有名無實なり、大官は大「ヴィジール」（vizir）、外務、内務、軍務、宮内、財務の六人にして別に外交代理官あり、兵備に關しては平時に三萬人を備へ戰時には七萬以上に達すべきも海軍には數隻の小船艦あるに過ぎず。

生産　土地肥沃にして耕種、牧畜に適するもの少なからざれば、小麥、大麥、玉蜀黍、



ナツメヤシ（Phœnix dactylifera）



バナナ 芭蕉（Musa sapientum）

ナツメヤシ (Phoenix dactylifera) は一に「ペルシアナツメ」とも云ふ、北アフリカ、「ペルシア」、「アラビア」等の如き高溫にして乾燥なる地即ち「オアシス」的の地に栽培せらる、樹幹は一米突の直徑を有し二十米突の高さに達するが其種は每年六十乃至百二十瓩の收穫を與ふ、生果又は乾果を食用に供するが殊に北アフリカの住人に對しては至要なる食品にして實に彼等の主食物たり。

バナナ (Banana)「香蕉」「甘蕉」(Musa sapientum) は回歸帶の原產なるが、栽培せらるるものには變種甚だ多く、澱粉に富める美味の果實は生食若しくは煮食に供せらる、アフリカ西岸に於ける一部の黑人は本果を以て主食物と爲す。

フェス

マロッコ

タンジール

果物、生毛、皮革、等の產なきに非ざるも交通の便なきと警察の不整頓なるが爲に發達を妨碍せられ、貿易の如きも輸入に約六千二十五萬「フランク」ありて輸出に約三千七百三十萬「フランク」あるに過ぎず、主なる取引先はイギリス(三一二六)、フランス(一七二一)、ドイツ、等なりとす、商港の主要なるものはタンジール、ダルエルベイダ、マザガン、モガドル、等なり。

フェス(Fez)(一四〇〇〇〇)北緯三四度六分三秒 西經三度一分二〇秒 即ちファス(Faz)はエッドセブの谷地にあり、マグレブの首府にして聖地なるが、皮革、毛織物を製す、マロッコ(五〇〇〇〇)北緯三一度三七分二〇秒 西經七度三六分九秒 は一にマラケシュ(Marrakesch)と云ふ、南部の首都にして製革に從事す、メキネス(Mequinez)即ちメクネス(Mekness)も亦內部の一邑にして離宮の地たり、タンジール(Tangier)はジブラルタル海峽の西部に於ける港にして各國使臣の駐在地なるが王路の起點たり、モガドル(Mogador)は當國の主港たりしことあり。

◎エスパニア領

マグレブの北岸に於てエスパニアはセウタ(Ceuta)、メリラ(Melilla)、ペニョン(Pe

tion)、アルセヤス(Allueema)幷にチァフェリナス(Chaferinas)諸島を有す。

◉サハラ

サハラ(Sahara)　アラビア語の意に即ち北アフリカ大沙漠は北アフリカに於ける廣大の地域にして西は大西洋岸に起り、東はニールの河谷に達せるが、北はトリポリ、ベルベリアに接し、南はスーダンの諸國に接せり、當地方は舊大陸の中部に横はれる一大缺雨帶の一部にして其の成因は主として氣候に歸せざるを得ざるが、乾燥を極むる荒蕪の地なり、然れども南方に於ては多少の降雨を見るが故に半乾半濕の土地の存するあればサハラの境界は甚だ不明なりとす、從て地積は測算者に依りて異同ありて少なきは五百五十萬方粁とし多きは六百二十萬方粁とす。

サハラは平坦なる砂原に非ず又附近の海面より低き凹窪の地にもあらず、殊に乾燥したる海底なりとするは非なり、サハラ内部の狀態は普通の陸地に於ける如く丘陵あり山岳あり谿谷あり河床ありてトリポリア、チュニジアの南には凹窪地あるも、平均の海抜は三百五十乃至五百米突に達すべし、チ

ベスチ(Tibesti)、南北のタッシリ、アハッガル(Ahaggar)、アヒル(Ahir)、東西のアドラル(Adrar)、等の山脈、山彙は主要なる隆起帶を爲し、乾燥せる幾多の「ワッヂ」はサハラの表面を縦横に通過するが、涸失したる河流の遺跡たるやを疑はしめ、湖沼の跡も少なからずと云ふ、此の如くにして平坦なる土地、砂礫の臺地並列せる砂丘の地等はサハラの全部に比すれば其の半を占むるに過ぎず。

氣候は變化し易く暑氣强く乾燥を極むるも人類の生息に甚しき妨碍を爲さざるが如し、晝間の高温は樹蔭に於けるも四十五度乃至五十度を示し、夜間の冷氣は零下二度若しくは五度に降れり、降雨は甚だ稀にして一滴の雨水を見ざること數年に亘ることあるも露は多量なり、空氣は動搖し易く風力も亦强し殊に「シムウン」(Simoon)は砂塵を巻き上げ空氣の乾燥を來たし、行旅者をして渇死せしむるに至るは敢て奇しからず、然れどもサハラを通行する處の商隊が「シムウン」の爲に砂塵の下に埋沒せらるゝと爲すは事實ならず、而して蜃氣樓的現象が乾燥不毛の砂地をして清涼なる泉地若しくは濺々たる湧水の地たるが如き觀あらしむること少なからず、要するにサハラ

のサハラたる所以のものは、往古の海底なるが故に非ず、地味磽确にして耕牧に適せざるに非ず、活物の生存に必要缺くべからざる一大要素たる水の缺乏は實にサハラを現出せしめたる主因なり。

天産　サハラ地方を以て天産皆無の地なるべしと思考するは非なり、清水に乏しからざる泉地若しくは冬季に降雨を見る乾燥原には多少の草木の生存するありて野兎、羊、牛、各種の「アンチロペ」等を養ひ獅子の如き猛獣の生育をも見るなり、殊に泉地にはサハラ植物の長たる椰樹の繁茂するありて果物、蜀黍、小麥、牧草を保護し無水海の各處に綠嶼の點在するが如き美觀あらしむと云ふ、鑛物の中殊に注意すべきは食鹽なりとす。

住民　人口は其の數不明にして二百萬とするあり五十萬とするあるが、ツァレグ人、テダ人（一にチッブとも云ふ）、マウレス人、アラビア人等より成りて或は泉地に定住し或は沙漠の地に遊居せり、而してヨーロッパ人の居住來往するは主として大西洋の沿岸地方なり、又住民の生業が盛況を呈し得ざるは勿論なれども亦案外の發達を爲し居り、耕牧に從事するの外、衣服、器具、等を製するを以て簡單なる生活には事を缺かざるが如し、貿易は食鹽、羽毛、等を輸出してヨーロッパ產の雜貨を輸入するが商業は商隊に依りて行はる、隊商路の主なるものは西部にマロッコ＝インサラーあり、東部にベンガジ＝ジァロ泉地＝クフラ泉地あり。

分國　サハラ沙漠の北東部はエジプトに屬し、北部はトリポリア、アルジェリア、マグレブ等に領せられ、西部ブランコ岬以北はエスパニアに屬するが、フランスの勢力範圍内にある處最も宏大なり。

中部

◉スーダン

境域　スーダン（Sudan）即ちネグリチア（Negritia）はアラビア人の所謂ブラドエスーダンにして黑人國の義なり、其の境界は極めて漠然たるものなるがサハラに接する北境は氣候的にしてサハラの終る處はスーダンの始まる處なりと云ふの外なく、北緯六度乃至十八度に亘り東はニール上流の河谷に達

し西と南の一部とは大西洋とギニア灣に瀕するも、其の他はコンゴーの流域、大湖の臺地に隣接せり。

山岳　土地は三百乃至四百米突の平均海拔を有し外觀は概ね同樣なるも起伏の情態には差異の存せざるに非ず、西の方フーダ、ザアロン山彙を始めとしギニアの沿海地には若干の階段の連續せるあるも所謂コング(kong)山脈を形成することなくニジェル河とバヌエとの間にはアダマワ山彙あり、ロダイ及びダルフル(Dar-Four)には海拔一八〇〇米突を超過する火山質の山脈を見、バールエルガザルを組成する河流は臺地を潤して幾多の豁谷を現出せしむ。

河流　東部にはニール河の流るるあり、中部にはチァード(ァァード)湖、ニジェル河あり、西部にはセネガル、ガムビアの二流あり、此等は多少內部との交通に利用し得べし、而してチァード湖はシァリ、其の他の河流を容るるも水淺し。

ニジェル　ニジェル((Niger)河は土人のザオリバ(Dioliba)河にして水源をシエラレオネの北境、海拔八百五十米突の地に發するが、水量の漸く增大するや通舟の便を供するも、北東に流れてサハラに入るや河幅は六百乃至二千米突に達するに拘らず、水層淺くして徒渉すべし而して流向を東又は南東に變じてスーダンに復歸したる後數ヶ處に瀑流を呈しベヌエ河を合はせ南流して草木蓊鬱たる地を潤し三角洲を爲してギニア灣に入る。

當地方はサハラと異なり氣溫高きも降雨多く(セネガルよりオイル(〇・二)河に至る地方は二五四〇粍乃至四〇六四粍の降水量あり)、植物の繁茂盛にして熱帶的動物の棲息に適せり。

スーダンの住民はアラビア人、チブ(Tibu)人、ツアレグ人、フラー人、ネグロ、等より成りてフラー(Fulah)即ちフェラター(Fellatahs)はチァード湖附近幷にニジェルの東に多く、純粹のネグロは該河の西にあり、當地方の主產物たる砂金、象牙、駝鳥羽はサハラを橫ぎりて隊商之を地中海岸に運搬す。

土地廣大にして各地の狀態同じからざれば東方スーダン、中央スーダン、沿海スーダンの三部に分ちて記載せんとす。

◎東方スーダン

東方スーダン即ちイギリス＝エジプト領スーダンは北の方エジプトに接し、東はエリトレア、アビシニア、南はイギリス領東アフリカ、コンゴー獨立國と境するが、西はフランスの勢力圈に隣接す、南北は凡そ一千九百粁ありて地積は約二百四十六萬方粁なりとす。

住民　東方スーダンの住民は二百萬人と算せられ、黒人とアラビア人との雜種多きを占むるが、マホメット敎を奉じアラビア的の言語を用ふ。

ハルツーム(Khartum)は兩ニールの合流の地にあり、イギリス＝エジプト領スーダンの首邑なり、オムヅルマン(Omdurman)(四、八〇〇〇)はハルツームの對岸にあり、「マーヂ」の舊都なり。

地勢　◎中央スーダン

中央スーダンに於ける山河の狀態は未だ充分の探檢を經ざるを以て明確を缺けり、平均の海拔はサハラ地方と殆ど同樣にして六百米突を超えざるべし、而して中央に於ける土地の隆起は一千八百米突の海拔を有するに過ぎざるもチャード湖、ニジェル河の二大水域を區劃せり。

分國　中央スーダンはマホメット敎を奉ずる若干の黒人國より成り、チャード湖、ニジェル河等の如き自然境界の存する處の外は國境明確を缺けるが、土地の大部はフランスとイギリスとの間に分領せらる。

ワダイ(Wadai)はカネム(Kanem)、バギルミ(Bagirmi)等の屬地と共にダルフル

「ヌンバサ」るけ於に力リフア帶熱

エルヰッシア　ミラビリス (Welwitschia mirabilis) [ナマクアランド]

サバンヌ (Savanne) は蓊蔚たる密林の地と純然たる草原の土との中間にありて一種の過渡的植物形成（「ザバンヌ」「バルク」廊廓林）を呈する土地なり、草原疏林の地にして草本的植物は盛に繁茂するも樹木は此處彼處に散在して疏林を形成するに過ぎず、樹種に依りて「カンポス」(Campos)、「リアノス」(Llanos)「パオパフサバンヌ」、「アカシアサバンヌ」、等の別あり。

カラハリ (Kalahari) 沙漠はトランスバールの西方に起りダマランド (Damaland) 及びナマランド (Namaland) の沙漠に連りて大西洋岸に達す、草木に乏しく稀に有針性灌木殊に「アカシア」(Acacia) を觀るが、就中最も著しきはナマランド地方に產する「**ヱルヰツシア ミラビリス**」(Welwitschia mirabilis)〔麻黃科〕なりとす、該樹は百年以上の壽を保つも、木質の幹は六十糎內外にして地中に埋もれ、樹頂に於ける二枚の對生葉は長さ二米突、濶さ一米突以上ありて其の狀恰も皮革の如しと云ふ。

ボルヌ

ソコト

アダマワ

(Darfur)、チァード湖間に位し、フランスの勢力圈に屬するが「スルタン」はアベシル (Abeshr) に住す。

ボルヌ (Bornu) はチァード湖の西及び南に位せる沃地にして、其の大部はイギリスに屬し約十一萬五千方粁の地積と凡そ五百萬のマホメット敎徒とを有し、黑色のカウリ人は中央スーダンに於て最も文化の發達せるものなり、首邑クカ (Kuka) (六、〇〇〇〇) 即ちクカワは當地方の一大市場なり。

ソコト (Sokoto) は中央スーダンに於ける最大國にして住民多し、チァード湖とニジェル河との間にありてアダマワ、ガンド、ボルグ、ヌペの外に數多の小貢國を有するが、現今概ねイギリスの勢力範圍內にあり、首邑ウルノ (Wurno) はニジェルの支流たるソコト河の滸にあり、カノ (Kano) (三、五〇〇〇) はクカとソコトとの間に位する商業地なり。

アダマワ (Adamawa) はドイツ及びイギリスに分屬し、首邑ヨラ (Jola) はベヌエ河畔、海拔二百米突に於ける商業地なり。

フランス領

フランス領即ちセネガンビア＝ニジェル領土。地積九十六萬方粁、住民

チンブクツ

八百二十萬人は上流セネガルの谿谷、ニジェル流域の大部、等を含みて東はチァード湖に達す、行政上は西アフリカに屬せり。

軍政地方は西アフリカ軍司令官の管理の下にあり、チンブクツ(Timbuktu)はニジェル河の北約十四粁、海拔二四五米突の沙原にありて商業及び交通上の要路に當りサハラ横斷鐵道は此の地に至る豫定なり、附庸港カバラ(Kabara)はニジェル河に沿へり。

民政地方はセネガル河の支流たるファレメ(Falémé)に依りて東西の二部に分たる、サンサンヂグ(Sansandig)はニジェル河に沿ひ三萬乃至四萬の住民あり金、食鹽、織物、等を集散し市街殷賑なり。

◎沿海スーダン

沿海スーダンとは大西洋幷にギニア灣に瀕する一帶の海岸を云ふ、而してセネガル河以南、椰子樹岬までを西岸地とし、同岬以東カメルンとフランス領コンゴーとの境界までを南岸地、即ち眞のギニアとす。

西岸地

第一　西岸地にはフランス領、イギリス領、ポルトガル領及びリベリア共和國あり、而してフランス領のセネガル(Senegal)及びギニアは南岸地の象牙岸、ダホメイ、等と共に行政上はフランス領西アフリカ一七三、七四〇〇方粁一二七〇、〇〇〇〇人を形成して總督の管理に屬し、各殖民地に副總督を置きて之を支配せしむるも、セネガンビア及びニジェル領土は總督に直隷せり。

ダカル

セネガル

セネガル殖民地二三、五〇〇方粁一〇、一〇〇〇人はニジェル河の下流に位す、住民はヨロフ人、ムール人、マンヂング、等の黑人にしてマホメット教を奉じ、主要輸出品は落花生なり、鐵道はスーダンに於けるものを合せて七百三十七粁あり、ダカル(Dakar)は商港を控え砲臺を備ふ、フランス領西アフリカ(セネガル、キニア、象牙岸、ダホメイ、の四殖民地マウリタニア、セネガンビア、ニジェル、の三領土、地積二六三萬方粁、人口八八〇萬)總督府の所在地なり。

バサースト

ガムビア

ガムビア(Gambia)殖民地九六〇〇方粁一一、五〇〇〇はガムビア河に跨りてイギリスに屬し、首邑バサースト(Bathurst)はセントメリー島にあり。

ポルトガル領ギニア

ポルトガル領ギニア三、三九〇〇方粁一七、〇〇〇〇人はビサゴス(Bissagos)群島、等を含めり、首邑ボラマ(Bolama)は同名の島にあり。

フランス領ギニア

フランス領ギニア二七、五一〇〇方粁一四五、九〇〇〇人の輸出品は

コナクリー

「ゴム」、牛、椰子、等なり、首邑コナクリー(Konakry)は航通の便を有す。

フリータウン

シエラレオネ　シエラレオネ(Sierra Leone)殖民地六、九七〇〇方粁一一〇、〇〇〇〇はイギリスに屬して首邑フリータウン(Freetown)(三、四四六三)は西アフリカに於ける良港に瀕す、石炭貯蓄所として重きを置かる。

リベリア共和國　リベリア共和國(Republic of Liberia)は九萬五千餘方粁の面積を有して、胡椒岸に於ける海岸線は約五百六十粁に達するが、實際政府の治管する處は幅三十乃至百三十粁の狹長なる沿海地に止まれり。

住民は百五十萬人と概算せられ開化黑人と土着黑人とより成れり而して此の國はアメリカ合衆國に於て解放せられし奴隷の收容を目的として殖民會社の起りしに始まり一八四七年を以て共和國建設せられ憲法はアメリカ合衆國に則れり。

土地肥沃なるも耕種を等閑に附し、良林あるも自然の儘に放置せられ、金鐵、等の採取も未だ發達せず、貿易の如きも遲々として椰子油、椰子、珈琲、「カウチゥク」、象牙、等を輸出す。

モンロビア

首邑モンロビア(Monrovia)は約五千の人口ありて小港を有す。

第二　ギニア地方はカメルン山彙を除くの外、土地概ね平坦にして海岸に於ける沙洲は數多の潟を形成せり、政治上はフランス、イギリス、ドイツ、等に分屬す。

ビンジェービイユ

象牙岸　象牙岸(C te de l' Ivoire)三一、〇七〇〇方粁一九五、五〇〇〇人はフランスに屬し、コング(Kong)王國を含めり、玉蜀黍、「バナナ」「アナナス」「マホガニー」等を產し珈琲も有望なり、ビンジェービイユ(Bingerville)は政廳のある處にして、グランバッサム(Grand Bassam)は良港を有せり。

アックラ

黃金岸　黃金岸(Gold Coast)三〇、八八七〇方粁一四八、六四三三人はイギリスに屬し、ギニア灣に瀕すること五百六十粁なるが、土民はファンチ、アシァンチ、等に分かる、當地方には金を產し椰子、椰子油、「カウチゥク」、木材、等を主要輸出品とす、鐵路(二七〇粁)、電信線(一六六一)ありて道路も次第に發達しつつあり、アックラ(Akera)(一、四八四二)は當地の首邑にして主港なり、ケープコーストカッスル(Cape Coast Castle)(二、八九四八)は舊と首邑たりし處にしてクーマシーより內部に通ずる

ローメ

ラゴス

オールドカラバル

大路に當れり。

トゴランド トゴランド(Togoland)八、七二〇〇方粁 一五〇、〇〇〇〇は奴隷岸に於けるドイツの殖民地なるがローメ(Lome)は首邑にして又主港なり。

ダホメイ ダホメイ(Dahomey)一六、九五〇〇方粁 一〇〇、〇〇〇〇人は奴隷岸の一部に當りてフランスに屬し、土人は純粹の黒人にしてエヱ族に屬し農業に勤勉なり、椰子、椰子油、等を主要輸出品とす、ポルトノボ(Porto Novo)(五、〇〇〇〇)は政廳の所在地にして商業の中心なり、コトヌ(Kotonu)は主商港にして未來の首府と囑目せらる。

ラゴス ラゴス(Lagos)六、九〇〇〇方粁 一三〇、〇〇〇〇はイギリスに屬し首都ラゴス(四、一八四七)は港を有し商業益〻盛なり。

南ニジェリア 南ニジェリア(Nigeria)一二、八七二八方粁 二四〇、〇〇〇〇人はイギリスに屬す、住民はイジョ(Ijoe)、イボ(Ibos)、ジァクリ(Jakri)、ベニ(Beni)等より成り、多少人肉を啖ふの風ありと云ふ、椰子油、椰子、「カウチゥク」、象牙、等を輸出す、オールドカラバル(Old Calabar)は當殖民地の首邑にして稅關、植物園等を有す。

ズンゲル

ブエア

アビシニア

北ニジェリア 北ニジェリア八一、六〇〇〇方粁 一〇〇、〇〇〇〇人も亦イギリスに屬し、南ニジェリアより北の方、中央スーダンに達し住民は多くマホメット教を信じて椰子油、椰子、落花生、象牙、皮革、等を產出す、隊商はトリポリ、マグレブ、サハラ、等と往來すること少なからず、ズンゲル(Zungeru)は行政及び軍事の首部を有してカヅナを溯ること約百三十粁にあり。

カメルン カメルン(Kamerun)四九、五〇〇〇方粁 三五〇、〇〇〇〇人はドイツに屬し、住民には沿海地にバヌツー派、內部にスーダン派の黒人あり、「カウチゥク」、椰子、象牙、椰子油、木材、等を輸出す、ビクトリア＝リソカ鐵道も多少開通し電信、電話等の便をも有す、首邑をブエア(Buëa)と云ふ。

●アビシニア ソマーリ

アビシニア(Abyssinia)ハベシ(Habesch)の訛傳より來る と稱する地はニゥビアの南、スーダンの東にありて、北東は紅海に瀕し南東はソマーリ地方に接し、南はイギリス領東アフリカに隣せるが面積は明確ならず。

沿海地には平低なる處あれども内部は平均海抜二千米突以上の臺地を爲して四方に緩斜するが火山質の山岳は數脈を爲して峻嶮を極む、就中アッバヤ レッド(Abba-Yared)(四四六〇)、ラスダシャン(Ras-Dachan)(四六二〇)、アブナヨセフ(Abuna Yosef)(四一七三)、ラヤタ(四五三〇)、ラスグナ(Ras-Guna)(四二八〇)、アジオスファトラ(Agios'atra)(四一五〇)を最も著しとす。

三千方粁の面積を有するタナ湖は海抜一七五五米突の高處にありて幾多の奔流激流の水を容れバールエルアズラク即ち青ニールと成りて多量の水をニールの本流に注ぎラスダシャンの南、タナ湖の北東に當る山彙に水源を發するタカゼ河はタナ湖の西に於ける山脈より出づるアトバラ河と成りてニウビアニールに入る。

夏季の降雨及び山上の積雪より生ずる多量の水は臺地の表面を流過して峽江、卓地「アンバ」と云ひ側面の卓狀の土地を現出せしめ交通上極めて不便なり而して沿海の山脈と臺地の東緣山脈との間に於ては北のアサリ(Asali)海面下六〇〇米突ワシ(Hawash)河を受くるアッサル(Assal)海面下一七四米突との兩窪地あり、

當地方は赤道を距ること遠からざるも土地高隆なるを以て氣温は概ね冷涼なり、然れども海抜を同じうせざる階段を形成するが故に熱地、温地、冷地の三帶を現出せり、海抜一八〇〇米突以下の熱地即ちコルラ(Kolla)にありては氣温高く濕潤に過ぎ人生に適せざるも、森林蓊鬱として巨大の獸類は盛に繁殖せり、海抜一八〇〇―二五〇〇米突の温地即ちボイナ(Voina)は氣候温和にして柑類、葡萄、其の他の耕種に適し、海抜二五〇〇―三五〇〇米突の冷地即ちデガ(Dega)は穀類を產し馬、牛、羊、等の畜類を養ふべく、デガを過ぐれば積雪の地と成りて生物を見ること稀なるが、紅海の沿岸に於ける最低の地サムハラ(Samhara)は炎熱灼くが如し。

エシオピア國　エシオピア(Ethiopia)國は一にアビシニアと稱せられ三十八萬九千乃至五十四萬方粁の地積を有するが、住民は三百五十萬乃至八百萬と算せられ、多數はコプト派のキリスト敎を奉ずるもマホメット敎徒、ユダヤ敎徒も少なからず。

政治上は封建的專制君主國にして主權者はネグスネゲスチ(Negus Negesti)

王の王たる意と稱し、ゴヂァム(Godjam)、シォア(Schoa)、ヂムマ(Dschimma)、カッファ(Kaffa)、ワラモ(Walamo)の諸王國を統轄す、其の兵力は凡そ十五萬人なりとす。

住民の主業は牧畜にして牛、羊、山羊を飼養するが綿、甘蔗、「ナツメヤシ」、葡萄等の產あり、一九〇二年の輸出は珈琲皮革、象牙、其の他の約百三十一萬「ドル」にして輸入は凡そ百六萬「ドル」なりしが其の七割は綿布なりき、而して鐵道、郵便はアデン灣に沿へるヂブチと通じ電信の線條は八百粁と註せらる。

アッヂスアベバ

アヂスアラム(Addis Alam)は君主の居住地にして首府アヂスアベバ(Addis Abbeba)は五萬の定住人口と約三萬の浮住民とを有すと稱せらる、アヅア(Adua)はイタリア軍が敗戰(一八九六)せし地とす。

エリトレア

イタリア領

エリトレア(Eritrea)(紅海の古名)一三、〇〇〇方粁 三三、二一〇〇人は北緯十八度二分のカサル岬より同十二度半のヅメイラー岬に達し、紅海に面すること約一千八十粁、牧畜は盛に行はれて駱駝、牛、羊、山羊、等を與へ、眞珠の採取はマサウアー及びターラク群島に於て行はる、而してマサウアーに於ける一九〇四年の輸出は皮類、珠母、蜜蠟、「ゴム」「バタ」等の二百八十一萬「リラ」なりしが鐵道(七六粁)、電信線(七〇〇)、等も存す、政廳はアスマラ(Asmara)にあるが、小島にあるマサウアー(Massauah)の名は却て著はる。

ソマーリ

ソマーリ(Somali)地方はアフリカの絕東部を占む、グアダルフイ岬を頂點としアデン灣と印度洋とに挾まるる尖形の地にしてバソナロク地溝帶の東にありて約六十萬方粁の面積を有せるが北部は東のノガル(Nogal)礫地西のハウド(Haud)無石地とに分かれ、降雨は多からずして河流の海に達するもの少なくガナナ即ちヂッバ(Djuba)の如きも僅に少量の水を注ぐに過ぎず、而して住民には東部にありて牧畜に從事するソマーリ幷に西部に居りて農事を務むるガルラを觀るが何れもマホメット敎を奉じて外人と交際するを好まず、土地はフランス、イギリス、イタリアの權域に屬するもの多し。

ヂブチ

フランス領

フランス領ソマーリ二、一〇〇〇方粁 五、〇〇〇〇人は殖民地と屬地とより成り、西端にありてタヂッラー灣に瀕す、住人は主としてソマーリ人なり、象牙、蜜蠟、畜類を輸出しヂブチ―ヂラ―ダワ―ハラル(Harar)鐵道は三百六粁の長さを有す、ヂブチ(Dibouti)(一、五〇〇〇)は當地の首邑にしてオボック(Obok)及び

タヂゥラー(Tadjiurah)は小港を有す。

イギリス領　イギリス領ソマーリ一五、〇〇〇方粁はアデン灣に瀕す、住民は一五、〇〇〇人マホメット教を奉じて、多くは遊牧に從事し總領事に管理せらる、輸出品には皮革、駝鳥羽、ゴム、牛、羊等あり、ベルベラ(Berbera)は商業季に於て約三萬の住民を有し、ゼイラ(Zeila)(一、五〇〇)、ブルハル(Bulhar)(一、二〇〇)と共に商業に從事し、就れも錨地を有す。

イタリア領　イタリア領ソマーリ三八、〇〇〇方粁はベナヂル(Benadir)海岸及び內部より成れり。

◉東アフリカ

東アフリカ地方と稱するも其の實は東アフリカの一部を占むるに過ぎず、北東はジュバ河を挾みてソマーリ、アビシニアに接し、東は印度洋に瀕し、南はロブマ河、ニヤッサ湖を隔てモサンビック、ザンベジアと接し、西はタンガニイカ湖、アルベルトエドワード湖等に依りてコンゴー地方に接せり、北部

サイ　犀 (Rhinoceros africanus)

「マキ」(Maki) (Lemur)［マダガスカル］

サイ「犀」(Rhinoceros)は體軀鈍肥にして皮膚緊厚なり、印度種及びジャバ種は鼻頭に一角を有し、アフリカ産の二角種及び「カムス」種并にスマトラ種は二角を有す、何れも強靱なる皮革を與ふるの外、肉脂を食料に供す。

マキ(Maki)「狐猿」(Lemur)はマダカスカル及び其の附近の島嶼并にセイラン島に棲む、犬又は狐に似たる所ありて尖口、短耳、繁毛、長尾を有するが前肢は後肢より長きこと僅少なり、性温和にして能く人に馴る、種類甚だ多し就中最も世人に知られたるは「モココ」(Macaco)(L. macaco)「ネコレミカル」(L. catta)等なり。

はイギリス、南部はドイツの領する所なり。

ビクトリア湖

ビクトリア湖は土名をニャンザウケレヱ(Nyanza Ukerewe)即ちケレヱ(Kerewe)湖と云ふ、一八五八年スピーク之を發見し一八七六＝七七年スタンレー之を探檢せしがスーペリオル湖に次げる大淡水湖にして海を抜くこと一千二百米突なり、面積に就きては少なきは六萬九千方粁弱、多きは八萬三千餘方粁とす、湖岸は無數の島嶼に蔽はれて測定し難きも約一千五百粁と爲すは眞に近きが如し、湖水はソマーセット河(白ニールの源流)と成りて流出するが、本湖に入る河流中の最要なるものカゲラ河を以てニールの東の源流と認むべき理由あり。

タンガニイカ湖

タンガニイカ湖(混水の義)はスピーク及びバートンの發見に係れり、三萬方粁の面積を有し南北に長く六百五十粁に達するが平均の幅は約五十粁に過ぎずして湖岸は概ね絶壁を爲し接觸に便ならず、水面は海抜八百二十米突にありて湖底は六百四十七米突にあれば當洲最深の湖と稱すべし、湖水が少し鹹味を帶ぶるが故にや附近の植物は沿海的の特徴を呈せり。

◎イギリス領

イギリス領東アフリカは東アフリカ、ウガンダ、ザンジバルの三保護地に分かれて總地積は六十九萬方粁に餘れり。

東アフリカ　東アフリカ保護地（四七、七五〇、〇〇〇方粁　四〇、〇〇〇、〇〇〇人）はウムバよりジゥバ河に至る間を占めて大陸に於けるザンジバルスルタン領を含め、沿海地には多少のマホメット敎徒を見るも概して異敎を奉ず、低地の農產物には米、玉蜀黍等あり高地には馬鈴薯、珈琲、小麥、大麥あり、牧地に利用すべき處は甚だ廣し、此の他に木材あり、鐵の如きは前途有望なり而して鐵道はモンバサよりビクトリア（ウガンダ）に達し九百四十粁の長さを有す、モンバザ（Mombasa）（二、五〇〇〇）は當保護地の首邑なり、同名の島にありて良港を控え水陸の便を有せり。

ウガンダ　ウンガンダ（Uganda）保護地（二三、一五〇〇方粁　一六四、九八五六人）はウガンダ王國、アウコレ（Aukole）王國、トロ（Toro）王國、其の他より成れるが、土地はルドルフ地方の外甚だ肥沃にして、象牙、皮革、等の產あり、ニール河航行の汽船は當地の北

部に達し鐵道はビクトリア湖岸より印度洋岸に達す、エンテッペ（Entebbe）はイギリス委員の駐在地たり。

ザンジバル　ザンジバル（Zanzibar）保護地（二、六四〇、〇〇〇方粁　二〇、〇〇〇人）はザンジバル島（一五九〇方粁）、ペムバ島（九六〇）、ラム島（九〇）大陸部等を含めり、主として黑人より成る住民中にはイギリス領印度の人一萬ありて商權を握り、マホメット敎徒最も勢力あり「スルタン」はイギリスの駐在官に依りて監督せらる、貿易に就きて一九〇四年の輸入は約千二百四十萬「ポンド」にして輸出は丁香、「コプラー」、象牙等の百廿一萬餘「ポンド」なり、而してアデン、マルセイユに對しては定期航路ありザンジバル（一〇、〇〇〇）は東アフリカ第一の市街にして交通上の要區たり。

◎ドイツ領

ドイツ領東アフリカ（九四、六五〇、〇〇〇方粁　六七〇、〇〇〇人）はウムバ河口より南緯十度四十分に至り、海岸線は約一千粁に及べり、沿海地に於ける人民にはアジア的分子多く、輸出品には「カウチック」、「コプラー」、珈琲、種子、象牙、皮革、等あり、主要なる

港はダルエルサラアム(Dar-er-Salaam)(一、二〇〇〇)、キルワ(Kilwa)(一、〇〇〇)、バガモヨ(Bagamoyo)(一、三〇〇)等なるが巨舶の接觸を許すもの稀なり。

◉コンゴー

境域

コンゴー(Congo)地方と稱するはコンゴーの流域幷にオゴエ、クアンザ等の沿岸諸流の灌域に屬する廣大なる土地にして北はスーダンと境を交え東は東アフリカと境し南東はザンベジアに隣し南は南西アフリカに接し西は大西洋に瀕す、政治上はベルジック領、エスパニア領、フランス領の三部に分かたる。

土地

◎ベルジック領

ベルジック領コンゴー(Congo Belge)はコンゴー流域の四分の三を占め、地積は二百三十八萬方粁あるが、僅に三十七粁の海岸を有するのみ。

沿海の地は平低なるが廣漠たる臺地の緣邊を形成する海抜二五〇米突の階段の麓にあり、內部は未だ詳ならざれども顯著なる起伏を呈せざるが如し、河流の著しきは一のコンゴーあるのみなるも航河の延長は一萬五千粁に達せり、氣候は暑熱強く濕潤の地多く殊に沿岸の地は不健康なるが、內部の臺地は概ね吾人の生存に適するが如し而して西部は「サバンヌ」的にて河流の沿岸に多少の樹木を觀るのみなるが東部には森林鬱蔚たり。

住民

人口は一千六百萬人と概算し或は三千萬人と計上するあるも、多數はバヌツー派の黑人に屬し若干姓に分かるるが上流の地にはアラビア人、ザンジバル人あり、白人は約二千九百人にして其の一千七百餘人はベルジック人なりとす、宗教は拜物敎大に行はるるも新舊キリスト敎の傳播にも見るべきものあり。

沿革

コンゴー獨立國は一八八三年ベルジック王レオポルド二世に依りて、設立せられたるコンゴー萬國協會に基づきて起りし中立國にして一八八五年のベルリン會議はレオポルドに其の主權を與へしが、一八八九年レオポルドは主權の全部をベルジックに遺與することとし、一八九〇年にはコンゴー邦土の賣讓を禁じ同年ベルジック、コンゴー兩國間に成立せし條約は十年の

政治

生業

ボマー

後、前者に後者を併合せしむるの權を授けたり、而して一九〇一年の條約は此の關係の繼續を確認せしが、一九〇八年を以て合併は遂行せられたり。

殖民地の行政に關しては拓殖務大臣の統轄の下に外務及び法務、財務、內務、工商の四局長を置き總督府をボマーに設けて總督、副總督を置けり、地方は十四區に分たれ、各區に委員を置く、陸兵の數は約一萬四千人ありて、海軍には十一隻の汽船を下流コンゴーに浮べ四十隻を上流に備ふ。

主產物は「カウチゥク」、白「コパル」、象牙、椰子、椰子油、等にして珈琲は自然に生じ、「ココア」、煙草、の栽培も望みあり、貿易は漸次進步しつつありて一九〇八年には輸入三千二百七十一萬「フランク」、輸出五千六百八十六萬「フランク」ありて、主としてベルジック輸入二五五八輸出四三三七と取引し、主要輸出品は「カウチゥク」(三〇七八)、象牙(五九三)、白「コパル」(一七九)、椰子(一七四)、椰子油(一二二)、等なりとす、又同年バナナ及びボマーの入船は六十五萬餘噸なるが鐵路に七百三十八粁あり。

ボーマ(Boma)は總督府のある處にしてバナナを以て附庸港としコンゴー河に沿ひ鐵道の便を有す、マタヂは河口より百六十粁に位す、鐵路(三九八粁)は此の地よりも起りてレオポルドビイユ(Leopoldville)に至る。

◎エスパニア領

エスパニア領。地積二、五七〇〇方粁人口一三、九一〇〇人はギニア灣に瀕するが、ムニ河、サンフアン岬、等の地方を含めり。

◎フランス領

フランス領。赤道アフリカ一七六、二〇〇〇方粁三七〇、〇〇〇〇人はガボン、中コンゴー、ウバンギ＝シァリ、チァードより成り、ウバンギ河コンゴー河を以てベルジック領と境し、西は海に瀕せり、ブラザビイユ(Brazzaville)に總督府を置きリーブルビイユ及びバンギに副總督を置けり「カウチゥク」、象牙、木材、椰子油、椰子、等を輸出す。

南部

◉西岸地方

西岸地方はコンゴー河以南、オレンジ河以北にありて大西洋に瀕する地を云ふ、政治上はポルトガル、ドイツに屬するもワルフィシゥの一小區はイギ

リスに屬せり。

◎ポルトガル領

ポルトガル領。即ちアンゴラ(Angola)一二七、〇〇二方粁はコンゴーとクネネとの間に於ける地とコンゴー以北の飛地とより成る、海岸は一千四百粁の長さに達するも屈曲に乏し、沿岸の地は平低にして丘陵の地は八百乃至一千米突の海抜を有する内部の臺地の麓に連接せり、氣候は沿海の地に炎暑を感じ内部には温和の土、寒冷の地あり、住民はバヌツー派の黒人、ポルトガル人、雜種人等より成り、珈琲、ガウチュック」、蜜蠟、砂糖「ココヤシ」、象牙、牛、魚類等を出す、鐵道(三九三粁)も多少備はれり、ロアンダ(S. Paulo de Loanda)はアンゴラの首邑にして一萬五六千の人口を有す、此の他にモサメデス(Mosamedes)等あり。

◎ドイツ領

南西アフリカ保護地二〇、〇〇〇方粁は一千六百粁の海岸線を有するも屈曲少なく良港灣の存するあるなし、沿岸の地は平低にして砂礫多く荒蕪不毛の地なり、内部は漸次に隆起するも最高處を過ぐればカラハリ沙漠に向ひて緩斜せり、氣候は寒暑の激變ありて人生に適せず、降雨は西方に多きも東方に稀なり、住人はホッテントット、ブシマン、バヌツー、ダマラ、等より成れり、主なる生業は牧畜にして、羊、山羊、等を飼養し、鐵道(三八二粁)電信、電話の便は存す、ウインドフーク(Windhuk)は政廳のある處なるが、海岸のスワコプムン(Swakopmund)港と鐵道を通せり。

◎イギリス領

ワルフィッシュ(Walfish)灣附近の地一千百十四方粁はイギリス領にして行政上はケープ殖民地に屬せり、住民は一千十五人に過ぎず。

◉中央地方

中央地方はベチュアナランド、ローデシア、中央アフリカの三部に分かるるが皆イギリス勢力の下にあり。

◎ベチュアナランド

ベチュアナランド(Bechuanaland)保護地一六四、八四〇方粁は南にモロポ河、北

マフェキング

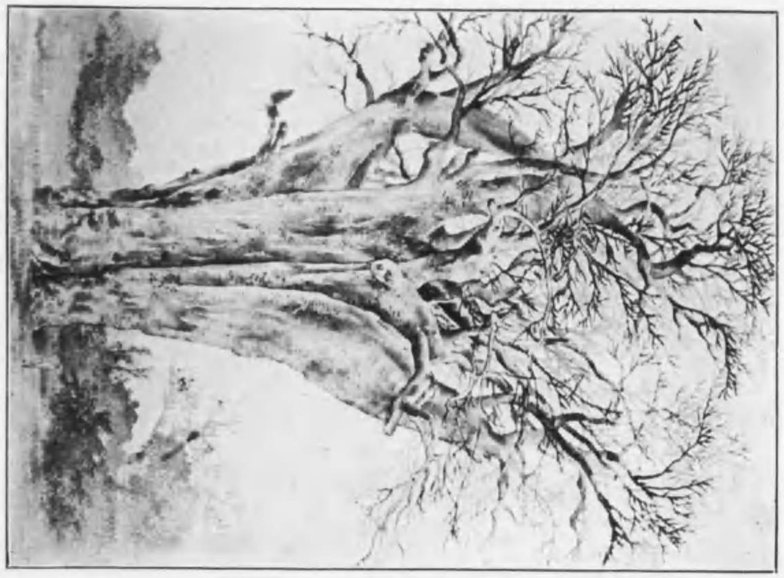
にザンベジ河を以て境とす、行政はケープ殖民地に屬し、マフェキング(Mafeking)は當地の首邑たり。

◎ローデシア

ローデシア(Rhodesia)一〇五、八〇〇〇方粁 一二九、〇〇〇〇人は偉傑セシルローヅ(Cecil Rhodes)に基づける名なり、當地は南アフリカ特許會社、管理に屬し行政上は北東、北西、南の三部に分たる、鑛物は金、銀、銅、「アンチモニー」、鉛、石炭、等あるが殊に金は約一萬三千六百方粁の地に包含せられ、石炭の產出は、ワンキー地方に多し、交通に就きてローデシアはアフリカ縱貫鐵道幷に電信の通ずるあるが、此の外に印度洋岸のベイラに至るもの、等あり、サリスベリー(Salisbury)は南ローデシアの首邑なり、フォートジェームソン(Fort Jameson)は北東ローデシアの管理者の駐在する處にしてニヤッサ湖の西に當れり、カロモ(Kalomo)は北西ローデシア即ちバロツェランド(Barotseland)政廳のある處なり。

◎中央アフリカ

イギリス領中央アフリカ一〇、六一三四方粁 七九三二〇七人はニヤッサ湖の南岸及び西岸に



バオバブ(Baobab)(Adansonia madagascariensis)

アフギバセオ(Urania speciosa)

サンベジ河

沿ふ、住民の多くはマホメット教を奉じ、綿、煙草、等を輸出し、ニヤサ湖、シレ河の上流等には數隻の小汽船を浮ぶ、ゾムバ(Zomba)はシレ河畔にありて政廳の所在地たり。

◉東岸地方

ポルトガル領。東アフリカ(二七六、一一〇〇〇〇方粁 三〇、〇〇〇人)即ちモサンビック(Mosambique)はアフリカ洲東岸地の一部にして北はデルガド岬、ロブマ河に起り、南はデラゴア灣に達し東は海に面し西はイギリス領と隣接す。

ザンベジ河は上流をリバと稱す、ヤロロ湖附近の沼地を緩流しカボンボを容れたる後コンザエの瀑布、ビクトリアの瀑布、等に依りて階段を下りカフエ、ロアンガを受けポルトガル領東アフリカに入りては、テテの附近に於て二千五百米突の幅を有するも再び峽谷に入りて四十米突に縮少す、然れどもセナの附近に於てニヤッサ湖より出づるシレ河を合はせたる後は河幅は愈、増大して十三粁に達し、海に入るに先ち數派に分かれ三角洲を抱きてモサンビック海峽に朝す、源委通じて二千六百六十粁に亘るが流域は百四十三萬方粁を有せり。

此の地はモサンビック、ザンベジア、ルレンソマルケス(Lourenço Marques)の三

バオバブ(Baobab) (Adansonia)〔木綿科〕に三種あり、セネガル種(A. digitata)はアフリカの両岸に於ける熱地殊にセネガル地方に多し、高さは稀には二十米突に達するものあるが樹幹の太さは三十米突を超ゆ、果實は食料に供すべく木材、葉、花、等も利用し得べし、其の他にマダガスカル種(A. madagascariensis)オーストラリア種(A. gregorii)あり。

アフリバセオ「扇芭蕉」(Urania speciosa)〔芭蕉科〕は一に「ラビナラ」(Ravinala)とも云ひ俗に旅人樹と稱せらる、マダガスカル島の特產にして用途少なからず、葉を敷物に製し屋根を葺くに用ふ、其の他器具を作くるに適す。

區に分かれ尙ほガザ(Gaza)、イムハンバネ(Imhanbane)、テテ(Tete)を含めり、又マニカ(Manica)、ソファラ(Sofala)地方はモサンビック特許會社の支配の下にありてニヤッサ特許會社はロブマ河、ニヤッサ湖、ルリオ(Lurio)の間に於ける地を管理す。

主要輸出品は「カウナック」、銅、蜜蠟、象牙、等とす、鐵道にはデラゴア線(九二粁)ありてプレトリアに伸び、ベイラ線(三五七)はブラワヨに至る、電信線には約三千粁あり。

モサンビックは總督府の所在地にして七千の住民あり、ベイラ(Beira)も亦港を有し住民は七千二百餘あり、ルレンソマルケスはデラゴア灣にありて水陸交通の便を與へ當地の諸港中貿易最も盛なり。

ルレンソマルケス

◉南端地方

南端地方にはトランスバール、オレンジリバー、バストランド、ナタル、ケープ等の諸殖民地あるが皆イギリスに屬す、當地方の主要なる山脈をドラケンベルグとし、河流をリンポポ及オレンジとす。

オレンジ河

オレンジ(Orange)河はドラケンベルグ山脈の水源山に起りバストランドを經、カレドン河を容れオレンジリバー殖民地とケープ殖民地との境を爲し、トランスバールより來れるバール河を受くるも乾燥の地に入りて水量を損失するが故に航行に堪ゆるに至らざるのみならず、微々たる小流の姿を以てケープ殖民地の北境を爲して大西洋に注ぐ、バールを母流とすれば河長は二四七〇粁ノ成り、流域の面積は百三十萬方粁に達するも、降雨の盛なるに非ざれば巨流の稱を實にする能はずして乾燥期には水流は河床の五十分一たるに過ぎず。

土地

◉トランスバール

トランスバール(Transvaal)殖民地の地積は二十八萬八千方粁あり、ドラケンベルグ山脈は南北に貫きて當殖民地を東西の二部と爲し、東の斜面は急峻なるも西の臺地は西に向ひて緩斜せり、河流は概してリンポポ河に屬せるが、南境を爲せるバール河はオレンジの流域にあり、氣候は概して良好なり、高處にありては晝暑く夜寒く激變するの患あるも健康に害なく、低處には温和の地あるも亦炎暑を覺ゆる處なきにしもあらず。

沿革

一九〇四年の人口は約百二十七萬人ありて白人は凡三十萬あるが、土人

は九十五萬足らずありき信、敎上は一八九五年に於てキリスト敎徒十二萬人、ユダヤ敎徒に一萬人ありたり、敎育にも稍、見るべきものあるが殊に近年農學校は著しく發達せり。

當地に殖民せしは一八三六―三七年にケープ殖民地より來りしブール人なりしが、一八五二年トランスバールの獨立はイギリスに依りて認められ、一八七七年イギリス領に變せり然るに一八八〇年獨立を圖りし結果遂に翌年の條約はイギリス女帝の主權の下に自治を許し、一八八四年の條約に依りて外交のみはイギリスの手に殘りしも國名は南アフリカ共和國と改まりたり、然るに黃金の發見、收入の增加、參政權に對するイギリス人の要求、等各種の原因よりして衝突を來たし、大統領クリュゲルは一八八九年オレンジ自由國と共にイギリスと戰を交ゆるに至れり、而して共和國は後に至りて衆寡適せず一九〇〇年トランスバール殖民地としてイギリスに合はせられしが兩國の兵は一九〇二年に至りて始めて熄み目下知事の管理の下にありて地方は十六區に分たる。

土地は農牧に適するが、農產は未だ當地の需用を充すに至らず、牧業は牛、馬、羊、等を飼養す、採鑛業に就きて黃金は各處より產するが殊にキトワーテルスランド(Witwatersland)及びバルベルトン(Barberton)を主とす、而して一八九九―一九〇四年の產額は一千百三十七萬「オンス」を下らず、一九〇五年の產額は四百八十九萬七千「オンス」を超え一九〇五年には約十六萬四千餘人の工夫ありたり、石炭はバルベルトン、ミッデルブルグ(Middelburg)、ピーテルスブルグ(Pietersburg)、等の地方に產し一九〇四年には八百八十五萬圓に達せり、又プレトリア地方には約六十三萬圓の金剛石を產しプレミール(Premier)坑の如きは最も有名なり、此の外に鐵、錫、銅、等有望なるものあり、一九〇五年の貿易は輸入に約一千五百八十二萬「ポンド」、輸出に凡そ二千二百八十萬「ポンド」ありしが輸出の殆ど全部は金(二〇六三)にして金剛石(一一〇)之に次げり鐵道は各地を連絡して既設に一千四百七十三哩、未設に二百八十八哩あり、電信は三千九百三十粁の線條を有せり。

プレトリア(Pretoria)(三、六七〇〇)は海拔一三六〇米突の地に位す、トランスバールの首都にして世界地理提要　あふりか洲　南端地方　六百五十三

バール殖民地の首都にしてヨハネスブルグ(Johannesburg)(一五、八五八〇)はキトワーテルスランド産金地の中心にして當殖民地の最大都會なり、住民の過半は白人なりとす。

ムババアン(Mbabaan)はトランスバールの南東に隣接せる屬地スワジランド(Swasiland)(一、六九二方粁、八、五四八人)の首邑なり。

◎オレンジリバー

オレンジリバー(Orange River)殖民地は舊オレンジ自由國(四十六年獨立)と云ひし處なり、トランスバールの南にありてバール、オレンジ、カレドンの三河の間に挾まるる地なり、面積は十二萬五千二百方粁ありて平均海拔は一千三百乃至一千四百米突の臺地を爲し、南と東とに山脈を控え西に向ひて傾斜せり、水脈に乏しからざるも巨大なるものは邊境にあり、氣候は温和にして健康に適するが乾燥に失する患あり。

人口は一九〇四年の調査に依れば白人は十四萬三千餘人、有色人は二十四萬一千餘人ありて總計は凡そ三十八萬なり、而してキリスト敎を奉ずるもの二萬一千餘人ありて白人の在住するもの二萬一千餘人あり、ヨハネスブルグにして當殖民地の最大都會なり、住民の過半は白人なりとす。

◎ナタル

ナタル(Natal)殖民地は九萬三千六百七十六方粁の地積を有し海に面する世界地理提要　あふりか洲　南端地方

のは十二萬人を超ゆ。

土地は牧畜に適して羊(八、一)を第一として約百十三萬頭の家畜を養ひ又鑛業は金剛石、石炭等を興ふ、一九〇四年の貿易に關しては輸入に三百八十四萬餘「ポンド」ありて輸出は凡そ百四十一萬「ポンド」に達し、其の百十七萬「ポンド」は主として生毛、金剛石より成りてケープ殖民地に向けられたり、交通上は凡そ八百八十五粁の鐵道、二千三百八十粁の電信線等を有せり。

首邑ブルームフォンタイン(Bloemfontein)(三、八九〇)は海拔一三七七米突の地にありて住民の過半は土人なり。

◎バストランド

バストランド(Basutoland)(二、六六五八方粁、三四、八四八人)はドラケンベルグ山脈に依りて臺地を爲し而して四に傾くが水利多く氣候頗る好にして農業、牧業に適せり、首邑マセル(Maseru)はカレドン河に近し。

◎ナタル

ナタル(Natal)殖民地は九萬三千六百七十六方粁の地積を有し海に面する

生業

ブルームフォンタイン

土地

こと五百八十粁なり、海岸は平低にして樹林に富むのみならず、ダルバン灣の如き良港を有す、土地は二三の階段を爲し漸次に隆起してドラケンベルグ山脈に達するが、河流多くして灌漑に缺乏を告ぐることなく地味肥沃にして耕牧に適せり、氣候は海抜に依りて多少の差異あるも概ね人生に適せり、住民は凡そ百四萬人ありてカッフル人は八十八萬人を占む。

生業

生業は農牧を主とし石炭も亦豐富なるが、一九〇四年の海路貿易は輸入に約一千六十七萬ポンドありて輸出に貴金屬、石炭、生毛、砂糖等の二百十七萬ポンド餘ありき、鐵道は一千二百四十九粁ありてダルバンに起れる主線はヨハネスブルグ(七七七粁)、プレトリア(八二三)に達し、入船は約二百十萬噸にして出船は二百十五萬噸を超過せり、又郵便(三五九局)、電信線(二八八五粁)、電話線(九四三)等もありて交通の便稍〻備はれり。

ピーターマリツブルグ

ピーターマリツブルグ(Pietermaritzburg)(三、四六七六)は當殖民地の首府にして海抜六五二米突にあり、ダーバン(Durban)(三、九二五〇)即ちナタル港は盛に貿易に從事す。

境域

◎ケープ

ケープ殖民地(Cape Colony)は喜望岬に基づける名なり、北及び北東はベチュアナランド保護地、オレンジリバー殖民地、バストランド、ナタルと境するが西は大西洋、南は印度洋に面す、地積は七十二萬方粁に近きが長さは一千二百九十粁、幅は九百七十粁に達すべし。

海岸

海岸は二千一百粁以上に達するも屈曲に乏しく、灣にアルゴア、モッセル、シモン、フォース(False)、テーブル、サルダナ、セントヘレナ、等を見、地角に暗礁岬、セントフランシス岬、アグリアス岬、喜望岬(Cape of Good Hope)、セントマルチン岬、等を見るのみ。

地勢

沿海の地は階段を爲して內部に趨くに從ひて高さを增せり、沿岸一帶の地は灌漑の利ありて地味も亦極めて豐なるも其の背後にランゲベルグ(Lange Berge)の名の下に南岸に並行せる山脈ありて、次にツワルテベルグ(Zwarte Berge)山脈ありて廣濶なる乾草原大カルー(Karroo)臺地の外邊を爲せり、而して第三の山壁はドラケンベルグ、ストームベルグ(Storm Berge)、スネウベルグ(Sneeuw

Berge)、ロッゲフェルド(Roggeveerd)等の諸脈より成りてオレンジ河と印度洋諸流との分水界を爲せるが東より西に趣くに從ひて漸く低下し西部の最高峯はスネウベルグ山脈のコンパス(二五九二)なりとす、而して此等の山脈の北にある臺地はアフリカ内部の廣大なる臺地の一部にしてオレンジ河に向ひて緩慢に傾斜せり。

河流

當地の河流は航行上の便を供するもの多からざるが印度洋斜面にケイ(Kei)、クイスカンマ(Keiskamma)、ガンツース(Gantoos)、ガウリッツ(Gauritz)、ブリード(Breede)あり、大西洋に入るものにオリファンツ(Olifants)、オレンジあり。

氣候

氣候温和にして健康に適するが地方に依りて差異あり、沿海の地は温暖にして濕氣少なからず變化乏しきも内部は冬季に寒冷、乾燥の度を加へ夏季に炎熱を覺え山岳地方に進めば晝夜に於ける温度の差著し、此の如くにして時々旱魃を見ることあるは實に大なる障害なり。

住民

人口は一九〇四年には凡そ二百四十萬六千と成れり、而して白人は五十八萬足らずにして其の他の有色人はホッテントット、カッフル、ベチュアナ、フィンゴー(Fingos)、マライ、雜種等より成れるものの如し、而して來住者は一九〇五年に三萬四千足らずありて往住者は約三萬四千五百人なり、宗教に就きては一八九一年の調査に從へば新教徒に七十三萬餘舊教徒に一萬七千餘ありてマホメット教徒は約一萬五千、ユダヤ教徒は凡そ三千と計上せられしが此の他に七十五萬餘の異教徒あり、教育は未だ普及せざるが大學の設あり。

行政權は知事及び行政會議(民政、拓殖、財務、法務、農務、工務の各長官)に委ねらるるが立法權は上院(公撰議員二十六人)及び下院(公撰議員百七人)の握る所なり、而して地方の行政に關しては殖民地本部を七十七部に分ち屬地を三十區に分ちて各部に民政委員を置く又殖民地の代表者をロンドンに派遣せり。

地方	地積	人口	方粁ニ付
殖民地本部	五三、五七四、六〇〇方粁	一四八、六二六一	二、八
トランスケイ	六六〇九	一七、七六四七	二七
テンブランド	一、〇六六二	二三、一一五一	二一
ポンドランド	一、〇一四七	二〇、二八〇九	二〇

世界地理提要　あふりか洲　南端地方

東グリクァランド	一、九六六八	二二、二四五九	一一
ペチュアナランド	一三、三四四二	八、四二一〇	〇、六
ソルフィシュベイ	一一一四	一〇一五	〇、九
ケープ殖民地	七一、七三八八	二四〇、五五五二	三

兵備

兵備に就きて八千四百餘人の兵あるが一千八百餘の警官も亦防備に當り得べく、シモン灣には堅固なる砲壘ありて海軍の根據地なり、財政に關して一九〇四―〇五年の歲入は凡そ一千三百八十六萬「ポンド」にして歲出は一千九十一萬「ポンド」に餘り公債は四千二百十萬「ポンド」を超えたり。

生業

住民は耕種を主とし小麥「オート」麥、大麥、葡萄、果樹、等の栽培あり養畜業は牛(一九五萬頭)、馬(四二)、羊(一一八〇)、山羊(七一六)、豚(三九)、駝鳥(三六)、等を有するが此の他に林産あり、鑛産あり又蒸溜、釀造、製革、等に從事す、貿易は進歩しつつありて一九〇四年の特別貿易は輸入に約二千一百八十六萬「ポンド」、輸出に二千七百四十一萬「ポンド」ありて主としてイギリス(輸入一四〇二、輸出二五三〇)、合衆國、オ

ーストラリア、等と取引せしが翌年の輸入は二千萬「ポンド」、輸出は金(二〇七三)、金剛石(六七五)、生毛(一八八)、駝鳥羽(一〇九)、家畜(八一)、銅(五七)、等の三千三百八十一萬餘「ポンド」なりき而して一九〇五年の入船は一千百二十七萬餘噸、出船は一千百二十七萬餘噸なるが、道路は殖民地本部のみにて一萬二千粁以上ありて鐵道は五千餘粁、電信線は四萬九千九百粁に近く電話線は八千四百粁に達せんとす。

ケープタウン(Capetown)(七、七六六三)(南緯三三度五六分三秒東經一八度二二分四〇秒は當殖民地の首府にして地方屈指の都會なり、テーブル山の麓にありて市街はオランダ人の創建に係れり、港形は佳良なるに非ざるも交通上の要處として商業繁榮せり、ポートエリザベス(Port Elizabeth)(二、二九五九)はアルゴア灣に瀕し商港を有せり、キンバーレー(Kimberley)(二、四三四一)は西グリクァランドにありてバール河とリート河との間に於ける海抜一二二三米突の地に位し金剛石の產を以て名あり、ビーコンスフィールド(Beaconsfield)はキンバーレーに近くして亦鑛業地なり。

世界地理提要　あふりか洲　南端地方

◉島嶼

アフリカ洲は島嶼に豊富ならざるのみならず、多くは離島にして成因上は大陸に關するもの少なし、分ちて二部とす、其の一は印度洋にありてソコトラ島、セイシェル諸島、コモロ諸島、マスカレニァス諸島及マダガスカル島より成り、其の二は大西洋にありてアソレス諸島、マデイラ島、カナリア諸島、綠岬諸島、ギニア灣諸島、アスセンション、セントヘレナ、トリスタンダクニァより成れり。

◎印度洋島嶼

マダガスカル(Madagascar)島は土名をヒラエベ(大地)と云ふ、アフリカ大陸の南東、印度洋中にありて西はモサンビック海峽に依りて大陸と離隔せらる、北北東より南南西に亘りて長さ一千六百二十五粁、平均の幅四百七十粁あり、面積は約五十九萬二千方粁あるを以て曾にアフリカ洲の最大島なるのみ

ならず世界第四の大島たり、海岸線は四千八百三十粁を下らざるべきが、東岸は概ね直線的にして西岸亦著しき出入を呈せざるも北西隅には佳良なる港灣の存するを觀る而して屬島にはセントマリー、ノッシベ等あり。

山岳は五脈に分かるるが概ね北北東より南南西に走りて、ツィアフォジアボナ(二五九〇)、ツィアカフィ(二五四〇)、アンカラトラ(二五三〇)、等の諸山を著しとす。

河流は著大なるものなきも其の數乏しからず、然れども概ね灌漑の利を供するに止まりて航行の便を呈せざるに似たり、今主なるものを記せば海峽、斜面にベツィボカ(八〇〇)、ツィツィボヒナ、マンゴカ、等あり。

內部の高臺は平均五百乃至八百米突にして全島の約二分の一の面積を占むるが、高臺を圍繞する低處は地味肥え樹木の繁茂を見るも南部は不毛の地あり、又沿海の地方には沼地少なからず。

マダガスカルの大部は熱帶に位するが、故に海抜高き內部の臺地は稍、温和にして健康に適するも、海軟風が瘴氣を運び來りて人命を害する處少なからず、殊に沿海の地は温帶人に對して適良ならずしてヨーロパ人の墓地

なりと唱へらる。

植物は盛に繁茂し北東部の海岸地方には殊に發達せり。動物には既に他の地に於て絶滅せるものも存在し「レムル」(Lemur)「アイアイ」(Chiromys Madagascariensis)、等種々あれども象、獅子「ジラフ」、「アンチロペ」、等を缺き、本島がアフリカ大陸より分離せしは甚だ古代にあるを證せり。鑛物は鐵、石墨、方鉛鑛、銅、金、等の中部に、石炭の北部にあるありて硫黄の量も豊富なり。

人口は二百六十四萬餘人なり、土人は二百六十二萬七千十九人にして其の八十五萬はホバー(Hovas)に屬して内部にあるが、西部にサカラバ(Sakalavas)あり、沿海の都邑にはアラビア人の商業に從事するあり、アフリカ大陸より來れる黒人も多少あり。宗教は新教最流行するがローマ公教には四十萬人の信者あり。

マダガスカルはフランスの殖民地にして共和國殖民省の管理に屬するが、總督は民政各般の事務を統督し、東アフリカ守備兵司令長官は軍務を司れり。

農業は土人が重ずる所の業務にして主食品たる玉蜀黍を始めとし「セゴ」、米、馬鈴薯、等を與へ牧畜は盛に行はれて牛、豚、綿羊を養ひ、林業は木材、「カウチゥク」を産す、鑛業は鉛、銀、金(一三二萬圓)を採掘す、而して一九〇四年の貿易は輸出に金、「カウチゥク」、皮類、「ラヒア」、肉類、等の一千九百三十六萬「フランク」足らずあり、主として本國と取引せらる。

首府アンタナナリボ(Antananarivo)又はタナナリブ(Tananarive)とも稱せらる、イメリア高原にありてタマタブ港より三百二十二粁、海抜一四二〇米突に達する山地急峻なる丘陵の斜面に位す、氣候佳良にして飲料水に饒なるのみならず、四近の地は穀類、野菜を供給す、住民は約五萬人にしてヨーロッパ人は一千人内外なり、タマタブ(Tamatave)(一、五〇〇)は本島の主港にして交通上の要處なり、フィアナランツォア(Fianarantsoa)(一、六〇〇〇)はマンゴカ河の上流、海抜一一九〇米突に位す、ベツィレオ人の首邑にして本島第二の市街と認めらる。

ノッシベ島(Nossi-Bé)島は北部に於ける小島(三三七方粁)なり、首府ヘルビイユ(Hellville)

は南岸にありてノッシクムバ島との間に廣濶なる錨地を有せり。

セントマリー島

セントマリー(Ste. Marie)島。即ちノッシブラハは東岸にありて島形狭長なるが、面積は百六十六方粁あり、ポールセントマリーは錨地を有せり。

コモロ諸島

コモロ(Comoro)諸島。（一九七八方粁、八五〇〇〇人）はフランスに屬す、マダガスカルとアフリカ大陸の東岸との間にありて火山質なり、行政上はレウニオン知事に屬す。

附記。セントポール(St. Paul)島、新アムステルダム島は南極地に屬するケルゲラン島と共にフランス領と認めらる。

マスカレニアス諸島

マスカレニアス(Mascarenhas)諸島はブールボン、マウリシアス、ロドリグェス等より成りてイギリス、フランス兩國の分領する所なり。

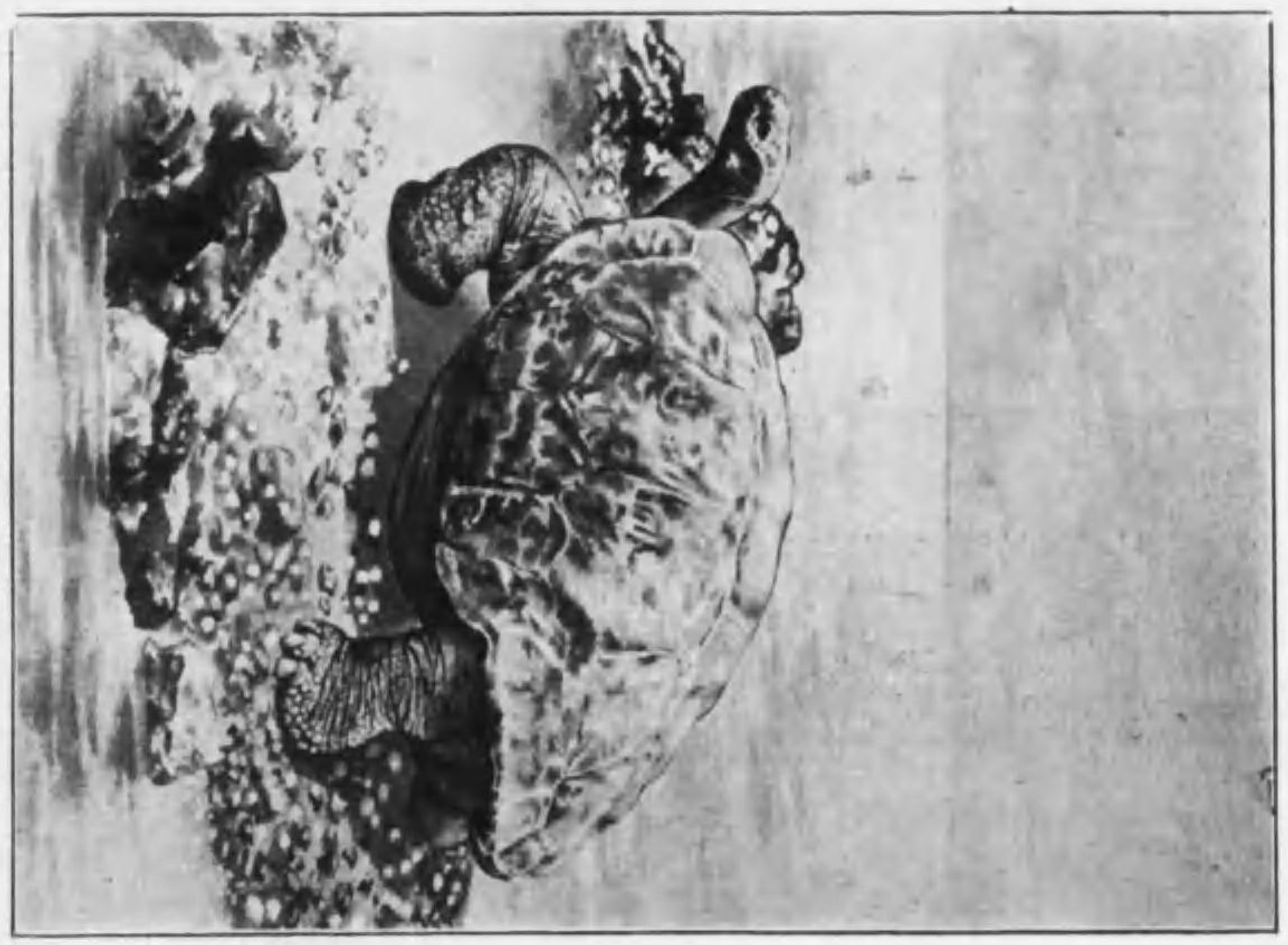
レウニオン島

フランス領　レウニオン(Réunion)島（一九八〇方粁、一七三一九二）は一名をブールボン(Bourbon)島と云ひ、マダガスカルの東六百七十六粁にありて首府をセンドニー(St. Denis)(三二一〇〇)と云ふ、土地は火山質にしてピトンドフールネーズ(三〇五二)の如き高山を有し砂糖、珈琲等を産す。

マウリシアス島

イギリス領　マウリシアス(Mauritius)島。（一八二六方粁、三七三三六六）はマダガスカルの東八百粁に位し、土地は風色に富み地味豊沃なり、住民の三分の二はアフ

タコノキ（Pandanus utilis）［マダガスカル］



象龜（Testudo elephantina）

タコノキ「榮蘭」「林投樹」(Pandanus)〔榮蘭科〕は回歸帶地方に產し約五十種を算するが、其の一種(P. odoratissimus)は我が小笠原島、琉球、等にありて其の「ヲコヲ」(P. utilis)はマダガスカル島にあり、葉を編みて敷物又は袋に製し、嫩芽及び果實を食用に供すべし。

象龜(Testudo elephantina)はモサンビク海峽の島嶼に產す、屬中の最大なるものにて長さ一米突三十糎、重量二百瓩あり。

ロドリゲエス島

セイシェル諸島

ソコトラ島

リカ人、支那人、雜種、白人より成り、ヒンド教徒は二十一萬に近し、砂糖「ラム」「ワニラ」、椰子油、等を產し、輸出は三千二百十四萬七千「ルーピー」なるが、鐵道には百六十九粁あり、首都ポートルイ(Port Louis)は島の北西岸にありて良港を控ゆるが住民は近郊を合はせて五萬三千人に達せんとす。

ロドリゲエス島。長二九粁、幅一一粁は海龜の漁獲を主業とするがセイシェル諸島、アミランテ(海將)諸島、チアゴス(Chagos)諸島、最大島はヂエゴガルシ、セントブラドン(St. Bradon)諸島即ちカルガドス(Cargados)諸島、イーグル(Eagle)諸島、等と共にマウリシアス知事の管轄に屬す。

セイシェル(Seychelles)諸島。四九〇方粁、一、九九七二はマヘ(Mahé)。其の他の屬島を合はせて八十九の島嶼より成りイギリスに屬せり最大島マヘに於けるビクトリアは知事の駐在する處なるが錨處佳良にして船舶の出入少なからず。

ソコトラ(Sokotora)島。三五七九方粁、一、二〇〇〇人はグアダルフイ岬を距ること二百五十粁の沖合に於ける花崗岩質の島にして最高處は一千四百二十米突に達す、地味磽确にして物產に乏しきも軍事上の要區として、一八三四年以來イギリスに屬せり。

◎大西洋島嶼

アゾレス諸島

アゾレス(Azores)諸島　地積二三八八方粁　人口二五六二九一人　はポルトガルの海岸を距ること一千四百粁の處にありて北西中、南東の三群、九島より成れり、土地は火山質にして地味極めて佳良なり、氣温は年平均十七八度なるも激變の憂なく降雨多く最も柑類、葡萄の栽培に適す、住民の多數はポルトガル人にして、其の他にモール人、黒色人等あり、人口稍密(方粁に付百七人)にしてブラジルに往住するもの少なからず、行政上はポルトガルに直隷せり、首邑はテルセイア島のアングラ(Angra)(一、三〇〇〇)なるが商業上主要なるはサンミゲル島に於けるポンタデルガダ(Ponta Delgada)(一、七〇〇〇)なり。

マデイラ島

マデイラ(Madeira)島は其の屬島ポルトサント等を合はするも地積は八百十五方粁に過ぎざるが人口は十五萬五百七十四人ありて方粁に付百八十五人なり、氣温は年平均十八度にして土地は火山質にして地味頗る良好なれば葡萄、珈琲甘蔗等の栽培に適するが又保養地として佳評あり、住民はポルトガル人に多少のモール人、黒色人、ユダヤ人等を交えたるものなり、行政上はポルトガルに直隷す、首府はフンシァル(Funchal)にして二萬近くの住民を有せり。

カナリア諸島

カナリア(Canaria)諸島　七二七方粁　三五、八五六四　はアフリカの岸を距ること凡そ百粁の處にありて七大島、六小島より成り東西の二群に排列せらる、各島火山質にして何れも山岳に富めるが最高峯は活氣を有するテイド即ちテネリフ峯(三七一五)にして風色と植物とに富めるを以て名を知らる、地味は佳良なるも氣温は炎熱に過ぎて降雨充分ならず、住民はエスパニア人に土人グアンシウを交えたるものなり、行政上は一州を爲してエスパニアに直隷せるが「バナナ」、砂糖「コチニール」、馬鈴薯等を産す、氣候の住良なる頗る避寒に適すと云ふ、首都プエルトデサンタクルス(Puerto de Santa-Cruz)(三、八四一九)はテネリファ(Tenerifa)島にあるが大カナリア島のラスパルマス(Las Palmas)(四、四五一七)、は群島第一の良港たり、ラグナ(Laguna)(一、三〇七四)も稍名あり、ヒエロ(Hiero)島即ちフェロ(Ferro)島は往昔本初子午線の地として採用せられし處なり。

カポベルデ諸島

カポベルデ(Capo Verde)(綠岬)諸島　三八二二方粁　一四、七四二四　は綠岬と相對して三百六十五粁の沖合にあり火山質を有する十四島より成り乾燥に失して健康に適せざるも航行上の要區たり、諸島は擧げてポルトガルに屬しブライア(praia)ふりか洲　島嶼

(一、二〇〇〇)はサンチアゴ島にありて當地の首邑なり、ポルトグランデ(Porto Grande)はサンビンセント島にあり佳良の錨地にて飲料水及び石炭貯蓄處あり。

ギニア灣諸島

ギニア灣諸島は著大なるものなくエスパニア或はポルトガルに屬せり。

エスパニア領

フェルナンドポー(Fernando Poo)島(一、九九八方粁二、〇七四人)は諸島中の最大なるものにして地味肥え灌漑の便あるも氣候不良にして溫帶人の生活に適せず、首邑サンタイサベラ(Santa Isabela)はクラレンス峯(二八五〇)の麓にありて約一千の黒人と若干のヨーロッパ人の住する處なり、屬地アンノボン(Annobon)島(一七方粁一二〇四人)は海岸に接す。

ポルトガル領

プリンシペ(Principe)島(八五二方粁三、七七六人)は實利に乏しくサントメ(S. Thomé)島(一四三方粁四二七人)は丘陵多く土地は火山質にして樹木蓊鬱たり、シダデサントメ(Cida de São Thomé)は當地の首邑なり。

アスセンション島

アスセンション(Ascension)島(八八方粁四、三〇人)は火山岩より成れり、イギリス水師提督の管理の下にありて守兵を北東岸のジョージタウン(Georgetown)に置くが、石炭貯蓄處として南大西洋航行の要區たり。

セントヘレナ島

セントヘレナ(St. Helena)島(一二二方粁三、五〇〇人)はイギリスに屬す、アフリカ大陸を距ること一千九百三十粁に位する小島にして沿岸は峻險、土地は火山質なるが、海底電線はケープタウン及びサンピンセントに通せり、ジェームスタウン(Jamestown)に本島の北西岸にあり、ロングウード(Longwood)はジェームスタウンを距ること四千八百米突にあり、ナポレオン一世の居住せしを以て名あり。

トリスタンダクニア島

トリスタンダクニア(Tristan da Cunha)諸島(一一六方粁七六人)はイギリスに屬し喜望峰を距ること三千粁に於ける火山質の島嶼なり。

あふりか洲 終

世界地理提要　あふりか洲　島嶼

あめりか洲

●總論

名稱　アメリカ(America)なる稱呼はイタリアの探檢家アメリゴベスプチ(Amerigo Vespucci)に因みてワルドゼーミゥルレルが一五〇七年に出版せしコスモグラフに始めて用ひたるに起れり、一に新世界又は新大陸と爲すは單に發見の時代に依りしものにて他に深意の存するあるに非ず、又西世界とも稱するは全くヨーロッパ人の慣習に基づけり、海陸の關係、地勢の狀況等に據るときは東世界と稱するの反りて適切なるを見るべし。

アメリカと云ふ名稱の起源に關するフランス人ジゥールマルクー(Jules Marcou)氏の論說は巴里地理學協會報文に前(一八七五年)後(一八八八年)二回掲載せられたり、同氏の考證に依ればアメリクなる語はニカラグア地方の土語にして貴金に富める地又は風の國と云ふ義を有せるが、コロンブスが第四回の旅行(一五〇二―〇三)に於てコスタリカのチリキ(Chiriqui)灣に到達せし際、土人が裝飾に用ひ居りし粒金の出處を尋ねたるに內部の產地即ちアメリクより來ると答へしに基づき、エスパニア人は此の名をエルドラド(El Dorado)黃金國の義同樣にヨーロッパ人間に傳へしならん、然るにセンヂエー(Saint Dié)フランスのプォージゥ縣の書肆に博學なるヒラコミラス(Hylacomylus)なるものありてラテン語(一五〇五)又はドイツ語(一五〇六)にて刊行せられたるアルベリクスプエスプクシウス(Albericus Vespuccius)の遠征紀行を閱讀したる後、自ら小冊子を著述したるが(一五〇九)人名のアルベリコ(Alberico)と地名のアメリク(Amerik)とを混同して遂に誤謬を世に遺すに至れり、而してエドワールシアルトン(Edouard Charton)氏に依ればアメリゴ(Amerigo)なる小名はイタリア人の知らざる所なれどもアマリッヒ(Amalrich)又はアメリッヒ(Americh)なる稱呼はドイツに行はれしものなりと云ふ。

位置　アメリカ洲は南溫帶より北寒帶に達するが、大陸の四極を示せば

極北	マーチソン岬の北端	北緯	七一度五〇分
極南	フローワード岬の南端	南緯	五三　五四
極東	ブランコ岬の東端	西經	三四　四六
極西	エールス公岬の西端	西經	一六七　五九

又ラブラドルのチァールス岬は西經五十五度三十七分に位するが、島嶼部に就きてはモリスイェスプ岬は北緯八十三度二十分、西經三十三度十八分に當

り、ホルン岬は南緯五十五度五十九分なりとす。

境域　北は北極洋に臨み東は大西洋を挟みてヨーロッパ、アフリカの二大洲と相對し、南は狹小なる地角に依りて南極洋に接近し、西は太平洋を隔てて遙にアジア、オーストラリアの二大陸と相對せり、而して新舊兩世界の間に於けるベーリング海峽は僅に四十米突の深さを有するに過ぎざるのみならず、其の幅は五十五粁にして快晴の日に當りてはアジアの東端よりアメリカの西端を觀望し得べしと云ふ、殊に冬季にありては結氷の爲に海峽は變じて氷原と成り兩世界の間に連絡を見ること數月に及ぶ、又シベリアとアラスカとの間にはアレウト列島の鏈鎖を形成するあり、而して此の接近點を遠かるに從ひてアジア、アメリカの二大陸は漸く離れて一は南西に走り一は南東に走るが故にコシェンシーヌの河口と中部アメリカのパナマとの間は一萬五六千粁に達し、平均距離に相當する清國の海岸とカリフォルニアとの間は殆ど百二十度を算す、然るに北アメリカとヨーロッパとの平均距離は二千五百粁内外に過ぎず、是ヨーロッパ人がアメリカを利用するに至りたる一大原因たらずんばあるべからず。

太平洋	ベトリング海峽對岸間の距離	五五粁	
	横濱サンフランシスコ間	九〇〇〇	
	パルパライソ、シドニー（ボーストラリア）間	一、三〇〇〇	
大西洋	イスランドグリーンランド間	四〇〇	
	アゾレズ諸島ニウーファウンドランド間	二〇〇〇	
	サンロック岬（ブラジル）ジエヲレオネ間	三〇〇〇	

廣袤

本洲は殆ど同一の形狀（三角形）を有する南北二箇の陸地より成れり、而して此の南北二部の間を連絡する陸地に二派あり、其の西派は中央アメリカと稱する山岳多き狹長の地にして、其の東派はアンチル列島と稱する數多の島嶼なり、此の如くにして大陸部は南北に長く凡そ百二十八度、約一萬八千粁に達するが、東西の幅は北部にありては六千粁に達するも中部にありては僅に四十五粁と成り南部にありては五千粁を有する處あり。

面積

本大陸を北中南の三部に區分するは地勢上極めて適切なるも、從來の慣習は南北の二部と爲すにあり、其の北アメリカにはグリーンランド、圓極地の

南アメリカ

一部、メキシコ、中央アメリカ、アンチル諸島を加ふるを以て地積は二千三百五十萬方粁に達するも、其の南アメリカは一千七百八十四萬方粁を有するに過ぎず、而して兩部を合すれば總地積は四千百三十萬方粁と成りて殆ど我が帝國の九十二倍に當れるが或は約四千二百十萬（北二四三五、七七〇〇南一七七四、四九〇〇）方粁と計上するもあり、要するに南北二部の比は一と一、三餘なり。

海岸線

海岸　北アメリカの北岸及び東岸は西岸より出入多く、西岸は急峻なるも東岸は平低にして海岸線の總延長は四萬八千粁なるが、南アメリカは南半球に於ける他の大陸に共通せる缺點即ち土塊的形狀を有するが故に沿岸は單調にして海岸線は二萬五千粁に過ぎず、而して海岸線一粁に對する方粁數は北部に四百七にして南部に六百八十九なり、又島嶼に富めるは北部及び中部なるが其の地積は四百二十九萬三千方粁（百分の十）にして半島は二百二十萬方粁（百分の五）を占むと云ふ。

海灣

北極洋（マッケンジー灣　フランクリン灣　メルビル灣　ブーシア灣
ベッフィン灣　ハドソン灣　セントローレンス灣　ファンヂー灣

海灣

大西洋
- チサピーク灣　メキシコ灣
- アンチル（カライブ）海
- サンタロザ灣（ポンチャウラス灣）
- サンジョージ灣（ペネズエラ灣）
- リオデラプラタ灣　サンマチアス灣

太平洋
- グアヤキル灣　パナマ灣　フォンセカ灣　テウアンテペック灣
- カリフォルニア灣　ベーリング海（ブリストル灣　ノルトン灣）

海峽

北部
- バンクス（Banks）　バロー（Barrow）　ランカスター
- ロビンソン　スミス　デービス　ハドソン

東部　ベルアイル（Belle Isle）　カボット　フロリダ　ユカタン

南部　マガリャネス（Magallanes）

西部　ベーリング

半島

北部　ブーシア　メルビル

東部　ラブラドル　ノバスコシア　フロリダ　ユカタン

西部　カリフォルニア　ケナイ（Kenai）　アラスカ

地峽　テワアンテペック　ホンヂュラス　コスタリカ　パナマ　ダリアン

地角　北部　ベロー　バサースト　マーチソン

地角　東部　チアールス　サブル(ノバスコシア)　サブル(フロリダ)
カトーチ(Catoche)　グラシアスアディオス(Gracias a Dios)
サンロク　フリオ　ヨリエンテス　ビルジネス(de los Virgenes)
デエゴ　ホーン

地角　西部　アグジャ(Aguja)　サンルカ(San Lucas)　フラッテリー(Flattery)　ネエ
シヘム(Newenham)　エールス公

島嶼　北部　ベリー諸島　スパトリ、コンワル公、メルビル、バサースト、北デボンシー
ワラストン島　キリアム王島　エールス公島　ベンクス島
北ソマーセット島　バフィン島　北サザンプトン島　グリーンランド島

島嶼　東部　ミワー　ファウンドランド島　アンチコスチ島　エドソード公島
ブレトン岬島　ベルムダ諸島　バハマ諸島
大アンチル列島　ヤキバ、プアマ、エルトイカ、ハイリ、コハイ
小アンチル諸島

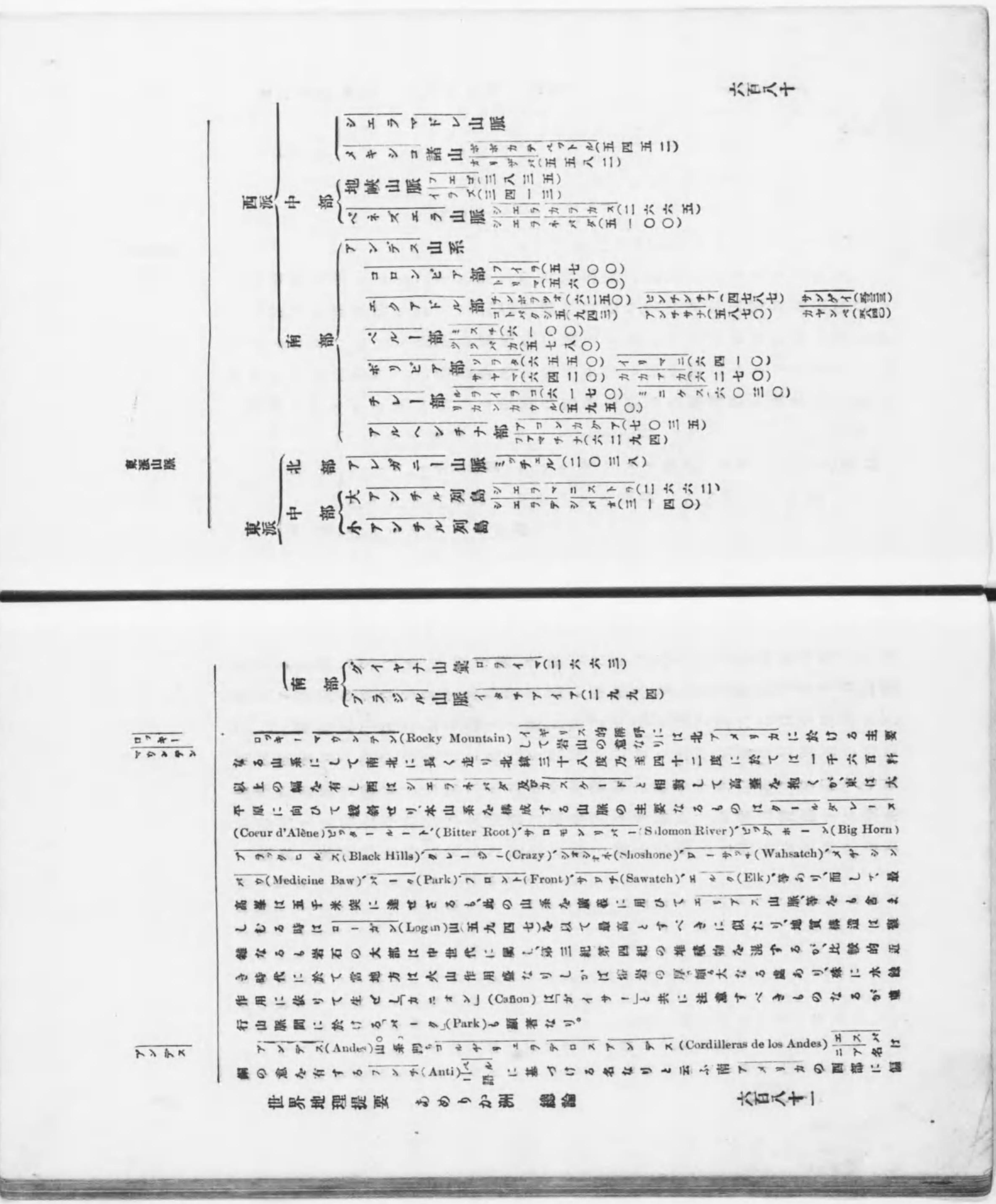
南部　チェラデルフエゴ島

西部　バタゴニア諸島　ガラパゴス諸島　パンクーバー島
シャーロット女皇群島　アレクサンダー群島　カヂアク(Kadiak)諸島
アレウト列島　ヌニバク(Nunivak)島　セントロレンス島

アメリカ洲に於ける山脈の趨勢は極めて單純なり、南北の兩部にして顯明を缺けるも二千乃至二千五百米突に達することなきに非ず。山脈は斷續常ならざれども概ね同樣にして南北の方向を有せるが、中部にありては殆ど同一の隆起帶を爲して大陸の西岸に沿ひ、其の東西の二脈より成りて其の東西に山脈あり。西脈は高嶺秀峯多く而して山脈は東西に走れるもの多し。

山岳

アメリカ山脈　マッキンレー(六二三七)
エリアス山脈　エバアス(五五二二)　ロージャル(五九四七)
カスケード山脈　ラニエー(四〇七五)
シエラネバダ山脈　シアスタ(四三七〇)　フートホイットネー(四四七八)　カーソン(四〇五四)



東派山脈

- 西派
  - シエラマドレ山脈
  - メキシコ諸山 ポポカテペットル(五四五二) オリザバ(五五八二)
  - 中部
    - 地峡山脈 フエゴ(三八三五) イラズ(三四一三)
    - ベネズエラ山脈 シエラカラカス(二六六五) シエラネバダ(五一〇〇)
  - 南部
    - アンデス山系
      - コロンビア部 フイラ(五七〇〇) トリマ(五六〇〇)
      - エクアドル部 チンボラツオ(六二五〇) コトパクシ五(九四三) ピンチンチア(四七八七) アンチサナ(五八七〇) サンゲイ(五三三三) カヤンベ(五八四〇)
      - ペルー部 ミスチ(六一〇〇) ツツパカ(五七八〇)
      - ボリビア部 ソラタ(六五五〇) サヤマ(六四二〇) イリマニ(六四一〇) カカアカ(六二七〇)
      - チレー部 ルライラコ(六一七〇) リカンカウル(五九五〇) ミニケス(六〇三〇)
      - アルヘンチナ部 アコンカグア(七〇三五) ファマチナ(六二九四)
- 東派
  - 北部 アレガニー山脈 ミッチェル(二〇三八)
  - 中部
    - 大アンチル列島 シエラマニストラ(二六六二) シエラデシバオ(三一四〇)
    - 小アンチル列島

ロッキーマウンテン

- 南部
  - グイヤナ山彙 ロライマ(二六六三)
  - ブラジル山脈 イタチアイア(二九九四)

ロッキーマウンテン(Rocky Mountain) イギリス的稱呼にして岩山の意なりは北アメリカに於ける主要なる山系にして南北に長く走り北緯三十八度乃至四十二度に於ては一千六百粁以上の幅を有し西はシエラネバダ及びカスケードと相對して高臺を抱くが、東は大平原に向ひて緩斜せり、本山系を構成する山脈の主要なるものはクールダレーヌ(Coeur d'Alène)ビッタールート、(Bitter Root)、サロモンリバー(Solomon River)、ビッグホーン(Big Horn)ブラックヒルス(Black Hills)、クレージー(Crazy)、シオシオネ(Shoshone)、ワーサッチ(Wahsatch)、メヂシンパウ(Medicine Baw)、パーク(Park)、フロント(Front)、サワチ(Sawatch)、エルク(Elk)、等あり、而して、最高峯は五千米突に達せざるも、此の山系を廣義に用ひてエリアス山脈、等をも含ましむる時はローガン(Logan)山(五九四七)を以て最高とすべきに似たり、地質構造は複雑なるも岩石の大部は中世代に屬し、第三紀第四紀の堆積物を混ずるが、比較的近き時代に於て當地方は火山作用盛なりしかば熔岩の厚ち頗る大なる處あり、殊に水蝕作用に依りて生ぜし「カニオン」(Cañon)は「ガイサー」と共に注意すべきものなるが並行山脈間に於ける「パーク」(Park)も顯著なり。

アンデス

アンデス(Andes)山系即ちコルヂリエラデロスアンデス(Cordilleras de los Andes)エスパニア名は銅の意を有するフンチ(Anti)ペルー語に基づける名なりと云ふ南アメリカの西部に偏

在して太平洋に逼り南北に走ること凡そ七千二百粁に達し南緯十八度附近より以北の地にありては凸部を西に向けて半圓形を描けり、此山系中には活火山少なからずして新世界の最高峯なるアコンカグア(Aconcagua)(七〇三五)は實に消火山なり、此の他六千米突以上の秀峰若干ありて高峻の點に於ては概してロッキーに優れる者の如し、而して此等の山岳は北部に於て三脈を呈し次に二脈と成り再び三脈に分かれボリビアにありては二脈を爲すが南部に於けるパタゴニアの西部にて氷河の作用盛なりし處は目下海水の充たす所と成れり、此の如くにしてアンデスは地峽部附近よりホーン岬に達する一山系なるも地質上より見るときは南緯四度以南と以北とに於て異なれる點ありと云ふ。

河流　本洲は水脈に富みて灌漑の利と航通の便とを併有せるが河流は北極洋、大西洋、太平洋の三大斜面に區分するを得べし、南北に貫通する分水山脈は西部に偏在し、東西に走れる分水線は北部の中央にあるを以て、各斜面の廣袤は一樣ならずして甚しき懸隔を生せり、太平洋斜面は狹長なれば長さは一萬四五千粁に達すれども濶さは著しからずして五六百粁を超過せず、從ひて巨流の存在を見ず、北極洋斜面は稍〻廣大なるも降雨多からざれば顯著なる水脈に乏しきが如し、獨り大西洋斜面は廣大なる地域を包括して全

洲の三分の二以上に當れるのみならず、降雨の饒多なる地に豐なるを以て河流沼湖の發達極めて著しく、南部のアマゾンは河流の王と稱せらる、今茲に一表を作りて本洲の各斜面に於ける河流を列記せり。

斜面	河名	水源	河口	河長	合流
北極洋	マッケンジー	ブラウン山	マッケンジー灣	四〇〇〇 三七〇〇	アサバスカ、ピース、熊河
	ネルソン	コロンビア山	ハドソン灣	二五〇〇	サスカチェソン 赤河 井ンニペグ
大西洋	セント ローレンス	ジェファーソン等 イタスカ湖	セント ローレンス灣	三五〇〇 三八〇〇	五大湖 オッタワ
	ミズリー＝ミシシッピー	ロッキー	メキシコ灣	七二〇〇 六五三〇	アルカンサス 紅河、オハイオ
	リオ グランデ ノルテ	ブラス山	メキシコ灣	二八〇〇	リオデロス コンコス、リオベコス
	マグダレナ	パリマ山脈	アンチル海	一七〇〇	カウカ
	オリノコ	アンデス山脈	大西洋	二六〇〇 二二二〇	グアビアル メタガロン
	アマゾン	エトレイト高原	大西洋	六〇〇〇 五五〇〇	マデイラ リオネグロ
	トカンチン	ミナグェラス山脈	大西洋	二三〇〇	アラグアヤ
	サン フランシスコ		大西洋	二九〇〇	

	パラナ＝ラプラタ	エトレイト高原	大西洋	四三〇〇	パラグアイ ウルグアイ
太平洋	コロラド	ロッキー	カリフォルニア灣	二〇〇〇	グリーン
	コロンビア	ロッキー	太平洋	二〇〇〇	スネーク
	ユーコン	フランシス湖 チルクート湖	ベーリング海	三五〇〇 四〇〇〇	コユクク

セントローレンス

セントローレンス(St. Lawrence)河。は三千五百粁の長さと一百萬方粁の流域とに依り一秒時一萬五千立方米突の水をセントローレンス灣に注ぐが、或は長さを三千八百粁、流域を百二十四萬八千方粁とするもあり、水源はセントルイス、カミニスチクイア、ニピゴン、其の他、八十餘流に發してスペリオル湖と成り、セントマリア河に依りてヒウーロン湖に入り、セントクレール(St. Clair)河に依りて流出しセントクレールなる小湖を經てデトロイト(Detroit)と成りてエリエ湖に通じ、ナイアガラ河としてオンタリオ湖に會す、而してナイアガラ(Niagara)河は五十五粁間に一百一米突を流下するものなれば途に一大瀑布を爲せり、其の高さは五十米突にして六乃至十米突の水層を有し分かれて二部と成る、大なるものは六百米突ありて小なるものは二百七十米突なり、オンタリオ湖より出でし後始めてセントローレンスと呼ばれ或はマイルアイル(千島の意)湖と成り或はガロップ、ブラッツ等の湍流を爲し、セントフランシス、セントルイスの小湖を經て愈々巨大の河流と成る、北部の森林地より來りてオッタワ河を容れ、シァプラン湖より發するリシウリウー河を受け、セントペテル湖と成り、モンモレンシー、其の他の數流を容れて河灣と成る、支流サグネイはセントジォン湖より發するものにして上流は數多の急流より成れり、此の外、ラブラドル地方より來る支流にベチミット、マニクアガン、モアジー、ロメーヌ、等あり、河灣の幅はサグネイ河を受くる際には二十五粁ありて、アンチコスチ島を抱きてセントローレンス灣に通ぜり。

ミズーリ＝ミシシッピー河

ミズーリ＝ミシシッピー河。は世界第一の長流なるが長さは七千二百粁(一に六五三〇粁となすあり)に達して三百二十五萬方粁の地を潤せり、ミズーリ(Missouri)の源流はロッキー山系に發するジェファーソン(Jefferson)、ガラチン(Gallatin)、マヂソン(Madison)の三派あり、相合してミズーリと成るや九粁の間は濶さ五百五十米突深さ四百米突の狹谷を奔流し、六七十粁の間を激流してフォートベンテンに達す、此の地の海拔は九百米突あるが流勢は稍、緩漫と成りて始めて通舟の便を與ふ、左岸にダコタを容れ右岸にイエローストン、ネブラカス、カンサス、等の支流を受け五千粁の長さと百三十四萬方粁の流域に依り平均水量三千三百九十七立方米突を以てミシシッピーに入る、ミシシッピー(Mississippi)(大河の意)はイタスカ湖に發源して草原の地を潤しセントアンソニー、ミンネアポリスに於て幅五百七十五米突、高さ七十八米突の瀑布を爲しセントポールを過ぎミンネソタ、セントルイス、ヰスコンシン、イリノイ、等の諸水を容れ、オザクム山の附近に於てミズーリを合はす、セントルイスを通過したる後、直立九十米突の岩石より成る峽谷の間を流れ平均四千四百七十五立方米突の水を齎し來るオハイオ河を容る、さ

れば本流の水勢は漸く強く増水の際には一秒時に四萬乃至四萬二千立方米突の水を流下することあるも潤水の時には四千立方米突の水量を有するに過ぎず、又河幅は三千八百乃至二千百米突ありて水深は八米突以上、七十米突に達する處あり、オハイオの河口よりニターオルリアンズ附近に至るまで兩岸には壯大なる堤防を築きて河水の暴溢に備ふるが、ニターオルリアンズに於てはミシシッピーの幅は一千米突内外にして深さは四十米突に達せり、河口に至れば三派に分かれ異様の三角洲を爲してメキシコ灣に注ぐ。

アマゾン河

アマゾン(Amazon)河はリオアマゾナス(Rio Amazonas)、マラニオン(Marañon)、ソリモエンス(Solimoens)、パラナチンガ(Parana Tinga)、パラナウアッス(Paranauassu)と唱へらるることあり源をペルーのアンデス山脈に發し、右岸よりユカヤリ、ユルヤ、プルス、マデイラ、タパヒオス、クシングを受け、左岸よりヤブラ、リオネグロを容れ、河口に至り數個の島嶼を擁して海に注ぐ、長さは五千五百粁に過ぎざるも七百萬方粁の流域、八萬立方米突の平均水量を以て南アメリカの地中海、世界第一の巨流と稱せらる。

湖沼表

湖沼 北アメリカの北東部には著大なるもの密集せるが殊にセントローレンスの流域に於ける五大湖中のスーペリオルは淡水湖の王たり、南アメリカの湖潟は概して小なりとす。

湖沼	面積	海拔	長	濶	最深	水質
大熊	四、〇〇〇〇方粁 二、〇六五〇	一一九米	?粁	?粁	?米	淡
大奴隷	三、二〇〇〇 二、一五〇〇	一五八	四八〇	八〇	二〇〇	淡
アサバスカ	二、〇〇〇〇 一、一〇〇〇	二一〇	三七〇	四八	?	淡
キンニペグ	二、二〇〇〇	二〇〇	四五〇	九二	?	淡
マニトバ	五、〇〇〇	二一五	?	?	?	淡
キンニペゴジス	五、〇〇〇	二二三	?	?	?	淡
スーペリオル	八、三〇〇〇 八、〇八〇〇	一八三	六六三	二六九	二〇〇	淡
ヒゥーロン	六、一三〇〇 六、一六四〇	一七七	四二三	一六九	二五〇	淡
ミシガン	五、九〇七二 五、八四一	一七五 一七七	五三九	一四二	三〇〇	淡
エリエ	二、八〇〇〇 二、五八〇〇	一七二 一七五	三八六	九七	六〇	淡
オンタリオ	一、八〇〇〇 一、八七五〇	七一 七五	三〇六	八九	一八五	淡
大鹹	六〇〇〇 四六九〇	一二八四 一三四四	一二九	五一	一〇	鹹
ニカラグア	七七〇〇	三二	一八五	七二	四三	淡
マラカイボー	一、六八〇〇	〇	一七七	?	?	鹹

チヤカカ

		八四〇〇	三八〇〇	一六三	?	二一八
		八三三〇	二八五〇			

スーペリオル　スーペリオル(Superior)湖は世界無比の淡水湖にして八萬方粁以上の面積を有し海拔一八三米突を以て五大湖の最高位にあり、受水は數多きも排水は一のセントマリー河に依りて行ふのみ、湖岸は北部に巖巒多くして玄武岩及び花岡岩質の島嶼點在し最も大なるはローヤルとす、南岸は一般に低平にしてケヰーノー岬の突出あり水質は透明にして湖岸に近き部分の外は氷結せず、暴風は稀ならずして波浪の高さは四十六糎乃至五十五糎に達す、又他の大湖に見るが如き輕微なる潮汐は本湖に存するがシウワイヲの諸湖に於けるが如き定振動もあり。

ミシガン　ミシガン(Michigan)大湖の源は六萬方粁足らずの面積を以てヒウーロンに次げるが他の四大湖と異なりて全く合衆國内にあり、マキノー水道に依りてヒウーロンに通ぜり、湖岸は概して低きが北部に多少の出入を呈し北西部にグリーン灣のあるを見る、本湖に於ける小潮は三、八一糎にして大潮は凡そ七、六二糎に過ぎず。

ヒウーロン　ヒウーロン(Huron)湖はセントマリー或はマキノーに依りてスーペリオル、ミシガンの水を受けセントクレーアに依りて排水す、カポツヘッド半島及びグランドマニツリン島に依りて二ヶの不等部に分たれ、北部を分ちて北水道及びヨーヂ灣とす、水面は風雨の爲に高低ありて其の差は殆ど四米突なり、水質は清純にして魚族の住するもの多きが湖中の島嶼は約三千と稱せられ其の大部はカナダに屬せり。

エリエ　エリエ(Erie)湖は五大湖中の最南最淺のものにして運河に依りてハドソン、ガハイオに通じ又エルレンド運河を以てオンタリオに連なれり、航行は容易安全ならざるも偶ゝ交通上驚くべき利益を與ふ、而して十二月の始めより三四月頃までは多少の凍結を見ることあり、南西部には樹木蓊鬱たる島嶼少なからず。

オンタリオ　オンタリオ(Ontario)湖は五大湖中の最東最小のものにてナイアガラの水を受け北東隅よりセントローレンスを流出せしむ湖岸は一般に甚だ低く氷結は數粁の沖に止まれり、暴風の威を恣にすることは他の諸湖に同じ。

北部

地勢　アメリカ大陸は平均六百八十米突の海拔を有し、北アメリカは七百米突にして南アメリカは六百十米突なりと註せらる、北部にありてはロッキーマウンテン一帶の地(七〇〇萬方粁)幷にアレガニー山脈地方(五〇萬方粁)を以て山地とす、西部のロッキーマウンテン地方は概して一千五百乃至二千米突の海拔なるが又五千米突以上に達することあり、而して東部のアレガニー地方は僅に一千米突内外の海拔を有するに過ぎず、ミシシッピー平原(二五〇萬方粁)幷にセントローレンスの流域(一〇〇萬方粁)は土地肥沃にして灌漑の利を有し頗る人類の生存に適するも、ラブラドル、圖極平原、グリーンランド

ランド、等(八〇〇萬方粁)は寒冷に失する無用の地たるを免れず、中部にありては中央アメリカ、西印度諸島に多少の山地を觀るもユカタン半島、キューバ島は平低の地に富めり、南部に於てはアンデス山脈は一の急峻なる山地を形成して其の最高處ネバドスはヒマラヤ山脈の外比敵すべきものを見ず、當地方は三百萬方粁の地積を有するが南部にありては海抜は二千乃至四千米突に過ぎざるも北走すれば四千以上七千米突に達することあり、本山脈は八回の分合を爲し、或は二派と成りて一の臺地を挟み又は數脈と成りて、二三の臺地を抱けり、東方に於けるブラジル山地(五〇萬方粁)并にグイヤナ山脈は北アメリカのアレガニーに相當するものなるが海抜はアンデス山脈の三分一前後に當り、季節に依りて或は乾燥の荒地と成り或は濕潤の草原と變するリアノス(Llanos)地方、即ちオリノコの流域(四〇萬方粁)翁鬱たる森林に富めるセルバス(Selvas)地方(七五〇方萬粁)半リアノス、半セルバスたるグランシャコ地方、草原の地たるパンパス(Pampas)地方、等は共に南アメリカの低地を組成す而してリアノスの一部、ブラジルの南東部、パタゴニア、等は

高地に屬せり。

氣候　海陸の關係、山脈の趨勢、海流又は氣流の方向に依りて北中南の三部は各、其の趣を異にせり。

氣温に就きて記さんに北部にありては北西并に北東より來れる二派の山脈は中間に一大平地を挟めるが之を東西に横斷する高處の存するなきを以て極地の寒風は勢威を逞しうするを得、從て此の平地に於ける氣温は之をヨーロッパ洲同緯度の地に於けるものに比すれば甚だ低し、カナダ地方の如き冬季は永くして寒氣强く夏季は短きも亦暑氣烈しく恰も黒龍江地方に似たり、又ミズーリ＝ミシシッピーの平野にありても時に寒冷を覺ゆることあり、然れども太平洋沿岸の地并に大西洋に瀕して灣流の恩惠を蒙むる地は氣温概ね温暖なり、而してメキシコ灣に接する地は温度甚だ高し、中部に於ては概して暑氣甚しく高燥の地に非ざれば温帶人は生息するを得ずと云ふ南部の氣温は概ね高きがグイヤナ地方、オリノコ、マラニョンの流域、太平洋沿岸の北部にありては酷熱に苦みブラジルの南東部、チレーに於ては温和な

るも南端のパタゴニアに於ては大に寒冷を覺ゆ。

降雨の概況を記さんに北部は雨量乏しきに非ざるも亦多量なりと云ふべからず、降雨の年平均二百糎以上に達するは僅にブリチシコロンビアの西岸にして之に次ぐものをフロリダ地方幷にミシシッピー下流の地域とす又雨量最も少なきは北西大平野の北部と合衆國の西部なりとす、中部の地峽部は概して降雨多き土地なるが殊に東岸を以て然りとす、又島嶼部は雨量の二米突以上に達すること稀にして東岸は稍、多き雨水を受るが如し、南部は概して降雨多きが又濕氣に乏しき部分幷に乾燥に失する部分の存せざるに非す、グイヤナ山脈は大西洋より吹き來る溫風を遮ぎりてベネズエラのリアノスを生じブラジル山脈はアルヘンチナのパンパスを生せり、又アンデス山系の東面は多量の雨水を受くるも西面には一滴をも受けざる處あるなり而して雨量の年平均に就きて二百糎を超過する部分はベネズエラの西部、コロンビアの東部、マラニョン上流の地、グイヤナの海岸、ブラジルの南東部、パタゴニアの西岸、等にして二十糎以下の地はパタゴニアの東部

ジャガアル (Felis onca)

コンドル 禿鷹 (Sarcorhamphus condor)

ジアグアル (Jaguar) (Felis onca) は南アメリカ並に中央アメリカの草原又は森林に棲む、身長一米突五十糎、尾長七十糎、高さ八十糎ありて虎に類せり、性質獰猛にして野獸は勿論人畜を害すること尠少ならず、毛皮は眼紋あるも美麗ならずして肉味も亦佳良ならず。

コンドル 「金鷲」(Sarcorhamphus condor) は南アメリカに產する巨禽にして身長一米突二十糎、翼開二米突九十糎に達す、アンデス山脈中の二千乃至五千米突の地に棲む、性大膽にして克く闘ふ好みて羊鹿の類を啖ふ、沿海の地にありては海獸を嫌はず、生擒して闘牛を養成するの用に供することあり。

鑛物

植物

動物

に太平洋沿岸の地なりとす。

天產 本洲は各種の天產に富めるを以て有名なるが、ヨーロッパ人の渡來に依れるもの甚だ多し鑛物には金、銀、白金、金剛石、寶玉あり、鐵、鉛、石炭、石油、等あり、生物の分布に就きて北アメリカの大部は新北極區に屬し、其の殘部幷に南アメリカの全部は新熱帶區に含まる、先づ植物より記せば「セコイア」(Sequoia gigantea)、「アロエス」、「カクチウス」、「キナ」、「コカ」、「カカオ」、「マテ」、等あり、其の他、木材染料に供すべきものあり、煙草、玉蜀黍、等も名高きものなり、動物は概して體軀巨大ならざるが猿猴類、蝙蝠類、黑狼、「コヨット」(Coyot Canis latrans)、「ブマ」即ち「クグアル」(Felix Concolos)、「ジァカル」(Felix onca) の如き猫類、河狸、貘(Tapirus)、羊駝(Auchenia)、穿山甲(Manis pentadactyla)、金鷲(Sarcorhamphus condor)、蜂鳥(Troshilidae)、「アリゲートル」(Alligator miss issipiensis, A.uiger)、響尾蛇(Crotalus)、「ボア」(Boa)、「コチニール」(Coccus cacti) 等は此の洲の特產なり、又魚類には鮭、鱒、鰊、等あり。

發見 西紀第九及び第十世期の頃ノルトメン(Northmen)(北人)はイスランドよりグリーンランド(八九三)、ラブラドルを經て尙ほ南方のヰンランドに達せし

コロンブス

ことあるも、本洲發見者の名譽はコロンブス(1436—1506)の負ふ所と成れり、コロンブスはイタリアのジェノバに生れ長じてエスパニアに仕へ女皇イサベラの幇助に依りて第一回旅行(一四九二—九三)に於てサンサルバドル、キゥバハイチ、等を發見し、第二回(一四九三—九六)にはジァマイカ、小アンチル列島、等を檢出し、第三回(一四九八—一五〇〇)にはオリノコ河口地方に至り、第四回(一五〇二—〇四)に於てホンヂゥラス、コスタリカ等を發見せり、此の頃カボット(Cabot)はイギリスの爲に探檢旅行を爲してカナダ地方に至り(一四九七—九八)、アメリゴベスプチはポルトガルより派遣せられてグイヤナ地方に達し(一四九九—一五〇〇)、カブラル(Cabral)は南緯約十度のブラジルの海岸に漂着して此の地をポルトガル領と定め(一五〇〇)、ジゥアンヂアスデソリス(Juan Diaz de Solis)はユカタン(一五〇六)、リオデラプラタ(一五一五)をジゥアンポンスデレオン(Juan Ponce de Leon)はフロリダを發見し、バルボア(Vasco Nuñez de Balboa)は地峽を横ぎりて始めて太平洋あるを知り(一五一三)、マガリァエンスは南アメリカの海峽を通過して其の名を止め(一五二〇)、ヘルナンドコルテスはメキシコを伐ち(一五一九—二一)、ピサロはペルーを征服して(一五三一—三二)、エスパニア領を擴張せり、此の如くして新世界は主としてエスパニアの勢力の下にありたり而してオランダ人も多少施設する所ありしも見るべき結果を生せずして止み、第十七世期の始め頃よりイギリスの勢力次第に北アメリカに加はりルイ十四世の代、同地方に大なる地を有せしフランスと葛藤を生じてフランスの敗退と成りイギリスの殖民地たりし今の合衆國は遂に獨立するに至りしがエスパニア、ポルトガルの殖民地も亦母國と分離し終れり。

カボット

カブラル

バルボア

人口

種族

住民　アメリカ洲の人口は一億四千四百四十萬人ありて一方粁に付き平均凡そ三人なり、然れども其の分布は均一ならずして密なる地方は百人以上に達し疎なる地方は殆ど無人なり、又人口を種族別にせば最も多きは白人にして八千一百萬と算せられ、其のイギリス人は北部に多くエスパニア人、ポルトガル人は中部、南部に多きがアメリカ土人及び雜種に三千四百萬人ありて之に次ぐは黑人及びムラット(mulatten)ヨーロッパ人と黑人との雜種(二九〇〇)、支那人及びエスキ

モー(四〇)なり、而して更に之を宗教別にせば新教(七一〇〇)、ローマ公教(六〇〇〇)、ユダヤ教(一六〇)、異教、等を得。

アメリカ亞種は從來赤色人種又はアメリカ人種と稱へて五人種の一とせしが人種學的研究の進むに從ひて黄、白二種の混淆を本とし之に多少の黒種を加味したるものなるべしと認めらるるに至れり、皮膚は黄褐色にして銅色を帶び黒色の直剛毛を有するも鼻は高くして驚嘴狀を呈し各處に散居して數多の小民種を爲せり、而して北アメリカの土人はインヂアン又は赤皮と總稱せらるるも種々の分派あり殊にパンパ族の身長は一、七五乃至一、九二米突に達して最名高し。

部	邦土	面積	人口	方粁二付	都邑
北部	分國	本洲には廿一の共和國ありて其の五國は合衆政體、其の十六は統一政體なるが、其の他はイギリス、オランダ、ダンマルク、フランス、等分領す。			
	アサバスカン				
北アメリカ	カナック				
	アバシウ				
中アメリカ	ザパテーク				
	アズテーク				
	トルテーク				
	マヤス				
	オトミス				
南アメリカ	クイシウロ				
	カライブ				
	インカ				
	ゲアラニ				
	ボドクド				
	パタゴン				
	アラウカン				
	プナエレ(フエゴ)				

部					
北部	ダンマルク領	九	八、八一〇〇	一、一八九五	〇、二
	イギリス領	九	九七一、八四二〇	五七七、二四九四	〇、六
	カナダ	九	九五八、九七〇〇	五六〇、四三二八	〇、六 オッタワ
	ニウーファウンドランド	一	一一、〇六七〇	二二、二六四三	二 セントジョン
	ラブラドル(東部)		一、八〇〇〇	四〇〇九	〇、三
	ベルムダ		五〇	二、〇二〇六	四〇四 ハミルトン
	フランス領		二四二	六四八二	二七
	アメリカ合衆國	九	九四〇、三九七〇	七六一四、九三八六	八 ワシントン
	メキシコ共和國	一	一九八、七二〇一	一三六〇、七二五九	七 メキシコ
中部					
中央アメリカ	イギリス領		一、九五八〇	三、九六六八	二 ベリーズ
	グアテマラ共和國		一一、三〇三〇	一八四、二一三四	一七 グアテマラ
	ホンヂュラス共和國		一一、四六七〇	五四、三七四一	五 テグシガルパ
	サルバドル共和國		二、一一六〇	一〇六、八六〇〇	五〇 サンサルバドル
	ニカラグア共和國		一二、八三四〇	四二、九三一〇	三 レオン

カ				
コスタリカ共和國	四、八四一〇	三三、四二九七	七	サンホゼ
パナマ共和國	八、七四八〇	四〇、〇〇〇〇	四	パナマ
西印度諸島				
キューバ共和國	一一、八八三三	一五七、二七九七	一三	ハバナ
ハイチ共和國	二、八六七六	一四二、五〇〇〇	四九	ポートープレンス
ドミニカ共和國	四、八五七七	四一、六〇〇〇	九	サントドミンゴ
アメリカ領	九三一四	九五、三二四三	一〇三	バヤモン
イギリス領	三、一七二四	一六八、二六九九	五三	
フランス領	二八五八	三八、九四二九	一三六	
オランダ領	一一三〇	五、三六五二	四七	キルレムスタット
ダンマルク領	三五九	三、〇五二七	九九	クリスチアンスタット
南部				
グイアナ　イギリス領	二四、六四七〇	二九、五一二二	一、三	ジョージタウン
グイアナ　オランダ領	一二、九一〇〇	九、一〇〇〇	一、二	パラマリボ
グイアナ　フランス領	七、八九〇〇	三、二九〇八	〇、四	カイエンヌ
ベネズエラ合衆國	九四、二三〇〇	二五九、〇九八一	二	カラカス

部				
コロンビア共和國	一一三、五五五〇	四六三、〇〇〇〇	四	ボゴタ
エクアドル共和國	三〇、七二四三	一二七、二〇〇〇	四	キトー
ペルー共和國	一七六、九八〇四	四五五、九五五〇	二、六	リマ
ボリビア共和國	一二二、六六〇〇	一七三、四〇〇〇	一、四	スクレ
チレー共和國	七五、七三六六	三二〇、五九九二	四	サンチアゴ
ブラジル合衆國	八五二、八二一八	二一四〇、〇〇〇〇	一、七	リオ デ ジァネイロ
パラグアイ共和國	二五、三一〇〇	六三、一三四七	二、五	アスンシォン
ウルグアイ共和國	一八、六九二六	一〇三、八〇八六	四	モンテビデオ
アルヘンチナ共和國	二八〇、六四〇〇	五七〇、〇〇〇〇	一、六	ブエノス アイレス
イギリス領	一、二五三二	二〇〇九	〇、二	ポート スタンレー
合計	三四五八、六〇八七	一、四九七七、二七九四	四	

北アメリカ

◎グリーンランド

土地

グリーンランドはアメリカ大陸の北東にありて二百十七萬方粁の地積を以て世界第一の大島を形成すと云ふ、其の極南はファルエル岬の北緯六十度なるも極北の地は明確ならず而して東岸の北緯八十三度以内は數回の探檢を經たるの地にして港灣に乏しからざるも氷山流氷の爲に閉塞せらるるを以て航行極めて難く捕鯨に從事する船舶の稀に往來するあるのみ、西岸はデービス海峽、バッフィン灣に臨みて數多の狹灣を有し結氷の障碍稍〻少なし、ヨーロッパ人は北緯七十四度以内の地に居り、エスキモー人は同八十度以内の地に住めり、且又内部は平均海拔六五〇米突の臺地を形成し、其の沿岸山脈中、北東部には四千五百米突に達する高峯あり、氣溫は甚だ低く永世不滅の氷雪は殆ど我が國の三倍に當れる地方を藪へり、されば白熊、海獸、海鳥并に蘚苔類の生存は南西岸の地に限りて内部は寂寞として生物を見ること極めて稀なり、然れども積雪氷層の下に喬木の幹根又は枝葉の模狀を發見したるに依りて考ふれば太古の時代には此地もグリーンランドが眞に綠地たりしやを窺ひ知るに足る。

夏季に氷の融解を見る狹長なる所の沿海地は其の面積九萬方粁に達せずして住民は凡そ一萬一千九百人あるが東岸にあるものは約一千人にして四岸には一萬人あり、種族上はエスキモー又は雜種に屬するもの多く白人は至りて少數にして官吏、宣教師、敎員等の職務に從事せり、ダンマルク語は多少行はるるもグリーンランドの土語を以て通用語と爲せり。

住民

政治上はダンマルクに屬し南北の二管理區に分たれ、ゴットハーブ(Godthaab)好望及びの義ゴードハーフン(Godhavn)其港即ちゲス(Julianeshaab)は南端にありて二千内外の住民を有せり。ディスコ(Disko)は之が首邑たるが、ユリアネスハーブ内外の住民を有せり。

◉イギリス領

北アメリカの北部はダンマルク領のグリーンランド、合衆國領のアラスカ、フランス領の數嶼を除く外、全くイギリスの領土にして其の廣さは殆どヨーロッパ洲に均し、而して行政上之を分ちてカナダ領國、ニューファウンドランドの二部とするがラブラドル(東部)は後者に屬せり、此の外、合衆國の東方に當れるベルムダも亦イギリスの殖民地たり。

◉カナダ

境域 カナダ領國(Dominion of Canada)の極南の地は北緯四十二度にあり、北方は北緯八十三度以上に達するも未だ確乎たる境なくして北極洋に臨めり、北東はバッフィン灣、デービス海峽を隔ててグリーンランド島を望み、東は

大西洋に瀕し南は合衆國に境し、西は太平洋に臨み、アラスカ地方と境を接せり、地積は九百五十九萬方粁に近し、海灣、海峡は其の數少なからざるも冬季に結氷の害を蒙らざるものは甚だ多からず、半島、島嶼の如きも多くは極寒の地にあるが、利用の望みあるは南東又は南西に於けるものに限れり、而して北極諸島の地積は百三十萬方粁を超ゆと云ふ。

山岳　西部にはロッキーマウンテン山脈ありて長さは約二千四百粁に達せり、其の南部にはレフロイ(三三五三)、マーチソン(四一〇〇)、コロンビア(四三〇〇)等あるも北進すれば漸く低くしてシープ(二五〇〇)、ローガン(二七〇〇)等を見るのみ、但し北西隅にはクック(Cook)(四九〇〇)、ローガン(Logan)(五九五〇)の如き高峰ありてエリアス(Elias)山脈に屬せり、又ロッキーの西にはプルセル(Purcell)、セルキルク(Selkirk)(主峯ドナルド(Donald)山は三二四五米突の海抜)、ゴールド(Gold)、カリブー(Cariboo)の諸山脈幷に沿海山脈あり、而して東部に於ける山岳は著しからず、ローレンシア(Laurentian)山脈即ちローレンチード山脈がハドソン灣とセントローレンス灣との分水界を爲すあり、セントローレンス河の南岸にはアカヂア(Acadian)、ノートルダーム(Notre Dame)、シクショク(Shickshock)等の諸山脈あり。

マッケンジー

河湖　カナダは河湖に富みて殊に東部に於けるセントローレンスの流域は水誌上無比の現象を呈せり、而してハドソン灣に入る巨流はネルソンにして北極洋斜面にマッケンジー、太平洋斜面にユーコン、フラザー、コロンビアあるが、中部に於ける湖には大熊、マルテン(Marten)、大奴隷、アイルメル(Aylmer)、ゴルドン(Golden)、ガリー(Garry)、バーケル(Barker)、ヅーバウント(Doobaunt)あり、アサバスカ、ヲォラストン(Wollaston)、馴鹿(カリブー)、インヂアン(Indian)あり、キンニペグ、キンニペゴジス、マニトバ、ウーヅ(Woods)等あり、一々列擧するに暇あらず。

マッケンジー(Mackenzie)河に二源あり、南源をロッキーマウンテンのブラウン山附近に發するアサバスカ河とするが、北源はピース河と云ひてピーク山脈より出づ、此の二派は共にアサバスカ湖を流過して奴隷河と稱せられ、奴隷湖を出でてマッケンジーと成り、北緯六十五度の地に於て大熊湖の水を受けマッケンジー灣に依りて北極洋に注ぐ、源委通じて四千粁に達する一大河流なれども流域の地は寒冷を極むるを以て利便を供すること少なし。

プレーリー

地勢　カナダ領國は地勢上三部に區分するを得即ち大湖及セントローレンスの流域に當れるカナダ地方、廣漠たる平低の地より成る北西大平野、山岳高地と峽灣、島嶼に富めるコロンビア地方、是なり、而して赤河の谷とロッキーとの間に於けるプレーリー(Prairies)なる肥沃の草野は四十九萬七千方粁と概算せらるるが、亦東、中、西の三部に分ち得べし、其の東部は赤河、井ンニペグ湖地方を含み、十四萬五千方粁の地積と二百四十四米突の平均海抜とを有し、ローレンシア高臺を東にしダック、ボルキュパイン、等を西にす、井ンニペグの西百二十九粁にして第二の草野始まり三百二十二粁乃至三百七十粁の幅を有するが東部に於けるものと異なりてタートル(Turtle)、ツーチウード(Touchwood)、等の諸丘を見るも平均四百八十八米突の海抜を有するに過ぎずしてミズーリ高臺を西境とす、又井ンニペグの西六百四十粁にして第三の草野始まり八百粁の幅を以て漸次隆起してロッキーマウンテンの麓に到達せり。

氣候　土地廣大なるを以て氣候も亦一樣ならず、と雖、多くは大陸的なりと稱し得べし、而して東部即ち井ンニペグの東にある森林地方は寒威烈しきも降雨に不足なし、中部は寒暑甚しく降雨中度にして「チヌーク」(Chinook)溫和的西風の惠を受くるも亦ブリッザード(Brizzard)北東の寒冷風の害を蒙むることありと云ふ而してユーコン地方并にバーレングラウンド(Barren grounds)にありては冬季に零度下四〇乃至五〇度を示すこと稀ならず、西部は大山系の西麓に於ける太平洋沿岸の地にして海洋的の氣溫ニクーエストミンスターの平均溫度は一月の一、六、八月の一、六六に して年の八、七を有し雨量多し。

沿革　セノアの人ヂオバニッチ カボット(Giovanetti Cabot)が一四九七年を以てラブラドルに達せしを始めとし、ヂオバニッチの一子セバスチアノ(Sebastiano)の探檢一四九八)ポルトガルの船長がスペルコルテレアル(Gaspar Corteareal)の二回の旅行を經たる後、ジアック カルチエー(Jacques Cartier)は三回(一五三四―三五―四一年の旅行に依りてカナダを探檢しフランス王の名の下に同地を占領せしも、一六〇八年シアンプレン(Champlain)がクエベックを建てしまでは殖民の進歩遲々たりしなり、而して此の時に至りてアカヂア即ちノバスコシアよりスーペリオル湖に達し尙ほミシシッピーに沿ひてメキシコ灣に降下せる地方はフランス領と成りてモンレアル(Montréal)の建設(一六四二年)を見しがイギリスは有力なるハドソン灣會社を創立して大に競爭を試

み爰にエトレヒトの條約(一七一三)、パリー條約(一六七三)等に依りて獨占の地位を得たり、爾來 西領土會社の設立(一七八三)、エドワード公島、ニウーブランズ井ック、ノバスコシアの 立(一七八四)、上下兩カナダの分立、兩會社の合同(一八二一)、アリチシウコロンビア殖民地の設立(一八五八)、バンクーバー島の合併(一八六六)等を經て一八六一ー七一年に至り ニウー ファウンドランド以外の諸州は聯合してカナダ領國(Dominion of Canada)を組成せしが、領國の繁榮は赤河騷動(一八六九)に依りて暫く妨げられしのみにて、マニトバ州(一八七〇)、キーワチン(一八七六)、アシニボイア、サスカチェワン、アルベルタ、アサバスカの數區(一八八八二)が新設せられしは發達を證して餘りあり。

住民 人口は一八〇一年に於て凡そ二十四萬人なりしが、一八五一年の約百八十四萬、一八七一年の三百六十四萬足らず、一八九一年の四百八十三萬餘人を經て一九〇一年には五百三十七萬餘人(男二七五 女二六二)に達せり、來住者は一九〇四年に十三萬三百餘人、翌年に十四萬六千餘人ありたり、種族に就きては白人殊にイギリス人(三〇七)、フランス人(一六五)多く、ドイツ人(三一)、其の他のヨーロッパ人(一五)等之に次ぐが此の外にインヂアン及びメスチゾス(一三)支那人等あり、宗教はローマ公教の信徒(二二三)最も多きを占め、メソヂスト(九二)、プレスビテリアン(八四)、イギリス教(六八)等之に次げり、教育に就きては各州に大學を設くるが、二萬一千近くの學校は百十一萬餘の生徒を有す。

政治 カナダ領國は其の名イギリス領たるも實際に於ては專ら自治に依るを以て殆ど獨立國たるが如し、總督は各部の長官たる十四人の大官より成れる內閣を有して領國全部に關する百般の行政事務を司り、高等法院は司法の大權を有せり、立法權は上下兩院に屬せるが元老院は八十一人の議員を有し代議院には公撰に係れる二百十五人の議員あり、地方は九州七領土(アウンニボイア、キーワチン、アサバスカ、ユーコン、マッケンヂー、サンガバ、フランクリン)に分たれ各州には副總督及び議會あり、アッシニボイア、アサバスカの如き北西領土には副總督、立法會議、行政會議ありてユーコン領土には委員及び行政會議を設く。

地方	地積	人口
エドワード公島	五六〇〇方粁	一〇、三二五九
ノバスコシア	五、五五〇〇	四五、九五七四
新ブランズ井ック	七、二五〇〇	三三、一一三〇
サスカチェワン	一三一、四四〇〇方粁	八、九七四一
アルベルタ	六、九一九九	
コロンビア	九六、五一〇〇	一七、八六五七

ケベック	一六四、八九八	各領土	四二、四七〇〇
オンクリオ	二二八、二四七	北極島嶼	一三〇、一一〇〇
マニトバ	二五、四九四七	カナダ	九五八、九七〇〇
			五二七、一〇〇〇

兵備に關しては本領國を十二軍區に分てるが一九〇六年に於ける兵數は九萬七千八十七人なり、又海軍は海上艦に五隻、河上艦に二隻を備ふ、財政は一九〇五年に於て經常歳入七千百二十萬〔ドル〕、歳出約六千三百三十二萬〔ドル〕なるが國債は二億六千六百萬〔ドル〕以上あり。

生業 氣候の稍〻寒冷に失するに拘らず、農業は至りて盛にして多量の穀類を產す、殊にヒヮーロン、セントクレーア、エリエ、オンタリオ、等の沿岸地を以て然りとす、又マニトバ以東、セントローレンスの流域に當れる平低の地は草圖に適するを以て畜類の飼養甚だ多し、林業〔林地は三二は多量の木材を輿へて此の地の一大富源を爲せるが、製紙用木餅（パルプ）の製造も發達しつつあり、漁業は一九〇三年に於て凡そ二千三百十萬〔ドル〕の生產額に達したりしが鱈（三七六）、海老（三六二）、鮭（三五二）、鯡（一九九）、鯖（一六四）、等より成りノバスコシア（七八五）、ブリチシコロンビア（四七四）、等を主產地とせり、鑛業はノバスコシア、ブリチシコロンビア、クェベック、オンタリオ、北西領土、ユーコン領土に盛にして一九〇三年の產額は六千三百廿三萬〔ドル〕に近し、而して鑛產の主なるものは金（一八八三）、石炭（一五九六）を第一とし銅（五七三）、ニッケル（五〇〇）、銀（一一七）、「ポートランドセメント」（一九〇）、等之に次げり、此の他に石油（九二）、鐵（九二）、石絨（八九）、鉛（七六）、等あり。

貿易 貿易は一九〇五―〇六年に於ける輸入に二億九千萬餘〔ドル〕ありて輸出に約二億三千五百四十八萬〔ドル〕あるが、前年の輸入は二億六千百九十一萬餘〔ドル〕、輸出は一億九千百八十五萬餘〔ドル〕にして輸入先はアメリカ合衆國（一、六二七三）、イギリス（六〇三二）の外にフランス（七〇五）、ドイツ（六六九）、西印度（四九七）、等ありて輸出先はイギリス（一、〇一九五）、アメリカ合衆國（七七四〇）、西印度（四二九）、ベルジック（一七三）、フランス（一五一）、ドイツ（一一四）、等を主とす而して貿易品の主要なるものを示せば輸入に鐵及ば鐵器（四一九五）、石炭（二一二四）、毛纖物（一五五九）、砂糖（九二五）、綿布（八六〇）、化學品（六三七）、玉蜀黍（六一五）、實綿（六〇三）、果物

交通

大陸橫斷鐵道

(五〇四)等あり、輸出に木材(三五六、〇〇〇)、小麥(一八二六)、金(一五二〇)、乾酪(二〇三〇)、牛肉(一一三六)、バタ(五九三)、皮(五一九)等あり、船舶の出入は入船に一萬四千九百八十五隻、八百十四萬餘噸、出船に一萬五千五十九隻七百六十八萬餘噸ありて其の過半(入五三五萬噸 出四六七萬噸)はイギリス及びカナダ船なりき。

商船は七千百五十七隻五十九萬餘噸あり、鐵道(一九〇四年)は三萬一千五百六十粁あり、郵便局は一萬四百六十ヶ處に設けられ、電信線(一九〇三―〇四)は六萬三百十九粁の長さと十六萬一千百餘粁の延長とを有し、電話線の長さは三萬三千四百粁に近く延長は三十四萬五千粁を超ゆ。

領國の鐵道中最要なるものを大陸橫斷線路なりとす、其の(Grand Trone)線はインデルコロニアル(Intercolonial)線に接續してデトロイト(Detroit)とハリファクス(Halifax)とを連れ、其のカナヂアンパシフィック(Canadian pacific)線は五千粁の長を有するがモントリール(Montreal)に起りオッタワ(Ottawa)、ポートアーサー(Port Arthur)、ウィニペグ(Winnipeg)、レシナ(Resina)、カルガリー(Calgary)等を經、ロッキーマウンテンを越えトムソン(Thompson)及びフラザー(Fraser)を時りバンクーバーの對岸地たるポートムーデー(Port-Moody)に達す。

オッタワ
トロント
ハミルトン
ロンドン
クェベック
モントリール

處誌　オッタワ(Ottawa)(五、九九二八)はカナダ領國の首都なり、オッタワ河に瀕し木材集散の中心にして領國屈指の製材場あり、附近に有名のシャーディエール(Chaudière)瀑布あり、トロント(Toronto)(二一〇、八〇四〇)(北緯四三度三九分三六秒 西經七九度二三分四〇秒)はオンタリオ湖に沿ふ、カナダ第二の都會、オンタリオ州の首府、商工業の一中心にして船舶の出入少なからず、ハミルトン(Hamilton)(五、二六三四)はトロントの南にありてカナダのバーミンガムたり、ロンドン(三、七九八一)はセントクレーア湖に注ぐテームス河畔に位す、ポートアーサー(Port Arthur)はスーペリオル湖岸の要津なり、ゴデリッチ(Goderich)は食鹽業の中心なり、ペトロレア(Petrolea)は石油業の中心なり。

クェベック(Quebec)(六、八八四〇)は同名の州の首都にしてセントローレンスの左岸にあり、一六〇八年の創建に係れり、木材の取引行はれて繁華の地なり、モントリール(Montreal)(二六、七七三〇)(北緯四五度三〇分一七秒 西經七四度三四分四八秒)はセントローレンス中の一島にありて該河とオッタワ河との會流地に近し商業盛にして工業も稍見るべくカナダ第一の大都會なり、アンチコスチ島(八五〇〇方

シログマ「極熊」(Ursus maritimus)

セイウチ 海象 (Trichechus ra marus)　アザラシ 海豹 (Phoca barbata)

セントジョン

ハリファックス

キンニペグ

バンクーバー

粁)はセントローレンスの河口にあり、三千方粁は耕種地に供し得べきも住民の數は甚だ少なし、然れども漁期には數千の漁夫の來るありて頗る殷賑を極るが漁獲高には見るべきものあり、セントジョン(St. John)(四、〇七一二)はファンヂー灣に瀕し不凍港を有し市街殷賑にして、ニゥーブランズキック最要の都なり、ハリファックス(Halifax)(四、〇八三二)はノバスコシア半島の東岸にあり、一州の首府にして不凍の良港を有し、交通の要地(冬期に於けるトランスコンチネンタルカナヂアン線の起點)たるのみならず、軍事上重きを置かるる處とす、シドニー(Sydney)は漁業盛なるブレトン岬島にあり、チァーロットタウンはエドワード公島の首府なり。

キンニペグ(Winnipeg)(四、二三四〇)はマニトバ州の首府なり、キンニペグ湖の南、北の赤河とアッシニボイア河との合流の地にありてパシフィックカナヂアン鐵道に沿へり、實に交通上の要區たり、ドーソンシチー(Dawson City)は黄金に豐富なるユーコン領土のクロンダイク(Klondyke)地方にあり。

バンクーバー(二、六一三三)はブラルド灣の南岸に位す、我が横濱を距ること四千五百六十浬、カナダ太平洋鐵道の竣工以來此の新開の地は盛況を呈

シログマ「白熊」「極熊」(Ursus maritimus)には身長二米突六十糎に達するものありて重量は四百乃至七瓩なり、極地に產する猛獸にして頗る游泳に巧なり、好みて魚類、海豹、海馬の類を啖ふ、毛皮を敷物、其の他各種の用に供し肉を食料に充て筋を綱具に製することあり。

セイウチ「海象」(Trichechus rosmarus)は北極洋に產する[illegible]して身長は七米突に達し重量は一千五百瓩に達する[illegible]、牙は海象牙と稱して彫刻の料に供し肉及び脂肪を食用と爲し皮は强靭なる紐に製し得べし。

アザラシ「海豹」(Ph[illegible])は北極洋の原產なるもアジア、アメリカ、ヨーロッパ[illegible]る北地の沿海に棲住す、數種あり、其の普通種(Ph. [illegible]na)は俗に海犢、又は海犬と唱へられ稀には身長の[illegible]達するものあり、其のグリーンランド種(Ph. green[illegible]に獵獲せられ其の有髯種(Ph. barbata)には身長の三米突に達するものありて殊にカムチアツカ地方に多しと云ふ。

バンクーバー島

ビクトリア

せり、ニゥーエストミンスター(New Westminster)は鮭に富めるフラザー河を溯ること約十三粁の地にありて錨地を有す、エール(Yale)はフラザーに沿へる要津なり、ロスランド(Rossland)はクーテネー產金地にあり。

バンクーバー(Vancouver)島は一名をヌトカ島と云ひフラザーの河口と相對せり、長さ四百三十粁にして幅は六十乃至八十粁あるが四萬一千四百四十方粁の地積を有せり、本島の狀態は概して大陸部のブリチシコロンビアに類似せるが、直立二千五百米突以上に達する山岳は沿海の地に屹立して數多の狹灣、半島は大陸の海岸と互に犬牙錯綜せり、而して石炭は豐富にして樅、柏等に富めるが森林は佳良の木材を供給す、加ふるに沿岸の海幷に內部の湖には魚類多し、氣候は夏季にありては極めて爽快を覺え冬季にありても溫和にして降雪少なしとす然れども沃土に乏しき山岳の地も少なからざれば耕耘の業は著しき發達を見ること能はざるべし、ビクトリア(二、〇八一六)は本島の首府にして又コロンビア全州の首府たり、港は大船巨舶の出入に便ならず、本港を距ること六粁の地にあるエスキマルト(Esquimalt)

は極めて良好なる港にて防備上樞要の地たりナナイモ(Nanaimo)、エルリントンは孰れも石炭の採掘に從事す。

◎ニューファウンドランド

境域　ニューファウンドランド(Newfoundland)島は十一萬六百七十方粁の地積を有するが、島形は三角形を呈し、ノルマン、レー、レースの三岬を極點とす、海岸は屈曲に富みて三千二百粁に達し、南東部のアバロン半島は島の本部と將に連絡を失はんとするが如き形を呈す。

土地　土地は河湖に富み湖の大なるものをエクスプロイツ(二四一粁)とす地味は佳良なるに非ざるも亦耕牧に適するもの少なからず、氣候はカナダに比すれば温和なり、濃霧屢〻起り快晴の天氣少なきも氣温は概ね氷點以上にありて稀には二十五度に達することなきにしもあらず。

住民　人口は二十一萬七千に近くエスキモー人は全く消滅せり、漁業に從事するものは凡そ六萬三千なりとす、知事は行政會議、立法會議、代議院と共に全島の施政を司りラブラドルの東部を管理す。

生業　本島富源の最大なるものは漁業なるが其の旺盛なるは島の東并に南東に當りて一大海底臺地の存するあるに因れり、此の臺地の現出せしは北極洋より流れ來る氷塊が高温の海流に逢ひて溶解する際、齎したる岩石砂礫を捨てて海底を填充せしに基づけるが如し、貿易(一九〇四―〇五年)は輸入に二百五萬餘「ポンド」、輸出に二百十三萬餘「ポンド」あるが主要輸出品は乾鱈、鱈油、海豹皮、海豹油、海老、鯡并に鐵、銅なり、又鐵道は一千七十二粁、電信線は四千四百四十七粁あり。

セントジョン　セントジョン(St. John)(二、九五九四)はアバロン半島の東方に位し、コンセプションの西部に於けるヘーボルグレース(Harbour Grace)と鐵路相通ず。

◎バルムダ

バルムダ(Bermuda)諸島は三百の珊瑚礁より成りて五千方粁の地積、一萬八千足らずの住民を有す、氣候温和にして蔬菜の栽培、又は冬季の住處に適するのみならず、ニューファウンドランド、西印度の中間、合衆國の東方(一二〇〇粁)にありて兵事上の要地たり、知事ありて之を管理するが海底電線はハリファックス、ジアマイカ等にて世界最北のものとす

通ぜり、首邑をハミルトン(Hamilton)と云ふ。

◎フランス領

十八世期に於てはアメリカ北部の要處の多くはフランスの所有なりしが、目下は僅にニウーファウンドランドの南に近きセント、ピエール(St. Pierre)、ミクロン(Miquelon)の數嶼に過ぎざれば地積は二百四十二方粁にして人口は六千五百に達せず、然れども本領の位置たるや世界第一の豐魚地と稱せらるる彼の海底臺地の附近にあればフランス本國より來り漁するもの少なからず、從ひて本領土は廣表の微々たるに拘らず、比較的に重要なりと知るべし。

◉アメリカ合衆國

境域 アメリカ合衆國(United States of America)は北アメリカ大陸の中部を占め大西洋と太平洋との間に介在するが、北緯の二十六度より起りて四十九度に達し、西經七十二度と百二十九度との間にありて、北はカナダ領國に接し、東は大西洋に臨み、南はメキシコ灣に瀕し又メキシコ共和國と境を交え、西には太平洋を控えたり而してアラスカ領土はブリチシコロンビアを隔て

て大陸の北西端を形成せり、地積は九百四十萬餘方粁ありて北アメリカの殆ど半に當れるが我が日本帝國の約二十一倍に相當し世界屈指の大國たり、平均の長さは四千二十三粁にして平均の幅は二千九十二粁なるが、最長はコッド岬より太平洋に達して四千五六百粁を示し最大幅はテキサスの南端よりカナダに至る二千五百七十五粁なりとす。

海岸 合衆國の沿海の地はヨーロッパの海岸に及ばざれども亦其の屈曲は多からざるに非ず東岸に於ては廣大なる灣港の存するありて船舶の碇繫に利便を供するが其の主なるものはマッサチューセッツ灣、ニューヨーク灣デラエーア灣、チーサピーク灣、等なり、西岸は屈折に乏しきもサンフランシスコ港、其の他に多少の狹灣ありて、要するに海岸線の延長は二萬二千粁に達し別に五千粁の湖岸を有せり。

東岸 マッサチューセッツ　ニューヨーク　デラエーア　チーサピーク
灣
南岸 タムパ　モビル　ガルベストン
西岸 サンフランシスコ　キラパ

海峽
- ロングアイランド　フロリダ　サンタバルバラ
- ゴールドンゲート　ジゥアンデフカ

島嶼
- ロングアイランド島　フロリダ列島　サンタモニカ諸島

半島
- メーリーランド　フロリダ　ニゥーオルリアンス

地角
- コッド　メー　チァールス　ハッテラス　ルークート　サブル
- 南西パス　フラッタリー　ブランコ　メンドシノ　コンセプシォン

山岳　山脈の主要なるものを記さんに西部にはカスケード、シエラネバダ、ロッキーマウンテンありて東部には海抜著しからざるアレガニー山脈あ、アヂロンダック、カストキル、グリーン、ホワイト等の支脈に依りて大湖地方に達せり。

西部
- カスケード山脈
  - ベーカー(三三〇〇)　ライニアー(四四二三)　アダムス(三八〇〇)　フード(三五八四)　ジェファーソン(三二二一)
- シエラネバダ山脈
  - シァスタ(四三七四)　ラッセン(三一八一)
  - ライエル(四〇二八)　ホワイトネー(四四一〇)

ロッキー山脈
- 北部
  - ハンプレイス(三三五〇)　ワシァキーニードル(三七三五)　フレモント(四二〇三)
- 南部
  - ハーグ(四二一六)　ジェームス(四〇四九)　ポーヱル(四〇八四)　ハルワルド(四三八一)　パイクス(四三一二)
  - ウンコンパーグル(四三三九)　キルソン(四三五二)
  - ブランカ(四四〇九)　スペイン(四一五〇)　クレブラ(四二八八)　タオス(四〇〇七)

東部
- アレガニー山脈　ミッチェル(二〇三八)
- ホワイト山脈　ワシントン(一九一七)
- アヂロンダック山脈　マーサー(一六三九)
- グリーン山脈　マンスヒエルド(一三五〇)　キンチングトン(一二八七)
- カストキル山脈　ハイペーク(一一五八)

合衆國の領土内に於けるロッキーマウンテンは二部に分かれて北半は北西より南東に走り南半は北より南に趣けり、而して中間には臺地ありて鐵道太平洋中線

は海拔二千四百米突の地に於て之を通過せり。

北岩山脈

北岩山脈は單純なる形狀を呈せるが、太平洋北線はミウラン(Mullan)峠を海拔一六九二米突の隧道に於て越過し、山岳は離合して數ヶ處に於て「パーク」(Parks)と稱する地域の形成せらるゝを觀る、中に就きてイエローストーヌナシオナルパーク(Yellowstone National Park)五千有餘の溫泉、壯大なる噴騰泉、熱湯を湛ゆる澤池ありて山岳の雄姿は瀑流峽谷の異彩と相俟ちて天下無双の奇勝地なりとなすを以て最も著しとす。

南岩山脈

南北の兩部はウインドリーヴァー(Wind-River)山脈、最高峯フレモント(Fremont)(四一三七)、スネークリーヴァー(Snake-River)山脈、ララミー(Laramie)高原、ブリッヂァー(Bridger)盆地、等に依りて連結せらる。

南岩山脈は東西の二派より成りて中間にはパーク(Park)と稱せらるゝ臺地的高谷を挿みて海拔一八〇〇乃至三〇〇〇米突の北パーク、中パーク、南パーク、サンルイパーク、等を出現せしめてプラット(Platt)、アーカンサス(Arkansas)、コロラド(Colorado)、リオグランデデルノルテの水源地を爲せるが、東派山派即ちフロントランジ(Front Range)は最高峯たるブランカ(Blanca)(四四〇九)、ロング(Long)(四三五二)、ピーク(Pike)(四三一四)、グレイ(Gray)(四三七四)、等を抱括し、西派山脈即ちコロラドランジ(Crolado Range)はサワッチ(Sawatch)諸山最高峯ハーヴァード(Harvard)(四三八四)火山質のアンコンパーグル(Uncompagre)(四三四二)山叢、サンジュアン(San Juan)山脈等を含み「カニオン」(Cañon)並に「メサ」(Mesa)の現出を認む、而して東西に走るウインター(Uintah)山脈(最高峰ギルベルト(Gilbert)(四一七五))はコロラドランジをして大鹹湖畔に聳えて大盤地の東境を爲せるワーサッチ(Wasatch)山脈に連絡せしむ。

コロンビア臺地

コロンビア臺地は西にカスケード山脈を、東にロッキーマウンテンスを控ゆるが內部はブリウーマウンテンス其の他の山岳ありて土地は主として熔岩、玄武岩より成れるが、河流には瀑流を爲すもの少なからず。

大盤地

大盤地(Great Basin)は一三〇〇乃至一五〇〇米突の海拔を有せる三角形の閉塞地を爲せるが、東はワーサッチ(Wahsatch)山脈、コロラド河、西はシエラネバダにて境せられ內部には北より南に走れる約二十派の小山脈ありて六乃至三十粁の幅を有する殆ど無樹的なる谷地を挾めり、而して本域中の水は一千三百五十米突內外の海拔を有する大鹹湖井にフンボルト湖の二ヶ處に瀦留す、又南西隅には二ヶ處の窪地甲海面下三九三米突、乙海面下〇米突あり。

コロラド臺地

コロラド臺地はロッキーマウンテンスとワーサチ諸山との間にあり、コロラド河は支流と共に臺地の表面を削割して無數の「メサ」及び深淵的「カニオン」を現出せしめたるが最も壯大なるものはマーブルカニオン、大カニオン、等とす。

シエラネバダ

シエラネバダ(Sierra Nevada)雪山の義は南の方タヒチピ(Tahitipi)の凹處に起り、北の方ラッセン(Lassen)山(三一九四)に終る、花崗岩又は第三紀層より成りて產金地に富めるが最高峯をホイトネー(Whitney)(四五四一)と云ふ、而してライエル(Lyell)山の麓には奇勝の地として有名なるヨセミテ(Yosemite)谷あり。

カスケード山脈

カスケード(Cascade)山脈は火山質にして硫氣を散するシアスタ(Shasta)(四三九一)、圓錐形を有するライニアー(Rainier)山即ちタコマ(Tacoma)山(四四二〇)、時々爆發するの患あ

河流

るバーカー(Baker)(三二九一)、等を抱括せるが、山頂には積雪、氷河の存するありて、腹には綠樹の蓊蔚として茂生するを觀る。

地勢 ロッキーマウンテンは西部に偏在して此の國の山地を形成し太平洋の海岸に於けるカスケード山脈、シエラネバダは一の高臺地の西界を爲せり、此の臺池は岩石若しくは砂礫より成り中央に大鹹湖を抱けるがワーサチ山脈に依りて二部に分たる、ロッキーの東にありては土地平坦にして起伏に乏しき一大平野を爲し地味極めて肥沃なり、平地の東端にはアレガニー山脈ありて大西洋沿岸平野の西界を爲せり、該平野は南方に進むに從ひて廣く遂に中部の平野と相連續するに至る。

水誌 河流は廣大なる大西洋斜面、狹長なる太平洋斜面幷に閉塞地の三部に屬せしむることを得、而して大西洋斜面よりメキシコ灣斜面を分離して四地域と爲し各地域に就きて主要なる水脈を記さんとす。

大西洋斜面

赤河 セントジョン(六四四) コンネチカット(六四四) ハドソン(五二三)

デラエーア(四八〇) サスケハンナ(七二四) ポトマック(六四〇)

ジェームス(七二四) ロアノーク(五六三) ペヂー(五六三) サンチー(五六三) サバンナー(六四〇) アルタマハ(六四〇)

メキシコ灣斜面

チァツタホーチェー アラバマ(八八五) ミズーリ＝ミシシッピー(七二〇〇)

ブラゾス コロラド リオグランデデルノルテ(二八〇〇)

太平洋斜面

コロラド(二〇〇〇) コロンビア(二〇〇〇)

閉塞地

熊河 エバー(weber) ヨルダン フンボルト(八〇〇)

リオグランデ

リオグランデデルノルテ(Rio Grade del Norte)メキシコ人のリオブラボ(Rio Bravo)即ち野蠻流なりはコロラドの山地に發してニウーメキシコを經て南東に流れ、メキシコ、テキサスの境を爲し、メキシコ灣の西部に入る、源委通じて二千八百粁に達し流域は五十七萬方粁と計上せらる、而して本流は河口より七百二十四粁まで溯航するを得、支流中の最大なるペコス(Pecos)はモロ山脈に發す。

世界地理提要 あめりか洲 アメリカ合衆國

コロラド河 コロラド(Colorado)河はグランド河及びグリーン河の合流より成れり、南西に流れてメキシコ領の地を經過しカリフォルニア灣に入る長さは二千粁ありて淺吃水の汽船は九百六十粁以上溯るを得而してグランドチキトー、ビル井リアムス、リオジラを左岸より、リオバーヂンを右岸より受く、而してコロラドチキトー(Colorado Chiquito)即ちフラックス(Flax)の河口の下流約六百四十粁に至りて大高臺を流過して有名なる大カニオン(Cañon)を生ぜしむ、其の急壁の高さは上流に於て一千二百乃至二千一百米突に達せり。

コロンビア河 コロンビア(Columbia)河はオレゴン(Oregon)河とも云ふ、ロッキーに發し不規則なる流向を呈するも漸く南西に趨きて西折し長さ五十六粁、幅四千八百米突乃至十一粁の河灣を成して太平洋に終る、長さに二千粁、流域は六十五萬五千方粁ありて支流にはクラークス フォーク、著しき「カニョン」をする蛇河等あり、本流は航行の便少なるも鮭に富めり。

湖沼 湖沼に就きては先づ五大湖を北東部に得るも其の中、全く當國内にあるはミシガンなり、此の他に名高きは無口の大鹹湖(面積六〇〇〇方粁海面上一二八〇米)なり。

氣候 合衆國は其の幅員廣大なるを以て氣候が各地一樣ならざるは論を俟たず、氣温の年平均はワイオミング州の五度よりアリゾナ、フロリダ、ルイジアナの二十一度までの間にあり而して北部幷に中部に於ける特性は夏季の酷暑と冬季の嚴寒に加ふるに寒暑の激變を見るにあり、北西地方の氣候は乾燥にして健康に適するも十一月より四月までは結氷降雪多くして寒氣極めて凛烈なり、新イギリス地方は稍、温和なるも濕潤に過ぎ、南部殊にルイジアナ、フロリダは健康に適せずして地方病又は惡疫の流行するあり、要するに合衆國は春季なく冬季より夏季に移る際には短き降雨期あり而して最も爽快の氣節は九月より十一月までの秋季にしてアメリカ人の所謂インヂアンサンマーなりとす、而して氣候上最多の幸福を有せるはカリフォルニアにして沿岸山脈幷にロッキーマウンテンは北と東との寒風に對して障壁と成るも、太平洋より來る濕風を遮らざれば常に春季にあるが如し、風に就きて旋風、逆旋風の屢、起ることあるは最も注意すべきなり。

沿革 一六〇七年イギリス人はバージニアのジェームスタウンに始めて殖民せしが、一六四三年マッサチューセッツ、ニューブリマウス、コンネチカット、ニューヘブン、等は新イギリスの合衆殖民地を形成したり、又メーリーランド、カロライナ、ニューヨーク、ニュージアーシーペンシルバニアの建設ありたる後、一七三二年にはジオールジア建ち大西洋岸は多くイギリス人之を占めしが、一七七六年に至りてイギリス人の殖民に係れりか洲 アメリカ合衆國

人口　種族

る十三州（ニウーハンプシアイア、マッサチウーセッツ、ロードアイランド、コンネチカット、ニウーヨーク、ニウージアーシー、ペンシルバニア、デラウエーア、メーリーランド、バージニア、南カロライナ、北カロライナ、ジョールジア）は獨立を宣言し、一七八三年の條約に依りて西方ミシシッピーに至る地を得たり、而して一八〇三年にはフランスよりルイジアナ（Louisiana）を一八一九年にはエスパニアよりフロリダを購求せしのみならず、テキサス（一八四五）ニウーメキシコ、アリゾナの一部、カリフォルニア（一八四九）の合併あり、其の後內亂（一八六一―六五）に依りて一時南北の二部に分離せしことありしもオレゴンの占取（一八〇四―一一）、アラスカの買收（一八六七）或はハワイ、フィリッピン、ポルトリコの獲得と共に合衆國の領土は大なる膨脹を爲せり。

住民　人口は一九〇五年の推算に依れば八千三百十四萬三千人なるが、一九〇〇年の調査に從へば凡そ七千六百三十萬人（男三九〇六、女三七二四）にして一方粁八人に當り一八九〇年に比すれば約二割一分の增加なり、種族上は一九〇〇年に於て白人に六千六百九十九萬餘人ありて、有色人は九百三十一萬餘人に過ぎざるが、黑人及ムラット人（八八四〇）、インヂアン（二六六）、支那人（一一九）日本人（八六）より成れり、而して同年に於ける外國人の數は一千四十六萬餘人にしてドイツ人（二一八二）、アイルランド人（一六二）、大ブリテン人（一一七）、カナダ及ニウーファウンドランド人（一一八）の外にスエリゲ＝ノルゲ人（九一）、ロシア人（六四）、エステルライヒ＝ウンガルン人（六四）、イタリア人（四八）等ありたり、又一八二一―一九〇五年の來住者二千三百十萬餘人中最も多數を占むるはイギリス人（七三六）にしてドイツ人（五二二）、イタリア人（二〇〇）、エステルライヒ＝ウンガルン人（一九七）、ヨーロッパロシア人（一五七）、スエリゲ＝ノルゲ人（一四九）等も亦主要部を爲し種族の多きこと驚くに堪えたり、言語はイギリス人最も勢力あるがドイツ語も侮るべからざるものあり。

宗教　教育

宗教に就きては一八九〇年に於て新教に一千三百四十萬人の信徒ありしがローマ公教徒は六百三十萬に止まりユダヤ教徒は十三萬人なりき。

教育に就きて初等教育には約一千七百萬人の生徒あるも未だ普及の度に於て缺くる所ありて一九〇〇年の調査は十歲以上のもの百人中、十一人近くは讀み書きを爲し得ざることを示せり、又中等教育の學校は四百五十五校ありて十三萬近くの學生を有せり、此の外に公私各種の學校は凡そ一千八百六

十萬人と算せられ一九〇二―〇三年の圖書館數は一萬部以上を有するもののみにても一千を超え新聞雜誌類の出版多し。

政治　政體は合衆共和制にして四十八州(States)一區(Federal district)二領土(Territory)より成れり、一七八七年の發布に係りて一八七〇年の改正を經たる憲法は合衆國の大政を行政、立法、司法の三權に分つ、複撰法に依りて四年毎に改選せらるゝ大統領は國務、財務、陸軍、海軍、內務、遞信、司法、農務商工の各大官より成る內閣を率ひて行政を司り、立法權は元老院と代議院とより成る合衆議會に屬するが、其の元老院議員は九十二人ありて各州二人の割合に各州の議會之を推擧し、其の代議院議員は三百九十人にして普通撰擧法に依りて各州之を撰出す、司法權は高等法院以下の裁判所に屬せり、各州は自治の共和國にして二院より成る立法議會を備へ、公撰知事を戴きて之に行政を委ぬるが知事の任期は一年乃至四年なり、領土に就きて其の三は議會、知事を有するも、アラスカは自治的ならず、又地積小にして人口多きコロンビア區は大統領の任命せる三委員の管理する所たり。

州名	地積（方粁）	人口	方粁ニ付	首府
メイン(Maine.)(Me)	八、五六六八	六九、四四六六	八	オーグスタ
ニューハンプシャイア(New Hampshire)(N.H.)	二、四二八五	四一、一五八八	一七	コンコルド
ベルモント(Vermont)(Vt.)	二、四七六七	三四、三六四一	一四	モンペリエー
マッサチセッツ(Massachusetts)(Mass.)	二、一二一三	二八〇、五三四六	一三七	ボストン
ロードアイランド(Rhode Island)(R.I.)	三三三〇	四二、八五五六	一三三	プロビデンス
コンネチカット(Connecticut)(Conn.)	一、四五三四	九〇、八四二〇	六二	ハルトフォード
ニューヨーク(NewYork)(N.Y.)	一三、四九九四	七二六、八八九四	五五	アルバニー
ニュージャーシー(New Jersey)(N.J.)	二、一一六七	一八八、三六六九	八九	トレントン
ペンシルバニア(Pensylvania)(Pa.)	一一、六六四一	六三〇、二一一五	五四	ハルリスブルグ
デラエーア(Delaware)(Del.)	六一六四	一八、四七三五	三〇	ドーバー
メーリーランド(Maryland)(Md.)	三、一八四八	一一八、八〇四四	三七	アンナポリス
コロンビア區(D. of Colombia)(D.C.)	一七九	二七、八七一八	一五五七	ワシントン
バージニア(Virginia)(Va.)	一〇、九六三四	一八五、四一八四	一七	リチモンド

西バージニア(WestVirginia)(W.Va.)	六三四六	九五六〇〇	五	チャールスタウン
北カロライナ(North Carolina)(N.C.)	一三六四一〇	一八九三一〇	四	ラレー
南カロライナ(South Carolina)(S.C.)	八〇四一一	一四〇三一六	七	コロンビア
ジョージア(Georgia)(Ga.)	一五三九三三	一一一六三一	四	アトランタ
フロリダ(Florida)(Fla.)	一五一七六一	五一八五四一	三	タラハッセー
アラバマ(Alabama)(Ala.)	一三四〇四三	一八一八九七	四	モントゴメリー
ミシシッピー(Mississippi)(Miss.)	一一一三五	一五五一一七〇	三	ジャクソン
ルイジアナ(Louisiana)(La.)	一一八五一六	一三一六三五	一一	バトンルージ
テキサス(Texas)(Tex.)	六八九四〇	三一四八一〇	四	オースチン
テンネシー(Tennessee)(Tenn.)	一〇八九一一	一一〇一〇一六	八	ナシビール
ケンタッキー(Kentucky)(Ky.)	一〇四四六	一一四七一四	一一〇	フランクフルト
オハイオ(Ohio)(O.)	一〇六一四〇	四四三七四五	三九	コロンブス
インヂアナ(Indiana)(Ind.)	九四一六一	一三一一四六一	一七	インヂアナポリス
イリノイス(Illinois)(Ill.)	一四六九三	四六一一五三〇	三	スプリングフィールド

アーカンソウ(Arkansas)(Ark.)	一三七四五	一一一一五六〇	九	リトルロック
オクラホマ(Oklahoma)(Ok.)	八一五八三	七九〇三九一	四	グートリー
ミズーリ(Missouri)(Mo.)	一七九〇五八	三一〇九六五一	一七	ジェファーソン市
カンサス(Kansas)(Kans.)	一一一九八三	一四七〇四九五	七	トペカ
ネブラスカ(Nebraska)(Nebr.)	一一〇一〇九一	一〇六三三〇〇	五	リンカーン
アイオワ(Iowa)(I.T.)	一四五七三三	一一一一八五三	一五	デーモイン
ミシガン(Michigan)(Mich.)	一五一九一三	一四一〇九八一	一六	ランシング
キスコンシン(Wisconsin)(Wis.)	一四四八五	一一〇六〇九一	一四	マヂソン
ミネソタ(Minnesota)(Minn.)	一一七〇八八	一七五一三四	八	セントポール
南ダコタ(South Dakota)(S.Dak.)	一一〇九一四	四〇一五七〇	一	ピール
北ダコタ(North Dakota)(N.Dak.)	八三五九	三一九一四六	一七	ビスマルク
モンタナ(Montana)(Mont.)	三八〇七一	一四三三九	〇六	ヘレナ
ワイオミング(Wyoming)(Wy.)	一五三四四	九一五三一	〇四	チエンヌ
コロラド(Colorado)(Colo.)	一五九六九	五三九七〇〇	一	デンバー

ユター(Utah)(U.)	二一、九九五	二七、六四九	一、三	サルトレーキシチー	
アイダホ(Idaho)(Id.)	二一、七一〇六	一六、一七二	〇、八	ボイス市	
ワシントン(Washington)(Wash.)	一八、二七九	五一、八一〇三	三	オリンピア	
オレゴン(Oregon)(Oreg.)	二五、〇八〇〇	四一、三五六	一、七	サレム	
ネバダ(Nevada)(Nev.)	二、六六四七	四、二三五	〇、二	ガルソン市	
カリフォルニア(California)(Cal.)	四〇、九八〇七	一四八、五〇五三	四	サクラメント	
アリゾナ(Arizona)(Ariz.)	二九、四九二一	一二、九三一	〇、四	フェニックス	
ニューメキシコ(New Mexico)(N.M.)	三一、七七四六	一九、五二一〇	〇、六	サンタフェ	
アラスカ(Alaska)	五五、二五〇〇	六、三五九一	〇、〇四	ジュノー	
ハワイ(Hawaii)	一、六七〇〇	一五、四〇〇一	九	ホノルル	
在外軍人	—	九、一二九	—	—	
合衆國	九四二〇六七〇	七六三、三八七	八	ワシントン	

兵。備(一九〇六年)に就ては陸兵に士官三千八百五十六人、下士卒六萬三百八十五人ありしが兵備上の目的を以て合衆國は大西洋、北、南西、太平洋、フィリピンの五區に分たれゴブアーノーアアイランド(ニューヨーク、セントルイ、オクラホマ、サンフランシスコ、マニラ)を以て本據とす、海。軍は強大にして百十五隻、四十一萬九千二百餘噸、七十六萬六千餘馬力、七百二十八の砲門、二百十四の水雷發射管、二萬八千人足らずの乘組幷に少なからざる補助艦を有するが、建造中のものは一等戰艦九隻、甲裝巡洋艦六隻、其の他合はせて二十八萬餘噸なり、又艦隊には北大西洋、太平洋、アジア、特務、等の別あり。

財政上は一九〇五年六月に終れる會計年度に於て歳入に、關稅(二、六一七、九、內國稅(二、三四〇九、郵使(一、五二八二、雜、等の六億九千七百十萬餘「ドル」ありて歳出凡そ七億二千十一萬「ドル」は內務(一、七一七七、郵便(一、七〇一二、陸軍(一、二四五五、海軍(一、一八二四、財務(九〇六八、等に充てられたり而して一九〇五年に於ける國債は二十二億七千五百萬「ドル」を超えたり。

生業 一九〇〇年の調査に依れば五千八百二十二萬餘人の中、農業に從

事するものは凡そ一千四十四萬人にして、工、鑛、漁の三業に從事するもの凡そ七百十一萬人、商業に從事するもの四百七十八萬足らずありたり。

農業に就きて記さんに小麥は約十九萬四千方粁の地に栽培せられて二百四十四億「リートル」以上の産額ありカンサス、ミネソタ、北ダコタ、南ダコタ、ネブラスカ、等を主産地とす、又「オート」麥は十一萬三千餘方粁の地より凡そ三百三十六億「リートル」を産し玉蜀黍は三十七萬三千餘方粁の地より約九百五十四億「リートル」を得、此の他に「ライ」麥、大麥、米、蕎麥、馬鈴薯あり、甘蔗、甜菜あり、綿は凡そ十一萬方粁の地に栽培せられ、四億二千萬「ドル」足らずの生産力を有するが、テキサス、ジョージア、ミシシッピー、アラバマ、等を主産地とす、而して五千五百五十一萬「ドル」に達する煙草はケンタッキー、北カロライナ、バージニア、等より産出するが果物の産も亦多し。

養畜業に就きては馬(一八二七萬頭)、騾(三二六)、驢(九)、牛(六七七二)、羊(六一五〇)、豚(六二八七)、山羊(一八七)、等あり。

森林は全面積の凡そ三分の一あるが、林地の三分の二以上は東部及び南東部にありて殘餘はロッキー丼に太平洋斜面にあり、而してカリフォルニア、オレゴン、ワシントンの三州に於ける林地は二十三萬八千餘方粁あり、森林業は當國の生業中の重要なるものに數へられ三萬三千餘の製材場は六億一千百六十萬「ドル」の資本に依りて三億一千八百萬「ドル」以上の生産力を有す。

漁業に從事する船舶は七千十四隻、二十一萬噸近くあるが八千二百四十四萬「ドル」餘の資本に依りて凡そ五千五百三十三萬「ドル」の産物を與ふ、而して鰛、鮭、等の乾製はマッサチューセッツに盛にしてメイン州の鰛、アラスカ、オレゴン、ワシントンの鮭亦名あり。

鑛業は甚だ盛にして人口の增加を促し商工の發達に資すること大なるが、金屬に鐵(三、四四三五萬「ドル」)、銅(九一五一)、金(七三五九)、銀(七〇二一)、鉛(二三五三)亞鉛(一六七二)、アルミニューム(二二八)、水銀(一五四)、等の六億二千四百三十五萬「ドル」ありて非金屬の七億九千四百三十七萬「ドル」は石炭(五、〇三七二)、石油(九四六九)、石材(六七九六)、天然瓦斯(二五八三)、セメント(三一〇三)、等より成る。

工業は世界の第一流國に列し五十一萬三千近くの工場は九十八億一千

七百四十三萬「ドル」の資本に依りて百三十億三千九百二十八萬「ドル」の製品を與ふるが資本の過半はニューヨーク、ペンシルバニア、オハイオ、マッサチューセッツ、イリノイスの諸州にあり、工業の中最も主要なるは鋼鐵業にして七百廿六の工場は八億三千五百八十三萬「ドル」の製品を與へ十年前（一八九〇）の四億八千萬足らずに比すれば非常なる進歩なり、加ふるに鉛、銅、亞鉛の精製品が三億五千九百萬「ドル」の價格を有するあり冶金は甚だ有力なりとす、次に記すべきは紡織業にして四千三百十二の工場は十億四千三百萬「ドル」の資本を以て九億三千百五十萬「ドル」の製品を供呈す、第三に重視すべきは屠獸業の七億八千六百萬「ドル」なり、此の他に製粉（五、六〇七）、製靴（二、六一〇三）、釀造（二、三七二）、熟皮（二、〇四〇）、化學品（二、〇二五）、製乳（一、三一一）、蒸溜（九六八〇）等あり。

貿易は一九〇四―〇五年に於て凡そ十四億九千百七十五萬「ドル」の貨物を輸出し十一億一千七百五十一萬「ドル」を輸入せり、此の他に貴金屬等あり、

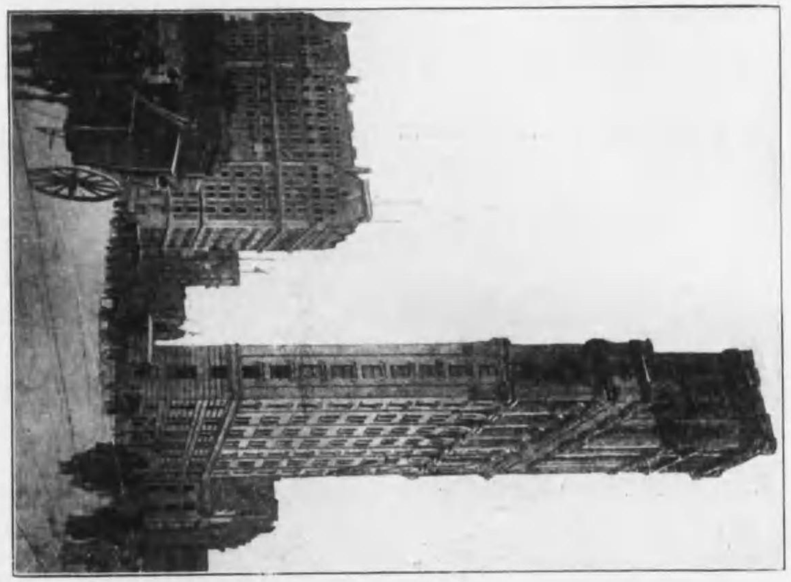
年次	輸入	內國產輸出	外國產輸出	通過貿易	貨物	貴金屬
一九〇二	九、八三六〇	一四、四八二〇	二六二〇	五六〇	一、一八五〇	
一九〇三	一〇、九四八〇	一四、七六九〇	二七九〇	六六〇	一、二二〇〇	
一九〇四	一一、一七九〇	一五、五二四〇	二五六〇	一三八〇	一、一四〇〇	
一九〇五	一一、九八六〇	一六、一四六〇	二六八〇	一八五〇	一、〇三七〇	
一九〇六			二五九〇			

次に一九〇四―〇五年の貨物貿易に就きて取引先を示さんにヨーロッパは其の大部を占め殘部はアメリカ、其の他の占むる所なり。（左表の單位萬「ドル」）

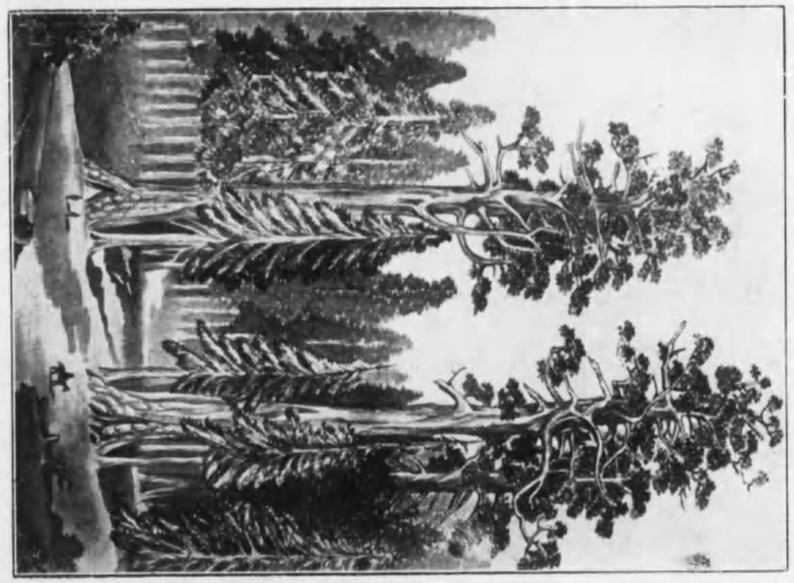
取引先	輸入	輸出	取引先	輸入	輸出
イギリス	一、七五八一	五、一八一〇	中央アメリカ	一三九三	一三六〇
ドイツ	一、一八二六	一、九一二七	キューバ	八六三〇	三六四〇
シューワイツ	二〇四一	二四	ブラジル	九九八四	一〇九〇
フランス	八九八三	七四四一	アルヘンチナ	一五三六	二三五〇
ベルジック	二五八八	三七四四	其他	……	……
オランダ	二一七一	七二七二	アメリカ	三、七八〇二	三、〇四〇一

ロシア	九二〇	七五四	イギリス領東印度	五三九六	七五四
エスパルライヒ＝ウンガルン	一〇五五	一六六	オランダ領東印度	一八四六	一六六
イタリア	三八六二	六四〇五	清國、香港	二九四三	六四〇五
エスパニア	八七八	五一二一	日本	五一八二	五一二一
其他	…	…	フィリッピン	一二六五	六一九
ヨーロッパ	五、四〇七七	一〇、〇八四六	イギリス領、オーストラリア、	一一八九	二六二六
カナダ	六二四七	一、二二三	其他	…	…
メキシコ	四四八二	四、九一七四	合計	二一、一七五二	二四、九一七四

主要貿易品は輸入に砂糖(九七百萬「ドル」)、珈琲(八四)、化學品類(七五)、皮(六四)生絲(六一)、「カウチゥク」(四九)、綿布(四八)、生毛(四六)、麻布類(四〇)、麻類(三八)、寶石(三三)、絹布(三二)、等ありて、輸出に實綿(三八〇)、肉類(一六五)、穀類(一〇七)、銅(八三)、石油(七九)、器械(六三)、綿布(四九)、獸類四六)、鐵(四六)、木材(四五)、煙草(三五)、石炭(三〇)、等あり、又外國貿易に關する入船は三萬二千九十二隻(アメリカ船一、二八八、〇二三千九十外國船二、九二一)



ニウーヨーク市に於ける高屋



大セコイア(Sequoia gigantea)[カリホルニア]

八萬餘噸(二三九〇、七〇八)にして出船は三萬一千八百二十二隻(一一、九二六二一、〇九三)三千百八十二萬餘噸(二三九五、七二〇)なり。

交通。交通は頗る進歩し商船(一九〇五年)の隻數は約二萬五千隻(汽船一八、八九七 帆船一、五七八四)にして噸數は約六百四十六萬(三七四、一四九四 二七一、五〇四九)あるが、大西洋岸(三三三九)に於けるもの最も多く北方の諸湖(二〇六)、太平洋岸(八二一)、河流に於けるもの之に次ぎ、沿岸貿易に從事するものは五百四十四萬噸に餘るが、外國貿易に從事するものは九十五萬噸に達せず、又鐵道の延長(一九〇四)は世界無比にして三十四萬一千七百粁に達し、北はカナダ線、南はメキシコ線に連なり、太平、大西兩洋の岸を連ぬる者數條あり、北太平洋(五二〇三粁)、中央太平洋(五二六〇)、兩洋(五五六〇)、南太平洋(六二五〇)等の諸線即ち之なり、又郵便局(一九〇三—〇四)は七萬二千五百八十二ヶ處、電信線(一九〇四)は線路三十二萬八百二十七粁、延長百八十六萬粁に近く電話線は五百七十一萬餘粁あり。

處誌 當國を分ちて東南、中北、西の五部とし各部の都會に就きて畧記する所あらんとす。

ニウーヨーク市の南端、シチーホールパルク(City Hall Park)バッテリー(Battery)間の小地域は當市に於ける各種業務の集點にして地價の非常なる騰貴(方呎二百六十五圓)を招き、遂に種々なる理由は高層の建造を促したり。

	階	フィート
アメリカントラクト (Americaim Tract)	二三	二八〇
セントポール (Saint-Paul)	二五	三〇七
シュアーチー (Sûrety)	二一	三一八
パルクロウ (Park-Row)	二七	三八六

セコイア (Sequoia)［松杉科］に二種あり、何れもアメリカのカリフォルニアに產す、其の一は大セコイア (S. gigantea) にして一名をワオナ (Wawona) と云ふ、樹高百十餘米突、幹徑十一米突に達するものあり、其の二はアカセコイア (S. sempervirens) にしてアメリカ人の俗にレードトリー(赤木)と稱ふるものなり、樹の高さ及び太さは前者に劣れるも尙ほ樹長九十米突、直徑四米突半を有するものあり、木材は佳良にして種々の用に供すべし。

ワシントン

東部　東部即ち大西洋諸州を更に北、中、南の三區に分たんに北區即ち新イギリス諸州は、メイン(Maine)、ニューハンプシャイア(New Hampshire)、ヴァーモント(Vermont)、マッサチューセッツ(Massachusetts)、ロードアイランド(Rhode Island)、コンネチカット(Connecticut)の六州を含むが、地勢山岳丘陵多く土地甚だ肥沃なるに非ざるも、工業盛に行はれて沿海の漁業も亦重きを置くべし、中區はニューヨーク(New York)、ペンシルバニア(Pensylvania)、ニュージャーシー(New Jersey)、デラエーア(Delaware)、メーリーランド(Maryland)、ヴァージニア(Virginia)、西バージニアの七州とコロンビア(Columbia)區とより成り、海岸よりオハイオ河、エリエ湖、オンタリオ湖、セントローレンスの上流に達す、土地、氣候共に新イギリスに優り工業、商業甚だ盛なるが、鑛業も亦注意すべきものなり、南區とは南北のカロライナ(Carolina)、ジョージア(Georgia)、フロリダ(Florida)の四州を云ふものなるが、大西洋岸の平原の最も廣き部分にして海岸には潟沼多く綿、其の他の栽培行はる。

ワシントン(Washington)(一九、三二一七)北緯三八度五五分一四秒西經七七度三分五七秒は初代大統領の名に因める都會にして合衆國全土の首府なり、ポトマック河の左岸に位し市街廣濶、道路整然たり、商工業は甚だ盛なるに非ざるも「カピトル」(Capitol)、ホワイトハウス(White House)等あり。

ボーチモー

ボーチモー(Baltimore)(五三、一三一三)はチサピーク灣に注ぐパタスコ河の畔にありて海を距ること二十粁の處にあり、合衆國第六の都會にして商工業の中心とす、キルミングトン(Wilmington)(八、一三〇〇)はデラエーア河岸の小丘に建ち冶金、造船、製粉、製紙等に從事す、附近に當國最大の火藥製造所あり、トレントン(Trenton)(七六七六六)はデラエーア河畔の工業地にして、獨立史上に顯る、カムデン(Camden)(七、九八一一)はトレントンの下流フィラデルフィアの對岸にありて工業に從事す、ニューアーク(Newark)(二六、五三九四)は同名の灣に瀕し商工業共に見るべき者あり、ジャーシーシチー(Jersey City)(二一、九四六二)は優良なる錨處を有し、貯肉、製糖に從事す、ホボケン(Hoboken)(六四〇八〇)はハドソン河を挾みてニューヨークと相對す、別墅の地なり、パターソン(Paterson)(一一、三一二七)はパサイック河に瀕し絲類の製造に從事するが殊に絹布を以て名なり、アトランチック シチー(Atlantic City)は大西洋岸にあり水浴場として名を知らる。

ニューアーク

ジャーシーシチー

パターソン

ニューヨーク

アルバニー(Albany)(九、三九二〇)はハドソン河畔にあり、木材、大麥を集散す、大ニューヨーク(Greater New York)(三、七一、六一三、九)北緯四〇度四五分二三秒西經七三度五八分二六秒は合衆國第一、世界第二の大都會にして、ヘドソンの河口に位しロングアイランド島に跨り、ニューヨーク、ブルークリン、ロングアイランド市、其の他を含めり、ステーテン(Staten)ロングアイランドの二島の横たはるあるを以て港は廣濶安全にして船舶の碇繋に便なり、從て百貨輻輳し商業極めて盛大にして交通上の要區なり、加ふるに工業も亦活潑に行はれ文學の中心としてもボストンと拮抗せり、トロイ(Troy)(七、五五六、七)はアルバニーの上流にありて鐵工業に從事す、シラキュース(Syracuse)(一一、四四四三)はエリエ、オスエゴ兩運河の會する處にありて食鹽業に就きては合衆國無比なり、ロチェスター(Rochester)(一七、〇七九、八)はオンタリオの岸を距ること約十一粁にあり、ゲネゼー河の水を利用して製粉に從事す、バッファロー(Buffalo)(三、八一、一四〇三)はエリエ湖の北東端にありて大湖地方に於ける屈指の穀類港なるが石炭、鐵の取引も盛に行はる、フィラデルフィア(Philadelphia)(一、三六、七七一、六)北緯三九度五七分七秒は舊と合衆

シラキュース

ロチェスター

バッファロー

フィラデルフィア

國の首府たりし處たり、本市は海岸を距ること百九十粁の地にあるに拘らず、デラウエーア河に瀕せるが故に大船巨舶の出入に便ありて工場の多き實に合衆國第一たり、人口に於ては第三位に立ち、貿易港としても有數の地なり、市内の建築物中最も名あるは獨立館なり、リーディング(Reading)(八、五〇五一)はフィラデルフィアの北西にありて製鐵に從事す、スクラントン(Scranton)(一〇、七〇二六)はサスケハンナの支流に沿ひ石炭の産地にあり、ピッツバーグ(Pittsburg)(三四、五〇四三)はオハイオ、アレガニーの會流地に位し石炭、鐵、石油の取引盛なり、又鋼鐵、硝子の製造行はる、アレガニー(Allegany)(一三、八〇一八)は工業に從事せり、リチモンド(Richmond)(八、六一四八)はジェームス河の岸に建ちて煙草の製造に從事す、内亂の際には南部同盟の首府たりし處なり。

スクラントン

ピッツバーグ

アレガニー

ハートフォード(Hartford)(八、七八三六)はコンネチカット河に瀕し金融の中心たり、ニューヘブン(New Haven)(一一、四六〇〇)はロングアイランド海峽に臨み金物を産す、市の附近は牡蠣の飼養盛なり、ブリッヂポート(Bridgeport)(七、七六三五)は海岸にありて器械を製す、プロビデンス(Providence)(一八、九七四二)はナラガ

ニューヘブン

プロビデンス

ボストン

チーセスター

ローエル

フォールリバー

ンセット灣に瀕す、綿布、毛織物、器械等を製出す、ボストン(Boston)(五九、四六一八)北緯四二度二一分三二秒西經七一度三分四五秒はアメリカのアテネにして文藝の中心なるが建築物には觀るべきものあり、器械、船舶等を製作し盛に外國と貿易す、ケンブリヂ(Cambridge)(九、八四四四)はボストンに隣接す、其のハーバード(Harvard)大學は合衆國最舊のものなり、ヲーセスター(Worcester)(一二、八五五二)は器械、鐵器を以て名あり、ローエル(Lowell)(一〇、〇一五〇)、ローレンス(Lawrence)(六、二五五九)、フォールリバー(Fall River)(一一、四〇〇四)は綿布の製造に從事す、リン(Lynn)(七、二三五〇)は革具を製す、ニューベッドフォード(New Bedford)(六、二四四二)は南部の海港なり、レキシントン(Lexington)はボストンの北西凡そ十八粁に當るが獨立戰爭の第一役のありし處とす、スプリングフィールド(Springfield)(六、七四二三)はコンネチカット河に瀕する工業市なり、ポーツマス(Portsmouth)はボストンの北北東ピスカタクァ(Piscataqua)河の口に近し日露談判地として名あり。チァールストン(Charleston)(五、六二六二)は綿花の輸出港なり、一千六百七十二年の建設に係る米國屈指の舊市、戰史上著名の地にして數回の包圍を蒙りたり、アトランタ(Atlanta)(九、六五五〇)は綿花の市場にして煙草の製造に從事す、サバンナー(Savannah)(六、四五六二)は貿易港として盛に綿を輸出す、又戰史上に名を知らるる地とす。

ニューオルリアンズ

南部　南部はメキシコ灣に瀕する四州にしてミシシッピー河は之を東西の二部に分ち、東部にはアラバマ(Alabama)、ミシシッピー(Mississippi)ありて西部にはルイジアナ(Louisiana)、テキサス(Texas)あり、テキサスの西部、アラバマの北東部を除けば、土地平低にしてミシシッピーの沿岸は地味極めて肥え耕種に適す、而して農産には米、其の他の穀類、甘蔗、半熱帶の果物、等あるが最も主要なるものは綿花なりとす。

ニューオルリアンズ(New Orleans)(三〇、〇六二五)北緯二九度五六分五九秒西經九〇度三分四六秒はミシシッピーの河口を溯ること百五十粁に位す、世界最大の綿花輸出港にしてミシシッピー下流地方に於ける物貨を集散し南部第一の都會なり。

中部　中部は北東地方を除けばミシシッピーの谷にありて同河は之を東西の二部に分ち、東部にはテンネッシー(Tennessee)、ケンタッキー(Kentucky)、オハイオ

(Ohio)、インヂアナ(Indiana)及びイリノイス(Illinois)の五州あるが西部はアーカンソウ(Arkansas)、ミズーリ(Missouri)、カンサス(Kansas)、ネブラスカ(Nebraska)、アイオワ(Iowa)、オクラホマ(Oklahoma)の六州を含めり、此の中央部は東或は西するに從つて土地隆起し南部にはオザルク山脈あるが地味一般に豐沃にして小麥、玉蜀黍、其の他の農產に富み林業、鑛業、工業、等大に見るべきものあり、大小幾多の水脈は鐵道と相俟ちて交通を便ならしめ商業の繁榮を助く。

ナシビール(Nashville)(八二七一一)はオハイオの支流たるカンバーランド河に沿へり、綿花、煙草を集散す、メンフィス(Memphis)(一一三六九)はミシシッピー河畔にありて世界最大の煙草市場なり、皮革、靴類、等を製造に從事す、ルイスビール(Louisville)(二一五三八七)はスシオト河に跨り鐵路の焦點に當り製鐵に從事す、シンシンナチ(Cincinnati)(二一二九三四)(北緯五九度五四分四四秒西經八四度二五分二〇秒)はオハイオ河に臨みてニューポート、コビングトンと相對す、商工業の中心にして西の女皇たるの實あるが盛に鹽豚の製造販賣を爲すを以てポルコポ

メンフィス
ルイスビール
コロンブス
シンシンナチ

リス(Porcopolis)と稱せらる、デートン(Dayton)(九二一五六六)はシンシンナチの北東に於ける工業地なり、クリーブランド(Cleveland)(四一四九五〇)はエリー湖に沿ふ商港なり、石油を精製し、鐵、銅、石炭、石油、等を集散す、合衆國第七の大都會なり、トレド(Toledo)(一四五九〇一)も亦湖岸の商港にして、木材、小麥を集散す、殊にカナダとの取引盛なり、インヂアナポリス(Indianapolis)(一九一〇三三)はオハイオ河の支流ホワイト河の畔に建ちて工業及び商業の中心たり、エバンスビール(Evansville)(六一四八二)はオハイオの河港にして玉蜀黍、鹽豚肉、煙草を輸出す、ペオリア(Peoria)(六二〇九四)は麥粉、木材、農具、等を集散し冶金に從事す、シカゴ(Chicago)(一八七三八〇)(北緯四一度五〇分一一秒西經八七度三六分四二秒はミシガン湖の南端にあり、盛に穀類、家畜、木材の貿易、鹽豚の製造に從事し商業及び人口の點に於てはニューヨークに次ぐ市街にして大湖の大女皇と稱せらる、住民の增殖甚だ速にして殊に有爲心に富めるを以て名を知らる、鐵路によりて兩大洋に通じ運河に依りてミシシッピーに連なるが故に交通上極めて樞要の地にあり。

デートン
クリーブランド
トレド
インヂアナポリス
シカゴ

セントルイス　セントジョセフ　カンサス　オマハ

セントルイス(St. Louis)(六一、二二七九)北緯三八度三八分四秒西經九〇度一二分一七秒は合衆國第四の都會なり、市街はフランス人の建設(一七六〇年)に係りミシシッピーの中流、海抜一二一米突の地にあり、通商貿易の一大中心として頗る好望なるが穀類を始めとし煙草、鹽豚肉の製造盛なり、セントジョセフ(St. Joseph)(一一、〇四七九)はミズーリに沿ひ交通の要地たり、カンサスシチー(Kansas City)(一七、三〇六四)はカンサス河とミズーリとの合流地にあり、交通上の要區にして盛に家畜を集散し畜産製造に從事す、オマハ(Omaha)(一一、三三六一)はミズーリ河畔の商業地なり。

北部　北部即ち中央北部には五州あり、其のミシガン(Michigan)、ヰスコンシン(Wisconsin)はミシシッピー上流の東にありてミネソタ(Minnesota)南北の兩ダコタ(Dakota)は西にあり、雨量は概して不足なく北東部には松柏科の密林あるが西部には河流に沿へる地の外、樹木なし、而して肥沃なる「プレーリー」は多くの穀類を與へ鑛産も豐富なるが大湖地方の主要なる生業は木材業及び漁業なり。

デトロイト　ミルヲーキー　セントポール　ミンネアポリス　デンバー

デトロイト(Detroit)(三〇、九六五三)は同名の河に臨み大湖地方屈指の要港なり、ミルヲーキー(Milwaukee)(三一、二七三六)はミシガン湖に瀕し小麥、木材の輸出港としては世界第一に位し「ビール」を名産とす、セントポール(St. paul)(一七、二〇三八)はミシシッピーに沿ひ製粉業盛なり、ミンネアポリス(Minneapolis)(二一、四一一三)はセントポールを距ること遠からず商工業の一中心なり。

西部　西部は太平洋高地ロッキーの東に於ける大平原の一部を含み、大鹹湖附近にはアメリカ大沙漠あり、鑛物殊に貴金屬は甚だ豐富にして鑛業は當地方第一の生業なるが、草原に於ける家畜の飼養も亦主要なるものなりとす然れども住民少なく未だ充分の利用を見るに至らず、當部には九州、二領土あり、之を三區に分かたば東區にモンタナ(Montana)、ワイオミング(Wyoming)、コロラド(Colorado)、ニューメキシコ(New Mexico)あり、中區の大高臺にアイダホ(Idaho)ネバダ(Nevada)、ユター(Utah)、アリゾナ(Arizona)あり、而して西區即ち太平洋沿岸にカリフォルニア(California)、オレゴン(Oregon)、ワシントン(Washington)あり。

デンバー(Denver)(一四、四五八八)は當國の最高州なるコロラドにあり、南プ

シスコ　サンフラン

港内は安全廣大、幾多の商船を碇泊せしむるに足れりとす、氣温高く近傍に鹹沼泥洲のあるに拘らず、頗る健康に適せり、ロスアンジェルス(Los Angeles)(一一、六四二〇)は葡萄酒及び生毛の産地にあり、氣候極めて温和なり。

ハワイ

は わい 領。土。 おせあにあ洲に詳なり。

殖民地　アメリカ人は移民的イギリス人の子孫にドイツ人、イタリア人等を交えたるものなるが、富源の饒多なる國土に據り、增進の迅速なる住民

アラスカ

あらすか 領。土。 アラスカ領。土は北アメリカの北西隅を占め、北極洋ベーリング海峽、太平洋に面す、クック(一七七四)、ラベルーズ(一七八六)は沿海の地を見しのみにて爾の探査はロシア人のコツツベー(Kotzebue)幷にウランゲル(Wrangel)に依れり、爾來ロシアに屬せしも一八六七年を以てアメリカ合衆國の貢收する所と成りたり、山岳は數脈を爲して北アメリカ最高のマッキンレー(Mackinley)山(六二三七)を包括せり、ユーコン、クスコキムの流るるあり、沿岸は島嶼多く火山少なからざるアレウト列島の外にエールス公島、バラノフ島等著はる、氣候烈寒、住人稀なるが黄金、水産物、毛皮を産す、首邑シトカ(Sitka)はバラノフ島にあり、カヂアク島のカルルク(Karluk)は當領土最要の邑たり。

ポートランド　シアトル　タコマ　ソルトレーキシチー

要地にして商工に從事するが近郊は風致に富む、サンフランシスコ(San Francisco)(三五、五九一、九四北緯一二二度二四分四二秒、西經)は、メキシコに屬せし頃はイルバブエナと云ひて人口五百に充たざる一寒村なりしが、現時は合衆國第九、東太平洋第一の都會たるのみならず、世界屈指の商港たり、我が横濱を距ること四千八百十浬なり、港口金門の幅は一千六百二十六米突に過ぎずして、氣温高く近傍に

オークランド　サンフランシスコ

(Oakland)(七、〇三八、六)は、サンフランシスコ灣に瀕し交通の要區にして小麥、麥粉、木材、鮭等を輸出す。

ポートランド

五)は、ギラメット河の流域、太平洋岸を距ること二百粁の地にあり、交通上の要地たり、サルトレーキシチー(Salt Lake City)(五七、一三八)は、モルモン宗の本部たるユタ州の首府なるが、ヨルダン河の谷にあり。

シアトル

(Seattle)(九、二〇二、〇)は、横濱を距ること四千五百四十浬に位し、タコマ(Tacoma)(三六、〇〇〇)と共に繁華の地なり、ポートランド(Portland)(九、八六

に基づきて一大強國を組成せしのみならず、エスパニアが遺失せし土地を收得し一躍して殖民國に加はり約三十一萬方粁、八百六十萬人を有するに至れり。

土地	地積	人口
ポルトリコ	九三一四方粁	九五、三四三
フィリッピン	二九、六三一〇	七六、五四二六
グアム	五一四	九六七六
合計	三〇、六四一	八六〇、三四五

土地	地積	人口
サモア	一九九方粁	四〇〇〇
エーク、ウォンストン	四	—
合計	二〇三	四〇〇

◉メキシコ

境域 メキシコ合衆國(Estados Unidos Mexicanos)は北緯十四度半乃至三十二度半、西經八十六度半乃至十七度に達し、アメリカ合衆國の南に於ける稍、狹長なる三角形の陸地なり、其の幅は二千粁乃至二百十粁にして地積は百九十八萬七千二百一方粁あり。

海岸 海岸線の延長はカンピーチー灣を有するメキシコ灣及、アンチル海に於て二千五百八十粁を有し、カリフォルニア灣、太平洋に於て六千二百五十粁を有せり、メキシコ灣に接する處は半圓周を爲してユカタン半島に至る、概ね平低にして潟灣に富める沙濱なれば稍、良好の港形を呈するは僅にタムピコ、ベラクルス、カムパチェあるのみ、西海岸は高隆にして屈曲多く殊にカリフォルニア半島は狹長にして海底淺き一灣を抱けるが、港形の佳良なるものはグアイマス、マザトラン、アカプルコ等なり、又南部に於て東西兩洋は相接近して幅二百十粁のテウアンテペク地峽を爲せり、島嶼はレビリヤヒヘド(Revilla Gigedo)諸島其の他を合はすも僅に四千四十二方粁の地積を有するのみ。

地勢 メキシコは一の高臺を形成す、其の直立は平均二千二三百米突にして東西は海岸に向ひて傾斜し、北にリオジラ、リオグランデデルノルテの低地を控え南はテウアンテペク幷にユカタンの低地に降下す、臺地の西緣はシエラマドレにして最高三千米突に達し、東線はヌエボレオレ、タマウリパスにして二千米突に達することなし、南部は高峯に富み北アメリカ屈指

の高點を有せり、而して五十乃至百粁の幅を有する一帶の低地は海洋と臺地の麓との間に於て海岸に沿へり、又カリフォルニア半島にありては山脈は顯著ならざるが東面は急斜せり。

火山

メキシコは火山に富みて當地の最高部を爲せり、其の第一に位するはオリザバ(Orisaba)(五五八二)即ちシトラルペトルにして、此の外にポポカテペトル(Popocatepetl)(五四五二)、イクスタッスフアトル(Ixtaccihuatl)(四七九〇)、ネバドデトルカ(四五八七)、マリンチェ(四一二二)、コフレデペロテ(四〇八九)、ネバドデコリマ(四三七八)、コリマ火山(三八八四)、タンシタロ(三八六〇)等あり。

河湖

メキシコは河流に乏しき國なり、北境のリオグランデデルノルテに會するものにリオデロス、コンコスリオサラド、等ありてグリジァルバ(六五〇粁)、ウスマシンタ(七〇〇)と共にメキシコ灣に入る、太平洋に入るものにはリオコロラドの下流(二〇)等あり、湖の最大なるものはチアパラ(長九〇粁海拔一九五〇米突)なるが、有名なるはメキシコ谷の六湖にして風色に富めるはクイツェオ、パツクアロなり。

氣候　緯度に依ればメキシコは熱帶に屬すれども、土地の高低幷に海濱の遠近は氣候に著しき差異を呈せり、是れチエラカリエンテ(Tierra caliente)(熱地)、

チエラテンプラダ(Tierra templada)(温地)、チエラフリア(Tierra fria)(寒地)の別ある所以なり、平低にして濕潤に失する沿海の地より直立一千米突までは熱地に屬し、氣温は平均三十乃至三十一度なり、海拔一千乃至二千米突の斜面は温地に屬し、氣候温和にして激變少なく、平均氣温は二十三乃至二十五度なり、寒地に於ては氣候は乾燥にして寒冷を覺え平均氣温は十五度乃至十七度なり、一年は二季に分かれ、其の雨季は五六月より十月或は十一月までにして其の乾季は殆ど降雨なく、二季の更替は急激なるも氣温に影響することなし、又二季の分界は北に進むに從ひて不明と成りて降雨期は漸く遲し、雨量の最多なるはモンテロイ(Monteroy)附近にして年平均三百三十糎なるが、メキシコ市に至れば五十八糎餘なり、主風は北風と南風とにして甲は東岸に吹き乙は西岸に多く殊に五月より十月までは風力甚だ強し。

沿革　メキシコ最古の住民はトルテク(Toltecs)人にして西紀八九世期頃には比較的高度の文明に達したりしが、十一二世期の頃アズテク(Aztecs)之に代りて國の王權を握れり、一五一九年コルテスがベラクルスに上陸せしよりメキシコはエスパニア領となりしも一八二一年を以て獨立し、翌年帝國と稱し、一八二三年共和國に

人口
種族
言語
宗教
教育

變じたり、其の後一八四五年テキサスは合衆國に合併し、一八四六―四八年の戰役の結果として ニウーメキシコ、上カリフォルニアは亦同國の手に移れり、而して ナポレオン三世の遠征(一八六一―六七)を蒙りて一八六四年第二帝國の成立を見しが一八六七年に至りて共和國に復し爾來安寧繁榮に趣きたり。

住民 人口は一九〇〇年に於て一千三百六十萬餘人(男六七一、六女六八二、九)ありて一方粁七人の平均なるが、其の百分の十九は白人、三十八は土人、四十三は雜種にして白人の中、アメリカ人は二萬四千餘人、エスパニア人は一萬六千餘人なり、言語は種族に依りて差異あるも、エスパニア語は法語として一般に使用せらる、國人の大多數はローマ公教(一三五三)を奉じプロテスタント教に屬するものは甚だ少なし、教育は未だ普及進歩するに至らず。

政治 メキシコは合衆共和國にして二十七州、三領土、一區より成れり、立法權は元老、代議の二院より成る議會に屬し、行政は公撰に係る任期六年の大統領に委任せられ、外務、內務、司法及び教育、等の七大官ありて內閣を組織す、司法は高等法院幷に各種裁判所之を實施し、兵備は陸軍に約二萬七千人の兵ありて海軍には數隻の艦船あるのみ、一九〇六―〇七年の豫算に依れば

農業
牧業
林業
鑛業
工業
貿易

歲入は九千七萬餘「ペソ」にして歲出は八千九百九十萬「ペソ」に近く外國債に三億一千六百三十四萬餘「ペソ」あり、又一九〇六年に於ける各州の歲入は凡そ一千九百十三萬「ドル」にして歲出は一千八百四十萬「ドル」に餘れり。

生業 農業は未だ幼稚なり、熱地、溫地に於ては甘蔗、實綿、「ヘネケン」、藍、「ココア」、珈琲、米、煙草、「ワニラ」、等を產すれども、寒地にありては僅に麥を產するに過ぎず、牧業は北部に於て牛馬を飼ひ、南部に於て羊を飼ふが、家畜の總價格は一億二千五十二萬「ドル」を超え、林業は各種の木材を與ふ、鑛業はメキシコ第一の生業にして殊に貴金屬に富めり、一九〇三年に於ける鑛區は一千九十八ヶ處にして此等は殆ど銀を與へざるものなく、鑛產の總價格は銀(六七二八)、銅(二五二八)、金(一三三二)、鉛(三六九)、等を合はせて一億一千五百六十萬「ドル」を超過するが、工業には製絲(一一五萬錘)あり織物あり、製紙あり製糖(砂糖八二三一萬瓩糖蜜四七二一萬瓩)あり、蒸溜釀造業には酒精「アルコール」的飲料あり又製陶は土人得意の業務なりとす。

貿易は一九〇五―〇六年に於て輸入凡そ二億二千六十五萬銀「ペソ」、輸出二億

七千百十三萬銀「ペソ」餘なるが、前年の輸入は約一億七千八百二十萬銀「ペソ」にして、主に合衆國、イギリス、ドイツ、フランス、等と取引し、銀(一、二五四〇)、金(三一六九)、ヘネケン(二九四三)、銅(一八六五)、珈琲(九二八)、皮類(七八八)、鉛(四九六)、ワニラ(四一五)、等を主要輸出品とす、入船は三百七萬餘噸なるが商船は少なく、鐵道は一萬七千四百四十六粁、郵便局は二千四百六十五、電信線は七萬七千餘粁、電話線は四萬六百五十七粁あり。

メキシコ

交通

處誌 メキシコ(Mexico)(三四、四七 北緯一九度二六分一秒 西經九九度六分四〇秒)は當合衆國の首府にして海拔二二六六米突の地に位し繁華の市街なり、外觀莊麗なるスパニア的アメリカ第一と稱せらる、本市は舊とペネチア的にテズクコ湖上に建ちしが、目下は市と湖と相距ること約四粁なり、プエブラ(Puebla)(九、三五二一)はポポカテペトルの麓に位し綿布、綿絲を製す、グアナファト(Guanajuato)(四、一四八六)は鑛業の中心なり、レオン(Leon)(六、三二六三)は綿布、鞣皮を與へ穀類、畜類を集散す、グアダラヒラ(Guadalajara)(一〇、一二〇八)は陶器、煙草、織物を製す、サンルイスポトジ(San Luis Potosi)(六、一〇一九)は農產地にあり、モンテレイ(Monterey)(六、二二六六)は交通上の要區たり、アカプルコ(Acapulco)は太平洋岸の要津なるが港形最佳なり、ベラクルス(Vera Cruz)(一一、九一六四)はメキシコ灣岸に於ける主港なり、タンピコ(Tampico)も亦同岸の一小商港なり、メリダ(Merida)(四、三六三〇)はユカタン半島にありて、盛に「ヘネケン」業に從事す、ラパス(Lapaz)はカリフォルニア半島の南東部にありてコアツアコアルコス(Coatzacoalcos)及びサリナクルス(Salina-Cruz)はテワンテペク鐵道(三〇九粁)の兩端にあり。

境域

中央アメリカ

中央アメリカと稱する地方即ち中央アメリカの地峽部は太平洋とアンチル海との間に介在せる狹長の陸地にして北と南との兩アメリカを連絡せり、北は海拔二百米突に過ぎざるテウアンテペク地峽より起り、ユカタン半島に於て稍廣濶と成り、アマト灣に於て幅を減じ再び增大してホンヂュラス、ニカラグア等を爲し、南の方は海拔九十米突のパナマ地峽を含みて南アメリカに接せり、而してアンチル海に注ぐアトラト河と太平洋に趣くサンジュアン河との流域に當る低地を以て南北兩アメリカの境界と爲すを可とす、然

れども政治上は北端に於ける一部はメキシコ國に屬するを以て現に中央アメリカと稱する地方の面積は五十三萬餘方粁なり。

海岸

海岸は北部にありては平底にして潟港に富み、海底は概ね淺くして岩礁少なからず、太平洋に瀕する部分は斷崖絕壁多くして屈曲に富み、灣にフォンセカ、パパガヨ、クレブラ、ニコヤ、ヅルス(Dulce)、モンチヒオ(Montijo)、パナマありて島の最大なるものをコイバと云ふ、アンチル海に於てはホンヂゥラス灣、チエツマル灣、モスキトー灣、ダリアン灣、アマト灣、ツルネッフ島等を見る。

地勢

起伏多くして交通に便ならず、廣濶なる部分に於ては臺地を爲すも概ね山脈の貫通するありて到る處火山を存し、其の數は八十餘に及べり、殊に注意すべきは陸地の一樣ならずして斷續定まらず若干の三角形の接合より成れるが如き形狀を呈するにあり、假に海水をして數百米突高からしめば地峽は變じて列島を形成すべし、沿海の平地はアンチル海方面に廣く殊にモスキトー岸を以て然りとす。

氣候

內海の沿岸にありては濕潤にして炎暑を感じ、高臺、高谷の地に於ては涼風を受くるも亦氣溫の變化激しく冬季には降雪を見ることあり而して北東風は雪雨を齎し來るも山脈の爲に遮らるるを以て太平洋に瀕する地方は乾燥なり、要するに土地の幅の狹きに拘らず起伏多く高低激しくして海陸、風向、等の關係上、兩岸の氣候に著しき差異あるのみならず、メキシコに於けるが如く熱、溫、寒三地帶の存するを觀る。

天產

地味の肥沃なるは顯著なる事實にして玉蜀黍の如きは地方に依りては年四回の收穫を與ふるが、煙草、甘蔗、「ワニラ」は頗る優良なりと云ひ、森林は「マホガニー」、黑檀、鐵樹、其の他有用の樹種に富めり、而して高地にありては柑類并に溫帶的果樹の成育極めて良好なり而して鑛物には金、銀、鐵、等あるも「シエネガ」(Cienega)黑、赤、白、等の粘土より成れる地層にして總地積の十分一內外を占むるが光熱の下に龜裂を生じ降雨の際には泥濘と變ず、佳良の牧草を與へざるに非ざるも亦交通上の一大障害たるは爭ふべからずの存在は採掘を困難ならしむ。

住民

住民が少なきに失するは當地方の發展に關し一大缺點たるは勿論なれども、土人とラヂノス(Ladinos)白人の子孫との反目は內政上不良の結果を生じ、騷擾に繼ぐに騷擾を以てするが故に富源の利用に心ある者の來住を促すに足らず、進步の遲々たるは亦止むを得ずと云ふべし。

沿革

第十六世期以來エスパニアの領土としてグアテマラ總督府たりし中央アメリ

カは一八二一年を以て獨立してメキシコに合併せし後一八二三年に於て更に分離して中央アメリカ合衆國を組成せしも一八四九年に至りグアテマラ、サルバドル、ホンヂゥラス、ニカラグア、コスタリカと云ふ名稱の下に五共和國の分立を見たり、而してパナマ共和國は一九〇三年に於てコロンビア共和國より分離して獨立の共和國と成りたり。

◎イギリス領

イギリス領ホンヂゥラス(Honduras)はホンヂゥラス灣に瀕してメキシコ及びグアテマラと境を接し、凡そ一萬九千六百方粁の地積と三萬七千餘の人口を有す、住民は黑色人、雜種、等多きを占め白人は少なし、主要輸出品は「マホガニー」、「ログウード」、「バナナ」等なり、首邑ベリゼ(Belize)は同名の河口、岩礁多き海岸にあり、從來「マホガニー」の輸出を以て有名なりしがグアテマラ及びホンヂゥラスに對する倉庫地たるを失はず。

◎グアテマラ

グアテマラ共和國(Republica de Guatemala)はメキシコ、イギリス領ホンヂゥラス幷にホンヂゥラス、サルバドルの二共和國と境を接し、太平洋及びアンチル海に瀕す、地積は十一萬三千餘方粁あり。

當國は中央アメリカ諸國の中にて最も廣く最も高き臺地にあり、南東部のサルバドルに隣接する處にありては海拔は五百米突に過ぎざるも、北部に於ては一千三百乃至一千九百五十米突に達し、キゥサルテナンゴのアルトス地方には稀に降雪を見ることあるが海拔は二千五百米突なり、火山には二十一座ありて其の中著しきものはアカテナンゴ(四一五〇)フエゴ(三八一五)、等なりとす、地味ば概して肥沃なり。

人口は一九〇三年に於て百八十四萬餘人(男九一、四四〇六 女九二、七七二八)ありて過半はキッチェ(Quitche)、其の他、純粹のインヂアンなるが、殘餘は主としてラヂノスに屬し、西人は少なし、宗教はローマ公教を主とす。

高臺の地は牧畜に適して牛、馬、羊、豚、等の飼養あるが鑛業は未だ盛なるに至らず、當國最要の農產物は珈琲にしてドイツ人主として其の栽培に從事す、而して煙草、甘蔗、「バナナ」、「ココア」、小麥、等の產もあり、從來主要の生產たりし「コチニル」(「ノパル」(Nopal)樹に生ずる小蟲にして洋紅を與ふるもの)は著しく減少せり工業の中にて稍見るべきは毛布、綿業、「セメント」、煉瓦、家具、煙草製造、製糖、釀造、蒸溜、等の諸業なり、貿易は一九〇五年に於て輸入に六百八十四萬餘「ペソ」(金)、輸出に八百二十四萬「ペソ」弱ありて珈琲、皮革、木材、「カウチゥク」、「バナナ」、等を主要輸出品とするが、鐵道(六四〇粁)、郵便(二八一局)、電信線(五一九九粁)、電話線(四七二)、等も多からず。

グアテマラ

新グアテマラ(Guatemala la Nueva)(七、一五二七)は太平洋を距ること八十粁海抜一四八〇米突に位す、住民の六分の五はヨーロッパ人の子孫にして陶器、木具、織物を製す、鐵路に依りてサンジョゼ(San Jose)に通せり、舊グアテマラ(Guatemala-la-Vieja)は新街の北にあり、一七七四年の地震にて破壊せられしも尚ほ一小都會を爲せり、クサルテナンゴ(Quzaltenango)(二、八九四〇)は海抜二三四六米突の地にあり、氣候冷涼にして稀には降雪を見るが附近に農産多し。

クサルテナンゴ

境域

土地

◎サルバドル

サルバドル共和國(Republica del Salvador)は中央アメリカに於ける最小國にして二萬一千餘方粁に過ぎず、太平洋及びフォンセカ灣に沿ひグアテマラ、ホンヂュラスと境を接す、長さは約二百七十粁にして幅は約六十四粁なり。

此の地は土人のクスカトラン(Cuscatlan)と云ふ意にして太平洋に瀕する平底の地とホンヂュラス塞地の一部なる高平地とより成れり、高地は幅五十粁にして海抜は六百米突なるが、グアテマラの山脈に連なりて三十座の火山を有せり而して其の最高峯はサンビンセントにしてサンミグェル、イザルゴは活動するを以て名を知らる、氣候は炎熱にして降雨少なきが爲に乾燥に失するも亦甚しく健康を害することなし。

住民

人口は百萬人を超ゆるが多數は土人及び雜種に屬しラヂノス(Ladinos)は七十七萬餘人、インヂアンは三十三萬餘人ありて白人は少なし。

生業

農產は珈琲を第一とし、此の他に「インヂゴ」、甘蔗、煙草等あり、鑛業は主として金を採掘す、一九〇四年の貿易は輸入に三百六十一萬餘ペソ(金)輸出に珈琲、金、銀、インヂゴ、砂糖等の一千六百五十九萬ペソ弱ありて鐵道(一五六粁)、電信線、電話、等も著しからず。

サルバドル

首都サンサルバドル(San Salvador)(五、九五四〇)は太平洋のラリベルタッド(Libertad)港より五十粁にありて海抜は六五七米突なり數回の震災を蒙りしも附近の地の肥沃なるが爲め捨らるるに至らず、アカヒュトラ(Acajutla)も亦海港なり、サンタアナ(Santa Ana)(四、八一二〇)は温地にありて甘蔗、珈琲、等の產地にあり、サンミグェル(San Miguel)(二、四七六八)は「インヂゴ」の產地にありて年市を以て名を知られラウニオン(La Union)港を附屬錨處とす。

サンタアナ

境域　ホンヂュラス共和國(Republica de Honduras)はホンヂュラス灣を北にし、南東はニカラグアに隣し、南西はフォセンカ灣に臨み且サルバドルに連なる、西はグアテマラと境す、地積は十一萬四千餘方粁あり。

土地　ウルア河は太平洋斜面に屬す、兩洋の間に於けるリアニウア即ちコマヤグア平地は海拔八百五十米突にしてホンヂュラス盆地の平均海拔は一千米突なるが、山岳中には三千米突を超ゆるものありと云ふ、土地は肥沃にして地下には多量の鐵物を含み氣候は概ね健康に適するが溫度は海拔の高底に依りて十三乃至二十度の間を昇降す。

住民　人口は五十四萬餘人(男二六、七三〇四女二七、六四三七)あり、住民の多數はラヂオスにして其の他に純粹の土人、黑色人、白色人、雜種人あり、宗敎の中最も勢力あるはローマ公敎なるが大學の設けあり。

生業　住民の怠惰なると官吏の專橫なるとに依りて生業は振ふ能はずと雖も、農業は次第に發達に向ひつつありて「バナナ」を主とし煙草、甘蔗、玉蜀黍「ココヤシ」、珈琲等の栽培あり、牛、其の他の家畜も飼養せられ、金、銀、等の鑛產あり、一九〇四―〇五年の輸出は四十九萬餘「ポンド」に過ぎずして「バナナ」、鑛物、貴金屬

牛肉等を主要品とするが、交通不便にして鐵路の如きも百粁に達せず。

境域　首都テグシガルパ(Tegucigalpa)(三、四六九二)はチョルテカ河の上流、海拔九七五米突の產銀地にあり、商業行はる、舊都カマヤグア(Camayagua)はテグシガルパの北西に當りジュチカルパ(Juticalpa)(二、七八〇〇)は北東に位し砂金に富めるパッカ河の支流に瀕す、アマパラ(Amapala)は太平洋岸の主港にして大西洋岸にプエルトコルテス(Puerto Cortez)あり。

テグシガルパ

◎ニカラグア

境域　ニカラグア共和國(Republica de Nicaragua)はホンヂュラスとコスタリカとの間にありて太平、大西の兩洋に瀕し地積は十二萬餘方粁を以て中央アメリカの諸國中最も大なり。

土地　土地は概して高隆ならざれば中央アメリカにて最も炎熱を感ずるの地なり、北部には起伏の一樣ならざる盆地ありてホンヂュラスに連接せり、火山の數は二十以上に達するが、其の中にて活氣あるものなしテリカ(二、一八五)、モモトンボ(一、八三〇)、コセダイナ(一、〇〇〇)、等なりとす、而してマナグア湖は一千五百六粁の面積を以て海拔四十八米突の地にあり、パナロヤ河に依りてニカラグア湖に通ず、此の湖は八千三百

方粁の面積と十六乃至八十米突の水深を有して海拔三十三米突餘の地にあるが流水口はサンジゥアン河と成りて北境を爲せるワンクス、モスキトー岸を流過するリオグランデと共にアンチル海に趣けり。

住民

人口は四十三萬餘に過ぎずしてインヂアン、ムラット、黑人、雜種、等より成り白人は少なし。

生業

耕地は少なきも珈琲「バナナ」の栽培は廣く行はれつつありて珈琲的富の凡そ三分の一はドイツ人の手にあり、而して甘蔗、煙草、玉蜀黍、米、木材、等の產もあり、鑛業は主として金を與ふ、工業は地方の需用に充つるに過ぎず、貿易の如きも一九〇四年に於て輸入三百二十萬金「ドル」、輸出三百九十二萬金「ドル」ありしのみ、主要輸出品は珈琲、木材、金、「バナナ」等なり、鐵道(二七六粁)、電信線、等も發達せず。

マナグア

レオン

マナグア(Managua)(三、〇〇〇〇)は同名の湖の南岸に建ち當國の首都なり、レオン(Leon)(四、五〇〇〇)は舊都の地にしてマラビオス山彙の附近、農產に富める地にありチナンデゴ(Chinandego)(二、〇〇〇〇)と相距ること遠からず、グラナダ(Granada)(二、五〇〇〇)は ニカラグア湖の北西岸にありて中央アメリカの一舊市なり、ブリト(Brito)は太平洋に注ぐリオグランデに沿へり、グレータウン(Greytown)はサンジゥアンデルノルテとも云ふ、サシジゥアン河の口頭に位せり。

豫備地即ちレセルブ(Reserv)アンチル海の沿岸地方は平低にして沼澤に富めるが蓊蔚たる天然林中に棲息する生蕃的モスキト(Mosquito)はブリウーフィールド(Bluefield)の酋長を戴けり。

境域

◎コスタリカ

土地

コスタリカ共和國(Republica de Costa Rica)はニカラグア、パナマの二國と連なりて太平、大西の二洋に面し地積は四萬八千餘方粁あり。

西岸にはブランコ岬、ニコヤ灣、マタパロ岬、ブルス灣、等の出入あり、此の地は海拔六百乃至一千米突のベラグア臺地の北部に當り、山地は樹林に富めるが火山多くして其の數は十一あり、殊にモンテブランコ(二九一四)、イラズ(三四一四)、チウルリアルバ(三四二五)、等は活火山なり。

住民

人口は三十二萬餘人にして殆ど純粹の白人より成れり、而してコスタリカ人がピレネー半島中にて勤勉者たるの佳評あるガリシア人の子孫たるを

生業　知らば此の國の生業が多少の活氣を帶ぶる所以を了解すべきも不幸にして土地狹隘なれば多數の人口を有するの望なし、國敎はローマ公敎なるも信敎の自由は憲法の公認する所なり。

農產の主要なるものは珈琲、バナナ」なるが玉蜀黍、米、馬鈴薯、等も廣く栽培せられ牛、馬、等の飼養あり、一九〇五年の貿易は輸入に約四百八十五萬「ペソ」(金)、輸出に珈琲、バナナ」、金、皮革等の八百十四萬「ペソ」餘あり、多少の鐵道(四七三粁)、電信線(一五三二)、電話線(三二七)、等を有す。

サンホセ　首邑サンジョゼ(San Jose)(一一、三九〇三)は海抜一二八八米突の地に位し氣溫は最低十四度にして最高二十七度なれば常に春暖の佳季にありと云ふべし、プンタスアレナス(Puntas Arenas)は太平洋岸の港にして首邑を距ること九十六粁に位するが大西洋岸のリモン(Limon)港は首邑より二十二粁にあり。

境域　◎パナマ

パナマ共和國(Republica de Panama)はコスタリカとコロンビアとの間にある狹長の國にして北は大西洋、南は太平洋に面し地積は八萬七千、餘方粁あり

土地　て長さは七百七十二粁に達し幅は六十乃至百七十七粁あり。

灣の大なる者はペルラス群島を有するパナマにして半島アズエロ、最大島コイバも亦太平洋にあり山脈はベラグァを以て著しきものとするが脈中にはサンチアゴ山(二八二六)聳ゆ。

住民　人口は三十四萬乃至四十萬と概算せらるるが、雜種にしてエスパニア、インヂアン、黑人、ヨーロッパ人、等より成りインヂアン的分子は臺地及び西岸に多く黑人は約四萬人ありて大西洋岸及び內部殊に鐵道附近にあり。

生業　土地肥沃、氣候炎熱にして熱帶的植物の繁茂に適するも耕地少なし、最、主要なるものは「バナナ」にして「カウチック」、珈琲之に次ぎ「ココヤシ」、「マホガニー」等も產出し、牛、馬、豚、等の飼養あり、眞珠はパナマ灣及びコイバ島にて採集せられ鑛產は未だ多からず、工業も亦微々として振はず、一九〇三年の貿易は輸入に四十七萬三千「ポンド」ありて輸出に二十五萬三千「ポンド」ありたるが一九〇五年コロンに於ける輸入高は二百萬「ドル」を超えたり、而して通過貿易には稍、見るべきものあり、地峽の兩岸は數條の航路に依りてアメリカ及びヨー

パナマ運河

ロッパと航通の便を有し、地峽を横ぎる鐵道は凡そ七十五粁ありて海底電信は國外に通ぜり而して兩洋を連ぬべき運河は其の長さ七十三粁と算せらる。

パナマ運河　中央アメリカの地峽部を横ぎりて兩洋運河を設くるの説は既に十六世紀頃に起りしが、一千八百七十九年パリーに於ける萬國會議に於て有名なるレセップスがパナマ地峽を開鑿するの議を建言せしまでは何等の進行を見ざりき一千八百八十一年二月二十八日を以て當事者のコロンに到着せるを始めとし、翌年には運河會社のパナマ鐵道を買收せるあり、一千八百八十年老練なる調査委員は運河開鑿費を八億四千三百萬「フランク」と概算せしが、其の後レセップスは水平無閘式にて六億「フランク」を以て足れりとせり、既にして工事に着手するや幾多の情實纏綿して負債は年々増加し遂に一千八百八十九年會社は破産するの悲運に遭ひ、所謂「パナマ」事件(一八九二＝九三)起りて中止せざるべからざるに至りたり、其の後一千九百二年に及びて合衆國は既成の工事幷に運河完成の權利を買收せんとせしが、翌年コロンビアの之を拒めるあり、爲めにパナマ縣はコロンビアより分離し、新共和國は同年十一月十八日合衆國とハイプナウバリリア(Hay-Bunau-Varilla)條約を結べり、此の條約に依りてパナマは幅十六粁の地帶の永世使用を許し、警察、司法、其の他の特權を與へ、尚ほ土地、海岸線の讓與を行ひ、同運河の中立的にして世界の商業の爲めに開放せらるべきものなりとせり、此の許諾に關して合衆國は一千萬弗を支拂ひ尚ほ九年後よりして毎年二十五萬弗を拂ふべきを規定せり、先之合衆國は運河會社の工事權利に對して八百萬弗を與ふべきを約し、一千九百六年には運河公債發行せられ、運河は有閘式と確定せられ、二萬七千の工夫の之が開鑿に從事するあり工事は益々歩を進めて世界の航通に關して大なる影響を及ぼさんとす。

パナマ

首都パナマ(二、八〇〇〇)は太平洋岸にあり、港形不良にして錨地はタボガ(Taboga)島にあるも船舶の停繫に便ならず、鐵路に依りて大西洋岸のコロン(Colon)即ちアスピンヲル(Aspinwall)港に通じ交通上の要區たるを失はず。

位置

◉アンチル諸島

アンチル(Antilles)諸島は一名を西印度諸島と云ふ、北緯十度に起り同二十三度に達する一帶の島嶼を合はせ稱するものにして、其の北部は殆ど東西に走りて南部は概ね南北の方向を有せり、北部はキウバ、ジアマイカ、ハイチ、プエルトリコ、等の大島より成るを以て大アンチルと稱し、南部は風諸島(Barlo Vento)風下諸島(Soto Ventu)等の小嶼より成れるを以て小アンチルと稱す、而してバハマ諸島を加ふれば極北は北緯三十七度に達すべし。

境域　北東及び東は大西洋に臨み、南及び南西はアンチル海即ちカリブ海に瀕し、西はユカタン海峡を挟みて地峡部と相對し北西はメキシコ灣・フロリダ海峡を隔てて大陸を望めり。

地積　大小のアンチルを合はすれば二十四萬二千方粁の地積を有するが、其の中二十一萬八千方粁は大アンチルに屬し、一萬一千八百餘方粁は小アンチルに屬せり。

山岳　本諸島は地質上、火山、白堊、第三期の三帶に分つことを得るが大島は主として白堊帶に屬せり、而して山脈はシエラデキュバに於ては二千八百米突に過ぎざるが、ハイチ島に於てに三千米突以上に達する處あり。

河流　本諸島は海洋の爲に圍繞せらるるを以て降雨多く、從て水脈に乏しからざるも各島は土地狹長にして平原少なきを以て大河巨流の存するあるを見ず。

氣候　氣候は熱帶的なり、沿海の平地は三月より十月に至る間は二十六度以上に達し、低温の月と雖も二十四度を下ることなく稀なり、貿島風は十月より三月まで北東の方向を取り、雨季は夏の終に始まりて十一月より四月に至る間を以て乾季とす、又八月乃至十月には暴風の害を蒙ること少なしとせず、此の如くなれども高地に於ては氣温稍低く温氣も强からずして概して健康に適せり。

天産　本諸島は世界有數の豐饒地なれば頗る植物に富めり、殊に甘蔗、珈琲、「ココア」、煙草實綿、等を產す、動物は野獸乏しけれども鳥類、昆虫類は少なしとせず、鑛物は多からざるものの如し。

住民　住民の總數は六百五十萬に近きが、土民は全く消滅して其の餘類を見ること能はず、白人は僅にして過半は黑奴の子孫たる黑人なり、其の他有色的雜種少なからず、而して多少の黃人あるが孰れも支那人なり、又言語に依りて區別すれはエスパニア語を用ふるものは總人口の凡そ半を占め殘部はフランス語、イギリス語、等を用ふ。

本諸島にはキュバ、ハイチ、ドミニカの三共和國の外にイギリス、フランス、アメリカ、オランダ、ダンマルク、等の領土あり。

◎キュバ

境域　キュバ(Cuba)はアンチル諸島の最大島なり、島形は狹長にして頗る港灣に富み、周回は三千百八十四粁ありて一千二百二十二粁の長さと三十九乃至二百十七粁の幅とを有し、地積は凡そ十一萬九千方粁ありて、ピノス島(Pinos)島、カマグエイ(Camaguey)諸島、等一千三百の小嶼を含めり。

地勢　島の南東部に於ける山脈シエラマエストラ(Sierra Maestra)はツルキノ山の

二五六〇米突に達するあるも、其の他の部には丘陵を見るに過ぎずして最高處と雖、七百米突を超ゆることなく殆ど皆無にして、河流は少なからざるも顯著なるものなく土地は最豐沃にして實に

氣候　氣温は概して炎暑を感じ、ハバナに於ける年平均は二十五度にして七八月の平均は二十八度に近く十二月、一月に於ては二十二度餘なり、而して炎熱にして降雨多き季節は五月より十月にしてハバナの年雨量は百三十四糎に達す此の他の季節は氣温暖和にして甚だ爽快を覺ゆ又暴風の害を蒙ること少なからず。

住民　人口は一九〇四年に於て凡そ百七十三萬人ありしが、一八九九年の調査に從へば百五十七萬餘人にして其の六割七分弱は白人、殘餘は雜種、黒人等より成れり、來住者の數は一九〇四年に於て其の十二月、一月に於ては二十二度餘なり、而して炎四千人弱はエスパニア人なりき。

政治　キューバは米西戰爭の結果に基づきて一九〇二年以來獨立の共和國と成りしも特殊の條約は合衆國の勢域内に屬せしめたり。

生業　森林は「マホガニー」「セダー」(Cedar)其の他の良材等を與へ、牧業は牛(一三二萬頭)馬等を養ひ、鑛産には銅「マンガン」鐵等あり、而して熱帶地方の特産たる珈琲「ココア」實綿等を産するのみならず甘蔗を産すること夥しくして世界第一の稱あり、煙草は良質を以て鳴り殊に西部のプエルタデアバジョ地方に産する「ハバナ」は世界に冠たり、而して製糖場はハバナのみにても二百七ヶ處あり、大小の製煙場は二百二十七ヶ處を下らずして一萬八千人以上の職工を使役す、貿易に就きて一九〇四―〇五年の輸入は凡そ九千三百萬「ドル」にして輸出に砂糖及糖蜜、煙草、果物、鑛物等の九千九百十二萬「ドル」足らずあり、而して入船は八百三十六萬餘噸の遠洋航船と二百八十二萬餘噸の沿岸航船とあるが、鐵道は二千三百八十六粁ありて四百六十足らずの郵便局を備ふ。

都邑　ハバナ(Havana)(二六、二三九五)はキューバの首府にして島の北岸に位し西印度第一の都會なり磯に煙草を製造し農産を集散す、殷賑の地なり、マタンザス(Matanzas)(四、五二八二)は首府の東に於ける主要の港なり、シエンフエゴス(Cienfuegos)(二五、九一二八)、サンチアゴ(ヅニヒヒ)(四、五四七八)は南岸の要港なり、プエル

トブリンシペ(Puerto Principe)(二、五〇一二)は內部にあり。

◎ハイチ

ハイチ(Haiti)島はアンチル諸島中第二の大島にして山岳多きも亦平野に乏しからず殊にベガレアル(Vega Real)王國の意は肥沃の地として知らる、富源多く頗る有望の土地なれども目下の國情は之が利用を許すべくもあらず。

ハイチ共和國(République d'Haiti)はハイチ島の西部を占め二萬八千餘方粁の地積を有するが、二半島は一大灣を抱き其の中にゴナーブ島あり、土地は山岳多くアルチボニット河は航行の便を與ふ、人口は百二十九萬餘人に達し、黑人、雜種、等より成れるが、白人は極めて少なく、概してフランス語を用ひキリスト舊敎を奉せり。

土地

ハイチ

當國の主業は農にして珈琲を第一とす、此の外に「ココア」、綿、甘蔗、「ログウード」あり、家畜の飼養あり、鑛物は豐富なれども採掘盛ならず、工業は砂糖、「ラム」石鹼、等を與ふ、一九〇三—〇四年の貿易は輸入に三百九十八萬「ドル」餘、輸出に凡そ八百五十九萬「ドル」弱あり、交通の便は備はらずして鐵道の如きも四十三粁に過ぎず、首府ポルトープレンス(Port au Prince)(七、〇〇〇)は良港を有するも市街は不整頓を極むと云ふ。

ドミニカ

ドミニカ共和國(République Dominicaine)はサントドミンゴ(Santo Domingo)とも呼ばる、ハイチ島の大部を占めて其の東に位し地積は四萬八千餘方粁あり、住民は四十二萬に近きが主としてエスパニア人と土人との雜種より成り黑人は少なくヨーロッパ人の子孫は比較的に多し、言語はエスパニア語流行しキリスト舊敎を以て國敎とす。

當地は木材に富みて「マホガニー」其の他を產し鑛物にも鐵、金、銅、石炭、等あるが主なる產物は「ココア」なり而して良質の煙草あり、甘蔗の栽培、砂糖の製造は南部及び西部に行はれ輸出は凡そ五百二十二萬金「ペソ」にして輸入は二百九十九萬「ペソ」に近きが交通の機關は發達せずして鐵道に百八十八粁、郵便局に六十九、電信線に六百九十粁あるのみ、首府サントドミンゴ(Santo Domingo)(五三)は南海岸のオザマ河口に位し、一四九六年の建設に係れる舊市たり。

ポルトリコ

◎アメリカ領

ポルトリコ(Porto Rico)即ちプエルトリコ(Puerto Rico)九三一四方粁九五、三二四三は山岳に富みて平低の地に乏し、住民の中白人は五十九萬に近くムラットは三十萬餘にして黑人は六萬に達せず、此の地は一八九八年の條約に依りてエスパニアより合衆國の手に移りしが繁昌なる殖民地を組成す、主産物は珈琲なるが甘蔗、煙草、綿、果物類も産出し、一九〇四—〇五年の輸入は約一千六百五十四萬ドル」にして輸出は砂糖、煙草、珈琲、等の一千八百二十五萬「ドル」なり、鐵道(二七六粁)、電信線(一五〇〇)、電話線、等も多少あり、首府サンジゥアン(San Juan)(三、二〇四八)は北岸にあり。

◎イギリス領

イギリス領はバハマ諸島、大アンチル列島中のジァマイカ島幷に小アンチル列島に於けるトリニダッド、其の他の島嶼より成り、住民は黑人及び雜種其の主要部を爲し、白人は少なし、而して土人カリブは尙ほドミニカ及びセントビンセントに多少ありと云ふ、行政上はジァマイカ、バハマ、リーワード、ヰンドノード、トリニダッド及びトバゴ、バルバドスの六群に分たる。

ジァマイカ

ジァマイカ(Jamaica)島一、〇八九六方粁七九、五三九八人はキゥバ島の南百四十四粁にありてイギリス領西印度の最大島なり、島内は山岳に富みブリゥーマウンテン山脈に大カスケード山(二三六一)、コールドリッチ山(二四八八)あり、其の他にブリウリッヂ、ブリッヒル、等あり、平低の地は或は沼地となりて濕潤に過ぐるあり、或は耕耘に適するあるも概して炎暑の地にして健康に適せず、然れども海拔の高き谿谷の地に溫和の季候を有するものありて頗る人生に適せり、住民は甘蔗、珈琲、「バナナ」、「ココヤシ」、牧草、等を栽培するか「ラム」酒は殊に有名なり、首府キングストン(Kingston)(四、六五四二)は島の南東岸に位す、世界屈指の良港を有し交通上の要區たるも震災の患少なからず。

バハマ

バハマ(Bahama)諸島一、一四〇五方粁五、五一九〇人は一にリゥカイユ(Lucayes)諸島と云ふ、西印度諸島の最北部を占めてキゥバ島の北東、フロリダ半島とハイチ島との間にあり、一千三四百粁の長さと平均三百粁の幅とを有し、五百以上の珊瑚質島嶼より成れり、住民は果樹の栽培を以て主業とするが海綿の採收も行はれ纖維業も有望なり、プロビデンス島のナッサウ(Nassau)はバハマの首邑にして商業の中心なりとす、サンサルバドル(San Salvador)島、即ちロットリング(Watling)島はコロンブスが始めて上陸せしグアナハニ(Guanahani)なり。

リーワード

リーワード(Leeward)諸島は小アンチル列島の北部にありてポルトリコとマルチニックとの間に位するが若干の島嶼を除きて其の他はイギリスに屬し、一七九八方粁一三、

一〇四四セント、ジョン(St. John)はアンチグア島の北部にありて知事の住する處なり。

ウィンドワード(Windward)諸島はフランス領マルチニック、セント、ルシア島(Santa Lucia)、セント、ビンセント(St. Vincent)及北グレナダイーズ(Grenadines)、グレナダ(Grenada)及カリアカウ(Carriacou)を含みセント、ルシアに於けるカストリー(Castries)は西印度の最良港なり。

トリニダット(Trinidad)島、二四八五平方一四一〇平方二分の一一には小アンチル列島中の最南最大の島にして於ける主要部を爲し甘蔗、珈琲、ココヤシ、ラムを輸出す。トバゴ(Tobago)島一一八五平方九九知事の住民此の他は森林、沼澤、山岳、岑の占むる所なり、氣候は甚しく健康を害せざるが如し住民はニーロッパ人と アフリカ人とのもの混血にして北部に多し。

◎フランス領

フランス領。三二八、八五四方九杆はグアダルプ、マルチニック、其の他の小アンチル島より成りて行政上はグアダルプ(Guadaloupe)島、一一六五、七〇八方六杆はドミニカ島の北にあり、四部を以て相連絡す、住民は甘蔗、珈琲、ココヤシ、ラムを輸出するが一九〇四年の輸出は一千三百二十六萬フランクに達し、知事の住するバスチール(Basse Terre)市にありてガロントアピトル(Pointe-aPitre)(二、二一一)は貿港を有す。

マルチニック(Martinique)島、一、〇九七、〇八一方一杆はドミニカ、セントルシア兩島の間に位し一九〇二年の火山破裂に依りて島の大部は損害を蒙れり、住民は珈琲、カカオ、煙草、綿を我培したるも一九〇四年の輸入は一千五百五十五萬八千フランクにして輸出は一千三百三十萬フランクに近し、政廳はフォールドフランス(Fort de-France)(二、一一六四)にあるが商業地としてはセントピエール(St. Pierre)(一、六〇一一)あり。

◎オランダ領

キュラソー(Curaçao)、蘭、領、地、五、三一六三五〇二方八杆はリーワイド諸島に於けるセントエウスタス(St. Eustatias)、サバ(Saba)、セントマルチン(南部)とベネズエラの海岸に於けるキュラソー、ブエンアイレ(Buen Ayre)、オルバ(Oruba)の諸島より成りて政廳はキュラソー島のウィレムスタット(Willemstadt)にあり、キュラソー島は鉛酒製造用の橙を産す。

◎デンマルク領

デンマルク領。三、〇五九二方七杆はサンタクルズ(Santa Cruz)島并にバージン群島中のセントトーマス(St. Thomas)、セントジョン(St. John)より成り、サンタクルスのクリスチアンスタッド(Christianstadt)を以て首府とするがセントトーマス島のセントトーマスには良港を

有し、船舶の出入少なからず。

南アメリカ

◉グイヤナ

グイヤナ(Guyana)即ちグアヤナ(Guayana)は南アメリカの北部にありて大西洋に瀕しオリノコ、アマゾン、等の河流に境せらるる島嶼様の土地なり而して北部の西端(總地積の四分一に當る)はベネズエラに屬し南部(同二分一)はブラジルに屬するが、殘部はイギリス、フランス、オランダの三國に分領せらる。此の三グイヤナの地積を合はせば四十四萬八千方粁ありて海岸の延長は一千一百乃至一千五百粁あるも平低にして良港に乏し、沿海の地は幅六十乃至一百粁ありて濕地多きに過ぐるが内部に趣くに從ひて土地は隆起し、太陰山脈、ツムクフマク(Tumuc-Humac)山脈はオリノコとアマゾンとの分水線に當れり、氣候は沿海の地に暑くして濕氣多く二十度乃至三十八度の間を昇降するも概ね二十五度乃至二十七度の間にあり、然れども内部の高地は温暖にして健康に適すと稱せらる、植物は熱帶的にして盛に繁茂するも氣候惡しく住人の繁殖を妨ぐるを以て貴重なる富源も徒に遺利たるに過ぎず。

イギリス領

イギリス領グイヤナ二四、六四七〇方粁 二九、五八四八人は三グイヤナの西部にあり、コレンタイン河は東境を流れて大西洋に入る、輸入は百五十四萬「ポンド」に近きが輸出百九十九萬「ポンド」は砂糖、糖蜜「ラム」、等より成れり、鐵道(一五三粁)、郵便、電信、電話の便を有す、首府ジョージタウン(Georgetown)(五、六〇〇〇)はデメララ河の口に位し佳良の港を有す。

オランダ領

オランダ領グイヤナ即ちスリナム(Surinam)一二、九一〇〇方粁 九、一〇〇〇人はコレンタイン河とマロニ河との間にありて砂糖、「ココア」、珈琲を產し、一九〇四年の輸入は七百三十九萬九千「グルデン」にして輸出は三百六十九萬二千「グルデン」なりき、パラマリボ(Paramaribo)(三、二二一九)はスリナム河の下流にありて知事の住する處なるが、市街清潔にして風色に富み商業稍〻盛なり。

フランス領

フランス領グイヤナ七、八九〇〇方粁 三、二九〇八人はマロニ河とオワポク河との間にありて、一九〇四年の輸入は約一千百六十九萬「フランク」にして輸出は「ココア」、燐鑛、木材、金、等の一千六十五萬「フランク」なりき、カイイェンヌ(Cayenne)(一、二六一二)は流謫地たるに過ぎざる當殖民地の首邑にして港を有せり。

◉ベネズエラ

世界地理提要　あめりか洲　ベネズエラ

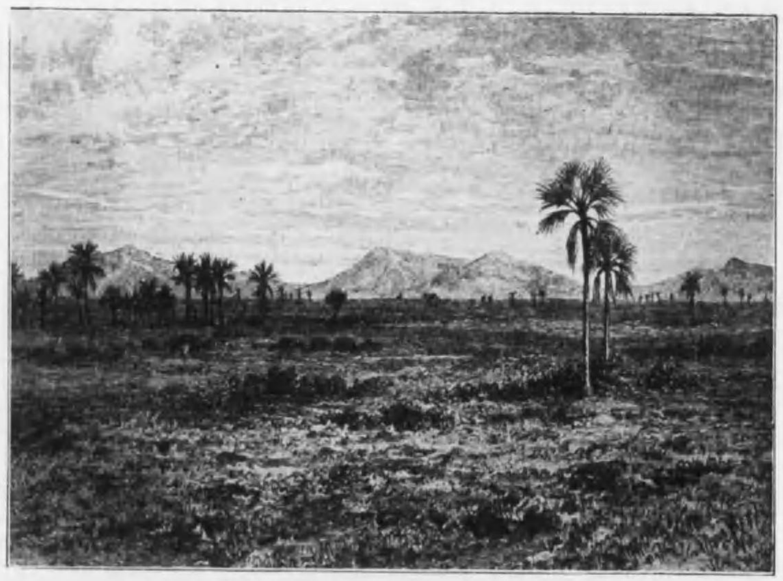
境域　ベネズエラ合衆國(Estados Unidos de Venezuela)ハ小ベニスの義は南アメリカの北部にありて北は大西洋に沿ひ、東はイギリス領グイヤナに境し、南はブラジルに接し西はコロンビアに隣す、地積は九十四萬二千三百方粁あり。

海岸　海岸に就きてはベネズエラ灣、マラカイボ灣、パラグアナ半島、アラが半島、パリア灣等ありて稍〻屈曲多く島嶼にはトリツカ、マルガリタ等あり。

山岳　北部の沿海の地に於けるカラカイブ山脈は西より東に走れるが、セルコデアピリア(二七二三)、マイケアダ(二八八〇)を包括し、北西に於けるシエラデメリダ、メリダ山脈はアンデス山系の餘派なり、南部の高地にはシエラパリマあり、而してグイヤナとの境にロライマ山(二六六五)の聳ゆるあり。

河流　オリノコ(Orinoco)河は南アメリカ第三の巨流なり、水源をパリマ山脈のレヒップ山に發し、高地を北流して平地に出で派流カシキアレ(Casiquiare)に依りてアマゾンの支流リオネグロに通じ、コロンビアより來れるグアビアレ(Guaviare)、メタ(Meta)等の水を受け、メリダ山脈より發するアプレ(Apure)に逢ひて東流し、三角洲を擁して海に入る河の長さは二千六百粁にして流域の地積は一百萬方粁に達し、平均水量は一萬四千立方米突なり、湖、沼は處々に存するがマラカイボ灣(二、一七四〇方粁)以外にカリアア湖あり。

ベネズエラにはオリノコ河の流域の大部を占むるリアノスなる草地あり處に依



アプレ(Apure)のリアノス　[ベネズエラ]

カリアオ(Callao)港の景

リァノス (Llanos) はオリノコの流域にありてベネズエラ及びコロンビアに亘れる特殊の「サバンヌ」なり、禾本科に屬する雜草繁茂し此處彼處には叢生又は着生の植物を擔へる「マカリシアヤシ」(棕櫚科)其の他、僅少の灌木の散在するを觀る

カリアオ (Callao)はペルーの國都リマの附庸港なり十六世期の創設に係るも地震又は海嘯の災害を受けしことありしのみならず又兵燹を被りしことあり、港は頗好ならざるも船舶の出入は二千八百隻、百五十萬噸にして住民は三萬五千足らずと注せらる。

氣候

海岸

住民

政治

りては稍、高隆なれども土地概ね卑低にして毎年洪水の氾濫を蒙り、雨季の終るや草地と化す、而して北西部のマラカイボ潟の沿岸地は水誌上一小區域を形成する如し。

ベネズエラを北より南に通過すれば先づ第一に沿海一帶に熱地を見るべし、太陽は光線を直射し山脈は之を反射し空氣は靜穩にして風なく寒候にありても二十四度を降らず、年平均は二十七度乃至三十度なり、然れども沿海山脈の地にありては空氣清涼にして暑氣に苦むことなし、リァノスに出づれば再び炎熱を感ずれども南部の高地、高谷にありては温和又は寒冷を覺ゆべし。

海岸并に沿岸山脈を農帶とし高地を林帶とするが、山岳は金、銀、石炭、石油、岩鹽、等を藏め森林は各種の木材を有し、耕地は「カカオチック」、「ゴム」、「キナ」、染料、珈琲、等を與ふる草木の培養に適し又穀類、畜類を産す。

人口は一九〇四年に凡そ三百五十九萬人ありてムラット、ザンボスの如き雜種多きを占め一八九四年には四萬四千餘の在留外人ありしと云ふ、宗教中にて最も流行するはローマ公教なりとす、大學は二校あり。

目下十三州、一區、五領土より成れる合衆國にして中央行政は任期二年の大統領之を司りて元老、代議の二院より成る國會は立法權を握れり。

生業　住民の五分の一は農業に從事して甘蔗、珈琲、「ココア」、穀類、等を與ふるが、家畜には牛、羊、山羊、馬、驢、豚、等あり、鑛物は豊富にして金は主にヤルアリ領土に産し、銀はベルムデス、ララ、ロスアンデスの諸州に産す、此の他、銅、銀、鐵石油、食鹽、等も存す、而してマルガリタ島には眞珠の採集あり、一九〇四―〇五年の輸入は四千八百四十三萬「ボリバル」餘にして主にアメリカ、イギリス、ドイツと取引す而して鐵道(八四二粁)、等なきに非ざるも交通は便ならず。

境域　カラカス(Caracas)七、二四二粁)は當國の首都にしてアンチル海の岸を距ること十九粁、カライブ山脈の北面海抜九百米突の地にあり、鐵路に依りてラグアイラ(La Guaira)港に通せり、バレンシア(Valencia)(二、八六五四)はタカリブア湖の西にありて佳良の錨處を有するプエルトカベロ(Puerto Cabello)を附屬港とす、バルキスメト(Barquisimeto)(三、一四七六)はツカカス(Tucacas)港の南西、海抜五五〇米突の地にあり、マラカイボ(Maracaibo)(二、四二八四)は同名の灣に瀕す。

カラカス

バレンシア

コロンビア共和國(Republica de Colombia)は舊名を新グレナダ(Nuevo Gra-

nada)と云ひて南アメリカの北西隅にあり、北には中央アメリカ、アンチル海を控え、北東はベネズエラ、東はブラジルと境し、南はエクアドルに隣し、西は太平洋に瀕せり、地積は百二十四萬八千餘方粁と云ひ百二十萬六千二百方粁に過ぎずとも稱せらるるが國境に不確正の處あり。

海岸　海岸線の延長は四千二三百粁に過ぎざるべし、アンチル海にはダリアン灣、ゴアジラ半島あり、然れども太平洋には著しき出入なし。

山岳　アンデス山脈は赤道附近に於て東、中西の三脈に分かれ、北進するに從ひて互に相遠かりて隆起せる谷地を狹めり、此等の山脈は何れも著しき直立を有するが、殊に中脈はプラセ(四七〇〇)、ネバドデフィラ(五五〇〇)、ネバドデルクインザオ(五一五〇)、トリマ(五六一六)、サンタイザベラ(五一〇〇)、等を包括す又アンチル海に沿ひて一の山嶺あり名づけてシエラネバダデサンタマルタと云ひ萬年雪を戴ける海抜五三〇〇米突の高峯を有せり。

地勢　山脈の西には僅少の平地を見るに過ぎず、山脈の間に於ける谷は南北に走れるがアンデスの東面には廣漠たる平原ありて東に傾斜す。

河流　河流は三斜面に屬す、大西洋斜面にアマゾンの支流ありカケタ、ワカペス、井にガリノコの支流なるアピアレメタ、等あり、マグダレナ(Magdalena)河(一七〇〇)は其の最大支流たるカウカ(Cauca)(一三五〇)と共に源を中央アンデスに發し、テケンダマの

氣候

天産

住民

政治

生業

瀑布(Salto de Tequendama)を以て有名なるボゴタ河を容れ北流してアンチル海に入り西アンゲスの西に於けるアトラト河(六六〇)は多量の水を輸送するを以て著名なり、太平洋に入るものは短し。

沿海の低地にありては暑氣強くして健康に適せざるも土地の隆起するに從ひて溫地と成り冷地と成るを見るべし。

低地にはマホガニー」の如き木材、其の他、染料、藥材と成るべき樹木ありて熱帶植物に富むのみならず地下には金、銀白金、鐵、銅、鉛、石炭、等を藏む。

人口は四百五十萬一千人しにて一方粁四人に過ぎず、種族上は土人、雜種の外に黑人、白人あり主としてローマ公教を奉ず。

立法權は元老、代議の二院より成る議會に屬し、大統領は六年毎に改撰せられ、六大官に依りて政務を行ふが、地方は十五縣、一首府區、若干の監督區に分たれ、兵備には約一萬人の陸兵と數隻の兵艦あり、一九〇五—〇六年の歲出入は各〻二千百二萬「ペソ」に近くして外債は二百八十萬餘「ポンド」を越ゆ。

交通の便少なきを以て沃土の多くは未だ利用せらるるに至らず、農産の首位は珈琲の占むる所なるが綿、「ココア」、甘蔗、穀類、等も多少栽培せらる、家畜は一八九九年に於て凡そ七百九十五萬頭と算せられたり、鑛物の種類は頗る多けれども詳細なる統計なく金銀の年産額は未だ八百二三十萬圓に過ぎず、首府ボゴタの北に於けるジパキラ(Zipaquira)の鹽坑は政府歲入の一主源なりと云ふ、貿易は一八九八年には一千九百十六萬「ペソ」の輸出ありしが一九〇〇年には六十五萬「ペソ」に達せず、珈琲、皮革、煙草、等を輸出す、交通の機關としては六百六十一粁の鐵道、一萬四千粁足らずの電信線、等なきに非ず。

ボゴタ

バランキラ

メデリン

ボゴタ(Bogota)(一二、〇〇〇〇)即ちサンタヘデボゴタは一五三八年の創建に係りて海拔二六三二米突の處、農牧の地にあり、濕氣稍〻多きも氣溫は十四乃至十六度にして變化少なく、頗る健康に適せり、河港ホンダ(Honda)を附庸地とす、バランキラ(Baranquilla)(四、〇〇〇〇)はマグダレナの河口に近くして共和國商業の中心なり、外港をサバニラ(Savanilla)と云ふ、カルタヒェナ(Cartagena)(二、五〇〇〇)はアンチル海に沿ひ鑛業地に位す、ブカラマンガ(Bucaramanga)(二、五〇〇〇)は東アンデス地方にありて珈琲の産地に位す、メデリン(Medellin)(五、三〇〇〇)はカウカの支流に沿ひ海拔一四七〇米突に位し鑛業の中心なり。

●エクアドル

エクアドル共和國(Republica del Ecuador)はコロンビアの南、ブラジルの西、ペルーの北にありて太平洋の東岸に位す、地積は二十九萬九千六百方粁あるが、ガラパゴス島を加へば三十萬七千餘方粁と成る。

境域

海岸線は太平洋に限らるるが稍〻大なる灣はグアヤキルにして其の中にプナ島あり、ガラパゴス諸島は凡そ九百七十粁の沖合にありて最大島をアルベマルと云ふ。

海岸

アンデス山脈は沿海の地を南北に通過し二脈を爲して海拔二千九百乃至三千米突の高臺地を抱擁せり、兩山脈は共に海拔四千米突の平均なるが、西山脈はチンボラソ(六二五四)、ピチンチア(四七八七)、等の高峯を有し、東山脈はサンゴアイ(五三二三)、カヤンベ(五八五〇)コトパキシ(五七四六)、等の秀嶺を有せるが活火山も少しとせず。

山岳

アンデス山脈の東の斜面は鬱蒼たる森林を藏き緩斜してアマゾンの流域たる一大平野を形成し、西の斜面は斷崖、絶壁、狹谷、峽地を爲して急斜し沿岸の地に至れば平低なる沼地を爲せり。

地勢

河流の長きものは山脈の東部にありてカケタ即ちヤプラ、プツマヨ、即ちイカ、ナポ、等は皆アマゾンの支流たり、エスメラルデス、グアヤス、等は太平洋に注ぐ。

河流

國の名が赤道を意味する如くエクアドルは赤道の下に位し沿海の地は炎暑にして健康に適せず、グアヤキルに於ける年平均は二十七度八に近きが、臺地は爽快にしてキトーに至れば十三度、二なりとす而して山脈の四斜面は十二月より五月まで炎熱、濕潤なる氣候を見るが山脈の東にありては暑氣、濕氣共に强烈にして乾候、濕候の境界極めて判然たり。

氣候

山地は金、銀、白金、石炭、等を産し、植物はアンデス地方に稀なるもアマゾン斜面の森林は木材の無盡藏たり。

人口は百二十七萬二千人ありて其の大部はインヂアンに屬せり、而して蒙昧なるインヂアンは二十萬人に達するも、ヨーロッパ人は甚だ少なし國教はローマ公教なるが大學も一校設けらる。

住民

エクアドルは統一的共和國にして行政權は四年毎に改撰せらるる大統領に屬し議會は二院より成り、地方は十六州、一領土に分たる。

政治

當國の主産物たる「ココア」はロスリオス(Los Rios)及び海岸に近き其の他の諸州に產す、此の外に珈琲、綿、等の農產あり、鑛物の包藏は多けれども採鑛の業は來だ盛ならず、工業にはパナマ帽、彈力「ゴム」、砂糖、等の製造あり、貿易に就きては一九〇五年の輸入は一千百七十二萬、スクレ」に近く輸出一千二百三十四萬「スクレ」弱は「カカオ」、象牙實、「カウチゥク」、珈琲、パナマ帽、等より成れり、鐵道は二百七十粁、電信線は四千百三十粁あるのみ。

生業

キトー　首府キトー(Quito)(八、〇〇〇)は赤道直下にあるも海抜が二八五〇米突に達するを以て氣候は爽快恰も春季にあるが如し、然れども震災の多きを缺點とす、グアヤキル(Guayaquil)(五、一〇〇)は太平洋に瀕する南アメリカの一良港なり、「カカオ」、珈琲、砂糖を輸出す、クエンカ(Cuenca)(三、〇〇〇)は土邑ッミバンバの舊地にありて農產を集散す。

グアヤキル

◎ペルー

境域　ペルー共和國(Republica del Perú)は南アメリカの西岸にありて北はエクアドル、東はブラジル、ボリビア、南はボリビア、チレーと境し、西は太平洋に瀕す、地積は百十三萬七千方粁乃至百七十六萬八千八百餘方粁あり。

海岸　海岸線は二千三百五十粁あるのみにして著しき出入を呈せず島嶼も亦大なるものなし。

山脈　アンデス山脈は海岸に並行して南北に走り、北部に於ては三條に分かるるも南部に於ては二條と成るものの如し、南部の西脈中にはミチ(五八〇〇)、ウビナス(四八七六)、ピチュピチュ(五六七〇)、ッッパカ(五七八〇)、等の諸山あり。

河流　ペルーはアマゾン河の上流マラニョン(Marañon)を含みてフリァガ、ユカヤリ、等の流るるあり、然れども太平洋に入るものは著大ならず、湖にはチチカカありて南部に位し以て一小閉塞地を形成す。

地勢　ペルーの地は三帶に分かる、コスタ即ち沿海地は海岸より起りてアンデス山脈の西斜面に於ける一千五百乃至二千米突の地に達せり、シエラ即ち山岳地は二千乃至四千米突の地を包括し、モンタニア即ち森林地は山脈の東に當り緩慢なる傾斜を以て二千米突より五百米突まで降下せり、而して此の三帶は各、風色、氣候、天產を異にす。

氣候　コスタは乾燥に失し谿谷の地に非らざれば豐饒ならず、降雨は極めて稀なるも露は甚だ多し、氣溫は變化少なく平常は十九度乃至二十度にして時に二十五度以上三十度に達することあり、シエラは氣候爽快なる谷地を有するも寒冷に失するブナス(Puno)(三八五〇)ありて高山秀嶺を戴けり、氣溫は零度乃至二十二度にして降雨、降雪を有すること恰も温帶の地に於けるが如し、モンタニアは綠樹の大洋にして氣溫高く強雨屢、至り空氣は濕潤にして殆ど飽和點

に達せるを見る。

天産 コスタの植物は溫帶的と熱帶的とを兼ね、シエラは穀類、馬鈴薯等を產し牛馬の飼養に適し、モンタニアは森林の富を有するの外、熱帶的の野菜、果物、穀類をも產す、金、銀、水銀、等の鑛物は尙ほ盡きざるが如し。

住民 人口は一八九六年に於て凡そ四百六十一萬あり一八七六年の調査に依れば二百六十六萬にして、之を種屬別にせば五七、六は インデアン、二四、八は メスチゾス、一三、八は白人なりしが、黑人、アジア人は百分中の四に達せざりしといふ、宗教はローマ公教を以て國教とす、大學は リコ、アレクイパ、クズコ、トリジロに設けらる。

政治 政体は統一共和制にて立法權は元老、代議の二院に委ねられ、任期四年の大統領は外務、內務、陸軍海軍、司法宗務、商務、財務土木の六大官より成る內閣に依りて行政權を行ひ、地方は十九縣に分たる、兵備は微弱にして陸兵に四千人、兵艦に四隻あるのみ而して一九〇六年の豫算は歲出約二百十八萬「ポンド」歲入凡そ三百五十三萬「ポンド」を示せり。

漁業は寒流を受くる近海に行はれ鰊、鯖、鱈「ラバリヨ」、鮭に似て大なり等を與ふ、農產物は綿、珈琲、砂糖なり、綿はヒウラ縣に於けるチラ(Chira)河の南岸地方に產し、珈琲は中央ペルーのチァンチァマヨ(Chanchamayo)、ペレネ(Pérene)、パウカルタンボ(Paucartambo)等の地方に產し、砂糖は沿海地方に產す而して「ココア」の栽培も擴がり、米、煙草、小麥「オリーブ」、玉蜀黍の栽培あり、ラリベルタド縣のオツズコ(Otuzco)は「コカ」の主產地たり、此の外に「キナ」、染料植物、等あり、鑛業に就きて金はペルーの多くの縣に於て發見せられ銀はセロデパスコ(Cerro de Pasco)、カイロマ(Cayiloma)カストロビレイナ(Castrovireina)、レクアイ(Recuay)より出づるが石炭は他の鑛物の如く採掘盛ならず、石油はピウラ縣のタララ(Talara)に產す、而してフアニロス(Huanilos)ブンタロボス(Punta Lobos)パベロンデピカ(Pabellon de Pica)には「グアノ」の堆積あり、工業は稍進步しつつありて草帽、織物、「ビール」、靴、煙草、葡萄酒「オリーブ」油、家具等を產す、貿易に就きて一九〇四年の輸入は四百廿九萬八千餘「ポンド」にして輸出は砂糖(一五七)、鑛物(一三四)、實綿、生毛、「カウチゥク」等の約四百七萬「ポンド」なりしが、主要なる取引先は

イギリス、アメリカ、ドイツ、チレー、フランス、等なり、又一九〇五年カリヤオ港の入船は凡そ八十八萬噸なり、商船(一九〇二年)は二萬八千噸、鐵道(一九〇四)は一千九百七粁、郵便局(一九〇二)は三百六十九、電信線(一九〇三)は約五千三百粁あるに過ぎず。

リマ(Lima)(一三、三〇〇〇)は當國の首都なり、海抜一七五米突の地にありて太平洋を距ること二十餘粁なり、降雨は甚だ稀にして三十年に一回あるに過ぎずと云ふ、難工事にて知らるる鐵路に依てカリヤオ並にセロデパスコ(Cerro de Pasco)地方に通せり、カリヤオ(Callao)(四、八一一八)はリマの附屬港にて全國第一の貿易港たり、クッコ(Cuzco)(二、〇〇〇〇)はリマの南東、海抜三四九六米突の地にあり、インカ(Incas)人の首都たりし處にして舊跡多し、アレキパ(Arequipa)(二、五〇〇〇)はミチ山の南西にありて附屬港をモレンド(Mollendo)と云ふ、アヤクチョ(Ayacucho)はアンデス高原の産金地にあり、獨立史上に名を知らる。

◎ボリビア

ボリビア共和國(Republica Boliviana)はブラジル、アルヘンチナ、パラグアイ、ペルー、チレーに依りて包圍せられ約白二十三萬方粁の面積を有す。

山岳　山岳は少なからざるが何れもアンデス山脈に屬す、西山脈は平均直立四千米突にして最高峯はサハマ(六四一五)なり、東山脈はイリマニ(六四一〇)、ソラタ(六六一七)等の高峯を有す。

河流　アンデスの兩脈間に於ける臺地の海抜は三千五百乃至四千米突にして北と東とには平低なるリアノス、チアコあり。

河流の著しきものは臺地に於てチチカカ湖、ポポ湖(アウリアガス湖)等を連絡せり、又ベニ、マモレ、等はアマゾンの流域に屬してヒルコマヨはリオパラグアイの支流たり。

氣候　低地に於ては暑氣強く不健康なれども東の斜面は温和にして爽快なり、臺地にありては嚴寒を感じ降雪を見ること稀ならず、又暴風の襲來することあり。

住民　一九〇四年の概算に依れば人口は二百十八萬餘人なるが一九〇〇年の調査に依れば百七十三萬餘人にして其の五割はインヂアン、二割六分は雜種、一割二分は白人なり、宗教はローマ公教最も行はれ、教育は不振なれども五ヶ處に大學あり。

政治　ボリビアは共和國にして立法權は二院より成る議會に屬し任期四年の

大統領及び副統領(二名)は行政權を握り地方には八縣あり。

生業　農業は幼稚なれども小麥、玉蜀黍、大麥、馬鈴薯、珈琲、等の栽培なきに非ずして「カウチック」「キナ」「コカ」等も產出し、牛、羊、「ラマ」等の家畜は多く飼養せらる、鑛業は豐富なるが銀の產出少なからず、錫はチチカカ湖南方の臺地にありて其の採鑛はフアメイ(Huanui)を以て中心とす、貿易は一九〇四年に一千九百八十二萬三千「ボリビアノ」を輸入し二千百十六萬三千「ボリビアノ」を輸出せるが、主要なる輸出品は錫、銀、「カウチック」、銅、「コカ」なりとす、交通の機關に就きては鐵道に一千百二十九粁、電信線に五千十三粁、等あるのみ。

スクレ　首都スクレ(Sucre)(二、〇九〇七)は海拔二七九九米突の地にあり、ラパス(La Paz)(五、四七一三)は「イリマニ」山を距ること四十二粁、チチカカ湖を距ること五十粁、海拔三七二〇米突の地にあり、空氣乾燥にして氣溫の年平均は凡そ十度なり、「玉蜀黍の產地にありて「チチャ」(Chicha)酒を製す、又議會は此の地にて開かる、コチャバンバ(Cochabamba)(二、一八八六)は農業地にありて小麥を集散す、ポトシ(Potosi)(二、〇九一〇)はスクレの南西にありて產銀地として名を知られ

境域　し處なり、サンタクルス(Santa Cruz)(一、五八七四)はアンデスの東麓にあり。

海岸　● チレー

チレー　共和國(Republica de Chile)は南緯十七度半より五十六度に亘れる狹長の地にして、北は「ペルー」、北東は「ボリビア」、東は「アルヘンチナ」、西及び南は太平洋に瀕す、長さは四千九百粁にして幅は百五十乃至二百粁に過ぎざるが、地積は七十五萬九千方粁又は七十九萬七千方粁餘に計上せらる。

山岳　北部に於ては殆ど一直線を爲すも南部に於ては港灣多く夥多の島嶼に依りて擁護せらる、今島嶼の主なるものを北より記せばチロエ島、チョノス群島、エルリントン島、マドレデデオス群島、ハンノーフェル島、レイナアデライデ群島、サンタイネス島幷にマガリァネス海峽の南にありてチレー、アルヘンチナに分屬するフエゴ島あり、太平洋上の離島にジァンヘルナンデス諸島あり半島はタイタオ、ポンソンピー、ブランスキック等あり。

山岳はアンデス山脈に屬しタコラ(六〇一七)、バリナコタ(六三七六)、アウカンキルチァ(六一三〇)、パニリ(六三二〇)、ミニクェス(六〇三〇)、リァライリァカオ(Lalai-

Ilaca) 火山(六六〇〇)、等は南緯三十度以北に位し、ツプンガト(六七一〇)、マニポ火山、等は其の南部にあり而して全アメリカ洲の最高峯たるアコンカグア(七二〇〇)は國境にあり而して高峠にクンブレ(Cumbre)(三八〇〇)、ビリアリカ(Villarica)(二八一〇)、等あり。

地勢

土地はアンデス山脈より西に傾きて太平洋の岸に達し沿岸の平野は稍廣からざるに非ざるも丘陵、谿谷ありて單一なる平野を爲さず、而して北部に進めばアタカマ(Atacama)沙漠あり。

河湖

河流は其の數多きも急流激端たるに過ぎずして航行の便を與ふるもの少なし、中に就きて最長きをビオビオ(Biobio)云ふ、湖沼は少なからずしてアタカマ地方に稍大なるものあるも特に記載するに足らざるなり。

氣候

北部は降雨稀にして暑氣烈しく乾燥に失す、中部は氣候佳良にして降雨適度なるのみならず、土地肥沃なれば最農業に適せり、南部は濕潤に過ぐるが南下するに從て氣温は低下しプンタアレナスに至れば温度は十五度と零下四度との間を昇降すと云ふ。

天産

北部は到底耕作に適せざるべしと雖、地下には銅、硝石を始めとし多量の鑛物の蓄藏あり、而して森林草原に富める南部は漁產の多きのみならず亦金、銅、石炭、等を包含す。

住民

人口は三百十七萬餘人にして一方粁に付き四人に過ぎず、大多數はエスパニア種族の白人にしてインヂアンの數は凡そ五萬あり、其の外、外國人(フランス、ドイツ、イギリス、等を主とす)にして此の地に在留するもの二萬六千六百人あり、宗教はローマ公教を以て最盛なりとす、教育は普及せずして一九〇一年の調査に依れば壯丁の七割は讀むこと書くことを爲し能はずと云ふが公私立の大學以下諸種の學校なきに非ず。

政治

チレーは一八一〇年を以てエスパニアに對して獨立を宣言し、一八一八年に至りて全く其の羈絆を脫し得たるが爾來領土を擴張して今日に至れり、當共和國の立法權は二院より成る國會に屬し、司法權は一大審院、六控訴院、其の他の裁判所に屬し、行政權は任期五年の大統領に委ねられ、大統領は十一人の委員を以て組織する評議會幷に七省に分かるる内閣に依りて幇助

せらるるが、地方は二十三州一領土に區劃す、兵備に關して陸兵は平時に一萬八千人、戰時に十五萬人あるが、兵艦は三十二隻四萬二千餘噸あり、歲出は一九〇五年に於て一億一千百十萬「ペソ」(紙)と二千百七十一萬「ペソ」(金)弱あり。

住民の約百五十萬は農業に從事して穀物、果物、野菜等を得、牧業は馬、牛、羊、其の他を飼養すと雖も當國の富は主として鑛業にありて殊にアタカマ、タラパカ等の北部の諸州に盛なり、其の第一は銅にして一萬一千五百佛噸以上を產し、此の他に凡そ二十三萬�fの金約一萬六千貫の銀あり、又石炭、「グアノ」あり、而して當國の硝石田は八萬九千二百「ヘクタール」に近き面積を有して二十三億一千六百萬「メートルキンタル」を含蓄すと概算せられ、一九〇四年には百五十一萬噸に達し二萬四五千人の工夫を使役せり、又沃度には百三十佛噸の產あり、工業は砂糖、酒類、車輛、器械等を製するも未だ盛大ならざるが如し、貿易は漸次進歩しつつありて一九〇五年の輸入は約一億八千八百六十萬「ペソ」、輸出は二億六千五百二十一萬「ペソ」なるが、主要なる取引先はイギリス、ドイツ、合衆國、フランス、等にして重要輸出品は硝石(一、六〇五〇)、銅(一九一〇)、小麥(七〇三)、沃度(五七六)の外に大麥、鑛物、熟皮、等あり、船舶の出入は各、約一千七百萬噸を超え商船は四萬噸に過ぎざるが、鐵道は四千七百三十粁、郵便局は一千十ヶ處、電信線は約一萬五千粁、電話線は二萬五千四百八十粁を有す。

當國は南北に長き土地にして天產の分布にも自ら差異あるを以て四區の別を爲すを可とす、其の鑛業區は十八度より二十七度に達する乾燥不毛の土地より成るも硝石(アタカマ地方)「ボラクス」、銅(コピアポ)「コピアピア」銀、金、「グアノ」、等に富めり、其の鑛農區は二十七度乃至三十三度に亘る地にして氣候佳良、人口稠密なり、實に當國の中心たり、鍋井に穀類、果實、等を產するも乾魃と震災との患あるを缺點とす、其の農業區は三十三度乃至四十二度に至り氣候温暖降雨多し、穀類、馬鈴薯、果實、葡萄酒、等の產あり、其の林業區は南端を占む、樹木饒多にして漁產も少なからざるが住民は甚だ稀薄なり。

首都サンチアゴ(Santiago)(二九、六六九五)南緯三三度二六分四二秒は太平洋を距ること百三十粁、海面を抜くこと五三五米突の地にありてマイポ河の支流たるマポチョ(Mapocho)に跨れり、氣温の年平均は十三度弱なるか寒暑の差は稍、甚し、バルパライソ(Valparaiso)(四、二二八二)は南アメリカの西岸に於ける最要の商港なり、コンセプシオン(Concepcion)(四、九三五一)はビオビオ河

サンチアゴ
バルパライソ
コンセプシオン

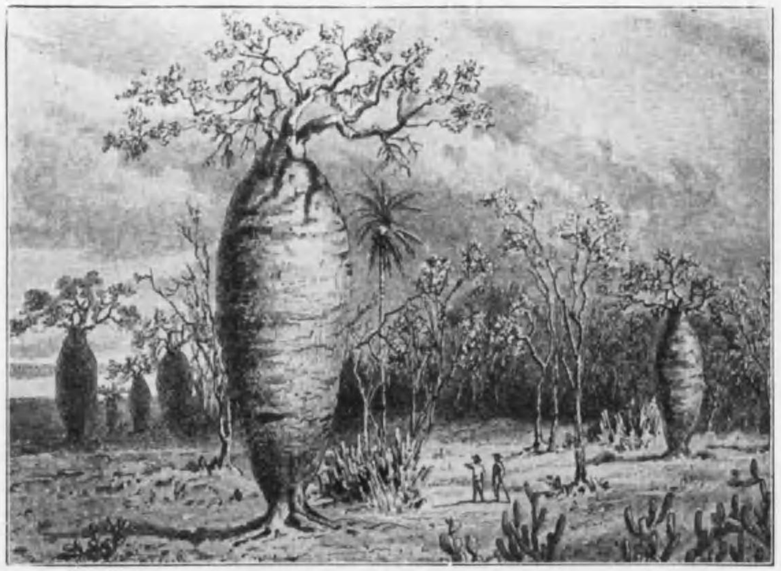
に臨む商業地なり、タルカ(Talca)(四、二七六六)、及チリアン(Chillan)(三、三五〇六)はアンデスの麓に位する鑛業地にあり、イキク(Iquique) 四、二七八八)は北チレーの商港にして硝石を輸出す、プンタアレナス(Punta Arenas)はマガリアネス海峽に瀕し、其の東口より百八十八粁、其の西口より二百七十六粁の處にあり。

附記　オセアニア洲に屬するラパヌイ島を領有す。

◉ブラジル

境域　ブラジル合衆國(Estados Unidos do Brazil)は南アメリカ第一、世界屈指の大國にして地球陸界の凡そ十七分の一、アメリカ全洲の五分一強、南アメリカの二分一弱に當りて約八百五十三萬方粁の地積を有す、長四千二十三粁、幅四千百八十粁ありて、北はベネズエラ、グイヤナに接し、北東及東は大西洋に面し、南及南西はウルグアイ、アルヘンチナ、パラグアイと境し、西はボリビア、ペルー、エクアドル、コロンビアニ隣す、ペルーとの境界に就きて尚紛議なきに非す。

海岸　海岸は七千五百粁の長さを有するも一般に單調にして著しき港灣



カアチンガ(Caatinga)に於ける樽の樹［ブラジル］

サヴコ(Chaco)の景［パラグアイ］

チアコ（Chaco）即ちグラン・チアコ（Gran Chaco）は南アメリカに於ける一地域にして南北一千二百粁、東西六百粁、北中南の三部に分れ、中部以南はアルゼンチナに屬し北部はボリビアとパラグアイとの間に分領せらる。土地平坦にして粘土質なるを以て河水の氾濫又は雨水の停滯は幾多の湖池を生じ、氣温夏季平均二六五度高く、草木は繁茂して草原（Pampas）又は森林（Potreros）を呈するも種類に乏しく、雜草は禾本科に屬する數種より成り、樹木は「ウサキシ」（蠟椰）（Copernicia cerifera）〔棕櫚科〕、「アルガロッボ」（Argarrobo）（Cerakonia ?）〔豆科〕、「ヴィナル」（Vinal）〔豆科〕、「ガイアク」（Gaiac）〔蒺藜科〕、「ミストル」（Mistol）、「ケブラチオ」（Quebracho）、「チャナル」（Chanar）等に過ぎずと云ふ。

カアチンガ（Caatinga）即ちセルタン（Sertão）はブラジルのバイア（Bahia）州に於ける特殊の森林なり、樹種には仙人掌科に屬するもの多く其の他棕櫚科等のもあれども就中最も著しきは木綿科（Bombacaea）の樹なりとす。

地勢　ブラジルの大部は六百乃至一千五百米突の臺地に屬す而して此の臺地の西部は傾斜極めて緩慢なるが、東部の傾斜は稍著しくして沿岸の山脈を爲せり、又國の南東部は山岳に富めるも直立三千米突以上に達するものなし、北部にはパリマ山脈、バカライマ山脈等あるが、南東部にはアイモレス（Aimores）、エスピンハソ（Espinhaso）、マンテリクエイラ（Manteriqueira）、マール（Mar）等の山脈あり而してマンテリクエイラ山脈中のイタチアイア二九九四はブラジルの最高峯とせらる。

ブラジルは廣大なるアマゾン流域の大部を含み、マデイラ、タパジョス（Tapajos）、ヒング（Xingu）等は右岸よりアマゾンに入り、左岸より來るリオネグロと共に大なる支流なり、而してトカンチンも亦アマゾンに通せり、此の外にパラナ、パラグアイの流域に屬する處あるがサンフランシスコは全く國内にあり、湖は南部のパトスを以て最大とするがアマゾンの流るる北部の地方にを有せず、中に就きてアマゾンの河濱、パラ濱、マラニオン濱、バイア濱、リオジネイロ濱、オレンジ岬、サンロック岬、フリオ岬等は主なるものなり。

は小湖少なからず。

氣候　土地の大部は熱帶に位し沿海并にアマゾンの平野にありては暑氣強く濕氣烈しく夏季の平均温度は二十八度にして殆ど四季の變更を感ずることなし、然れども内部にありては寒暑の差稍〻著しく乾候、濕候の二季あるを見る。

天産　ブラジルは各種の天産に豊富なるが、殊に植物には約一萬二千種ありて建築材、細工用、指物用、染料、藥品、等を供す就中「ブラジル」(Caesalpina)「パロサント」(Dalbergia)「ブラジルクルミ」(Bertholletia excelsa)「ロビサバ」(Attalea funifera)「ポラカ」(Siphonia elastica)、等を以て顯著なりとす、動物にも乏しからずして「ジャグアル」、猿、「ベカリ」、猿猴類、爬蟲類、鳥類、等あり、鑛物には金、鐵、金剛石、其他の寶石、等あり。

當國は土地廣大にして氣候、天産、等に大差あるが故に北より南に至るの順を以て「セルバス」、「カンポス」、沿海、南方の四帶に區分するを適當とす、「セルバス」(selvas)「フンボルト」の即ち森林帶は温度高く濕氣強き地にして總地種の三分一に達するが、其の「イガポ」(Igapo)はアマゾナス并に其の支流の氾濫域に當り樹種劣等にして用途少なし、其の「エテ」(Ete)即ち「アジア」(Guaçu)は壯大なる森林を形成して棕櫚科、橡、金鑛科、等の樹木に富めり、殊に奇觀を呈するはリオネグロ沿岸の「カポエス」(Capoes)即ち丘狀林なりとす。

「カンポス」(Campos)即ち草野帶は南東部を占めセラドマル(Serra do Mar)、セラダマンチクェイラ(Serra da Mantiqueira)、セラドスベルテンテス(Serra dos Vertentes)、等の山脈を戴けるの臺地より成れるが金、鐵、石綿、金剛石、等の鑛産を與ふ。

沿海帶はアマゾナスの河口に起りリオデジアネイロ附近に達するが北東岸は平低にして砂地多く樹木少なく僅にサンロカ岬以南には彎曲出入ありて港灣を呈するも亦岩礁の存するが爲に接觸に便ならず、平低の地には綿草、煙草、等の栽培ありて丘上又は山腹には珈琲の産あり。

南方帶は臺地の南面に當りてサンパウロ、パラナ、サンタカタリナ、リオデジアネイロの四州に亘れるが氣温高からざるに非ざるも涼風「パンペロス」の吹き來るが爲に炎熱に苦むに至らず、地味肥沃にして農牧に適するを以てパウリスタス(Paulistas)白人と土人との雜種人は來住者たるイタリア人、ドイツ人、等と共に林中の「プラウルモミ」(Araucaria brasiliensis)を利用し、草綿の栽培に從事し、又「ファゼンダ」(Fazenda)(牧塲)に於て牛馬を飼養せり。

住民　人口は一八九〇年の調査に依れば凡そ一千四百四十萬人ありて六

百三十萬は白人、四百六十四萬はメチス(Metis)、二百十萬人は黑人、殘餘はインヂアンなりしが、北部の諸州にはインヂアン的分子多く、ペルナンブコ、バイア、リオデジァネイロ、ミナスの地方には黑人多く、海港に於ける住民の主要部はヨーロッパ人の子孫たり、來往者の數は一八七一年より一八九二年までに凡そ八十六萬人、一八九三年より一八九八年に至る間に約六十五萬ありて一九〇四年には三萬二千餘人なり、而して一九〇三年の調査に依れば外人は百五十萬のイタリア人を第一とし、百萬のポルトガル人、二十五萬のドイツ人、等之に次げり、宗教上にはローマ公教徒最も多くして一千四百十八萬人に近く、プロテスタント教徒は十四萬餘に過ぎず、言語はポルトガル語を用ふるもの多きもイタリア語、エスパニア語、フランス語、ドイツ語を用ふるものも少なからず、而して內部に於てはグァラニス語とポルトガル語との混成たるリングァゼラルが一般に行はるるものの如し。

沿革　アメリゴベスプッチ(一四九九—一五〇一—一五〇二)、ピンソン(一五〇〇)、カブラル(一五〇〇)等の探査を經たるもブラジルが始めて移住者を見

兵備
財政

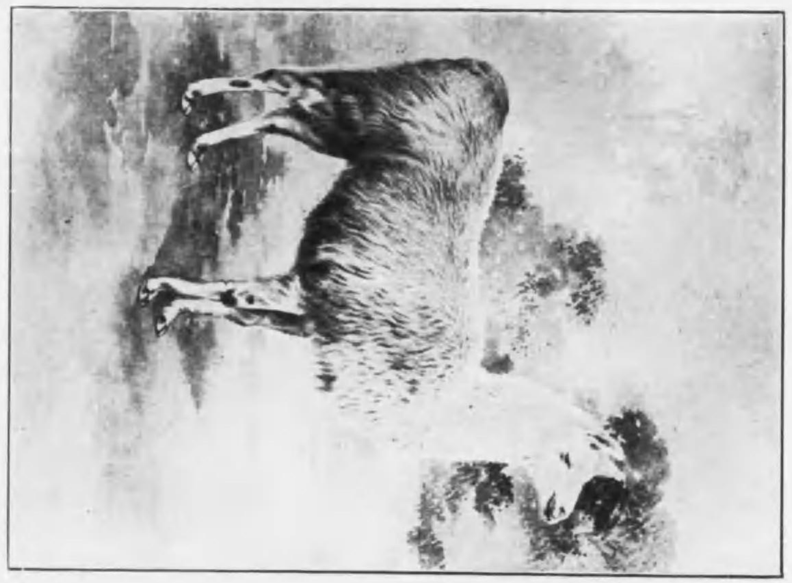
たるは一五二二年なりき、而してポルトガルが總督府を設置(一五四九)せし後フランス人の侵入、オランダ人の割據、等ありしに拘らず、漸次に發達して廣大なる殖民地と成りしが、一八〇七年本國の王族此の地に逃れ來りて王國の建設を宣言したり(一八一五)、而して一八二二年には帝國と成りしも一八八九年の革命の際合衆共和國と變じたり。

政治　ブラジル合衆國は二十州、一合衆區より成りて、立法權は元老、代議の二院より成れる國會に屬し、司法權は高等法院、控訴院以下の裁判所之を握り、行政權は四年毎に改撰せらるべき大統領之を司り、財務、司法、內務、教育、陸軍、海軍、外務、產業、土木の六省を設く、各州も共和政にして公撰知事之を管理し、合衆區は公撰に係る評議會之を支配す。

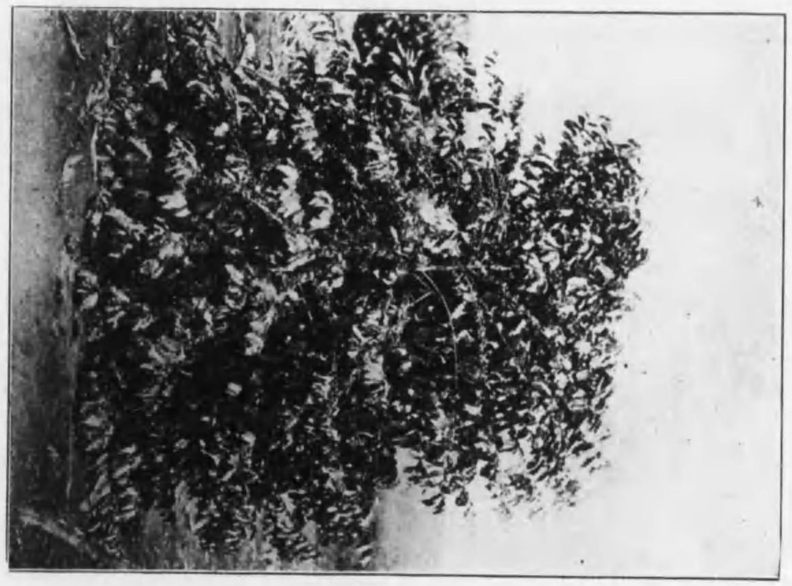
兵備上は合衆國を七軍區に分つが、陸兵は二萬八千餘人ありて兵艦は三十一隻凡そ三萬八千噸あるのみ、財政に就きて一九〇六年の歲入は約六千九百七萬「ミルレイス」(金)と二億二千三百八十二萬五千「ミルレイス」(紙)にして歲出は四千八百三十一萬「ミルレイス」(金)と二億八千六百三十四萬「ミルレイス」

(紙)餘とあるが、外債は六千九百九十六萬「ポンド」にして各州の外債は二千百八十一萬「ポンド」を超えたり。

生業　ブラジルは農林國にして農產には珈琲を始めとし甘蔗、煙草、綿、「マテ」、「ココア」等あり、林產には「カウチック」、木材等あり、一九〇四―〇五年の珈琲の產額は九百七十四萬袋(一袋は六十瓩)を超えたり、砂糖の製造所はペルナンブコに三十、カンポス(リオデジァネイロ)に四十、バイアに十二、其の他に十五あり、リオグランデドスル地方には家畜の飼養盛なり、鑛物の利用は盛なるに至らざるが石炭はリオグランデドスル、サンタカタリナの二州に產し、ミナスヒェラエスには五ヶ處の金鑛の採掘せらるるあり、金剛石はミナスヒェラス、バイア等の諸州より出づ、工業の進歩は著しからざるが綿工場は百八ヶ處(七二萬錘)ありて羅紗、「フランネル」等の毛織物も產出す、一九〇五年の貿易は輸入に凡そ四億五千四百九十九萬「ミルレイス」ありて輸出には六億八千五百四十五萬餘「ミルレイス」あり、イギリス、ドイツ、フランス、合衆國、其の他と取引し一九〇五年の主要輸出品は珈琲(三、二四〇五「カウチック」二、二六一七)、皮革(二八六



アセハカ (Auchenia paca)



コヒー樹 (Coffea arabica)

鐘草、珈琲等を輸出す。マセイオ(Maceio)(一一〇、〇〇〇)は海港にして綿、砂糖コプラ、
ベルナンブコ　バイア(Bahia)(一一〇、〇〇〇)は第四の都會たり交通上の要區にして砂糖、綿、
ブラジル　サン・サルヴァドル(São Salvador)　ブラジル當國第一の古都にして砂糖、煙草、珈琲、皮革、家畜を輸出す。
ポルトアレグレ　ポルト・アレグレ(Porto Alegre)(六〇、〇〇〇)は良港を有し盛
サントス　に珈琲を輸出す。サントス(Santos)(一一、五〇〇〇)は當國第二の都會にして工業の中心たり、市街は清雅
リオデジャネイロ　なる點を以て稱せらる。リオデジャネイロ(Rio de Janeiro)(一一、〇〇〇、〇〇〇)は
ニテロイ　ブラジル當國第一の都會にして人口一一、〇〇〇、〇〇〇、ニテロイ(Nietheroy)(一一、五〇〇)は
サンパウロ　リオ港に對し灣を隔てて相對し、リオデジャネイロの東八粁にあり、サンパウロ(São
Paulo)(一一、一一〇、〇〇〇)は當國第二の都會にして工業の中心たり、市街は清雅
コーヒー　なる點を以て稱せらる。コーヒー(Campos)(一一、〇〇〇)は良港の北方三粁に位し、良質の砂糖の產地にあり、ポルトアレグレ(Porto Alegre)(六〇、〇〇〇)は
砂糖　リオデジャネイロの東八粁にあり、サンパウロ(São Paulo)(一一、一一〇、〇〇〇)は當國第二の都會にして工業の中心たり、市街は清雅
綿　なる點を以て稱せらる。コーヒー(Campos)(一一、〇〇〇)は良港の北方三粁に位し、良質の砂糖の產地にあり、ポルトアレグレ(Porto Alegre)(六〇、〇〇〇)は
煙草　混合より成れり、リオデジャネイロの東八粁にありて百度輻湊して商業盛なり、住民は各種族の
珈琲　稱す。南アメリカ第二の都會にして世界屈指の良港に瀕せり、船舶の出入多く、而して八粁に
鐵道　位し、リオデジャネイロ(Rio de Janeiro)(一、〇〇〇、〇〇〇)とは略ぼ同緯度にして山方三粁に
鑛山　當府　首府サンパウロ
鑛山　處點　便、局は二千八百七十一、鐵、電信、信線、
鑛山　ち、而して八船は各、鐵道に一萬九千餘粁あり。
鑛山　人口は四萬九千餘粁あり。

ブラジル　(Brazil)　南亞米利加洲の東部を占むる一大共和國にして、面積は三百二十萬方粁、人口は一千四百萬餘、首府はリオデジャネイロ(Rio de Janeiro)(一一、〇〇〇、〇〇〇)にして、其他サンパウロ(São Paulo)(一一、一一〇、〇〇〇)、バイア(Bahia)(一一、〇〇〇)、ペルナンブコ(Pernambuco)(一一、〇〇〇)、ベレン(Belem)(一一、〇〇〇)、マナオス(Manaos)(五〇、〇〇〇)、ポルトアレグレ(Porto Alegre)(六〇、〇〇〇)、サントス(Santos)(一一、五〇〇)、ニテロイ(Nietheroy)(一一、五〇〇)、マセイオ(Maceio)(一一、〇〇〇)、サン・サルヴァドル(São Salvador)(一一、〇〇〇)、コーヒー(Campos)(一一、〇〇〇)等の諸都會あり。

ブラジル　(Brazil)　南亞米利加洲の東部を占むる一大共和國にして、面積は三百二十萬方粁、人口は一千四百萬餘、首府はリオデジャネイロ(Rio de Janeiro)(一一、〇〇〇、〇〇〇)にして、其他サンパウロ(São Paulo)(一一、一一〇、〇〇〇)、バイア(Bahia)(一一、〇〇〇)、ペルナンブコ(Pernambuco)(一一、〇〇〇)、ベレン(Belem)(一一、〇〇〇)、マナオス(Manaos)(五〇、〇〇〇)、ポルトアレグレ(Porto Alegre)(六〇、〇〇〇)、サントス(Santos)(一一、五〇〇)、ニテロイ(Nietheroy)(一一、五〇〇)、マセイオ(Maceio)(一一、〇〇〇)、サン・サルヴァドル(São Salvador)(一一、〇〇〇)、コーヒー(Campos)(一一、〇〇〇)等の諸都會あり。

コーヒー　(Coffea arabica)　珈琲樹　【珈琲】　ブラジル、メキシコ、ハワイ、ジャワ等に於て栽培せらる、常綠灌木にして高さ四米突に至る。葉は對生し、花は白色にして芳香あり、果實は小核大豆に似て二個の子實を含む。

ベルベル　(Berber)　ハム族に屬する一種族にして、サハラ沙漠の中央部に住し、其數は一百萬を超ゆ。

ベルベラ　(Berbera)　ソマリランド保護國の一港にして、アデン灣に面し、アデンとの間に定期航路あり。

ベルムダ　(Bermuda)　大西洋中の一群島にして、英國の屬領たり、ハミルトン(Hamilton)(一、〇〇〇)は其首府にして、ノーフォーク(Norfolk)(ヴァージニア州)、ニューヨーク、ハリファックス(Halifax)(ノヴァスコシア州)、セントジョンズ(St. John's)(ニューファンドランド島)、キングストン(Kingston)(ジャマイカ島)、ナッソー(Nassau)(バハマ諸島)、ポートオブスペイン(Port of Spain)(トリニダード島)、ベリーズ(Belize)(ホンデュラス)、ベラクルス(Veracruz)(メキシコ)、ハバナ(Habana)(キューバ)、ポルトープランス(Port-au-Prince)(ハイチ)、サンファン(San Juan)(プエルトリコ)、ジョージタウン(Georgetown)(英領ギアナ)、パラマリボ(Paramaribo)(オランダ領ギアナ)、カラカス(Caracas)(ヴェネズエラ)、カルタヘナ(Cartagena)(コロンビア)、コロン(Colon)(パナマ)、グアヤキル(Guayaquil)(エクアドル)、リマ(Lima)(ペルー)、アリカ(Arica)(チリ)、アントファガスタ(Antofagasta)(チリ)、バルパライソ(Valparaiso)(チリ)、ブエノスアイレス(Buenos Aires)(アルゼンチン)、モンテヴィデオ(Montevideo)(ウルグアイ)、ポートスタンレー(Port Stanley)(フォークランド島)等の諸港に定期航路あり。

ベルベラ　(Berbera)　ソマリランド保護國の一港にして、アデン灣に面し、アデンとの間に定期航路あり。

ベルムダ　(Bermuda)　大西洋中の一群島にして、英國の屬領たり、ハミルトン(Hamilton)(一、〇〇〇)は其首府にして、ノーフォーク(Norfolk)(ヴァージニア州)、ニューヨーク、ハリファックス(Halifax)(ノヴァスコシア州)、セントジョンズ(St. John's)(ニューファンドランド島)、キングストン(Kingston)(ジャマイカ島)、ナッソー(Nassau)(バハマ諸島)、ポートオブスペイン(Port of Spain)(トリニダード島)、ベリーズ(Belize)(ホンデュラス)、ベラクルス(Veracruz)(メキシコ)、ハバナ(Habana)(キューバ)、ポルトープランス(Port-au-Prince)(ハイチ)、サンファン(San Juan)(プエルトリコ)、ジョージタウン(Georgetown)(英領ギアナ)、パラマリボ(Paramaribo)(オランダ領ギアナ)、カラカス(Caracas)(ヴェネズエラ)、カルタヘナ(Cartagena)(コロンビア)、コロン(Colon)(パナマ)、グアヤキル(Guayaquil)(エクアドル)、リマ(Lima)(ペルー)、アリカ(Arica)(チリ)、アントファガスタ(Antofagasta)(チリ)、バルパライソ(Valparaiso)(チリ)、ブエノスアイレス(Buenos Aires)(アルゼンチン)、モンテヴィデオ(Montevideo)(ウルグアイ)、ポートスタンレー(Port Stanley)(フォークランド島)等の諸港に定期航路あり。

ベルベル　(Berber)　ハム族に屬する一種族にして、サハラ沙漠の中央部に住し、其數は一百萬を超ゆ。

ベルムダ　(Bermuda)　大西洋中の一群島にして、英國の屬領たり、ハミルトン(Hamilton)(一、〇〇〇)は其首府にして、ノーフォーク(Norfolk)(ヴァージニア州)、ニューヨーク、ハリファックス(Halifax)(ノヴァスコシア州)、セントジョンズ(St. John's)(ニューファンドランド島)、キングストン(Kingston)(ジャマイカ島)、ナッソー(Nassau)(バハマ諸島)、ポートオブスペイン(Port of Spain)(トリニダード島)、ベリーズ(Belize)(ホンデュラス)、ベラクルス(Veracruz)(メキシコ)、ハバナ(Habana)(キューバ)、ポルトープランス(Port-au-Prince)(ハイチ)、サンファン(San Juan)(プエルトリコ)、ジョージタウン(Georgetown)(英領ギアナ)、パラマリボ(Paramaribo)(オランダ領ギアナ)、カラカス(Caracas)(ヴェネズエラ)、カルタヘナ(Cartagena)(コロンビア)、コロン(Colon)(パナマ)、グアヤキル(Guayaquil)(エクアドル)、リマ(Lima)(ペルー)、アリカ(Arica)(チリ)、アントファガスタ(Antofagasta)(チリ)、バルパライソ(Valparaiso)(チリ)、ブエノスアイレス(Buenos Aires)(アルゼンチン)、モンテヴィデオ(Montevideo)(ウルグアイ)、ポートスタンレー(Port Stanley)(フォークランド島)等の諸港に定期航路あり。

ベルベラ　(Berbera)　ソマリランド保護國の一港にして、アデン灣に面し、アデンとの間に定期航路あり。

ベルムダ　(Bermuda)　大西洋中の一群島にして、英國の屬領たり、ハミルトン(Hamilton)(一、〇〇〇)は其首府にして、ノーフォーク(Norfolk)(ヴァージニア州)、ニューヨーク、ハリファックス(Halifax)(ノヴァスコシア州)、セントジョンズ(St. John's)(ニューファンドランド島)、キングストン(Kingston)(ジャマイカ島)、ナッソー(Nassau)(バハマ諸島)、ポートオブスペイン(Port of Spain)(トリニダード島)、ベリーズ(Belize)(ホンデュラス)、ベラクルス(Veracruz)(メキシコ)、ハバナ(Habana)(キューバ)、ポルトープランス(Port-au-Prince)(ハイチ)、サンファン(San Juan)(プエルトリコ)、ジョージタウン(Georgetown)(英領ギアナ)、パラマリボ(Paramaribo)(オランダ領ギアナ)、カラカス(Caracas)(ヴェネズエラ)、カルタヘナ(Cartagena)(コロンビア)、コロン(Colon)(パナマ)、グアヤキル(Guayaquil)(エクアドル)、リマ(Lima)(ペルー)、アリカ(Arica)(チリ)、アントファガスタ(Antofagasta)(チリ)、バルパライソ(Valparaiso)(チリ)、ブエノスアイレス(Buenos Aires)(アルゼンチン)、モンテヴィデオ(Montevideo)(ウルグアイ)、ポートスタンレー(Port Stanley)(フォークランド島)等の諸港に定期航路あり。

ベルベラ　(Berbera)　ソマリランド保護國の一港にして、アデン灣に面し、アデンとの間に定期航路あり。

ベルムダ　(Bermuda)　大西洋中の一群島にして、英國の屬領たり、ハミルトン(Hamilton)(一、〇〇〇)は其首府にして、ノーフォーク(Norfolk)(ヴァージニア州)、ニューヨーク、ハリファックス(Halifax)(ノヴァスコシア州)、セントジョンズ(St. John's)(ニューファンドランド島)、キングストン(Kingston)(ジャマイカ島)、ナッソー(Nassau)(バハマ諸島)、ポートオブスペイン(Port of Spain)(トリニダード島)、ベリーズ(Belize)(ホンデュラス)、ベラクルス(Veracruz)(メキシコ)、ハバナ(Habana)(キューバ)、ポルトープランス(Port-au-Prince)(ハイチ)、サンファン(San Juan)(プエルトリコ)、ジョージタウン(Georgetown)(英領ギアナ)、パラマリボ(Paramaribo)(オランダ領ギアナ)、カラカス(Caracas)(ヴェネズエラ)、カルタヘナ(Cartagena)(コロンビア)、コロン(Colon)(パナマ)、グアヤキル(Guayaquil)(エクアドル)、リマ(Lima)(ペルー)、アリカ(Arica)(チリ)、アントファガスタ(Antofagasta)(チリ)、バルパライソ(Valparaiso)(チリ)、ブエノスアイレス(Buenos Aires)(アルゼンチン)、モンテヴィデオ(Montevideo)(ウルグアイ)、ポートスタンレー(Port Stanley)(フォークランド島)等の諸港に定期航路あり。

レシフェ
パラ
マニアンス

等を集散す、レシフェ(Recife)(一二、〇〇〇〇)はペルナンブコ(Pernambuco)とも稱す、當國の諸港中最もヨーロッパに近く取引盛にして綿布、機械、硝子、熟皮、等の製造行はる、パライバ(Parahyba)(三、二〇〇〇)は商業地にしてカバデロオを附屬港とす、フォルタレザ(Fortaleza)(三、三〇〇〇)は鐵路に依りて內部に通じ「ゴム」、砂糖、珈琲、等を輸出す、マラニァン(Maranhão)(三、二〇〇〇)はサンルイズ(São Luiz)とも云ふ、往昔の盛況を觀ざるも商業地たるを失はず、パラ(Pará)即ちベレム(Belem)(一〇、〇〇〇〇)は良港を有し風色に富めるが「カカオ」「カウチック」等を集散す、マニアンス(Manáos)(四、〇〇〇〇)はリオネグロに瀕し「カウチック」「カカオ」「ブラジルナット」等を輸出し汽船に依りてアメリカ合衆國、ヨーロッパ、等に通ず。

◉プラタ諸國

リオデラプラタ並に其の支流の灌域に屬する地は廣袤、勢力共に均等ならざる三國の間に分割せらるるがアルヘンチナ共和國は他の二國に比すれば强大にしてパタゴニア地方を併有せり。

ラプラタ
パラグアイ
パラナ

リオデラプラタ(Rio de la Plata)は銀河の意にして大西洋に接する幅は百七十五粁に達するも其の實はパラグアイ河の水を受くるパラナ河とウルグアイ河とより成る河灣たるに過ぎざるなり、此等の三母流は何れも源をブラジルに發して南アメリカの五分一に當る地域の水を集め、大陸の中心たるマットグロッソと沿海のブエノスアイレス及びモンテビデオとを連絡し汽船にて航行し得べき水路三千粁以上を與ふるが、水量多く淡水界を海上遠に百五十粁に達せしむる勢力あるも、赤土砂を搬來して港形を變遷し、潮汐に反抗して常律を失はしむ。

パラグアイ(Paraguay)(二二〇〇)はマットグロッソに於けるアマゾナスの支流の水源附近、海拔二百米突の地に發しクヤバ(Cuyaba)を提げ來るサンルーレンソ(San Lurenço)を容れ平地に出でて沼地又は砂地を流れ森林を潤しグランチァコを通りピルコマヨ(Pilcomayo)、ベルメホ(Vermejo)を合はせたる後にパラナに入る。

パラナ(Parana)(三五六〇)はリオグランデ(Rio grande)及びパラナヒバ(Paranahiba)の合流より成りて可航性を備へざるに非ざるもサルトグアイラ(Salto Guaira)の如き瀑流の爲に遮らるるあり、然れどもパラグアイに會するや其の流向に從ひて南南西に趨き純然たる可航河と成りサラド(Salado)河の水を受け平底濕潤の地を右にし臺地的の「バルランカ」を左にして史上に名あるエントレリオス(Entre-Rios)を通過せり、ロザリオ港附近に至り流向を南東に變じたる後は數派に分かれウルグアイを合はせてリオデラプラタと成る。

ウルグアイ(Urguay)(一四〇〇)はブラジルの南州に生れウルグアイ共和國の西境を爲すもサルトグランデ(Salto grauudi)の爲に遮ぎらるるを以て交通上の便を與ふること極めて少なし。

◎パラグアイ

パラグアイ共和國(Republica del Paraguay)はブラジル、ボリビア、アルヘンチナの三國の間に介在する一小國にして地積は二十五萬三千一百方粁あり。

境域　リオパラグアイは國を二分し、其の東部即ちパラグアイは平底にして著しき起伏なし

土地　土壤豊饒にして各種の耕作に適するも到る處森林の陰鬱たるありて排水の道なく其の西部は即ちグランチアコなり。

氣候　暑氣強きも乾燥にして健康を害すること少なし、夏季の平均温度は二十八度乃至三十度にして最高は三十五度即ち四十二度に達することあり、然れども夜中は清涼にして晝間の炎熱を忘るるに足る、冬季の平均は十五度乃至二十度にして最低と雖も零度に降ること稀なり、雨は夏季に多し。

住民　人口は一八九九年に六十三萬餘人ありてエスパニア人、グアラニインヂアン、黒人の雜種より成りインヂアンは凡そ十萬人と稱せらる、一九〇〇年の在留外人は一萬八千餘にして其の過半はアルヘンチナ人なり、來住者は多

からず、ローマ公教を國教とす。

政治　政体は統一的共和制にして立法權は二院より成れる國會に屬し、行政權は任期四年の大統領に委ねられ地方は九十九郡、二十四政區に分たる。

生業　チアコ地方を主として當國には良牧地多く牛(二七四萬)、馬、羊等の飼養に適す、農産には煙草、果物、甘蔗等の栽培あり殊にパラグアイ茶即ちイェルバマテ(Yerba mate)は著名の産物なり、林産、鑛産は未だ多からず、一九〇四年の輸入は凡そ三百五十六萬ドル(金)に過ぎずして輸出は皮、木材、マテ、煙草、乾肉等の五百二十三萬餘ドル(金)ありしのみ、交通の機關は二百四十七粁の鐵道、一千八百二十八粁の電信線等なきに非ざるも甚だ發達せずと云はざるを得ず。

アスンシオン　首府アスンシオン(Asuncion)(六、〇二五九)はパラグアイ河に瀕し大西洋を距る數百里の地にあるも海抜は僅に七七米突なり、ビリッリカ(Villa Rica)(二、五〇〇)、コンセプシオン(Conception)(一、五〇〇〇)も多少名あり。

◎ウルグアイ

ウルグアイ共和國(Republica Oriental del Urguay)はウルグアイ河の東にありて

アルヘンチナを西にし北東はブラジルに接し南東は大西洋に臨む、地積は十七萬八千七百方粁乃至十八萬六千九百二十六方粁とせらるる南アメリカの最小國なり。

土地　大西洋の海岸は屈曲少なくラプラタ灣に沿ふ處も亦然り、國内は各處に五百米突以下の丘陵あり窪谷は流水に乏しからざるがカルゲアイ河に注ぐ主なるものなりネグロと云ふ、南東の海岸地方は湖沼少なからず。

氣候　氣溫の平均は冬季に十一度、春季に十七度を示し夏は二十二度にして秋は十六度なるが最高は三十七度に達し最低は零下三度なり。

住民　人口は一九〇二年に凡そ九十八萬人ありて、一九〇〇年の約六十萬人中にはブラジル人、イタリア人、エスパニア人、等合はせて九萬餘の外人ありたり、而して一九〇一年の來住者は九千六百餘人、往住者に六千七百人足らずあり、ローマ公教を以て國教とす、教育は振はざるも大學あり。

政治　政體は統一的和共制にして二院より成る國會は立法權を握り、行政權は任期四年の大統領に委托せられ、地方は十九縣に分たる。

生業　農業は廣く行はれ小麥の二億七百萬斛を始めとし玉蜀黍、大麥、オート麥、ライ麥、亞麻、煙草、オリーブ、葡萄、等の栽培あり、牧業は牛(六三三萬)、馬、羊(一七六二、等を飼養するが特に牛の飼養はサルト、バイサンヅの地方に、羊はヴラスノソリアノに盛なり、北部の諸縣は金を產す、貿易に就きては輸出三千七十七萬四千「ペソ」、輸入三千七十七萬八千「ペソ」なるが、モンテビデオに於ける入船は六百八十一萬噸に近し又鐵道(一九〇六年)は一千九百四十四粁、電信線は七千九百十七粁あるなり。

首府モンテビデオ(Montevideo)(二四四〇〇〇)はラプラタ河の下流に沿ひ鐵道に依りて生產地に通じ肉類、獸脂、生牛、小麥、等を輸出す。

◉アルヘンチナ

境域　アルヘンチナ共和國(Republica Argentina)は南アメリカの南部を占め、北はボリビア、北東はパラグアイ、東はブラジル、ウルグアイ、大西洋に限られ西はチレーに境し、地積は約二百八十萬方粁ありて帝國の七倍弱に當れり。

海岸　ラプラタの河灣の外にブランカ、サンマチアス、サンジョージの諸灣

あり、バルデス半島、ブランコ岬、バージネス岬、等を見ざるに非ざるも、海岸は屈折に富めりと稱し難し、而してチエラデルフエゴ島の東部と該島の東に位せるエスタドス島は當國に屬せり。

山岳 アンデス山脈は數條の並行山脈より成れるが河流は之を各處に横斷せり、該山脈の最高峯たるアコンカグア(七〇三五)は實に國境に聳え、其の北にはポトロ(五五八五)、ルリアイリアコ(六六〇〇)、アコンクイジア(五四〇〇)、カチ(六〇〇〇)等あり、アコンカグア以南にはマイポ火山(五三一九)、ネバド(四七七五)、パイエン(三五六〇)、等あり。

地勢 土地は南及び東に傾斜し、北部のグランチャコ(Gran Chaco)にありては河流は寂寥たる深藪厚叢を流れ、中部のパンパスは廣漠たる草原に際涯なきかを疑はしめ、南部のパタゴニア臺地に於ては砂礫と壤土と相半するが如し、而して多數の並行山脈はアンデスに隨從し中間に宏大なる平野、肥沃なる谷地を挟みて億萬の人口を養はんと待つものの如し。

グランチャコ (Gran Chaco)は北の方ボリビアとパラグアイとの間に起り南緯三十度に達するが西はアンデスの支脈又は高地に依りて限らる、而してビルコマヨ河の北にあるを北チャコと云ひ、ベルメホの南にあるを南チャコと云ひ、兩河の間にあるを中チャコと云ふ、降雨稀ならずして森林及び「パンパ」の存するあり、

中央平野 中央平野は四より東に向ひて傾斜せるがシエラデコルドバ(Sierra de Cordoba)及びシエラデサンルイス(Sierra de San Luis)の兩山脈以外には輕微なる起伏を見るに過ぎずして乾燥せる大「ザリナ」の凹處あり、當地方に不毛の土多きは水の缺乏に基づくものにして水あるの地は必肥沃にして山麓に於ける「ツクマン」州は稍、殷賑を覺ゆ。

パンパ 「パンパ」(Pampa)は殆ど平坦なる草地にして表層は「ヒウマス」(Humus)より成るも次層は三階に分かるる「ルッス」(Loss)より成りて水分を止むる能はず、加ふるに乾燥、蝗蟲、「パンペロ」等の害ありて樹木の生育を許されども草本の繁茂は盛にして殊に東部を然りとす。

パタゴニア パタゴニア(Patagonia)は「パンパ」に比すれば起伏多し、海岸は高くして草木なきも内部には森林、沼湖、草原、砂丘ありて殊にナウエルカアピ(Nahuel-huapi)湖、リオチュブツ(Rio Chubut)の沿岸には樹木蕃蔚として好牧地に富めり。

河湖 ビルコマヨ、ベルメホ、サラド、等の諸流はパラグアイ河に合しコロラド、リオネグロ、リオチュブツ、等は大西洋に注ぎ、湖沼は北部のサリナグランデス、サリナデアリザロ、南部のムステルス、ブエノスアイレス、ラゴピエドマ、等

世界地理提要　あめりか洲　アルヘンチナ

を始めとし其の數甚だ多し、而して河流の効用に就きては地圖が想起せしむるが如くならず、パラナ河が一大巨流にして多量の水を大西洋に注ぎ第一流の航河たるは勿論なれども、此の一河を除けば他に良河の存するあるを見ず、平野に於ける水脈は流勢極めて緩にして各處に沙洲を作り或は沼地に逢ふが故に交通の便を與ふるもの少なし、又パタゴニアの河流に於けるも殆ど同樣なり、然れどもアンデス山脈の東麓に於ける一列の沼湖は太平洋と大西洋との兩斜面を連路すべきを以て交通上後來に望みを囑すべし。

氣候　氣候は最も殖民業に適して農業、牧業は容易に發達すべき見込ありて此の地は南北に亙り、南緯二十二度より五十五度に達するを以て氣溫は一樣ならず、北部は冬季の平均二十度にして夏季の平均は三十度なるが、南部は零度乃至十度の間を昇降せり。

住民　人口は一九〇五年に約五百七十萬人ありしが一方粁に付き二人の割合に過ぎず、此の中、外國人は百萬五千に近くしてインヂアンは三萬人あり、而して來住者は一九〇五年に二萬二千餘、往住者は八千三百人足らず

政體
兵備
財政
牧業

ありたり、宗教はローマ公教を以て國教とするも尚ほ他の信教も寬容せらる教育は普及せざるが大學は五ヶ處にあり。

政治　當地はリオデラプラタ聯合州と稱せしことあり、舊とエスパニアに屬せしが一八四二年に於て獨立を承認せられ、一八五三年にブエノスアイレスも聯合に加はりたり、政體は合衆的共和制にして行政權は六年毎に改撰せらるべき大統領に委ねられ、國會は元老、代議の二院より成り、地方は十四州、十領土、一部に分たる、兵備は陸兵に一萬七千餘人、兵船は四十八隻、八萬七千七百餘噸あり、財政に就きて一九〇六年の歲入は紙「ペソ」の六千九百五十萬二千と金「ペソ」の四千四百五十二萬餘とにして歲出は紙「ペソ」の一億一千六百十四萬餘と金「ペソ」の二千三百九十五萬「ペソ」弱なるが、國債は金「ペソ」三億八千八百九十五萬餘、紙「ペソ」九千六百四十八萬足らずなり。

生業　山岳、湖沼、不毛地、等を除けば面積の三分の一は農牧に利用し得べし、牧業は此の國最要の富源にして羊(七四三八萬頭)、馬(四四五)、牛(二一七)、騾、豚等を飼養し生毛の產額多く、而して羊の七割はブエノス、アイレス州に於て飼

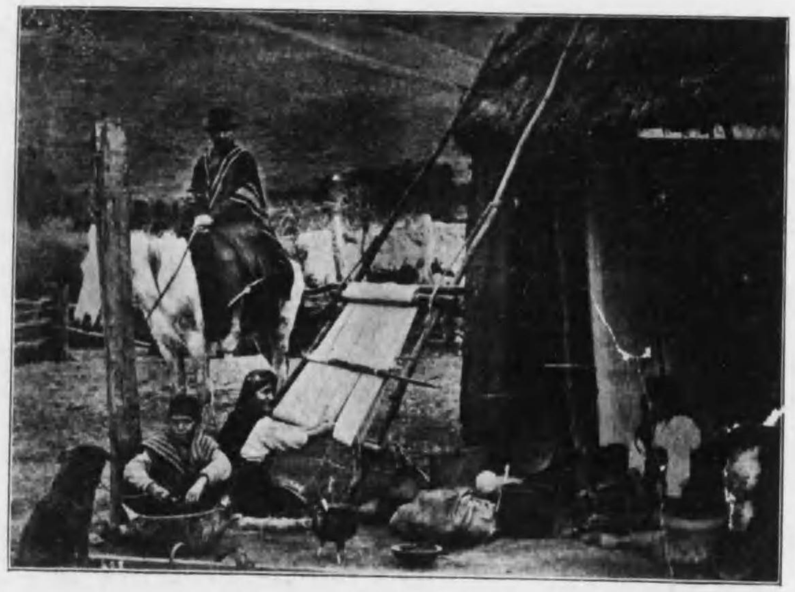
農業　はる、農業に就きては九百十一萬〔ヘクタール〕の耕地あり、穀類は主としてブエノスアイレス、サンタフェ、コルドバ、エントレオリスの諸州に產し、小麥は三百三十八萬佛噸、玉蜀黍四百四十五萬佛噸を產す、此の他に亞麻、煙草、甘蔗等の栽培あり、鑛業は金、銀、銅、等を與ふるも未だ盛大ならず、工業は砂糖、葡萄酒等の製造に從事して漸く進歩す、

貿易　貿易は一九〇五年に貨物の輸入二億五百十五萬餘〔ペソ〕、輸出に三億二千二百八十四萬餘〔ペソ〕ありてイギリス、ドイツ、フランス、アメリカ等と取引し、重要輸出品は小麥（八五八八）、生毛（六四三二）、玉蜀黍（四六五三）、皮（三一六三）、亞麻仁（二六二三）等ありたり、而して入船は一萬一千四百八十八隻、凡そ九百七萬噸なるが、商船は十萬噸に達せず、鐵道は一萬九千六百八十三粁、郵便局（一九〇四）は三千二百八十二、電信線（一九〇二）は十萬九千五百八十三粁の延長を有す。

ブエノスアイレス

處誌　ブエノスアイレス（Buenos Aires）、一〇四、六五一七）南緯三四度三六分西經五八度二二分三〇秒は五十粁の幅を有するリオデラプラタに瀕する市街なるが、數條の鐵路に依りて內部の各地に通せり、商業繁昌し工業も稍盛にして

ロザリオ（Rosario）［アルヘンチナ］



アラウカノス（Araucanos）［南チレー］

ロザリオ（Rosario）はアルヘンチナ合衆國第二の都會にして、殷富なる農産地を控ゆる倉庫地たり、住人は各國の來住者より成りて總數は十三萬（一九〇〇年には二二二四六一人）なを超ゆべし、ラプラタ河灣を距ること二五〇粁にしてリオパラナに瀕す、市街は同河の中水面を抜くこと二十米突の臺地にあるが港は優良にして三四千噸の船舶は自由に出入し四隣の地並にヨーロッパの諸國に通じ鐵路はパタゴニアチレボリビア、等に趣けり、輸出品の主要なるものは麥粉、小麥、玉蜀黍、砂糖、生毛、皮革、等なり。

アラウカニア族種　はエスパニア人のアラウカノス（Araucanos）にしてモルチウ（Molnches）（軍人）又はアウカ（Aucos）（自主者）と自稱す、南アメリカに於ける土人の一派に屬しチレーの南部に居住して獵農を營み性武を尚びエスパニア人の侵入に對し強力ある反抗を爲したるも現時にありては平穩に生活して總數は五萬内外と概算せらる。

ラプラタ

ロサリオ

コルトバ

ツクマン

カ第一の大都會と成れり、港は水底淺きを以て大船巨舶は十粁以上の沖合に碇泊せざるを得ざるも百貨輻湊して世界有數の貿易港たるの望あり、ラプラタ（La Plata）（四、五四一〇）は同名の州の首府にして河灣に瀕し、ブエノスアイレスの南東六十四粁に位す、パラナ（Parana）（二、四二六一）はエントレリオス州の首府なるがラプラタ河灣を距ること四百粁、パラナ河畔に位す、合衆國政廳の所在地たりしことあり、サンタフェ（Santa Fé）（二、四七五五）はパラナ河と支流サラドとの間にあり、ロサリオ（Rosaio）（一一、二四六一）はサンタフェ州にありて共和國第二の都會なり、良好の河港を有し工業に從事す、コルドベ（Cordoba）（四、七六〇九）は農産に富める地にあり、ツクマン（Tucuman）（三、四三〇五）は甘蔗、葡萄、等の産地にあり、メンドザ（Mendoza）（三、五三一四）はアンデス地方にありてチレーのバルパライソの東に當れり、交通の要地たるに至らん。

◎フォークランド

マガリャネス海峡の東四百八十粁に當りイギリス領の群島あり、名づけてフォークランド（Falkland）と云ふ、百九十個の島嶼より成り、地積は一萬二千餘

方杆あるも人口は二千餘に過ぎず、數多の峽灣を有する二大島は東西に相對して一の海峽を挾めり、降雨多く强風屢〻起るも氣溫は甚だ低からずして濕氣は全島に充てり、內部は山岳に乏しく樹木は稀なるも牧草は到る處に繁茂すと云ふ、牧業は漸次に發達して六十八萬頭以上の羊を飼養するに至れり、首邑スタンレーは東フォークランド島にありて九百餘の住民を有す。

あめりか洲 終

兩極地域

兩極地域とは北緯六十六度半以北幷に南緯六十六度半以南即ち南北の二寒帶に屬する地域を併稱する名にして熱帶が地球表面百分中の三九、七を占め、溫帶が五二、〇に當るに反して寒帶は八、三(四二四七、九五七三方粁)を有するに過ぎず、而して寒氣の凜烈なるを始め、氷結、永夜、等の如き種々なる困難の存するが爲め未だ探檢を經ざるの處多し。

◉北極地方

北極地方を以て北極圈內の海陸を總括するものとせんか、新舊兩大陸の北岸に於ける一帶の陸地即ち北緯六十八度線を中位に置く所の圈狀的の土地が北極洋幷にグリーンランド、パーレンツ、カラ、ノルデンシェルド、バッフィン、等の諸海を圍繞するを觀るべし、然れども當地方の陸地を以て北寒帶中に於

土地

ける島嶼のみに限らばヨーロッパの北にヤンマイエン(Jan Mayen)、ビーレンアイランド(Beeren Eiland)島、スピッツベルゲン(Spitzbergen)諸島、フランツヨゼフ(Franz Joseph)諸島、ノワヤゼムリア(Nowaja Semlja)島等あり、アジアの北に新シベリア群島、ドロング(De Long)諸島、ウランゲル島等あり、アメリカの北にグリーンランド、パッフィンランド幷に數多の島嶼あり。

海洋

當地方には一大氷海あり、名づけて北極洋と云ふも大西洋の一支海と見るべきものにしてヨーロッパとグリーンランドとの間に大なる開口を有しグリーンランドの西にもデービス海峽を有し、アジアとアメリカとの間に於けるベーリング海峽に依りて太平洋と連絡す、而してグリーンランド海、バレンツ(Barents)海、カラ海、ノルデンシェルド海、等を呈供する本極洋の水深は勿論一ならざるも平均は一五四五米突と概算せらる、又海流に就きて暖流はスピッツベルゲンの西を經て北東に向ふものあり、ベーリング海峽より入り來るものありて、寒流はグリーンランドの東西兩岸を經て南下す、されば北極洋に於ける氷結は其の情態同一ならずして氷山はグリーンランド、

氣候

ラブラドルの海面に多きを見る、

地軸と軌道面との傾斜の角度は不變なるに非ざるを以て極地の氣候も古來一ならざるべきが、今日の觀察に依れば寒極は三ヶ處にありて東シベリアには零下四十度乃至五十度アメリカの北部には零下二十五度、グリーンランドの內部には零下四十度の同温線あり、風力は案外に强からずして冬季は天氣殊に清朗なるが霧の生ずるは晩夏の際に多しと云ふ、但しフランツヨゼフランド、ノワヤゼムリア、スピッツベルゲン、グリーンランド、等に於ては氣候不定にして强風屢起り、グリーンランドの沿岸には「フェーン」に類せる暖風の生ずることあり。

天産

北極地方に於ける植物の分布は主として夏季に於ける氣温の影響を受け森林は略七月の十度同温線に從へり、而して森林の北に於ては矮少なる樺、楊、其の他の低き灌木、蘚苔、等を見るが、フランツヨゼフランドに進めば叢薮なくして僅に「サクシフラガ」(Saxifraga oppositifolia)「ドラバ」(Draba alpina)等を見るのみ、魚類は極北に於て甚だ多からず、鳥類も亦種に富まず、哺乳類の中最も

廣く見るは極熊(Ursus maritimus)、極狐(Vulpes lagopus)にして馴鹿も亦圍極動物なれどもフランツヨゼフランドには存せず、鯨には種々あれども今は捕獲し盡されしものあり、一角魚(Monodon monoceros)の如きは北緯八十五度或は其の以北に達するに似たり、而して海豹(Phoca hispida)にも少なくとも八十五度に到るものあり。

住民

當地方は概して定住者を見ざれども、ノワヤゼムリアには少數のサモイエードありてグリーンランド、其の他にはエスキモーの居住するあり。

北西通路

探檢　北極地方の探檢は有利なる海獸の捕獲若しくは太平洋と大西洋とを連絡すべき北西通路幷に北東通路の探究に原由せしも、近時にありては磁氣極の測定、極光、氷山、等の研究若しくは極地に到達せんとするが如き專ら學術上の目的に據るもの多きが如し。

北西道路に就きてはカボット(Cabot)(一四九七)、デービス(Davis)(一五八五―八七)、バドソン(Hudson)の後にベッフィン(Baffin)(一六一六)ありてデービス海峽の北方に海路の存在を疑ひしも氷の爲に永久に閉塞せらると宣言せし結果、十七及び十八の兩世期にありてはグリーンランドの近海は僅に捕鯨者の往來するを觀るに過ぎざりき、然るにスコレスビー(Scoresby)(一八〇六)がグリーンランドの東岸に沿ひて北緯八十一度三十分に達せし以來、好奇心は漸く復興してジョンロッス(John Ross)はランカスター灣(海峽を誤りて灣と認む)に趣き(一八一八)パーリー(Parry)はバンクス海峽に達し(一八一九)、ジェームスロッス(James Ross)はブーシアフェリックス半島中に於て磁氣の北極を測定せしが(一八二九)、ジョンフランクリン(John Franklin)(一八四五―?)の運命に就きて不安の念起るや、海陸を擇ばず、捜索を試みし旅行者少なからず、就中アイルランド人のマックリュアー(Mac Clure)はベーリング海峽より北極洋に入りしに(一八五〇)、バロウ(Barrow)海峽に於て船は掴岸して用を爲さざりしかば氷塊上を徒歩して東行し二回の冬籠を爲したりしが、ランカスター海峽より來りし捜索隊に救助せられたり、斯の如くして北西通路の存在を認めしも該通路は實際の用を爲さずと斷定せざるを得ざりき。

北東通路

北東通路に關しては探檢を企圖せし者少なからずしてベーリング海峽

の發見、シベリア北岸の探檢あり、しが、ウランゲル(Wrangel)は一新島(ウランゲル)を發見し、就中スエリゲ人のノルデンシェルド(Nordenskjöld)は全線を通過したり、抑シベリアの北極洋斜面の河流が夏季に於て溫度の稍高き水を輸送する爲に氷海の南界は解融せられ、年に依りて幅の一定せざる、斷續の明ならざる自由水の通路を與ふ、是所謂北東通路なり、本通路は原來不可用と認められたるもノルデンシェルドは一八七八年六月「エガ」號に坐乘してノルゲのトロムゼ港を發し、セルズェカメン岬附近に於て越年したる後、一八七九年七月ベーリング海峽を通過せり、同人は途上各處に於て測量、探檢等の業に從事せしを以て多くの日子を要し遂に越年せざるべからざるに至りしも、單に本通路を通航せんには四ヶ月以內にて足るべしといふ、然れども學術上多大の裨益を與へたる本通路は實業上に便利を呈供すべしと信ずる能はず、蓋し此が存否は氣候的にして變態多ければなり。

北極は氷山、氷塊に圍繞せらるる境界不定の新世界にありて奇趣の感を起こすこと頗る大なれば探檢者が此の地點に達せんと力むるは高尙無比の行動と云はざるべからず、而して極北の到達を試みるに三途あり、グリーンランド、ノゲル間よりするもの、グリーンランドの西よりするもの、ベーリング海峽よりするもの之なり。

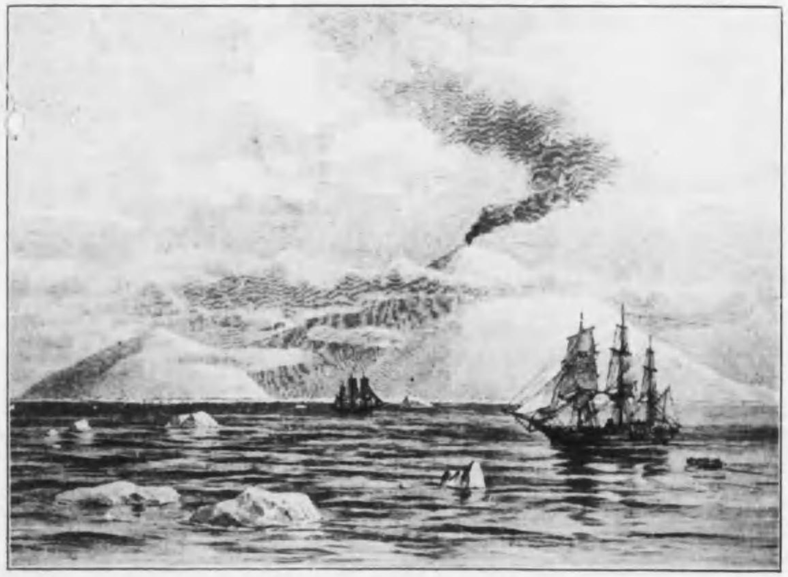
グリーンランドの東方よりの旅行は少なからざりき、パーリー(Parry)は機にてスピッツベルゲンの北方八十二度四十五分(一八二七)、パイエル(Payer)及びワイプレヒト(Weyprecht)はフランツヨセフランドを發見したる後、八十二度五分(一八七二＝七四)に達せしが、フリヂスフナンセン(Fridtjof Nansen)は「フラム」(Fram)に乘りてクリスチアニアを出發し(一八九三年八月)、アジアの北西岸に沿ひて航行し秋季に至りリアホフ諸島の北(北緯七八度四五分)に於て「パック」(Pack)(氷塊原)に入り、冬季に於ては西方に誘致せられ北緯八十四度に於て船を去り、徒歩して北緯八十六度十三分六秒即ち北極を距ること四百十五度の地に到り(一八九五年四月七日)「フラム」號はスフェルドルプ(Sverdrup)の指揮の下に八十五度五十五分に達したり(一八九五年十一月)、此の後イタリア人のカグニ(Cagni)は機に依りて北緯八十六度三十四分即ち北極を距ること三

百八十五粁の地に達し(一九〇〇)、殊にアメリカ人ピーリー(Peary)は北緯八十七度六分に到り(一九〇六)、極北に到着し得るの日の遠からざるを示せり。

グリーンランドの西方より北極に達せんと試みし者も甚だ多く、一八五二―六〇年に於てアメリカ人のイングルフィールド(Inglefield)、ケース(Kane)、ハイエス(Hayes)はスミス海峡に向ひて數回の旅行を試みしが、殊にハイエスは極地の附近に自由海の存在せるを唱へたり、而してホール(Hall)はロブソン海峡に赴きて北緯八十二度十一分に達し、イギリス人ナーレス(Nares)は同海峡に於て同八十二度十五分(一八七五)、マークハム(Markham)は同八十三度二十分に至り、アメリカ人のロックウード(Lockwood)はグリーンランドの北方に於て八十三度十三分に達したり。

ベーリング海峡に依りての試航に就きてはアメリカ人のドロン(De Long)は「ジャンネット」(Jeannette)號(一八七九―八二)に坐乗して旅行せしが不幸にして海流の爲に北西に誘致せられ氷塊の壓迫を受けて北緯約七十八度の地點に於て沈沒したり。

インランドシス(Inlandsis)



エレブス火山

緯度	經度	探檢者	西紀
北 八七度 六分	西 四〇度 — 分	ピーリー	一九〇六
北 八六 三四	東 八〇 —	カグニ	一九〇〇
北 八六 一四	東 六六 三〇	ナンセン	一八九五
北 八五 五七	東 六七 —	スフェルドルップ	一八九五
北 八四 一七	西 六五 —	ピーリー	一九〇二
北 八三 二四	西 四〇 四六	ロックウード	一八八二
北 八三 二〇	西 六一 二三	マークハム	一八七六

グリーンランド

グリーンランド(二百萬方粁以上の大島)の發見は西紀一千年の頃イスランド人の漁業者が近海を往來せし際にして多少の移住者ありしならんも爾來航通の中絶したるが爲め一七二三年に於てダンマルク人が此の地に渡往せし頃には僅に痕跡の存するあるを認めたるのみなりき、近年に至りてリンク(Rink)(一八四八―五一)(始めてイスランドシス、ノルデンシェルド(一八七〇及び一

スピッツベルゲン

八八三年の二回にインクーヌ、ホールナーレス、グリーリー(Greely)、ナンセンランドシスを探査す（一八八八南部を東西にグリーリー一八九一―九二、一八九三、九五、九七の探檢あり、其の後アムドルプ(Amdrup)（一九〇〇）、クルッセ(Krusse)（一九〇一―〇二）、エンゲル(Engell)、ブルウン(Bruun)（一九〇三）、エリヒゼン(Erichsen)（一九〇四―〇六）等の旅行あり、殊にピーリーは本島北方の極地（八三度三九分）を測定したる後、北航して此の方面に於ける最北點（八四度一七分）に達したり（一九〇二）。

スピッツベルゲン(Spitzbergen)（尖山の意）は東グリーンランドとも云ひ、ノワヤゼムリアとグリーンランドとの中間にありて西スピッツベルゲン、北東、エドゲ(Edge)の三大島と若干の小島とより成れるが、地積は三萬五千九百方粁乃至六萬四千二百九十方粁と計上せられ、住民なし、本諸島は一五九六年オランダ人、バレンツ(Barents)、リイプ(Rijp)、（エムスケルク(Heemskerk)に發見せられ、爾來海獸捕獲者の來航少なからずして近時に於てはノルデンシェルド、其の他の北極探檢者の基點と成りしがコンエイ(Conway)は第一の縱斷旅行者たるの名譽を得たり（一八九六―九七）。

フランツヨゼフランド

フランツヨゼフランド(Franz Josephs Land)はノワヤゼムリアの北方にある群島にしてキルツェクランド(Wilzek Land)、ツィヒーランド(Zichy Land)、其の他の島嶼を含み、海拔一千五百米突の玄武岩質の山嶽を有す、近海は夏季解氷を見、動物も比較的に多きを以て極北に出發するに便宜ある地と認めらる、本諸島の發見者たるパイエル及びワイプレヒトは一部を探檢せしが（一八七三―七四）、其の南岸はレースミス(Leigh Smith)之を探査せり（一八八〇―八二）、ジャクソン(Jackson)は三ヶ年間滯留（一八九四―九七）して探究する所ありしが一九〇五年の「フィアラ」(Fiala)號の航海は學術上に益せし所多からざるが如し。

ノワヤゼムリア

ノワヤゼムリア(Novaja Semlja)（新地の意）は十一世期に於てノブゴロドの獵夫に知られしが、一五五三年に至りてキルローピー(Willoughby)再び之を發見したり、狹長なる本諸島はカラ海とバレンツ海との間に位して九百六十粁に亘り、南（四、一七〇〇方粁）、北（五、〇一〇）の二主島より成りマトチキン海峽に依りて相隔れり、山岳は一千二百米突に達し氷雪を以て蔽はる、定住民はなしと雖も、ロシア、ノルグの海員、獵夫の到來することあり。

◉南極地方

南極地方とは南極の周圍に於ける一帶の地域にして浮流氷塊の平均界線に限らるるものにして氷壁線は三大線と若干の小線とより成りて第二の境界を劃せるが、オーストラリアより大なるべしと唱へらるる陸地に就きては探檢を經たるもの少なくしてキルクスランド(Wilkesland)、ビクトリアランド(Victoria Land)、グレアムランド(Graham Land)、アレクサンドラランド(Alexandra Land)幷にエンダービー(Enderby)、ケンプ(Kemp)等の島嶼を合はするも地積は約六十六萬方粁あるのみ、而して氷山が搬し來れる岩片に依れば當地方に花崗岩、片麻岩、雲母片岩、等の存在すること明なるが火山質の山岳は所謂噴火圈の一部を聯成しエレバス(Erebus)火山(二七八〇)の如きはロッスの往訪せし時には活動しつつありしと云ふ。

廣大なる南極海流は經度六十に亘れる幅を以て南大洋中に北流し南緯五十度線附近に於て北西流を分派したる後北東々に趣きフンボルト流を

爲す、而して南極洋表面の水温は夏季に於て空氣より高くして南緯六十三度の南に於て毎日の平均二度〇七なりしと云ふ、而して深海に於ては温度は零度乃至一度六七にして熱帶地方に於て見る所と大差なし、又水深の一樣ならざるは勿論にして平均三千三百米突と概算せらるるが大陸を圍繞する海底の物質は綠泥なりと云ふ。

氣温は夏季に於ても甚だ低くしてロッスの觀測に從へば南緯六十三度の南に於て二度五三なるが最高は六度三九なり、又ベルジカの報告に從へば南緯七十一度半に於ける冬季の最低は零下四十度なり而して氷を以て藏はれたる地方は比較的乾燥なるが該地の北方に於ては濕氣飽和點に近きことあり、極南地方は北西的の逆旋風の占むる所なるに似たり。

當地方の海中には「ミナミクヂラ」(Eubalaena australis)を始めとし數種の鯨あるが海獅(Otaria jubata)、海象(Cystophora proboscidea)は廣く分布せるも以前に比すれば頗る減少せり「マンショー」(Manchot)(Aptenodytes)は當地方の鳥類中最も固有な

るものなりとす魚類も亦豊富なるが如し。

探檢　南極地方に關せる旅行者はオランダ人のヂルクゲルリッツ(Dirk Gerritz)(一五九九)の南極圏を超えたるを始めとし、同圏を三回通過せしクック(一七七二―七五)、南シェットランドに於けるスミス(一八一九)、ピエトロ及びアレクサンドラの兩地を發見したるベリングハウゼン(Bellinghausen)(一八一九―二一)、南オークネーに於けるポヱル(Powell)(一八二一)、自由通路の存在を主張せしヱッデル(Weddell)(一八二三)、エンダービー(Enderdy)ランドを探査せるビスコー(Biscoe)(一八三一)、ケンプ(Kemp)ランドに於けるケンプ(一八三三)、バレニー(Baleny)及びフリーマン(Freeman)(一八三八)、ルーイフィリップ(Louis-Philppe)ランド、アデリー(Adélie)ランド、クラリー(Clarie)ランド、等を發見せるヂゥモンヂゥルビイユ(Dumont d' Urville)(一八三八―四〇)、廣大なる陸地を望見せしと稱するヰルクス(Wilkes)(一八三九―四二)、ビクトリア地方を發見せしジェームスロッス(James Ross)(一八四一―四三)、等あり、殊にボルヒグレフィンク(Borchgrevink)(一八九四―九五)は學術的探檢者として有名なり、而して此の後に於ける探檢者には「ベルジカ」號のジェルラーシゥ(Gerlache)(一八九八―九九)、「サザルンクロッス」(Southern Cross)號のボルヒグレフィンク(一八九八―一九〇〇)、「ヂスカバリー」(Discovery)號のスコット(Scott)(一九〇二)、「ニムロッド」(Nimrod)號のシァックルトン(Shackleton)(一九〇八―〇九)、等あり、シァックルトンが到達せし地點より南極までは僅に約百九十粁を隔つるに過ぎず。

緯度	經度	探檢者	西紀
南 八八度 二三分	東 一六二度 ―分	シァックルトン	一九〇九年
南 八二 一七	東 一六三 ―	スコッド	一九〇三
南 七八 五〇	東 一六五 ―	ボルヒグレフィンク	一九〇〇
南 七八 一〇	東 一六一 二七	ジェームスロッス	一八四二
南 七四 一五	西 三四 一七	ヱッデル	一八二三

世界地理提要 終

明治四十年十月二十五日印刷
明治四十年十一月一日發行
明治四十一年四月二十日再版發行
明治四十二年八月十日訂正三版印刷
明治四十二年八月十五日訂正三版發行
明治四十五年二月二十日訂正印刷
明治四十五年二月廿五日四版發行

（第五刷）

定價金貳圓五拾錢

著作權所有

世界地理提要

著作者　東京市本鄉區駒込西片町十番地　野口保興

發行者　東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地　目黑甚七

發行者　東京市日本橋區通三丁目十番地　河出靜一郎

印刷者　東京市神田區三崎町三丁目一番地　武井万二

發行所　東京市京橋區南傳馬町二丁目　振替口座東京第二八〇九番　目黑書店

發行所　東京市日本橋區通三丁目　振替口座東京第一七一九番　成美堂

印刷所日本印刷株式會社

23
275

終